

授業コード	20003201	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	現代社会のしくみ [対面]				
シラバス執筆(全員)	林 兵磨				
シラバス執筆(主)	林 兵磨				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は、現代社会に生きる私たちにとって重要と思われるさまざまなトピックを取り上げそれらについて説明を行うことにより、受講生の社会への問題意識を高め、諸君が将来社会人として生きていく上で適切な意思決定ができるようになることを指向して開講するものである。

授業の進め方は、毎回、担当者による特定のトピックに関するレクチャーを行い、その後そのトピックに関する問題演習(授業中ワーク)とその解答解説を行う。また、受講生が社会問題について自身の見解を明らかにする機会も設けることにより、受講生が積極的な姿勢で授業に臨めるよう配慮していく。

到達目標

本科目における受講生の到達目標は下記のとおりとする。

1. 受講生が現代社会で生じている諸問題について適切に理解した上で、その解決方を考え、それを他者に分かりやすく説明できるようになること
2. 受講生が日本の政治について十分に理解した上で、問題点を発見・整理し、解決方を考え、それを他者に分かりやすく説明できるようになること
3. 受講生がわれわれの日常生活に関わるさまざまな経済事象につきそれらのメカニズムを理解した上で、そこに潜む問題点を発見・整理し、解決方を考え、それを他者に分かりやすく説明できるようになること

授業計画

- 第1講 地球環境問題について
- 第2講 資源・エネルギー問題について
- 第3講 科学技術の発達と生命について
- 第4講 情報化社会とわれわれの生活について
- 第5講 民主主義と日本国憲法について
- 第6講 基本的人権について① 日本国憲法に記載されている人権
- 第7講 基本的人権について② 日本国憲法に記載されていない新しい人権
- 第8講 国会と立法について
- 第9講 内閣と行政について
- 第10講 裁判所と司法について
- 第11講 地方自治について
- 第12講 国民所得と経済成長について
- 第13講 企業と金融について
- 第14講 少子高齢化の現状について
- 第15講 少子高齢化の対策について

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習を必要とする。

必要学習時間は、毎回事前学習・事後学習各1.5時間である。また、これに加えて期末試験対策のための学習時間として合計15時間は要する。

- 第1講
 - 事前学習 地球温暖化について現状と政府のこれまでの取り組みについて調べておくこと
 - 事後学習 授業時に指示した課題に取り組むこと
- 第2講
 - 事前学習 現在の資源・エネルギー問題の現状と政府のこれまでの取り組みについて調べておくこと
 - 事後学習 授業時に指示した課題に取り組むこと
- 第3講
 - 事前学習 再生医療、クローン技術、遺伝子組み換え技術について調べておくこと
 - 事後学習 授業時に指示した課題に取り組むこと
- 第4講
 - 事前学習 情報化の進展がわれわれの生活に及ぼしてきた影響について調べておくこと
 - 事後学習 授業時に指示した課題に取り組むこと
- 第5講
 - 事前学習 日本国憲法の基本精神について調べておくこと
 - 事後学習 授業時に指示した課題に取り組むこと
- 第6講
 - 事前学習 日本国憲法に示されている基本的人権(自由権、社会権等)について調べておくこと
 - 事後学習 授業時に指示した課題に取り組むこと
- 第7講
 - 事前学習 日本国憲法に示されていない新しい人権(プライバシー権等)について調べておくこと

事後学習	授業時に指示した課題に取り組むこと
第8講	
事前学習	国会の役割と権限について調べておくこと
事後学習	授業時に指示した課題に取り組むこと
第9講	
事前学習	内閣の仕組み及び議院内閣制について調べておくこと
事後学習	授業時に指示した課題に取り組むこと
第10講	
事前学習	日本の司法制度について調べておくこと
事後学習	授業時に指示した課題に取り組むこと
第11講	
事前学習	日本の地方自治制度について調べておくこと
事後学習	授業時に指示した課題に取り組むこと
第12講	
事前学習	日本の経済成長の状況について調べておくこと
事後学習	授業時に指示した課題に取り組むこと
第13講	
事前学習	企業の仕組み及び金融機関の役割について調べておくこと
事後学習	授業時に指示した課題に取り組むこと
第14講	
事前学習	日本の少子高齢化の現状と将来予測について調べておくこと
事後学習	授業時に指示した課題に取り組むこと
第15講	
事前学習	日本政府の少子高齢化対策の現状に調べておくこと
事後学習	授業時に指示した課題に取り組むこと

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業後にGoogle Classroomを通じて課題提出を求める。提出された課題については次の授業にて講評を行う。また、重要と思われる論点については再度、補足説明を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

下記の評価割合に基づいて評価を行い、100点満点中60点以上を合格とする。
正当な理由なく5回を超えて欠席した場合や定期試験に代わるレポートを提出しなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業中ワーク	1, 2, 3
授業外での評価	30	事後課題	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	定期試験に代わるレポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト
実教出版編修部『2024 ズームアップ公共資料』実教出版、2024年、990円(税込)
ISBN: 978-4-407-36312-8

参考書
必要に応じて授業中に指示する。

履修条件・他の科目との関連
やむを得ず授業を欠席した場合には、Google Classroomで授業資料を確認して、授業内容を自身でフォローしておくこと。

授業コード	20002201	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	女性学入門 [対面]				
シラバス執筆(全員)	平安名 萌恵				
シラバス執筆(主)	平安名 萌恵				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

なぜ私たちは性別に関係なく、「自分らしく」生きることを難しく感じるのでしょうか。この講義では、こうした疑問に向き合うため、「女性」の視点から、就労、結婚、育児における生きづらさや政策上の課題を、ジェンダーにかかわる専門用語を用いて概説します。また多様な性の在り方を考えるためにセクシュアリティにかかわる課題について解説します。

到達目標

1. 現代社会において「女性」が直面する課題を授業内で提示された専門用語を用いて説明できる。
2. ジェンダーやセクシュアリティの視点から自身の経験を捉えなおし説明できる。

授業計画

第1回 オリエンテーション・「女性学」では何を学ぶのか？

・授業概要を説明します。なぜ「女性学」が必要とされているのかを説明します。また、今後の授業スケジュール、授業評価の方法も提示します。

第2回 ジェンダーとは何か？

・ジェンダーとは何か説明します。ジェンダーがどのような場面で問われるのか例示できることを目指します。

第3回 家族

・女性のライフスタイルの変化にあわせて家族の形がどのように変化してきたのか説明します。それをもとに理想化される「家族」像に含まれる男女格差を説明できることを目指します。

第4回 家族 具体的な事象から深める：母子世帯とジェンダー

・シングルマザーが抱える生活問題を例に日本の家族政策における課題を説明できることを目指します。

第5回 労働

・学校カリキュラムから雇用制度に至るまでの男女格差について学び、日本の雇用政策の課題を説明できることを目指します。

第6回 労働 具体的な事象から深める：ケアワーカーとジェンダー

・ケア（医療、介護、保育など）の現場で働く女性たちが求められる役割とその課題を説明できることを目指します。

第7回 恋愛・結婚・離婚

・恋愛・結婚関係において女性たちが求められる役割を学び、婚姻制度の課題を説明できることを目指します。

第8回 恋愛・結婚・離婚 具体的な事象から深める：暴力とジェンダー

・ドメスティックバイオレンスを例にして、恋愛・結婚関係における男女格差について説明できることを目指します。

第9回 子育て

・「母親」として生きるうえで女性たちが求められる役割を学び、子育て支援制度の課題を説明できることを目指します。

第10回 子育て 具体的な事象から深める：虐待・育児放棄とジェンダー

・虐待や育児放棄など育児における問題がどのようにジェンダーと結びついているのかを説明できることを目指します。

第11回 セクシュアリティとは何か？

・セクシュアリティとは何か説明できるようになることを目指します。ジェンダーとセクシュアリティの違いと区別をふまえたうえで、セクシュアリティを問われる場面を例示できるようになることを目指します。

第12回 老い

・メディアにおける高齢女性の表され方を例にあげ、女性が年を重ねることで直面する課題とセクシュアリティがどのように関連しているのかを説明できるようになることを目指します。

第13回 売買春と性の商品化

・パパ活を例にあげて、性の取引をめぐる女性が直面する課題がセクシュアリティとどのように関連しているのか説明できるようになることを目指します。

第14回 性の多様性

・クィア、トランスジェンダーなど性の多様性をめぐる課題について説明できるようになることを目指します。

第15回 性の多様性 具体的な事象から深める：フェミニズム運動の分断

・セクシュアリティをめぐる様々な立場を学び、女性学のもつ課題を説明できるようになることを目指します。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

第1回から第15回までの事後に、新聞や本、学術論文等に目を通して授業に関連する事例を探すことを求めます。その事例を授業内で提示した用語を用いて説明できるようになることを目指します。毎回の講義で前講義のおさらいの時間を設けます。

課題に対するフィードバックの方法

学期末レポートについては、提出締め切り後、希望者に対してコメントを回答します。

成績評価の方法・基準(方針)

下記の評価割合に基づいて評価を行い、100点満点中60点以上を合格とする。正当な理由なく5回以上欠席した場合や、定期試験に代わるレポートを提出しなかった場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	授業内ワークへの取り組みや応答内容に対して評価します。	1
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	70	レポート課題に対して、授業内で扱った語句を用いて記述説明できているかどうかを評価します。	1, 2
その他	10	授業中の態度、マナーを評価します。	1, 2

テキスト テキストは使用しません。

参考書 必要に応じて授業内で参照します。

履修条件・他の科目との関連 本授業は「女性」として生きることに関心をもち、家庭や学校、職場など様々な場所で人々が「自分らしく」生きることについて考えているきっかけになるかと思います。

授業コード	20002901	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	日本の伝統文化と芸術 [対面]				
シラバス執筆(全員)	佐藤 智明、丸山 茜葉、松井 道子				
シラバス執筆(主)	佐藤 智明				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

全体の概要：

日本の伝統および文化について、講義（1-5回目）及び実習（6-15回目）から概説する。実習は「空手道」、「華道」、「書道」から1つを選択し、初心者向けの体験学習を通じて理論と実践の両面から説明する。

各実習：

- ・空手道：単にスポーツ的に身体活動を実施するのではなく、身体活動を通じて礼節や体の使い方を概説する。
- ・華道：草木や花を命あるものとしてとらえ、花器や花瓶の上でその美しさを表現するものである。華道の歴史的背景や現在の華道またフラワー・アレンジメントとの関連を解説し、初歩的な花を活ける実習を通して、日本の伝統文化を説明する。
- ・書道：臨書や自由制作を通じての漢字やかな書の実技の演習も行い、その中で鑑賞方法についても教授する。古典と実用書道、創作書道など現代書の両面から書道の在り方を概説する。

目的：

- ・講義において、日本の基本的な文化を学び、実社会に出てからの最低限必要な知識を概説する。
- ・実習において、他者と協力しながら、誠実に物事に取り組み、各文化の知識や技能を概説する。

到達目標

1. 日本の伝統文化を理解し説明することができる。
2. 学んだ道の文化を表現することができる。
3. 日本の伝統文化の知識を日常に役立てることができる。

授業計画

【第1回】

テーマ：ガイダンス・日本とは・四季を楽しむ文化
内容・方法：季節を生かした行事・旧暦と新暦の違い

【第2回】

テーマ：にほんごという言語
内容・方法：ユニークな言語・ことば遊び

【第3回】

テーマ：日本の食文化
内容・方法：和食・食事とマナー

【第4回】

テーマ：「道」のつく文化
内容・方法：「道」に通じるもの

【第5回】

テーマ：伝統文化の継承
内容・方法：伝統文化と日本の再生・翌週からの「道」を選択

・空手道【第6回-15回】：
テーマ：「空手道」の文化を体験する

【第6回】

内容・方法：稽古にあたっての作法を理解する

【第7回】

内容・方法：基本の動きを学ぶ1：上半身中心

【第8回】

内容・方法：基本の動きを学ぶ2：下半身中心

【第9回】

内容・方法：基本の動きを学ぶ3：全身（上半身・下半身）の動き

【第10回】

内容・方法：移動の動きを学ぶ1：運足中心

【第11回】

内容・方法：移動の動きを学ぶ2：上半身と下半身の連動

【第12回】

内容・方法：基本的な型を学ぶ1：太極Ⅰ

【第13回】

内容・方法：基本的な型を学ぶ2：太極Ⅱ

【第14回】

内容・方法：基本的な技を学ぶ1：受け返し

【第15回】

内容・方法：基本的な技を学ぶ2：攻めのコンビネーション

・華道【第6回-15回】：
テーマ：「華道」の文化を体験する

- 【第6回】
内容・方法：「華道」の歴史や流派について学ぶ
- 【第7回】
内容・方法：フラワーセラピー（花との関係性を築く）
- 【第8回】
内容・方法：生け花の基本を学ぶ
- 【第9回】
内容・方法：フラワーアレンジメントの基礎を学ぶ
- 【第10回】
内容・方法：和花を生ける
- 【第11回】
内容・方法：季節のフラワーアレンジメントを生ける
- 【第12回】
内容・方法：フラワーセラピー（花との関係性を深める）
- 【第13回】
内容・方法：和花を生ける
- 【第14回】
内容・方法：自由創花をデザインし生ける1（学期末課題作品練習）
- 【第15回】
内容・方法：自由創花をデザインし生ける2（学期末課題作品作成）

- ・書道【第6回-15回】：
テーマ：「書道」の文化を体験する
- 【第6回】
内容・方法：書道の基本練習
- 【第7回】
内容・方法：2文字の実践練習
- 【第8回】
内容・方法：4文字の実践練習、書の歴史
- 【第9回】
内容・方法：細字、書体の変化（楷書、行書、草書の違い）
- 【第10回】
内容・方法：日本の生活と書・名前、または実用書道の練習（細字）
- 【第11回】
内容・方法：日本の生活と書・年賀状の基本（細字）
- 【第12回】
内容・方法：日本の生活と書・創作年賀状（細字）
- 【第13回】
内容・方法：創作書道（課題決め、練習）
- 【第14回】
創作書道（実践、作品提出練習）
- 【第15回】
書道総括（基礎、創作の作品提出）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
①事前学修課題：情報端末で「日本の四季」を調べておく 1.5時間
②事後学修課題：講義ノートや板書を整理しておく 2.5時間
- 【第2回】
①事前学修課題：情報端末で「にほんご」を調べておく 1.5時間
②事後学修課題：講義ノートや板書を整理しておく 2.5時間
- 【第3回】
①事前学修課題：情報端末で「日本の食文化」を調べておく 1.5時間
②事後学修課題：講義ノートや板書を整理しておく 2.5時間
- 【第4回】
①事前学修課題：情報端末で「日本の道」を調べておく 1.5時間
②事後学修課題：講義ノートや板書を整理しておく 2.5時間
- 【第5回】
①事前学修課題：情報端末で「伝統文化」を調べておく 1.5時間
②事後学修課題：講義ノートや板書を整理しておく 2.5時間
- ・空手道【第6回-15回】：
【第6回】
①事前学修課題：情報端末で「空手道」を検索する 1.5時間
②事後学修課題：授業で学んだ稽古にあたっての作法を確認する 2.5時間
- 【第7回】
①事前学修課題：授業で学んだ稽古にあたっての作法を確認しておく 1.5時間
②事後学修課題：学んだ基本の動きをおさらいする 2.5時間
- 【第8回】
①事前学修課題：先週学んだ上半身の基本の動きをおさらいする 1.5時間
②事後学修課題：学んだ基本の動きをおさらいする 2.5時間
- 【第9回】
①事前学修課題：先週学んだ下半身基本の動きをおさらいする 1.5時間
②事後学修課題：学んだ基本の動きをおさらいする 2.5時間

【第10回】

①事前学修課題：先週学んだ上半身及び下半身基本の動きをおさらいする 1.5時間

②事後学修課題：学んだ移動の動きをおさらいする 2.5時間

【第11回】

①事前学修課題：先週学んだ運足移動の動きをおさらいする 1.5時間

②事後学修課題：学んだ移動の動きをおさらいする 2.5時間

【第12回】

①事前学修課題：先週学んだ上半身及び下半身の移動の動きをおさらいする 1.5時間

②事後学修課題：学んだ型の動きをおさらいする 2.5時間

【第13回】

①事前学修課題：先週学んだ太極Ⅰの型の動きをおさらいする 1.5時間

②事後学修課題：学んだ型の動きをおさらいする 2.5時間

【第14回】

①事前学修課題：先週学んだ太極Ⅱの型の動きをおさらいする 1.5時間

②事後学修課題：学んだ基本的な技の動きをおさらいする 2.5時間

【第15回】

①事前学修課題：先週学んだ基本的な技の動きをおさらいする 1.5時間

②事後学修課題：学んだ基本的な技の動きをおさらいする 2.5時間

・華道【第6回-15回】：

【第6回】

①事前学修課題：「華道」の歴史や流派について調べる 1.5時間

②事後学修課題：「華道」の歴史や流派についてまとめる 2.5時間

【第7回】

①事前学修課題：季節の草花を調べる 1.5時間

②事後学修課題：生け花を自分の花器に活け、デッサンをする 2.5時間

【第8回】

①事前学修課題：アレンジを考える 1.5時間

②事後学修課題：生け花を自分の花器に活け、デッサンをする 2.5時間

【第9回】

①事前学修課題：アレンジを考える 1.5時間

②事後学修課題：生け花を自分の花器に活け、デッサンをする 2.5時間

【第10回】

①事前学修課題：アレンジを考える 1.5時間

②事後学修課題：生け花を自分の花器に活け、デッサンをする 2.5時間

【第11回】

①事前学修課題：アレンジを考える 1.5時間

②事後学修課題：生け花を自分の花器に活け、デッサンをする 2.5時間

【第12回】

①事前学修課題：アレンジを考える 1.5時間

②事後学修課題：生け花を自分の花器に活け、デッサンをする 2.5時間

【第13回】

①事前学修課題：アレンジを考える 1.5時間

②事後学修課題：生け花を自分の花器に活け、デッサンをする 2.5時間

【第14回】

①事前学修課題：アレンジを考える 1.5時間

②事後学修課題：生け花を自分の花器に活け、デッサンをする 2.5時間

【第15回】

①事前学修課題：アレンジを考える 1.5時間

②事後学修課題：生け花を自分の花器に活け、デッサンをする 2.5時間

・書道【第6回-15回】：

【第6回】

①事前学修課題：書道について自身の体験の振り返り 1.5時間

②事後学修課題：基本練習の復習 2.5時間

【第7回】

①事前学修課題：楷書とは何か 1.5時間

②事後学修課題：基本練習の復習 2.5時間

【第8回】

①事前学修課題：仮名と楷書の違いとは 1.5時間

②事後学修課題：書道の歴史、基礎練習の復習 2.5時間

【第9回】

①事前学修課題：書体の種類について調べる 1.5時間

②事後学修課題：書体の違いの復習 2.5時間

【第10回】

①事前学修課題：9回の講義についての振り返り 1.5時間

②事後学修課題：名前の復習 2.5時間

【第11回】

①事前学修課題：日本の冠婚葬祭について確認 1.5時間

②事後学修課題：冠婚葬祭（年賀状）に使う文字の復習 2.5時間

【第12回】

①事前学修課題：日本の年賀状の歴史について確認 1.5時間

②事後学修課題：年賀状の基本的な作法の復習 2.5時間

【第13回】

①事前学修課題：自身の作品の文字を確認 1.5時間

②事後学修課題：次回の講義に備え、決定課題の練習 2.5時間

【第14回】

- ①事前学修課題：前講義での課題、最終デザインを認識 1.5時間
- ②事後学修課題：作品制作についての振り返り 2.5時間

【第15回】

- ①事前学修課題：書道全般の内容を再確認 1.5時間
- ②事後学修課題：書道実践について振り返り 2.5時間

課題に対するフィードバックの方法

講義では、授業中にクラスルームを通じて提出されたレポートを次回までに採点をし、次回に講評を行う。また実習にあたっては、授業中に評価ポイントを提示し、取り組んだ実技や作品の講評を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す通り、期間中に実施される通常課題の提出、期末課題、その他受講態度を採点基準とし、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由のない欠席5回以上、また通常課題や期末課題を未提出の場合、評価の対象とせず、「1」若しくは「K」評価とする。
 実習が中心となるため出席を重視し、かつ受講態度も併せて重視する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内で課される活動課題(実習形式)20やレポート課題(講義形式)10	1, 2
授業外での評価	20	授業外で課される課題	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	15回の授業終了後に課される課題	1, 2, 3
その他	20	活動や質問への回答などの積極的な受講態度	1, 2, 3

テキスト 必要に応じてプリントを配布する。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 講義と実習があるために、施設、用具の関係上、受講にあたって人数制限を行う。そのため必ず1回目の講義に出席する事。出席しない場合は原則、受講ができない。
 最初の5回は講義を展開する。その後の10回は「空手道」「華道」「書道」の内から1つを選択して各コースで実習を実施するが、それぞれ人数制限があるため、第三希望まで募り、振り分けを実施する。
 「空手道」希望者は、スポーツウェア若しくは道着を用意しておくこと。
 「華道」については、別途花材等、実習費が必要となる。

授業コード	20003001	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	暮らしのなかの憲法 [対面]				
シラバス執筆(全員)	小原 博臣				
シラバス執筆(主)	小原 博臣				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

日本国憲法は施行から70年あまりを経過した。憲法は国のあり方の基本を定める最高法規である。憲法の条文には抽象的で曖昧な規定が多いが、その憲法は私たちの日々の「暮らしのなか」に息づいている。とりわけ人権規定は、歴史的に見れば市民が自らの生活を守るために国家や為政者から勝ち取ってきた成果であるが、その意味内容は、常に各々の時代や文化のなかを生きる人々の解釈を通して切り開かれてきたものである。現代を生きる私たちもまた、日々の暮らしのなかで、そのような憲法を解釈するという営為に携わっていると言える。本講義では、日本国憲法のうち、主に基本的人権に関わる領域について解説する。特に過去の判例や現在生じている問題を素材にしながら、具体的局面における各々の人権の内容やその限界について検討する。また、教免必修科目として、なぜ憲法を学習しなければならないか、その意義についても触れていきたい。また憲法や人権に関わる問題に取り組むうえで、自ら考え見解を述べることは重要である。そのため本講義では憲法や人権に関わる問題について、授業の中でディスカッションを行ったり、論述レポートの提出を求めたりする予定である。

到達目標

1. 憲法と人権の歴史的背景と基礎的な事項を説明することができる。
2. 日本国憲法の基本的人権規定が有する内容や限界を説明することができる。
3. 人権規定が、現代の我々の生活とどのように関係しているのかを説明することができる。
4. 習得した知識を、自分の言葉で的確に表現することができる。

授業計画

- 【第1回】
授業テーマ：ガイダンス
内容・方法等：講義の概要・基本方針、注意事項、成績評価、本講義で取り上げる対象、法とは何か
- 【第2回】
授業テーマ：日本国憲法の基礎と歴史
内容・方法等：立憲主義、法の支配、日本国憲法の成立史、憲法の基本原理
- 【第3回】
授業テーマ：人権総論（人権とは何か）
内容・方法等：人権の分類、人権を享有する主体、公共の福祉
- 【第4回】
授業テーマ：生命・自由・幸福追求権
内容・方法等：憲法13条の意義、新しい人権の創出、プライバシーの権利（「放っておいてもらう権利」から「私生活をみだりに公開されない権利」へ）
- 【第5回】
授業テーマ：自己決定権（判例上の「人格権」との相違について）
内容・方法等：校則・就業規則に基づく規制の是非（服装・頭髪・ひげ問題）、リプロダクティブライツ（旧「優生保護法」強制不妊訴訟から）、安楽死と尊厳死、治療拒否問題
- 【第6回】
授業テーマ：法の下での平等（1）【総論】
内容・方法等：法の下での平等の意味、平等権と平等原則、相対的平等と絶対的平等、形式的平等と実質的平等
- 【第7回】
授業テーマ：法の下での平等（2）【各論：判例等から具体的事例を検討する】
内容・方法等：性差別と憲法14条、非嫡出子の相続格差、女性の再婚禁止期間、夫婦別姓、LGBTと同性婚
- 【第8回】
授業テーマ：信教の自由（精神的自由権について）
内容・方法等：精神的自由とは、信教の自由とその限界、政教分離原則（目的効果基準とは）
- 【第9回】
授業テーマ：表現の自由（1）
内容・方法等：知る権利と忘れられる権利、報道の自由と取材の自由、検閲の禁止
- 【第10回】
授業テーマ：表現の自由（2）
内容・方法等：表現の自由の限界（表現内容規制と内容中立規制）、ポルノ規制（芸術か猥褻か）、営利的言論の自由
- 【第11回】
授業テーマ：職業選択の自由（自由主義経済と経済的自由権）
内容・方法等：営業の自由（積極目的規制と消極目的規制について）、法規制は合憲か違憲か（公衆浴場配置規制、薬局開設距離制限）
- 【第12回】
授業テーマ：参政権（法の下での平等との関連性）
内容・方法等：選挙権の法的性格と要件、在外邦人選挙権訴訟、一票の格差問題
- 【第13回】
授業テーマ：生存権（「最低限度の生活」とは）

内容・方法等：憲法25条と法的性格、生活保護問題、判例の示した考え方の検討（朝日訴訟、堀木訴訟から）

【第14回】

授業テーマ：教育を受ける権利（義務ではなく権利？）

内容・方法等：学習権と国の責務、学問の自由と教育の自由（旭川学力テスト事件判決から）

【第15回】

授業テーマ：まとめと補足

内容・方法等：重要事項の確認、その他の人権規定について

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、授業計画を参考にテキストの該当箇所を読んで、わからない用語等があれば法律用語辞典や国語辞典等で調べておくこと。また、新聞等で関連するニュースがあれば、スクラップするなど、1.5時間ほどの学習時間を要する。

事後学習は、授業時に配布したプリントや資料をもとに、ノート整理をするなど2.5時間ほどの学習時間を要する。

【第1回】

①事前学習課題：シラバスを確認する。テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第2回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第3回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第4回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第5回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第6回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第7回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第8回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第9回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第10回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第11回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第12回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第13回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第14回】

①事前学習課題：テキストの該当箇所を読んでおくこと。

②事後学習課題：授業内容の復習を行うこと。

【第15回】

①事前学習課題：疑問点等を洗い出しておくこと。

②事後学習課題：テキストと配布資料のすべてを確認し、総復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業終了時にふりかえりシートを回収し、次の授業時に冒頭でフィードバックを行う。

小テストについては、採点・解説を行う。

レポートに関しては総括して講評を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

正当な理由なく5回以上、但し5回未満であっても3回連続で授業を欠席した場合、また定期試験を受験しなかった場合には評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	授業における積極的な発言・質問(10) ふりかえりシートの提出(5) 小テスト(5)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	レポート課題	1, 2, 3, 4
定期試験	70	期末試験	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	初宿正典ほか編著『目で見える憲法[第5版]』、有斐閣、1,760円(税込)、ISBN:978-4-641-22735-4 ※その他、必要に応じて資料等プリントを配布する。
------	--

参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・初宿正典ほか編『いちばんやさしい憲法入門[第6版]』(有斐閣アルマ、2020年) ・芦部信喜『憲法[第7版]』(岩波書店、2019年) ・松井茂記『日本国憲法を考える[第3版]』(大阪大学出版会、2014年) ・ポケット六法(有斐閣)、デイリー六法(三省堂)などの六法 その他のものについては、必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	---

履修条件・他の科目との関連	<p>「幼稚園教諭」免許状取得のためには、本科目の履修及び単位取得が必須となるので、十分気を付けること。</p> <p>授業中は、特にこちらから指示のない限りスマホやパソコン等は基本的に使用しないので、授業中は机に出さずに必ずカバンの中に入れておくこと。</p> <p>授業の中ですべてを説明し尽くすことには限界があり、学生諸君の理解をより深めるためにもテキストは必ず事前に購入の上、予習および復習することが重要である。</p> <p>授業への不参加(欠席)の多い者、遅刻・早退の多い者など、いわゆる出席状況の良くない者については、単位を認定することが出来なくなるので注意すること。</p>
---------------	---

授業コード	20002501	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	生活と環境 [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	坂田 啓三				
シラバス執筆(主)	坂田 啓三				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

私たちの暮らしや産業は地球の環境や資源などに支えられて成り立っています。これからも私たちの健康で快適な暮らしを維持するためには地球の環境や資源に関する理解を深めなければいけません。この講義では、①人間の産業活動により引き起こされた地球環境への問題、②環境を守るための活動、③食を中心とする私たちの生活の安全と環境問題との関係の3つについて解説します。これらの内容を学ぶことで、地球の環境と共存し、よりよく生きていくための基礎的な知識と思考するためのスキルを身につけることを目的とします。

この授業は、遠隔授業となります。

リアルタイム型の遠隔授業（その授業時間にZoom等で参加する方法）ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出する形で実施する予定です。

到達目標

1. 環境科学について基礎的な化学や物理学、生物学の観点から理解し説明できる。
2. 私たち人間は地球の環境を構成する一員であり、私たちの生活は地球の環境に密接に関係していることを理解し、説明できる。
3. 過去に人間の活動によって引き起こされた環境問題について学び、環境の悪化が私たち人間の生活にとって大きな脅威であることを理解し、説明できる。
4. 環境保護の取り組みについて学ぶことで、環境問題の解決のために自分に何ができるのかを考え、行動するというプロセスについて理解し、説明できる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション：「生活と環境」に関するイントロダクションを行います。
- 第2回 環境科学を学ぶ上で必要な化学・物理学の基礎（復習小テスト①を実施）
- 第3回 環境科学を学ぶ上で必要な生物学の基礎（復習小テスト②を実施）
- 第4回 化学物質と健康被害：日本で発生した公害や家庭での化学物質による事故を例に、化学物質が生命に与える影響について説明します。
- 第5回 プラスチック問題：プラスチックごみ等による海洋の汚染について説明します。
- 第6回 放射能汚染：放射線の有害性を説明し、原発事故による環境への影響について説明します。
- 第7回 健全な水の循環と利用：上水道・下水道の役割と関連法規について説明します。
- 第8回 地球温暖化・前半のまとめ（確認試験①を課題として実施）
- 第9回 食の安全（農業と農薬）：農業による環境負荷について説明し、持続可能な食糧生産について考えます。
- 第10回 食の安全（自然毒のリスクプロファイル）：山菜やキノコなど山の恵みに潜む食中毒の危険について説明します。
- 第11回 食の安全（ジビエの利用とそのリスク）：近年、注目されている食材としてジビエ（野生鳥獣）の利用について、ジビエに潜むリスクを学びより良い利用法について考えます。
- 第12回 生物の絶滅と人間社会：人間の活動による生物の絶滅や多様性の低下について説明し、共存可能な社会について考えます。
- 第13回 生物多様性と環境保全①：環境を守るための法律や決まり事を説明し、よりよい共生社会とは何かについて考えます。
- 第14回 生物多様性と環境保全②：環境を守るための具体的な事例を学び、共生社会を目指してどのような取り組みが最善か考えます。
- 第15回 後半のまとめと総復習（確認試験②を課題として実施）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

2時間程度の事前学習と2時間程度の事後学習が必要です。

事前学習としてインターネットや図書館などで講義の主題に関する基礎的な周辺知識を身に付けておくことが望まれます。

また、講義終了後に講義用資料や自分で取った講義ノートを整理しながら復習し、重要事項を纏めるための事後学習が必要です。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーおよび期末レポートは原則としてGoogle Classroomを用いての提出とします。

復習小テストおよび確認試験はGoogle Classroomを利用して行い、解答例はGoogle Classroomを用いて示します。

質問はメールもしくはGoogle Classroomのコメント機能を利用して受け付けます。回答は同様に、メールもしくはGoogle Classroomのコメント機能を利用して返します。

成績評価の方法・基準(方針)

正当な理由なく授業を5回以上欠席した場合は評価不能として「K」評価とします。
 授業の出欠確認はリアクションペーパーの提出をもって行うものとします。
 成績は以下の方法によって評価し、60点以上を合格として単位を認定します。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	1. リアクションペーパー(15) 2. 復習小テスト①(10) 3. 復習小テスト②(10) 4. 確認試験①(20) 5. 確認試験②(20)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	期末レポート(25)	2, 3, 4
その他	0		

テキスト テキストは指定しません。

参考書 『文系のための環境科学入門 新版』 有斐閣 ISBN 978-4641174238
 『新版 新しい環境科学』 駿河台出版社 ISBN978-4411040398
 その他、適宜授業内で紹介します。

履修条件・他の科目との関連 テキストや配布資料がなく、講義中のノートテイキング重視の講義です。各自がしっかりと自分のノートを作成することが求められます。
 状況により授業内容の一部および順番の変更を行う場合もあります。

授業コード	20002601	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	生活と健康 [遠隔オンデマンド]				
シラバス執筆(全員)	松井 妙実				
シラバス執筆(主)	松井 妙実				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

健康は、人々にとって幸福や平和などと同様に高く価値づけられている。また、健康はその人が生活する社会の影響を大きく受け、健康に対する考え方や文化、風習、生活様式、政策、さらには経済状況により大きな違いがある。本講義では我が国の国民の健康・生活の全体像を理解し、健康を左右する生活との関係について理解し、健康増進の在り方について考える。講義の中では、小児期、成人期、老年期の健康づくり対策について具体的に考え、健康増進に向けてのパンフレットやポスターを作成し、健康増進への具体的取り組みについて理解を深める。さらに自分の健康について考え健康課題と解決策について考える。

★この授業は、オンデマンド型の授業になります。リアルタイム型の遠隔授業ではなく、講義を録画した動画を一定期間中に視聴し、所定の課題を提出していただく形で実施する予定です。

到達目標

1. 健康の概念について説明できる。
2. 健康観には様々な考え方があることを説明できる。
3. 主要な公的資料の結果から、国民全体の健康と生活像について説明できる。
4. 自分の健康課題について説明できる。
5. 健康増進に対する関わり方について応用できる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション
- 【第2回】 健康のとらえ方1：健康とは何か、障害とは何か
- 【第3回】 健康のとらえ方2：生活と疾患、障害の予防、健康とQOL
- 【第4回】 国民の健康状態
- 【第5回】 国民のライフサイクル
- 【第6回】 小児期の健康問題の現状と課題
- 【第7回】 小児期の健康づくり対策
- 【第8回】 小児期の健康増進をはかるための取り組みの実際
- 【第9回】 成人期の健康問題の現状と課題
- 【第10回】 成人期の健康づくり対策
- 【第11回】 成人期の健康増進をはかるための取り組みの実際
- 【第12回】 老年期の健康問題の現状と課題
- 【第13回】 老年期の健康づくり対策
- 【第14回】 老年期の健康増進をはかるための取り組みの実際
- 【第15回】 まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
 - 【事前】 シラバスを確認し、授業構成を理解する。1.0時間
 - 【事後】 「自分が健康だと思うこと」について考え、ノートに記述する。2.0時間
- 第2回
 - 【事前】 WHOの健康の定義について調べ、ノートに記述する。2.0時間
 - 【事後】 授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
- 第3回
 - 【事前】 「障害の予防」について考え、ノートに記述する。2.5時間
 - 【事後】 授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
- 第4回
 - 【事前】 健康状態を反映する統計について調べ、ノートに記述する。2.5時間
 - 【事後】 授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
- 第5回
 - 【事前】 平均寿命について調べ、日本が世界でも長寿国である理由を考え、ノートに記述する。2.5時間
 - 【事後】 授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
- 第6回
 - 【事前】 小学生時代に罹患した疾患について思い出し、その時の気持ちや受けた医療や看護について、ノートに記述する。2.5時間
 - 【事後】 授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
- 第7回
 - 【事前】 小児期の健康づくり対策について調べ、ノートに記述する。2.5時間
 - 【事後】 小児期の健康づくりに必要な媒体を考える。2.5時間
- 第8回
 - 【事前】 小児期の健康づくりに必要な媒体を作成する。2.5時間

【事後】	授業資料を参照し、ノートに加筆する。1.5時間
第9回	
【事前】	過去1年間の自分の健康状態について、ノートに記述する。2.5時間
【事後】	授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第10回	
【事前】	成人期の健康づくり対策について調べ、ノートに記述する。2.5時間
【事後】	成人期の健康づくりに必要な媒体を考える。2.5時間
第11回	
【事前】	成人期の健康づくりに必要な媒体を作成する。2.5時間
【事後】	授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第12回	
【事前】	自分が70歳になったと想定し、自分の健康がどのように変化するかについて考え、ノートに記述する。2.5時間
【事後】	授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第13回	
【事前】	老年期の健康づくり対策について調べ、ノートに記述する。2.5時間
【事後】	老年期の健康づくりに必要な媒体を考える。2.5時間
第14回	
【事前】	老年期の健康づくりに必要な媒体を作成する。2.5時間
【事後】	授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第15回	
【事前】	授業資料、ノートを復習し、不明な点について質問できるように準備する。1.5時間
【事後】	健康増進の必要性について、ノートに記述する。1.0時間

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題について採点し、評価結果については希望者に開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す通り、授業中に実施する課題・レポートと期末試験(レポート)の評価結果に基づき評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由のない欠席6回以上、または課題・定期試験に代わるレポートを未提出の場合は評価対象外とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業内で課される課題(30) 授業終了時に記述する受講レポート(40)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	講義終了後に実施する定期試験に代わるレポート課題(30)	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 テキストに代わる資料として、Google Classroom を通じて授業資料のPDFファイルを適宜配布する。
------	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	日頃からニュースなどを見て、健康に関する知識を身につけておくことが望ましい。 正当な理由のない6回以上の欠席で評価対象外とする。 Goggle Classroom のクラスコードは開講までに UNIPA を通じて掲示するので、開講が近づいたら確認しておくこと。 第1回の講義に必ず出席して講義の進め方に関する注意事項を確認すること。 講義内で課す課題を提出することにより出席を確認する。課題提出の締め切りは講義動画の公開から原則として1週間とする。
---------------	--

授業コード	20002301	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	人権教育論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	長澤 敦士				
シラバス執筆(主)	長澤 敦士				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

【概要】 この講義の目的は、子ども・若者の社会問題（例えば、DVや児童虐待、子どもの貧困や児童買春、など。）を取り上げて、受講生のみなさんとの対話を通じて、「子どもの権利」についての理解を深めることです。加えて、「子どもの権利」を保障するための実践としての人権教育の事例についても紹介します。

【講義形態】 この講義は基本的に講義形式で行う予定ですが、受講者数によっては受講生同士のディスカッションを中心とした形式で行う可能性があります。

到達目標

1. 人権教育の意義・目的について自分の言葉で説明できる。
2. 人権教育の歴史・思想とその背景にある人権の思想・歴史について自分の言葉で説明できる。
3. 子どもや若者の権利を保障する教育や福祉の法的・制度的仕組みについて自分の言葉で説明できる。
4. 現代の子ども・若者の人権にかかわる社会問題について複眼的に考え、自分なりの意見を展開できる。

授業計画

【第1回】 はじめに：「人権」とは、「人権教育」とは
 キーワード 基本的人権、人権の歴史・思想、人権教育の歴史・思想

【第2回】 「子どもらしさ」を決めるもの——子どもの権利の歴史と思想
 キーワード 世界人権宣言、子どもの権利条約、ヤヌシュ・コルチャック

【第3回】 「女性らしい視点」を作り出すもの——女性の権利について考える①
 キーワード ジェンダー、性別役割分業、隠れたカリキュラム

【第4回】 生まれる権利／生む権利——女性の権利について考える②
 キーワード 優生思想、性と生殖に関する健康と権利（リプロダクティブ・ヘルス・ライツ）、母体保護法

【第5回】 子育て罰——女性の権利について考える③
 キーワード フェミニズム、ワーク・ライフ・バランス、男女雇用機会均等法

【第6回】 カミングアウトとアウトティング——性の多様性について考える
 キーワード LGBT+、SOGI、ALLY

【第7回】 冷めきった食卓——家族の中の「暴力」について考える①
 キーワード DV、児童虐待、自傷行為

【第8回】 「あなたのためを思って」という欺瞞——家族の中の「暴力」について考える②
 キーワード 児童養護施設、アフターケア

【第9回】 無駄とされる人々——障害のある子どもについて考える①
 キーワード 障害の個人モデル／社会モデル、生活自立運動

【第10回】 みんな違って、みんないい、のか？——障害のある子どもについて考える②
 キーワード 合理的配慮、インクルーシブ教育

【第11回】 ホームレスにもなれない女性たち——貧困の中にある子どもの権利について考える①
 キーワード 女性の貧困、生活保護法、世帯の中に隠れた貧困

【第12回】 教育はぜいたく品！？——貧困の中にある子ども・若者について考える②
 キーワード 子どもの貧困、貧困対策／支援、貧困の連鎖（貧困の世代的再生産）

【第13回】 わたしが私を売る理由——児童売春について考える
 キーワード 非行、援助交際（パパ活）、売春防止法

【第14回】 わたしの子ども、わたしたちの子ども——地域における子ども・若者の権利保障について考える
 キーワード 子ども食堂、学習支援、子どもオンブズマン

【第15回】 おわりに：子ども・若者と「共にある」ということ
 キーワード 当事者主権、アドボカシー（権利擁護）、ピアサポート

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：子ども・若者にかかわる社会問題にメディア（テレビ、新聞、SNSなど）を通じて触れること。各回ごとに2時間程度。
 事後学習：講義で共有したことや考えたことを念頭に、改めて自らの日常生活を「人権」の視点で捉え直すこと。必要に応じて講義内で紹介した参考資料を読んだり、見たりすること。各回ごとに2時間程度。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたコメントシートに対しては、適宜、講義内でコメントを付します。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定します。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とします。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内での発表、授業後に提出するコメントシート	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	全授業終了後に実施するレポート試験	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	使用しません。
------	---------

参考書	<p>必要に応じて授業の中で紹介します。ただし、以下の書籍は本講義との関連で参考になるものです。①と②の書籍は本学の図書館で借りることができます。興味のある方は手に取ってみてください。</p> <p>①桜井智恵子(2012)『子どもの声を社会へ: 子どもオンブズの挑戦』、岩波書店。</p> <p>②森山至貴(2020)『10代から知っておきたい あなたを閉じこめる「ずるい言葉」』、WAVE出版。</p> <p>③木村草太編(2018)『子どもの人権をまもるために』、晶文社。</p>
-----	---

履修条件・他の科目との関連	<p>履修条件はとくに指定しませんが、子ども・若者にかかわる社会問題について自分なりの視点から考える意欲のある学生を歓迎します。</p> <p>また、欠席した回の資料はGoogle Classroomよりダウンロードして、自習してください。</p>
---------------	--

授業コード	20002402	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	生涯スポーツ論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	佐藤 光子				
シラバス執筆(主)	佐藤 光子				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スポーツには一人一人の健康だけでなく、地域社会再生・経済発展・国際平和貢献など重要な意義と効果があることが期待されている。わが国のスポーツ基本法（2011年制定）をはじめ世界の多くの国では、スポーツを世界共通の人類の文化であるとし、スポーツを通じて幸福で豊かな生活を営むことはすべての人々の権利であると謳っている。これらのことをふまえて、スポーツを生涯の友として豊かに暮らすための知識と考察を深めよう。本講義では、映像や画像資料などを用いて講義を行い、理解度テストを実施して採点返却する。これまでのあなたの人生で出会ったスポーツを振り返ることから始めるが、競技としてのスポーツだけでなく、健康や楽しみのためのスポーツ、様々な工夫を加えた新たなスポーツなども解説する。スポーツを歴史的・社会的な観点や、医学的・科学的な観点などから幅広く考えることができるよう、様々な資料を提供する。長年に亘り、ランニング学会認定上級指導者として、また日本トレイルランナーズ協会理事として、一般市民のスポーツ指導に携わっている経験をもとに講義を進めたい。

到達目標

1. スポーツの歴史をふまえて、現代のスポーツの定義を説明できる
2. スポーツと健康、ケガ、病気、子どもの成長などについて医療と発達科学の観点から説明できる
3. 様々な種類のスポーツについて、その内容を説明できる
4. スポーツと平和、人権、マナーなどについて、その問題点を説明できる
5. 講義で得た知見に加えて、自身で調べたことや考えについて述べられる
6. 講義で得た知見をふまえて、自身のスポーツ観について述べられる

授業計画

この授業は通常授業です。
【第1回】オリエンテーション
講義の主題、受講や課題提出の方法、到達目標と評価方法について確認する
【第2回】スポーツとは何か
現代社会におけるスポーツの定義について考える
【第3回】スポーツの歴史
古代オリンピックから近代スポーツまでの変遷を学ぶ
【第4回】スポーツと平和
スポーツと平和、人権について考える
【第5回】スポーツと健康
スポーツと健康との基本的な関係について理解する
【第6回】有酸素運動
呼吸循環機能を維持向上させる有酸素運動について理解する
【第7回】レジスタンス運動
筋力を維持向上させるレジスタンス運動について理解する
【第8回】スポーツの楽しみ方
スポーツを「みる」楽しみとして、スポーツを題材とした小説、映画、マンガなどの作品を探してみる
※中間レポート ここまでの講義の中で強く関心を持った内容についてレポートを提出する
【第9回】スポーツとケガ
捻挫などの急性障害、疲労骨折などの慢性障害を知り、応急処置を身につける
【第10回】スポーツと病気
貧血などの慢性障害、心停止や熱中症などの急性障害を知り、感染症対策についても理解する
【第11回】子どもの成長とスポーツ
成長期の子どもの身体の特徴を知り、スポーツにおける留意点を理解する
【第12回】アダプテッドスポーツ
ルールや用具などを参加者の状況に合わせたスポーツ、アダプテッドスポーツの概念を理解する
【第13回】多様化するスポーツ
既存の競技を簡便にしたもの、昔の遊びをスポーツ化したもの、まったく新たな発想で生まれたスポーツなど、現代の様々なスポーツについて調べる
【第14回】スポーツのルールとマナー
厳しい自然の中のアウトドアスポーツを事例としてルールとマナーについて考える
【第15回】講義のまとめ
第8回授業での「スポーツを題材とした作品」の投票結果の発表と講評のほか、講義全体を総括する
※最終レポート すべての講義を通じて強く関心を持った内容、または講義全体を通じてのレポートを提出する

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習としては、翌週の講義テーマについて自ら調べ、概要を把握しておくこと。
事後学習としては、授業で紹介したものだけでなく自ら調べた書籍やインターネット情報などを活用し、理解を

深めること。特に理解度テストで間違えた事柄についてはきちんと調べておこう。
毎回の授業につき、事前学習1.5時間程度、事後学習2.5時間程度が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

毎回講義後に理解度テストを実施するが、提出期限後に採点し返却する。
2回のレポートも、提出期限後に採点し返却する。
評価に対する質問があれば授業時に直接尋ねること。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定したうえで60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
ただし、正当な理由なく6回以上欠席した場合は評価対象外「K評価」とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	毎回の授業後に行う理解度テスト(70)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	15	全講義の前半を終えた時点で提出する中間レポート(15)	5, 6
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	全講義終了後に提出する最終レポート(15)	5, 6
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。
参考書	講義内で適宜紹介する。
履修条件・他の科目との関連	特になし。

授業コード	20000901	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	英語 I (Basic Conversation) [対面]				
シラバス執筆(全員)	D. サウソーン				
シラバス執筆(主)	D. サウソーン				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

- 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
- 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
- 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
 内容・方法: Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
 内容・方法: Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 6: That's a great shirt!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 6: That's a great shirt!

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)

内容・方法 : Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 2.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 4.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 6.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld. (5/E) Student Book, Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	---

参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	--

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	---

授業コード	20000903	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	英語 I (Basic Conversation) [対面]				
シラバス執筆(全員)	S. ハティング				
シラバス執筆(主)	S. ハティング				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

- 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
- 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
- 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
 内容・方法: Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
 内容・方法: Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 6: That's a great shirt!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 6: That's a great shirt!

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)

内容・方法 : Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 2.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 4.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 6.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld. (5/E) Student Book, Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	---

参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	--

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	---

授業コード	20000904	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	英語 I (Basic Conversation) [対面]				
シラバス執筆(全員)	宮本 佳奈				
シラバス執筆(主)	宮本 佳奈				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

- 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
- 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
- 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
 内容・方法: Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
 内容・方法: Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 6: That's a great shirt!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 6: That's a great shirt!

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)

内容・方法 : Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 2.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 4.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 6.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld. (5/E) Student Book, Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	---

参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	--

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	---

授業コード	20000905	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	英語 I (Basic Conversation) [対面]				
シラバス執筆(全員)	J.C. デン				
シラバス執筆(主)	J.C. デン				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

- 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
- 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
- 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
 内容・方法: Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
 内容・方法: Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 6: That's a great shirt!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 6: That's a great shirt!

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)

内容・方法 : Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 2.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 4.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 6.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld. (5/E) Student Book, Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	---

参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	--

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	---

授業コード	20000906	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	英語 I (Basic Conversation) [対面]				
シラバス執筆(全員)	D. D. スコット				
シラバス執筆(主)	D. D. スコット				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

- 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
- 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
- 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
 内容・方法: Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
 内容・方法: Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 6: That's a great shirt!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 6: That's a great shirt!

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)

内容・方法 : Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 2.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 4.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 6.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld. (5/E) Student Book, Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	---

参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	--

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	---

授業コード	20000907	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	英語 I (Basic Conversation) [対面]				
シラバス執筆(全員)	M. H. バナム				
シラバス執筆(主)	M. H. バナム				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

- 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
- 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
- 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
 内容・方法: Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
 内容・方法: Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 6: That's a great shirt!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 6: That's a great shirt!

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)

内容・方法 : Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 2.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 4.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 6.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld. (5/E) Student Book, Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	---

参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	--

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	---

授業コード	20000908	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	英語 I (Basic Conversation) [対面]				
シラバス執筆(全員)	S. D. ラーダー				
シラバス執筆(主)	S. D. ラーダー				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

- 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
- 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
- 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation. Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 1 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 1: How are you?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 2 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 2: Do you understand?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 1 & 2 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 1, 2)
 内容・方法: Practice test Units 1 & 2. Unit 1 & 2 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 3 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 3: This is my room
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 3 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 4 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 4: When do you get up?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 4 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 3, 4)
 内容・方法: Practice test Units 3 & 4. Unit 3 & 4 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 5 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 5: Who's that?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 5 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 6: That's a great shirt!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 6 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 6: That's a great shirt!

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 6 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 5, 6)

内容・方法 : Practice test Units 5 & 6. Unit 5 & 6 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 1

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 1. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 2 Vocabulary and read dialog 2. Practice dialog 1.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 2.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 1 & 2. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 1 & 2 for a test. Practice and memorize dialogs 1 & 2 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 3 Vocabulary and dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 3. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 4 Vocabulary and dialog 4. Practice dialog 3.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 4.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 3 & 4. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 3 & 4 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 5 Vocabulary and dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 5. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 6 Vocabulary and dialog 6. Practice dialog 5.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 6.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 5 & 6. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 5 & 6 for a test. Practice and memorize dialogs 5 & 6 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld. (5/E) Student Book, Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	---

参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	--

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	---

授業コード	20001001	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	英語Ⅱ (Basic Conversation) [対面]				
シラバス執筆(全員)	D. サウソーン				
シラバス執筆(主)	D. サウソーン				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

- 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
- 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
- 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation.
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 7 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 7: I love weekends!
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 7 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 8: Let's eat!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 8 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 8: Let's eat!
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 7 & 8 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 7, 8)
 内容・方法: Practice test Units 7 & 8. Unit 7 & 8 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 9 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 9 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 10: welcome to my home.
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 10 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 10: welcome to my home.
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 10 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
 内容・方法: Practice test Units 9 & 10. Unit 9 & 10 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 11: Where did you go?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 11 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 11: Where did you go?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 11 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 12: Will I be famous?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 12 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 12: Will I be famous?

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 12 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 11, 12)

内容・方法 : Practice test Units 11 & 12. Unit 11 & 12 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 7

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 7. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 8 Vocabulary and read dialog 8. Practice dialog 7.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 8.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 7 & 8. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 7 & 8 for a test. Practice and memorize dialogs 7 & 8 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 9 Vocabulary and dialog 9.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 9.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 9. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 10 Vocabulary and dialog 10. Practice dialog 9.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 10.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 9 & 10. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 9 & 10 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 11 Vocabulary and dialog 11.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 11.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 11. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 12 Vocabulary and dialog 12. Practice dialog 11.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 12.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 11 & 12. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 11 & 12 for a test. Practice and memorize dialogs 11 & 12 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access.Student Book with MyMobileWorl。(5/E), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	---

参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	--

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	---

授業コード	20001003	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	英語Ⅱ (Basic Conversation) [対面]				
シラバス執筆(全員)	S. ハティング				
シラバス執筆(主)	S. ハティング				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

- 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
- 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
- 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation.
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 7 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 7: I love weekends!
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 7 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 8: Let's eat!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 8 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 8: Let's eat!
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 7 & 8 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 7, 8)
 内容・方法: Practice test Units 7 & 8. Unit 7 & 8 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 9 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 9 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 10: welcome to my home.
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 10 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 10: welcome to my home.
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 10 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
 内容・方法: Practice test Units 9 & 10. Unit 9 & 10 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 11: Where did you go?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 11 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 11: Where did you go?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 11 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 12: Will I be famous?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 12 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 12: Will I be famous?

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 12 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 11, 12)

内容・方法 : Practice test Units 11 & 12. Unit 11 & 12 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 7

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 7. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 8 Vocabulary and read dialog 8. Practice dialog 7.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 8.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 7 & 8. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 7 & 8 for a test. Practice and memorize dialogs 7 & 8 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 9 Vocabulary and dialog 9.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 9.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 9. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 10 Vocabulary and dialog 10. Practice dialog 9.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 10.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 9 & 10. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 9 & 10 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 11 Vocabulary and dialog 11.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 11.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 11. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 12 Vocabulary and dialog 12. Practice dialog 11.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 12.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 11 & 12. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 11 & 12 for a test. Practice and memorize dialogs 11 & 12 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点 以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access.Student Book with MyMobileWorl。(5/E), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	---

参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	--

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	---

授業コード	20001004	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	英語Ⅱ (Basic Conversation) [対面]				
シラバス執筆(全員)	J. スクーカス				
シラバス執筆(主)	J. スクーカス				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

- 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
- 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
- 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation.
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 7 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 7: I love weekends!
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 7 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 8: Let's eat!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 8 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 8: Let's eat!
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 7 & 8 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 7, 8)
 内容・方法: Practice test Units 7 & 8. Unit 7 & 8 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 9 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 9 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 10: welcome to my home.
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 10 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 10: welcome to my home.
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 10 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
 内容・方法: Practice test Units 9 & 10. Unit 9 & 10 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 11: Where did you go?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 11 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 11: Where did you go?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 11 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 12: Will I be famous?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 12 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 12: Will I be famous?

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 12 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 11, 12)

内容・方法 : Practice test Units 11 & 12. Unit 11 & 12 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 7

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 7. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 8 Vocabulary and read dialog 8. Practice dialog 7.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 8.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 7 & 8. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 7 & 8 for a test. Practice and memorize dialogs 7 & 8 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 9 Vocabulary and dialog 9.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 9.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 9. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 10 Vocabulary and dialog 10. Practice dialog 9.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 10.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 9 & 10. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 9 & 10 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 11 Vocabulary and dialog 11.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 11.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 11. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 12 Vocabulary and dialog 12. Practice dialog 11.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 12.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 11 & 12. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 11 & 12 for a test. Practice and memorize dialogs 11 & 12 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access.Student Book with MyMobileWorl。(5/E), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	---

参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	--

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	---

授業コード	20001005	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	英語Ⅱ (Basic Conversation) [対面]				
シラバス執筆(全員)	J.C. デン				
シラバス執筆(主)	J.C. デン				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

- 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
- 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
- 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation.
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 7 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 7: I love weekends!
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 7 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 8: Let's eat!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 8 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 8: Let's eat!
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 7 & 8 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 7, 8)
 内容・方法: Practice test Units 7 & 8. Unit 7 & 8 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 9 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 9 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 10: welcome to my home.
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 10 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 10: welcome to my home.
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 10 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
 内容・方法: Practice test Units 9 & 10. Unit 9 & 10 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 11: Where did you go?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 11 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 11: Where did you go?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 11 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 12: Will I be famous?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 12 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 12: Will I be famous?

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 12 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 11, 12)

内容・方法 : Practice test Units 11 & 12. Unit 11 & 12 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 7

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 7. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 8 Vocabulary and read dialog 8. Practice dialog 7.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 8.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 7 & 8. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 7 & 8 for a test. Practice and memorize dialogs 7 & 8 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 9 Vocabulary and dialog 9.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 9.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 9. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 10 Vocabulary and dialog 10. Practice dialog 9.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 10.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 9 & 10. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 9 & 10 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 11 Vocabulary and dialog 11.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 11.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 11. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 12 Vocabulary and dialog 12. Practice dialog 11.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 12.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 11 & 12. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 11 & 12 for a test. Practice and memorize dialogs 11 & 12 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld。 (5/E), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	--

参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	--

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	---

授業コード	20001006	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	英語Ⅱ (Basic Conversation) [対面]				
シラバス執筆(全員)	D. D. スコット				
シラバス執筆(主)	D. D. スコット				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

- 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
- 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
- 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation.
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 7 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 7: I love weekends!
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 7 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 8: Let's eat!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 8 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 8: Let's eat!
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 7 & 8 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 7, 8)
 内容・方法: Practice test Units 7 & 8. Unit 7 & 8 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 9 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 9 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 10: welcome to my home.
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 10 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 10: welcome to my home.
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 10 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
 内容・方法: Practice test Units 9 & 10. Unit 9 & 10 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 11: Where did you go?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 11 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 11: Where did you go?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 11 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 12: Will I be famous?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 12 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 12: Will I be famous?

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 12 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 11, 12)

内容・方法 : Practice test Units 11 & 12. Unit 11 & 12 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 7

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 7. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 8 Vocabulary and read dialog 8. Practice dialog 7.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 8.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 7 & 8. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 7 & 8 for a test. Practice and memorize dialogs 7 & 8 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 9 Vocabulary and dialog 9.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 9.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 9. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 10 Vocabulary and dialog 10. Practice dialog 9.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 10.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 9 & 10. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 9 & 10 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 11 Vocabulary and dialog 11.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 11.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 11. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 12 Vocabulary and dialog 12. Practice dialog 11.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 12.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 11 & 12. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 11 & 12 for a test. Practice and memorize dialogs 11 & 12 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld。 (5/E), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	--

参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	--

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	---

授業コード	20001007	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	英語Ⅱ (Basic Conversation) [対面]				
シラバス執筆(全員)	M.H. バナム				
シラバス執筆(主)	M.H. バナム				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

- 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
- 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
- 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation.
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 7 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 7: I love weekends!
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 7 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 8: Let's eat!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 8 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 8: Let's eat!
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 7 & 8 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 7, 8)
 内容・方法: Practice test Units 7 & 8. Unit 7 & 8 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 9 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 9 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 10: welcome to my home.
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 10 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 10: welcome to my home.
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 10 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
 内容・方法: Practice test Units 9 & 10. Unit 9 & 10 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 11: Where did you go?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 11 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 11: Where did you go?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 11 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 12: Will I be famous?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 12 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 12: Will I be famous?

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 12 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 11, 12)

内容・方法 : Practice test Units 11 & 12. Unit 11 & 12 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 7

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 7. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 8 Vocabulary and read dialog 8. Practice dialog 7.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 8.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 7 & 8. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 7 & 8 for a test. Practice and memorize dialogs 7 & 8 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 9 Vocabulary and dialog 9.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 9.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 9. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 10 Vocabulary and dialog 10. Practice dialog 9.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 10.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 9 & 10. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 9 & 10 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 11 Vocabulary and dialog 11.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 11.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 11. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 12 Vocabulary and dialog 12. Practice dialog 11.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 12.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 11 & 12. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 11 & 12 for a test. Practice and memorize dialogs 11 & 12 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld。 (5/E), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	--

参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	--

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	---

授業コード	20001008	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	英語Ⅱ (Basic Conversation) [対面]				
シラバス執筆(全員)	S. D. ラーダー				
シラバス執筆(主)	S. D. ラーダー				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

The aim of this course is to introduce you to the basics of English conversation. During each class, you will take part in conversations about different topics. Sometimes you will work in pairs or small groups, but other times you will work on your own or in a whole class activity. You are expected to actively participate in each activity. The textbook includes example conversations for different situations and will teach you useful phrases and important vocabulary. There will be regular quizzes and weekly homework assignments. You will need to do at least 1 hour per week of outside studies, such as class preparation and review. Google Classroom will be used for assignments and information about this course.

到達目標

At the end of the course, you will be able to:

- 1 develop the ability to converse about various everyday topics.
- 2 develop listening and speaking skills related to everyday conversation.
- 3 learn vocabulary essential for conversing about various everyday topics.

授業計画

【第1回】
 テーマ: Course orientation. Google Classroom orientation and explanation.
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 7 Dialog & pair work.

【第2回】
 テーマ: Unit 7: I love weekends!
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 7 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK Unit test.

【第3回】
 テーマ: Unit 8: Let's eat!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 8 Dialog & pair work.

【第4回】
 テーマ: Unit 8: Let's eat!
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 7 & 8 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test

【第5回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 7, 8)
 内容・方法: Practice test Units 7 & 8. Unit 7 & 8 Games

【第6回】
 テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 9 Dialog & pair work.

【第7回】
 テーマ: Unit 9: I really enjoy it!
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 9 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第8回】
 テーマ: Unit 10: welcome to my home.
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 10 Dialog & pair work.

【第9回】
 テーマ: Unit 10: welcome to my home.
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 10 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第10回】
 テーマ: Review & Dialog Performance Tests (Units 9, 10)
 内容・方法: Practice test Units 9 & 10. Unit 9 & 10 Games

【第11回】
 テーマ: Unit 11: Where did you go?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 11 Dialog & pair work.

【第12回】
 テーマ: Unit 11: Where did you go?
 内容・方法: Vocabulary review quiz. Unit 11 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第13回】
 テーマ: Unit 12: Will I be famous?
 内容・方法: Vocabulary building; Listening. Unit 12 Dialog & pair work.

【第14回】

テーマ : Unit 12: Will I be famous?

内容・方法 : Vocabulary review quiz. Unit 12 Dialog practice and memorization. Language Check (grammar). Group Work. Real stories (reading). HWK - Unit test.

【第15回】

テーマ : Review & Dialog Performance Tests (Units 11, 12)

内容・方法 : Practice test Units 11 & 12. Unit 11 & 12 Games. Explanation of final test.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

Note: Students are expected to spend approximately 30 minutes for preparation assignments before each class AND an additional 30 minutes for review assignments after each class.

【第1回】

①事前学修課題 : Buy a textbook.

②事後学修課題 : Buy a textbook. Do HWK assignments & Practice Dialog 7

【第2回】

①事前学修課題 : Study for vocabulary quiz. Check you did all your HWK. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 7. Do the unit test.

【第3回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 8 Vocabulary and read dialog 8. Practice dialog 7.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 8.

【第4回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 7 & 8. Do the unit test.

【第5回】

①事前学修課題 : Review Unit 7 & 8 for a test. Practice and memorize dialogs 7 & 8 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第6回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 9 Vocabulary and dialog 9.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 9.

【第7回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 9. Do the unit test.

【第8回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 10 Vocabulary and dialog 10. Practice dialog 9.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 10.

【第9回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 9 & 10. Do the unit test.

【第10回】

①事前学修課題 : Review Unit 3 & 4 for a test. Practice and memorize dialogs 9 & 10 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments.

【第11回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 11 Vocabulary and dialog 11.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 11.

【第12回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 11. Do the unit test.

【第13回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Read Unit 12 Vocabulary and dialog 12. Practice dialog 11.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialog 12.

【第14回】

①事前学修課題 : Check you did all your HWK. Study for vocabulary quiz. Read the Real Stories passage.

②事後学修課題 : Practice and memorize dialogs 11 & 12. Do the unit test.

【第15回】

①事前学修課題 : Review Unit 11 & 12 for a test. Practice and memorize dialogs 11 & 12 for a test.

②事後学修課題 : Do HWK assignments. Submit the final examination.

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.
4. The teacher will tell you your current grade at least three times during the semester. In addition, your grades may also be posted regularly on Google Classroom.

成績評価の方法・基準(方針)

「以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する」

General Grade Category Breakdown:

- 1) Participation and class activities (10%)
- 2) Dialog performance tests (30%)
- 2) Homework and unit tests (20%)
- 3) 3 Review tests (30%)
- 4) Final examination (10%)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Participation and class activities (10%), 3 unit review tests (30%) and dialog performance tests (30%)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Homework and unit tests (20%)	1, 2, 3
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	10	Final examination (10%)	1, 2, 3
その他	0	none	

テキスト	English Firsthand Access. Student Book with MyMobileWorld。 (5/E), Marc Helgesen, Steven Brown, John Wiltshier, Pearson Longman, ISBN: 978-9813132757
------	--

参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する
-----	--

履修条件・他の科目との関連	<p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>
---------------	---

授業コード	20002701	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	中国語 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	沈 恩明				
シラバス執筆(主)	沈 恩明				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

前期の授業において、初級程度の中国語の総合的な運用能力を身につけることを目的で、中国語の発音やピンイン表記（発音を表すもの）に関する基礎知識及び簡単な会話を学習します。特に「聴く」と「話す」能力の向上に重点を置いて学習します。本科目は、授業中のいろんな練習によって、日常の簡単なコミュニケーションにおける中国語を正確かつ自然に運用できる段階まで学習するもので、履修生が将来各自の専門領域やキャリアプランの中で中国語を活かすために、独学で中国語能力をさらに向上させる良い基盤になります。

到達目標

1. 中国語の発音を正確にできること
2. 中国語で自己紹介ができること
3. 基礎的な文法事項を習得すること

授業計画

- 【第1回】 中国語の基礎知識。
- 【第2回】 単母音と声調の学習。
- 【第3回】 子音と鼻母音
- 【第4回】 発音の規則、いろんな呼び方、日常の挨拶表現
- 【第5回】 人称代名詞、「是」と否定を表す「不」及び疑問を表す「吗」
- 【第6回】 指示代名詞、形容詞述語文、疑問詞「怎么样」、「的」
- 【第7回】 場所代名詞、動詞述語文、疑問詞疑問文、省略疑問文「呢」、時を表す言葉の使い方
- 【第8回】 第1課～第3課の復習
- 【第9回】 助動詞「想」、選択疑問文「还是」、副詞「也」、動詞の重ね型、語気助詞「吧」
- 【第10回】 数、量詞、反復疑問文、人民元の数え方
- 【第11回】 所有を表す「有」、所在を表す「在」、前置詞の「离」、方位詞
- 【第12回】 連動文（去+場所+動詞+目的語）、「什么」+名詞、完了の「了」の表現、疑問詞「怎么」
- 【第13回】 第4課～第7課の復習
- 【第14回】 前期のまとめと全体の復習
- 【第15回】 復習としての聞き取り、翻訳練習を行う

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
事前：教科書の「はじめに」を読む
事後：講義の内容を復習する
- 【第2回】
事前：教科書の単母音と声調のところを予習する。
事後：授業中学んだ内容を復習する
- 【第3回】
事前：教科書の子音と鼻母音のところを予習する。
事後：授業中学んだ内容を復習する
- 【第4回】
事前：それまで学んだ発音を復習し、また教科書にある発音の規則を予習する
事後：授業中の練習した内容を復習する
- 【第5回】
事前：第1課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
事後：授業中の学んだ内容の復習
- 【第6回】
事前：第2課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
事後：授業中の学んだ内容の復習
- 【第7回】
事前：第3課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
事後：授業中の学んだ内容の復習
- 【第8回】
事前：第1課から第3課までの文法のポイント及び本文の復習
事後：授業中の練習を復習する
- 【第9回】
事前：第4課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
事後：授業中の学んだ内容の復習
- 【第10回】
事前：第5課のポイントと本文の単語及びテキストの予習

事後：授業中の学んだ内容の復習
 【第11回】
 事前：第6課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
 事後：授業中の学んだ内容の復習
 【第12回】
 事前：第7課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
 事後：授業中の学んだ内容の復習
 【第13回】
 事前：第4課から第7課までの文法のポイント及び本文の復習
 事後：授業中の練習を復習する
 【第14回】
 事前：第1課から第7課までの各課の文法を復習
 事後：授業中のまとめた内容を復習する
 【第15回】
 事前：これまで学んだ内容の復習
 事後：授業中で行った練習内容を復習する

課題に対するフィードバックの方法

課題提出状況に基づいて、注意すべき点を伝える。

成績評価の方法・基準(方針)

定期試験、課題提出状況、受講態度で、総合的に評価します。
 正当な理由のない欠席5回以上、または課題を未提出の場合、評価の対象とせず、「K」の評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	受講態度(授業中の質問への応答状況、私語の状態を含めるきちんと受講しているか)	1, 2, 3
授業外での評価	30	Google Classに出した課題(計8回)	3
定期試験	50	定期試験を実施する。	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	1冊めの中国語一会話クラス 劉 穎、喜多山 幸子、松田 かのこ 白水社 2,300 978-4-560-06918-9
------	---

参考書	必要に応じて紹介する
-----	------------

履修条件・他の科目との関連	特にない
---------------	------

授業コード	20002801	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	中国語Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	沈 恩明				
シラバス執筆(主)	沈 恩明				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

後期の授業において、初級程度の中国語の総合的な運用能力を身につけることを目的とした本コースのうち、前期に引き続き、「聴く」と「話す」能力の向上及び日常的な会話能力の向上に重点を置いて学習する。本科目は、授業中のいろんな練習によって、日常の簡単なコミュニケーションにおける中国語を正確かつ自然に運用できる段階まで学習するもので、履修者が将来各自の専門領域やキャリアプランの中で中国語を活かすために、独学で中国語能力をさらに向上させる良い基盤になります。

到達目標

- この科目の後期到達目標は、学生が
- ① 後期では、より多くの単語と文法の習得
 - ② 簡単な中国語の文章を見る際に、読める及び意味が分かる。
 - ③ 簡単な会話を聞いて分かる。
 - ④ 後期では、よりコミュニケーションを取れる

授業計画

- 【第1回】 ガイダンス、会話の形で、前期の学んだ内容を復習する
- 【第2回】 変化を表す「了」、存在を表す「有」、前置詞の「在」
- 【第3回】 できることを表す「可以」、「会」、「能」、動詞の「喜欢」、前置詞の「给」
- 【第4回】 第8課～第9課の復習、関連する映像によって、いろんな場面における中国語の会話を学ぶ
- 【第5回】 時刻の言い方、経験を表す「过」、動作の回数を表す言い方、方向補語
- 【第6回】 主述述語文、「有点儿」、強調文、比較の表現
- 【第7回】 第10課～第11課の復習、関連する映像によって、いろんな場面における中国語の会話を学ぶ
- 【第8回】 結果補語、起点と終点を表す表現、二重目的語の表現
- 【第9回】 「是」の省略表現、使役文、番号の言い方
- 【第10回】 第12課～第13課の復習、関連する映像によって、いろんな場面における中国語の会話を学ぶ
- 【第11回】 様態補語、動作の進行表現
- 【第12回】 間近な将来を表す表現、主述構造の目的語、名詞を修飾する語、前置詞の「为」
- 【第13回】 第14課～第15課の復習、関連する映像によって、いろんな場面における中国語の会話を学ぶ
- 【第14回】 後期の学んだ単語及び各種の表現のまとめ、総合練習をする
- 【第15回】 復習としての聞き取り、翻訳練習を行う

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
事前：前期の文法を復習する
事後：当日授業に学んだ内容を復習する
- 【第2回】
事前：第8課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
事後：授業中の学んだ内容の復習
- 【第3回】
事前：第9課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
事後：授業中の学んだ内容の復習
- 【第4回】
事前：第8課と第9課の単語、文法をまとめて復習する
事後：当日の授業でした練習及び映像から学んだ内容の復習
- 【第5回】
事前：第10課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
事後：授業中の学んだ内容の復習
- 【第6回】
事前：第11課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
事後：授業中の学んだ内容の復習
- 【第7回】
事前：第10課と第11課の単語、文法をまとめて復習する
事後：当日の授業でした練習及び映像から学んだ内容の復習
- 【第8回】
事前：第12課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
事後：授業中の学んだ内容の復習
- 【第9回】
事前：第13課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
事後：授業中の学んだ内容の復習

【第10回】
 事前：第12課と第13課の単語、文法をまとめて復習する
 事後：当日の授業でした練習及び映像から学んだ内容の復習

【第11回】
 事前：第14課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
 事後：授業中の学んだ内容の復習

【第12回】
 事前：第15課のポイントと本文の単語及びテキストの予習
 事後：授業中の学んだ内容の復習

【第13回】
 事前：第14課と第15課の単語、文法をまとめて復習する
 事後：当日の授業でした練習及び映像から学んだ内容の復習

【第14回】
 事前：第8課から第15課の単語と文法をまとめて復習する
 事後：授業中のまとめた内容を復習する

【第15回】
 事前：これまで学んだ内容の復習
 事後：授業中で行った練習内容を復習する

課題に対するフィードバックの方法

課題を提出する期限の後、課題を授業中に解説する

成績評価の方法・基準(方針)

下に示したように、定期試験、課題、受講態度を三つの要素で、総合的に評価します。
 正当な理由のない欠席5回以上、または課題を未提出の場合、評価の対象とせず、「K」の評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	受講態度(授業中の質問への応答状況、私語の状態を含めるきちんと受講しているか)	3
授業外での評価	30	Google Classに出した課題(計8回)	4
定期試験	50	定期試験を実施する。	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	1冊めの中国語一会話クラス 劉 穎、喜多山 幸子、松田 かの子 白水社 2,300 978-4-560-06918-9
参考書	必要に応じて紹介する
履修条件・他の科目との関連	なるべく前期の履修したことがある

授業コード	20001301	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	韓国語 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	沈 玉均				
シラバス執筆(主)	沈 玉均				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

韓国語をはじめて学ぶ学生を対象とする科目であり、聞き・読み・書き・話す機能を基礎から総合的に養うことに主眼を置く。今期は、ハングル文字の母音と子音の成り立ちや仕組みから、自己紹介の表現などを学ぶことで、韓国語の基本的な骨格を身につけることを目指す。

到達目標

①韓国語の文字を覚え、②正しく発音できるようになること。また、③簡単な自己紹介ができるようになること。

授業計画

【第1回】
 テーマ：ガイドダンス
 内容・方法：基礎第1課 韓国語の特徴及び創製原理。

【第2回】
 テーマ：基礎第2課 出会いの挨拶と基本母音。
 内容・方法：文字と発音。

【第3回】
 テーマ：基礎第3課 別れの挨拶と基本子音。
 内容・方法：激音・濃音。

【第4回】
 テーマ：基礎第4課 感謝の表現と複合母音。
 内容・方法：文字と発音。

【第5回】
 テーマ：基礎第5課 謝罪の表現とパッチム。
 内容・方法：終音。

【第6回】
 テーマ：基礎第6課 発音の変化。
 内容・方法：有声音化・激音化・濃音化。

【第7回】
 テーマ：前半のまとめと小テスト。
 内容・方法：基礎第1課から6課までの復習。

【第8回】
 テーマ：第1課 私は浅井ゆかりです。
 内容・方法：簡単な自己紹介。

【第9回】
 テーマ：第2課 出身はソウルですか。
 内容・方法：～ですか。

【第10回】
 テーマ：第3課 図書館ではありません。
 内容・方法：否定文。

【第11回】
 テーマ：第4課 時間がありますか。
 内容・方法：あります/ありません。

【第12回】
 テーマ：第5課 何をしますか。
 内容・方法：します/しますか。

【第13回】
 テーマ：第6課 貿易会社で働いています。
 内容・方法：います/あります。

【第14回】
 テーマ：第7課 服を買います。
 内容・方法：動詞、形容詞。

【第15回】
 テーマ：後半のまとめと自己紹介。
 内容・方法：自分の紹介ができるように練習する。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

毎回の授業では、事前・事後学習として1時間から1時間半の学習が必要です。

【第1回】

事前学習課題：授業の概要と基礎第1課を読んでおくこと。0.5時間
 事後学習課題：復習でわからなかったところをよくおさらいしておくこと。0.5時間
 【第2回】
 事前学習課題：教科書基礎第2課を読んでおくこと。0.5時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
 【第3回】
 事前学習課題：教科書基礎第3課を読んでおくこと。0.5時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
 【第4回】
 事前学習課題：教科書基礎第4課を読んでおくこと。0.5時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
 【第5回】
 事前学習課題：教科書基礎第5課を読んでおくこと。0.5時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
 【第6回】
 事前学習課題：教科書基礎第6課を読んでおくこと。0.5時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
 【第7回】
 事前学習課題：教科書基礎第1課から6課までを読んでおくこと。0.5時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
 【第8回】
 事前学習課題：教科書本文第1課を読んでおくこと。0.5時間
 事後学習課題：わからなかったところをよくおさらいしておくこと。0.5時間
 【第9回】
 事前学習課題：教科書本文第2課を読んでおくこと。0.5時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
 【第10回】
 事前学習課題：教科書本文第3課を読んでおくこと。0.5時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
 【第11回】
 事前学習課題：教科書本文第4課を読んでおくこと。0.5時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
 【第12回】
 事前学習課題：教科書本文第5課を読んでおくこと。0.5時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
 【第13回】
 事前学習課題：教科書本文第6課を読んでおくこと。0.5時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
 【第14回】
 事前学習課題：教科書本文第7課を読んでおくこと。0.5時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間
 【第15回】
 事前学習課題：教科書本文第1課から第7課のインタビューテストの勉強をしておくこと。0.5時間
 事後学習課題：教科書本文第1課から第7課を読んでおくこと。0.5時間

課題に対するフィードバックの方法

授業中に実施した小テストを返却し、間違った箇所を確認して覚えなおす。

成績評価の方法・基準(方針)

授業への参加態度と小テスト(課題点)、インタビューテスト及び最終レポートの結果から総合的に評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	課題点	1, 2, 3
授業外での評価	20	レポート課題	1
定期試験	0	なし	なし
定期試験に代わるレポート等	30	最終レポート点	1, 2, 3
その他	0	なし	なし

テキスト 基礎から学ぶ「韓国語講座」初級[改訂版]/木内明 著/国書刊行会/978-4-336-05750-1

参考書 適宜、教員が紹介する。

履修条件・他の科目との関連 外国語の習得は毎回の授業の積み重ねが必須であることから、授業に積極的に参加すること。

授業コード	20001302	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	韓国語 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	金 文洙				
シラバス執筆(主)	金 文洙				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

韓国語を初めて学ぶ学生を対象にしたクラスです。このクラスの目標は、韓国語を読み、書き、聞き、話すための基礎的な運用能力を身につけることです。まずは韓国語の文字と発音の学習から始まり、基礎的な語彙と文法の学習へと進みます。口頭での反復練習を中心に、基礎的な会話を学んでいきます。よって、授業には主体的に積極的に参加することが求められます。

到達目標

1. 韓国語の文字を読み、書くことができる。
2. あいさつや自己紹介など簡単なコミュニケーションができるようになる。

授業計画

第1回	イントロダクション：「韓国語」とは
第2回	第1課：文字と発音(1) 単母音、初声・その1
第3回	第1課：文字と発音(1) 半母音[j]、終声・その1
第4回	第2課：文字と発音(2) 初声・その2、有声音化
第5回	第2課：文字と発音(2) 半母音[w]と二重母音、連音化
第6回	第3課：文字と発音(3) 初声・その3、初声・その4
第7回	第3課：文字と発音(3) 終声・その2、濃音化
第8回	ここまでのまとめと復習
第9回	第4課：「韓国人です」 その1
第10回	第4課：「韓国人です」 その2
第11回	第5課：「韓国語は専攻ではありません」 その1
第12回	第5課：「韓国語は専攻ではありません」 その2
第13回	第6課：「教室は階段の横にあります」 その1
第14回	第6課：「教室は階段の横にあります」 その2
第15回	前期学習内容のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

毎回の授業では、事前・事後学習として1時間から1時間半の学習が必要です。

第1回	イントロダクション：「韓国語」とは 予習内容：これから学ぼうとする言語について自分なりに調べて、イメージを持っておく。(45分) 復習内容：授業内容を復習しておく。(45分)
第2回	第1課：文字と発音(1) 単母音、初声・その1 予習内容：次回学習範囲の文字と発音について、音声を聞いて練習する。(45分) 復習内容：学習範囲の文字と発音を復習する。(45分)
第3回	第1課：文字と発音(1) 半母音[j]、終声・その1 予習内容：次回学習範囲の文字と発音について、音声を聞いて練習する。(45分) 復習内容：学習範囲の文字と発音を復習する。(45分)
第4回	第2課：文字と発音(2) 初声・その2、有声音化 予習内容：次回学習範囲の文字と発音について、音声を聞いて練習する。(45分) 復習内容：学習範囲の文字と発音を復習する。(45分)
第5回	第2課：文字と発音(2) 半母音[w]と二重母音、連音化 予習内容：次回学習範囲の文字と発音について、音声を聞いて練習する。(45分) 復習内容：学習範囲の文字と発音を復習する。(45分)
第6回	第3課：文字と発音(3) 初声・その3、初声・その4 予習内容：次回学習範囲の文字と発音について、音声を聞いて練習する。(45分) 復習内容：学習範囲の文字と発音を復習する。(45分)
第7回	第3課：文字と発音(3) 終声・その2、濃音化 予習内容：次回学習範囲の文字と発音について、音声を聞いて練習する。(45分) 復習内容：学習範囲の文字と発音を復習する。(45分)
第8回	ここまでのまとめと復習 予習内容：ここまでに学習した文字と発音について、復習しておく。(45分) 復習内容：学習範囲の文字と発音を復習する。(45分)
第9回	第4課：「韓国人です」 その1 予習内容：次回学習範囲の単語を調べる。(45分) 復習内容：学習範囲の文法事項を復習する。(45分)
第10回	第4課：「韓国人です」 その2

予習内容：次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
 復習内容：学習範囲の文法事項を復習する。(45分)
 第11回 第5課：「韓国語は専攻ではありません」 その1
 予習内容：次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
 復習内容：学習範囲の文法事項を復習する。(45分)
 第12回 第5課：「韓国語は専攻ではありません」 その2
 予習内容：次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
 復習内容：学習範囲の文法事項を復習する。(45分)
 第13回 第6課：「教室は階段の横にあります」 その1
 予習内容：次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
 復習内容：学習範囲の文法事項を復習する。(45分)
 第14回 第6課：「教室は階段の横にあります」 その2
 予習内容：次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
 復習内容：学習範囲の文法事項を復習する。(45分)
 第15回 前期学習内容のまとめ
 予習内容：前期の学習内容を復習しておく。(45分)
 復習内容：前期に学習した文法事項を復習する。(45分)

課題に対するフィードバックの方法

グーグルクラスルーム等により、小テストの要点と解説、課題への対応を行います。

成績評価の方法・基準(方針)

小テスト・授業への取り組み・最終レポートが一番の基準になります。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	小テスト+授業への取り組み・20+30	1, 2
授業外での評価	20	課題提出	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	期末レポート	1, 2
その他	0		

テキスト 『四訂版・韓国語の世界へ 入門編』(李 潤玉 ほか, 朝日出版社:2024) [ISBN]9784255557106

参考書 必要に応じ授業内で紹介します。

履修条件・他の科目との関連 外国語の授業なので毎回積極的に参加してください。

授業コード	20001401	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	韓国語Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	未定				
シラバス執筆(主)	未定				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

韓国語を初歩から学ぶ学生を対象とする科目であり、前期の韓国語Ⅰに続く内容である。聞き・読み・書き・話す力を総合的に養うことを主眼とする。今期は、家族や日常生活、好き嫌い、将来の目標などの表現やそれに関連する語彙を習得し、身の回りのことが一通り韓国語で述べられるようになることを目指す。

到達目標

様々な場面で使える表現を学ぶ中で、①コミュニケーション能力や②隣国への関心を高めること。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：ガイドンス。
内容・方法：韓国語の読み・書きの復習。
- 【第2回】
テーマ：第8課 スーパーでよく買います。
内容・方法：用言のヨ体 ～です/~ます。
- 【第3回】
テーマ：第9課 2万5千ウォンです。
内容・方法：漢数詞。
- 【第4回】
テーマ：第10課 今、何時ですか。
内容・方法：固有数詞。
- 【第5回】
テーマ：第11課 日本語を話されますか。
内容・方法：敬語。
- 【第6回】
テーマ：第12課 バスは行きません。
内容・方法：否定文。
- 【第7回】
テーマ：第13課 いつ韓国に来ましたか。
内容・方法：過去形。
- 【第8回】
テーマ：第14課 一緒にお昼を食べましょう。
内容・方法：勧誘の言葉。
- 【第9回】
テーマ：第15課 パーティーの準備をしています。
内容・方法：現在進行形。
- 【第10回】
テーマ：第16課 何も食べられませんでした。
内容・方法：可能/不可能表現。
- 【第11回】
テーマ：第17課 陶磁器が見たいです。
内容・方法：～したい。
- 【第12回】
テーマ：第18課 写真を撮ってもいいですか。
内容・方法：禁止の表現。
- 【第13回】
テーマ：第19課 帰国しなければいけません。
内容・方法：義務の表現。
- 【第14回】
テーマ：第20課 手紙を書きますよ。
内容・方法：意志・推量・未来。
- 【第15回】
テーマ：韓国語座談。
内容・方法：決めたテーマについて発表できるように練習する。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

毎回の授業では、事前・事後学習として1時間から1時間半の学習が必要です。

- 【第1回】
事前学習課題：授業の概要を読んでおくこと。0.5時間～1時間

事後学習課題：復習でわからなかったところをよくおさらいしておくこと。0.5時間～1時間
 【第2回】
 事前学習課題：教科書本文第8課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
 【第3回】
 事前学習課題：教科書本文第9課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
 【第4回】
 事前学習課題：教科書本文第10課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
 【第5回】
 事前学習課題：教科書本文第11課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
 【第6回】
 事前学習課題：教科書本文第12課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
 【第7回】
 事前学習課題：教科書本文第13課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
 【第8回】
 事前学習課題：教科書本文第14課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
 事後学習課題：わからなかったところをよくおさらいしておくこと。0.5時間～1時間
 【第9回】
 事前学習課題：教科書本文第15課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
 【第10回】
 事前学習課題：教科書本文第16課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
 【第11回】
 事前学習課題：教科書本文第17課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
 【第12回】
 事前学習課題：教科書本文第18課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
 【第13回】
 事前学習課題：教科書本文第19課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
 【第14回】
 事前学習課題：教科書本文第20課を読んでおくこと。0.5時間～1時間
 事後学習課題：教科書の該当箇所を再読して、授業内容を振り返ること。0.5時間～1時間
 【第15回】
 事前学習課題：教科書本文第8課から第20課のインタビューテストの準備をしておくこと。0.5時間～1時間
 事後学習課題：教科書本文第8課から第20課を読んでおくこと。0.5時間～1時間

課題に対するフィードバックの方法

授業中に実施した小テストを返却し、間違った箇所を確認して覚えなおす。

成績評価の方法・基準(方針)

授業への参加態度と小テスト(課題点)、インタビューテスト及び最終レポートの結果から総合的に評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	課題点	1, 2
授業外での評価	20	レポート課題	1, 2
定期試験	0	なし	なし
定期試験に代わるレポート等	30	最終レポート点	1, 2
その他	0	なし	なし

テキスト	基礎から学ぶ「韓国語講座」初級[改訂版]/木内明 著/国書刊行会/978-4-336-05750-1
参考書	適宜、教員が紹介する。
履修条件・他の科目との関連	外国語の習得は毎回の授業の積み重ねが必須であることから、授業に積極的に参加すること。

授業コード	20001402	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	韓国語Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	金 文洙				
シラバス執筆(主)	金 文洙				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

「韓国語Ⅰ」に引き続き、韓国語を読み、書き、聞き、話すための基礎的な運用能力をさらに伸ばしていくように指導します。基礎的な語彙や文法にさらに習熟し、さまざまな表現をくり返し練習することで、簡単な会話ができるようになることを目標としています。よって、授業には主体的、積極的に参加するようにしましょう。あわせて、授業外での練習や課題へも取り組んでください。

到達目標

1. 語彙力を増やしていきます。(500~600)
2. 初級レベルの文法をバランスよく学びます。
3. 受講者が初級段階のコミュニケーションができるようになることを目指します。

授業計画

第1回	前期学習内容の復習
第2回	第7課：「午後、時間大丈夫ですか」 その1
第3回	第7課：「午後、時間大丈夫ですか」 その2
第4回	第8課：「小学生にテコンドーを教えてください」 その1
第5回	第8課：「小学生にテコンドーを教えてください」 その2
第6回	第9課：「ふつう、6時に起きます」 その1
第7回	第9課：「ふつう、6時に起きます」 その2
第8回	ここまでのまとめと復習
第9回	第10課：「野球がとても好きです」 その1
第10回	第10課：「野球がとても好きです」 その2
第11回	第11課：「昼ごはん、食べなかったんですか」 その1
第12回	第11課：「昼ごはん、食べなかったんですか」 その2
第13回	第12課：「春休みには何をするつもりですか」 その1
第14回	第12課：「春休みには何をするつもりですか」 その2
第15回	後期学習内容のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

毎回の授業では、事前・事後学習として1時間から1時間半の学習が必要です。

第1回	前期学習内容の復習
予習内容	前期の学習内容を復習しておく。(45分)
復習内容	授業内容を復習しておく。(45分)
第2回	第7課：「午後、時間大丈夫ですか」 その1
予習内容	次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
復習内容	学習範囲の文法事項を復習する。(45分)
第3回	第7課：「午後、時間大丈夫ですか」 その2
予習内容	次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
復習内容	学習範囲の文法事項を復習する。(45分)
第4回	第8課：「小学生にテコンドーを教えてください」 その1
予習内容	次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
復習内容	学習範囲の文法事項を復習する。(45分)
第5回	第8課：「小学生にテコンドーを教えてください」 その2
予習内容	次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
復習内容	学習範囲の文法事項を復習する。(45分)
第6回	第9課：「ふつう、6時に起きます」 その1
予習内容	次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
復習内容	学習範囲の文法事項を復習する。(45分)
第7回	第9課：「ふつう、6時に起きます」 その2
予習内容	次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
復習内容	学習範囲の文法事項を復習する。(45分)
第8回	ここまでのまとめと復習
予習内容	ここまでに学習した内容を復習する。(45分)
復習内容	学習範囲の文法事項を復習する。(45分)
第9回	第10課：「野球がとても好きです」 その1
予習内容	次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
復習内容	学習範囲の文法事項を復習する。(45分)
第10回	第10課：「野球がとても好きです」 その2
予習内容	次回学習範囲の単語を調べる。(45分)

復習内容：学習範囲の文法事項を復習する。(45分)
 第11回 第11課：「昼ごはん、食べなかったんですか」 その1
 予習内容：次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
 復習内容：学習範囲の文法事項を復習する。(45分)
 第12回 第11課：「昼ごはん、食べなかったんですか」 その2
 予習内容：次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
 復習内容：学習範囲の文法事項を復習する。(45分)
 第13回 第12課：「春休みには何をするつもりですか」 その1
 予習内容：次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
 復習内容：学習範囲の文法事項を復習する。(45分)
 第14回 第12課：「春休みには何をするつもりですか」 その2
 予習内容：次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
 復習内容：学習範囲の文法事項を復習する。(45分)
 第15回 後期学習内容のまとめ
 予習内容：次回学習範囲の単語を調べる。(45分)
 復習内容：学習範囲の文法事項を復習する。(45分)

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については、グーグルクラスルーム等でフィードバックを行います。また小テストの要点と解説をUNIVERSAL PASSPORT等に掲載しますので参考にしてください。

成績評価の方法・基準(方針)

小テスト・授業への取り組み・最終レポートが一番の基準になります。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	小テスト+授業への取り組み・20+30	1, 2, 3
授業外での評価	20	課題提出	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	期末レポート	1, 2
その他	0		

テキスト 『三訂版・韓国語の世界へ 入門編』(李 潤玉 ほか,朝日出版社 : 2017)[ISBN]9784255556475

参考書 必要に応じ授業内で紹介します。

履修条件・他の科目との関連 外国語の授業なので積極的な参加が必要である。

授業コード	20000301	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	スタディアブロード I [対面]				
シラバス執筆(全員)	久木 久美子				
シラバス執筆(主)	久木 久美子				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スタディアブロードでは、海外での生活体験・学習体験・職業体験を通じた総合的学習、異文化理解やコミュニケーション能力の向上、日本社会や日本文化を捉えなおすことにより、グローバルマインドを持ちながら社会で活躍できる人材を育成することを目的としている。

研修メニューとして、

- ・語学研修としての海外チャレンジ研修（アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリスなど20か国地域）
 - ・フィールドワークやボランティアを行うグローバル短期研修（インドネシア、シンガポール、カンボジアなど）
 - ・ハワイ食文化研修（1単位）
 - ・海外異文化研修（韓国）（1単位）
- などがある。

到達目標

1. 研修を通して異文化の理解を深め、日本の社会や文化との違いが説明できる。
2. 日本語や外国語を使ってコミュニケーションができる。
3. 現地におけるプレゼンテーションやボランティア活動について準備し、実行することができる。
4. 海外で体験したことを、自分の言葉に換え、相手が理解しやすいよう表現することができる。（帰国後のレポート作成や帰国報告会での発表）

授業計画

【前期出発（8月・9月出発）】

- <5月中旬～下旬>説明会：研修内容の確認、申込書の作成、提出
- <6月中旬～7月上旬>オリエンテーション（生活、ホームステイ、危機管理など）
- <8月上旬>最終オリエンテーション（病気・怪我、渡航手続きなど）
- <8月中旬～9月中旬>各研修プログラムでのアクティビティ・ワークショップの実施
- <10月下旬>帰国後レポート及び日報の提出、帰国報告会での発表

【後期出発（2月・3月出発）】

- <10月中旬～下旬>説明会：研修内容の確認、申込書の作成、提出
- <11月中旬～2月上旬>オリエンテーション（生活、ホームステイ、危機管理など）
- <2月中旬>最終オリエンテーション（病気・怪我、渡航手続きなど）
- <2月下旬～3月下旬>各研修プログラムでのアクティビティ・ワークショップ実施
- <4月下旬>帰国後レポート及び日報の提出、帰国報告会での発表

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

【事前研修】

担当教員等より現地事情や現地活動の準備のための事前研修が行われるので、質問ができるよう書籍やインターネットを使い現地事情について事前に調べておく。また、研修会において学んだことはノートに書きとめ、さらに、現地での学びを深めるための学習を自ら行っておく。さらに、事前研修会において出された課題については、期限までに完成させ担当教員等のチェックを受ける。

【現地研修】

担当教員の指示に従い、現地活動記録としての日報を作成する。帰国後レポートを作成する。

【事後研修】

担当教員等の指示に従い、帰国報告会の発表準備と練習を行う。

課題に対するフィードバックの方法

事前研修における課題、現地活動中の日報、帰国後のレポート等の提出物については、コメントや講評を記して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、事前研修・現地研修・事後研修の成績評価を総合的に判定の上、60点以上を合格とし、単位を認定する。

但し、定期試験に代わる「帰国後レポート」が期限までに提出されなかった場合は評価不能「K」とする。

【事前研修】

- ・事前研修の積極的な取り組み姿勢（10%）

【現地研修】

- ・現地での活動の積極性や協力度（50%）

- ・現地での活動記録（日報）の内容（10%）
- 【事後研修】
- ・帰国後レポートの内容（定期試験に代わる課題）（20%）
- ・帰国報告会の発表における取り組み姿勢（10%）

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	帰国後レポートの内容について評価する(20)	1, 4
その他	80	事前研修の積極的な取り組み姿勢について評価する(10) 現地での活動の積極性や協力度について評価する(50) 現地での活動記録(日報)の内容について評価する(10) 帰国報告会の発表における取り組み姿勢について評価する(10)	1, 2, 3, 4

テキスト	なし
------	----

参考書	参考図書は、各研修ごとにオリエンテーション中に紹介する。
-----	------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・スタディアブロードⅠ、スタディアブロードⅡの「Ⅰ」、「Ⅱ」は参加回数を表す。初めて参加したプログラムで単位認定された場合はスタディアブロードⅠ、2回目はスタディアブロードⅡとなる。 ・スタディアブロードの説明会は、国際交流センターもしくは学科から掲示などにより案内があるので、履修希望者は注意すること。 ・スタディアブロードに参加する場合は、別途研修参加費用が必要となるので、説明会で研修内容、費用などを必ず確認すること。 ・スタディアブロードは国際交流センターまたは教学・教職センターが申し込み窓口となっているが、説明会にて必ず確認すること。 ・履修希望者は申し込みの後、スタディアブロード参加の許可に関する選考がある。 ・選考結果により奨学金を得ることが可能である。 ・事前研修の出席が不良の場合は現地での研修を許可しない場合がある。
---------------	--

授業コード	20000401	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	スタディアブロードⅡ [対面]				
シラバス執筆(全員)	久木 久美子				
シラバス執筆(主)	久木 久美子				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

スタディアブロードでは、海外での生活体験・学習体験・職業体験を通じた総合的学習、異文化理解やコミュニケーション能力の向上、日本社会や日本文化を捉えなおすことにより、グローバルマインドを持ちながら社会で活躍できる人材を育成することを目的としている。

研修メニューとして、

- ・語学研修としての海外チャレンジ研修（アメリカ、カナダ、オーストラリア、イギリスなど20か国地域）
 - ・フィールドワークやボランティアを行うグローバル短期研修（インドネシア、シンガポール、カンボジアなど）
 - ・ハワイ食文化研修（1単位）
 - ・海外異文化研修（韓国）（1単位）
- などがある。

到達目標

1. 研修を通して異文化の理解を深め、日本の社会や文化との違いが説明できる。
2. 日本語や外国語を使ってコミュニケーションができる。
3. 現地におけるプレゼンテーションやボランティア活動について準備し、実行することができる。
4. 海外で体験したことを、自分の言葉に換え、相手が理解しやすいよう表現することができる。（帰国後のレポート作成や帰国報告会での発表）

授業計画

【前期出発（8月・9月出発）】

- <5月中旬～下旬>説明会：研修内容の確認、申込書の作成、提出
- <6月中旬～7月上旬>オリエンテーション（生活、ホームステイ、危機管理など）
- <8月上旬>最終オリエンテーション（病気・怪我、渡航手続きなど）
- <8月中旬～9月中旬>各研修プログラムでのアクティビティ・ワークショップの実施
- <10月下旬>帰国後レポート及び日報の提出、帰国報告会での発表

【後期出発（2月・3月出発）】

- <10月中旬～下旬>説明会：研修内容の確認、申込書の作成、提出
- <11月中旬～2月上旬>オリエンテーション（生活、ホームステイ、危機管理など）
- <2月中旬>最終オリエンテーション（病気・怪我、渡航手続きなど）
- <2月下旬～3月下旬>各研修プログラムでのアクティビティ・ワークショップ実施
- <4月下旬>帰国後レポート及び日報の提出、帰国報告会での発表

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

【事前研修】

担当教員等より現地事情や現地活動の準備のための事前研修が行われるので、質問ができるよう書籍やインターネットを使い現地事情について事前に調べておく。また、研修会において学んだことはノートに書きとめ、さらに、現地での学びを深めるための学習を自ら行っておく。さらに、事前研修会において出された課題については、期限までに完成させ担当教員等のチェックを受ける。

【現地研修】

担当教員の指示に従い、現地活動記録としての日報を作成する。帰国後レポートを作成する。

【事後研修】

担当教員等の指示に従い、帰国報告会の発表準備と練習を行う。

課題に対するフィードバックの方法

事前研修における課題、現地活動中の日報、帰国後のレポート等の提出物については、コメントや講評を記して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、事前研修・現地研修・事後研修の成績評価を総合的に判定の上、60点以上を合格とし、単位を認定する。

但し、定期試験に代わる「帰国後レポート」が期限までに提出されなかった場合は評価不能「K」とする。

【事前研修】

- ・事前研修の積極的な取り組み姿勢（10%）

【現地研修】

- ・現地での活動の積極性や協力度（50%）

- ・現地での活動記録（日報）の内容（10%）
- 【事後研修】
- ・帰国後レポートの内容（定期試験に代わる課題）（20%）
- ・帰国報告会の発表における取り組み姿勢（10%）

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	帰国後レポートの内容について評価する(20)	1, 4
その他	80	事前研修の積極的な取り組み姿勢について評価する(10) 現地での活動の積極性や協力度について評価する(50) 現地での活動記録(日報)の内容について評価する(10) 帰国報告会の発表における取り組み姿勢について評価する(10)	1, 2, 3, 4

テキスト	なし
------	----

参考書	参考図書は、各研修ごとにオリエンテーション中に紹介する。
-----	------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・スタディアブロードⅠ、スタディアブロードⅡの「Ⅰ」、「Ⅱ」は参加回数を表す。初めて参加したプログラムで単位認定された場合はスタディアブロードⅠ、2回目はスタディアブロードⅡとなる。 ・スタディアブロードの説明会は、国際交流センターもしくは学科から掲示などにより案内があるので、履修希望者は注意すること。 ・スタディアブロードに参加する場合は、別途研修参加費用が必要となるので、説明会で研修内容、費用などを必ず確認すること。 ・スタディアブロードは国際交流センターまたは教学・教職センターが申し込み窓口となっているが、説明会にて必ず確認すること。 ・履修希望者は申し込みの後、スタディアブロード参加の許可に関する選考がある。 ・選考結果により奨学金を得ることが可能である。 ・事前研修の出席が不良の場合は現地での研修を許可しない場合がある。
---------------	--

授業コード	20000101	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	コンピュータ基礎演習 I (ワープロ) [対面]				
シラバス執筆(全員)	花木 泰子				
シラバス執筆(主)	花木 泰子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ビジネス社会においてはもちろん、大学の授業においても、情報を自由に加工し、制作物を作成して他者に発信することが必要になってきた。その際には、スマートフォンやタブレット端末ではなく、複数のウィンドウを同時に開いて作業をしたり、キーボードを使って効率的に文章を作成したりできるパソコンが必要となる。また、現在では、インターネットへの常時接続が可能となり、いつでも、どこでも、データや画面を共有できるようになり、授業や会議もオンラインで行われるようになってきた。

そこで、本授業では、まず、パソコン操作の基本、全ての授業で利用するツールの使い方について解説する。次に、代表的な文書作成ソフトであるWordの基礎について概説し、効率的な文字入力及びかな漢字変換、文章の校正、書式の設定ができるように指導する。続いて、図や表入りの文書の作成、ビジネス文書の作成、ビジュアルな文書の作成に必要な機能と操作方法を解説する。さらに、情報化社会において知っておくべき情報セキュリティや情報倫理について事例を交えて解説する。最後に、プレゼンテーションソフトを用いて簡単なプレゼンテーション資料(スライド)が作成できるように指導する。

授業の形態は、各機能の操作方法の解説及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. パソコンの基本操作ができる。
2. 電子メールの基本操作ができる。
3. eラーニングシステム (Google Classroom) の基本操作ができる。
4. Web会議ツール (Zoom) の基本操作ができる。
5. キーボードを見ずにタイピングができる。
6. 効率的なかな漢字変換ができる。
7. 図や表をバランスよく配置した文書の作成ができる。
8. ワードプロソフトに関する基本的用語の意味について説明できる。
9. ビジネス文書の構成について説明できる。
10. 簡単なビジネス文書の作成ができる。
11. IDとパスワードの重要性について説明できる。
12. ネット上のルールとマナーについて説明できる。
13. プレゼンテーションとは何かを説明できる。
14. 簡単なプレゼンテーション資料の作成ができる。

授業計画

- 第1回 パソコン利用ガイド1 (授業の進め方・受講ルール、Googleへのログイン、OIUメール、Google Classroom、Zoomの基本的な使い方)
- 第2回 パソコン利用ガイド2 (作成したデータの保存場所、Google Classroom、OIUメール、Zoomの高度な使い方、在学生ポータルサイトの紹介、タイピングの練習)
- 第3回 Wordの基本操作と文章の入力 (Wordの起動、日本語の入力、文章の入力と校正、タイピング練習等)
- 第4回 文書作成と書式 (文書の入力、文字書式、段落書式、書式のクリア、タイピング練習等)
- 第5回 ビジネス文書とページ書式 (ページ書式、ビジネス文書の基本形式、文書の印刷、タイピング練習等)
- 第6回 表作成 (表の構成、表の作成、表への文字入力、表の範囲選択、表の編集、タイピング練習等)
- 第7回 社外ビジネス文書 (社外ビジネス文書の基本形式、同窓会案内状の作成・編集、タイピング練習等)
- 第8回 図形描画・ビジュアルな文書の作成 (図形の挿入、図形の基本操作、ワードアート、オブジェクトの配置、タイピング練習等)
- 第9回 Wordの学習のまとめ (これまでの学習内容の整理、中間課題等)
- 第10回 情報セキュリティと情報倫理 (IDとパスワードの重要性、パスワードの変更、著作権、ネット上のルールとマナー)
- 第11回 プレゼンテーションとPowerPointの基礎 (プレゼンテーションとは、PowerPointとは、アウトラインの設計等)
- 第12回 プレゼンテーションの構成とスライドのデザイン (プレゼンテーションの構成、デザインのテーマ等)
- 第13回 表・図・画像の挿入 (表の利用、SmartArtの利用、画像の挿入、画像の編集等)
- 第14回 アニメーションの設定とスライドショーの実行 (アニメーションの設定・詳細、スライドショーの実行等)
- 第15回 PowerPointによる終了課題の作成 (終了課題のテーマ設定、終了課題の作成)

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- ・事前には、1~2回目はシラバスの内容を、3~8回目、11~14回目は各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと、9回目はそれまでに習ったWordの機能を復習しておくこと、10回目はあらかじめ提示された資料を読んで理解しておくこと、15回目は必要な画像等のデータを準備しておくこと。
- ・事後には、授業中に課題された課題を完成させておくこと。
- ・各回につき0.5時間以上の事前学習および0.5時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業内の課題については、机間巡視により理解度を把握し、間違いや優れた点の指摘、助言等を行う。
- ・定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	演習課題の達成度	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 14
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験	8, 9, 11, 12, 13
その他	0		

テキスト	コンピューターリテラシー Microsoft Office Word&PowerPoint編[改訂版]、花木泰子・浅里京子 著、オーム社、2,640円（本体2,400円＋税）、ISBN:978-4-274-22919-0
------	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none">・第1回目は全授業に関わる非常に重要な内容なので、必ず出席すること。・本科目履修後、「コンピュータ基礎演習Ⅱ(表計算基礎)」を履修することが望ましい。・欠席した場合、その回の教材(演習課題等)を指定されている場所(Google Classroomのトピックなど)よりダウンロードし、復習しておくこと。
---------------	--

授業コード	20000102	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	コンピュータ基礎演習 I (ワープロ) [対面]				
シラバス執筆(全員)	三宅 香代子				
シラバス執筆(主)	三宅 香代子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ビジネス社会においてはもちろん、大学の授業においても、情報を自由に加工し、制作物を作成して他者に発信することが必要になってきた。その際には、スマートフォンやタブレット端末ではなく、複数のウィンドウを同時に開いて作業をしたり、キーボードを使って効率的に文章を作成したりできるパソコンが必要となる。また、現在では、インターネットへの常時接続が可能となり、いつでも、どこでも、データや画面を共有できるようになり、授業や会議もオンラインで行われるようになってきた。

そこで、本授業では、まず、パソコン操作の基本、全ての授業で利用するツールの使い方について解説する。次に、代表的な文書作成ソフトであるWordの基礎について概説し、効率的な文字入力及びかな漢字変換、文章の校正、書式の設定ができるように指導する。続いて、図や表入りの文書の作成、ビジネス文書の作成、ビジュアルな文書の作成に必要な機能と操作方法を解説する。さらに、情報化社会において知っておくべき情報セキュリティや情報倫理について事例を交えて解説する。最後に、プレゼンテーションソフトを用いて簡単なプレゼンテーション資料(スライド)が作成できるように指導する。

授業の形態は、各機能の操作方法の解説及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. パソコンの基本操作ができる。
2. 電子メールの基本操作ができる。
3. eラーニングシステム (Google Classroom) の基本操作ができる。
4. Web会議ツール (Zoom) の基本操作ができる。
5. キーボードを見ずにタイピングができる。
6. 効率的なかな漢字変換ができる。
7. 図や表をバランスよく配置した文書の作成ができる。
8. ワードプロソフトに関する基本的用語の意味について説明できる。
9. ビジネス文書の構成について説明できる。
10. 簡単なビジネス文書の作成ができる。
11. IDとパスワードの重要性について説明できる。
12. ネット上のルールとマナーについて説明できる。
13. プレゼンテーションとは何かを説明できる。
14. 簡単なプレゼンテーション資料の作成ができる。

授業計画

- 第1回 パソコン利用ガイド1 (授業の進め方・受講ルール、Googleへのログイン、OIUメール、Google Classroom、Zoomの基本的な使い方)
- 第2回 パソコン利用ガイド2 (作成したデータの保存場所、Google Classroom、OIUメール、Zoomの高度な使い方、在学生ポータルサイトの紹介、タイピングの練習)
- 第3回 Wordの基本操作と文章の入力 (Wordの起動、日本語の入力、文章の入力と校正、タイピング練習等)
- 第4回 文書作成と書式 (文書の入力、文字書式、段落書式、書式のクリア、タイピング練習等)
- 第5回 ビジネス文書とページ書式 (ページ書式、ビジネス文書の基本形式、文書の印刷、タイピング練習等)
- 第6回 表作成 (表の構成、表の作成、表への文字入力、表の範囲選択、表の編集、タイピング練習等)
- 第7回 社外ビジネス文書 (社外ビジネス文書の基本形式、同窓会案内状の作成・編集、タイピング練習等)
- 第8回 図形描画・ビジュアルな文書の作成 (図形の挿入、図形の基本操作、ワードアート、オブジェクトの配置、タイピング練習等)
- 第9回 Wordの学習のまとめ (これまでの学習内容の整理、中間課題等)
- 第10回 情報セキュリティと情報倫理 (IDとパスワードの重要性、パスワードの変更、著作権、ネット上のルールとマナー)
- 第11回 プレゼンテーションとPowerPointの基礎 (プレゼンテーションとは、PowerPointとは、アウトラインの設計等)
- 第12回 プレゼンテーションの構成とスライドのデザイン (プレゼンテーションの構成、デザインのテーマ等)
- 第13回 表・図・画像の挿入 (表の利用、SmartArtの利用、画像の挿入、画像の編集等)
- 第14回 アニメーションの設定とスライドショーの実行 (アニメーションの設定・詳細、スライドショーの実行等)
- 第15回 PowerPointによる終了課題の作成 (終了課題のテーマ設定、終了課題の作成)

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- ・事前には、1~2回目はシラバスの内容を、3~8回目、11~14回目は各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと、9回目はそれまでに習ったWordの機能を復習しておくこと、10回目はあらかじめ提示された資料を読んで理解しておくこと、15回目は必要な画像等のデータを準備しておくこと。
- ・事後には、授業中に出题された課題を完成させておくこと。
- ・各回につき0.5時間以上の事前学習および0.5時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業内の課題については、机間巡視により理解度を把握し、間違いや優れた点の指摘、助言等を行う。
- ・定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	演習課題の達成度	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 14
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験	8, 9, 11, 12, 13
その他	0		

テキスト	コンピューターリテラシー Microsoft Office Word&PowerPoint編[改訂版]、花木泰子・浅里京子 著、オーム社、2,640円（本体2,400円＋税）、ISBN:978-4-274-22919-0
------	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none">・第1回目は全授業に関わる非常に重要な内容なので、必ず出席すること。・本科目履修後、「コンピュータ基礎演習Ⅱ(表計算基礎)」を履修することが望ましい。・欠席した場合、その回の教材(演習課題等)を指定されている場所(Google Classroomのトピックなど)よりダウンロードし、復習しておくこと。
---------------	--

授業コード	20000103	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	コンピュータ基礎演習 I (ワープロ) [対面]				
シラバス執筆(全員)	大島 淑恵				
シラバス執筆(主)	大島 淑恵				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ビジネス社会においてはもちろん、大学の授業においても、情報を自由に加工し、制作物を作成して他者に発信することが必要になってきた。その際には、スマートフォンやタブレット端末ではなく、複数のウィンドウを同時に開いて作業をしたり、キーボードを使って効率的に文章を作成したりできるパソコンが必要となる。また、現在では、インターネットへの常時接続が可能となり、いつでも、どこでも、データや画面を共有できるようになり、授業や会議もオンラインで行われるようになってきた。

そこで、本授業では、まず、パソコン操作の基本、全ての授業で利用するツールの使い方について解説する。次に、代表的な文書作成ソフトであるWordの基礎について概説し、効率的な文字入力及びかな漢字変換、文章の校正、書式の設定ができるように指導する。続いて、図や表入りの文書の作成、ビジネス文書の作成、ビジュアルな文書の作成に必要な機能と操作方法を解説する。さらに、情報化社会において知っておくべき情報セキュリティや情報倫理について事例を交えて解説する。最後に、プレゼンテーションソフトを用いて簡単なプレゼンテーション資料(スライド)が作成できるように指導する。

授業の形態は、各機能の操作方法の解説及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. パソコンの基本操作ができる。
2. 電子メールの基本操作ができる。
3. eラーニングシステム (Google Classroom) の基本操作ができる。
4. Web会議ツール (Zoom) の基本操作ができる。
5. キーボードを見ずにタイピングができる。
6. 効率的なかな漢字変換ができる。
7. 図や表をバランスよく配置した文書の作成ができる。
8. ワードプロソフトに関する基本的用語の意味について説明できる。
9. ビジネス文書の構成について説明できる。
10. 簡単なビジネス文書の作成ができる。
11. IDとパスワードの重要性について説明できる。
12. ネット上のルールとマナーについて説明できる。
13. プレゼンテーションとは何かを説明できる。
14. 簡単なプレゼンテーション資料の作成ができる。

授業計画

- 第1回 パソコン利用ガイド1 (授業の進め方・受講ルール、Googleへのログイン、OIUメール、Google Classroom、Zoomの基本的な使い方)
- 第2回 パソコン利用ガイド2 (作成したデータの保存場所、Google Classroom、OIUメール、Zoomの高度な使い方、在学生ポータルサイトの紹介、タイピングの練習)
- 第3回 Wordの基本操作と文章の入力 (Wordの起動、日本語の入力、文章の入力と校正、タイピング練習等)
- 第4回 文書作成と書式 (文書の入力、文字書式、段落書式、書式のクリア、タイピング練習等)
- 第5回 ビジネス文書とページ書式 (ページ書式、ビジネス文書の基本形式、文書の印刷、タイピング練習等)
- 第6回 表作成 (表の構成、表の作成、表への文字入力、表の範囲選択、表の編集、タイピング練習等)
- 第7回 社外ビジネス文書 (社外ビジネス文書の基本形式、同窓会案内状の作成・編集、タイピング練習等)
- 第8回 図形描画・ビジュアルな文書の作成 (図形の挿入、図形の基本操作、ワードアート、オブジェクトの配置、タイピング練習等)
- 第9回 Wordの学習のまとめ (これまでの学習内容の整理、中間課題等)
- 第10回 情報セキュリティと情報倫理 (IDとパスワードの重要性、パスワードの変更、著作権、ネット上のルールとマナー)
- 第11回 プレゼンテーションとPowerPointの基礎 (プレゼンテーションとは、PowerPointとは、アウトラインの設計等)
- 第12回 プレゼンテーションの構成とスライドのデザイン (プレゼンテーションの構成、デザインのテーマ等)
- 第13回 表・図・画像の挿入 (表の利用、SmartArtの利用、画像の挿入、画像の編集等)
- 第14回 アニメーションの設定とスライドショーの実行 (アニメーションの設定・詳細、スライドショーの実行等)
- 第15回 PowerPointによる終了課題の作成 (終了課題のテーマ設定、終了課題の作成)

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- ・事前には、1~2回目はシラバスの内容を、3~8回目、11~14回目は各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと、9回目はそれまでに習ったWordの機能を復習しておくこと、10回目はあらかじめ提示された資料を読んで理解しておくこと、15回目は必要な画像等のデータを準備しておくこと。
- ・事後には、授業中に出题された課題を完成させておくこと。
- ・各回につき0.5時間以上の事前学習および0.5時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業内の課題については、机間巡視により理解度を把握し、間違いや優れた点の指摘、助言等を行う。
- ・定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	演習課題の達成度	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 14
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験	8, 9, 11, 12, 13
その他	0		

テキスト	コンピューターリテラシー Microsoft Office Word&PowerPoint編[改訂版]、花木泰子・浅里京子 著、オーム社、2,640円（本体2,400円＋税）、ISBN:978-4-274-22919-0
------	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none">・第1回目は全授業に関わる非常に重要な内容なので、必ず出席すること。・本科目履修後、「コンピュータ基礎演習Ⅱ(表計算基礎)」を履修することが望ましい。・欠席した場合、その回の教材(演習課題等)を指定されている場所(Google Classroomのトピックなど)よりダウンロードし、復習しておくこと。
---------------	--

授業コード	20000104	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	コンピュータ基礎演習 I (ワープロ) [対面]				
シラバス執筆(全員)	野村 孝久				
シラバス執筆(主)	野村 孝久				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ビジネス社会においてはもちろん、大学の授業においても、情報を自由に加工し、制作物を作成して他者に発信することが必要になってきた。その際には、スマートフォンやタブレット端末ではなく、複数のウィンドウを同時に開いて作業をしたり、キーボードを使って効率的に文章を作成したりできるパソコンが必要となる。また、現在では、インターネットへの常時接続が可能となり、いつでも、どこでも、データや画面を共有できるようになり、授業や会議もオンラインで行われるようになってきた。

そこで、本授業では、まず、パソコン操作の基本、全ての授業で利用するツールの使い方について解説する。次に、代表的な文書作成ソフトであるWordの基礎について概説し、効率的な文字入力及びかな漢字変換、文章の校正、書式の設定ができるように指導する。続いて、図や表入りの文書の作成、ビジネス文書の作成、ビジュアルな文書の作成に必要な機能と操作方法を解説する。さらに、情報化社会において知っておくべき情報セキュリティや情報倫理について事例を交えて解説する。最後に、プレゼンテーションソフトを用いて簡単なプレゼンテーション資料(スライド)が作成できるように指導する。

授業の形態は、各機能の操作方法の解説及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. パソコンの基本操作ができる。
2. 電子メールの基本操作ができる。
3. eラーニングシステム (Google Classroom) の基本操作ができる。
4. Web会議ツール (Zoom) の基本操作ができる。
5. キーボードを見ずにタイピングができる。
6. 効率的なかな漢字変換ができる。
7. 図や表をバランスよく配置した文書の作成ができる。
8. ワードプロソフトに関する基本的用語の意味について説明できる。
9. ビジネス文書の構成について説明できる。
10. 簡単なビジネス文書の作成ができる。
11. IDとパスワードの重要性について説明できる。
12. ネット上のルールとマナーについて説明できる。
13. プレゼンテーションとは何かを説明できる。
14. 簡単なプレゼンテーション資料の作成ができる。

授業計画

- 第1回 パソコン利用ガイド1 (授業の進め方・受講ルール、Googleへのログイン、OIUメール、Google Classroom、Zoomの基本的な使い方)
- 第2回 パソコン利用ガイド2 (作成したデータの保存場所、Google Classroom、OIUメール、Zoomの高度な使い方、在学生ポータルサイトの紹介、タイピングの練習)
- 第3回 Wordの基本操作と文章の入力 (Wordの起動、日本語の入力、文章の入力と校正、タイピング練習等)
- 第4回 文書作成と書式 (文書の入力、文字書式、段落書式、書式のクリア、タイピング練習等)
- 第5回 ビジネス文書とページ書式 (ページ書式、ビジネス文書の基本形式、文書の印刷、タイピング練習等)
- 第6回 表作成 (表の構成、表の作成、表への文字入力、表の範囲選択、表の編集、タイピング練習等)
- 第7回 社外ビジネス文書 (社外ビジネス文書の基本形式、同窓会案内状の作成・編集、タイピング練習等)
- 第8回 図形描画・ビジュアルな文書の作成 (図形の挿入、図形の基本操作、ワードアート、オブジェクトの配置、タイピング練習等)
- 第9回 Wordの学習のまとめ (これまでの学習内容の整理、中間課題等)
- 第10回 情報セキュリティと情報倫理 (IDとパスワードの重要性、パスワードの変更、著作権、ネット上のルールとマナー)
- 第11回 プレゼンテーションとPowerPointの基礎 (プレゼンテーションとは、PowerPointとは、アウトラインの設計等)
- 第12回 プレゼンテーションの構成とスライドのデザイン (プレゼンテーションの構成、デザインのテーマ等)
- 第13回 表・図・画像の挿入 (表の利用、SmartArtの利用、画像の挿入、画像の編集等)
- 第14回 アニメーションの設定とスライドショーの実行 (アニメーションの設定・詳細、スライドショーの実行等)
- 第15回 PowerPointによる終了課題の作成 (終了課題のテーマ設定、終了課題の作成)

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- ・事前には、1~2回目はシラバスの内容を、3~8回目、11~14回目は各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと、9回目はそれまでに習ったWordの機能を復習しておくこと、10回目はあらかじめ提示された資料を読んで理解しておくこと、15回目は必要な画像等のデータを準備しておくこと。
- ・事後には、授業中に課題を出された課題を完成させておくこと。
- ・各回につき0.5時間以上の事前学習および0.5時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業内の課題については、机間巡視により理解度を把握し、間違いや優れた点の指摘、助言等を行う。
- ・定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	演習課題の達成度	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 14
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験	8, 9, 11, 12, 13
その他	0		

テキスト	コンピューターリテラシー Microsoft Office Word&PowerPoint編[改訂版]、花木泰子・浅里京子 著、オーム社、2,640円（本体2,400円＋税）、ISBN:978-4-274-22919-0
------	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none">・第1回目は全授業に関わる非常に重要な内容なので、必ず出席すること。・本科目履修後、「コンピュータ基礎演習Ⅱ(表計算基礎)」を履修することが望ましい。・欠席した場合、その回の教材(演習課題等)を指定されている場所(Google Classroomのトピックなど)よりダウンロードし、復習しておくこと。
---------------	--

授業コード	20000106	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	コンピュータ基礎演習 I (ワープロ) [対面]				
シラバス執筆(全員)	浅里 京子				
シラバス執筆(主)	浅里 京子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ビジネス社会においてはもちろん、大学の授業においても、情報を自由に加工し、制作物を作成して他者に発信することが必要になってきた。その際には、スマートフォンやタブレット端末ではなく、複数のウィンドウを同時に開いて作業をしたり、キーボードを使って効率的に文章を作成したりできるパソコンが必要となる。また、現在では、インターネットへの常時接続が可能となり、いつでも、どこでも、データや画面を共有できるようになり、授業や会議もオンラインで行われるようになってきた。

そこで、本授業では、まず、パソコン操作の基本、全ての授業で利用するツールの使い方について解説する。次に、代表的な文書作成ソフトであるWordの基礎について概説し、効率的な文字入力及びかな漢字変換、文章の校正、書式の設定ができるように指導する。続いて、図や表入りの文書の作成、ビジネス文書の作成、ビジュアルな文書の作成に必要な機能と操作方法を解説する。さらに、情報化社会において知っておくべき情報セキュリティや情報倫理について事例を交えて解説する。最後に、プレゼンテーションソフトを用いて簡単なプレゼンテーション資料(スライド)が作成できるように指導する。

授業の形態は、各機能の操作方法の解説及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. パソコンの基本操作ができる。
2. 電子メールの基本操作ができる。
3. eラーニングシステム (Google Classroom) の基本操作ができる。
4. Web会議ツール (Zoom) の基本操作ができる。
5. キーボードを見ずにタイピングができる。
6. 効率的なかな漢字変換ができる。
7. 図や表をバランスよく配置した文書の作成ができる。
8. ワードプロソフトに関する基本的用語の意味について説明できる。
9. ビジネス文書の構成について説明できる。
10. 簡単なビジネス文書の作成ができる。
11. IDとパスワードの重要性について説明できる。
12. ネット上のルールとマナーについて説明できる。
13. プレゼンテーションとは何かを説明できる。
14. 簡単なプレゼンテーション資料の作成ができる。

授業計画

- 第1回 パソコン利用ガイド1 (授業の進め方・受講ルール、Googleへのログイン、OIUメール、Google Classroom、Zoomの基本的な使い方)
- 第2回 パソコン利用ガイド2 (作成したデータの保存場所、Google Classroom、OIUメール、Zoomの高度な使い方、在学生ポータルサイトの紹介、タイピングの練習)
- 第3回 Wordの基本操作と文章の入力 (Wordの起動、日本語の入力、文章の入力と校正、タイピング練習等)
- 第4回 文書作成と書式 (文書の入力、文字書式、段落書式、書式のクリア、タイピング練習等)
- 第5回 ビジネス文書とページ書式 (ページ書式、ビジネス文書の基本形式、文書の印刷、タイピング練習等)
- 第6回 表作成 (表の構成、表の作成、表への文字入力、表の範囲選択、表の編集、タイピング練習等)
- 第7回 社外ビジネス文書 (社外ビジネス文書の基本形式、同窓会案内状の作成・編集、タイピング練習等)
- 第8回 図形描画・ビジュアルな文書の作成 (図形の挿入、図形の基本操作、ワードアート、オブジェクトの配置、タイピング練習等)
- 第9回 Wordの学習のまとめ (これまでの学習内容の整理、中間課題等)
- 第10回 情報セキュリティと情報倫理 (IDとパスワードの重要性、パスワードの変更、著作権、ネット上のルールとマナー)
- 第11回 プレゼンテーションとPowerPointの基礎 (プレゼンテーションとは、PowerPointとは、アウトラインの設計等)
- 第12回 プレゼンテーションの構成とスライドのデザイン (プレゼンテーションの構成、デザインのテーマ等)
- 第13回 表・図・画像の挿入 (表の利用、SmartArtの利用、画像の挿入、画像の編集等)
- 第14回 アニメーションの設定とスライドショーの実行 (アニメーションの設定・詳細、スライドショーの実行等)
- 第15回 PowerPointによる終了課題の作成 (終了課題のテーマ設定、終了課題の作成)

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- ・事前には、1~2回目はシラバスの内容を、3~8回目、11~14回目は各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと、9回目はそれまでに習ったWordの機能を復習しておくこと、10回目はあらかじめ提示された資料を読んで理解しておくこと、15回目は必要な画像等のデータを準備しておくこと。
- ・事後には、授業中に出题された課題を完成させておくこと。
- ・各回につき0.5時間以上の事前学習および0.5時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業内の課題については、机間巡視により理解度を把握し、間違いや優れた点の指摘、助言等を行う。
- ・定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	演習課題の達成度	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 10, 14
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験	8, 9, 11, 12, 13
その他	0		

テキスト	コンピューターリテラシー Microsoft Office Word&PowerPoint編[改訂版]、花木泰子・浅里京子 著、オーム社、2,640円（本体2,400円＋税）、ISBN:978-4-274-22919-0
------	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none">・第1回目は全授業に関わる非常に重要な内容なので、必ず出席すること。・本科目履修後、「コンピュータ基礎演習Ⅱ(表計算基礎)」を履修することが望ましい。・欠席した場合、その回の教材(演習課題等)を指定されている場所(Google Classroomのトピックなど)よりダウンロードし、復習しておくこと。
---------------	--

授業コード	20000201	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	コンピュータ基礎演習Ⅱ（表計算基礎） [対面]				
シラバス執筆(全員)	花木 泰子				
シラバス執筆(主)	花木 泰子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

情報化社会では、多くのオフィスにおいてパソコンが導入され、様々なデータ処理がなされている。そのような現場で、よく利用されているものに表計算ソフトウェアがある。この授業では、代表的な表計算ソフトウェアであるExcelを用いたデータ処理演習を行う。Excelにおける表形式データの作成と編集、四則演算や関数によるデータ処理、データの並べ替えや抽出、条件に応じた判断処理、表形式データのグラフ化などについて、それらの機能と操作方法を解説する。また、各種演習課題を与え、Excelを用いて具体的な事例に対して情報処理ができるよう指導する。

授業の形態は、講義及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. Excelを用いて表形式データの作成と編集を行うことができる。
2. Excelを用いて簡単な計算処理を行うことができる。
3. Excelを用いて判断処理を行うことができる。
4. Excelを用いてグラフ作成を行うことができる。
5. Excelを用いて印刷処理を行うことができる。
6. Excelの基本的な機能を理解し活用することができる。

授業計画

- 第1回 表計算の概要（授業の進め方・受講ルール、表計算処理の概要、Excelの画面構成等）
 第2回 データ入力と数式作成（データの入力・修正・削除、四則演算、オートフィル機能等）
 第3回 書式設定と行・列の操作（行・列の操作、罫線、フォント設定、配置制御、小数点制御等）
 第4回 基本的な関数（関数の概要、関数の入力、集計等を行う基本的関数等）
 第5回 相対参照と絶対参照（相対参照と絶対参照、絶対参照を含む数式のオートフィル等）
 第6回 複合演習（テキスト第1～5章に解説されている機能・関数を用いた複合的な演習等）
 第7回 基本的なグラフ作成（1）（グラフの概要、グラフの作成・変更、グラフの書式設定等）
 第8回 基本的なグラフ作成（2）（円グラフの作成・編集、グラフ作成演習等）
 第9回 並べ替えとデータ抽出（1）（データベース機能概要、並べ替え、フィルターによるデータ抽出等）
 第10回 並べ替えとデータ抽出（2）（複雑なデータ抽出、印刷の各種設定等）
 第11回 判断処理（二分岐処理、IF関数の文法、判断条件の書き方、様々な判断処理等）
 第12回 複数シートの利用（別シートのセル参照、シート間の集計等）
 第13回 総合応用演習（1）（テキスト第1～5章に解説されている機能・関数を用いた応用）
 第14回 総合応用演習（2）（テキスト第6～9章に解説されている機能・関数を用いた応用）
 第15回 学習のまとめ（これまでの学習内容の整理、最終課題等）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- ・事前には、各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと。
- ・事後には、学んだ例題・演習課題を一部改変した問題を自ら作成し、その解答を作成すること。
- ・各回につき0.5時間以上の事前学習および0.5時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・課題の演習時に机間巡視を行い、各学生の演習内容について、間違い及び優れた点の指摘と助言等を行う。
- ・定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	演習課題の達成度	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験	6

その他	0		
テキスト	コンピューターリテラシー Microsoft Office Excel編[改訂版]、多田憲孝・内藤富美子 著、オーム社、2,640円（本体2,400円＋税）、ISBN:978-4-274-22920-6		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	欠席した場合、その回の教材（演習課題等）を指定されている場所（Google Classroomのトピックなど）よりダウンロードし、復習しておくこと。		

授業コード	20000202	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	コンピュータ基礎演習Ⅱ（表計算基礎） [対面]				
シラバス執筆(全員)	内藤 富美子				
シラバス執筆(主)	内藤 富美子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

情報化社会では、多くのオフィスにおいてパソコンが導入され、様々なデータ処理がなされている。そのような現場で、よく利用されているものに表計算ソフトウェアがある。この授業では、代表的な表計算ソフトウェアであるExcelを用いたデータ処理演習を行う。Excelにおける表形式データの作成と編集、四則演算や関数によるデータ処理、データの並べ替えや抽出、条件に応じた判断処理、表形式データのグラフ化などについて、それらの機能と操作方法を解説する。また、各種演習課題を与え、Excelを用いて具体的な事例に対して情報処理ができるよう指導する。

授業の形態は、講義及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. Excelを用いて表形式データの作成と編集を行うことができる。
2. Excelを用いて簡単な計算処理を行うことができる。
3. Excelを用いて判断処理を行うことができる。
4. Excelを用いてグラフ作成を行うことができる。
5. Excelを用いて印刷処理を行うことができる。
6. Excelの基本的な機能を理解し活用することができる。

授業計画

- 第1回 表計算の概要（授業の進め方・受講ルール、表計算処理の概要、Excelの画面構成等）
 第2回 データ入力と数式作成（データの入力・修正・削除、四則演算、オートフィル機能等）
 第3回 書式設定と行・列の操作（行・列の操作、罫線、フォント設定、配置制御、小数点制御等）
 第4回 基本的な関数（関数の概要、関数の入力、集計等を行う基本的関数等）
 第5回 相対参照と絶対参照（相対参照と絶対参照、絶対参照を含む数式のオートフィル等）
 第6回 複合演習（テキスト第1～5章に解説されている機能・関数を用いた複合的な演習等）
 第7回 基本的なグラフ作成（1）（グラフの概要、グラフの作成・変更、グラフの書式設定等）
 第8回 基本的なグラフ作成（2）（円グラフの作成・編集、グラフ作成演習等）
 第9回 並べ替えとデータ抽出（1）（データベース機能概要、並べ替え、フィルターによるデータ抽出等）
 第10回 並べ替えとデータ抽出（2）（複雑なデータ抽出、印刷の各種設定等）
 第11回 判断処理（二分岐処理、IF関数の文法、判断条件の書き方、様々な判断処理等）
 第12回 複数シートの利用（別シートのセル参照、シート間の集計等）
 第13回 総合応用演習（1）（テキスト第1～5章に解説されている機能・関数を用いた応用）
 第14回 総合応用演習（2）（テキスト第6～9章に解説されている機能・関数を用いた応用）
 第15回 学習のまとめ（これまでの学習内容の整理、最終課題等）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- ・事前には、各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと。
- ・事後には、学んだ例題・演習課題を一部改変した問題を自ら作成し、その解答を作成すること。
- ・各回につき0.5時間以上の事前学習および0.5時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・課題の演習時に机間巡視を行い、各学生の演習内容について、間違い及び優れた点の指摘と助言等を行う。
- ・定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	演習課題の達成度	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験	6

その他	0		
テキスト	コンピューターリテラシー Microsoft Office Excel編[改訂版]、多田憲孝・内藤富美子 著、オーム社、2,640円（本体2,400円＋税）、ISBN:978-4-274-22920-6		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	欠席した場合、その回の教材（演習課題等）を指定されている場所（Google Classroomのトピックなど）よりダウンロードし、復習しておくこと。		

授業コード	20000203	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	コンピュータ基礎演習Ⅱ（表計算基礎） [対面]				
シラバス執筆(全員)	野村 孝久				
シラバス執筆(主)	野村 孝久				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

情報化社会では、多くのオフィスにおいてパソコンが導入され、様々なデータ処理がなされている。そのような現場で、よく利用されているものに表計算ソフトウェアがある。この授業では、代表的な表計算ソフトウェアであるExcelを用いたデータ処理演習を行う。Excelにおける表形式データの作成と編集、四則演算や関数によるデータ処理、データの並べ替えや抽出、条件に応じた判断処理、表形式データのグラフ化などについて、それらの機能と操作方法を解説する。また、各種演習課題を与え、Excelを用いて具体的な事例に対して情報処理ができるよう指導する。

授業の形態は、講義及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. Excelを用いて表形式データの作成と編集を行うことができる。
2. Excelを用いて簡単な計算処理を行うことができる。
3. Excelを用いて判断処理を行うことができる。
4. Excelを用いてグラフ作成を行うことができる。
5. Excelを用いて印刷処理を行うことができる。
6. Excelの基本的な機能を理解し活用することができる。

授業計画

- 第1回 表計算の概要（授業の進め方・受講ルール、表計算処理の概要、Excelの画面構成等）
 第2回 データ入力と数式作成（データの入力・修正・削除、四則演算、オートフィル機能等）
 第3回 書式設定と行・列の操作（行・列の操作、罫線、フォント設定、配置制御、小数点制御等）
 第4回 基本的な関数（関数の概要、関数の入力、集計等を行う基本的関数等）
 第5回 相対参照と絶対参照（相対参照と絶対参照、絶対参照を含む数式のオートフィル等）
 第6回 複合演習（テキスト第1～5章に解説されている機能・関数を用いた複合的な演習等）
 第7回 基本的なグラフ作成（1）（グラフの概要、グラフの作成・変更、グラフの書式設定等）
 第8回 基本的なグラフ作成（2）（円グラフの作成・編集、グラフ作成演習等）
 第9回 並べ替えとデータ抽出（1）（データベース機能概要、並べ替え、フィルターによるデータ抽出等）
 第10回 並べ替えとデータ抽出（2）（複雑なデータ抽出、印刷の各種設定等）
 第11回 判断処理（二分岐処理、IF関数の文法、判断条件の書き方、様々な判断処理等）
 第12回 複数シートの利用（別シートのセル参照、シート間の集計等）
 第13回 総合応用演習（1）（テキスト第1～5章に解説されている機能・関数を用いた応用）
 第14回 総合応用演習（2）（テキスト第6～9章に解説されている機能・関数を用いた応用）
 第15回 学習のまとめ（これまでの学習内容の整理、最終課題等）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- ・事前には、各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと。
- ・事後には、学んだ例題・演習課題を一部改変した問題を自ら作成し、その解答を作成すること。
- ・各回につき0.5時間以上の事前学習および0.5時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・課題の演習時に机間巡視を行い、各学生の演習内容について、間違い及び優れた点の指摘と助言等を行う。
- ・定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	演習課題の達成度	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験	6

その他	0		
テキスト	コンピューターリテラシー Microsoft Office Excel編[改訂版]、多田憲孝・内藤富美子 著、オーム社、2,640円（本体2,400円＋税）、ISBN:978-4-274-22920-6		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	欠席した場合、その回の教材（演習課題等）を指定されている場所（Google Classroomのトピックなど）よりダウンロードし、復習しておくこと。		

授業コード	20000204	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	コンピュータ基礎演習Ⅱ（表計算基礎） [対面]				
シラバス執筆(全員)	三宅 香代子				
シラバス執筆(主)	三宅 香代子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

情報化社会では、多くのオフィスにおいてパソコンが導入され、様々なデータ処理がなされている。そのような現場で、よく利用されているものに表計算ソフトウェアがある。この授業では、代表的な表計算ソフトウェアであるExcelを用いたデータ処理演習を行う。Excelにおける表形式データの作成と編集、四則演算や関数によるデータ処理、データの並べ替えや抽出、条件に応じた判断処理、表形式データのグラフ化などについて、それらの機能と操作方法を解説する。また、各種演習課題を与え、Excelを用いて具体的な事例に対して情報処理ができるよう指導する。

授業の形態は、講義及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. Excelを用いて表形式データの作成と編集を行うことができる。
2. Excelを用いて簡単な計算処理を行うことができる。
3. Excelを用いて判断処理を行うことができる。
4. Excelを用いてグラフ作成を行うことができる。
5. Excelを用いて印刷処理を行うことができる。
6. Excelの基本的な機能を理解し活用することができる。

授業計画

- 第1回 表計算の概要（授業の進め方・受講ルール、表計算処理の概要、Excelの画面構成等）
 第2回 データ入力と数式作成（データの入力・修正・削除、四則演算、オートフィル機能等）
 第3回 書式設定と行・列の操作（行・列の操作、罫線、フォント設定、配置制御、小数点制御等）
 第4回 基本的な関数（関数の概要、関数の入力、集計等を行う基本的関数等）
 第5回 相対参照と絶対参照（相対参照と絶対参照、絶対参照を含む数式のオートフィル等）
 第6回 複合演習（テキスト第1～5章に解説されている機能・関数を用いた複合的な演習等）
 第7回 基本的なグラフ作成（1）（グラフの概要、グラフの作成・変更、グラフの書式設定等）
 第8回 基本的なグラフ作成（2）（円グラフの作成・編集、グラフ作成演習等）
 第9回 並べ替えとデータ抽出（1）（データベース機能概要、並べ替え、フィルターによるデータ抽出等）
 第10回 並べ替えとデータ抽出（2）（複雑なデータ抽出、印刷の各種設定等）
 第11回 判断処理（二分岐処理、IF関数の文法、判断条件の書き方、様々な判断処理等）
 第12回 複数シートの利用（別シートのセル参照、シート間の集計等）
 第13回 総合応用演習（1）（テキスト第1～5章に解説されている機能・関数を用いた応用）
 第14回 総合応用演習（2）（テキスト第6～9章に解説されている機能・関数を用いた応用）
 第15回 学習のまとめ（これまでの学習内容の整理、最終課題等）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- ・事前には、各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと。
- ・事後には、学んだ例題・演習課題を一部改変した問題を自ら作成し、その解答を作成すること。
- ・各回につき0.5時間以上の事前学習および0.5時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・課題の演習時に机間巡視を行い、各学生の演習内容について、間違い及び優れた点の指摘と助言等を行う。
- ・定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	演習課題の達成度	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験	6

その他	0		
テキスト	コンピューターリテラシー Microsoft Office Excel編[改訂版]、多田憲孝・内藤富美子 著、オーム社、2,640円（本体2,400円＋税）、ISBN:978-4-274-22920-6		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	欠席した場合、その回の教材（演習課題等）を指定されている場所（Google Classroomのトピックなど）よりダウンロードし、復習しておくこと。		

授業コード	20000205	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	コンピュータ基礎演習Ⅱ（表計算基礎） [対面]				
シラバス執筆(全員)	大島 淑恵				
シラバス執筆(主)	大島 淑恵				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

情報化社会では、多くのオフィスにおいてパソコンが導入され、様々なデータ処理がなされている。そのような現場で、よく利用されているものに表計算ソフトウェアがある。この授業では、代表的な表計算ソフトウェアであるExcelを用いたデータ処理演習を行う。Excelにおける表形式データの作成と編集、四則演算や関数によるデータ処理、データの並べ替えや抽出、条件に応じた判断処理、表形式データのグラフ化などについて、それらの機能と操作方法を解説する。また、各種演習課題を与え、Excelを用いて具体的な事例に対して情報処理ができるよう指導する。

授業の形態は、講義及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. Excelを用いて表形式データの作成と編集を行うことができる。
2. Excelを用いて簡単な計算処理を行うことができる。
3. Excelを用いて判断処理を行うことができる。
4. Excelを用いてグラフ作成を行うことができる。
5. Excelを用いて印刷処理を行うことができる。
6. Excelの基本的な機能を理解し活用することができる。

授業計画

- 第1回 表計算の概要（授業の進め方・受講ルール、表計算処理の概要、Excelの画面構成等）
 第2回 データ入力と数式作成（データの入力・修正・削除、四則演算、オートフィル機能等）
 第3回 書式設定と行・列の操作（行・列の操作、罫線、フォント設定、配置制御、小数点制御等）
 第4回 基本的な関数（関数の概要、関数の入力、集計等を行う基本的関数等）
 第5回 相対参照と絶対参照（相対参照と絶対参照、絶対参照を含む数式のオートフィル等）
 第6回 複合演習（テキスト第1～5章に解説されている機能・関数を用いた複合的な演習等）
 第7回 基本的なグラフ作成（1）（グラフの概要、グラフの作成・変更、グラフの書式設定等）
 第8回 基本的なグラフ作成（2）（円グラフの作成・編集、グラフ作成演習等）
 第9回 並べ替えとデータ抽出（1）（データベース機能概要、並べ替え、フィルターによるデータ抽出等）
 第10回 並べ替えとデータ抽出（2）（複雑なデータ抽出、印刷の各種設定等）
 第11回 判断処理（二分岐処理、IF関数の文法、判断条件の書き方、様々な判断処理等）
 第12回 複数シートの利用（別シートのセル参照、シート間の集計等）
 第13回 総合応用演習（1）（テキスト第1～5章に解説されている機能・関数を用いた応用）
 第14回 総合応用演習（2）（テキスト第6～9章に解説されている機能・関数を用いた応用）
 第15回 学習のまとめ（これまでの学習内容の整理、最終課題等）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- ・事前には、各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと。
- ・事後には、学んだ例題・演習課題を一部改変した問題を自ら作成し、その解答を作成すること。
- ・各回につき0.5時間以上の事前学習および0.5時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・課題の演習時に机間巡視を行い、各学生の演習内容について、間違い及び優れた点の指摘と助言等を行う。
- ・定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	演習課題の達成度	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験	6

その他	0		
テキスト	コンピューターリテラシー Microsoft Office Excel編[改訂版]、多田憲孝・内藤富美子 著、オーム社、2,640円（本体2,400円＋税）、ISBN:978-4-274-22920-6		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	欠席した場合、その回の教材（演習課題等）を指定されている場所（Google Classroomのトピックなど）よりダウンロードし、復習しておくこと。		

授業コード	20000206	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	コンピュータ基礎演習Ⅱ（表計算基礎） [対面]				
シラバス執筆(全員)	新谷 廣一				
シラバス執筆(主)	新谷 廣一				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

情報化社会では、多くのオフィスにおいてパソコンが導入され、様々なデータ処理がなされている。そのような現場で、よく利用されているものに表計算ソフトウェアがある。この授業では、代表的な表計算ソフトウェアであるExcelを用いたデータ処理演習を行う。Excelにおける表形式データの作成と編集、四則演算や関数によるデータ処理、データの並べ替えや抽出、条件に応じた判断処理、表形式データのグラフ化などについて、それらの機能と操作方法を解説する。また、各種演習課題を与え、Excelを用いて具体的な事例に対して情報処理ができるよう指導する。

授業の形態は、講義及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. Excelを用いて表形式データの作成と編集を行うことができる。
2. Excelを用いて簡単な計算処理を行うことができる。
3. Excelを用いて判断処理を行うことができる。
4. Excelを用いてグラフ作成を行うことができる。
5. Excelを用いて印刷処理を行うことができる。
6. Excelの基本的な機能を理解し活用することができる。

授業計画

- 第1回 表計算の概要（授業の進め方・受講ルール、表計算処理の概要、Excelの画面構成等）
 第2回 データ入力と数式作成（データの入力・修正・削除、四則演算、オートフィル機能等）
 第3回 書式設定と行・列の操作（行・列の操作、罫線、フォント設定、配置制御、小数点制御等）
 第4回 基本的な関数（関数の概要、関数の入力、集計等を行う基本的関数等）
 第5回 相対参照と絶対参照（相対参照と絶対参照、絶対参照を含む数式のオートフィル等）
 第6回 複合演習（テキスト第1～5章に解説されている機能・関数を用いた複合的な演習等）
 第7回 基本的なグラフ作成（1）（グラフの概要、グラフの作成・変更、グラフの書式設定等）
 第8回 基本的なグラフ作成（2）（円グラフの作成・編集、グラフ作成演習等）
 第9回 並べ替えとデータ抽出（1）（データベース機能概要、並べ替え、フィルターによるデータ抽出等）
 第10回 並べ替えとデータ抽出（2）（複雑なデータ抽出、印刷の各種設定等）
 第11回 判断処理（二分岐処理、IF関数の文法、判断条件の書き方、様々な判断処理等）
 第12回 複数シートの利用（別シートのセル参照、シート間の集計等）
 第13回 総合応用演習（1）（テキスト第1～5章に解説されている機能・関数を用いた応用）
 第14回 総合応用演習（2）（テキスト第6～9章に解説されている機能・関数を用いた応用）
 第15回 学習のまとめ（これまでの学習内容の整理、最終課題等）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- ・事前には、各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと。
- ・事後には、学んだ例題・演習課題を一部改変した問題を自ら作成し、その解答を作成すること。
- ・各回につき0.5時間以上の事前学習および0.5時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・課題の演習時に机間巡視を行い、各学生の演習内容について、間違い及び優れた点の指摘と助言等を行う。
- ・定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	演習課題の達成度	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験	6

その他	0		
テキスト	コンピューターリテラシー Microsoft Office Excel編[改訂版]、多田憲孝・内藤富美子 著、オーム社、2,640円（本体2,400円＋税）、ISBN:978-4-274-22920-6		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	欠席した場合、その回の教材（演習課題等）を指定されている場所（Google Classroomのトピックなど）よりダウンロードし、復習しておくこと。		

授業コード	20001501	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	基礎演習 I (日本語表現) [対面]				
シラバス執筆(全員)	鎌倉 祥太郎				
シラバス執筆(主)	鎌倉 祥太郎				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

日本語の特色や構造を理解した上で、言葉による表現力を向上させ、社会に適応できる国語表現力を身につけることを目標とする。

日本語は「話し言葉」と「書き言葉」に大別できるが、「話し言葉」に関しては、日本人特有の表現や敬語の基本を体系づけて学習した後、社会生活を営む上で必要となる言葉づかいや接遇表現について場面を想定しながら学ぶ。また、社会で乱用されている誤用表現や敬語の誤用についてもシーン別に考え、応用して実際に表現できるようにすることを目指す。「書き言葉」に関しては、制限時間のもと制限字数(800字)の小論文が作成できるように、なおかつ、私文書作成もできることが目的である。

また、日本語の基礎的な能力を確認するために、毎時間、授業の最初に配付する「国語シート」に取り組み、翌週にはフィードバックして、さらに基礎を固める。

到達目標

1. 国語(漢字・熟語・慣用句)の基本を理解し、応用できる
2. 「話し言葉」と「書き言葉」について理解し、日本語の特色や構造が説明できる
3. 日本語特有の言葉遣いや「敬語」について習得し、実行できる
4. レポートや小論文のルールや作成方法が説明できる
5. 私文書や小論文が作成できる

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：オリエンテーション
 内容・方法：半年間の講義内容、国語力向上のための取り組み(国語シートについて)、授業に対する姿勢、成績算出方法などを説明する
- 【第2回】
 テーマ：日本語の特色と構造
 内容・方法：日本語の歴史を学び、日本語の特色や文章の特性について説明し、漢字シートNo. 1に取り組み
- 【第3回】
 テーマ：「書き言葉」と「話し言葉」
 内容・方法：「書き言葉」と「話し言葉」の相違点を説明し、漢字シートNo. 1のフィードバックをしてNo. 2に取り組み
- 【第4回】
 テーマ：「書き言葉」編：文章の種類と構成(三段・四段構成)の立て方
 内容・方法：文章の種類、三段構成と四段構成、構成の立て方について説明し、漢字シートNo. 2のフィードバックをしてNo. 3に取り組み
- 【第5回】
 テーマ：「書き言葉」編：文脈の乱れと文体の統一、文章表現の適切な修正方法
 内容・方法：文章を作成する際の「文体の統一」、また「文脈のねじれ」が生じないための留意点、文章表現の適切な修正方法を説明し、漢字シートNo. 3のフィードバックをしてNo. 4に取り組み
- 【第6回】
 テーマ：「書き言葉」編：要約文の作成方法と引用のルール
 内容・方法：要約文について解説を加え、実際に作成し、レポート作成の際の引用文の使い方を説明する。漢字シートNo. 4のフィードバックをしてNo. 5に取り組み
- 【第7回】
 テーマ：「書き言葉」編：レポート・小論文の作成方法
 内容・方法：前回までの作成方法をもとに、レポートや小論文の作成手順や留意点を説明し、漢字シートNo. 5のフィードバックをしてNo. 6に取り組み
- 【第8回】
 テーマ：「書き言葉」編：小論文(800字)作成の実践
 内容・方法：第4回から第7回までの文章作成の方法に留意しながら小論文(800字)を制限時間内に作成する
- 【第9回】
 テーマ：「話し言葉」編：接遇場面における言葉遣い、日本人特有の表現
 内容・方法：接遇表現や正しい言葉遣い、また、日本人特有の表現についても解説し、漢字シートNo. 6のフィードバックをしてNo. 7に取り組み
- 【第10回】
 テーマ：話し言葉編：敬語の基本と表現方法
 内容・方法：敬語の基本的な考え方を図式化して説明し、種類が理解できるように解説し、漢字シートNo. 7のフィードバックをしてNo. 8に取り組み
- 【第11回】
 テーマ：話し言葉編：敬語表現の種類
 内容・方法：尊敬語、謙譲語、丁寧語、美化語の用法について説明し、漢字シートNo. 8のフィードバックをしてNo. 9に取り組み
- 【第12回】

テーマ：話し言葉編：敬語の誤用表現（日常編）
内容・方法：日常生活において誤って用いられている敬語の表現について説明する。
漢字シートNo. 9のフィードバックをして、No. 10に取り組む。

【第13回】

テーマ：「話し言葉」編：敬語の誤用表現（ビジネス編）
内容・方法：ビジネス場面において誤って用いられている敬語の表現について説明し、漢字シートNo. 10のフィードバックをして敬語シートNo. 11に取り組む。

【第14回】

テーマ：小論文の振り返り、私文書（手紙文）の作成方法
内容・方法：小論文（800字）作成したものを各人に返却する。自分の間違っただ所を確認して、就職活動の際の小論文作成に役立つよう解説する。手紙文の書き方を指導する。
敬語シートNo. 11のフィードバックをする。

【第15回】

テーマ：接遇表現、敬語、漢字シートの振り返り
内容・方法：今までに学習した接遇表現や敬語表現、漢字シートの振り返りをして、より深く理解できるように解説する

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎時間、事前学習を1.5時間、事後学習を2.5時間確保すること。

【第1回】

- ①事前学習課題：本講義のシラバス内容を読んでおくこと
- ②事後学習課題：配布した国語シートに基本となる情報を書き込み、次回の授業で提出すること

【第2回】

- ①事前学習課題：テキストを購入して、「国語シート」に国語に関する基本情報を書き込むこと
- ②事後学習課題：漢字シートNo. 1で間違えた箇所を覚えなおし、復習すること

【第3回】

- ①事前学習課題：漢字シートNo. 1が完璧に出来るように復習すること
- ②事後学習課題：漢字シートNo. 2で間違えた箇所を確認して覚えなおし、復習すること

【第4回】

- ①事前学習課題：漢字シートNo. 2が完璧に出来るように復習すること
- ②事後学習課題：漢字シートNo. 3で間違えた箇所を確認して覚えなおし、復習すること

【第5回】

- ①事前学習課題：漢字シートNo. 3が完璧に出来るように復習すること
- ②事後学習課題：漢字シートNo. 4で間違えた箇所を確認して覚えなおし、復習すること

【第6回】

- ①事前学習課題：漢字シートNo. 4が完璧に出来るように復習すること
- ②事後学習課題：漢字シートNo. 5で間違えた箇所を確認して覚えなおし、復習すること

【第7回】

- ①事前学習課題：漢字シートNo. 5が完璧に出来るように復習すること
- ②事後学習課題：第4回から第7回までの作成手順を復習し、時間配分も確認すること

【第8回】

- ①事前学習課題：小論文作成の手順を再確認して、時間配分なども念頭に入れておくこと
- ②事後学習課題：漢字シートNo. 6で間違えた箇所を確認して覚えなおし、復習すること

【第9回】

- ①事前学習課題：漢字シートNo. 6が完璧に出来るように復習すること
- ②事後学習課題：漢字シートNo. 7で間違えた箇所を確認して覚えなおし、復習すること

【第10回】

- ①事前学習課題：漢字シートNo. 7が完璧に出来るように復習すること
- ②事後学習課題：漢字シートNo. 8で間違えた箇所を確認して覚えなおし、復習すること

【第11回】

- ①事前学習課題：漢字シートNo. 8が完璧に出来るように復習すること
- ②事後学習課題：漢字シートNo. 9で間違えた箇所を確認して覚えなおし、復習すること

【第12回】

- ①事前学習課題：漢字シートNo. 9が完璧に出来るように復習すること
- ②事後学習課題：漢字シートNo. 10で間違えた箇所を確認して覚えなおし、復習すること

【第13回】

- ①事前学習課題：漢字シートNo. 10が完璧に出来るように復習すること
- ②事後学習課題：敬語シートNo. 11で間違えた箇所を確認して覚えなおし、復習すること

【第14回】

- ①事前学習課題：敬語シートNo. 11が完璧に出来るように復習すること
- ②事後学習課題：漢字シートNo. 1～10、敬語シートや敬語表現を見直すこと

【第15回】

- ①事前学習課題：接遇表現や敬語表現、漢字シートや敬語シートを見直すこと
- ②事後学習課題：就職活動や就職試験の際に役立つ表現がたくさんあるため、配布プリントを見直すようにすること

課題に対するフィードバックの方法

課題として取り組んだ国語シートと同内容のシートを、翌週の授業で必ずフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

国語シート、私文書、小論文、振り返りテスト、定期筆記試験等から総合的に評価する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	国語シート	1, 2, 3
授業外での評価	30	レポート課題: 私文書、小論文	4, 5
定期試験	40	定期筆記試験	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『新版 日本語表現法(「書く」「話す」「伝える」ための技法)』/ 平田祐子共著 / (株)樹村房 / 1900+税 / ISBN 978-4-88367-221-9
参考書	保坂弘司著『レポート・小論文・卒論の書き方』講談社 その他、必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	毎時間、国語シートを配布するのでファイルを用意すること

授業コード	20001601	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	基礎演習Ⅱ（プレゼンテーション） [対面]				
シラバス執筆(全員)	朝野 美穂				
シラバス執筆(主)	朝野 美穂				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

情報化が進む社会において、ビジネスの現場では、情報を効果的に伝えるためにプレゼンテーションの機会が増えており、その能力が求められている。本講義では、プレゼンテーションとは何かを学び、「自分の考えを効果的に伝える」豊かな表現と効果的なプレゼンテーションを行うための知識や技術を身に付け、その意義を学ぶ。さらに、聞き手に内容を理解してもらうため、わかりやすい発表資料を作成するためのパワーポイントの操作技術を習得する。そして、各自でテーマを設定し、与えられた条件のもとで情報収集を行い実践的なプレゼンテーションの能力の向上を図る。実際にプレゼンテーションを行うことにより、実践的なプレゼンテーションスキルを習得する。

到達目標

1. プレゼンテーション・スキルの重要性について説明することができる。
2. パワーポイントの活用によりプレゼンテーション資料を作成することができる。
3. パワーポイントを用いて、プレゼンテーションをすることができる。

授業計画

【第1回】	オリエンテーション（授業の概要、進め方、評価の方法、到達目標について説明を行う）
【第2回】	プレゼンテーションとは何か、プレゼンテーションで重要なことについて説明する
【第3回】	プレゼンテーションの概要、プレゼンテーション能力の活用について説明する
【第4回】	プレゼンテーションのストーリーについて説明する
【第5回】	視覚資料の作成について説明する
【第6回】	演習：プレゼンテーション実習課題
【第7回】	パワーポイントの基本操作について説明する
【第8回】	プレゼンテーション資料を作成する
【第9回】	プレゼンテーション資料をブラッシュアップする
【第10回】	プレゼンテーション資料の視覚効果を高める
【第11回】	プレゼンテーション本番の準備をする、表現力を説明する
【第12回】	発表演習（1）：プレゼンテーションの実施、評価、改善、総評を実施する
【第13回】	発表演習（2）：プレゼンテーションの実施、評価、改善、総評を実施する
【第14回】	発表演習（3）：プレゼンテーションの実施、評価、改善、総評を実施する
【第15回】	学習のまとめ（これまでの学習内容の整理、最終課題等）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回に対応するテキストの内容を事前に熟読し概要を理解しておくこと。また、授業中に出された課題についてまとめ、提出する。

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題について、授業時に全般的な解説・講評を行う。最終発表の後、質疑応答を行い、スライドや発表に関する詳細をコメントする。定期試験に代わるレポートの結果については希望者に個別にフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく6回以上欠席した場合や最終発表を欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業期間中に実施される課題(20)、最終発表の内容(30)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験(30)	1
その他	20	グループワークでの貢献度(20)	1, 2, 3

テキスト	『30時間でマスター プレゼンテーション+PowerPoint2019(Windows10対応)』、実教出版企画開発部(編集)、実教出版、1,000円+税、ISBN:978-4-407-34839-2
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・「セミナーⅡa」「セミナーⅡb」「秘書実務総合演習」を履修予定の学生は、発表の基礎学習として履修することが望ましい。 ・欠席した場合は、その回の学習内容・課題等をGoogle Classroomで確認し、期日までに課題を提出すること。

授業コード	20002101	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	社会生活の基礎 [対面]				
シラバス執筆(全員)	加藤 淳一				
シラバス執筆(主)	加藤 淳一				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

私たちは家族として、生活者として、消費者として、労働者として、納税者として、地域住民として、有権者としてなど、私たちは様々な形で「社会」と関わりながら生活している。短大生という時期は、「学生」から、自立した「社会人」への移行期であり、社会に生きる一人としての準備を行う大切な期間である。そこで本講義では、税金、社会保障、介護・福祉、労働・雇用など、社会的自立に向けて必要な基本的知識を伝えるとともに、地域活動、政治参加など広義の社会生活にも視野を広げて講義し、学生一人ひとりが社会生活の様々な側面について理解を深め、自身が社会にどのように関わっていくか考える機会を提供する。

到達目標

1. 社会的自立に向けて必要な基本的知識を説明できる。
2. 幅広い社会生活のあり方とその意義について判断できる。
3. 社会に生きる一人としての自身のあり方について考えを深め応用できる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション：授業の概要や進め方、事前・事後学修の方法や成績評価方法などについて説明する。
- 【第2回】 「社会生活」とは何か？について概説する。
- 【第3回】 「家族」としての社会生活①：子育て・結婚に関するしくみについて概説する。
- 【第4回】 「家族」としての社会生活②：介護保険のしくみについて概説する。
- 【第5回】 「労働者」としての社会生活：様々な働き方、労働に関する基礎知識について概説する。
- 【第6回】 「納税者」としての社会生活：税金のしくみについて概説する。
- 【第7回】 「生活者」としての社会生活①：年金と健康保険のしくみについて概説する。
- 【第8回】 「生活者」としての社会生活②：住まいに関するのしくみについて概説する。
- 【第9回】 「消費者」としての社会生活①：お金と正しくつきあう方法について概説する。
- 【第10回】 「消費者」としての社会生活②：消費者としての選択について概説する。
- 【第11回】 「地域住民」としての社会生活：災害に備える方法について概説する。
- 【第12回】 「有権者」としての社会生活：選挙や政治に関するしくみについて概説する。
- 【第13回】 「情報社会に生きる者」としての社会生活：情報を読み解くリテラシーについて概説する。
- 【第14回】 「社会生活」についての振り返りを行う。
- 【第15回】 授業全体を通しての振り返りとまとめを行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

初回については事後学習2.5時間、第2回から第14回については事前学習各1時間、事後学習各2.5時間を要する（内容は初回講義で伝える）。この他、授業全体の振り返りやまとめ、および最終レポート作成として15時間程度の学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

全体に向け、課題やレポートに対しての振り返りとフィードバックを行うと共に、必要に応じて個人に対し、課題やレポートのコメントなどをClassroomやOIUメール、または直接口頭で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。なお、正当な理由なく、欠席の回数が授業回数の1/3を超える（6回以上欠席）の場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	45	授業内で取り組むワークシートへの記入状況や内容を評価(20) 全体を通してのまとめテスト(25)	1, 2, 3
授業外での評価	15	レポート課題や振り返りシートの記入・提出状況や内容を評価	1, 2, 3
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	20	授業で扱った基本的語句の説明、内容の理解、記述説明等における最終レポートの内容を評価	1, 2, 3
その他	20	授業に関する発言・質問、受講態度・マナーを評価	1, 2, 3
テキスト	テキストを使用しない。 必要に応じて、プリントを配布する。		
参考書	必要に応じて、授業の中で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	本授業では、小グループでの議論などを取り入れることがあるので、積極的に参加する姿勢を望む。 進行によっては、授業計画の順序や内容を変更することがある。 なお、欠席者に対しては、次回出席時に授業の前後で個別にてフォローを行なうと共に、配布物があった場合は、配布する。		

授業コード	20003501	授業形態	演習・実習	実務家教員	—
授業科目名	サービスラーニング [対面]				
シラバス執筆(全員)	加藤 淳一、横山 誠				
シラバス執筆(主)	加藤 淳一				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は、地域・社会貢献活動（ボランティア活動＝サービス）での経験と、関連した学習（ラーニング）を通して、視野を広げ、学びを深めることを目指す授業であり、事前研修・ボランティア活動・事後研修から構成される。事前研修では、ボランティアに関する基礎的理解や心構えの確認に加え、各自が参加する活動の背景や関連する問題について調べ、理解を深める。その後、各自で一定時間以上のボランティア活動を実施するとともに、日誌の記入や担当教員とのやり取り、中間振り返り会等を通じて学びや内省を深める。事後研修では、各々の活動の成果や学びを振り返り、活動報告を行う。

到達目標

1. ボランティアやサービスラーニングに関する基礎的事項について説明できる。
 2. 自分が行うボランティア活動の社会的背景や関連する問題について説明できる。
 3. ボランティア活動での学びを、その後どのように活かしていくか説明できる。
 4. 自分がどのように地域や社会に参加・貢献していきたいか説明できる。
- * そのほか、各自が設定した具体的な目標の達成に向けて、内省や自己評価をしながら自律的・主体的に活動を進めていくことが期待される。

授業計画

- 第1回 事前研修1（ガイダンス、自己紹介／関係づくり、ボランティア／サービスラーニングとは何か）
 第2回 事前研修2（活動の背景や関連する問題の調査）
 第3回 事前研修3（活動の背景や活動を通して学びたいことを発表する）
 第4回 事前研修4（ボランティア参加にあたっての心構え、手続きなど）
 第5回～第8回 ボランティア活動の実施（前半） * 活動日誌に記入しながら学びや内省を深める
 第9回 中間振り返り会
 第10回～第12回 ボランティア活動の実施（後半） * 活動日誌に記入しながら学びや内省を深める
 第13回 事後研修1（活動の振り返り）
 第14回 事後研修2（活動報告の準備）
 第15回 まとめと総括

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

ボランティア活動前は、事前研修の内容に沿って、活動に関する調査や予復習等の課題を課す（計16時間）。ボランティア活動中は、活動の準備や、活動日誌の記入を通じた振り返りに取り組む。ボランティア活動後は、活動報告の発表準備やまとめのレポートの作成を課す（計12時間）。

課題に対するフィードバックの方法

ボランティアの計画段階から実施中の報告、事後レポート等、対面指導やその他個別指導を中心に行います。事前学習、事後学習もレポートだけでなく、自らの言葉でしっかりと評価できるよう心がけて下さい。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	事前研修・事後研修等での課題や発表(20)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	50	ボランティア活動への取り組み状況(30)、活動日誌(20)	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	口頭試問(15)、総括レポート(15)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。適宜プリントや資料等を提示する。
参考書	授業内で適宜紹介する。

履修条件・他の科目との関連

- ・授業開始に先立ち、説明会を実施する(4月後半を予定)。履修希望者は必ず参加すること。実施方法(対面/遠隔)や日時・場所・参加方法等については、UNIPAの掲示等を確認すること。
- ・一定の責任感をもって参加することが求められる。活動はもちろん、事前研修・事後研修等においても、無断欠席をした場合や、受講態度が著しく不適切な場合は、単位を認めないことがある。
- ・学外での活動は、授業内で示す所定の手続きを行った場合のみ認定されるため、必ず事前の承認手続きが必要となる。
- ・質問や相談があれば、担当教員宛にメールで連絡するか、研究室に来室すること。
横山 誠(m-yoko@oiu.jp) 研究室:1号館523教室
加藤 淳一(j-kato@oiu.jp) 研究室:4号館517号室

授業コード	22039301	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a [対面]				
シラバス執筆(全員)	海老澤 薫				
シラバス執筆(主)	海老澤 薫				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

短期大学での学習は、高等学校までの受動的な学習から自らが課題を見つけ、課題を解決していく能動的な学習への移行に向けて必要なスタディスキル（学修のための技能）であるノートテイキング、文章の要約方法、レポートの書き方や新しい人間関係を形成するために必要なソーシャルスキル（社会生活を送るための技能）であるコミュニケーション力、表現力をグループワークによる栄養士に係る諸課題に取り組む演習を通して習得することを目指す。
さらに、就職・進学対策としてキャリアサポートセンターガイドツアー、一般常識対策試験などを実施する。
授業の形態は主に演習である。

到達目標

1. 短期大学部での学習に必要なとされるスタディスキルを習得し、専門教育での学習に活用することができる。
2. 短期大学部での学習に必要なとされるソーシャルスキルを習得し、好ましい人間関係を形成するために活用することができる。

授業計画

- 【第1回】短大・栄養学科の教育目的及び栄養学科の学習成果についての説明、学修ポートフォリオの説明、セミナー I aの運営説明、履修指導
- 【第2回】自己紹介に関するプレゼンテーションを実施する、就職試験対策①（SPI非言語分野）
- 【第3回】PROGテスト（社会人基礎力測定テスト「PROG」を受検する）
- 【第4回】GPAの説明（成績評価、栄養士免許）、個人面談を実施する
- 【第5回】栄養士校外実習履修のための条件についての説明、一般常識対策試験のためのラインズドリルの活用法についての説明
- 【第6回】PROGテスト（社会人基礎力測定テスト「PROG」の結果を解説する）
- 【第7回】一般常識対策試験（第1回基礎学力テストの受験）
- 【第8回】ライブラリーツアー（図書館の利用方法、図書の検索について演習する）
- 【第9回】就職試験対策②（SPI非言語分野）、個人面談を実施する
- 【第10回】就職試験対策③（SPI言語分野）
- 【第11回】地域共催イベント参加（7/6予定）
- 【第12回】キャリアサポートセンターガイドツアー（キャリアサポートセンターの役割、利用のしかたについて説明する）
- 【第13回】一般常識対策試験（第1回OIU/OICドリル確認テストの受験）
- 【第14回】就職試験対策④（SPI言語分野）
- 【第15回】前期セミナーの振り返り、各種連絡（定期試験、成績公開、後期授業などについて）（状況により授業内容が前後する可能性がある）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：セミナー終了時に予習すべき内容を伝えるので、予習を行い授業に臨むこと。
事後学習：セミナー内で実施した小テスト等は必ず復習を行うこと。
一般常識対策試験については、模擬試験をもとに事前学習を行い、本試験終了後はその結果の振り返りを行い、事後学習（復習）を行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

プレゼンテーションや課題については添削および講評を行い、フィードバックする。
小テストについては採点し解説する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
定期試験に代わるレポート等の課題が未提出の場合は、「K」評価とする。
正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価とする（例：欠席5回、遅刻1回となった場合「K」評価となる）

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	社会人基礎力を身につけるための取り組み①(プレゼンテーション)について完成度を評価する(20) 社会人基礎力を身につけるための取り組み②(SPI対策)について点数に応じて評価する(20)	1, 2

授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポートを課し、完成度に応じて評価する(10)	1, 2
その他	50	OIU/OICドリルの達成度について評価する(10) OIU/OICドリル確認テストの点数に応じて評価する(20) 基礎学力テストの点数に応じて評価する(20)	1, 2

テキスト	『栄養士・管理栄養士を目指す人の文章術ハンドブック』 西川真理子著 化学同人 ISBN 978-4759814774 本体価格1,800円(税別)		
------	---	--	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
-----	------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	卒業必修科目である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 後期にセミナー I bを履修すること。		
---------------	---	--	--

授業コード	22039302	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a [対面]				
シラバス執筆(全員)	笠間 基寛				
シラバス執筆(主)	笠間 基寛				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

短期大学での学習は、高等学校までの受動的な学習から自らが課題を見つけ、課題を解決していく能動的な学習への移行に向けて必要なスタディスキル（学修のための技能）であるノートテイキング、文章の要約方法、レポートの書き方や新しい人間関係を形成するために必要なソーシャルスキル（社会生活を送るための技能）であるコミュニケーション力、表現力をグループワークによる栄養士に係る諸課題に取り組む演習を通して習得することを目指す。
さらに、就職・進学対策としてキャリアサポートセンターガイドツアー、一般常識対策試験などを実施する。授業の形態は主に演習である。

到達目標

1. 短期大学部での学習に必要なとされるスタディスキルを習得し、専門教育での学習に活用することができる。
2. 短期大学部での学習に必要なとされるソーシャルスキルを習得し、好ましい人間関係を形成するために活用することができる。

授業計画

- 第1回 短大・栄養学科の教育目的及び栄養学科の学習成果についての説明、学修ポートフォリオの説明、セミナー I a の運営説明、履修指導
- 第2回 学生生活に必要な情報について (OIUメール、欠席の取り扱い、学年歴)
- 第3回 PROGテスト (社会人基礎力測定テスト「PROG」を受検する)
- 第4回 GPAの説明 (成績評価、栄養士免許) 面談週
- 第5回 栄養士校外実習履修のための条件についての説明、一般常識対策試験のためのラインズドリルの活用法についての説明
- 第6回 PROGテスト (社会人基礎力測定テスト「PROG」の結果を解説する)
- 第7回 一般常識対策試験 (第1回基礎学力テストの受験)
- 第8回 ライブラリツアー (図書館の利用方法、図書の検索について演習する)
- 第9回 食材の重量感覚を身に付ける① (目ばかりを行う)、面談週
- 第10回 一般常識対策試験勉強 (一般常識について学習する)
- 第11回 地域共催イベント参加 (7/6予定)
- 第12回 キャリアサポートセンターガイドツアー (キャリアサポートセンターの役割、利用のしかたについて説明する)
- 第13回 一般常識対策試験 (第1回OIU/OICドリル確認テストの受験)
- 第14回 食材の重量感覚を身に付ける② (目ばかりを行う)
- 第15回 前期セミナーの振り返り、各種連絡 (定期試験、成績公開、後期授業などについて) (状況により授業内容が前後する場合がある)

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：セミナー終了時に予習すべき内容を伝える。
事後学習：セミナー内での課題が時間内に終わらないときは、提出日までに仕上げておくこと。
一般常識対策試験については、模擬試験をもとに事前学習を行い、本試験終了後はその結果の振り返りを行い、事後学習（復習）を行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
定期試験に代わるレポート等の課題が未提出の場合は、「K」評価とする。
正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価とする（例：欠席5回、遅刻1回となった場合「K」評価となる）

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	一般常識対策試験の結果1回(10) 一般常識対策模擬試験の結果1回(10) 栄養士に必要な知識を修得するための取り組みを評価(10)	1, 2

授業外での評価	20	地域共催イベント参加レポートの評価(10) 事前事後学習の取り組みを評価(10)	1
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	全授業終了後に実施するレポート課題(20)	1
その他	30	セミナーへの取り組み姿勢を評価(30)	2

テキスト	栄養士・管理栄養士を目指す人の文章術ハンドブック 西川真理子著 化学同人 本体1800円 978-4759814774		
------	--	--	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
-----	------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	卒業必修科目である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 後期にセミナー I bを履修すること。		
---------------	---	--	--

授業コード	22039303	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a [対面]				
シラバス執筆(全員)	坂井 孝				
シラバス執筆(主)	坂井 孝				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

短期大学での学習は、高等学校までの受動的な学習から自らが課題を見つけ、課題を解決していく能動的な学習への移行に向けて必要なスタディスキル（学修のための技能）であるノートテイキング、文章の要約方法、レポートの書き方や新しい人間関係を形成するために必要なソーシャルスキル（社会生活を送るための技能）であるコミュニケーション力、表現力をグループワークによる栄養士に係る諸課題に取り組む演習を通して習得することを目指す。
さらに、就職・進学対策としてキャリアサポートセンターガイドツアー、一般常識対策試験などを実施する。
授業の形態は主に演習である。

到達目標

1. 短期大学部での学習に必要なとされるスタディスキルを習得し、専門教育での学習に活用することができる。
2. 短期大学部での学習に必要なとされるソーシャルスキルを習得し、好ましい人間関係を形成するために活用することができる。

授業計画

- 第1回 短大・栄養学科の教育目的及び栄養学科の学習成果についての説明、学修ポートフォリオの説明、セミナー I aの運営説明、履修指導
- 第2回 友達作りをしよう（個人ワーク、ペアワーク）、短大生活の目標を設定する
- 第3回 PROGテスト（社会人基礎力測定テスト「PROG」を受検する）
- 第4回 GPAの説明（成績評価、栄養士免許）
- 第5回 栄養士校外実習履修のための条件についての説明、一般常識対策試験のためのラインズドリルの活用法についての説明
- 第6回 PROGテスト（社会人基礎力測定テスト「PROG」の結果を解説する）
- 第7回 一般常識対策試験（第1回基礎学力テストの受験）
- 第8回 ライブラリツアー（図書館の利用方法、図書の検索について演習する）
- 第9回 自分の興味・関心のあることを見つけよう（テーマを設定しよう）
- 第10回 自分の興味・関心のあることを見つけよう（インターネットや図書館資料を活用して、まとめる）
- 第11回 地域共催イベント参加
- 第12回 キャリアサポートセンターガイドツアー（キャリアサポートセンターの役割、利用のしかたについて説明する）
- 第13回 一般常識対策試験（第1回OIU/OICドリル確認テストの受験）
- 第14回 自分の興味・関心のあることを発表しよう（パワーポイントを使って発表する）
- 第15回 前期セミナーの振り返り、各種連絡（定期試験、成績公開、後期授業などについて）
（状況により授業内容が前後する可能性がある）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業外において積極的に図書館やキャリアサポートセンターを活用すること。
一般常識対策試験の前には、各自試験範囲について学習をすること。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については、コメントを付記し返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
定期試験に代わるレポート等の課題が未提出の場合は、「K」評価とする。
正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価とする（例：欠席5回、遅刻1回となった場合「K」評価となる）

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	一般常識対策試験の結果(10) 第1回OIU/OICドリル確認テスト(10) 発表内容(50)	1, 2
授業外での評価	20	地域共催イベント参加レポートの評価(20)	1

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	振り返り課題レポートの内容を評価(10)	1, 2
その他	0		

テキスト	栄養士・管理栄養士を目指す人の文章術ハンドブック 西川真理子著 化学同人 本体1800円 +税 978-4759814774		
------	---	--	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
-----	------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	<p>「卒業必修科目」である。</p> <p>進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。</p> <p>後期にセミナー I bを履修すること。</p> <p>欠席した授業回については、classroomを確認して自主学習をすること。</p>		
---------------	---	--	--

授業コード	22039304	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a [対面]				
シラバス執筆(全員)	土井 玲奈				
シラバス執筆(主)	土井 玲奈				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

短期大学での学習は、高等学校までの受動的な学習から自らが課題を見つけ、課題を解決していく能動的な学習への移行に向けて必要なスタディスキル（学修のための技能）であるノートテイキング、文章の要約方法、レポートの書き方や新しい人間関係を形成するために必要なソーシャルスキル（社会生活を送るための技能）であるコミュニケーション力、表現力をグループワークによる栄養士に係る諸課題に取り組む演習を通して習得することを目指す。
さらに、就職・進学対策としてキャリアサポートセンターガイドツアー、一般常識対策試験などを実施する。授業の形態は主に演習である。

到達目標

1. 短期大学部での学習に必要とされるスタディスキルを習得し、専門教育での学習に活用することができる。
2. 短期大学部での学習に必要とされるソーシャルスキルを習得し、好ましい人間関係を形成するために活用することができる。

授業計画

- 第1回 短大・栄養学科の教育目的及び栄養学科の学習成果についての説明、学修ポートフォリオの説明、セミナー I aの運営説明、履修指導
- 第2回 短期大学の目標を設定しよう（個人ワーク）、個人面談
- 第3回 PROGテスト（社会人基礎力測定テスト「PROG」を受検する）
- 第4回 GPAの説明（成績評価、栄養士免許）
- 第5回 栄養士校外実習履修のための条件についての説明、一般常識対策試験のためのラインズドリルの活用法についての説明
- 第6回 PROGテスト（社会人基礎力測定テスト「PROG」の結果を解説する）
- 第7回 一般常識対策試験（第1回基礎学力テストの受験）
- 第8回 ライブラリツアー（図書館の利用方法、図書の検索について演習する）
- 第9回 レポート作成（図書・インターネットを使用して正しい情報収集の方法を学ぶ）、個人面談
- 第10回 レポート作成（レポートのまとめ方について学ぶ）
- 第11回 地域共催イベント参加
- 第12回 キャリアサポートセンターガイドツアー（キャリアサポートセンターの役割、利用のしかたについて説明する）
- 第13回 一般常識対策試験（第1回OIU/OICドリル確認テストの受験）
- 第14回 課題レポートの作成（収集した資料に基づき作成し、提出する。）
- 第15回 前期セミナーの振り返り、各種連絡（定期試験、成績公開、後期授業などについて）

（状況により授業内容が前後する場合がある）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業外において積極的に図書館やキャリアサポートセンターを活用すること。
一般常識対策試験の前には、各自試験範囲について学習をすること。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については、コメントを付記し返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
定期試験に代わるレポート等の課題が未提出の場合は、「K」評価とする。
正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価とする（例：欠席5回、遅刻1回となった場合「K」評価となる）

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	一般常識対策試験の結果(10) 第1回OIU/OICドリル確認テスト(10)	1, 2
授業外での評価	20	地域共催イベント参加レポートの評価(20)	1

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	課題レポートの内容を評価(40)	1, 2
その他	20	セミナーでの積極的な発言(10)、他人とのコミュニケーションをとる姿勢(10)	2

テキスト	栄養士・管理栄養士を目指す人の文章術ハンドブック 西川真理子著 化学同人 本体1800円 +税 978-4759814774		
------	---	--	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
-----	------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	「卒業必修科目」である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 後期にセミナー I bを履修すること。		
---------------	---	--	--

授業コード	22039401	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b [対面]				
シラバス執筆(全員)	海老澤 薫				
シラバス執筆(主)	海老澤 薫				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

栄養学科の学生として、学生生活を有意義かつ積極的に送るために、セミナー I aに引き続き、スタディスキルおよびソーシャルスキルについて演習を通じて習得することを目指す。さらに、就職・進学対策として、進路ガイダンス、出張面接講座、一般常識対策試験などを実施する。加えて、「野菜摂取不足解消」をテーマに演習を行う。授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 短期大学部での学習に必要とされるスタディスキルを習得し、専門教育での学習に活用することができる。
2. 短期大学部での学習に必要とされるソーシャルスキルを習得し、好ましい人間関係を形成するために活用することができる。
3. 卒業後の進路について、自分の考えをまとめ、それに向けて準備することができる。

授業計画

- 【第1回】セミナーの運営方針等の説明、履修指導（履修修正について指導を行う）、GPAの確認、学修ポートフォリオの結果確認と入力（これまでの振り返りとこれからの目標について記入する）
 - 【第2回】就職試験対策① 言語分野の強化
 - 【第3回】一般常識対策試験（第2回OIU/OIC確認テストの受験）
 - 【第4回】就職試験対策② 非言語分野の強化
 - 【第5回】全学映画会（全学共通の映画の上映を行う）
 - 【第6回】就職試験対策③ 面接、エントリーシート対策1
 - 【第7回】就職試験対策④ 面接、エントリーシート対策2
 - 【第8回】就職対策講座（CSC主催：卒業生のお話を聞く）
 - 【第9回】就職対策講座（CSC主催：履歴書の書き方についての演習）
 - 【第10回】就職対策講座（CSC主催：出張面接講座、面接への臨み方の基本について解説を行い、面接練習を行う）
 - 【第11回】就職試験対策⑤ まとめテスト
 - 【第12回】就職対策講座（学科主催：内定した2年生の体験談をインタビュー形式で聞く）
 - 【第13回】一般常識対策試験（第2回基礎学力テストの受験）
 - 【第14回】セミナー活動報告会参加
 - 【第15回】セミナーⅡ説明会 各種の連絡（後期終講にあたっての各種の連絡を行う。また、2年次に向けての留意事項や課題などについて説明を行う）
- ※大学祭が実施される場合は、大学祭準備についてセミナー内容に含める。
※状況により授業内容が前後する場合があります

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：予習すべき内容、ポイントをアナウンスするので、それに従いじゅうぶんに事前学習を行う
事後学習：一般常識試験対策や就職試験対策などの問題はじゅうぶんに復習を行う

課題に対するフィードバックの方法

課題については提出後、コメントを付して返却する。
就職試験対策については採点后、返却する。また、解説を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。定期試験に代わるレポート等の課題が未提出の場合は、「K」評価となる。正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価となる（欠席5回、遅刻1回で「K」評価）。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	就職試験対策①(言語分野)について点数に応じて評価する(10) 就職試験対策②(非言語分野)について点数に応じて評価する(10) 就職試験対策③(面接、エントリーシート)について取り組み姿勢に応じて評価する(10) 就職試験対策④(面接、エントリーシート)について取り組み姿勢に応じて評価する(10)	1, 2, 3

		み姿勢に応じて評価する(10)	
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポートを課し、完成度について評価する(10)	1, 2, 3
その他	50	OIU/OICドリルの達成度について評価する(10) OIU/OICドリル確認テストの点数に応じて評価する(20) 基礎学力テストの点数に応じて評価する(20)	1, 2, 3

テキスト	<p>『栄養士・管理栄養士を目指す人の文章術ハンドブック』 西川真理子著 化学同人 ISBN 978-4759814774 本体1,800円(税別)</p> <p>『栄養士実力認定試験 一問一答 第3版』 女子栄養大学出版部 ISBN 978-4-7895-2451-3 本体価格1,300円(税別)</p>		
------	--	--	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	卒業必修科目である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 前期にセミナー I aを履修すること。
---------------	---

授業コード	22039402	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b [対面]				
シラバス執筆(全員)	笠間 基寛				
シラバス執筆(主)	笠間 基寛				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

栄養学科の学生として、学生生活を有意義かつ積極的に送るために、セミナー I aに引き続き、スタディスキルおよびソーシャルスキルについて演習を通じて習得することを目指す。さらに、就職・進学対策として、進路ガイダンス、出張面接講座、一般常識対策試験などを実施する。加えて、「野菜摂取不足解消」をテーマに演習を行う。授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 短期大学部での学習に必要とされるスタディスキルを習得し、専門教育での学習に活用することができる。
2. 短期大学部での学習に必要とされるソーシャルスキルを習得し、好ましい人間関係を形成するために活用することができる。
3. 卒業後の進路について、自分の考えをまとめ、それに向けて準備することができる。

授業計画

- 第1回 セミナーの運営方針等の説明、履修指導（履修修正について指導を行う）、GPAの確認、学修ポートフォリオの結果確認と入力（これまでの振り返りとこれからの目標について記入する）
- 第2回 一般常識対策試験勉強（一般常識について学習する）
- 第3回 一般常識対策試験（第2回OIU/OIC確認テストの受験）
- 第4回 大学祭の準備
- 第5回 全学映画会（全学共通の映画の上映を行う）
- 第6回 個人面談（進路を考える）
- 第7回 栄養士校外実習報告会参加（12月14日分）
- 第8回 就職対策講座（CSC主催：卒業生の話を聞く）
- 第9回 就職対策講座（CSC主催：履歴書の書き方についての演習）
- 第10回 就職対策講座（CSC主催：出張面接講座、面接への臨み方の基本について解説を行い、面接練習を行う）
- 第11回 一般常識対策試験勉強（基礎学力テスト）、面談週
- 第12回 就職対策講座（学科主催：内定した2年生の体験談をインタビュー形式で聞く）
- 第13回 一般常識対策試験（第2回基礎学力テストの受験）
- 第14回 セミナー活動報告会参加
- 第15回 セミナーⅡ説明会 各種の連絡（後期終講にあたっての各種の連絡を行う。また、2年次に向けての留意事項や課題などについて説明を行う）
（状況により授業内容が前後する場合がある）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：セミナー終了時に予習すべき内容を伝える。
 事後学習：セミナー内での課題が時間内に終わらないときは、提出日までに仕上げておくこと。
 一般常識対策試験については、模擬試験をもとに事前学習を行い、本試験終了後はその結果の振り返りを行い、事後学習（復習）を行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で解説する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。定期試験に代わるレポート等の課題が未提出の場合は、「K」評価となる。正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価となる（欠席5回、遅刻1回で「K」評価）。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	一般常識対策試験(第2回OIU/OIC確認テスト)の結果(15) 一般常識対策試験(第2回基礎学力テスト)の結果(15)	1
授業外での評価	40	栄養士校外実習報告会のレポートの評価(10) 進路対策講座のレポートの評価(5×4)	1, 3

		事前事後学習の取り組みを評価(10)	
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	全授業終了後に実施するレポート課題(20)	1, 3
その他	10	セミナーへの取り組み姿勢を評価(10)	2
テキスト	栄養士・管理栄養士を目指す人の文章術ハンドブック 西川真理子著 化学同人 本体1800円 978-4759814774		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	卒業必修科目である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 前期にセミナー I aを履修すること。		

授業コード	22039403	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b [対面]				
シラバス執筆(全員)	坂井 孝				
シラバス執筆(主)	坂井 孝				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

栄養学科の学生として、学生生活を有意義かつ積極的に送るために、セミナー I aに引き続き、スタディスキルおよびソーシャルスキルについて演習を通じて習得することを目指す。
 さらに、就職・進学対策として、進路ガイダンス、出張面接講座、一般常識対策試験などを実施する。加えて、セミナー活動として、国民健康栄養調査などの統計データを用いた演習（グループワーク）を行う。
 授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 短期大学部での学習に必要とされるスタディスキルを習得し、専門教育での学習に活用することができる。
2. 短期大学部での学習に必要とされるソーシャルスキルを習得し、好ましい人間関係を形成するために活用することができる。
3. 卒業後の進路について、自分の考えをまとめ、それに向けて準備することができる。

授業計画

- 第1回 セミナーの運営方針等の説明、履修指導（履修修正について指導を行う）、GPAの確認、学修ポートフォリオの結果確認と入力（これまでの振り返りとこれからの目標について記入する）
- 第2回 セミナー活動（統計データの読み込み）
- 第3回 一般常識対策試験（第2回OIU/OIC確認テストの受験）
- 第4回 セミナー活動（統計データの読み込み）
- 第5回 全学映画会（全学共通の映画の上映を行う）
- 第6回 セミナー活動（就職活動のための取り組み：企業研究について学ぶ）
- 第7回 セミナー活動（就職活動のための取り組み：PROGテスト結果を活用した自己理解をする）
- 第8回 就職対策講座（CSC主催：卒業生の話を聞く）
- 第9回 就職対策講座（CSC主催：履歴書の書き方についての演習）
- 第10回 就職対策講座（CSC主催：出張面接講座、面接への臨み方の基本について解説を行い、面接練習を行う）
- 第11回 セミナー活動（発表資料の作成）
- 第12回 就職対策講座（学科主催：内定した2年生の体験談をインタビュー形式で聞く）
- 第13回 一般常識対策試験（第2回基礎学力テストの受験） セミナー活動発表
- 第14回 セミナー活動（2年生）報告会参加
- 第15回 セミナーⅡ説明会 各種の連絡（後期終講にあたっての各種の連絡を行う。また、2年次に向けての留意事項や課題などについて説明を行う）
 （状況により授業内容が前後する場合がある）
 * 大学祭で活動する場合は、準備についてセミナー活動の中に取り入れる。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業外において積極的に図書館やキャリアサポートセンターを活用すること。
 セミナー時間内で完了できなかった課題については、次のセミナーの時間までに仕上げ提出すること。
 一般常識対策試験に向け、ラインズドリルを少しずつ勉強すること。
 栄養士校外実習報告会、進路ガイダンスなどのレポートは授業終了後にまとめ期限までに提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については内容を確認後、必要に応じコメントを入れ返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 定期試験に代わるレポート等の課題が未提出の場合は、「K」評価となる。
 正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価となる（例えば、欠席5回、遅刻1回で「K」評価）。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	一般常識対策試験の成績2回分(20) セミナー活動に関する発表(40) 就職活動のための活動に関する課題(10)	1, 2, 3
授業外での評価	20	就職ガイダンス関連の振り返りレポート(10) 栄養士校外実習報告会レポート(10)	1, 2, 3

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	セミナー振り返りレポート(10)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	栄養士実力認定試験 一問一答 第3版 川端輝江・岩間範子／監修 女子栄養大学出版部 ISBN-978-4-7895-2451-3 本体価格1300円＋税
------	---

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	「卒業必修科目」である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 前期にセミナー I aを履修すること。 欠席した授業回については、classroomを確認して自主学習をすること。
---------------	--

授業コード	22039404	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b [対面]				
シラバス執筆(全員)	土井 玲奈				
シラバス執筆(主)	土井 玲奈				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

栄養学科の学生として、学生生活を有意義かつ積極的に送るために、セミナー I aに引き続き、スタディスキルおよびソーシャルスキルについて演習を通じて習得することを目指す。
さらに、就職・進学対策として、進路ガイダンス、出張面接講座、一般常識対策試験などを実施する。加えて、セミナー活動として、国民健康栄養調査などの統計データを用いた演習（グループワーク）を行う。
授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 短期大学部での学習に必要とされるスタディスキルを習得し、専門教育での学習に活用することができる。
2. 短期大学部での学習に必要とされるソーシャルスキルを習得し、好ましい人間関係を形成するために活用することができる。
3. 卒業後の進路について、自分の考えをまとめ、それに向けて準備することができる。

授業計画

- 第1回 セミナーの運営方針等の説明、履修指導（履修修正について指導を行う）、GPAの確認、学修ポートフォリオの結果確認と入力（これまでの振り返りとこれからの目標について記入する）
- 第2回 セミナー活動①健康に関する情報について学ぶ
- 第3回 一般常識対策試験（第2回OIU/OIC確認テストの受験）
- 第4回 セミナー活動②統計データの扱い方
- 第5回 全学映画会（全学共通の映画の上映を行う）
- 第6回 就職活動のための取り組み①企業研究について学ぶ
- 第7回 就職活動のための取り組み②PROGテスト結果を活用した自己理解をする
- 第8回 就職対策講座（CSC主催：卒業生の話を聞く）
- 第9回 就職対策講座（CSC主催：履歴書の書き方についての演習）
- 第10回 就職対策講座（CSC主催：出張面接講座、面接への臨み方の基本について解説を行い、面接練習を行う）
- 第11回 セミナー活動発表会資料の作成
- 第12回 就職対策講座（学科主催：内定した2年生の体験談をインタビュー形式で聞く）
- 第13回 一般常識対策試験（第2回基礎学力テストの受験）、セミナー活動発表会
- 第14回 セミナー活動（2年生）報告会参加
- 第15回 セミナーⅡ説明会 各種の連絡（後期終講にあたっての各種の連絡を行う。また、2年次に向けての留意事項や課題などについて説明を行う）
（状況により授業内容が前後する場合があります）

* 大学祭で活動する場合は、準備についてセミナー活動の中に取り入れる。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業外において積極的に図書館やキャリアサポートセンターを活用すること。
セミナー時間内で完了できなかった課題については、次のセミナーの時間までに仕上げ提出すること。
一般常識対策試験に向け、ラインズドリルを少しずつ勉強すること。
栄養士校外実習報告会、進路ガイダンスなどのレポートは授業終了後にまとめ期限までに提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については内容を確認後、必要に応じコメントを入れ返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
定期試験に代わるレポート等の課題が未提出の場合は、「K」評価となる。
正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価となる（欠席5回、遅刻1回で「K」評価）。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	一般常識対策試験の成績2回分(20) セミナー活動発表会(40) 就職活動のための活動に関する課題(10)	1, 2, 3

授業外での評価	10	就職ガイダンス関連の振り返りレポート(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	セミナー振り返りレポート(10)	1, 2, 3
その他	10	セミナーでの積極的な発言(10)	3

テキスト	栄養士実力認定試験 一問一答 第3版 川端輝江・岩間範子／監修 女子栄養大学出版部 ISBN-978-4-7895-2451-3 本体価格1300円＋税		
------	---	--	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
-----	------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	「卒業必修科目」である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 前期にセミナー I aを履修すること。		
---------------	---	--	--

授業コード	22039501	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	海老澤 薫				
シラバス執筆(主)	海老澤 薫				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

セミナーでの活動を通して、社会人として行動する際に必要な「自分で考える力」や「自分自身の計画を実行する能力」、および人間関係を円滑にする「コミュニケーション能力」などを身につけることを目的とする。具体的には、地域共催イベントにおいて、食育（お楽しみコーナー）の企画、準備、実践を行う。また、将来の栄養士や食に携わる職業人として必要な専門知識を広げていく。授業の形態は、グループワーク・演習・発表を取り交えたものである。

到達目標

1. 各自に与えられたテーマについてインターネットや図書館等で文献検索を行い、情報収集できる
2. 得られた情報を基にレシピやイベントを考えることができる
3. 積極的にコミュニケーションをとりながら、他者と協力できる
4. 栄養士の実務に関して必要な専門的知識や技術を身につけている

授業計画

- 第1回 セミナー運営方針の説明、履修指導、学修ポートフォリオの結果確認と入力
- 第2回 卒業研究のテーマ決めと地域共催イベントに向けたスケジュールの作成
- 第3回 建学の精神、栄養学科のDP、CPの再確認について、栄養士実力認定試験対策テスト
- 第4回 卒業研究に関する調査、栄養士実力認定試験対策テスト
- 第5回 地域共催イベントのための調査①（イベント内容についての事前調査）、栄養士実力認定試験対策テスト、個人面談
- 第6回 地域共催イベントのための調査②（イベント内容についての話し合い、企画書作成）、栄養士実力認定試験対策テスト
- 第7回 地域共催イベントの準備①（イベント内容についての予備実験）、栄養士実力認定試験対策テスト
- 第8回 地域共催イベントの準備②（イベント内容についての予備実験）、栄養士実力認定試験対策テスト
- 第8回 地域共催イベントの準備③（イベント内容についての掲示物の作成）、栄養士実力認定試験対策テスト
- 第9回 地域共催イベントの準備④（イベント内容についての掲示物の作成）、栄養士実力認定試験対策テスト、個人面談
- 第10回 地域共催イベントの準備⑤（イベント内容についての掲示物の作成）、栄養士実力認定試験対策テスト
- 第11回 地域共催イベントの準備⑥（イベントについて予行演習）、栄養士実力認定試験対策テスト
- 第12回 地域共催イベントの準備⑦（イベントについて予行演習）、栄養士実力認定試験対策テスト
- 第13回 地域共催イベント
- 第14回 地域共催イベントの振り返り（レポートの作成）、栄養士実力認定試験対策テスト（前期のまとめ）
- 第15回 前期セミナーの振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：栄養士実力認定試験対策については予定に従い、じゅうぶんに予習を行うこと。また、地域共催イベントについてはセミナー時間内に円滑に進むように予め準備を行い授業に臨むこと。
 事後学習：栄養士実力認定試験対策の結果に基づいて、じゅうぶんに復習を行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については、コメントを付記し返却する。
 栄養士実力認定試験対策課題については採点した後、返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。なお、正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価とする（欠席5回、遅刻1回となった場合「K」評価となる）。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	卒業研究についての課題達成度について評価する(10) 地域共催イベントについての完成度について評価する(40)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポートを課し、完成度について評価する(10)	1, 2
その他	40	栄養士実力認定試験対策テストの点数に応じて評価する。(30) 地域共催イベントの振り返りレポートの完成度を評価する。(10)	1, 2, 4

テキスト	『栄養士実力認定試験 一問一答 第3版』 女子栄養大学出版部 ISBN 978-4-7895-2451-3 本体価格1,300円(税別)		
------	---	--	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
-----	------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	卒業必修科目である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 後期にセミナーⅡbを履修すること。		
---------------	---	--	--

授業コード	22039502	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	笠間 基寛				
シラバス執筆(主)	笠間 基寛				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

セミナーでの活動を通して、社会人として行動する際に必要な「自分で考える力」や「自分自身の計画を実行する能力」、および人間関係を円滑にする「コミュニケーション能力」などを身につけることを目的とする。具体的には、「地域共催イベント」の取り組みとして「食育の実践」の企画・運営を行う。また、将来の栄養士や食に携わる職業人として必要な専門知識を広げていく。
 授業の形態は、グループワーク・演習・発表を取り交えたものである。

到達目標

1. 各自に与えられたテーマについてインターネットや図書館等で文献検索を行い、情報収集できる。
2. 得られた情報を基にレシピやイベントを考えることができる。
3. 積極的にコミュニケーションをとりながら、他者と協力できる。
4. 栄養士の実務に関して必要な専門的知識や技術を身につけている。

授業計画

- 第1回 セミナー運営方針の説明、履修指導
 学修ポートフォリオの結果確認と入力（これまでの振り返りとこれからの目標について）
- 第2回 進路面談（個人面談、進路相談）
- 第3回 建学の精神、栄養学科のDP、GPの再確認について
- 第4回 第1回栄養士実力認定試験対策（小テスト）、面談
- 第5回 地域共催イベントの取り組み①（地域共催イベントについての説明）
- 第6回 地域共催イベントの取り組み②（内容の決定）
- 第7回 第2回栄養士実力認定試験対策（小テスト）
- 第8回 地域共催イベントの取り組み③（準備）
- 第9回 地域共催イベントの取り組み④（準備）、面談
- 第10回 第3回栄養士実力認定試験対策（小テスト）
- 第11回 地域共催イベントの取り組み⑤（準備）
- 第12回 地域共催イベント
- 第13回 地域共催イベントの振り返り、個人面談（就職活動状況の確認、学習指導）
- 第14回 栄養士実力認定試験対策（総合試験）
- 第15回 前期セミナーの振り返り
- ※進行によっては、授業計画が前後する場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

地域共催イベント実施に向けて事前・事後学習をすること。
 実力認定試験対策について、事前・事後学習をすること。
 就職活動を行うにあたり、事前・事後学習をすること。

課題に対するフィードバックの方法

小テストについて、翌週以降に授業内で解説する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 5回を超えての欠席（欠席5回、遅刻1回）はK評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	栄養士実力認定試験対策(小テスト)3回(15:5×3) 栄養士実力認定試験対策(総合試験)1回(15) 食育についての企画や運営への取り組みを評価(20)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	地域共催イベントの振り返りレポートの内容を評価(20)	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	全授業終了後に実施するレポート課題(20)	1, 2, 3, 4
その他	10	セミナーへの取り組み姿勢を評価(10)	3, 4

テキスト	<p>栄養士実力認定試験 一問一答 第3版 川端輝江・岩間範子監修女子栄養大学出版部 ISBN-978-4-7895-2451-3 本体価格1300円+税</p>
参考書	<p>必要に応じて授業の中で紹介する。</p>
履修条件・他の科目との関連	<p>卒業必修科目である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 後期にセミナーⅡbを履修すること。</p>

授業コード	22039503	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	坂井 孝				
シラバス執筆(主)	坂井 孝				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

セミナーでの活動を通して、社会人として行動する際に必要な「自分で考える力」や「自分自身の計画を実行する能力」、および人間関係を円滑にする「コミュニケーション能力」などを身につけることを目的とする。具体的には、地域共催イベントにおいて、食育（お楽しみコーナー）の企画、準備、実践を行う。また、将来の栄養士や食に携わる職業人として必要な専門知識を広げていく。授業の形態は、グループワーク・演習・発表を取り交えたものである。

到達目標

1. 各自に与えられたテーマについてインターネットや図書館等で文献検索を行い、情報収集できる
2. 得られた情報を基にレシピやイベントを考えることができる
3. 積極的にコミュニケーションをとりながら、他者と協力できる
4. 栄養士の実務に関して必要な専門的知識や技術を身につけている

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（セミナー運営方針の説明、履修指導、GPAの確認、個人面談用資料作成）、学修ポートフォリオの結果確認と入力（これまでの振り返りとこれからの目標について）
 - 第2回 地域共催イベントの準備（テーマ設定、グループ活動）、個人面談
 - 第3回 建学の精神、栄養学科のDP、CPの再確認について
 - 第4回 地域共催イベントの準備（グループ活動）、個人面談、栄養士必須学力強化＜栄養学＞（個人）
 - 第5回 地域共催イベントの準備（グループ活動）、栄養士必須学力強化＜食品学＞（個人）
 - 第6回 地域共催イベントの準備（グループ活動）、栄養士必須学力強化＜生理学＞（個人）
 - 第7回 地域共催イベントの準備（グループ活動）、栄養士必須学力強化＜生化学＞（個人）
 - 第8回 地域共催イベントの準備（グループ活動）、栄養士必須学力強化＜調理・給食＞（個人）
 - 第9回 地域共催イベントの準備（グループ活動）、個人面談、栄養士必須学力強化＜復習＞（個人）
 - 第10回 地域共催イベントの準備（グループ活動）、栄養士必須学力強化（個人）
 - 第11回 地域共催イベント
 - 第12回 地域共催イベントの振り返り（グループおよび個人）
 - 第13回 守口市中学校給食献立作成への取り組み（資料準備）
 - 第14回 守口市中学校給食献立作成への取り組み（テーマ設定）
 - 第15回 前期セミナーの振り返り
- * 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。
* 地域での課外活動（食育）を行う場合はその分の授業を振替ことがある。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

地域共催イベントの準備のための事前調査に5時間以上を確保する。
守口市中学校給食献立作成の準備のために事前調査、資料検索に3時間以上を確保する。
栄養士必須学力強化のための学習に7時間以上を確保する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については、コメントを付記し返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
定期試験に代わるレポート等の提出がない場合は、「K」評価とする。
正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価とする（例：欠席5回、遅刻1回となった場合「K」評価となる）。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	栄養士必須学力強化の点数35(7回×5)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	地域共催イベントの振り返りレポートの内容を評価	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	セミナーⅡ a振り返りレポート	1, 2, 3, 4

その他	35	地域共催イベントの取り組み	1, 2, 3, 4
テキスト	栄養士実力認定試験 一問一答 第3版 川端輝江・岩間範子／監修 女子栄養大学出版部 ISBN-978-4-7895-2451-3 本体価格1300円＋税		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	「卒業必修科目」である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 土日に地域での食育活動を実施することがある。 後期にセミナーⅡbを履修すること。		

授業コード	22039504	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	土井 玲奈				
シラバス執筆(主)	土井 玲奈				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

セミナーでの活動を通して、社会人として行動する際に必要な「自分で考える力」や「自分自身の計画を実行する能力」、および人間関係を円滑にする「コミュニケーション能力」などを身につけることを目的とする。具体的には、地域共催イベントにおいて、食育（お楽しみコーナー）の企画、準備、実践を行う。また、将来の栄養士や食に携わる職業人として必要な専門知識を広げていく。授業の形態は、グループワーク・演習・発表を取り交えたものである。

到達目標

1. 各自に与えられたテーマについてインターネットや図書館等で文献検索を行い、情報収集できる
2. 得られた情報を基にレシピやイベントを考えることができる
3. 積極的にコミュニケーションをとりながら、他者と協力できる
4. 栄養士の実務に関して必要な専門的知識や技術を身につけている

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（セミナー運営方針の説明、履修指導、GPAの確認、個人面談用資料作成）、学修ポートフォリオの結果確認と入力（これまでの振り返りとこれからの目標について）
- 第2回 地域共催イベントの概要説明、個別面談
- 第3回 建学の精神、栄養学科のDP、CPの再確認について
- 第4回 情報収集（論文の探索や食育についての情報収集）
- 第5回 地域共催イベントの準備（テーマ・内容について決定）
- 第6回 地域共催イベントの準備（イベント媒体・教材作成）
- 第7回 地域共催イベントの準備（イベント媒体・教材作成）
- 第8回 地域共催イベントの準備（イベント媒体・教材作成）
- 第9回 地域共催イベントの準備（リハーサル・最終調整）、個別面談
- 第10回 地域共催イベントの準備（会場設営・機材の準備）
- 第11回 地域共催イベント
- 第12回 地域共催イベントの振り返り、守口市中学校給食献立作成についての説明
- 第13回 守口市中学校給食献立作成への取り組み（情報収集・資料準備）
- 第14回 守口市中学校給食献立作成への取り組み（テーマ設定）
- 第15回 前期セミナーの振り返り

- * 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。
- * 栄養士の実務に関して必要な専門知識定着のため、セミナーとして栄養士実力認定試験対策の取り組みを行う。
- * 地域での課外活動（食育）を行う場合はその分の授業を振替えることがある。（状況により授業内容が前後する可能性がある）
- * 大学祭で活動する場合は、準備についてセミナー活動の中に取り入れる。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各自のイベント準備についてはそれぞれ事前学習、事後学習（まとめ）を行うこと。栄養士実力認定試験対策として、過去問題への解答、小テストを実施するので準備と復習を行う。守口市中学校給食献立作成の準備のために事前に資料検索を行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題はコメントを加えて返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。定期試験に代わるレポート等の課題が未提出の場合は、「K」評価となる。正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価となる（例えば、欠席5回、遅刻1回で「K」評価）。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	地域共催イベントの企画書(20) プレゼンテーション(20) 製作作品の完成度(10) 栄養士実力認定試験対策の取り組み評価(30)	1, 2, 3, 4

授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	セミナーⅡa振り返りレポート(10)	1, 2, 3, 4
その他	10	セミナーでの積極的な発言(5)、他人とのコミュニケーションをとる姿勢(5)	3

テキスト	栄養士実力認定試験 一問一答 第3版 川端輝江・岩間範子／監修 女子栄養大学出版部 ISBN-978-4-7895-2451-3 本体価格1300円＋税		
------	---	--	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
-----	------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	「卒業必修科目」である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 後期にセミナーⅡbを履修すること。		
---------------	---	--	--

授業コード	22039505	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡa [対面]				
シラバス執筆(全員)	久木 久美子				
シラバス執筆(主)	久木 久美子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

セミナーでの活動を通して、社会人として行動する際に必要な「自分で考える力」や「自分自身の計画を実行する能力」、および人間関係を円滑にする「コミュニケーション能力」などを身につけること、また、将来の栄養士や食に携わる職業人として必要な専門知識を広げていくことを目的とする。具体的には、食や栄養に係わる食育テーマでグループで定め、そのテーマに基づきイベントを企画し、食育の場（地域共催イベントの）で実践する力をつける。
 授業の形態は、グループワーク・演習・発表を取り交えたものである。

到達目標

1. 各自に与えられたテーマについてインターネットや図書館等で文献検索を行い、情報収集できる。
2. 得られた情報を基にレシピを作成し、イベントを計画することができる。
3. 積極的にコミュニケーションをとりながら、他者と協力できる。
4. 栄養士の実務に関して必要な専門的知識や技術を活用することができる。

授業計画

- 第1回 セミナー運営方針の説明、履修指導
 学修ポートフォリオの結果確認と入力（これまでの振り返りとこれからの目標について）
 栄養士実力認定試験受験に向けた取り組みについての説明
- 第2回 地域共催イベントの概要説明
- 第3回 建学の精神、栄養学科のDP、CPの再確認について
 地域共催イベントのグループとテーマの決定
- 第4回 地域共催イベントの取り組み① 献立作成のための資料収集
 面談週
- 第5回 地域共催イベントの取り組み② 献立作成、発注表の作成・提出
- 第6回 地域共催イベントの取り組み③ 試作
- 第7回 地域共催イベントの取り組み④ 献立の改善、発注表の作成・提出
- 第8回 地域共催イベントの取り組み⑤ 試作と最終決定
- 第9回 地域共催イベントの取り組み⑥ 配付用レシピの作成
 面談週
- 第10回 地域共催イベントの取り組み⑦ 説明原稿の作成、当日の役割分担の決定
- 第11回 地域共催イベントの取り組み⑧ リハーサル
- 第12回 地域共催イベント前日準備（食品検収、テーブル・説明ボードのセッティング等）
- 第13回 地域共催イベントの当日準備
- 第14回 地域共催イベントの実施・片付け
- 第15回 前期セミナーの振り返り、各種連絡
- ※第2回目から第15回目まで、栄養士実力認定試験受験に向けた取り組みを行う。
 ※授業計画を変更する場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 各回を通じて、
【事前・事後学習】
 ・セミナーの時間内で完了できなかったものについては、次のセミナーまでには完成させておくこと
 ・「栄養士実力認定試験一問一答 女子栄養大出版部」の問題を解き、間違えてところを覚える

課題に対するフィードバックの方法

提出された献立や課題については、内容を確認後、必要に応じコメントを入れ返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内での評価、授業外での評価、全授業終了後の定期試験に代わるレポート課題を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

なお、正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価となる（欠席5回、遅刻1回は「K」評価）。また、「定期試験に代わるレポート」を期限までに提出しなかった場合は、成績評価を辞退したとみなし「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
---------	----------	---------	-------------

授業内での評価	70	セミナーにおける受講姿勢について評価(10) 地域共催イベントの取り組み姿勢について評価 (30) 栄養士実力認定試験受験のための取り組み姿勢について評価(30)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	地域共催イベント(前日・当日)の取り組み姿勢について評価 (20)	3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	地域共催イベントの振り返りレポートの内容を評価(10)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	『栄養士実力認定試験一問一答 第3版』川端輝江,岩間範子／監修 女子栄養大学出版部 1,430円 ISBN:978-4-7895-2451-3		
------	--	--	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
-----	------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	卒業必修科目である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 後期にセミナーⅡbを履修すること。		
---------------	---	--	--

授業コード	22039601	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb [対面]				
シラバス執筆(全員)	海老澤 薫				
シラバス執筆(主)	海老澤 薫				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

セミナーⅡaに引き続き、セミナーでの活動を通して、社会人として行動する際に必要な「自分で考える力」や「自分自身の計画を実行する能力」、および人間関係を円滑にする「コミュニケーション能力」などを身につけることを目的とする。具体的には、研究テーマのもと、文献調査や現地調査を行い自ら問題を提起して、解決方法を探り卒業研究を行う。最終的には卒業論文の形としてまとめ発表を行う。同時に将来の栄養士や食に携わる職業人として必要な専門知識を広げていく。授業の形態は、グループワーク・演習・発表を取り交えたものである。

到達目標

1. 自ら考え、計画的に物事を進めることができる。
2. 自らの意見を述べるができる。
3. 積極的にコミュニケーションをとりながら、他者と協力できる。
4. 他者に伝わる文章表現、プレゼンテーションができる。
5. 栄養士の実務に関して必要な専門的知識や技術を身につけている。

授業計画

- 第1回 後期セミナー運営方針の説明、履修指導、学修ポートフォリオの結果確認と入力
- 第2回 2年生後期の学修計画、卒業研究テーマと研究計画の確認、栄養士実力認定試験対策テスト
- 第3回 研究テーマについての調査および研究、栄養士実力認定試験対策テスト
- 第4回 研究テーマについての調査および研究、栄養士実力認定試験対策テスト
- 第5回 研究テーマについての調査および研究、栄養士実力認定試験対策テスト
- 第6回 全学映画会(全学共通の映画の上映を行う)、栄養士実力認定試験対策テスト、個人面談
- 第7回 研究テーマについての調査および研究、栄養士実力認定試験対策テスト
- 第8回 PROGテストの受験
- 第9回 研究テーマについての調査および研究、栄養士実力認定試験対策テスト
- 第10回 研究テーマについての調査および研究、栄養士実力認定試験対策テスト
- 第11回 卒業論文の作成、栄養士実力認定試験対策テスト
- 第12回 卒業論文の作成、栄養士実力認定試験対策テスト、個人面談
- 第13回 卒業論文発表会資料の作成
- 第14回 卒業論文発表会
- 第15回 セミナー活動報告会

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：セミナー時間内に卒業研究が円滑に進むように事前に準備を行うこと。栄養士実力認定試験対策に向けて予習を行う。
 事後学習：栄養士実力認定試験対策の結果に基づき、じゅうぶんに復習を行う。

課題に対するフィードバックの方法

卒業研究に関連する課題については提出後、コメントを付して返却する。
 栄養士実力認定試験対策問題については採点后、返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。なお、正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価とする(欠席5回、遅刻1回となった場合「K」評価となる)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	卒業研究における課題達成度について評価する。(20)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポートを課し、完成度について評価する(10)	1, 2, 4, 5

その他	70	卒業論文の完成度に応じて評価する。(30) 卒業論文発表会資料の完成度に応じて評価する。(10) 栄養士実力認定試験対策テストの点数に応じて評価する。(30)	1, 2, 3, 4, 5
テキスト	『栄養士実力認定試験 一問一答 第3版』 女子栄養大学出版部 ISBN 978-4-7895-2451-3 本体価格1,300円(税別)		
参考書	必要に応じて紹介する。 なお、卒業研究を行うにあたり、栄養士免許関連科目で使用したテキストを使う場合がある。		
履修条件・他の科目との関連	卒業必修科目である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 後期にセミナーⅡaを履修していること。		

授業コード	22039602	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb [対面]				
シラバス執筆(全員)	笠間 基寛				
シラバス執筆(主)	笠間 基寛				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

セミナーⅡaに引き続き、セミナーでの取り組みを通じて、社会人として行動する際に必要なルールとマナーの修得および「自分で考える力」、「自分自身の計画を実行する能力」、人間関係を円滑にする「コミュニケーション能力」を身につけることを目的とする。具体的には、食育に関する調査研究や教材作成、中学校給食レシピ開発などを行い、栄養士や食に携わる職業人として必要な専門知識・技能を高め、社会人としての実践力を身につける。
授業の形態は、グループワーク・演習・発表を取り交えたものである。

到達目標

1. 自ら考え、計画的に物事を進めることができる。
2. 自らの意見を述べることができる。
3. 積極的にコミュニケーションをとりながら、他者と協力できる。
4. 他者に伝わる文章表現、プレゼンテーションができる。
5. 栄養士の実務に関して必要な専門的知識や技術を身につけている。

授業計画

- 第1回 後期セミナー運営方針の説明、履修指導
学修ポートフォリオの結果確認と入力（これまでの振り返りとこれからの目標について）
 - 第2回 学園祭への取り組み①（学園祭に向けた計画、テーマ決定）
 - 第3回 学園祭への取り組み②（学園祭に向けた準備）
 - 第4回 学園祭への取り組み③（学園祭実践）
 - 第5回 研究テーマについての調査・研究
 - 第6回 全学映画会（全学共通の映画の上映を行う）、面談
 - 第7回 研究テーマについての調査・研究
 - 第8回 PROGテストの受験
 - 第9回 研究テーマについての調査・研究
 - 第10回 研究テーマについての調査・研究
 - 第11回 PROGテストの解説
 - 第12回 研究テーマについての調査・研究、面談
 - 第13回 研究テーマについての調査・研究
 - 第14回 プレゼンテーション（調査・研究について報告を行う）
 - 第15回 後期セミナーの振り返り
- ※進行によっては、授業が前後する場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

それぞれの企画を実施に向けて事前学習（準備）と事後学習（振り返り、改善）を行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

各企画について、コメントしながらフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。5回を超えての欠席（欠席5回、遅刻1回）はK評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	各分野の企画・運営等の評価(50)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	20	事前事後学習の取り組みを評価(20)	1, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	全授業終了後に実施するレポート課題(20)	5
その他	10	セミナーへの取り組み姿勢を評価(10)	1, 2, 3, 4

テキスト	栄養士実力認定試験 一問一答 第3版 川端輝江・岩間範子監修女子栄養大学出版部 ISBN-978-4-7895-2451-3 本体価格1300円+税
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	卒業必修科目である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 前期にセミナーⅡaを履修すること。

授業コード	22039603	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb [対面]				
シラバス執筆(全員)	坂井 孝				
シラバス執筆(主)	坂井 孝				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

セミナーⅡaに引き続き、セミナーでの活動を通して、社会人として行動する際に必要な「自分で考える力」や「自分自身の計画を実行する能力」、および人間関係を円滑にする「コミュニケーション能力」などを身につけることを目的とする。
 具体的には、いくつかのグループに分かれ、守口市中学校給食の献立メニュー提案を行う。
 同時に将来の栄養士や食に携わる職業人として必要な専門知識を広げていくために、各自テーマを設定し、調査・整理を行い発表する。
 授業の形態は、グループワーク・演習・発表を取り交えたものである。

到達目標

1. 自ら考え、計画的に物事を進めることができる。
2. 自らの意見を述べるができる。
3. 積極的にコミュニケーションをとりながら、他者と協力できる。
4. 他者に伝わる文章表現、プレゼンテーションができる。
5. 栄養士の実務に関して必要な専門的知識や技術を身につけている。

授業計画

状況により内容が変更される場合がある。
 第1回 オリエンテーション(セミナー運営方針の説明、履修指導、GPAの確認)、学修ポートフォリオの結果確認と入力(これまでの振り返りとこれからの目標について)、セミナー活動(個人テーマの設定)
 第2回 中学校給食(献立作成)、栄養士実力認定試験対策(栄養学関係)、個人面談
 第3回 栄養士実力認定試験対策(生理学・生化学関係)、個人面談、セミナー活動(情報収集)
 第4回 中学校給食(試作)、栄養士実力認定試験対策(食品学関係)
 第5回 栄養士実力認定試験対策(調理・給食関係)、個人面談
 第6回 全学映画会(全学共通の映画の上映を行う)
 第7回 中学校給食(献立再検討)
 第8回 PROGテスト
 第9回 セミナー活動(中間発表会)
 第10回 栄養士実力認定試験対策(模擬試験)
 第11回 PROGテスト解説会
 第12回 セミナー活動(発表用スライド作成)、個人面談
 第13回 中学校給食(まとめ)
 第14回 セミナー活動発表会のリハーサル、報告書の作成
 第15回 セミナー活動発表会、セミナー振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

専門知識の強化のための自主学習に1時間以上(7回合計7時間以上)を確保すること。
 セミナー活動に関する事前準備に5時間以上を確保すること。
 献立作成に関する事前準備について5時間以上を確保すること。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については、コメントを付記し返却する。
 セミナー活動発表会については、自他評価を実施する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 定期試験に代わるレポート等が未提出の場合は、「K」評価とする。
 正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価とする(欠席5回、遅刻1回となった場合「K」評価となる)。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	栄養士必須専門知識の修得(20) セミナー活動発表会(20)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	20	セミナー活動報告書(20)	1, 2, 4

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	セミナー活動に関するレポート	1, 2, 4
その他	30	献立作成(中学校給食)に関する取り組み(30)	1, 2, 3, 4, 5

テキスト	栄養士実力認定試験 一問一答 第3版 川端輝江・岩間範子監修女子栄養大学出版部 ISBN-978-4-7895-2451-3 本体価格1300円+税		
------	--	--	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
-----	------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	「卒業必修科目」である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 試作のため、セミナー時間外で自宅または学内での調理実習を行うことがある。 前期にセミナーⅡaを履修すること。		
---------------	---	--	--

授業コード	22039604	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb [対面]				
シラバス執筆(全員)	土井 玲奈				
シラバス執筆(主)	土井 玲奈				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

セミナーⅡaに引き続き、セミナーでの活動を通して、社会人として行動する際に必要な「自分で考える力」や「自分自身の計画を実行する能力」、および人間関係を円滑にする「コミュニケーション能力」などを身につけることを目的とする。
 具体的には、いくつかのグループに分かれ、守口市中学校給食の献立作成のメニュー提案を行う。
 同時に将来の栄養士や食に携わる職業人として必要な専門知識を広げていく。
 授業の形態は、グループワーク・演習・発表を取り交えたものである。

到達目標

1. 自ら考え、計画的に物事を進めることができる。
2. 自らの意見を述べるができる。
3. 積極的にコミュニケーションをとりながら、他者と協力できる。
4. 他者に伝わる文章表現、プレゼンテーションができる。
5. 栄養士の実務に関して必要な専門的知識や技術を身につけている。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（セミナー運営方針の説明、履修指導、GPAの確認）、学修ポートフォリオの結果確認と入力（これまでの振り返りとこれからの目標について）、セミナー活動（個人テーマの設定）
- 第2回 中学校給食（献立作成）、食育に関連する研究テーマ設定、個人面談
- 第3回 中学校給食（試作準備）、研究テーマに関する情報収集、個人面談
- 第4回 中学校給食（試作）
- 第5回 中学校給食（試作の振り返り）、指導計画の立案、個人面談
- 第6回 全学映画会（全学共通の映画の上映を行う）
- 第7回 中学校給食（献立再検討）
- 第8回 PROGテスト
- 第9回 食育教材の作成
- 第10回 栄養士実力認定試験対策（模擬試験）
- 第11回 PROGテスト解説会
- 第12回 セミナー活動発表会の資料作成・発表準備、個人面談
- 第13回 中学校給食（まとめ）
- 第14回 セミナー活動発表会のリハーサル、報告書の作成
- 第15回 セミナー活動発表会、セミナー振り返り

* 状況により内容が変更される場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

守口市中学校給食の献立作成について、事前に情報収集を行うこと。
 食育教材作成について、事前に準備を行っておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については、コメントを付記し返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 定期試験に代わるレポート等が未提出の場合は、「K」評価とする。
 正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価とする（例えば、欠席5回、遅刻1回となった場合「K」評価となる）。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	守口市中学校給食: 献立作成・試作・試作振り返りレポート(30) 食育指導案・食育教材・活用(30) セミナー活動発表会(20)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	セミナーⅡb振り返りレポート	1, 2, 3, 4
その他	10	セミナーにおける受講姿勢(積極的な発言やグループで協力する姿勢)	2, 3, 4
テキスト	栄養士実力認定試験 一問一答 第3版 川端輝江・岩間範子／監修 女子栄養大学出版部 ISBN-978-4-7895-2451-3 本体価格1300円＋税		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	「卒業必修科目」である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 前期にセミナーⅡaを履修すること。		

授業コード	22039605	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb [対面]				
シラバス執筆(全員)	久木 久美子				
シラバス執筆(主)	久木 久美子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

セミナーでの活動を通して、社会人として行動する際に必要な「自分で考える力」や「自分自身の計画を実行する能力」、および人間関係を円滑にする「コミュニケーション能力」などを身につけること、また、将来の栄養士や食に携わる職業人として必要な専門知識を広げていくことを目的とする。具体的には、食や栄養に係わる研究テーマを自分で定め、そのテーマについての研究を実施する、また、研究成果を卒業研究報告会で発表し、報告書としてまとめる事ができるようになることである。さらに大学祭への参加を通しグループで活動する力を付ける。

授業の形態は、グループワーク・演習・発表を取り交えたものである。

到達目標

1. 卒業研究のテーマについてインターネットや図書館等で文献検索を行い、情報収集することができる。
2. 得られた情報を基に卒業研究のテーマに即したレシピの作成や調査の計画をたてることができる。
3. 積極的にコミュニケーションをとりながら、他者と協力できる。
4. 栄養士の実務に関して必要な専門的知識や技術を活用することができる。
5. 研究成果をまとめ、卒業研究報告会で発表できる。
6. 卒業研究報告会で発表した内容を報告書としてまとめ、完成させることができる。

授業計画

- 第1回 後期セミナー運営方針の説明、履修指導
学修ポートフォリオの結果確認と入力（これまでの振り返りとこれからの目標について）
- 第2回 卒業研究の取り組みについて説明
- 第3回 卒業研究：研究テーマの決定
- 第4回 卒業研究：研究テーマに関する情報の検索（図書館、インターネット）
- 第5回 卒業研究：①卒業料理製作（テーマに沿った献立の作成） ②調査研究（資料、文献調べ）
- 第6回 全学映画会（全学共通の映画の上映を行う）
面談週
- 第7回 卒業研究：①卒業料理製作（献立の見直し） ②調査研究（調査）
- 第8回 PROGテストの受験
- 第9回 卒業研究：①卒業料理製作（試作） ②調査研究（分析）
- 第10回 卒業研究：①卒業料理製作（献立の改善） ②調査研究（分析）
- 第11回 PROGテストの解説
- 第12回 卒業研究：報告会にむけたスライドと読み原稿を作成する
面談週
- 第13回 卒業研究：報告会の最終原稿チェック
- 第14回 卒業研究報告会（予定：1月20日（月）1限目）
- 第15回 セミナー活動報告会（栄養学科全体会） 発表、各種連絡

※授業計画を変更する場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

卒業研究に対する取り組みとして、

【事前・事後学習】

セミナーの時間内では、卒業研究の進捗状況の確認、内容のチェック、アドバイスを主とする。したがって、事前事後の学習として、セミナー時間内でアドバイスされた事は研究内容に反映し、作業が遅れた箇所については、次のセミナーまでに仕上げしておくこと、さらに、報告会にむけての発表練習はしっかりと事前に行い、原稿を読まずともプレゼンできるように準備する。

課題に対するフィードバックの方法

卒業研究に関する課題については、内容を確認後フィードバックする

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内での評価、全授業終了後の定期試験に代わる卒業論文の内容を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

なお、正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価となる（欠席5回、遅刻1回は「K」評価）。卒業論文の提出は、形式が整っていることを（セミナー時に説明する）条件とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	セミナーにおける受講姿勢(セミナーのメンバーとの協力姿勢も含む)について評価する (10) 卒業研究についての取り組み姿勢について評価する(20) 卒業研究報告会でのプレゼンテーションについて評価する(20)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	卒業研究についての取り組み姿勢について評価する(30)	1, 2, 4, 5, 6
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	卒業研究報告書の内容について評価する(20)	1, 2, 4, 5, 6
その他	0		

テキスト	栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック 西川真理子著 化学同人 本体価格 1800円 978-4759814774
------	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	卒業必修科目である。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 前期にセミナーⅡaを履修すること。
---------------	---

授業コード	22014401	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	自己開発演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	森上 幸夫				
シラバス執筆(主)	森上 幸夫				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本演習は、自分の良さや強みを発見し、人間関係構築のための基盤となる知識と技術を修得すること目的とする。個人ワーク、ペアワーク及びグループワークの形式の演習を行う。テーマとして「自分自身」、「対人関係の中の自分」、「集団の中の自分」などを取り上げる。ペアワークやグループワークにおいては演技をする、意見を述べる、相談する、発表するなどの形態を伴うが、積極的に参加することで自分の良さ、他の人の良さ及び自分の強みを見つけることができるように実施する。様々なワークによって得た自己分析結果やコミュニケーション能力は生活場面でも活用できるように振り返りを行う。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

A 栄養士として求められる基本的な資質・能力

A-1 プロフェッショナリズム

④使命感と責任感をもって職務を遂行するためのコミュニケーションができる

A-4 栄養・食の選択と決定を支援するコミュニケーション能力

③対象者と適切なコミュニケーションができる

到達目標

1. 自分および他者の良さ、強みを伝えることができる。
2. 人間関係構築のための基礎となる知識と技術を用いて、生活場面で活用できる。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：「イントロダクション：自己の開発とは何か」
- 【第2回】
テーマ：「自分自身」（1）自己への注目、自己紹介
- 【第3回】
テーマ：「自分自身」（2）自己の把握、アイデンティティ
- 【第4回】
テーマ：「自分自身」（3）自己の演出、自己の表出
- 【第5回】
テーマ：「自分自身」（4）自分の中の親・大人・子ども
- 【第6回】
テーマ：「自分自身」のまとめ（“自分”という物語）
- 【第7回】
テーマ：「対人関係の中の自分」（1）他者を見ること、印象の法則
- 【第8回】
テーマ：「対人関係の中の自分」（2）他者の魅力・自分の魅力
- 【第9回】
テーマ：「対人関係の中の自分」（3）コミュニケーションの上達
- 【第10回】
テーマ：「対人関係の中の自分」（4）聴き上手になる方法
- 【第11回】
テーマ：「対人関係の中の自分」のまとめ（“おとな”のスキル）
- 【第12回】
テーマ：「集団の中の自分」（1）リーダー、リーダーシップ
- 【第13回】
テーマ：「集団の中の自分」（2）組織内の影響力
- 【第14回】
テーマ：「集団の中の自分」（3）グループプロセス
- 【第15回】
テーマ：「集団の中の自分」のまとめ（ベストチームへの道）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
事前：シラバスを確認する。
事後：イントロダクションの内容について、重要なポイントをノート・資料にまとめる。
- 【第2回】
・事前：他者に自分のことを知ってもらうための自己紹介を考える。
・事後：授業で提示した「自分自身」についての課題に取り組む。
- 【第3回】

- ・事前：「アイデンティティ」について調べ、自分自身の「アイデンティティ」を振り返り、書き出す。
- ・事後：授業で提示した「自分自身」についての課題に取り組む。
- 【第4回】
- ・事前：「自己呈示、自己開示」について調べ、自分自身の「自己呈示、自己開示」を振り返り、書き出す。
- ・事後：授業で提示した「自分自身」についての課題に取り組む。
- 【第5回】
- ・事前：自分の心の「親」的な側面、「大人」的な側面、「子ども」的な側面を振り返り、書き出す。
- ・事後：授業で提示した「自分自身」についての課題に取り組む。
- 【第6回】
- ・事前：「自己の向上と改善」について振り返り、書き出す。
- ・事後：授業で出題した到達目標確認課題について復習する。
- 【第7回】
- ・事前：「対人認知」について調べ、自分の「対人認知」の経験を振り返り、書き出す。
- ・事後：授業で提示した「対人関係の中の自己」についての課題に取り組む。
- 【第8回】
- ・事前：「対人魅力」について調べ、自分の「対人魅力」の経験を振り返り、書き出す。
- ・事後：授業で提示した「対人関係の中の自己」についての課題に取り組む。
- 【第9回】
- ・事前：「対人コミュニケーション」について調べ、自分の「対人コミュニケーション」の経験を振り返り、書き出す。
- ・事後：授業で提示した「対人関係の中の自己」についての課題に取り組む。
- 【第10回】
- ・事前：「傾聴」について調べ、自分の「傾聴」の経験を振り返り、書き出す。
- ・事後：授業で提示した「対人関係の中の自己」についての課題に取り組む。
- 【第11回】
- ・事前：「自分と他者の相互作用」について振り返り、書き出す。
- ・事後：授業で出題した到達目標確認課題について復習する。
- 【第12回】
- ・事前：「リーダー、リーダーシップ」について調べ、自分の「リーダー」にまつわる経験を振り返り、書き出す。
- ・事後：授業で提示した「集団の中の自分」についての課題に取り組む。
- 【第13回】
- ・事前：「集団と個人の相互的影響」について調べ、自分の「集団と個人の相互的影響」の経験を振り返り、書き出す。
- ・事後：授業で提示した「集団の中の自分」についての課題に取り組む。
- 【第14回】
- ・事前：「集団過程」について調べ、自分の「集団過程」の経験を振り返り、書き出す。
- ・事後：授業で提示した「集団の中の自分」についての課題に取り組む。
- 【第15回】
- ・事前：「集団運営の最善」について振り返り、書き出す。
- ・事後：授業で出題した到達目標確認課題について復習する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内課題は次回授業内で講評・解説します。定期試験に代わるレポート等は評価基準にもとづき自己採点が可能なように説明します。

成績評価の方法・基準(方針)

5回を超えての欠席(欠席5回、遅刻1回)はK評価とします。
以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定します。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	各回に実施する授業内での課題(15回×5)	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	レポート課題(25)	1, 2
その他	0		

テキスト テキストは使用しません。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介します。

履修条件・他の科目との関連

- ・毎回、演習内容に関する情報(授業スライド)をスクリーンに提示するので、ノートをとったうえで演習の作業や活動に臨んでください。
- ・各章の終わりにGoogle Classroomにて授業スライドを公開するので、復習や欠席した場合の補習を自主的に取り組むように努めてください。
- ・受講にあたり、特別な配慮を必要とする場合は申し出てください。

授業コード	22039901	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	マナー演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	栗栖 美帆				
シラバス執筆(主)	栗栖 美帆				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業は演習である。日本における「マナー」は他者への気遣いが根底にある。社会生活のさまざまな視点から自分らしさが最大限に発揮でき、さらに好感が持たれるマナーについて知り、社会生活において通用する基礎的なマナーを身につけることを目的とする。具体的には、自己表現法（あいさつ、身だしなみ、立ち振る舞い、話し方など）、正しい言葉遣い、来客対応のマナー（受付対応、名刺の渡し方）、電話のマナー（かけ方、受け方、取り次ぎ方）、冠婚葬祭のマナー、文書のマナー、食事のマナーなど働く人すべてが必要とするマナーについての演習を実施する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

- A 栄養士として求められる基本的な資質・能力
 A-1 プロフェッショナリズム
 A-4 栄養・食の選択と決定を支援するコミュニケーション能力
 ③対象者と適切なコミュニケーションができる

以下の項目とも関連する

- A-8 生涯に渡って自律的に学ぶ能力
 ③専門職として、自らのキャリアデザインができる

到達目標

1. 社会生活で通用するマナーを理解し、身に付け、実践することができる。
2. 首尾一貫した美しい言葉遣いや立ち振る舞いを通して、円滑で適切なコミュニケーションを取ることができる。
3. ペアワークやグループワークに積極的に参加し、協調性、協働性を身に付け、他者への思いやりの精神やホスピタリティマインドを育む。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（授業の進め方・授業概要・評価基準説明・自己紹介）
 第2回 マナーの歴史と意味
 第3回 社会人に必要なマナー①（話し方・聴き方・美しい言葉遣い・敬語）
 第4回 小テスト（敬語）・良い第一印象の決め方・美しい立ち振る舞い
 第5回 実技演習（お辞儀・椅子の座り方/立ち方）
 第6回 社会人に必要なマナー②（服装のマナー・喜ばれる贈答品・手紙のマナー）②・レポート課題/提出
 第7回 ビジネスシーンのマナー①（社会人としての心構え・名刺の扱い方）
 第8回 実技演習（名刺交換）・ビジネスシーンのマナー②（電話対応）
 第9回 ビジネスシーンのマナー③（トラブル対応・来客対応・席次）
 第10回 ビジネスシーンのマナー④（ビジネス文書）・レポート課題/提出
 第11回 食事のマナー①食事の作法の基本・和食のマナー
 第12回 食事のマナー② 西洋料理のマナー・中国料理・各国料理のマナー
 第13回 冠婚葬祭①「冠」のしきたり・「婚」のしきたり
 第14回 冠婚葬祭②「葬」のしきたり・「祭」のしきたり
 第15回 小テスト・総括

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：毎回、その回のテーマのテキスト箇所を目を通して授業に出席する。
 事後学習：各回、学んだ内容を復習し、授業の振り返り学習をする。また、内容によっては、繰り返し声に出して復習することや実技の反復練習を実施することで、知識の定着を図り、実践で活かすことができるようにする。

課題に対するフィードバックの方法

実技演習や実技テストの結果や授業で課した課題に関しては、授業内でフィードバック・指導する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 5回を超えての欠席（欠席5回、遅刻1回）はK評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
---------	----------	---------	-------------

授業内での評価	40	実技テスト(2回)(20)/ 小テスト(2回)(20)	1, 2, 3
授業外での評価	20	レポート(2回)(手紙/ビジネス文書)(20)	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポート(当該授業終了後)(20)	1, 2
その他	20	授業内の質問・発言・取り組み姿勢(20)	1, 2, 3

テキスト	『マナー＆プロトコルの基礎知識』/ NPO法人日本・マナープロトコル協会著/NPO法人日本マナー・プロトコル協会発行/ 1650円(税込) ISBN 978-4-9913-0500-9		
------	---	--	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
-----	------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・実践で役立つマナーを身に付けることができるように積極的に授業に臨む。 ・授業で配付資料がある場合、欠席した場合は次回出席した際に配布する。 		
---------------	---	--	--

授業コード	22043601	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	基礎生物化学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	海老澤 薫				
シラバス執筆(主)	海老澤 薫				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

栄養士専門科目のうち「人体の構造と機能」、「食品と衛生」、「栄養と健康」分野を学修する上で生物学、化学の基礎的理解は必須である。本講義では、これら生物学、化学の基礎を理解し修得することを目的とする。具体的には、生物学分野では身体の仕組み（細胞から器官まで）および構成成分、呼吸、血液循環のしくみ、栄養素の消化・吸収、タンパク質合成、血液成分、恒常性の維持について説明する。化学分野では、元素の種類、原子の構造、化学反応の種類、pH、濃度や生体内化学反応における計算や数的処理について説明する。さらに、単位の概念、バイオテクノロジーについても理解を深められるように概説する。

- 【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
 C 食事の管理を中心とした栄養管理の実践のための基礎科学
 C-1 人体の構造と機能
 1-1) 生体成分、細胞、組織、臓器・器官の構造と機能
 1-2) 生体内代謝
 1-3) 個体の調節機構
 C-2 栄養と栄養素等のはたらき
 2-1) 栄養の意義
 2-3) 栄養素等の消化・吸収のメカニズム

到達目標

1. 身体の仕組み（細胞から器官まで）および構成成分について説明ができる。
2. 呼吸、血液循環のしくみ、栄養素の消化・吸収、タンパク質合成、血液成分、恒常性の維持について説明ができる。
3. 元素の種類、原子の構造、化学反応の種類について説明できる。
4. pH、濃度や生体内化学反応における計算や数的処理について説明できる。
5. 栄養価計算や濃度など栄養士業務に必要な計算のための加減乗除を実践できる。
6. 単位の概念を理解でき、単位の変換に応用できる。
7. 食や健康とバイオテクノロジーの関連性について説明できる。

授業計画

- 【第1回】テーマ：栄養士になるために必要な生物・化学・数学
 内容・方法等：食、健康、バイオテクノロジー、環境について学ぶ上で必要な生物、化学、数学と科目間のつながりについて学ぶ
- 【第2回】テーマ：生物、化学を理解する上で必要な計算と単位
 内容・方法等：加減乗除、指数・対数計算、有効数字、単位の意味と変換方法について学ぶ
- 【第3回】テーマ：生物学分野①
 内容・方法等：呼吸器官、循環器官、消化器官、排泄器官について学ぶ
- 【第4回】テーマ：生物学分野②
 内容・方法等：細胞、血液、免疫の種類について学ぶ
- 【第5回】テーマ：生物学分野③
 内容・方法等：栄養素の代謝、水分の代謝、恒常性の維持について学ぶ
- 【第6回】テーマ：生物学分野④
 内容・方法等：植物の光合成、色素、嗜好性成分、機能性成分の合成について学ぶ
- 【第7回】テーマ：化学分野①
 内容・方法等：物質のなりたち、原子のなりたち、元素記号、周期表について学ぶ
- 【第8回】テーマ：化学分野②
 内容・方法等：電子配列、電離、イオンについて学ぶ
- 【第9回】テーマ：化学分野③
 内容・方法等：様々な化学結合と分子間に働く力について学ぶ
- 【第10回】テーマ：化学分野④
 内容・方法等：粒子の質量、数え方（原子量、分子量、式量、物質質量、アボガドロ定数、モル質量）について学ぶ
- 【第11回】テーマ：化学分野⑤
 内容・方法等：モル濃度と濃度計算について学ぶ
- 【第12回】テーマ：化学分野⑥
 内容・方法等：酸と塩基、水素イオン濃度とpHの計算、について学ぶ
- 【第13回】テーマ：化学分野⑦
 内容・方法等：酸化と還元、無機物と有機物、官能基について学ぶ
- 【第14回】テーマ：化学分野⑧
 内容・方法等：脂質、タンパク質の構造と有機化合物の化学反応、酵素反応について学ぶ
- 【第15回】テーマ：まとめ
 内容・方法等：第1～14回の学修内容のまとめを行う

※進捗状況に応じて、順番が前後することがある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：授業に先立ち、授業内容についてあらかじめテキストを読む等予習を行う。
事後学習：授業内容について、テキスト、講義資料、確認テストから復習を行う。

課題に対するフィードバックの方法

各回の学修内容の理解の確認として、確認テストや課題を課す。
提出された課題については採点および講評を行い、フィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
5回を超える欠席および正当な理由なく定期試験を欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	15	授業への取り組み姿勢(15) 問題行動(私語、居眠り、非協力的態度)等は減点対象とする。	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	25	確認テスト(25) 講義内容に応じて確認テストを実施する。達成度に応じて評価する。	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
定期試験	60	定期試験の得点に応じて評価する(60)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『栄養士・管理栄養士をめざす人の基礎トレーニングドリル』 小野 廣紀、日比野 久美子、吉澤 みな子 著 化学同人 1,800円(税別) ISBN:9784759819410 テキストは毎回持参すること。
------	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。 プリントも適宜授業内に配布する。
-----	--------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	〈他の科目との関連〉 本授業は、2年間の栄養士免許に必要な科目を学修する上で基礎と生物、化学、数学について学ぶ。 特に、1年生前期で履修する食品学総論、食品学実験、調理学、基礎栄養学 I、解剖生理学と関連する。 〈欠席時の配付資料の受け取りについて〉 配布時に欠席した場合には、教員まで配付資料の有無を確認して受け取りについて申し出ること
---------------	---

授業コード	22043701	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	栄養士基礎演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	土井 玲奈、海老澤 薫、笠間 基寛、坂井 孝、久木 久美子				
シラバス執筆(主)	土井 玲奈				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

(全体の概要)

本演習は、栄養士免許取得を目指す学生に対する導入教育として設定しており、授業を通じて学生自身が栄養士の仕事や使命を理解し、各自の目的意識を明確にすることを目的とする。具体的には、社会における栄養士の責務や職業倫理について説明する、ゲストティーチャーによる講演では医療・福祉・学校・企業などにおける栄養士の役割と業務について説明する。また、栄養士業務に必要な報告書や実習記録の作成など基礎知識・技能についても修得することである。
(オムニバス方式/全15回)

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

A 栄養士として求められる基本的な資質・能力

A-1 プロフェッショナルリズム

- ① 栄養士制度の歴史をふまえ、人々の健康と幸福に貢献する食事の管理を中心とした栄養の専門職であることを説明できる。
- ② 食事の管理を中心とした栄養の専門職としての職業倫理を説明できる。

A-6 連携と協働

① 幅広い分野、業種における栄養士の役割を説明できる

A-8 生涯にわたって自律的に学ぶ能力

- ① 食事の管理を中心とした栄養の専門職として誇りを持ち、生涯にわたり自己研鑽する必要性を説明できる。
- ② 自律的に学び続ける能力を修得する。

到達目標

1. 栄養士に必要なレポートの作成が実践できる。
2. 栄養価計算について説明できる。
3. 社会における栄養士の責務や職業倫理について説明できる。
4. 栄養士の役割と業務について説明できる。
5. 栄養士の使命を説明できる。

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション、栄養士課程のカリキュラム構成について (担当：土井玲奈)
- 【第2回】栄養士に必要な基礎知識や技能① 実習のレポート作成方法と栄養価計算について解説する。(担当：久木久美子)
- 【第3回】栄養士に必要な基礎知識や技能② 食品を取り扱う現場での食品衛生の基礎について解説する。(担当：海老澤薫)
- 【第4回】栄養士に必要な基礎知識や技能③ レポート作成の基礎について解説する。(担当：久木久美子)
- 【第5回】本学の学びについて 建学の精神、栄養学科DP、CPについて解説する。(担当：坂井孝)
- 【第6回】栄養士の役割と業務① 児童福祉施設の栄養士について解説する。(担当：土井玲奈)
- 【第7回】栄養士の役割と業務② 児童福祉施設の実際を見学する。(担当：土井玲奈)
- 【第8回】栄養士の役割と業務③ 高齢者施設の栄養士について解説する。(担当：笠間基寛)
- 【第9回】栄養士の役割と業務④ 病院の栄養士について解説する。(担当：土井玲奈)
- 【第10回】栄養士の役割と業務⑤ 給食会社の栄養士について解説する。(担当：土井玲奈)
- 【第11回】栄養士の役割と業務⑥ 学校給食の栄養士について解説する。(担当：土井玲奈)
- 【第12回】栄養士に必要な基礎知識のまとめをする。(担当：笠間基寛)
- 【第13回】食文化について解説する。(担当：海老澤薫)
- 【第14回】自分の食生活を見直そう 栄養士になる前に自分の食生活状態を把握し、改善策を考える (担当：土井玲奈)
- 【第15回】まとめ 栄養士になるために何が必要か振り返りを行う。(担当：土井玲奈)

* 進行によっては、授業計画 (担当者を含む) を変更する場合があります。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前事後学習に要する時間をそれぞれ2時間以上確保すること。
各回で課題があるので時間をかけて作成し、締め切り日までに提出すること。
配付する「授業まとめノート」に各回目標達成度の自己評価表を付けているので、毎回の授業で各項目「満足」となるよう予習をし、積極的に授業に臨むこと。

課題に対するフィードバックの方法

各回で課される課題（レポート）は担当教員が評価および解説を行い、返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
「各回の授業の達成度」は、出されたレポート課題の完成度や授業での積極姿勢等で評価を行う。
「授業まとめノート」は、ノートの出来栄や目標達成度の自己評価表により評価を行う。
正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価となる（例えば、欠席5回、遅刻1回で「K」評価）。
また、正当な理由なく「定期試験に代わるレポート課題」が決められた期限までに提出されなかった場合も「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	毎回の授業の達成度(75)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	授業まとめノートの提出(25)	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト 図解 栄養士・管理栄養士をめざす人の文章術ハンドブック/西川 真理子 著/化学同人/定価 2,200円/9784759814774

参考書 参考書は必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 <履修条件ほか>
この科目は卒業必修科目である。
やむを得ず欠席した場合は、登学後速やかに担当教員に申し出ること。授業内容を確認し、自宅で学習をすること。
<他の科目との関連>
本科目は、2年間の栄養士の学びの基礎となるものである。
栄養価計算、食品衛生については「調理学実習Ⅰ・Ⅱ」「調理学」「食品衛生学」「給食管理」と関連する。
栄養士の役割と業務①～⑥については「栄養士校外実習」や卒業後の進路との関わりが深い。

授業コード	22030102	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	心理学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	安原 彰子				
シラバス執筆(主)	安原 彰子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

健全な食行動を形成するためには、食をコントロールするスキルを修得することが必要である。その一端を補うのが心理学である。本講義では、発達段階における心理的要因について理解することを目的とする。具体的には、健全な食行動を形成するために必要な心理的要因（こころの病、気分障害、こころと健康、健康とストレス、ストレスと対処、食行動の異常、こどもの健康、高齢者の健康、性差）について説明する。なお、心理学で得た知識は、臨床栄養学、応用栄養学、実践栄養学などの理解を深め、将来医療・福祉の現場で活かす。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

A 栄養士として求められる基本的な資質・能力

A-1 プロフェッショナリズム

④使命感と責任感をもって職務を遂行するためのコミュニケーションができる。

A-4 栄養・食の選択と決定を支援するコミュニケーション能力

①対象者の栄養・食に関する主体的な意思決定を尊重することができる

③対象者と適切なコミュニケーションができる

以下の項目とも関連する

E ライフステージ別の食事の管理を中心とした栄養管理のうち、ライフステージ毎の生理的・身体的特徴

到達目標

1. 健全な食行動を形成するために必要な心理的要因について説明できる。
2. 各発達段階における心理社会的特徴について説明できる。
3. 食行動とこころの健康の関係について説明できる。

授業計画

【第1回】

テーマ：食行動と心理学（ガイダンス）

・本科目の目的と概要について述べる

【第2回】

テーマ：学習1

・心理学における学習の定義と理論を紹介する。

【第3回】

テーマ：学習2

・食行動と学習の関連について紹介する。

【第4回】

テーマ：感情1

・感情の理論や機能について紹介する。

【第5回】

テーマ：感情2

・食行動と感情の関連について紹介する。

【第6回】

テーマ：健康と精神疾患1

・ストレスの定義や精神疾患について紹介する。

【第7回】

テーマ：健康と精神疾患2

・食行動と健康、心の病の関連について紹介する。

【第8回】

テーマ：健康と精神疾患3

・健全な食行動への心理学的アプローチとして心理療法を紹介する。

【第9回】

テーマ：生涯発達1

・乳児期から成年期にわたる食行動の変化について紹介する。

【第10回】

テーマ：生涯発達2

・青年期以降の食行動の変化について紹介する。

【第11回】

テーマ：食行動と環境的要因

・環境的要因が食行動にどのような影響を与えるか説明する。

【第12回】

テーマ：食行動と社会的要因

・社会的要因が食行動にどのような影響を与えるか説明する。

【第13回】

テーマ：コミュニケーションの心理1

・効果的なコミュニケーションに役立つ心理学の諸理論を紹介する。

【第14回】

テーマ：コミュニケーションの心理2

- ・効果的なコミュニケーションに必要な技能を紹介する。

【第15回】

テーマ：到達度確認テストと総括

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

第1回

【事前】授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する

【事後】オリエンテーションの説明内容にもとづき食行動と心理学がどのように結びつくかを考え、書き出す

第2回

【事前】心理学における「学習」について文献を検索し、その内容を書き出す

【事後】授業で提示した「学習」についての課題に取り組む。

第3回

【事前】自身の経験を振り返り、学習と食行動の関連について考え、書き出す。

【事後】授業で提示した「食行動と学習」についての課題に取り組む。

第4回

【事前】自身の経験を振り返り、感情の機能について考え、書き出す。

【事後】授業で提示した「感情」についての課題に取り組む。

第5回

【事前】自身の経験を振り返り、食行動と感情の関連を考え、書き出す。

【事後】授業で提示した「食行動と感情」についての課題に取り組む。

第6回

【事前】精神疾患について文献を検索し、その内容を書き出す。

【事後】授業で提示した「健康と精神疾患」についての課題に取り組む。

第7回

【事前】食行動に関する悩みや問題にはどのようなものがあるか文献を検索し、その内容を書き出す。

【事後】授業で提示した「食行動と精神疾患」についての課題に取り組む。

第8回

【事前】心理療法について文献を検索し、その内容を書き出す。

【事後】授業で提示した「心理療法」についての課題に取り組む。

第9回

【事前】各発達段階における食行動の特徴について文献を検索し、その内容を書き出す。

【事後】授業で提示した「生涯発達」についての課題に取り組む。

第10回

【事前】高齢者の食行動の特徴について文献を検索し、その内容を書き出す

【事後】授業で提示した「食行動と生涯発達」についての課題に取り組む。

第11回

【事前】自身の経験を振り返り、食行動に影響を与えそうな環境的要因を考え、書き出す

【事後】授業で提示した「食行動と環境的要因」についての課題に取り組む。

第12回

【事前】自身の経験を振り返り、食行動に影響を与えそうな社会的要因を考え、書き出す

【事後】授業で提示した「食行動と社会的要因」についての課題に取り組む。

第13回

【事前】コミュニケーションスキルに関する文献を検索し、その内容を書き出す

【事後】授業で提示した「コミュニケーションスキル」についての課題に取り組む。

第14回

【事前】他者を説得する際のコミュニケーション手法に関する文献を検索し、その内容を書き出す

【事後】授業で提示した「説得的コミュニケーション」についての課題に取り組む。

第15回

【事前】第1回から14回の内容を復習する。

【事後】到達度確認テストの振り返りをする。

課題に対するフィードバックの方法

- ・毎回の授業内課題に対して授業内で講評・解説します。
- ・到達度確認テストは、授業内で講評・解説します。
- ・レポートは、評価基準表にもとづく評価結果をフィードバックします。

成績評価の方法・基準(方針)

5回を超えての欠席(欠席5回、遅刻1回)はK評価となる。

以下に示す通り、授業内で実施される課題・到達度確認テストと、定期試験に代わるレポート、授業内での発言の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定します。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	毎回の授業内で課す課題(計15回・各3) 第15回に実施する到達度確認テスト(25)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	15	これまでに学習した内容について課題を出す(15)	1, 2, 3
その他	15	授業に関する発言・質問・受講態度・マナーを評価(15)	1, 2, 3
テキスト	テキストは使用せず資料を配布します		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介します。		
履修条件・他の科目との関連	受講にあたり、特別な配慮を必要とする学生は申し出てください。		

授業コード	22013001	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	公衆衛生学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	宮崎 潤二				
シラバス執筆(主)	宮崎 潤二				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、健康の考え方、環境と健康、我が国における健康の現状、疫学の方法、主要疾患の疫学と対策について説明できることを目的とする。公衆衛生学の基礎知識を講義形態で学ぶ。具体的には、健康の維持・増進、疾病の予防ならびに健康格差や健康に関する社会環境要因、環境汚染と健康影響、主な保健統計指標の定義、意義、用途について説明する。また、平均余命・平均寿命や健康寿命、人口動態統計による人口構成、死因別死亡等の現状と変遷について説明する。さらに疫学の基礎的な方法、疫学情報の収集方法とエビデンスレベルについて概説する。がん、脳卒中、心疾患、糖尿病の現状と対策、栄養・食生活との関わり、近年の感染症の動向、感染症の内容ならびに精神保健の現状、自殺、不慮の事故等の現状と対策について説明する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

B-1社会および環境と健康の関わり

1-1) 健康の考え方

1-2) 環境と健康

1-3) 我が国における健康の現状

B-3科学的根拠に基づく栄養の実践のための疫学の理解

3-1) 疫学の方法

3-2) 主要疾患の疫学と対策

以下の項目とも関連する

A-7科学的態度の形成と科学的探究

到達目標

SBOs

1. 健康の維持・増進、疾病の予防ならびに健康格差や健康に関する社会環境要因について説明できる
2. 環境汚染と健康影響について説明できる
3. 主な保健統計指標の定義、意義、用途について説明できる
4. 平均余命・平均寿命や健康寿命について説明できる
5. 人口動態統計による人口構成、死因別死亡等の現状と変遷について説明できる
6. 疫学の基礎的な方法について概説できる
7. 疫学情報の収集方法とエビデンスレベルについて説明できる
8. がん、脳卒中、心疾患、糖尿病の現状と対策、栄養・食生活との関わりについて説明できる
9. 近年の感染症の動向、感染症の内容ならびに精神保健の現状、自殺、不慮の事故等の現状と対策について説明できる

授業計画

*授業計画 講義資料から課題や確認演習等を毎時間提出させることにより進める。

第1回：公衆衛生の概念と社会的意義について説明できる。SBO①

ガイダンス、公衆衛生学の概念、公衆衛生の歴史、健康の定義

第2回：保健医療行政と疾病予防の方略について概説できる。SBO①

保健行政、保健医療制度、プライマリヘルスケア、ヘルスプロモーションの展開、ポピュレーションアプローチ

第3回：主な保健医療統計や健康指標を用いてわが国の健康状況を説明できる。SBO③④⑤

人口動態統計、人口動態統計、比率と割合

第4回：主な保健医療統計や健康指標を用いてわが国の健康状況を説明できる。SBO③④⑤

死因統計

第5回：疫学的手法による疾病要因の解明の方法論を説明できる。SBO⑥⑦

疫学の考え方とその手法、疾病発症のリスク要因の解明、交絡因子、感度・特異度

第6回：疫学的手法による疾病要因の解明の方法論を説明できる。SBO⑥⑦⑧

疫学調査と現在の健康に対する現状と課題

第7回：環境問題とその健康への影響について説明できる。SBO②

環境問題の変遷と現状、そして課題

第8回：環境問題とその健康への影響について説明できる。SBO②

物理化学的要因(大気、水)、生物学的環境要因、生活社会的環境

第9回：感染症について、その成立、予防、対策について説明できる。SBO⑨

感染症について、感染症の動向

第10回：感染症について、その成立、予防、対策について説明できる。SBO⑨

疾病予防の概念とその予防対策

第11回：わが国の様々な保健医療行政の役割について理解し概説できる。SBO⑨

精神保健、メンタルヘルス

第12回：生活習慣病の現状と対策、栄養と食生活の関わりについて概説できる。SBO①⑧

生活習慣病に関する疫学、要因、問題点

第13回：生活習慣病の現状と対策、栄養と食生活の関わりについて概説できる。SBO①⑧

社会経済格差による健康の社会的決定要因

第14回：国際保健の組織と役割について概説できる。SB0①

国際保健活動、WHO、災害保健

第15回：まとめ

講義の振り返り、演習によるまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。
1回の授業につき事前事後あわせて4時間の学習が必要です。

【第1回】
事前学修課題 身近な公衆衛生の取り組みについて調べておく。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。

【第2回】
事前学修課題 プライマリヘルスケアについて調べる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。

【第3回】
事前学修課題 厚労省や総務省で公表されている統計を閲覧してみる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。

【第4回】
事前学修課題 日本における死因について年齢別に調べる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。

【第5回】
事前学修課題 感染症アウトブレイクの際の検査の意義について調べる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。

【第6回】
事前学修課題 日本の大規模疫学調査について調べる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。

【第7回】
事前学修課題 特に関心のある環境問題について調べる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。

【第8回】
事前学修課題 日本における身近な環境の問題点について調べる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。

【第9回】
事前学修課題 ウイルスと最近の違いは何か調べる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。

【第10回】
事前学修課題 感染症予防の方策について調べる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。

【第11回】
事前学修課題 ダルクについて調べる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。

【第12回】
事前学修課題 生活習慣病とは何か調べる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。

【第13回】
事前学修課題 社会経済的地位とは何か調べる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。

【第14回】
事前学修課題 SDGsについて調べる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。

【第15回】
事前学修課題 これまでの講義を振り返りまとめる。
事後学習課題 講義内容を自分なりに要約し、自分の考えをまとめる。

課題に対するフィードバックの方法

*課題に対するフィードバックの方法 レポートやミニッツペーパーを使用して、毎講義終了後に振り返りの記述をまとめて、次講義時に講評する。
毎講義の関連項目の演習問題により振り返りと解説を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する
欠席回数5回をこえた場合「K」評価となる。(欠席5回、遅刻1回となった場合は「K」評価となる)

定期試験および平常時提出物で評価する

成績評価の種類

- ・定期試験 到達目標1-9
- ・毎時間の課題 到達目標1-9
- ・ミニッツペーパー等によるフィードバック 到達目標1, 2, 4, 6-9

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	15	講義毎のテーマについて理解度を確認するための確認テスト	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9

		トを毎回提出 15%	
授業外での評価	15	講義毎のテーマについて理解度を確保するためのフィードバックコメントを毎回提出 15%	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
定期試験	70		1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	公衆衛生がみえる 2022-2023(メディックメディア) ¥3,960- ISBN978-4-89632-858-5
------	---

参考書	シンプル公衆衛生学 基礎から学ぶ楽しい疫学 わかりやすいEBNと栄養疫学
-----	--

履修条件・他の科目との関連	<p>日常においても、健康や環境についてのニュースや医療情報について注意し興味を持っておくこと。また、分からない医学用語については、常に調べるような習慣を付けておくこと。関連項目を学習したときに他の分野についても想起するよう心がけること。 栄養士免取得のための必須科目である。</p> <p>出欠席の確認 欠席回数が5回を超えた場合は成績評価不能「K」評価となるので注意すること。</p>
---------------	--

授業コード	22015101	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	社会福祉概論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	奥山 峰幸				
シラバス執筆(主)	奥山 峰幸				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、健康の考え方、社会保障制度・衛生法規と保健活動、傷病者、要介護者および障がい者に対する栄養士の役割について説明できることを目的とする。社会福祉の役割や時代背景、そして現在の社会福祉の制度や仕組みについての知識を講義形態で学ぶ。具体的には、国民の健康づくりにおける保健・医療・福祉の位置づけと相互の連携、社会保障の定義と歴史および社会保障と公衆衛生の関連ならびに健康づくりに関する諸制度、地域保健に関する行政組織、関連機関等の役割と相互の連携、関連法規に基づく保健活動、地域包括ケアシステムならびに老人福祉法、介護保険法の概要について説明する。また、社会福祉施設の種類、障がい者福祉の制度、在宅ケアおよび訪問看護、公衆栄養に係る法律制定に至る背景と意義および内容について説明する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

B-1社会および環境と健康の関わり

1-1) 健康の考え方

B-2健康・栄養に関わる社会制度・法規と保健活動

2-1) 社会保障制度・衛生法規と保健活動

F-2食事の管理を中心とした栄養管理のための傷病者、要介護者および障がい者の理解

2-1) 傷病者、要介護者および障がい者に対する栄養士の役割

以下の項目とも関連する

A-1プロフェッショナリズム

A-2栄養学の知識と課題対応能力

A-8生涯にわたって自律的に学ぶ能力

到達目標

1. 国民の健康づくりにおける保健・医療・福祉の位置づけと相互の連携について説明できる
2. 社会保障の定義と歴史および社会保障と公衆衛生の関連ならびに健康づくりに関する諸制度について説明できる
3. 地域保健に関する行政組織、関連機関等の役割と相互の連携について説明できる
4. 関連法規に基づく保健活動について説明できる
5. 地域包括ケアシステムならびに老人福祉法、介護保険法の概要について説明できる
6. 社会福祉施設の種類、障がい者福祉の制度、在宅ケアおよび訪問看護について説明できる
7. 公衆栄養に係る法律制定に至る背景と意義および内容を説明できる

授業計画

- 第1回 オリエンテーション、社会福祉とは何か : 社会福祉の意味、社会福祉の考え方を学ぶ
- 第2回 社会福祉の歴史 : イギリス・アメリカ・日本の社会福祉の歴史、発展について学ぶ
- 第3回 社会福祉の基本的枠組み : 憲法や社会福祉法の法制度について学ぶ
- 第4回 社会保障制度と公的扶助 : 医療保険・年金保険・雇用保険・介護保険等の社会保障制度と生活保護について学ぶ
- 第5回 児童・家庭の福祉 : 児童福祉法と子ども家庭福祉や制度について学ぶ
- 第6回 高齢者の福祉 : 高齢者問題と老人福祉法・介護保険法について学ぶ
- 第7回 障害者福祉 : 障がい者福祉の考え方・障害者総合支援法について学ぶ
- 第8回 地域福祉 : 地域福祉と社会福祉協議会について学ぶ
- 第9回 社会福祉の担い手 : 社会福祉従事者・資格とボランティアについて学ぶ
- 第10回 社会福祉の実践と方法 : ソーシャルワーク・社会福祉実践の課題・ヤングケアラーについて学ぶ
- 第11回 介護問題と介護保険制度の課題 : 社会問題としての介護問題・介護保険制度とその問題点について学ぶ
- 第12回 保育をめぐる課題と子育て支援制度 : 保育の歴史と現代の子育て支援制度と事業について学ぶ
- 第13回 医療問題と社会福祉 : 医療制度と医療における専門職の役割・認知症の理解について
- 第14回 災害と社会福祉 : 災害と社会福祉の関係・災害リスクと社会福祉・災害派遣福祉チーム (DWAT) について学ぶ
- 第15回 社会福祉概論のまとめ : 地域包括ケアシステムとこれからの生活に役立つ社会福祉制度について

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習として、テキストをよく読み、また、日ごろからニュースやインターネットで社会福祉に関する記事を読み、社会福祉の現状について理解を深める時間として学習すること。また、事後学習として、テキストやノート・配布資料の読み返しや課題として出す実力認定試験対策問題のやり直し、制度の学習・専門用語の復習を行う、日常生活に必要な知識や認定試験・テストなどに必要な知識の整理をすること。

課題に対するフィードバックの方法

小テストの模範解答を配布し、講義の中で解説を行う。試験に代わる課題レポートに対する採点結果が知りたい

場合は、個別に対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内での理解度確認小テスト50%、試験に代わる課題レポートで50%で評価する。
※5回を超えての欠席（欠席5回、遅刻1回）はK評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内理解度確認小テスト	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	全授業終了後に実施するレポート課題	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
その他	0		

テキスト	ふくろう出版『～基礎と課題から学ぶ～ 新時代の社会福祉』、監修杉本敏夫、ふくろう出版、本体価格2,100円+税 ISBN 978-4-86186-785-9 授業時にプリントを配布する。
------	--

参考書	必要に応じて授業内で紹介する。
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	栄養士免許必修科目である。 資料を配布した授業を欠席した場合は、次の授業時に資料を取りに来ると資料を渡します。
---------------	--

授業コード	22038401	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	疾病の成り立ち [対面]				
シラバス執筆(全員)	篠原 靖司				
シラバス執筆(主)	篠原 靖司				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、傷病者の食事の管理を中心とした栄養管理の実践のために、疾病の原因、病態、症状、症候について、人体の構造と機能に関連づけて理解することを目的とする。
 具体的には、人体の構造や機能と関連づけて、疾病の成り立ち（循環障害、炎症と創傷、浮腫、脱水、嘔吐、下痢など）について理解を深める、各疾患（栄養障害、代謝・内分泌系疾患、消化器系疾患、腎・尿路系疾患、血液系疾患、運動器系（筋・骨格）疾患など）の原因、病態、症状、診断、治療について解説する、個体の調節機構（ホメオスタシス、生体防御機構など）について理解を深めることで、基本的な病態のメカニズムを理解し、適切な栄養管理の実践に結びつけることができるように解説する。

【栄養学教育モデル・コアカリキュラムとの関連性】

- F-1 疾病の成り立ち
 - 1-1) 疾病の成り立ち
 - 1-2) 疾患の症候と診断・治療の概要
- F-3 病態に応じた食事の管理を中心とした栄養管理
 - 3-1) 栄養障害
 - 3-2) 代謝・内分泌系疾患
 - 3-3) 消化器系疾患
 - 3-4) 循環器系疾患
 - 3-5) 腎・尿路系疾患
 - 3-6) 血液系疾患
 - 3-7) 運動器系（筋・骨格）の疾患
 - 3-8) 食物アレルギー
- C-1 人体の構造と機能
 - 1-3) 個体の調節機構
- A-2 栄養学の知識と課題対応能力
- A-7 科学的態度の形成と科学的探究

到達目標

- ① 疾病の成り立ち（循環障害、炎症と創傷、浮腫、脱水、嘔吐、下痢など）が説明できる
- ② 栄養障害の症候と診断・治療の概要が説明できる
- ③ 代謝・内分泌系疾患の症候と診断・治療の概要が説明できる
- ④ 消化器系疾患の症候と診断・治療の概要が説明できる
- ⑤ 循環器系疾患の症候と診断・治療の概要が説明できる
- ⑥ 腎・尿路系疾患の症候と診断・治療の概要が説明できる
- ⑦ 血液系疾患の症候と診断・治療の概要が説明できる
- ⑧ 運動器系（筋・骨格）の疾患の症候と診断・治療の概要が説明できる
- ⑨ 食物アレルギーの症候と診断・治療の概要が説明できる
- ⑩ 個体の調節機構（ホメオスタシス、生体防御機構など）について説明できる

授業計画

- 第 1回 ガイダンス・疾病の成り立ち概論
- 第 2回 栄養障害・代謝性疾患（栄養障害、肥満・肥満症、メタボリックシンドローム）
- 第 3回 栄養障害・代謝性疾患（糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症・痛風）
- 第 4回 消化器系疾患（食道・胃・腸疾患）
- 第 5回 消化器系疾患（肝・胆・膵疾患）
- 第 6回 循環器疾患（高血圧、動脈硬化、虚血性心疾患、脳血管障害）
- 第 7回 血液疾患（貧血、血液の凝固異常）
- 第 8回 前半部分の復習・演習
- 第 9回 腎・尿路系疾患（慢性腎臓病、糖尿病性腎症、慢性腎不全）
- 第 10回 腎・尿路系疾患（血液透析・腹膜透析、その他関連疾患）
- 第 11回 呼吸器疾患（上気道感染症、慢性閉塞性肺疾患、気管支ぜんそく）
- 第 12回 運動器（筋・骨）疾患（骨粗鬆症、骨軟化症、高齢期の疾患）
- 第 13回 免疫とアレルギー疾患（アレルギー反応、食事性アレルギー）
- 第 14回 免疫とアレルギー疾患（自己免疫疾患、免疫不全症）
- 第 15回 後半部分の復習・演習

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後あわせて90時間必要です。
 事前学修として、関連する人体の機能と構造の部分を復習する。事前学修に2時間、事後に講義内容を復習するの

に2時間を必要とする。

課題に対するフィードバックの方法

課題提出後以降の授業内および授業後に課題の内容に対するフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
5回を超えての欠席（欠席5回、遅刻1回など）はK評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業内に内容理解を確認するための課題(小テスト、レポートなど)を設定し、それらの点数をもって評価する。 その他、授業に対する姿勢や質問なども併せて評価する。	1～10
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	内容理解を確認するためのレポート課題を設定し、それらの点数をもって評価する。	1～10
その他	0		

テキスト	田中明・加藤昌彦 編著 新版 臨床栄養学 第5版 建帛社 ISBN 978-4-7679-0745-1 3190円
------	--

参考書	必要に応じて紹介する。
-----	-------------

履修条件・他の科目との関連	解剖生理学についてしっかりと復習しておくこと。 栄養士免許必須科目である。 基本は対面授業であるが、一部遠隔(オンデマンド、リアルタイム)で実施することがあるので実施方法の連絡に関してはクラスルームをチェックして確認すること。
---------------	---

授業コード	22033901	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	解剖生理学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	種村 麻里				
シラバス執筆(主)	種村 麻里				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、栄養と健康との関連性を理解するために必要な人体の構造および個体の調節機構について理解することを目的とする。具体的には、人体の構造と機能（生体構成成分（糖質、脂質、アミノ酸・たんぱく質）、細胞と組織の基本的な構造と機能、各臓器・器官の形態、体内での位置および主要臓器の構造、運動器系、循環器系、消化器系、泌尿器系、内分泌系、血液・造血器系など）について説明する。さらに、個体の調節機構（神経による情報伝達機構、細胞間情報伝達物質、ホルモンによる恒常性の維持、体温・呼吸・血圧の調節など）について説明する。

【栄養学教育モデル・コアカリキュラムとの関連性】

C-1 人体の構造と機能

1-1) 生体成分、細胞、組織、臓器・器官の構造と機能

1-3) 個体の調節機構

A-2 栄養学の知識と課題対応能力

以下の項目とも関連する

C-2 栄養と栄養素等のはたらき

2-3) 栄養素等の消化・吸収のメカニズム

2-9) 水・電解質の栄養学的役割

到達目標

1. 生体成分（糖質、脂質、アミノ酸・たんぱく質）の構造と機能について説明できる
2. 細細胞と組織の基本的な構造と機能について説明できる
3. 各臓器・器官の形態、体内での位置および主要臓器の構造について説明できる
4. 運動器系の構造と機能について説明できる
5. 循環器系の構造と機能について説明できる
6. 消化器系の構造と機能について説明できる
7. 泌尿器系の構造と機能について説明できる
8. 内分泌系の構造と機能について説明できる
9. 血液・造血器系の構造と機能について説明できる
10. 神経による情報伝達について説明できる
11. ホルモンによる恒常性の維持について説明できる
12. 体温・呼吸・血圧の調節について説明できる

授業計画

- 第1回 授業ガイダンス：栄養士における解剖生理学の必要性について学ぶ
- 第2回 細胞と組織について学ぶ
- 第3回 消化器系の構造とはたらき①：消化器系の構造、咀嚼・嚥下について学ぶ
- 第4回 消化器系の構造とはたらき②：栄養素の消化と吸収、糞便形成と排便のしくみについて学ぶ
- 第5回 循環器系・血液・造血系の構造とはたらき①：心臓と血管の構造と機能及び血液について学ぶ
- 第6回 循環器系・血液・造血系の構造とはたらき②：血圧の調節について学ぶ
- 第7回 呼吸器系の構造とはたらき①：呼吸のメカニズムについて学ぶ
- 第8回 呼吸器系の構造とはたらき②：呼吸によるガス交換について学ぶ
- 第9回 腎・尿路系の構造とはたらき①：腎尿路系の構造と機能について学ぶ
- 第10回 腎・尿路系の構造とはたらき②：水・電解質の調節における腎臓の役割について学ぶ
- 第11回 骨格系及び筋肉系の構造とはたらきについて学ぶ
- 第12回 内分泌系の機能とはたらきについて学ぶ
- 第13回 神経系の構造とはたらきについて学ぶ
- 第14回 皮膚組織と体温調節、感覚器系の構造とはたらきについて学ぶ
- 第15回 解剖生理学のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：各回で学習する項目に関連する事項についての予習課題を行う（1.5時間）

事後学習：学習内容の定着にむけた復習課題を行う（2.5時間）

課題に対するフィードバックの方法

授業内容に関する小テストや復習課題については、終了後に解説する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内での評価（授業内で実施する小テスト）、授業外での評価（予習課題の達成度）及び

定期試験に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 ※5回を超えての欠席（例えば、欠席5回、遅刻1回）はK評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内容に関する小テスト	1～12
授業外での評価	30	予習課題(15)・復習課題(15)の達成度	1～12
定期試験	40	定期試験	1～12
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト 栄養科学イラストレイテッド 解剖生理学 人体の構造と機能(第3版)/志村二三夫ほか編/羊土社 /3190円/978-4-7581-1362-5

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 解剖生理学は栄養学を学ぶ上で、最も基本となる科目の一つです。覚えることが重要ですが、理解するためには高等学校の理科の知識が必要です。必要な理科の知識を再学習し、そのうえで聞きなれない医学用語の多さに戸惑うことなく、地道に反復学習することが大切です。
 「栄養士免許必須科目である」

授業コード	22018001	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	生化学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	坂井 孝				
シラバス執筆(主)	坂井 孝				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、栄養と健康との関連性を理解するために必要となる栄養素の生体内代謝について理解することを目的とする。具体的には、代謝（異化、同化）の意味、生体内代謝に必要な酵素と補酵素の働きについて説明する。また、生体内の各種代謝（解糖系、クエン酸回路、電子伝達系と酸化的リン酸化、熱産生、糖新生経路、グリコーゲンの合成・分解経路、脂肪酸の合成、 β 酸化、ケトン体の代謝、トリアシルグリセロールの代謝、コレステロールの合成と利用、たんぱく質の合成と分解、アミノ酸の分解経路（アミノ基転移反応、尿素回路、炭素骨格の代謝）とアミノ酸の利用）について、さらに遺伝子の発現について概説する。

【栄養学教育モデル・コアカリキュラムとの関連性】

C-1 人体の構造と機能

1-2) 生体内代謝

A-2 栄養学の知識と課題対応能力

以下の項目とも関連する

C-1 人体の構造と機能

1-1) 生体成分、細胞、組織、臓器・器官の構造と機能

C-2 栄養と栄養素等のはたらき

2-4) 炭水化物の栄養学役割

2-5) 脂質の栄養学役割

2-6) たんぱく質の栄養学役割

2-7) ビタミンの栄養学役割

2-8) ミネラル（無機質）の栄養学役割

到達目標

1. 代謝（異化、同化）について説明できる
2. 酵素と補酵素の働きについて説明できる
3. 解糖系、クエン酸回路、電子伝達系と酸化的リン酸化、熱産生について説明できる
4. 糖新生経路、グリコーゲンの合成・分解経路について説明できる
5. 脂肪酸の合成、 β 酸化、ケトン体の代謝について説明できる
6. トリアシルグリセロールの代謝を説明できる
7. コレステロールの合成と利用について説明できる
8. たんぱく質の合成と分解、アミノ酸の分解経路（アミノ基転移反応、尿素回路、炭素骨格の代謝）とアミノ酸の利用について説明できる
9. 遺伝子の発現について説明できる

授業計画

【第1回】

テーマ：なぜ、食べなければいけないのか①

内容・方法：代謝とはなにか 生体恒常性とは何かについて学ぶ（講義）

【第2回】

テーマ：なぜ、食べなければいけないのか②

内容・方法：生命活動を支えるエネルギー物質について学ぶ（講義）

【第3回】

テーマ：生体内の酵素の働き

内容・方法：栄養素の代謝に欠かせない酵素について学ぶ（講義）

【第4回】

テーマ：なぜ、甘いものを食べたいのか①

内容・方法：糖質の基本性質・構造について学ぶ（講義）

【第5回】

テーマ：なぜ、甘いものを食べたいのか②

内容・方法：糖質の代謝について学ぶ（講義）

【第6回】

テーマ：油は本当に健康を害するのか①

内容・方法：脂質の基本性質・構造について学ぶ（講義）

【第7回】

テーマ：油は本当に健康を害するのか②

内容・方法：脂質代謝について学ぶ（講義）

【第8回】

テーマ：なぜ、食べすぎるとなぜ太るのか

内容・方法：糖質代謝と脂質代謝の関係について学ぶ（講義）

【第9回】

テーマ：コレステロールは体に悪いのか。

内容・方法：コレステロールの代謝、栄養学的意義について学ぶ（講義）

<p>【第10回】 テーマ：生活習慣病と生化学 内容・方法：健康者と糖尿病患者の代謝の違いについて学ぶ（講義）</p> <p>【第11回】 テーマ：なぜ、身体にはたんぱく質が必要なのか① 内容・方法：たんぱく質、アミノ酸の基本性質・構造について学ぶ（講義）</p> <p>【第12回】 テーマ：なぜ、身体にはたんぱく質が必要なのか② 内容・方法：たんぱく質、アミノ酸の代謝について学ぶ（講義）</p> <p>【第13回】 テーマ：なぜ、親子は似るのか① 内容・方法：遺伝子を構成する核酸の基本性質と役割について学ぶ（講義）</p> <p>【第14回】 テーマ：なぜ、親子は似るのか② 内容・方法：遺伝子の働き たんぱく質はどのようにして作られるのか（講義、DVD視聴）</p> <p>【第15回】 テーマ：生化学のまとめ 内容・方法：身の回りにおこる現象について、生化学側面から考える（演習レポート）</p>
--

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：授業をまとめた動画およびPDFをクラスルームにUPするので、授業内容に予習をする（1時間）。
 事後学習：学習内容の理解を深めるために復習を行い、確認テストに向けて準備をする（3時間）。

課題に対するフィードバックの方法

授業内容に関する確認テストは、終了後解答解説を行い、間違えた部分の確認を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する。なお、正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価とする（例：欠席5回、遅刻1回となった場合「K」評価となる）。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内容に関する確認テスト(40) DVD視聴レポート(10)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
授業外での評価	10	演習レポート(10)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
定期試験	40	定期試験(40)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト
 ヒトの基礎生化学 編著／川上浩 アイ・ケイコーポレーション 3,000＋税
 ISBN978-4-87492-332-0

参考書
 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連
 前期に履修した解剖生理学や基礎栄養学 I で学んだ内容と関連させて授業を進行するので、関連する内容について必ず復習しておくこと。
 授業に必要な資料等はクラスルームを通じて配付します。
 欠席した授業回は、classroomにある動画を活用し、自主学習をおこなうこと。
 「栄養士免許必須科目である」

授業コード	22034001	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	運動生理学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	織田 修輔				
シラバス執筆(主)	織田 修輔				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、解剖生理学、生化学を基礎とし、運動による身体各機能の変化・適応について理解することを目的とする。具体的には、日常的な身体活動を題材として、筋収縮のメカニズムやエネルギー供給経路、呼吸機能の調節、循環器系の適応、運動に対する内分泌系の応答、運動能力（酸素摂取量、最大酸素摂取量、無酸素性作業閾値など）および三大栄養素とエネルギー代謝について解説する。また、これらの知識を活かして、健康や運動に関連する幅広い知識を修得できるように解説する。

【栄養学教育モデル・コアカリキュラムとの関連性】

C-1 人体の構造と機能

1-1) 生体成分、細胞、組織、臓器・器官の構造と機能

1-2) 生体内代謝

1-3) 個体の調節機能

C-2 栄養と栄養素等のはたらき

2-10) エネルギー代謝

以下の項目とも関連する

A. 栄養士として求められる基本的な資質・能力

A-6. 連携と協働

①幅広い分野、業種における栄養士の役割を説明できる。

到達目標

1. 健康のねらいとその内容を理解できるようになる。
2. 栄養士と健康領域の関係について理解できるようになる。
3. 生活習慣の形成を支える援助について理解できるようになる。
4. 生活習慣病予防の大切さについて説明できる。

授業計画

- 第1回：運動の必要性和健康との関わりについて
- 第2回：運動が及ぼす骨強度への貢献について
- 第3回：筋肉の種類を把握し、それぞれの名前と機能について
- 第4回：筋肉の収縮メカニズムについて
- 第5回：体温調節機能と熱中症対策について
- 第6回：血液の循環と運動との関わりについて
- 第7回：血液成分とその役割について
- 第8回：呼吸の仕組みについて
- 第9回：呼吸商について
- 第10回：神経と脳について
- 第11回：神経系の仕組みと運動との関係性について
- 第12回：エネルギー供給機構について
- 第13回：食べ物の消化吸収について
- 第14回：吸収した栄養の利用について
- 第15回：脂質代謝のメカニズムについて

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回の授業後に内容を振り返り、自分の言葉で説明することができるようにする。

課題に対するフィードバックの方法

小テストの答えは、模範解答と採点基準を付して返却する。
また、小テストの実施方法においては授業内で解答を提示する。

成績評価の方法・基準(方針)

1. 5回を超えての欠席（欠席5回、遅刻1回）はK評価となる。
2. 正当な理由なく定期試験を欠席した場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	小テスト	1, 2, 4

授業外での評価	0		
定期試験	70	授業で扱った全ての内容より理解度を評価	1, 2, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	10	授業中における発言を評価	1, 3

テキスト	テキストは使用せず資料を配布する		
------	------------------	--	--

参考書	「運動生理学20講」、勝田 茂・征矢 英昭(編)、朝倉書店 「入門運動生理学 第4版」、勝田 茂、杏林書院		
-----	--	--	--

履修条件・他の科目との関連	1. 栄養士免許必修科目である。 2. 欠席した場合は、資料をGoogle Classroomに載せるため必ず自身で確認すること(試験内容に反映されるため)。 3. 解剖生理学の授業と関係があるため、その内容を復習しておくことが望ましい。		
---------------	---	--	--

授業コード	22039001	授業形態	実験	実務家教員	—
授業科目名	生理・生化学実験 [対面]				
シラバス執筆(全員)	坂井 孝				
シラバス執筆(主)	坂井 孝				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本実験は、生化学、栄養学、解剖生理学および食品学で学修した基礎知識を実験により確認し、人体の仕組みや調節機構について理解を深めることを目的とする。具体的には、生理学領域は、自己を被験者として身体計測（身長、体重、体脂肪率、筋肉量、皮下脂肪厚測定など）による体格測定、血圧の調節、重量感覚や反射、唾液アミラーゼ測定による作業ストレス反応や人工腸を用いた栄養素の吸収メカニズムなどの実験を行う。生化学領域は、酵素特性（基質特異性、至適温度、至適pH）に関する実験、酵母を用いた糖質代謝実験、生化学的手技を用いて食品からDNAの抽出および電気泳動法を用いた食品タンパク質の分離実験を通じて生体内での生化学的変化について実験を行う。

【栄養学教育モデル・コアカリキュラムとの関連性】

- C-1 人体の構造と機能
 - 1-2) 生体内代謝
 - 1-3) 個体の調節機構
- C-2 栄養と栄養素等のはたらき
 - 2-3) 栄養素等の消化・吸収のメカニズム
 - 2-10) エネルギー代謝

以下の項目とも関連する

- A 栄養士として求められる基本的な資質・能力
- A-2 栄養学の知識と課題対応能力

到達目標

1. 基本的な実験器具の操作ができる
2. 実験班の中で、責任を持って役割を分担することができる
3. 基礎的な実験レポートが作成できる
4. 実験課題と対応する授業での項目について関連を理解し、考察に導くことができる
5. 栄養素摂取と生化学的・生理学的パラメータ及び疾患との関連について概説できる

授業計画

授業計画は入れ替わる場合がある。

- 【第1回】
 テーマ：【実験全般】実験ガイダンス
 内容・方法：実験の心構えと心得 実験レポートの書き方、生理学領域の復習
- 【第2回】
 テーマ：【生理学領域①】栄養アセスメント評価に関する実験
 内容・方法：身体計測（身長、体重、JARD2001）による評価について学ぶ
- 【第3回】
 テーマ：【生理学領域②】感覚器系と皮膚に関する実験
 内容・方法：痛覚、重量感覚に関する実験 Weber-Fechnerの法則について学ぶ
- 【第4回】
 テーマ：【生理学領域③】循環器系に関する実験
 内容・方法：血圧に関する実験 体位・寒冷による血圧の変化から循環器系の反射について学習する
- 【第5回】
 テーマ：【生理学領域④】呼吸器系に関する実験
 内容・方法：呼吸器に関する実験 肺の呼吸運動やヘモグロビンの役割について学ぶ
- 【第6回】
 テーマ：【生理学領域⑤】恒常性に関する実験
 内容・方法：体温に関する実験 体温調節機能について学ぶ
- 【第7回】
 テーマ：【生理学領域⑥】内分泌系に関する実験
 内容・方法：疲労に関する実験 さまざまな疲労やストレスとホルモンの関係について学ぶ
- 【第8回】
 テーマ：【生理学領域⑦】実験まとめ
 内容・方法：生理学領域の復習
- 【第9回】
 テーマ：【生化学領域①】実験ガイダンス
 内容・方法：実験器具の基本操作についての再学習、生化学領域の復習
- 【第10回】
 テーマ：【生化学領域②】核酸に関する実験
 内容・方法：DNAの可視化実験、DNA、RNAについて学ぶ
- 【第11回】
 テーマ：【生化学領域③】アミノ酸、タンパク質の化学

内容・方法：タンパク質の定性実験 タンパク質の電気泳動による分離方法について学ぶ
 【第12回】
 テーマ：【生化学領域④】酵素化学(1)
 内容・方法：唾液アミラーゼによるでんぷん分解実験 酵素作用について学ぶ
 【第13回】
 テーマ：【生化学領域⑤】酵素化学(2)
 内容・方法：唾液アミラーゼによるでんぷん分解実験 酵素の性質について学ぶ
 【第14回】
 テーマ：【生化学領域⑥】代謝実験
 内容・方法：酵母を用いたグルコース代謝実験 解糖系について学ぶ
 【第15回】
 テーマ：【生化学領域⑦】実験まとめ
 内容・方法：生化学領域の復習

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

実験内容に関する内容について、1年次に活用した教科書やノートを参考に事前学習を行うこと。
 実験終了後は、参考図書等を活用し、レポート作成を行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出されたレポートにはコメントをつけて返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 なお、正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価とする(例：欠席5回、遅刻1回となった場合「K」評価となる)。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	復習レポート(20)	4, 5
授業外での評価	60	実験レポートの完成度(60)	1, 2, 3, 4, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	実験内容に関するレポート課題の到達度(10)	4, 5
その他	10	実験中の取り組み状況(10)	1, 2

テキスト オリジナルの実験テキストファイルを配布する。

参考書 基礎栄養学、生化学及び解剖生理学で使用した教科書

履修条件・他の科目との関連 基礎栄養学、生化学及び解剖生理学以外に食品学実験や食品衛生学実験で学んだ実験手技に関する内容は復習をしておくこと。
 毒性のある試薬を扱うので、実験に対しては真摯な態度で臨むこと。
 実験衣及び実習用シューズを忘れた場合、実験には参加させないこともあります(別テーマを課します)。
 受講態度の悪い学生に対しては退出を命ずることもあります。
 「栄養士免許必須科目」である

授業コード	22017301	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	食品学総論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	海老澤 薫				
シラバス執筆(主)	海老澤 薫				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、対象者に対して安全でおいしく、適切な食事を提供するうえで必要となる食事の基本や食品の知識を学び、食品に含まれるさまざまな成分の性質や所在を理解することを目的とする。本講義での学修内容と栄養成分の体内での動態、調理工程における食品の化学的変化、食品の衛生的な加工保存とを関連させて理解できるように解説する。具体的には、人間と食行動、食料自給率や食品ロスなどの食をめぐる諸問題、食品の分類、食品の機能性、特別用途食品、保健機能食品、五大栄養素（炭水化物・脂質・たんぱく質・無機質・ビタミン）および嗜好成分（色素成分・呈味成分・香気成分）の性質と化学的特徴、食品成分間反応（酵素・非酵素的反応）について説明する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

- C-3. 食事・食べ物の基本
 - 3-1) 食事の理解
 - 3-2) 食品の主要な成分と特性
- D-1. 食べ物と健康の関連の理解
 - 1-1) 食品成分表
 - 1-2) 食材の特徴と調理・加工
 - 1-6) 食品の機能性
 - 1-7) 特別用途食品・保健機能食品・いわゆる健康食品

到達目標

1. 人間と食行動について説明できる
2. 食料自給率や食品ロスなどの食をめぐる諸問題について説明できる
3. 食品の分類について説明できる
4. 食品の機能性について説明できる
5. 特別用途食品について説明できる
6. 保健機能食品について説明できる
7. 五大栄養素（炭水化物・脂質・たんぱく質・無機質・ビタミン）の性質と化学的特徴について説明できる
8. 嗜好成分（色素成分・呈味成分・香気成分）の性質と化学的特徴について説明できる
9. 食品成分間反応（酵素・非酵素的反応）について説明できる

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション、食と人間、食をめぐる諸問題
- 【第2回】 食品の機能、特別用途食品、保健機能食品
- 【第3回】 水の特徴、食品中の水
- 【第4回】 炭水化物(1) 糖質の種類、単糖類の構造と特徴、オリゴ糖
- 【第5回】 炭水化物(2) 多糖類、糖誘導体、甘味料
- 【第6回】 脂質(1) 脂質の分類と構成成分、脂肪酸の構造と命名法
- 【第7回】 脂質(2) 油脂の物理的性質および化学的性質
- 【第8回】 タンパク質(1) タンパク質の構造、アミノ酸の種類と特徴
- 【第9回】 タンパク質(2) タンパク質の種類と性質
- 【第10回】 ミネラル ミネラルの種類と食品における役割、酸性食品とアルカリ性食品
- 【第11回】 ビタミン ビタミンの種類と特徴
- 【第12回】 嗜好性成分(1) 呈味成分、基本味とは、味の相互作用
- 【第13回】 嗜好性成分(2) 香気成分、調理や加工における香り成分の生成について
- 【第14回】 嗜好性成分(3) 食品中の色、色素の種類と化学的特徴
- 【第15回】 食品成分間反応 食品の酸化と劣化、酵素による食品成分の変化、非酵素的褐変反応、食品学総論のまとめ

※場合によっては順番が前後する場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：講義に先立ち、教科書を読んでおくこと。
 事後学習：配布資料や教科書を読み、各自ノートをまとめること。
 事前事後ともに食品関連に関するニュースについて、随時情報を求め授業内容と関連させること。
 事前、事後学習を合わせ4時間程度の学習を必要とする。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に行う確認テストおよび課題レポートについては、採点および解説を行い返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
5回を超える欠席や正当な理由のない定期試験の欠席は成績評価を「K」とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	5	授業への取り組み姿勢(5) 問題行動(私語、居眠り、非協力的態度)等は減点対象とする。	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
授業外での評価	35	確認テスト(30) 講義内容に応じて確認テストを実施する。達成度に応じて評価する。 課題レポート(5) 講義内容に応じて課題レポートを課す。完成度に応じて評価する。	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
定期試験	60	試験を課し得点および完成度を評価する(60)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	<p>『栄養科学イラストレイテッド 食品学 I 改訂第2版 食べ物と健康 食品の成分と機能を学ぶ』 水品善之, 菊崎泰枝, 小西洋太郎 / 編、 羊土社 2,600円(税別) ISBN 978-4-7581-1365-6</p> <p>『調理のためのベーシックデータ 第6版』 女子栄養大学調理学研究室、女子栄養大学短期大学部調理学研究室 / 監修 女子栄養大学出版部 2,000円(税別) ISBN 978-4-7895-0325-9</p> <p>テキストは毎回持参すること。</p>
------	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。 プリントも適宜授業内に配布する。
-----	--------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>本科目は卒業必修科目および栄養士免許必修科目である。</p> <p>〈履修条件ほか〉 欠席が5回を超えた場合は評価不能(K評価)となる。</p> <p>〈他の科目との関連〉 食品学実験、食品学各論 I、II(加工学を含む)、食品衛生学、調理学、基礎栄養学 I と関連する。</p> <p>〈欠席時の配付資料の受け取りについて〉 配布時に欠席した場合には、教員まで配付資料の有無を確認して受け取りについて申し出ること</p>
---------------	--

授業コード	22017101	授業形態	実験	実務家教員	—
授業科目名	食品学実験 [対面]				
シラバス執筆(全員)	海老澤 薫				
シラバス執筆(主)	海老澤 薫				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本実験は、理化学実験に必要な基本的な知識と実験手技、データ解析について理解し、自ら実験を遂行できる力を修得すること、さらに食品学総論で学んだ知識を定着させることを目的とする。具体的には、実験を行う上での心構え（安全、環境への配慮と対策）、定性実験と定量実験の意味するもの、実験結果の観察およびデータの解析と報告書の作成方法、試薬の取り扱い（秤量と調製）、食品成分（糖質、たんぱく質、脂質、色素、香気、酸度）に関する定性・定量実験および公定法に基づく食品の一般成分分析について理解し、実践できるように説明および実験を実施する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

- D-1. 食べ物と健康の関連の理解
 - 1-1) 食品成分表
 - 1-2) 食材の特徴と調理・加工
- A-7. 科学的態度の形成と科学的探究

到達目標

1. 実験を行う上での心構え（安全、環境への配慮と対策）および定性実験と定量実験の意味するものが説明できる
2. 実験結果の観察およびデータの解析を行い報告書が作成できる
3. 試薬の取り扱い（秤量と調製）ができる
4. 食品成分（糖質、たんぱく質、脂質、色素、香気、酸度）に関する定性・定量実験および公定法に基づく食品の一般成分分析ができる

授業計画

【第1回】

テーマ：実験オリエンテーション、実験器具の種類および洗浄方法
 内容：実験を行う上での心構え、実験ノート、レポートの書き方および注意事項、実験器具の取扱方法について学ぶ。

【第2回】

テーマ：糖質に関する実験(1) デンプンの定性実験
 内容：様々な食品についてデンプンの有無および所在を確認する。

【第3回】

テーマ：糖質に関する実験(2) 糖の定性実験
 内容：数種類の定性反応を用いて、糖の判別を行う。

【第4回】

テーマ：食品の硬さや粘度に関する実験
 内容：咀嚼・嚥下困難者用食品について硬さや粘度等の物性について測定を行う。

【第5回】

テーマ：タンパク質およびアミノ酸に関する実験(1) タンパク質の分離
 内容：小麦粉および牛乳からタンパク質を分離し、定性反応を行う。

【第6回】

テーマ：タンパク質およびアミノ酸に関する実験(2) アミノ酸、タンパク質の定性反応
 内容：アミノ酸およびタンパク質の定性反応を利用して、未知試料について種類を判別する。

【第7回】

テーマ：色素に関する実験(1)
 内容：アントシアン色素、フラボノイド色素を食品から抽出し、pHの違いや金属イオンが与える影響を観察する。

【第8回】

テーマ：色素に関する実験(2)
 内容：食品中の緑色色素について、薄層クロマトグラフィーの手法から色素を分離する。

【第9回】

テーマ：食品の酸度に関する実験(1)
 内容：酸度測定に用いる水酸化ナトリウム水溶液の調製および力価測定を行う。試薬の調製方法およびビュレットの使い方について学ぶ。

【第10回】

テーマ：食品の酸度に関する実験(2)
 内容：第9回で調製した試薬を用いて、食品の酸度を中和滴定法により求める。

【第11回】

テーマ：リンの定量
 内容：モリブデンブルー法を用いて食品中のリンを定量する。分光光度計の操作および検量線作成について習得する。

【第12回・第13回】

テーマ：水分、灰分、脂質の定量

内容：2週にわたり、水分、灰分、脂質の定量を行う。栄養表示のための公定法について理解する。

【第14回】

テーマ：嗅覚に関する実験および食品中の香気成分の抽出

内容：嗅覚に関する検査および嗜好飲料や香辛料から香気成分を抽出し、香りを比較する。

【第15回】

テーマ：実験成果発表および食品学実験のまとめ、確認テスト

内容：グループ毎に前期に学んだ実験テーマから1つを選び、プレゼンテーションを行う。さらに、第14回までの実験内容について確認テストを実施し、解説を行う。

※実験の順番は進捗状況に応じて、前後することがある。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

実験は事前の準備（予習）を怠ると、正しい結果が得られないだけでなく事故や怪我にもつながる。実験ノートに沿って実験当日までにじゅうぶんな予習を行い、実験の流れをシミュレーションすること。予習にあたっては、「食品学総論」の講義内容と関連させること。食品学実験では、器具や試薬の名称など専門用語も多く使われる。不明な用語はそのままにせず、自分の言葉で説明できるよう調べること。実験で得られた知識を食品学総論や調理学、その他の栄養士専門科目とリンクして考えられるようにすること。

課題に対するフィードバックの方法

実験ノートや課題レポートについては提出を求め、添削後評価を付して返却する。実験成果発表会については、発表スライドについて講評を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。5回を超える欠席は成績評価「K」とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	実験15回目に到達度テストを実施して点数に応じて評価する(35) 実験に対する態度(積極性や協調性を含む)について評価する(15)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポートを課し、完成度について評価する(10)	1, 2, 3, 4
その他	40	実験ノートの完成度を評価する(30) 実験成果発表会用のスライドの完成度について評価する(10)	1, 2, 3, 4

テキスト	<ul style="list-style-type: none">・プリント(実験書、実験ノート)を予め配布する。・『はじめようHACCP HACCPの考え方を取り入れた衛生管理のための手引書』 著者・出版 日本食品衛生協会 700円(税別) ISBN 978-4-88925-097-8
------	--

参考書	食品学総論で指定したテキスト 場合によって、食品成分表の持参を求められることがある。
-----	---

履修条件・他の科目との関連	<p>本科目は栄養士免許必修科目である。</p> <p>〈履修条件ほか〉 欠席が5回を超えた場合は評価不能(K評価)となる。</p> <p>実験を行う上で相応しい身なり(実験用白衣・実験靴・手拭き・頭髪)で受講すること。 実験用白衣、実験靴などを忘れた場合には当日の実験には参加できず、欠席となるので注意すること。 実験上の安全や衛生に関する取り決めを守れない場合、退室してもらう場合がある。</p> <p>〈他の科目との関連〉 食品学総論、食品学各論Ⅰ、食品学各論Ⅱ(加工学を含む)と関連する。</p> <p>〈欠席時の配付資料の受け取りについて〉 配布時に欠席した場合には、教員まで配付資料の有無を確認して受け取りについて申し出ること</p>
---------------	---

授業コード	22016701	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	食品衛生学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	海老澤 薫				
シラバス執筆(主)	海老澤 薫				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、食品の安全の確保や衛生管理を実施するために必要な法規や制度、食品のリスクや病原性微生物、有害物質による食品の汚染と防止法、食品衛生の観点からの食品の調理・加工における原理や食品成分の変化について理解し、安全な食品・食事を提供するための基礎を身につけることを目的とする。具体的には、食品衛生行政および食品衛生に関連する法律、食中毒の分類および特徴（細菌、ウイルス、自然毒、化学物質など）、食物アレルギー、有害物質による食品汚染、食品添加物の種類と規格基準、食品の器具・容器・包装、遺伝子組換え食品、衛生管理基準やHACCP、食品の劣化原因およびその防止方法について説明ができ、食品の安全性に関する最新情報や法律改正について自ら情報を求めることができるように説明を行う。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

- D-1. 食べ物と健康の関連の理解
- 1-2) 食材の特徴と調理・加工
- 1-3) 食品の安全性
- 1-4) 病原性微生物, 有害物質による食品の汚染とその防止
- 1-5) 食品添加物

以下の項目とも関連する

- A-5. 栄養・食の質と安全の管理
- B-1. 社会および環境と健康の関わり
- 1-2) 環境と健康

到達目標

1. 食品衛生行政および食品衛生に関連する法律について説明ができる。
2. 食中毒の分類および特徴（細菌、ウイルス、自然毒、化学物質など）について説明ができる。
3. 食物アレルギーについて説明ができる。
4. 有害物質による食品汚染について説明ができる。
5. 食品添加物の種類と規格基準について説明ができる。
6. 食品の器具・容器・包装について説明ができる。
7. 遺伝子組換え食品について説明ができる。
8. 衛生管理基準やHACCPについて説明ができる。
9. 食品の劣化原因およびその防止方法について説明ができる。
10. 食品の安全性に関する最新情報や法律改正について自ら情報を求めることができる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション、食品衛生の概念
- 【第2回】 食品衛生に関わる法律および食品衛生行政
- 【第3回】 食品と微生物
- 【第4回】 食中毒(1) 食中毒の分類、細菌性食中毒
- 【第5回】 食中毒(2) ウイルス性食中毒、化学性食中毒
- 【第6回】 食中毒(3) 自然毒食中毒、化学物質による食中毒
- 【第7回】 食品媒介による感染症
- 【第8回】 有害物質による食品汚染(1) カビ毒、重金属
- 【第9回】 有害物質による食品汚染(2) 食物アレルギー、食品成分変化および調理加工中に生じる有害物質
- 【第10回】 有害物質による食品汚染(3) 農薬、動物用医薬品と飼料添加物、放射性物質
- 【第11回】 食品添加物(1) 食品添加物の概要、規格・基準、指針など
- 【第12回】 食品添加物(2) 食品添加物の種類と用途
- 【第13回】 食品の器具と容器・包装、遺伝子組換え食品
- 【第14回】 食品製造における衛生管理基準（HACCP）、マスターテーブル法
- 【第15回】 食品衛生学のまとめ

※進捗状況に応じて、順番が前後することがある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：講義に先立ち、教科書を読んでおくこと。
 事後学習：配布資料や教科書を読み、各自ノートをまとめること。
 事前事後ともに食品衛生に関するニュースについて、随時情報を求め授業内容と関連させること。
 事前、事後学習を合わせ4時間程度の学習を必要とする。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に行う確認テストについては、採点および解説を行い返却し、自学習へフィードバックさせる。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
5回を超える欠席、正当な理由のない定期試験の欠席は、成績評価「K」とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	5	授業への取り組み姿勢(5) 問題行動(私語、居眠り、非協力的態度)等は減点対象とする。	1～10
授業外での評価	35	確認テスト(30) 講義内容に応じて確認テストを実施する。達成度に応じて評価する。 課題レポート(5) 講義内容に応じて課題レポートを課す。完成度に応じて評価する。	1～10
定期試験	60	試験を課し、点数および完成度に応じて評価する。(60)	1～10
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	<p>『栄養科学イラストレイテッド 食品衛生学 改訂第3版』 田崎達明／編 羊土社 2,900円(税別) ISBN 978-4-7581-1372-4</p> <p>『はじめようHACCP HACCPの考え方を取り入れた衛生管理のための手引書』※ 著者・出版 日本食品衛生協会 700円(税別) ISBN 978-4-88925-097-8</p> <p>テキストは授業時に毎回持参すること。 ※のテキストは前期の食品学実験でもテキストとして指定している。 テキストは毎回持参すること。</p>
------	---

参考書	<p>必要に応じて授業の中で紹介する。 プリントも適宜授業内に配布する。</p>
-----	--

履修条件・他の科目との関連	<p>本科目は卒業必修科目および栄養士免許必修科目である。</p> <p>〈履修条件ほか〉 欠席が5回を超えた場合は評価不能(K評価)となる。</p> <p>〈他の科目との関連〉 食品衛生学実験、食品学総論、給食管理、給食管理実習、実践給食管理実習と関連する。</p> <p>〈欠席時の配付資料の受け取りについて〉 配布時に欠席した場合には、教員まで配付資料の有無を確認して受け取りについて申し出ること</p>
---------------	---

授業コード	22016801	授業形態	実験	実務家教員	—
授業科目名	食品衛生学実験 [対面]				
シラバス執筆(全員)	海老澤 薫				
シラバス執筆(主)	海老澤 薫				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本実験は、食品衛生学で学んだ病原性微生物、有害物質による食品の汚染と防止法および安全な食品・食事を提供するための知識を活用し、食品衛生に関する実験技術を修得することを目的とする。具体的には、水質検査、食品残留成分、洗剤の残存度、食物アレルギー物質の判定、食物アレルギー様物質（ヒスタミン）、食品添加物、油脂の変敗、微生物検査に関する実験が実践できるよう説明を行う。さらに、本実験で身につけた知識および技術を大量調理施設衛生管理マニュアルの実践や食品の調理・加工の際に活用し、調理現場における課題の発見へとつなげられるよう実験を展開する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

- D-1. 食べ物と健康の関連の理解
 1-3) 食品の安全性
 1-4) 病原性微生物, 有害物質による食品の汚染とその防止
 1-5) 食品添加物

以下の項目とも関連する

- A-5. 栄養・食の質と安全の管理
 A-7. 科学的態度の形成と科学的探究

到達目標

1. 水質検査に関する実験ができる
2. 食品残留成分に関する実験ができる
3. 洗剤の残存度に関する実験ができる
4. 食物アレルギー物質の判定に関する実験ができる
5. 食物アレルギー様物質（ヒスタミン）に関する実験ができる
6. 食品添加物に関する実験ができる
7. 油脂の変敗に関する実験ができる
8. 残留農薬に関する実験ができる
9. 微生物検査に関する実験ができる

授業計画

【第1回】

テーマ：実験オリエンテーション

内容：実験を行う上での心構え、実験ノート、レポートの書き方、衛生管理について学ぶ

【第2回】

テーマ：水質検査

内容：パックテストを用いて数種の水の水質基準項目を判定する。硬度についてはキレート滴定によって測定する。

【第3回】

テーマ：食器等の洗浄度

内容：タンパク質、デンプン、脂質、洗剤の残存度合いについて判定する。

【第4回】

テーマ：食物アレルギー物質の判定

内容：食品に含まれるアレルギー物質（アレルゲン）の有無を市販の簡易キットを用いて検出する。

【第5回】

テーマ：食物アレルギー様物質の判定

内容：魚肉中に含まれるヒスタミンについて検出を行う。

【第6回】

テーマ：食品添加物の分析(1) 着色料の分析

内容：食品に含まれる合成着色料を毛糸染色法を用いて抽出し薄層クロマトグラフィーによって定性を行う。

【第7回】

テーマ：食品添加物の分析(2) 亜硝酸塩、漂白剤、ソルビン酸の分析

内容：亜硝酸塩、漂白剤、ソルビン酸について市販の検査紙も併用しながら定性を行う。

【第8回】

テーマ：油脂の変敗(1) 酸価の測定

内容：変敗の指標である酸価について滴定法より測定を行う。

【第9回】

テーマ：油脂の変敗(2) 過酸化物質、油脂劣化度の測定

内容：過酸化物質について滴定法より測定を行う。また、簡易試験紙、キットを用いて油脂劣化度を判定する。

【第10回】

テーマ：残留農薬検査、加熱による食品内部の温度変化

内容：市販のキットを用いて、食品（主に野菜類）中の残留農薬の有無を判定する。食品の加熱による内部温度の変化について測定する。

【第11・12・13回】

テーマ：微生物検査

内容：微生物実験を行う上での諸注意、手洗いチェック、スタンプ法による手指の一般細菌検出、拭き取り法による食品表面の一般細菌の検出、市販食品に含まれる細菌の培養およびグラム染色を行う。

【第14回】

テーマ：実験成果発表会および確認テスト

内容：グループ毎に後期に学んだ実験テーマから1つを選び、プレゼンテーションを行う。また、食品衛生学実験第13回目までの内容について確認テストを行う。

【第15回】

食品衛生学実験のまとめおよび確認テストの解説

内容：食品衛生学実験の内容について復習を行う。また、確認テストについて解説を行う。

※実験の順番は進捗状況に応じて、前後することがある。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

実験は事前の準備（予習）を怠ると、正しい結果が得られないだけでなく事故や怪我にもつながる。実験ノートに沿って実験当日までにじゅうぶんな予習を行い、実験の流れをシミュレーションすること。予習にあたっては、「食品衛生学」や「食品学総論」などの講義内容と関連させること。食品衛生学実験では、器具や試薬の名称など専門用語も多く使われる。不明な用語はそのままにせず、自分の言葉で説明できるよう調べる。実験で得られた知識を食品衛生学、調理学実習、給食管理実習等、他の栄養士専門科目とリンクして考えられるようにすること。

課題に対するフィードバックの方法

実験ノートや課題レポートについては提出を求め、添削後評価を付して返却する。実験成果発表会については、発表スライドについて講評を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。欠席が5回を超えた場合は評価不能（K評価）となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	実験15回目に到達度テストを実施して点数に応じて評価する(35) 実験に対する態度(積極性や協調性を含む)について評価する(15)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポートを課し、完成度について評価する(10)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
その他	40	実験ノートの完成度を評価する(30) 実験成果発表会用のスライドの完成度について評価する(10)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9

テキスト プリント(実験書、実験ノート)を予め配布する。

参考書 食品衛生学指定のテキスト
その他必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 本科目は栄養士免許必修科目である。

〈履修条件ほか〉
出欠席の確認
欠席が5回を超えた場合は評価不能(K評価)となる。

実験を行う上で相応しい身なり(実験用白衣・実験靴・手拭き・頭髪)で受講すること。
実験用白衣、実験靴などを忘れた場合には当日の実験には参加できず、欠席となるので注意すること。
実験上の安全や衛生に関する取り決めを守れない場合、退室してもらう場合がある。

〈他の科目との関連〉
食品衛生学、食品学総論、調理学実習Ⅰ・Ⅱ、給食管理、給食管理実習、実践給食管理実習と関連する。

〈欠席時の配付資料の受け取りについて〉
配布時に欠席した場合には、教員まで配付資料の有無を確認して受け取りについて申し出ること

授業コード	22032201	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	食品学各論Ⅰ [対面]				
シラバス執筆(全員)	海老澤 薫				
シラバス執筆(主)	海老澤 薫				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、食品成分表における食品の分類法、食材各種の特徴ならびに食品の調理・加工における原理や食品成分の変化を理解する、特別用途食品・保健機能食品・いわゆる健康食品の制度や表示を学び、それらの違いを理解することを目的とする。具体的には、農産物（穀類、イモ類、種実類、マメ類、野菜類、果実類、キノコ類）、水産物（海藻類を含む）の特徴およびその加工食品・加工原理、特別用途食品および保健機能食品（特定保健用食品）について説明する。食品学総論と併せて学ぶことにより、それぞれの食品について総合的に理解し、調理加工や献立作成の際に活用する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

- C-3. 食事・食べ物の基本
- 3-2) 食品の主要な成分と特性
- D-1. 食べ物と健康の関連の理解
- 1-1) 食品成分表
- 1-2) 食材の特徴と調理・加工
- 1-7) 特別用途食品・保健機能食品・いわゆる健康食品

到達目標

1. 穀類の特徴およびその加工食品・加工原理、食品成分の変化について説明できる
2. イモ類の特徴およびその加工食品・加工原理、食品成分の変化について説明できる
3. 種実類の特徴およびその加工食品・加工原理、食品成分の変化について説明できる
4. マメ類種実類の特徴およびその加工食品・加工原理、食品成分の変化について説明できる
5. 野菜類の特徴およびその加工食品・加工原理、食品成分の変化について説明できる
6. 果実類の特徴およびその加工食品・加工原理、食品成分の変化について説明できる
7. キノコ類の特徴およびその加工食品・加工原理、食品成分の変化について説明できる
8. 水産物（海藻類）の特徴およびその加工食品・加工原理、食品成分の変化について説明できる
9. 特別用途食品および保健機能食品（特定保健用食品）が説明できる

授業計画

- 【第1回】 動物性食品と植物性食品の特徴を学ぶ。食品学各論Ⅰで学ぶことを知る。米について学ぶ
- 【第2回】 米以外の穀類について学ぶ
- 【第3回】 イモ類の特性とその加工品について学ぶ
- 【第4回】 種実類の特性とその加工品について学ぶ
- 【第5回】 豆類の特性とその加工品について学ぶ 大豆とその加工品について学ぶ
- 【第6回】 豆類の特性とその加工品について学ぶ 大豆以外の豆類（小豆、インゲン豆、そら豆、緑豆など）とその加工品について学ぶ
- 【第7回】 野菜類の特性と加工品について学ぶ 野菜類の種類、栄養成分、特徴を学ぶ 葉菜類について特性とその加工品について学ぶ
- 【第8回】 野菜類の特性と加工品について学ぶ 茎菜類、根菜類、果菜類について特性とその加工品について学ぶ
- 【第9回】 野菜類の特性と加工品について学ぶ 花菜類の特性とその加工品について学ぶ 野菜類の機能性について学ぶ
- 【第10回】 果実類の特性とその加工品について学ぶ
- 【第11回】 キノコ類の特性とその加工品について学ぶ
- 【第12回】 海藻類の特性とその加工品について学ぶ
- 【第13回】 食品の保存と規格について学ぶ さまざまな食品の保存法とその理論を学ぶ
- 【第14回】 食品の保存と規格について学ぶ 食品の規格基準と表示、保健機能食品などについて学ぶ
- 【第15回】 授業の総まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：授業終了時に予習すべき内容を伝えるので、教科書、配布資料を熟読すること
 事後学習：授業プリント、教科書を読み返すこと。また、確認テストの振り返りを行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

課題については、解説および評価を付して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 5回を超える欠席や正当な理由のない定期試験の欠席は成績評価を「K」とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	5	授業への取り組み姿勢(5) 問題行動(私語、居眠り、非協力的態度)等は減点対象とする。	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
授業外での評価	35	確認テスト(30) 講義内容に応じて確認テストを実施する。達成度に応じて評価する。 課題レポート(5) 講義内容に応じて課題レポートを課す。完成度に応じて評価する。	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
定期試験	60	試験を課し、点数および完成度に応じて評価する。	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	<p>『栄養科学イラストレイテッド 食品学Ⅱ 改訂第2版 食べ物と健康 食品の分類と特性、加工を学ぶ』 栢野新市, 水品善之, 小西洋太郎／編 羊土社 2,700円(税別) ISBN 978-4-7581-1366-3</p> <p>『食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表2023』 新しい食生活を考える会編著 大修館書店 1,600円(税別) ISBN 9784469270167</p> <p>テキストは毎回持参すること。</p>
------	---

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。 プリントも適宜授業内に配布する。
-----	--------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>本科目は卒業必修科目および栄養士免許必修科目である。</p> <p>〈履修条件ほか〉 欠席が5回を超えた場合は評価不能(K評価)となる。</p> <p>〈他の科目との関連〉 食品学総論、食品学実験、食品学各論Ⅱ(加工学を含む)、食品衛生学、調理学、基礎栄養学Ⅰと関連する。</p> <p>〈欠席時の配付資料の受け取りについて〉 配布時に欠席した場合には、教員まで配付資料の有無を確認して受け取りについて申し出ること</p>
---------------	--

授業コード	22038701	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	食品学各論Ⅱ(加工学を含む) [対面]				
シラバス執筆(全員)	海老澤 薫				
シラバス執筆(主)	海老澤 薫				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、食材各種の特徴ならびに食品の調理・加工における原理や食品成分の変化を理解すること、保健機能食品・いわゆる健康食品の制度や表示を学び、それらの違いを理解することを目的とする。具体的には、畜産物、卵類、乳類、水産物(魚介類)の特徴やその加工食品・加工原理を説明できる、調味料、甘味料、香辛料、発酵食品、保健機能食品(機能性表示食品)・いわゆる健康食品などの特徴、加工食品の特徴とその原理、特別用途食品、保健機能食品(機能性表示食品、栄養機能性食品)、いわゆる健康食品について説明する。食品学各論Ⅰと食品学総論と併せて学修し、それぞれの食品について総合的に理解し、調理加工や献立作成の際に活用する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

- C-3. 食事・食べ物の基本
- 3-2) 食品の主要な成分と特性
- D-1. 食べ物と健康の関連の理解
 - 1-1) 食品成分表
 - 1-2) 食材の特徴と調理・加工
 - 1-7) 特別用途食品・保健機能食品・いわゆる健康食品
- D-2. 食事と調理の科学の理解
 - 2-2) 食べ物のおいしさの評価と応用

到達目標

1. 畜産物の特徴やその加工食品・加工原理を説明できる
2. 卵類の特徴やその加工食品・加工原理を説明できる
3. 乳類の特徴やその加工食品・加工原理を説明できる
4. 水産物(魚介類)の特徴やその加工食品・加工原理を説明できる
5. 調味料の特徴について説明できる
6. 甘味料の特徴について説明できる
7. 香辛料の特徴について説明できる
8. 発酵食品の特徴について説明できる
9. 特別用途食品、保健機能食品(機能性表示食品、栄養機能性食品)、いわゆる健康食品などの特徴について説明できる
10. 加工食品の特徴とその原理を説明できる

授業計画

- 【第1回】肉類の特性と加工について学ぶ-食肉の構造と成分、牛肉の特性と加工について-
- 【第2回】豚肉類・鶏肉類の特性と加工について学ぶ
- 【第3回】魚介類の特性と加工について学ぶ①-魚介類の種類と構造、成分について学ぶ-
- 【第4回】魚介類の特性と加工について学ぶ②-魚類の死後硬直、鮮度判定について学ぶ-
- 【第5回】魚介類の特性と加工について学ぶ③-主な魚介類の特性と加工について学ぶ-
- 【第6回】卵類の特性と加工について学ぶ-卵類の構造、成分、貯蔵による成分変化、加工について学ぶ-
- 【第7回】乳類の特性と加工について学ぶ①-牛乳の成分と種類、特性について学ぶ-
- 【第8回】乳類の特性と加工について学ぶ②-牛乳の加工、種類、製造工程について学ぶ-
- 【第9回】調味料類、油脂の種類と特性について学ぶ-食用油脂の種類と特性、調味料の種類について学ぶ-
- 【第10回】調味料類、甘味料の種類と特性について学ぶ-甘味料の種類と特性を学ぶ-
- 【第11回】調味料類、塩、味噌、香辛料について学ぶ-塩、味噌、香辛料の製造工程、特性などを学ぶ-
- 【第12回】発酵食品の種類とその特性について学ぶ-発酵食品(味噌、アルコール飲料、漬物など)の製造工程、微生物について学ぶ-
- 【第13回】健康食品について学ぶ-保健機能食品の種類と特性について学ぶ-
- 【第14回】機能性食品について学ぶ-期の異性食品についてその種類と特性について学ぶ-
- 【第15回】授業の総まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：講義に先立ち、教科書を読んでおくこと。
 事後学習：配布資料や教科書を読み、各自ノートをまとめること。
 事前事後ともに食品関連に関するニュースについて、随時情報を求め授業内容と関連させること。
 事前、事後学習を合わせ4時間程度の学習を必要とする。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に行う確認テストおよび課題レポートについては、採点および解説を行い返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
5回を超える欠席や正当な理由のない定期試験の欠席は成績評価を「K」とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	5	授業への取り組み姿勢(5) 問題行動(私語、居眠り、非協力的態度)等は減点対象とする。	1～10
授業外での評価	35	確認テスト(30) 講義内容に応じて確認テストを実施する。達成度に応じて評価する。 課題レポート(5) 講義内容に応じて課題レポートを課す。完成度に応じて評価する。	1～10
定期試験	60	試験を課し得点および完成度を評価する(60)	1～10
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	<p>『健康・栄養系教科書シリーズ4 食べものと健康Ⅱ』※ 喜多野宣子、上村昭子、久木久美子著 化学同人 2,100円(税別) ISBN: 9784759818192 ※1年次の食品学各論Ⅰにて購入した学生は新規に購入する必要はない。</p> <p>『食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表2023』 新しい食生活を考える会編著 大修館書店 1,600円(税別) ISBN 9784469270167</p> <p>テキストは毎回持参すること。</p>
------	---

参考書	<p>必要に応じて授業の中で紹介する。 プリントも適宜授業内に配布する。</p>
-----	--

履修条件・他の科目との関連	<p>本科目は栄養士免許必修科目である。</p> <p>〈履修条件ほか〉 欠席が5回を超えた場合は評価不能(K評価)となる。</p> <p>〈他の科目との関連〉 食品学総論、食品学実験、食品学各論Ⅰ、食品衛生学、調理学、基礎栄養学Ⅰと関連する。</p> <p>〈欠席時の配付資料の受け取りについて〉 配布時に欠席した場合には、教員まで配付資料の有無を確認して受け取りについて申し出ること</p>
---------------	---

授業コード	22043801	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	食品学実習（加工学を含む） [対面]				
シラバス執筆(全員)	尾関 清子				
シラバス執筆(主)	尾関 清子				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本実習は、調理学、食品学総論、食品学各論Ⅰ、食品学各論Ⅱ（加工学を含む）で学んだ食材各種の特徴ならびに食品の調理・加工における原理や食品成分の変化の知識を活用し、食品を適切に調理・加工ができる技術を身につけることを目的とする。具体的には、米の種類と食味の違いについて説明できる、小麦粉の種類に適した加工ができる、みその製造ができる、肉の軟化法について説明できる、卵液の凝固法について説明できる、凝固剤および膨化剤の種類と違いについて説明できる、牛乳を用いた乳製品の加工ができる、ジャムの加工ができることである。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

A-7. 科学的態度の形成と科学的探究

D-1. 食べ物と健康の関連の理解

1-2) 食材の特徴と調理・加工

到達目標

1. 米の種類と食味の違いについて説明できる
2. 小麦粉の種類に適した加工ができる
3. みその製造ができる
4. 肉の軟化法について説明できる
5. 卵液の凝固法について説明できる
6. 凝固剤および膨化剤の種類と違いについて説明できる
7. 牛乳を用いた乳製品の加工ができる
8. ジャムの加工ができる
9. チームで協働して、加工品の製造ができる

授業計画

- 第1回 オリエンテーション 実習の進め方、レポートの書き方、心構え
加工食品の種類について学ぶ
- 第2回 味噌 塩麴の加工を学ぶ
- 第3回 小麦粉の種類とうどんの製造を学ぶ
- 第4回 リンゴジャム、トマトピューレの製造を学ぶ
- 第5回 米粉と小麦粉でケーキを焼く
- 第6回 肉の軟化実験(塩麴は第2回の実習で製造したもの)と凝固剤の特徴を知る
- 第7回 卵の加熱と卵液の特徴を学ぶ
- 第8回 乳製品(アイスクリーム、バター)の製造を学ぶ
- 第9回 豆の加工と米粉の加工
- 第10回 ロールパンの製造(9回で製造した餡を使用)
- 第11回 ホットケーキの色の変化とイモの種類の実験
- 第12回 食品の乾燥について学ぶ
- 第13回 ピザを焼く(トマトピューレは4回で製造したもの)
- 第14回 米の種類と五平餅(味噌は2回に製造)を作る
- 第15回 第2回目に製造した味噌と乾燥野菜を使用してみそ汁を作る

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前学習：授業終了時に予習すべき内容を伝えるので、教科書等で学習しておくこと

事後学習：実習後は、実習あるいは実験結果をレポートにまとめて提出する。

また、各回レポートと課題を課すので、課題提出もすること

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは、実習時間内の待ち時間等に行う。
プリントによって行う。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内での評価：実習への取り組み姿勢を評価(実習内容の理解、班員との協力姿勢など) 1～10すべて

レポート課題：レポートの内容で評価 1～10すべて

課題の提出と内容を評価 1～10すべて

正当な理由なく、5回をこえて欠席した場合は「K」評価とする

正当な理由なく、定期試験を欠席した場合は「K」評価とする

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	実習への取り組み姿勢を評価 実習態度(30) 実習内容の理解(10) 班員との協力姿勢(10)	1～10
授業外での評価	30	レポートの内容で評価 (15) 課題の提出と内容を評価 (15)	1～10
定期試験	20	実習で学んだ内容、課題内容から定期試験を行う(20)	1～10
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	なし 各回プリントを用意します 欠席した学生については、次週に配布しますので、申し出てください。
------	--

参考書	必要に応じ紹介する
-----	-----------

履修条件・他の科目との関連	<p>栄養士免許必修科目である。 実習には、白衣、実習帽が必要です。忘れた場合は、実習できません。 栄養士にとって食品についての知識は重要である。 どんな食品からできているか、またどのようにできているか、なぜその食品を使うのか、食品の知識をすべて取り出して総合的に判断できる力を身につけてほしい</p> <p>正当な理由なく、5回を超えて欠席、また正当な理由なく定期試験を欠席した場合は、評価の対象とせず「K」評価とする</p> <p>欠席した学生については、前回のテキストは次回に配布しますので、申し出てください。</p>
---------------	--

授業コード	22032401	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	基礎栄養学 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	坂井 孝				
シラバス執筆(主)	坂井 孝				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、栄養素の種類と働きおよび栄養素（特に糖質・脂質・たんぱく質）の消化・吸収・代謝（異化・同化）について、栄養素別に理解することを目的とする。具体的には、栄養の意義、摂食調節のしくみ、栄養素の消化・吸収メカニズムとその体内動態、栄養素（炭水化物、脂質、たんぱく質）の栄養学的役割と相互関連について説明する。また、人体における栄養素の消化・吸収にかかわる器官（消化器系、特に小腸）の構造と機能を学び、消化・吸収機能の維持の重要性について説明し、健康の保持・増進、生活習慣病の発症予防・重症化予防における栄養素の基礎的役割を理解できるように概説する。

【栄養学教育モデル・コアカリキュラムとの関連性】

- C-1 人体の構造と機能
 - 1-1) 生体成分、細胞、組織、臓器・器官の構造と機能
- C-2 栄養と栄養素等のはたらき
 - 2-1) 栄養の意義
 - 2-2) 摂食行動の仕組み
 - 2-3) 栄養素等の消化・吸収のメカニズム
 - 2-4) 炭水化物の栄養学役割
 - 2-5) 脂質の栄養学的役割
 - 2-6) たんぱく質の栄養学的役割

以下の項目とも関連する
A-2 栄養学の知識と課題対応能力

到達目標

1. 栄養と栄養素について説明できる
2. 栄養と健康の関わりについて説明できる
3. 摂食行動の調節機構について説明できる
4. 炭水化物の栄養学的役割について説明できる
5. 脂質の栄養学的役割について説明できる
6. たんぱく質・アミノ酸の栄養学的役割について説明できる

授業計画

- 【第1回】
テーマ：栄養の概念
内容・方法：栄養とは何か 栄養と栄養素について学ぶ（講義）
- 【第2回】
テーマ：食物の摂取
内容・方法：「食べる」を考える（グループワーク）
- 【第3回】
テーマ：食べた栄養素はどのように消化・吸収されるのか①
内容・方法：消化酵素の働き、消化器官との関係について学ぶ（講義）
- 【第4回】
テーマ：食べた栄養素はどのように消化・吸収されるのか②
内容・方法：栄養素の吸収機構について学ぶ（講義）
- 【第5回】
テーマ：食べた栄養素はどのように消化・吸収されるのか③
内容・方法：消化・吸収されない栄養素は体にとって必要なのかを考える（講義）
- 【第6回】
テーマ：糖質の栄養①
内容・方法：糖質の種類と栄養学的役割について学ぶ（講義）
- 【第7回】
テーマ：糖質の栄養②
内容・方法：血糖値とは何か 食事と血糖値の関係について学ぶ（講義）
- 【第8回】
テーマ：糖質の栄養③
内容・方法：糖質の栄養のまとめ（演習レポート）
- 【第9回】
テーマ：脂質の栄養①
内容・方法：脂質の種類と栄養学的役割について学ぶ（講義）
- 【第10回】
テーマ：脂質の栄養②
内容・方法：脂質の体内動態（吸収後のゆくえ）について学ぶ（講義）
- 【第11回】

テーマ：脂質の栄養③

内容・方法：脂質の栄養のまとめ（演習レポート）

【第12回】

テーマ：たんぱく質・アミノ酸の栄養①

内容・方法：たんぱく質・アミノ酸の種類と栄養学的役割について学ぶ（講義）

【第13回】

テーマ：たんぱく質・アミノ酸の栄養②

内容・方法：たんぱく質・アミノ酸の体内動態（合成と分解）について学ぶ（講義）

【第14回】

テーマ：たんぱく質・アミノ酸の栄養③

内容・方法：たんぱく質・アミノ酸の栄養のまとめ（演習レポート）

【第15回】

テーマ：基礎栄養学Ⅰの総まとめ

内容・方法：栄養素の役割について、食事による体内変化について考える（演習）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後あわせて90時間（授業時間30時間、事前事後学習時間60時間）必要です。

事前学習：授業をまとめた動画を視聴する（1.0時間）

事後学習：各回の内容について動画を活用し復習し（1.5時間）、確認テストの勉強をする（1.5時間）。

課題に対するフィードバックの方法

各回の確認テスト：テスト終了後に解答解説を行い、間違えた部分の確認を行う。

演習レポート：コメントを付記し、返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

なお、正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価とする（例：欠席5回、遅刻1回となった場合「K」評価となる）。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	確認テストの点数30(各回10点満点の確認テストを実施、総得点を30点満点としたときの点数に換算する)	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	15	演習レポート15(3回×5点)	1, 2, 3, 4, 5, 6
定期試験	40	定期試験期間中の試験の得点(40)	1, 2, 3, 4, 5, 6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	15	学習ノートの活用(15)	1, 2, 3, 4, 5, 6

テキスト	栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学第4版 編/田地陽一 羊土社 2,800+税 ISBN978-4-7581-1360-1
------	---

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	食品学総論と関連した内容が多いので、両科目を横断的に学習すること。 1回目の授業時に学習ノート(オリジナルで教科書に準じたもの)を配布します。事前・事後学習に活用すること(提出あり)。 【講義を欠席する場合】プリント類はクラスルームに保存しておくので、自分でダウンロードすること。 「卒業必修科目」 「栄養士免許必須科目」
---------------	---

授業コード	22032501	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	基礎栄養学Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	本田 杏奈				
シラバス執筆(主)	本田 杏奈				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、栄養素の種類と働き、水分代謝、エネルギー代謝および食事摂取基準について理解することを目的とする。具体的には、ビタミンの栄養学的役割と他の栄養素との関係、ミネラル（無機質）の栄養学的役割と他の栄養素との関係、水・電解質の代謝と栄養学的役割、エネルギー代謝（エネルギー代謝の概念、基礎代謝、安静時代謝、活動時代謝、食事誘発性熱産生、エネルギー代謝の測定法、エネルギー出納）について説明する。さらに、「日本人の食事摂取基準」の策定の基本を学び、エネルギーや各栄養素の摂取基準の科学的根拠と、使用されている指標の意味および適切な活用について、これまでに学んだことを基礎として演習を組み入れ、健康の保持・増進、生活習慣病の発症予防・重症化予防における栄養管理・栄養指導に関わる基礎的知識を身につけられるように展開する。

【栄養学教育モデル・コアカリキュラムとの関連性】

- C-2 栄養と栄養素等のはたらき
- 2-7) ビタミンの栄養学的役割
- 2-8) ミネラル（無機質）の栄養学的役割
- 2-9) 水・電解質の栄養学的役割
- 2-10) エネルギー代謝
- C-4 食事の管理を中心とした栄養管理の基本
- 4-2) 日本人の食事摂取基準の理解
 - A 栄養士として求められる基本的な資質・能力
 - A-2 栄養学の知識と課題対応能力
 - A-7 科学的態度の形成と科学的探究

到達目標

1. ビタミンの栄養学的役割と他の栄養素との関係について説明できる。
2. ミネラル（無機質）の栄養学的役割と他の栄養素との関係について説明できる。
3. 水・電解質の代謝と栄養学的役割について説明できる。
4. エネルギー代謝（エネルギー代謝の概念、基礎代謝、安静時代謝、活動時代謝、食事誘発性熱産生、エネルギー代謝の測定法、エネルギー出納）について説明できる。
5. 日本人の食事摂取基準（考え方と活用法、指標、摂取基準策定）について説明できる。

授業計画

- 【第1回】ビタミンの栄養①
脂溶性ビタミンについて学ぶ（講義）
- 【第2回】ビタミンの栄養②
水溶性ビタミンについて学ぶ（講義）
- 【第3回】ミネラルの栄養①
多量ミネラルの生体内での働きについて学ぶ（講義）
- 【第4回】テーマ：ミネラルの栄養②
微量ミネラルの生体内での働きについて学ぶ（講義）
- 【第5回】水について①
水の生体内での働きについて学ぶ（講義）
- 【第6回】水について②・電解質代謝と栄養
浮腫・脱水と電解質代謝について学ぶ（講義）
- 【第7回】エネルギー代謝①
エネルギーの概念 エネルギー代謝について学ぶ（講義）
- 【第8回】エネルギー代謝②
エネルギー消費量について学ぶ（講義）
- 【第9回】エネルギー代謝③
エネルギー代謝量測定法について学ぶ（講義）
- 【第10回】エネルギー消費量を計算する
エネルギー消費量を各自で算出する（演習）
- 【第11回】食事摂取基準と健康①
日本人の食事摂取基準の概要について学ぶ（講義）
- 【第12回】食事摂取基準と健康②
日本人の食事摂取基準の指標について学ぶ（講義・演習）
- 【第13回】食事摂取基準と健康③
日本人の食事摂取基準を使用するための対象を理解する（講義・演習）
- 【第14回】栄養素摂取と健康④
各自の栄養素摂取状況を評価する
- 【第15回】基礎栄養学Ⅱのまとめ
基礎栄養学Ⅱに関するまとめ

※授業計画が前後する場合があります。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：教科書を事前に読んでおく。(各回1時間)

事後学習：各回の内容について復習を行い、確認テストに備えておく。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に返却し解説等を実施予定

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価となる(欠席5回、遅刻1回で「K」評価)。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	25	確認テスト(25)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	25	授業中の課題(25)	1, 2, 3, 4, 5
定期試験	50	筆記試験(50)	1, 2, 3, 4, 5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト 栄養科学イラストレイテッド 基礎栄養学第4版/編著 田地陽一/羊土社/2,800+税/ISBN978-4-7581-1360-1

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 この科目は、卒業必修科目、栄養士免許必修科目である。
「基礎栄養学Ⅰ」を履修済みであることが望ましい。やむを得ず欠席した場合は、次の回までに授業内容を確認し、自宅学習すること。
欠席時の配付プリントは、次回授業時に申し出てください。
5回を超えて欠席した場合は、K評価となる。
<他科目との関連>
「生化学」と関連した内容が多いので、両科目を横断的に学習すること。

授業コード	22032601	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	応用栄養学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	木下 佳代子				
シラバス執筆(主)	木下 佳代子				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、ライフステージ（妊娠期、授乳期、乳児期、幼児期、学童期、思春期、成人期、更年期、高齢期）別に、身体的・生理的特徴を理解し、それぞれの対象者にあった食事の管理を中心とした栄養管理について説明できることを目的とする。具体的には、ライフステージ別の生理的・身体的特徴、身体発育曲線および体格指数を用いた栄養評価、「日本人の食事摂取基準」を用いた食事の管理を中心とした一般的な栄養管理、ライフステージ別に特徴的な疾病とその予防のための栄養管理について説明する。管理栄養士として栄養相談や給食管理を行ってきた経験を活かし、実務家教員として具体的で実践的な内容を解説しながら授業を行う。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

- E-1 ライフステージ別の食事の管理を中心とした栄養管理
 1-1) 妊娠期、授乳期の食事の管理を中心とした栄養管理
 1-2) 新生児期、乳児期の食事の管理を中心とした栄養管理
 1-3) 幼児期、学童期、思春期の食事の管理を中心とした栄養管理
 1-4) 成人期、更年期の食事の管理を中心とした栄養管理
 1-5) 高齢期の食事の管理を中心とした栄養管理

到達目標

1. ライフステージ別の生理的・身体的特徴について説明できる。
2. 身体発育曲線および体格指数を用いた栄養評価について説明できる。
3. 「日本人の食事摂取基準」を用いた食事の管理を中心とした一般的な栄養管理について説明できる。
4. ライフステージ別に特徴的な疾病を理解し、その予防のための栄養管理について説明できる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション、日本人の食事摂取基準の基礎的理解
 第2回 成長・発達・加齢
 第3回 妊娠期、授乳期① 妊娠・授乳期の生理的特徴
 第4回 妊娠期、授乳期② 妊娠・授乳期の栄養アセスメントと栄養ケア
 第5回 新生児期、乳児期① 新生児・乳児期の生理的特徴
 第6回 新生児期、乳児期② 新生児・乳児期の栄養アセスメントと栄養ケア
 第7回 成長期① 幼児期
 第8回 成長期② 学童期・思春期
 第9回 成人期① 成人・更年期の生理的特徴と生活習慣の現状
 第10回 成人期② 成人期の生活習慣病と栄養ケア
 第11回 高齢期① 高齢期の生理的特徴
 第12回 高齢期② 高齢期の栄養アセスメントと栄養ケア
 第13回 運動・スポーツと栄養
 第14回 環境と栄養
 第15回 栄養ケア・マネジメント（栄養管理プロセス）

※授業計画が前後する場合があります。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業前にテキストやClassroomにアップされる資料を用いて予習をする。（1回につき1時間以上）
 授業後テキストを読み返し練習問題を使って復習し、課題を行う。（1回につき2時間以上）
 さまざまなライフステージの栄養や健康問題に関する情報を新聞等で収集し、レポート課題を行う。（1回につき1時間以上）
 基礎科目の内容が関わってくるので、特に前期の「基礎栄養学Ⅰ」「調理学」「食品学総論」、同時進行の「基礎栄養学Ⅱ」「食品学各論Ⅰ」についても復習しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

課題については解答を配付し、解説を行う。その後復習をすること。

成績評価の方法・基準(方針)

それぞれの項目で一定基準以上であり、尚且つ以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点を合格とし、単位を認定する。
 それぞれの項目における基準については、授業中に説明する。
 5回をこえて授業に欠席した場合は評価の対象とせず、「K」評価となる。（欠席5回、遅刻1回で「K」評価）

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	各章ごとの課題や小テスト(20)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	レポート課題(20)	1, 4
定期試験	60	筆記試験(60)	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	栄養科学イラストレイテッド応用栄養学 改訂第2版 / 編著 栢下 淳・上西一弘 / 羊土社 2,800+税 / ISBN 978-4-7581-1364-9
------	---

参考書	必要に応じて授業内で紹介する。
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	<p>栄養士免許必修科目である。</p> <p>本講義を学習するための基礎となる科目は「基礎栄養学」「調理学」「食品学」である。</p> <p>学習にあたっては、さまざまなライフステージの栄養や健康問題に関する情報を新聞等で収集するように努めること。</p> <p>やむを得ず欠席した場合、次回の授業までに教科書を読んで自分で勉強する、課題を行う、配付プリントがある場合は研究室まで取りに行く、わからない場合は教員に確認すること。</p>
---------------	---

授業コード	22032701	授業形態	実習	実務家教員	○
授業科目名	応用栄養学実習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	木下 佳代子				
シラバス執筆(主)	木下 佳代子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本実習は、応用栄養学で学んだ知識を基に、ライフステージ別の食事の管理を中心とした栄養管理を実践するための知識と技術を修得することを目的とする。具体的には、妊娠期、授乳期、幼児期、学童期、思春期の食事の管理を中心とした栄養管理、授乳・離乳の支援ガイドとそれに沿った離乳食の調理、成人期の食事計画および調理、高齢期の食事の管理を中心とした栄養管理、摂食嚥下機能、消化機能に応じた食事計画および調理ができるよう、実習を行う。

管理栄養士として栄養相談や給食管理を行ってきた経験を活かし、実務家教員として具体的で実践的な内容を解説しながら授業を行う。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

- E-1 ライフステージ別の食事の管理を中心とした栄養管理
- 1-1) 妊娠期、授乳期の食事の管理を中心とした栄養管理
- 1-2) 新生児期、乳児期の食事の管理を中心とした栄養管理
- 1-3) 幼児期、学童期、思春期の食事の管理を中心とした栄養管理
- 1-4) 成人期、更年期の食事の管理を中心とした栄養管理
- 1-5) 高齢期の食事の管理を中心とした栄養管理

到達目標

1. 妊娠期、授乳期の食事の管理を中心とした栄養管理について説明できる。
2. 授乳・離乳の支援ガイドについて説明できる。
3. 授乳・離乳の支援ガイドに沿った離乳食の調理ができる。
4. 幼児期、学童期、思春期、成人期の食事の管理を中心とした栄養管理について説明できる。
5. 幼児期の食事計画および調理ができる。
6. 高齢期の食事の管理を中心とした栄養管理について説明できる。
7. 摂食嚥下機能、消化機能に応じた食事計画、および調理ができる。
8. チームとして行動するために必要なコミュニケーションを取ることができる

授業計画

- 【第 1回】 オリエンテーション、乳児期の栄養① 乳汁栄養（調乳）
- 【第 2回】 妊娠期・授乳期の栄養
- 【第 3回】 乳児期の栄養② 離乳食
- 【第 4回】 幼児期の栄養① 幼児期の食事の作り方のポイント
- 【第 5回】 幼児期の栄養② 補食（おやつ）・食物アレルギーについて
- 【第 6回】 高齢期の栄養① 嚥下の理解と対応の方法について
- 【第 7回】 高齢期の栄養② 高齢者の食事・介護食について
- 【第 8回】 献立作成 高齢期
- 【第 9回】 学童期の栄養 学校給食について
- 【第10回】 思春期の栄養
- 【第11回】 成人期の栄養① 生活習慣病予防のための食事
- 【第12回】 成人期の栄養② 介護予防のための食事
- 【第13回】 作成献立の調理
- 【第14回】 栄養管理プロセスについて① 食事調査
- 【第15回】 栄養管理プロセスについて② 栄養アセスメント

※進行によっては、授業計画を変更する場合がある。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

実習前に教科書を読んで予習を行う。復習は、教科書の内容と実際の調理を結び付けること、実習で行った献立を家庭で練習することも含む。

課題に対するフィードバックの方法

レポートはコメントを付して返却する。その後復習すること。再提出となった場合は、再確認を受ける。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 「各回終了後の振り返りレポート」「献立作成」の提出が期限を超えた場合は減点する。
 2回を超えて欠席した場合には、その旨の連絡をすること。別途課題を課す。
 5回を超えて欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする（欠席5回、遅刻1回で「K」評価）。

また、正当な理由なく「定期試験に代わるレポート」を指定した期限までに提出しなかった場合は「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	各回に調理した食事の出来栄え、調理中の作業、班員との協力姿勢(20) 献立作成2種(20) 各回終了後の振り返りレポート(30) 小テスト(筆記)2回(20)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	授業まとめレポート	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
その他	0		

テキスト	栄養科学イラストレイテッド応用栄養学 改訂第2版 / 編著 栢下 淳・上西一弘 / 羊土社 2,800+税 / ISBN 978-4-7581-1364-9(1年後期「応用栄養学」のテキスト) 食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表/新しい食生活を考える会編著/大修館書店 /1540円/ 9784469270129(「調理学」「給食計画論」等のテキスト)
------	--

参考書	調理のためのベーシックデータ 第5版/女子栄養大学出版部(「給食計画論」等のテキスト) 毎日の食事のカロリーガイド 第3版/監修 香川明夫/女子栄養大学出版(「栄養指導論実習 I」のテキスト)
-----	---

履修条件・他の科目との関連	栄養士免許必修科目である。 本実習を学習するための基礎になる科目は「調理学」「調理学実習 I、II」「基礎栄養学 I、II」である。 「応用栄養学」を履修済みであることが望ましい。 調理の基本的技術や衛生管理が身につけていることを前提で進める。 やむを得ず欠席した場合は、実習助手の先生へプリントをもらいに行き、次の回までに授業内容を確認し、自宅学習してください。また課題がある場合は行う。 わからないことがあれば担当教員に確認すること。
---------------	--

授業コード	22048201	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	実践栄養学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	小橋 真弓				
シラバス執筆(主)	小橋 真弓				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、本学の就職先の実情を踏まえ、応用栄養学・臨床栄養学のうち子ども分野（乳児期、幼児期、学童期）と高齢者分野について身体的・生理的特徴をより深く理解できるよう、それぞれの対象者にあった食事の管理を中心とした栄養管理について説明する。子ども分野では乳幼児・学童期の咀嚼・嚥下機能の発達や現在の子どもの食生活における問題点への対応について、さらに保育園や幼稚園で行う食育についても概説する。高齢者分野では加齢による身体的（フレイルやサルコペニアを含む）・心理的变化とその対応や高齢期に特徴的な生活習慣病への対応について説明する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

- 1-2) 新生児期、乳児期の食事の管理を中心とした栄養管理
- 1-3) 幼児期、学童期、思春期の食事の管理を中心とした栄養管理
- 1-5) 高齢期の食事の管理を中心とした栄養管理
- F-3病態に応じた食事の管理を中心とした栄養管理
- 3-7) 運動器系（筋・骨格）の疾患

到達目標

1. 子ども分野では乳幼児・学童期の咀嚼・嚥下機能の発達について説明できる。
2. 現在の子どもの食生活における問題点への対応について説明できる。
3. 保育園や幼稚園で行う食育について説明できる。
4. 高齢者分野では加齢による身体的（フレイルやサルコペニアを含む心理的变化とその対応について説明できる。
5. 高齢期に特徴的な生活習慣病への対応について説明できる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション、乳幼児期の発達
- 【第2回】 乳幼児期の栄養（乳汁・離乳食・幼児食）
- 【第3回】 乳幼児の食生活の現状
- 【第4回】 特別な配慮を要する食事
- 【第5回】 食育（食育基本法と保育所や学校における食育の推進）
- 【第6回】 給食と栄養士の業務
- 【第7回】 高齢者の現状（加齢による身体的・精神的変化）
- 【第8回】 高齢者への対応① 味覚低下と栄養サポート
- 【第9回】 高齢者への対応② 咀嚼・嚥下機能低下と栄養サポート
- 【第10回】 高齢者への対応③ 脱水予防のための水分管理
- 【第11回】 高齢者への対応④ 排泄と栄養サポート
- 【第12回】 高齢者への対応⑤ 認知症患者の食行動と栄養サポート
- 【第13回】 高齢者への対応⑥ 高齢期の生活習慣病
- 【第14回】 高齢者への対応⑦ 高齢者の栄養管理
- 【第15回】 授業のまとめ

※授業計画は進行状況によって変更することがある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業が始まるまでに「応用栄養学」「臨床栄養学」を復習しておく。（5時間以上）

- 【事前学習】教科書や配布プリントがある場合にはプリント読んでおく（各回1時間以上）、
- 【事後学習】プリントや教科書を用いて復習をして、確認テストに備えておく（各回1時間以上）。

課題に対するフィードバックの方法

各回の振り返りレポート・確認テストについては授業内で解説するので復習しておくこと。

成績評価の方法・基準(方針)

それぞれの項目で一定基準以上であり、尚且つ以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、単位を認定する。
 それぞれの項目においての基準については、授業中に説明する。
 なお、正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価とする（欠席5回、遅刻1回となった場合「K」評価となる）。
 また、正当な理由なく「定期試験に代わるレポート課題」が決められた期限までに提出されなかった場合も「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	各回の振り返りレポート(30) 「食育課題」レポート(15) 「高齢者に関する課題」レポート(15) 確認テスト(30)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	授業まとめレポート(10)	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	カラー図解 高齢者の栄養管理ガイドブック/下田妙子/文光堂/2,860円/978-4-8306-6037-5 必要に応じて資料を配付する。
------	--

参考書	「子どもの食と栄養」堤ちはる・土井正子著 萌文書林 「上手に食べるために 発達を理解した支援」金子芳洋・菊谷武監修 医歯薬出版
-----	--

履修条件・他の科目との関連	正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価とする(欠席5回、遅刻1回となった場合「K」評価となる) 「応用栄養学」「臨床栄養学」を深めた科目である。事前に履修済みであることが望ましい。 基礎科目の内容を理解できていることが前提となる。特に「応用栄養学」「臨床栄養学」については常に復習を続けること。
---------------	--

授業コード	22045701	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	実践栄養学実習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	小橋 真弓				
シラバス執筆(主)	小橋 真弓				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本実習は、応用栄養学や臨床栄養学、実践栄養学で学んだ知識を基に、子どもと高齢者における食事の管理を中心とした栄養管理を実践するための知識と技術を修得することを目的とする。なお、対象者にあった適切な食事を提供するためには、献立を作成する能力を向上させることが重要となる。したがって、この授業では、献立作成に関わる演習を実施した上で、子ども分野では食物アレルギー対応食や子どものおやつを提案できるように実習を行う。高齢者分野では咀嚼、嚥下障害、低栄養に対応した食事について理解し提案できるように実習を行う。さらに、一般食から特別食への展開方法について理解できるように実習を通じて説明する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

- D-2 食事と調理の科学の理解
- 2-3) 主食・主菜・副菜を組み合わせた日常食を計画し、調理・食事を提供する力を身につける。
- E-1 ライフステージ別の食事の管理を中心とした栄養管理
- 1-3) 幼児期、学童期、思春期の食事の管理を中心とした栄養管理
- 1-4) 成人期、更年期の食事の管理を中心とした栄養管理
- 1-5) 高齢期の食事の管理を中心とした栄養管理
- F-3病態に応じた食事の管理を中心とした栄養管理
- 3-4) 循環器系疾患
- 3-8) 食物アレルギー

到達目標

1. 主食・主菜・副菜の料理構成から献立を組み立てることができる。
2. 食事摂取基準を活用して対象者に応じた食事計画ができる。
3. 食事計画に基づいた適切な献立作成ができる。
4. 食物アレルギー対応の調理・食事提供ができる。
5. 子どものおよつの調理・提供ができる。
6. 咀嚼、嚥下障害に対応した調理・食事提供ができる。
7. 生活習慣病、低栄養に対応した調理・食事提供ができる。
8. 一般食から特別食への展開方法が実践できる。

授業計画

【第1回】	演習	オリエンテーション、対象者に合わせた栄養・食事計画について
【第2回】	演習	献立作成の実際について（主食・主菜・副菜・汁物・デザート）
【第3回】	演習	病院・高齢者施設①：常食から形態別の治療食への献立の展開
【第4回】	演習	病院・高齢者施設②：常食から病態別の治療食への献立の展開
【第5回】	実習	病院・高齢者施設③：常食から軟菜食への展開
【第6回】	実習	病院・高齢者施設④：常食から特別食への展開
【第7回】	実習	子どもの食事①：アレルギー食（卵・小麦・乳アレルギー対応）
【第8回】	実習	子どもの食事②：（その他のアレルギーの対応）
【第9回】	実習	子どもの食事③：間食・おやつ
【第10回】	実習	生活習慣病予防のための食事①：減塩の工夫
【第11回】	実習	生活習慣病予防のための食事②：カルシウムを効果的に摂る工夫
【第12回】	実習	生活習慣病予防のための食事③：3・1・2弁当箱法で1食の適量・栄養バランスを学ぶ
【第13回】	実習	高齢者の食事①：低栄養予防のための食事の工夫
【第14回】	実習	高齢者の食事③：咀嚼・嚥下困難に対応した食事（ゼリー食・ペースト食・ムース食）の工夫
【第15回】	実習	災害時の食事、まとめ

※授業の進行状況や材料の納入状況により、授業内容やスケジュールを変更することがある。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

必要に応じて、担当教員より指示する。
事前に配布した実習プリントを読み、わからないところは調べておく。事後は振り返り課題を行い、実習内容における食品や調理上のポイント、感想をまとめる等の各自の実習プリントを作成すること。なお、各回の「課題」は、指定された期限までに提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

「課題」は点検、確認後、コメントを記入して返却する。再提出となった場合は、再確認を受ける。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

各回の「課題」の提出が期限を超えた場合は減点する。

5回を超えて欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする(例えば、欠席5回、遅刻1回で「K」評価)。また、正当な理由なく「定期試験に代わるレポート」を指定した期限までに提出しなかった場合は成績評価を辞退とみなし「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業内での貢献度、積極的な受講姿勢を評価する(45) 3点×15回 課題の達成状況を評価する(45) 3点×15回	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	「授業まとめレポート」の内容について評価する(10)	1, 2, 3, 4, 5, 6
その他	0		

テキスト	担当教員の指示に従うこと。 ただし、食品成分表(1年次使用のもの)は常に持参すること。
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・調理学、調理学実習、応用栄養学、臨床栄養学、実践栄養学で使用したテキスト ・毎日の食事のカロリーガイド 第3版/監修 香川明夫/女子栄養出版 ・調理のためのベーシックデータ 第6版/女子栄養大学出版部
履修条件・他の科目との関連	<p><欠席した場合の対応について> やむを得ず欠席した場合のプリントの受け取りは、担当教員の指示に従うこと。 たとえば、教学・教職センターまで受け取りに行く。あるいは、Classroomからプリントをダウンロードし印刷をするなどがある。 ただし、次の実習回までには、授業内容を確認し、自宅学習しておくこと。また、課題は、次の実習回に提出すること(わからないことがあれば担当教員に確認する)。</p> <p><履修条件、他の科目との関連> 「応用栄養学」、「臨床栄養学」を深めた科目であり、「臨床栄養学実習」、「応用栄養学実習」を履修済みであることが望ましい。 「調理学実習Ⅰ」、「調理学実習Ⅱ」で習得した調理技術及び「臨床栄養学」、「応用栄養学」などで学習したライフステージ別の特性や疾病等の知識が必要となる。必ず復習しておくこと。</p>

授業コード	22048301	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	臨床栄養学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	石川 英子				
シラバス執筆(主)	石川 英子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、疾病の成り立ち、傷病者、要介護者および障がい者の栄養管理、病態に応じた栄養管理について身に付けることを目的とする。傷病者の栄養状態や検査値を理解し、栄養評価、栄養補給、治療食の提供や栄養指導を行うための知識を講義形態で概説する。具体的には、循環障害を説明する、炎症と創傷について説明する、浮腫、脱水、嘔吐、下痢を説明する、臨床検査、血液生化学検査の種類と意義を説明する、医療や介護領域における栄養士の役割について説明する、飢餓、たんぱく質・エネルギー栄養障害の病態と栄養管理を説明する、メタボリックシンドロームの栄養管理を説明する、口腔疾患の病態と栄養管理を説明する、肝疾患の病態と栄養管理を説明する、外科的・内科的治療および緩和ケアにおける栄養管理の必要性を説明する、骨粗鬆症の病態と栄養管理を説明する、サルコペニアの病態と栄養管理を説明する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

F-1 疾病の成り立ち

1-1) 疾病の成り立ち

1-2) 疾患の症候と診断・治療の概要

F-2 食事の管理を中心とした栄養管理のための傷病者、要介護者および障がい者の理解

2-1) 傷病者、要介護者および障がい者に対する栄養士の役割

F-3 病態に応じた食事の管理を中心とした栄養管理

3-1) 栄養障害

3-2) 代謝・内分泌系疾患

3-3) 消化器系疾患

3-7) 運動器系（筋・骨格）の疾患

以下の項目とも関連する

B-3 科学的根拠に基づく栄養の実践のための疫学の理解

3-1) 疫学の方法

C-4 食事の管理を中心とした栄養管理の基本

4-3) 食事の管理を中心とした栄養管理の手法

D-1 食べ物と健康の関連の理解

1-3) 食品の安全性

到達目標

1. 循環障害を説明できる。
2. 炎症と創傷について説明できる。
3. 浮腫、脱水、嘔吐、下痢を説明できる。
4. 臨床検査、血液生化学検査の種類と意義を説明できる。
5. 医療や介護領域における栄養士の役割について説明できる。
6. 飢餓、たんぱく質・エネルギー栄養障害の病態と栄養管理を説明できる。
7. メタボリックシンドロームの栄養管理を説明できる。
8. 口腔疾患の病態と栄養管理を説明できる。
9. 肝疾患の病態と栄養管理を説明できる。
10. 外科的・内科的治療および緩和ケアにおける栄養管理の必要性を説明できる。
11. 骨粗鬆症の病態と栄養管理を説明できる。
12. サルコペニアの病態と栄養管理を説明できる。

授業計画

[第1回]

テーマ：臨床栄養学の概念

内容・方法：オリエンテーション、臨床栄養学の意義と目的、栄養ケアマネジメント、医療制度

[第2回]

テーマ：臨床栄養学の概念

内容・方法：医療と臨床栄養、福祉・介護と臨床栄養

[第3回]

テーマ：栄養補給法

内容・方法：栄養・食事療法と栄養補給法の特徴、経腸（経口）補給法

[第4回]

テーマ：栄養補給法、代謝疾患

内容・方法：経腸（経管）栄養補給法・経静脈栄養法、肥満、メタボリックシンドローム

[第5回]

テーマ：代謝疾患の疾患の概要、栄養食事療法と基本的な検査値、小テスト（栄養補給法）

内容・方法：PEM、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症（痛風）

[第6回]

テーマ：消化器疾患の疾患の概要、栄養食事療法と基本的な検査値、小テスト（代謝疾患）

内容・方法：胃炎、胃・十二指腸潰瘍、過敏性腸症候群、炎症性腸症候群、下痢・便秘

[第7回]

テーマ：消化器疾患の疾患の概要、栄養食事療法と基本的な検査値

内容・方法：急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、脂肪肝、膵炎、胆石症、胆のう炎

[第8回]

テーマ：循環器疾患の疾患の概要、栄養食事療法と基本的な検査値、小テスト（消化器疾患）

内容・方法：高尿酸血症、動脈硬化症、虚血性心疾患、脳血管障害

[第9回]

テーマ：腎疾患の疾患の概要、栄養食事療法と基本的な検査値、小テスト（循環器疾患）

内容・方法：CKD、急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎

[第10回] テーマ：腎疾患の疾患の概要、栄養食事療法と基本的な検査値

内容・方法：ネフローゼ症候群、腎不全、糖尿病性腎症、透析療法期

[第11回] テーマ：血液疾患・骨疾患の疾患の概要、栄養食事療法と基本的な検査値、小テスト（腎疾患）

内容・方法：鉄欠乏性貧血、骨粗鬆症、骨軟化症、変形性関節炎

[第12回]

テーマ：高齢者疾患の疾患の概要、栄養食事療法と基本的な検査値、小テスト（血液疾患、骨疾患）

内容・方法：摂食嚥下障害、褥瘡

[第13回]

テーマ：高齢者疾患の疾患の概要、栄養食事療法と基本的な検査値

内容・方法：認知障害、サルコペニア、ロコモティブシンドローム、転倒、フレイル

[第14回]

テーマ：緩和ケア、小テスト（高齢者疾患）

内容・方法：緩和ケアの定義、栄養食事療法

[第15回]

テーマ：臨床栄養学全般の総復習

内容・方法：炎症と創傷、浮腫、脱水、嘔吐、下痢、口腔疾患の病態と栄養管理

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

[第1回]

事前学修課題：医療現場でのケアとマネジメントを教科書にて概ね把握する。（目安時間：2時間）

事後学修課題：医療現場でのケアとマネジメントを具体的な現状も含め理解する。（目安時間：2時間）

[第2回]

前学修課題：医療現場での患者の状況を知る。（目安時間：2時間）

事後学修課題：臨床栄養学で用いられる用語と意味について理解する。（目安時間：2時間）

[第3回]

事前学修課題：栄養補給法を教科書にて概ね把握する。（目安時間：2時間）

事後学修課題：栄養補給の対象者の状態を把握し、現状を踏まえたルート選択を理解する。

[第4回]

事前学修課題：代謝疾患の病態（肥満、メタボリックシンドローム）を把握する。（目安時間：2時間）

事後学修課題：静脈栄養法の対象者の状態を理解する。（目安時間：2時間）

[第5回]

事前学修課題：PEM、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症（痛風）の病態を把握。（目安時間：2時間）

事後学修課題：PEM、糖尿病、脂質異常症、高尿酸血症（痛風）の食事療法を具体的に理解する。（目安時間：2時間）

[第6回]

事前学修課題：消化器疾患の疾患（胃炎、胃・十二指腸潰瘍、過敏性腸症候群、炎症性腸症候群、下痢・便秘）

病態の把握。

（目安時

間：2時間）

事後学修課題：胃炎、胃・十二指腸潰瘍、過敏性腸症候群、炎症性腸症候群、下痢・便秘の栄養食事療法を具体的に理解する。

（目安

時間：2時間）

[第7回]

事前学修課題：急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、脂肪肝、膵炎、胆石症、胆のう炎の病態把握。（目安時間：2時間）

事後学修課題：急性肝炎、慢性肝炎、肝硬変、脂肪肝、膵炎、胆石症、胆のう炎の栄養食事療法を具体的に理解する。

（目

安時間：2時間）

[第8回]

事前学修課題：高尿酸血症、動脈硬化症、虚血性心疾患、脳血管障害の病態把握。（目安時間：2時間）

事後学修課題：高尿酸血症、動脈硬化症、虚血性心疾患、脳血管障害の栄養食事療法を具体的に理解する。（目安時間：2時間）

[第9回]

事前学修課題：CKD、急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎の病態の違いを理解する。（目安時間：2時間）

事後学修課題：CKD、急性糸球体腎炎、慢性糸球体腎炎の栄養食事療法を理解して応用力をつける。（目安時間：2時間）

[第10回]

事前学修課題：ネフローゼ症候群、腎不全、糖尿病性腎症、透析療法期の病態の違いを理解する。（目安時間：2時間）

事後学修課題：ネフローゼ症候群、腎不全、糖尿病性腎症、透析療法期の栄養食事療法を理解して応用力をつける。（目安時間：2時間）

[第11回]

事前学修課題：鉄欠乏性貧血、骨粗鬆症、骨軟化症、変形性関節炎の病態把握。（目安時間：2時間）

事後学修課題：鉄欠乏性貧血、骨粗鬆症、骨軟化症、変形性関節炎の栄養食事療法を具体的に理解する。(目安時間:2時間)
 [第12回]
 事前学修課題：摂食嚥下障害、褥瘡の病態の把握。(目安時間:2時間)
 事後学修課題：摂食嚥下障害、褥瘡の栄養食事療法を具体的に理解する。(目安時間:2時間)
 [第13回]
 事前学修課題：認知障害、サルコペニア、ロコモティブシンドローム、転倒、フレイルの病態の把握。(目安時間:2時間)
 事後学修課題：サルコペニア・フレイルの対策に何ができるかを考える。(目安時間:2時間)
 [第14回]
 事前学修課題：緩和ケアの定義や介入時期等を把握。(目安時間:2時間)
 事後学修課題：緩和ケアにおいて食べやすい食事内容について具体的に理解する。(目安時間:2時間)
 [第15回]
 事前学修課題：口腔疾患（特に歯周病と糖尿病との関係）の病態把握。(目安時間:2時間)
 事後学修課題：炎症と創傷、浮腫、脱水、嘔吐、下痢、口腔疾患の病態と栄養管理の具体的に理解する。(目安時間:2時間)

課題に対するフィードバックの方法

授業開始時に前回の振り返りを通し、課題について把握できていたかを確認する。
 小テストを用いて、課題について把握できていたかを確認する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 授業内での評価：発言内容が適切な発言回数を評価する、提出課題の内容から要点を理解している場合に評価する。授業外での評価：課題提出内容
 定期試験：定期試験での正答率
 欠席回数が5回を超えた場合「K」評価となる（欠席5回、遅刻1回となった場合は「K」評価となる。）。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	15	発言内容および事前学習の課題の状況により評価する。レポート提出により、授業内容の理解度を評価する。	1～12
授業外での評価	45	定期的に授業に沿った問題を3択問題を授業中に行う。	1～12
定期試験	40	1～15回目の授業内容において記述式(テキスト、ノート、資料持ち込み可、電子機器は不可)の課題を提出する。	1～12
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト Nブックス臨床栄養学概論 第2版(建帛社)
 渡邊早苗・本間和宏・佐藤智英 編著
 ISBN: 978-4-7679-0691-1

参考書 糖尿病食事療法のための食品交換表第7版 編著日本糖尿病学会 文光堂 ISBN978-4-8306-6046-7
 日本食品成分表

履修条件・他の科目との関連 栄養士免許の必修科目である。
 本科目は、食事管理を中心とした栄養管理の実践のための基礎科学(C)および社会と健康(B)、食べ物をベースとした食事の管理を中心とした栄養管理の実践(D)で学ぶ知識や技術を身につけていることが前提となる。

授業コード	22025501	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	臨床栄養学実習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	石川 英子				
シラバス執筆(主)	石川 英子				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

【授業の目的・概要】

本実習は、疾病の成り立ちについて説明し、病態に応じた食事の管理を中心とした栄養管理を実践できることを目的とする。疾患をふまえた献立や調理法、医療用特殊食品の利用方法や常食から各治療食への展開法、腎臓病や糖尿病における食品交換表の使い方について実習形態で実践する。具体的には、病歴情報と全身状態を把握できるように実習を行う、肥満症・糖尿病におけるエネルギーコントロール食を実践できるように実習を行う、脂質異常症における脂質コントロール食を実践できるように実習を行う、胃・腸疾患における栄養管理を実践できるように実習を行う、炎症性腸疾患における栄養管理を実践できるように実習を行う、膵臓疾患における栄養管理を実践できるように実習を行う、高血圧症におけるナトリウムコントロール食を実践できるように実習を行う、虚血性心疾患や脳血管障害における栄養管理を実践できるように実習を行う、慢性腎臓病、糖尿病性腎症、慢性腎不全におけるたんぱく質・ナトリウムコントロール食を実践できるように実習を行う、貧血における栄養管理を実践できるように実習を行う。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

到達目標

1. 病歴情報と全身状態を把握できる
2. 肥満症・糖尿病におけるエネルギーコントロール食を実践できる
3. 脂質異常症における脂質コントロール食を実践できる
4. 胃・腸疾患における栄養管理を実践できる
5. 炎症性腸疾患における栄養管理を実践できる
6. 膵臓疾患における栄養管理を実践できる
7. 高血圧症におけるナトリウムコントロール食を実践できる
8. 虚血性心疾患や脳血管障害における栄養管理を実践できる
9. 慢性腎臓病、糖尿病性腎症、慢性腎不全におけるたんぱく質・ナトリウムコントロール食を実践できる
10. 貧血における栄養管理が実践できる

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

F-1疾病の成り立ち

1-2) 疾患の症候と診断・治療の概要

F-3病態に応じた食事の管理を中心とした栄養管理

3-2) 代謝・内分泌系疾患

3-3) 消化器系疾患

3-4) 循環器系疾患

3-5) 腎・尿路系疾患

3-6) 血液系疾患

以下の項目とも関連する

D-2食事と調理の科学の理解

2-1) 調理の基本

C-4食事の管理を中心とした栄養管理の基本

4-3) 食事の管理を中心とした栄養管理の手法

D-1食べ物と健康の関連の理解

1-3) 食品の安全性

【到達目標】

1. 病歴情報と全身状態を把握できる。
2. 肥満症・糖尿病におけるエネルギーコントロール食を実践できる。
3. 脂質異常症における脂質コントロール食を実践できる。
4. 胃・腸疾患における栄養管理を実践できる。
5. 炎症性腸疾患における栄養管理を実践できる。
6. 膵臓疾患における栄養管理を実践できる。
7. 高血圧症におけるナトリウムコントロール食を実践できる。
8. 虚血性心疾患や脳血管障害における栄養管理を実践できる。
9. 慢性腎臓病、糖尿病性腎症、慢性腎不全におけるたんぱく質・ナトリウムコントロール食を実践できる。
10. 貧血における栄養管理が実践できる。

授業計画

[1回目]

テーマ：病歴情報からの一般食および栄養補給法の選択 方法：実習

内容：オリエンテーション、基本的な栄養補給方法の考え方、一般食の主食（重湯から全粥食）の作り方

[2回目]

テーマ：特別治療食（易消化食）の基礎 方法：実習
 内容：胃腸の働き、クローン病の食事と調理
 [3回目] 一般食（嚥下調整食3） 方法：講義および実習
 内容：摂食嚥下機能の低下により用いる食材、嚥下調整食3の食事と調理
 [4回目] 特別治療食（エネルギーコントロール食）の基礎 方法：演習
 内容：糖尿病の概要と栄養食事療法、糖尿病の食品交換表の使い方
 [5回目] 特別治療食（エネルギーコントロール食）の基礎 方法：実習
 内容：高尿酸血症の疾患の概要・栄養食事療法、常食と糖尿病食1200kcalの食事と調理
 [6回目] 特別治療食（エネルギーコントロール食）の基礎 方法：実習
 内容：脂質異常症の疾患の概要・栄養食事療法、高LDLコレステロール血症1,500kcalの食事と調理
 [7回目] 特別治療食（エネルギー・ナトリウムコントロール食）の基礎 方法：実習
 内容：高血圧の疾患の概要・栄養食事療法、塩分比較（すまし汁、おにぎり、焼肉）
 [8回目] 特別治療食（エネルギー・ナトリウムコントロール食）の基礎 方法：実習
 内容：心不全の疾患の概要・栄養食事療法、高血圧食・心不全食の食事と調理
 [9回目] 特別治療食（たんぱく質・ナトリウムコントロール食）の基礎 方法：演習
 内容：慢性腎不全、糖尿病性腎症の疾患の概要・栄養食事療法
 [10回目] 特別治療食（たんぱく質・ナトリウムコントロール食）の基礎 方法：実習
 内容：常食からの展開食の慢性腎不全（低たんぱく米）を使用した食事と調理
 [11回目] 特別治療食（たんぱく質・ナトリウムコントロール食）の基礎 方法：実習
 内容：肝不全の疾患の概要・栄養食事療法、肝不全の食事と調理
 [12回目] 常食から糖尿病1200kcalと慢性腎不全食への展開（食品成分表を用いて算出） 方法：演習
 内容：糖尿病と腎臓病食の特徴を理解し、展開食をグループで1献立ずつ作成、食材の発注する。
 [13回目] 特別治療食（脂質コントロール食）の基礎 方法：実習
 内容：膵炎の疾患の概要・栄養食事療法、膵炎食の食事と調理
 [14回目] 特別治療食（エネルギー、たんぱく質・ナトリウムコントロール食）の応用 方法：実習
 内容：12回目で作成した各グループの献立に基づいた調理実習を行う。
 [15回目] 小テスト10問、特別治療食（高たんぱく食・高鉄添加食）の基礎 方法：実習
 内容：鉄欠乏性貧血およびサルコペニアの概要・栄養食事療法の食事と調理

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

[1回目]
 事後学習：流動食～全粥食の主食200gの栄養価計算、流動食について調べる。
 [2回目]
 事前学習：クローン病の疾患の定義についてまとめる（A4版0.5枚程度）。
 事後学習：実習献立の栄養計算と考察。
 [3回目]
 事前学習：嚥下食に適した食材と適さない食材および理由（A4版1枚程度）。
 事後学習：実習内での考察（かっぱえびせん、お茶ゼリーと嚥下調整食3）。
 [4回目]
 事前学習：糖尿病の「感受性の低下＝抵抗性が高くなる」についてまとめる（A4版0.5枚程度）。
 事後学習：糖尿病の食品交換表の単位法の展開について学ぶ。
 [5回目]
 事前学習：高尿酸血症について疾患の概要についてまとめる（A4版0.5枚程度）。
 事後学習：実習献立の常食と糖尿病食1200kcalの昼食分の栄養計算。
 [6回目]
 事前学習：脂質異常症の疾患の概要についてまとめる（A4版0.5枚程度）。
 事後学習：実習での高LDLコレステロール血症食の飽和脂肪酸、一価不飽和脂肪酸、多価不飽和脂肪酸、コレステロール量の栄養価計算
 [7回目]
 事前学習：高血圧の疾患の概要と減塩の方法についてまとめる（A4版1枚程度）。
 事後学習：塩分比較（実習）の考察。
 [8回目]
 事前学習：心不全の疾患の概要についてまとめる（A4版0.5枚程度）。
 事後学習：実習献立の栄養価計算（E, P, F, 塩分）。
 [9回目]
 事前学習：慢性腎不全の疾患についてまとめる（A4版0.5枚程度）。
 事後学習：腎臓病の食品交換表の単位法の展開について学ぶ。
 [10回目]
 事前学習：低たんぱく米を美味しくするための工夫について調べる。
 事後学習：実習献立の栄養価計算（E, P, F, 塩分）。
 [11回目]
 事前学習：肝不全の疾患の概要についてまとめる（A4版0.5枚程度）。
 事後学習：肝不全食から慢性肝炎食の展開食を作成する。
 [12回目]
 事前学習：糖尿病食と腎臓病食の違いについてまとめる（A4版1枚程度）。
 事後学習：常食からの糖尿病食と腎臓病食の展開食の献立作成および栄養計算。
 [13回目]
 事前学習：急性膵炎の疾患の概要についてまとめる（A4版0.5枚程度）。
 事後学習：14回目の調理実習に必要な食材、作業工程の注意点などをグループごとでまとめる。
 [14回目]
 事前学習：14回目に必要な調理技術、導線、発注書等の帳票類を作成する。
 事後学習：調理実習の栄養価計算（E, P, F, 塩分）および考察。
 [15回目]
 事前学習：鉄が多く含まれる食品とサルコペニアについてまとめる（A4版1枚程度）。

事後学習：実習献立の栄養価計算（鉄分、ビタミンC）と考察。

課題に対するフィードバックの方法

事後学習のレポートに対しての記述内容を確認、返却をする。
事前学習のレポートに対しては、「自分言葉で記述できているか」、「見返すことができるように丁寧に作成しているか」を評価する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定し、60点以上を合格として単位認定をする。
実習態度（衛生検査含む）：30%、提出物（事前、事後学習のレポート）：60%、口頭試問（授業内）10%
欠席回数が5回を超えた場合「K」評価となる（欠席5回、遅刻1回となった場合は「K」評価となる。）。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	チーム(班)で協力し、調理に取り組む姿勢。(25) 授業に関する質問、発言(5)	1～10
授業外での評価	50	事前の学修レポートの完成度および速やかな提出(25) 事後の学修レポートの完成度および速やかな提出(25)	1～10
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	(授業内で学んだこと:調理形態等)を行う。10	1～10
その他	10		1～10

テキスト	糖尿病食事療法のための食品交換表第7版 編著日本糖尿病学会 文光堂 ISBN978-4-8306-6046-7 (金額:990円)
------	---

参考書	日本食品成分表 臨床栄養学食事療法の実習/本田佳子(編)、医歯薬出版/ISBN 978-4-263-70792-0
-----	--

履修条件・他の科目との関連	栄養士免許の必修科目である。 本科目は、食事管理を中心とした栄養管理の実践のための基礎科学(C)および社会と健康(B)、食べ物をベースとした食事の管理を中心とした栄養管理の実践(D)で学ぶ知識や技術を身につけていることが前提となる。
---------------	---

授業コード	22008101	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	栄養指導論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	土井 玲奈				
シラバス執筆(主)	土井 玲奈				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、対象者を望ましい行動変容に導くための基本的な知識や、多様な場における対象者のライフステージや生理的・身体的特徴をふまえ、栄養指導が実践できるための基本的な知識・技術の修得を目的とする。具体的には、生活の質の向上や健康の維持・増進に向けた望ましい食習慣の形成のために、行動科学を中心とした代表的な理論・モデル・概念とその必要性を理解する、栄養カウンセリングの基本と技法を概説する、栄養士が行う栄養指導の意義や目的、行動変容に関する理論等を統合した栄養指導について説明する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

- C-5人間の行動変容に関する理論
- 5-1) 行動変容に関する理論・モデル・概念
- 5-2) 栄養カウンセリングの基本の理解
- E-2栄養指導の進め方と多様な場での展開
- 2-1) 栄養指導の意義と進め方
- A-4栄養・食の選択と決定を支援するコミュニケーション能力
- 以下の項目とも関連する
- E-1. ライフステージ別の食事の管理を中心とした栄養管理
- 1-1) 妊娠期、授乳期の食事の管理を中心とした栄養管理
- 1-2) 新生児期、乳児期の食事の管理を中心とした栄養管理
- 1-3) 幼児期、学童期、思春期の食事の管理を中心とした栄養管理
- 1-4) 成人期、更年期の食事の管理を中心とした栄養管理
- 1-5) 高齢期の食事の管理を中心とした栄養管理

到達目標

1. 行動科学を中心とした代表的な理論・モデル・概念とその必要性を説明できる
2. 栄養カウンセリングの基本と技法を説明できる
3. 栄養士が行う栄養指導の意義や目的を説明できる
4. 行動変容に関する理論等を統合した栄養指導を説明できる
5. ライフステージごとの栄養指導の展開を説明することができる

授業計画

- 【第1回】栄養教育・栄養指導の概念
内容・方法：栄養教育の意義、目標について解説する。
- 【第2回】栄養指導の変遷
内容・方法：栄養士制度の歴史、それに応じた栄養士業務や活動分野などを解説する。
- 【第3回】栄養教育・指導と関連法規
内容・方法：栄養士法、健康増進法など栄養指導に関連する法律とその内容について解説する。
- 【第4回】栄養教育のための理論的基礎
内容・方法：行動科学を中心とした代表的な理論やモデルについて解説する。
- 【第5回】栄養カウンセリング
内容・方法：栄養カウンセリングについて解説する。
- 【第6回】食環境と栄養教育・栄養指導
内容・方法：食環境整備と食行動変容との関連について解説する。
- 【第7回】栄養教育マネジメント（アセスメント）
内容・方法：栄養教育マネジメントの概念、栄養アセスメントについて解説する。
- 【第8回】栄養教育マネジメント（目標設定・計画）
内容・方法：栄養教育の目標設定と計画立案について解説する。
- 【第9回】栄養教育マネジメント（教材の選択）
内容・方法：栄養教育の教材について解説する。
- 【第10回】栄養教育マネジメント（学習方法の種類と選択）
内容・方法：栄養教育における学習形態や方法について解説する。
- 【第11回】栄養教育マネジメント（栄養教育の評価）
内容・方法：栄養教育の評価方法について解説する。
- 【第12回】ライフステージ別栄養教育（妊娠・授乳期）
内容・方法：妊娠・授乳期の食生活上の課題、栄養教育方法について解説する。
- 【第13回】ライフステージ別栄養教育（乳幼児期・学童期・思春期）
内容・方法：乳幼児期・学童期・思春期の食生活上の課題、栄養教育方法について解説する。
- 【第14回】ライフステージ別栄養教育（高齢期）
内容・方法：高齢期の食生活上の課題、栄養教育方法について解説する。
- 【第15回】学習のまとめ
内容・方法：栄養指導論の総まとめを行う。

※進行によっては、授業計画を変更する場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：教科書を読んでおく。

事後学習：資料や課題レポートを整理し、ノートにまとめる。確認テストの内容を復習しておく。

課題に対するフィードバックの方法

各回の授業で実施する確認テストまたは課題レポートについては、翌週以降にフィードバックを行う。授業内で適宜コメントやアドバイスを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、各回の授業内での評価（課題レポートの完成度、確認テストの結果）、定期試験の結果を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

※5回を超えての欠席（欠席5回、遅刻1回）はK評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	確認テスト(40)、課題レポート(20)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	40	定期試験(40)	1, 2, 3, 4, 5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト イラスト 栄養教育・栄養指導論/城田 知子ほか著/東京教学社/定価2,640円/9784808260927

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連

本科目は栄養士免許必修科目である。
栄養士としての技術・能力をより向上させるためには、他の栄養士関連科目も単位取得、履修していることが望ましい。
欠席した場合は、登学後速やかに教員までプリント受け取りについて申し出ること。

正当な理由がなく5回を超えて欠席した場合はK評価とする。
正当な理由なく定期試験を欠席した場合はK評価となる。

授業コード	22048401	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	栄養指導論実習 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	土井 玲奈				
シラバス執筆(主)	土井 玲奈				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本実習は、栄養指導論で身につけた栄養指導の知識を活かし、対象者を望ましい行動変容に導くための基本的なスキルを身につけることを目的とする。具体的には、「日本人の食事摂取基準」の基本的な考え方、食事調査法（食行動、食環境を含む）の活用と評価、栄養カウンセリングの基本と技法、栄養士が行う栄養指導の意義や目的、生活の質の向上や健康の維持・増進に向けた望ましい食習慣の形成のために、行動科学を中心とした代表的な理論・モデル・概念とその必要性を説明し、それらを用いて栄養指導を展開する実習を行う。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

C-4 食事の管理を中心とした栄養管理の基本
 4-4) 食事摂取量, 食行動, 食環境の評価
 C-5 人間の行動変容に関する理論
 5-2) 栄養カウンセリングの基本の理解
 E-2 栄養指導の進め方と多様な場での展開
 2-1) 栄養指導の意義と進め方
 A-1プロフェッショナルリズム
 A-2栄養学の知識と課題対応能力
 A-4栄養・食の選択と決定を支援するコミュニケーション能力

以下の項目とも関連する

C-4 食事の管理を中心とした栄養管理の基本
 4-2) 日本人の食事摂取基準の理解

到達目標

1. 食事調査法（食行動、食環境を含む）の活用と評価を説明することができる
2. 栄養カウンセリングの基本と技法を説明することができる
3. 栄養士が行う栄養指導の意義や目的を説明できる
4. 行動科学を中心とした代表的な理論・モデル・概念とその必要性を理解し、栄養指導を展開することができる
5. 使命感と責任感をもって職務を遂行するためのコミュニケーションができる

授業計画

【第1回】オリエンテーション・栄養教育の意義

内容・方法：栄養教育の意義、目標について解説する。

【第2回】話し方の練習

内容・方法：設定された課題についてスピーチ発表を行い、人前に立って相手に分かりやすく話す技法を学ぶ。

【第3回】身体活動調査①

内容・方法：身体活動調査の進め方

【第4回】身体活動調査②

内容・方法：自身の身体活動状況を把握する。

【第5回】日本人の食事摂取基準の活用

内容・方法：日本人の食事摂取基準の算定方法について

【第6回】計量実習

内容・方法：日常摂取する食品の重量を計量し、栄養指導の資料としてまとめる。

【第7回】食事調査（24時間思い出し法）

内容・方法：24時間思い出し法による食事調査を実践する。

【第8回】食事調査（秤量法）

内容・方法：事前に実施した秤量法による食事調査の結果を確認する。

【第9回】食事調査（データ集計）

内容・方法：食事調査結果のデータを取りまとめる。

【第10回】食事調査（データ評価①）

内容・方法：食品構成、出現食品による評価を行う。

【第11回】食事調査（データ評価②）

内容・方法：自身の食事調査結果と二次データを比較する。

【第12回】栄養カウンセリング

内容・方法：栄養士と対象者に扮して栄養カウンセリングを実践する。

【第13回】集団を対象とする方法（討議方法）

内容・方法：討議法（ブレイン・ストーミング）を実践する。

【第14回】栄養指導の実際

内容・方法：栄養指導案を作成する。

【第15回】まとめ・確認テスト

内容・方法：振り返り、確認テストを行う。

※進行によっては、授業計画を変更する場合がある。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前・事後に取り組む課題については、必要に応じて指示する。
なお、各回の課題は指定された期限までに取り組み、提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

各回の授業で実施する課題レポートについては、翌週以降にフィードバックを行う。授業内で適宜コメントやアドバイスをを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、各回の授業内での評価（課題レポートの完成度、確認テスト、栄養指導案）、最終レポートの結果などを総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
※5回を超えての欠席（欠席5回、遅刻1回）はK評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	課題レポート(50)、確認テスト(10)、栄養指導案(10)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終レポート(20)	1, 2, 3, 4, 5
その他	10	授業時間中の積極的な発言、グループでコミュニケーションを取りながら取り組む姿勢(10)	5

テキスト	毎日の食事のカロリーガイド第3版/香川 明夫 監修/女子栄養大学出版社/定価1,870円/9784789506298 食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表2023(2023年10月16日出版)/新しい食生活を考える会編著/大修館書店/定価1,760円/9784469270167 調理のためのベーシックデータ第6版/女子栄養大学調理学研究室 女子栄養大学短期大学部調理学研究室 監修/定価2,200円/9784789503259 イラスト 栄養教育・栄養指導論/城田 知子ほか著/東京教学社/定価2,640円/9784808260927
------	---

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	本科目は栄養士免許必修科目である。 本授業では栄養・食生活に関する調査を、グループワークによって進めることがあります。自分の考えや意見を積極的に述べ、積極的な態度で取り組んでください。 欠席した場合は、登学後速やかに教員までプリント受け取りについて申し出ること。 正当な理由がなく5回を超えて欠席した場合はK評価とする。 正当な理由がなく定期試験に代わるレポート課題が提出されなかった場合はK評価とする。
---------------	--

授業コード	22048501	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	栄養指導論実習Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	土井 玲奈				
シラバス執筆(主)	土井 玲奈				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本実習は、多様な場における対象者のライフステージや生理的・身体的特徴をふまえた栄養指導の知識をもとに、マネジメントサイクルに基づいた栄養指導の実践能力を身につけることを目的とする。具体的には、保育園・こども園・幼稚園における栄養指導、小・中・高等学校における栄養指導、職域・地域における栄養指導について実習する。疫学を用いた資料および報告書を読み、地域・職域の健康・栄養活動に活用されていることを説明する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
 E-2栄養指導の進め方と多様な場での展開
 2-1) 栄養指導の意義と進め方
 2-2) 多様な場における栄養指導の実践
 E-4公衆栄養活動の実践のための理論と展開
 4-1) 疫学の地域・職域の健康・栄養対策への活用
 A-1プロフェッショナルリズム
 A-2栄養学の知識と課題対応能力
 A-4 栄養・食の選択と決定を支援するコミュニケーション能力

以下の項目とも関連する
 C-4食事の管理を中心とした栄養管理の基本
 4-4) 食事摂取量, 食行動, 食環境の評価

到達目標

1. 栄養指導のマネジメントサイクルを説明できる。
2. 保育園・こども園・幼稚園における栄養指導を実践できる。
3. 小・中・高等学校における栄養指導を実践できる。
4. 職域・地域における栄養指導を実践できる。
5. 疫学を用いた資料および報告書を読み、地域・職域の健康・栄養活動に活用されていることを説明できる。
6. チームとして行動するために必要なコミュニケーションを取ることができる

授業計画

- 【第1回】栄養指導論実習の概要とオリエンテーション
 内容・方法：栄養指導論実習Ⅰの復習、栄養指導の教材や媒体の活用方法について学ぶ。
- 【第2回】栄養いろはカルタの作成
 内容・方法：栄養標語を用い、いろはカルタを作成する。
- 【第3回】食事バランスガイドを用いた栄養指導
 内容・方法：食事バランスガイドを用いた栄養指導案を作成する。
- 【第4回】栄養指導案および栄養媒体作成計画書の作成
 内容・方法：発表グループを決定する。各自で栄養指導案を作成し、グループ内でプレゼンを行い、グループの栄養指導案を決定する。
- 【第5回】栄養指導教材・媒体の作成、栄養指導模擬指導の台本の作成①
 内容・方法：グループ内で、栄養指導教材・媒体作成と栄養指導の模擬指導の台本を作成する。
- 【第6回】栄養指導教材・媒体の作成、栄養指導模擬指導の台本の作成②
 内容・方法：グループ内で、栄養指導教材・媒体作成と栄養指導の模擬指導の台本を作成する。リハーサルに向けた準備を行う。
- 【第7回】栄養教育プレゼンテーション（リハーサル）
 内容・方法：作成した栄養指導教材・媒体を使用して発表する（リハーサル）。
- 【第8回】栄養指導教材・媒体の修正、台本の修正
 内容・方法：リハーサルでの改善点を修正し、本番に向けて練習する。
- 【第9回】栄養指導プレゼンテーション（本番）と評価
 内容・方法：模擬指導を実際に行う。他グループの発表を聞き、評価する。
- 【第10回】栄養疫学①
 内容・方法：地域で取り組まれている栄養活動を知る。
- 【第11回】栄養疫学②
 内容・方法：栄養・健康に関する出版物、文献をもとに評価する演習を行う。
- 【第12回】集団対象の質問紙法による調査
 内容・方法：クラスを対象者と想定し、調査票を作成する。
- 【第13回】質問紙調査の実施・集計
 内容・方法：質問紙法による調査を実施し、集計作業を行う。
- 【第14回】質問紙調査の集計
 内容・方法：集計データをもとに統計処理、図表の作成を行い、まとめる。
- 【第15回】まとめ
 内容・方法：栄養指導論実習Ⅱの振り返り、まとめを行う。

※進行によっては、授業計画を変更する場合がある。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前・事後に取り組む課題については、必要に応じて指示する。
なお、各回の課題は指定された期限までに取り組む、提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は、回収後、授業内での解説、コメントを付けて返却する。授業内で適宜コメントやアドバイスを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、各回の授業内での評価（課題提出物）、最終レポートの結果などを総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
※5回を超えての欠席（欠席5回、遅刻1回）はK評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	課題提出物: 栄養指導案・教材作成(20)、プレゼンテーション(10)、課題レポート(20)、アンケート作成(10)、情報処理(10)	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終レポート(20)	1, 2, 3, 4, 5, 6
その他	10	授業時間中の積極的な発言、グループでコミュニケーションを取りながら取り組む姿勢(10)	6

テキスト

プリント(資料)を配布する。

参考書

必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連

本科目は栄養士免許必修科目である。
本授業はグループワークによって進めることがあります。自分の考えや意見を積極的に述べ、積極的な態度で取り組んでください。
「栄養指導論・栄養指導論実習Ⅰ」からの積み上げ科目のため、「栄養指導論・栄養指導論実習Ⅰ」を受講済みであることが望ましい。
欠席した場合は、登学後速やかに教員までプリント受け取りについて申し出ること。

正当な理由がなく5回を超えて欠席した場合はK評価とする。
正当な理由なく定期試験に代わるレポート課題が提出されなかった場合はK評価とする。

授業コード	22033001	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	公衆栄養学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	土井 玲奈				
シラバス執筆(主)	土井 玲奈				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、我が国における疾病構造や栄養課題の変化の理解をとおして、公衆栄養学の意義・役割、および健康づくり対策の変遷について学ぶ。さらに国際レベルでの健康・栄養課題や、これらに関わる機関の役割を理解して、公衆栄養活動を実践するための知識や技術を修得することを目的とする。具体的には、公衆栄養学の意義・役割、我が国における疾病構造や栄養課題の変化について、我が国における疾病構造、栄養課題、社会状況の変化に伴う健康・栄養対策の変遷を概説する、国民の健康・栄養・食ならびに食料需給の状況を継続的に把握する意義やその方法について説明する、世界における健康・栄養課題を理解し、これに関わる機関の役割を説明する、公衆栄養活動の実践のため疫学の活用方法および食環境整備について学び、科学的態度の形成と科学的探究への理解を深めることである。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

- E-3 日本と世界の公衆栄養の現状の理解
 - 3-1) 公衆栄養学の概念
 - 3-2) 我が国における国民の健康・栄養・食の現状
 - 3-3) 我が国における健康づくり対策の推移と展開
 - 3-4) 国民の健康・栄養・食の実態把握の方法
 - 3-5) 国際栄養の理解
- E-4 公衆栄養活動の実践のための理論と展開
 - 4-1) 疫学の地域・職域の健康・栄養対策への活用
 - 4-2) 地域・職域における食環境整備
 - 4-3) 災害時の栄養対策

以下の項目とも関連する

- B-1 社会および環境と健康の関わり
 - 1-1) 健康の考え方
 - 1-3) 我が国における健康の現状
- B-2 健康・栄養に関わる社会制度・法規と保健活動
 - 2-1) 社会保障制度・衛生法規と保健活動
- B-3 科学的根拠に基づく栄養の実践のための疫学の理解
 - 3-1) 疫学の方法
 - 3-2) 主要疾患の疫学と対策
- E-2 栄養指導の進め方と多様な場での展開
 - 2-1) 栄養指導の意義と進め方
- C-4 食事の管理を中心とした栄養管理の基本
 - 4-2) 日本人の食事摂取基準の理解

到達目標

1. 公衆栄養学の意義・役割を説明できる
2. 我が国における疾病構造や栄養課題の変化について説明できる
3. 我が国における疾病構造、栄養課題、社会状況の変化に伴う健康・栄養対策の変遷を説明できる
4. 国民の健康・栄養・食ならびに食料需給の状況を継続的に把握する意義やその方法を説明できる
5. 世界における健康・栄養課題を理解し、これに関わる機関の役割を説明できる
6. 公衆栄養活動の実践のため疫学の活用方法および食環境整備を説明できる

授業計画

- 【第1回】公衆栄養の概念
内容・方法：公衆栄養の意義・目的と公衆栄養活動の方向性を解説する。
- 【第2回】健康・栄養問題 (1)
内容・方法：社会環境・疾病構造の変化について解説する。
- 【第3回】健康・栄養問題 (2)
内容・方法：栄養素・食品摂取量、食生活の現状と課題について解説する。
- 【第4回】健康・栄養問題 (3)
内容・方法：食環境の変化、食料自給率について解説する。
- 【第5回】栄養政策 (1)
内容・方法：公衆栄養活動と組織、栄養士制度について解説する。
- 【第6回】栄養政策 (2)
内容・方法：国民健康・栄養調査の概要について解説する。
- 【第7回】栄養政策 (3)
内容・方法：食生活指針、食事バランスガイドについて解説する。
- 【第8回】健康日本21、食育推進基本計画
内容・方法：健康日本21、食育推進基本計画について解説する。
- 【第9回】諸外国の健康・栄養問題

内容・方法：諸外国の健康・栄養問題と施策について解説する。
 【第10回】日本人の食事摂取基準（1）
 内容・方法：日本人の食事摂取基準の概要について解説する。
 【第11回】日本人の食事摂取基準（2）
 内容・方法：日本人の食事摂取基準の活用について解説する。
 【第12回】栄養疫学（1）
 内容・方法：栄養疫学の概要、栄養疫学の手法について解説する。
 【第13回】栄養疫学（2）
 内容・方法：食事調査の方法について解説する。
 【第14回】公衆栄養マネジメント
 内容・方法：疫学の地域・職域の健康・栄養対策への活用について解説する。
 【第15回】災害時の栄養対策・まとめ
 内容・方法：災害時の栄養対策について解説する。公衆栄養学の総まとめを行う。

※進行によっては、授業計画を変更する場合があります。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：教科書を読んでおく。
 事後学習：資料を整理し、ノートにまとめる。確認テストの内容を復習しておく。

課題に対するフィードバックの方法

各回の授業で実施する確認テストについては、翌週以降にフィードバックを行う。授業内で適宜コメントやアドバイスをを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 ※5回を超えての欠席（欠席5回、遅刻1回）はK評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	確認テスト(40)	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	0		
定期試験	60	定期試験(60)	1, 2, 3, 4, 5, 6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト 六訂 公衆栄養学 第3版/井上浩一 小林実夏 編著/建帛社/定価3,080円/9784767907550

参考書 日本人の食事摂取基準(2020年版)/伊藤 貞嘉 佐々木 敏/第一出版/定価3,080円/9784804114088

履修条件・他の科目との関連 本科目は栄養士免許必修科目である。
 栄養士としての技術・能力をより向上させるためには、他の栄養士関連科目も単位取得、履修していることが望ましい。
 欠席した場合は、登学後速やかに教員までプリント受け取りについて申し出ること。
 正当な理由がなく5回を超えて欠席した場合はK評価とする。
 正当な理由がなく定期試験を欠席した場合はK評価となる。

授業コード	22033101	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	栄養士実務演習 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	土井 玲奈				
シラバス執筆(主)	土井 玲奈				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本演習は、栄養士実務の要となる「栄養管理」の基礎について、演習を通じて理解することを目的とする。具体的には、栄養士の職務内容について、食品成分表の利用方法、栄養量の算出方法、基本的な献立作成について概説する。さらに、良質で安全な食事の管理を中心とした栄養管理および栄養指導の知識及び技術の理解につながる基礎を修得するようにする。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

- C-3 食事・食べ物の基本
 - 3-1) 食事の理解
 - 3-2) 食品の主要な成分と特性
- D-1 食べ物と健康の関連の理解
 - 1-1) 食品成分表
 - 1-2) 食材の特徴と調理・加工
- D-2 食事と調理の科学の理解
 - 2-3) 食事計画と調理・食事提供

次の項目とも関連する

- C-2 栄養と栄養素等のはたらき
- 2-4) 炭水化物の栄養学役割
- 2-5) 脂質の栄養学役割
- 2-6) たんぱく質の栄養学役割
- 2-7) ビタミンの栄養学役割
- 2-8) ミネラル（無機質）の栄養学役割

到達目標

1. 栄養士の職務内容について説明することができる
2. 食品成分表を利用することができる
3. 栄養量を算出することができる
4. 料理の組み合わせについて理解し、基本的な献立作成について説明することができる

授業計画

- 【第1回】 栄養士の仕事・職務内容について
- 【第2回】 献立の組み立て方と献立の配膳方法について
- 【第3回】 食品成分表の見方、使い方、食品群について
- 【第4回】 食品成分表の食品別収載食品について（食品成分表に記載されている食品群、特徴や特性）
- 【第5回】 栄養価計算の基本事項・食品成分表の各食品群についての説明（砂糖及び甘味類・種実類）
- 【第6回】 食品成分表の各食品群についての説明（穀類・いも及びでんぷん類・豆類）
- 【第7回】 食品成分表の各食品群についての説明（野菜類・果実類・きのこ類）
- 【第8回】 食品成分表の各食品群についての説明（藻類・魚介類・肉類）
- 【第9回】 食品成分表の各食品群についての説明（卵類・乳類・油脂類・その他の食品群）
- 【第10回】 各食品群についての小テスト実施、解答解説
- 【第11回】 ナトリウム換算係数の計算
- 【第12回】 調味パーセントの計算
- 【第13回】 栄養価計算の演習①（食品成分表を使って一食分の献立（ひなまつり食）の栄養価を計算する）
- 【第14回】 栄養価計算の演習②（食品成分表を使って一食分の献立（敬老祝賀膳）の栄養価を計算する）
- 【第15回】 総まとめ

※演習の進行具合などで実施内容が変更になる場合があります。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：授業内で紹介する予定に従い、予習すべき内容について教科書の当該箇所を読んでから授業に臨むこと。

事後学習：授業内で学んだ知識を指定された教科書、配布資料を読み返し、必要に応じ書き込む。また、小テストを実施するので、しっかりと復習をすること。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は、回収後、授業内での解説をする、授業内での講評をするなどのフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

授業期間中に実施される以下の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。この科目は、栄養士免許に係る科目のため、「出席時間数が授業時間数の2/3に満たない場合には単位認定を行わない」と定められている。5回を超えての欠席(欠席5回、遅刻1回)はK評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	授業における課題提出率・課題完成度で評価する(30) 授業における小テスト(20)最終確認テスト(30)の点数で評価する。	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポート課題の完成度を評価する。(20)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表2023(2023年10月16日出版)/新しい食生活を考える会編著/大修館書店/定価1,760円/9784469270167 調理のためのベーシックデータ第6版/女子栄養大学調理学研究室 女子栄養大学短期大学部調理学研究室 監修/定価2,200円/9784789503259 栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎/坂本 裕子 森 美奈子 編/化学同人/定価1,650円/ 9784759818260
参考書	日本食品標準成分表 2020年版 八訂 文部科学省科学技術・学術審議会資源調査分科会報告
履修条件・他の科目との関連	本科目は栄養士免許必修科目であり、栄養士免許関連科目の基礎となる重要な内容です。欠席した場合は、登学後速やかに教員までプリント受け取りについて申し出ること。

授業コード	22033201	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	栄養士実務演習Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	土井 玲奈				
シラバス執筆(主)	土井 玲奈				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

コンピュータは、栄養・食事管理のみならず、多くの栄養士業務に活用されており、基本的な文書の作成・データの集計などのコンピュータの活用能力を身につける必要がある。本演習では、栄養士実務演習Ⅰをはじめとする栄養士実務に関する科目で身につけた栄養管理・栄養指導・給食運営管理の知識を基に、コンピュータを活用した栄養計画、給食管理及び栄養指導の科学（疫学）的な評価方法を学び、実践力を身につけることを目的とする。具体的には、栄養士業務で必要となるインターネットの基本的な使い方、ワードの基本的な使い方、エクセルの基本的な使い方、パワーポイントの基本的な使い方を説明し、活用できるようにする。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

A-2 栄養学の知識と課題対応能力
A-7 科学的態度の形成と科学的探究

以下の項目とも関連する

- D-3 給食と給食運営管理の理解
- 3-3) 給食施設における栄養管理と品質管理
- E-2 栄養指導の進め方と多様な場での展開
- 2-2) 多様な場における栄養指導の実践
- E-4 公衆栄養活動の実践のための理論と展開
- 4-1) 疫学の地域・職域の健康・栄養対策への活用

到達目標

1. 栄養士業務で必要となるインターネットの基本的な使い方を習得・活用できる
2. 栄養士業務に必要なワードの基本的な使い方を習得・活用できる
3. 栄養士業務に必要なエクセルの基本的な使い方を習得・活用できる
4. 栄養士業務に必要なパワーポイントの基本的な使い方を習得・活用できる

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション・ワードやエクセルの使い方（基本操作）
- 【第2回】 エクセル 栄養価計算ソフトの使用法・ソフトを用いた栄養価計算の実践
- 【第3回】 エクセル 献立表の作成・栄養価計算ソフトを用いた献立表の作成
- 【第4回】 ワード チラシの作成（ライフステージ別栄養教育）
- 【第5回】 ワード アンケートの作成（ライフステージ別栄養教育）
- 【第6回】 ワード リーフレットの作成（ライフステージ別栄養教育）
- 【第7回】 ワード 課題作成（ライフステージ別栄養教育）
- 【第8回】 エクセル アンケートの集計
- 【第9回】 エクセル グラフ作成
- 【第10回】 エクセル 表計算関数の活用（VLOOKUP関数の使い方）
- 【第12回】 エクセル 表計算関数の活用（HLOOKUP関数の使い方）
- 【第13回】 エクセル 課題作成
- 【第14回】 パワーポイントの使い方（生活習慣病予防講座）
- 【第15回】 パワーポイントの使い方（編集等応用操作）

※演習の進行具合などで実施内容の変更、入れ替えとなる場合があります。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：授業内で紹介する予定に従い、予習すべき内容について教科書の当該箇所を読んでから授業に臨むこと。
事後学習：授業内で学んだ知識を配布資料など読み返し、必要に応じ書き込む。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題は、回収後、授業内での解説をする、授業内での講評をするなどのフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

授業期間中に実施される以下の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
この科目は、栄養士免許に係る科目でのため、「出席時間数が授業時間数の2/3に満たない場合には単位認定を行わない」と定められている。5回を超えての欠席（欠席5回、遅刻1回）はK評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	課題提出率・課題完成度(5点×12回)(60) 確認テスト(10点×2回)(20)で評価する。	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポート課題の完成度を評価する。(20)	4
その他	0		

テキスト	30時間でマスター Word&Excel2021 (Windows11対応)/実教出版企画開発部 編/実教出版/ 定価1,100円/9784407359398
------	--

参考書	必要に応じて紹介する。
-----	-------------

履修条件・他の科目との関連	<p>栄養士免許必修科目である。</p> <p>「コンピューター基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を履修していること、またはそれと同等の実力が認められることが望ましい。</p> <p>栄養士実務に必要な書類作成・栄養教育の教材作成等が自由に行えるようなレベルを目指すので、パソコンの基本操作を苦手とする学生は事前に基本練習を積んだ上で演習に取り組むこと。</p> <p>欠席した場合は、登学後速やかに教員までプリント受け取りについて申し出ること。</p>
---------------	--

授業コード	22048601	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	栄養士総合演習 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	坂井 孝、海老澤 薫、諏訪 清二				
シラバス執筆(主)	坂井 孝				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本演習は、栄養士免許取得に必要な栄養士の専門科目のうち、特に基礎分野の知識の整理と定着をはかること、および社会のニーズに合った専門的知識と技能の修得を目的とする。具体的には、食品学・食品衛生学分野、栄養学分野を中心とした演習、および自然災害における危機管理や防災に関する演習などを行う。(オムニバス方式／全15回)

- (坂井孝／7回) 基礎栄養学、生化学、解剖生理学について演習を行う。
- (海老澤薫／5回) 食品学総論、食品学各論(加工学含む)、食品衛生学について演習を行う。
- (諏訪清二／3回) 防災について演習を行う。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

A-1. プロフェッショナルリズム A-6. 連携と協働

到達目標

1. 「食べる」ことによる身体の変化について説明できる
2. 「生きる」ために必要な生体組織の役割について説明できる
3. 「生きる」ために必要なエネルギーについて説明できる
4. 五大栄養素および嗜好成分の性質と化学的特徴、食品成分間反応について説明できる
5. 食品の分類法、食材各種の特徴ならびに食品の調理・加工・保存性との関連性が説明できる
6. 食中毒および食品の腐敗や劣化の原因ならびに防止方法について説明できる
7. 一般衛生管理やHACCP、大量調理施設衛生管理マニュアルについて説明できる
8. 自然・人・社会と災害の関係性を広い視点でとらえ、説明できる。
9. ハザード別に、正しい備えの方法を理解し、実行できる。
10. ハザード別に、災害発生時の正しい対応の仕方を理解し、説明できる。

授業計画

- 第1回 ガイダンス (担当：坂井孝)
 - 第2回 食品衛生分野①：食中毒・腐敗・劣化の分類と原因、防止方法について (担当：海老澤薫)
 - 第3回 食品衛生分野②：調理施設における一般的衛生管理およびHACCPについて (担当：海老澤薫)
 - 第4回 自然災害に関する基礎知識 (担当：諏訪清二)
 - 第5回 防災に関する基礎知識 (担当：諏訪清二)
 - 第6回 防災に関する演習 (担当：諏訪清二)
 - 第7回 自然災害時に役立つ調理実習 (担当：坂井孝)
 - 第8回 自然災害時における地域との連携について (担当：坂井孝)
 - 第9回 「食べる」を科学する：「空腹」による身体反応について (担当：坂井孝)
 - 第10回 「生きる」を科学する①：生体組織の役割について (担当：坂井孝)
 - 第11回 「生きる」を科学する②：エネルギー代謝について (担当：坂井孝)
 - 第12回 食品衛生分野③：食品衛生分野③：調理工程における危害分析とHACCPプランの作成について (担当：海老澤薫)
 - 第13回 食品学総論・各論分野①：食品の分類法、食材各種の特徴について (担当：海老澤薫)
 - 第14回 食品学総論・各論分野②：食品成分および食材と調理・加工・保存性との関連性について (担当：海老澤薫)
 - 第15回 「栄養」の概念を再考する (担当：坂井孝)
- * 状況により授業内容が前後する場合がある

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：指定された教科書または資料の予習を行い、不明点を明らかにする。
 事後学習：授業内で解説した教科書、プリント、配信課題等の問題を再度解き、講義内容の要点をまとめる等、授業の振り返りを行う。また、授業で課された課題は、提出期限までに提出する。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題については採点および講評を行い、フィードバックする。
 小テストについては、採点を行い解答および解説を提示し、フィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 定期試験に代わるレポート等の課題が未提出の場合は、「K」評価とする。
 正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価とする(例：欠席5回、遅刻1回となった場合「K」評価となる)

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	毎回の授業で出される小テストや課題等の達成度(取り組み姿勢も含む)について評価する。 坂井担当(45) 海老澤担当(30) 諏訪担当(15)	1～10
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート課題	1～10
その他	0		

テキスト	海老澤担当:1年次で使用した食品学総論、食品学各論Ⅰ、食品衛生学、の教科書および配布資料を使用する。 坂井担当:1年次で使用した基礎栄養学、解剖生理学、生化学の教科書を使用する。 諏訪担当:使用しない。
------	---

参考書	必要に応じて紹介または配信する。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	この科目は1年次に履修した栄養学、食品学、食品衛生学、調理学分野の知識の整理および再確認を行い、2年次履修科目の理解を深めるためのものである。 それぞれの科目は密接に関連しているため、予習・復習を確実にし、各回の授業に臨むこと。 出欠確認や課題の提出期限等については、各回の担当教員の指示に従うこと。 授業を欠席した場合は、Classroomを確認して自主学習を行うこと(資料等もこちらから入手すること)。 学外で実習(演習)を行うことがある。
---------------	--

授業コード	22048701	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	栄養士総合演習Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	海老澤 薫、笠間 基寛、土井 玲奈、坂井 孝、久木 久美子				
シラバス執筆(主)	海老澤 薫				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本演習は、栄養士免許取得に必要な栄養士専門科目について、各科目をオムニバス形式（教員5名）で実施し、知識の整理と定着をはかり、栄養士としての総合力を強化することを目的とする。授業は、実際に出題された栄養士実力認定試験問題を中心に解くことで分野毎の学習すべき点を整理して知識を定着する。（オムニバス方式／全15回）

- (1. 海老澤薫／5回)
- (2. 坂井孝／3回)
- (3. 笠間基寛／3回)
- (4. 土井玲奈／3回)
- (5. 久木久美子／1回)

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

- A-1. プロフェSSIONナリズム
A-6. 連携と協働

到達目標

1. 栄養士としての専門知識が説明できる。
2. 栄養士としての総合力を強化し、実践できる。
3. 即戦力として多様な栄養士としての実務に応用できる。

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション・2年次前期の栄養士実力認定試験対策の復習テストを行う。（担当：海老澤薫）
- 【第2回】栄養士実力認定試験過去問題を解く1-①
（公衆衛生学、社会福祉概論、解剖生理学、生化学、食品学総論、食品学各論、食品衛生学）（担当：久木久美子）
- 【第3回】栄養士実力認定試験過去問題を解く1-②
（栄養学総論、栄養学各論、臨床栄養学概論、栄養指導論、公衆栄養学概論、調理学、給食管理論、総合力問題）（担当：坂井孝）
- 【第4回】栄養士実力認定試験過去問題を解く1-③
（①、②の確認テストを解く）（担当：笠間基寛）
- 【第5回】栄養士実力認定試験過去問題を解く2-①
（公衆衛生学、社会福祉概論、解剖生理学、生化学、食品学総論、食品学各論、食品衛生学）（担当：土井玲奈）
- 【第6回】栄養士実力認定試験過去問題を解く2-②
（栄養学総論、栄養学各論、臨床栄養学概論、栄養指導論、公衆栄養学概論、調理学、給食管理論、総合力問題）（担当：海老澤薫）
- 【第7回】栄養士実力認定試験過去問題を解く2-③
（①、②の確認テストを解く）（担当：坂井孝）
- 【第8回】栄養士実力認定試験過去問題を解く3-①
（公衆衛生学、社会福祉概論、解剖生理学、生化学、食品学総論、食品学各論、食品衛生学）（担当：笠間基寛）
- 【第9回】栄養士実力認定試験過去問題を解く3-②
（栄養学総論、栄養学各論、臨床栄養学概論、栄養指導論、公衆栄養学概論、調理学、給食管理論、総合力問題）（担当：土井玲奈）
- 【第10回】栄養士実力認定試験過去問題を解く3-③
（①、②の確認テストを解く）（担当：海老澤薫）
- 【第11回】栄養士実力認定試験過去問題を解く4-①
（公衆衛生学、社会福祉概論、解剖生理学、生化学、食品学総論、食品学各論、食品衛生学）（担当：坂井孝）
- 【第12回】栄養士実力認定試験過去問題を解く4-②
（栄養学総論、栄養学各論、臨床栄養学概論、栄養指導論、公衆栄養学概論、調理学、給食管理論、総合力問題）（担当：笠間基寛）
- 【第13回】栄養士実力認定試験過去問題を解く4-③
（①、②の確認テストを解く）（担当：土井玲奈）
- 【第14回】栄養士実力認定模擬試験を行う。（担当：海老澤薫）
- 【第15回】栄養士実力認定試験を行う。（担当：海老澤薫）
- *進行によっては、授業計画（担当者を含む）を変更する場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：各科目の教科書または指定された資料の予習を行い、不明点を明らかにする。（各回2時間以上）。

事後学習：講義内容（誤答部分）の修正をおこない要点をまとめるなど、授業の振り返りを行い、知識の定着を図る（各回2時間以上）。

課題に対するフィードバックの方法

課題・模擬問題については解説を行うので復習すること。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 「各回の授業の達成度」は、レポート課題や模擬問題による小テストなど担当教員により異なる。各回の案内を確認すること。
 ※5回を超えての欠席はK評価となる。また、正当な理由なく「定期試験に代わるレポート課題」が決められた期限までに提出しなかった場合もK評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	第1～13回の授業達成度について③の確認テストの得点を反映する(40) 第14回栄養士実力認定試験模擬試験の受験結果を反映する(30) 第15回栄養士実力認定試験の受験結果を反映する(20)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	第15回の栄養士実力認定試験に関するレポートについて達成状況を評価する(10)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	『栄養士実力認定試験一問一答 第3版』 川端輝江, 岩間範子 / 監修 女子栄養大学出版部1,430円 ISBN: 978-4-7895-2451-3 その他、必要に応じてプリントを配付する。
------	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>〈履修条件ほか〉 欠席回数^①が5回を超えた場合は成績評価不能「K」評価となる。</p> <p>〈他の科目との関連〉 本科目は、1年次、2年次に履修した栄養士免許関連科目と関連する。 授業開始までに指定のテキスト(栄養士実力認定試験一問一答 第3版)、これまでの各科目で使用した教材および栄養士実力認定試験対策資料を用いて、履修済みの科目については復習を行うこと。</p> <p>〈欠席時の配付資料の受け取りについて〉 配布時に欠席した場合には、教員まで配付資料の有無を確認して受け取りについて申し出ること</p>
---------------	--

授業コード	22019401	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	調理学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	久木 久美子				
シラバス執筆(主)	久木 久美子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、安全でおいしく、利用者に対して適切な食事を提供するために、食事を構成する各食材料についての調理性およびその調理操作、さらに食べ物の嗜好性を理解することを目的とする。具体的には、調理の意義、植物性食品、動物性食品、油脂類、ゲル化剤・とろみ剤、調味料・香辛料、嗜好飲料の調理性、さらに加熱調理操作・非加熱調理操作、調理器具の原理や使用法、おいしさに関する要因について説明する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

D-2食事と調理の科学の理解

2-1) 調理の基本

2-2) 食べ物のおいしさの評価と応用

到達目標

1. 調理の意義を説明できる。
2. 植物性食品の調理性が説明できる。
3. 動物性食品の調理性が説明できる。
4. 油脂類の調理性が説明できる。
5. ゲル化剤・とろみ剤の調理性が説明できる。
6. 調味料・香辛料の調理性が説明できる。
7. 嗜好飲料の調理性が説明できる。
8. 加熱調理操作と加熱用器具・要点が説明できる。
9. 非加熱調理操作と非加熱用器具の原理や要点が説明できる。
10. おいしさに関する客観的要因（化学的・物理的要因）・主観的要因（食文化・食環境・身体状況）について説明できる。

授業計画

- 第1回 調理の目的
調理文化（映像の視聴）
食べ物のおいしさ
- 第2回 調理操作（非加熱調理操作、加熱調理操作）
- 第3回 米の調理科学
- 第4回 小麦粉の調理科学
- 第5回 いもの調理科学
- 第6回 豆類の調理科学
- 第7回 野菜の調理科学（DVD等の視聴）
- 第8回 果実・キノコ類・藻類の調理科学
- 第9回 肉類・魚介類の調理科学（DVD等の視聴）
- 第10回 卵の調理科学
- 第11回 乳類・油脂類 調理科学
- 第12回 油脂類・ゲル化剤の調理科学
- 第13回 ゲル化剤・とろみ剤の調理科学
- 第14回 味・色・香り（香辛料）の調理科学
- 第15回 調味料・嗜好飲料の調理科学、調理機器

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回を通じて、

【事前】授業終了時に予習すべき内容を伝えるので、教科書を読んでおくこと。

【事後】授業内で学んだ知識を実践の場である調理学実習Ⅰで生かすため、授業ノート、教科書を読み返し、必要に応じ実習書に書き込む。また、確認テストを実施するので、しっかりと勉強をすること。

課題に対するフィードバックの方法

- ①DVD等の視聴によるレポートは授業時間内で完成させ点検を受ける。内容が不十分な場合は、再度映像を視聴し、追記・修正後再提出する。
- ②確認テストは、グーグルフォームにより実施するので、学生はノートパソコンから回答する。確認テストの結果はすぐにわかるようになっている。また、正しい解答を示しているので、間違えた問題と正しい答えをノートに書き写し、復習に役立てる。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、各回の授業内での評価（レポートの完成度、確認テストの結果）、定期試験の結果を総合的

に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 ただし、定期試験の合格レベルは得点率80%以上である。
 ※5回を超えての欠席（欠席5回、遅刻1回）はK評価となる。レポートが未提出の場合もK評価となる。また、正当な理由なく定期試験を欠席した場合はK評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	レポートの完成度について評価(20) 確認テストの結果について評価(30)	1～10
授業外での評価	0		
定期試験	50	定期試験の結果について評価(50) 得点率80%以上で合格	2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, 10
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	はじめて学ぶ 健康・栄養教科書シリーズ 10 調理学 久木久美子他 化学同人 9784759814507 本体価格2100円 食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表2023(2023年10月16日出版)新しい食生活を考える会編著、大修館書店 9784469270167 本体価格1,760円
------	--

参考書	必要に応じ紹介する。
-----	------------

履修条件・他の科目との関連	卒業必修科目である。また、栄養士免許必修科目でもある。 食品のことを知らなければ調理することはできない。日頃から食品売り場に行き、色々な食品を見て回ることが大切である。 この授業は調理学実習と連動した科目のため、調理学実習 I の実習内容により、授業内容が前後することがある。
---------------	--

授業コード	22019501	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	調理学実習 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	久木 久美子				
シラバス執筆(主)	久木 久美子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本実習は、安全でおいしく、利用者に対して適切な食事を提供する際に必要な知識（各食材の特徴・調理性、安全性、食中毒、食品成分表）を活用し、基本的な調理技術と実務能力を身につけることを目的とする。具体的には、非加熱調理操作および加熱調理操作の基本的な調理や各食材を適切に調理する、調理器具を適切に調理に活用する、だしのおいしさについて評価する、食品成分表を用い基本的な栄養価計算を行う、チームとして行動するためのコミュニケーションを図るなど、調理で必要とされるスキルを獲得するための実習を行う。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

D-2食事と調理の科学の理解

2-1) 調理の基本

2-2) 食べ物のおいしさの評価と応用

A-4プロフェッショナルリズム

A-5栄養・食の質と安全の管理

A-6連携と協働

以下の項目とも関連する

D-1 食べ物と健康の関連の理解

1-1) 食品成分表

1-2) 食材の特徴と調理・加工

1-3) 食品の安全性

1-4) 病原性微生物, 有害物質による食品の汚染とその防止

D-2食事と調理の科学の理解

2-3) 食事計画と調理・食事提供

2-4) 食文化と調理

到達目標

1. 非加熱調理操作（はかる、洗う、漬ける、切るなど）の基本的な調理ができる
2. 加熱調理操作（湿式加熱：ゆでる、煮る、蒸す、炊く 乾式加熱：焼く、炒める、揚げる）の基本的な調理ができる
3. 各食材（植物性食品、動物性食品、ゲル化剤・とろみ剤、だし、調味料・香辛料）を適切に調理できる
4. 調理器具を適切に調理に活用できる
5. だしのおいしさについて評価できる
6. 食品成分表を用い基本的な栄養価計算ができる
7. チームとして行動するために必要なコミュニケーションを取ることができる

授業計画

第3～13回の実習後に「実習レポート」の提出を求める（オリエンテーション時に担当提出回を決定する）。

【第1回】 オリエンテーション

実習の進め方、当番の仕事、出席・遅刻・早退の扱いについて 他

【第2回】 調理の基本を学ぶ①

炊飯、だしの取り方（かつおだし）、野菜の切り方（せん切り、短冊切り 他）、あくの取り方

【第3回】 調理の基本を学ぶ②

炊飯（おにぎり）、だし巻き卵焼き、野菜の切り方（小口切り：酢の物）、計量カップ・計量スプーンの使い方

【第4回】 調理の基本を学ぶ③

炊き込みご飯（塩味）、炒め物（きんぴらごぼう）、だしの取り方（いりこ）、切り方（いちょう切り、千六本）

【第5回】 製菓の基本を学ぶ①

スポンジケーキ、生クリームを取り扱い、紅茶の入れ方

【第6回】 調理の基本を学ぶ④

焼き物（フライパンで焼く）、野菜の切り方（みじん切り、せん切り、くし形切り他）

野菜の切り方テスト

【第7回】 調理の基本を学ぶ⑤、製菓の基本を学ぶ②

焼き物（卵料理 オムレツ）、ポタージュの基本、クッキー

【第8回】 調理の基本を学ぶ⑥

日本料理：魚の下処理・姿焼き、煮物、アガーの取り扱い

【第9回】 調理の基本を学ぶ⑦

中国料理：野菜の切り方、片栗粉で濃度をつける、粉寒天の取り扱い

【第10回】 調理の基本を学ぶ⑧

西洋料理：オープン料理、ホワイトソース、トマトの湯向き、ドレッシングの作り方、粉ゼラチンの取り扱い

【第11回】 調理の基本を学ぶ⑨

中国料理：揚げ物（から揚げ）、中華スープ、甘酢漬け、蒸し物（カステラ）、蒸し器の使い方
 【第12回】調理の基本を学ぶ⑩
 日本料理：揚げ物（衣揚げ）、和え物（青菜）、澄まし汁、だしの取り方（一番だし）
 【第13回】調理の基本を学ぶ⑪
 日本料理：茹でる、煮る（そうめん、鶏肉、温泉卵、田楽みそ、わらびもち）、焼く（焼きなす）
 【第14回】調理技術確認テスト
 【第15回】製菓の基本を学ぶ③
 メレンゲの作成（シフォンケーキ）、アイスコーヒーの入れ方

※材料の納入状況等により実習内容を変更する場合があります。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

各回を通じて、
 【事前】レシピに目を通し、必要事項を記入し、作業がわからない内容については質問できるように準備しておく。また、参考になる動画をClassroomにアップロードするので、繰り返し動画を視聴し、動画で学んだことを必ずレシピのところに書き込んでおく。

【事後】実習中に学んだ調理の要点、試食した感想、栄養価を計算し、献立作成に役立つよう実習記録をつけておく（実習レポート及び実習ノートの作成）。

課題に対するフィードバックの方法

実習レポートは内容を点検し、コメントを記入し次の週に返却する。「再提出」とされた場合は、内容を見直し再度点検を受ける。
 なお、実習レポートは、「学籍番号、名前が記入されていること」、「実習レシピがそろっていること」、「栄養価計算をしていること」、「レポートの左上をホッチキスで留めていること」が提出する際の条件となる。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、各回の授業内での評価、実習レポートの完成度、自宅での調理に取り組む姿勢、全授業終了後の定期試験に代わる「実習ノート」の完成度を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 なお、各評価の合格レベルは、オリエンテーション時に説明する。
 <注意>
 ※実習レポートは、指定された期限までに既定された提出回数を満たしていない場合は、成績評価を辞退したとみなしK評価となる。
 ※実習ノートは、指定された期限までに提出しなかった場合は、成績評価を辞退したとみなしK評価となる。
 ※5回を超えての欠席（欠席5回、遅刻1回を含む）はK評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	65	実習への取り組み姿勢を評価(45) 調理技術確認テストの結果を評価(10) 班員との協力姿勢等を評価(10)	1, 2, 3, 4, 5, 7
授業外での評価	20	実習レポート(栄養価計算を含む)の完成度を評価(15) 自宅での調理に取り組む姿勢を評価(5)	1, 2, 3, 4, 5, 6
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	実習ノートの完成度(15)	1, 2, 3, 4, 5, 6
その他	0		

テキスト
 レシピ(プリント)は配付する。
 栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎 坂本他 化学同人 本体価格1500円 9784759818260
 食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表2023(2023年10月16日出版)新しい食生活を考える会編著 大修館書店 本体価格1,760円 9784469270167

参考書
 はじめようHACCP HACCPの考え方を取り入れた衛生管理のための手引き書 公益社団法人日本食品衛生協会 本体価格700円: 9784889250978
 そのほか、必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連
 栄養士免許必修科目である。
 この授業は調理学と連動した科目である。調理学でしっかりと理論を学び、実習で技術力を身につける。
 なお、技術力を定着させるためには、自宅での調理経験を積むことが大切である。
 実習を欠席した場合は、Classroomにレシピ(プリント)をアップロードしておくので印刷をし予習しておくこと。

授業コード	22019601	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	調理学実習Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	久木 久美子				
シラバス執筆(主)	久木 久美子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本実習は、調理学実習Ⅰで身につけた基本的な調理技術と実務能力をさらに向上させ定着させることを目的とする。具体的には、IH調理台・圧力鍋・オーブン・蒸し器・フードプロセッサーなどの調理器具を活用しながら、日常食・行事食・郷土料理・世界各国の料理の基本的な調理を行う。また、食べ物の嗜好性について評価し、改善するとともにチームで協働し調理工程作業を組み立て、定められた時間内で料理を仕上げる力をつけるための実習を実施する。さらに、食品成分表を用いてより実際に即した栄養価計算スキルを獲得するために、必要に応じて実習時やClassroomを用い説明する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

D-2食事と調理の科学の理解

2-1) 調理の基本

2-2) 食べ物のおいしさの評価と応用

2-3) 食事計画と調理・食事提供

2-4) 食文化と調理

A-4プロフェッショナルリズム

A-5栄養・食の質と安全の管理

A-6連携と協働

以下の項目とも関連する。

D-1 食べ物と健康の関連の理解

1-3) 食品の安全性

1-4) 病原性微生物、有害物質による食品の汚染とその防止

到達目標

1. 食材を指定された切り方で時間内に切ることができる
2. 定められた時間内で料理を仕上げるができる。
3. 日常的な食事の配膳ができる
4. 一人分の適正な分量と調味料の使用量が説明できる
5. IH調理台・圧力鍋・フードプロセッサーなどの調理器具が使用できる
6. 食べ物の嗜好性(視覚、味覚)について評価し、改善することができる
7. 食品成分表を用いてより実際に即した栄養価計算ができる
8. チームで協働し調理工程作業を組み立て実施することができる

授業計画

第1～12回の実習後に「実習レポート」の提出を求める(オリエンテーション時に担当提出回を決定する)。

【第1回】オリエンテーション、基本調理の確認

【第2回】もち米料理(炊きおこわ)、乾物料理3種(ひじき、高野豆腐、切り干し大根)

【第3回】煮込み料理(チキンスープストックの取り方)、蒸し焼き料理(パピヨット)、サラダ

【第4回】日本料理:炊き込みご飯(しょうゆ味)、魚の照り焼き、煮浸し、糸寒天の取り扱い

【第5回】西洋料理:パスタ料理、コールスローサラダ、バスク風チーズケーキ(フードプロセッサーの使い方)
調理技術確認テスト

【第6回】中国料理:焼き餃子、蒸し鶏のピリ辛サラダ、春雨のスープ、さつまいものあめ衣

【第7回】魚料理:いわしの手開き(フライ)、黒豆おこわ、マヨネーズサラダ(いも類)

【第8回】中国料理:甘酢あん(酢豚)、酢の物(くらげの酢の物)、卵蒸し料理(中華風茶碗蒸し)、もち菓子(ごまあん団子)

【第9回】魚料理:魚の三枚おろし(ムニエル)、汁物(豆腐)、黄身酢和え

【第10回】日本料理:巻きずし(厚焼き卵)、潮汁

【第11回】日本料理:雑煮、おせち料理 1

【第12回】日本料理:七草がゆ、おせち料理 2

【第13回】おもてなし料理:ビーフストロガノフ、ミネストローネ、ジャマンポテト、パウンドケーキ

【第14回】調理技術確認テスト

【第15回】軽食、大掃除

※材料の納入状況、班編制により実習内容を変更する場合がある。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

各回を通じて、

【事前】レシピに目を通し、必要事項を記入し、作業がわからない内容については質問できるように準備しておく。また、参考となる動画をClassroomにアップロードするので、繰り返し動画を視聴し、必ずレシピのところに書き込んでおく。

【事後】実習中に学んだ調理の要点、試食した感想、栄養価を計算し、献立作成に役立つよう実習記録をつけておく（実習レポート及び実習ノートの作成）。

課題に対するフィードバックの方法

実習レポートは内容を点検し、コメントを記入し次の週に返却する。「再提出」とされた場合は、内容を見直し再度点検を受ける。
 なお、実習レポートは、「学籍番号、名前が記入されていること」、「実習レシピがそろっていること」、「栄養価計算をしていること」、「レポートの左上をホッチキスで留めていること」が提出する際の条件である。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、各回の授業内での評価、実習レポートの完成度、全授業終了後の定期試験に代わる「実習ノート」の完成度を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 各成績評価の合格レベルは、オリエンテーション時に説明する。

<注意>

※実習レポートは、指定された期限までに既定された提出回数を満たしていない場合は、成績評価を辞退したとみなしK評価となる。

※実習ノートは、指定された期限までに提出しなかった場合は、成績評価を辞退したとみなしK評価となる。

※5回を超えての欠席（欠席5回、遅刻1回を含む）はK評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	実習への取り組み姿勢を評価(45) 調理技術確認テストの結果を評価(15) 班員との協力姿勢等を評価(10)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 8
授業外での評価	15	実習レポート(栄養価計算を含む)の完成度を評価(15)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	実習ノートの完成度(15)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
その他	0		

テキスト	<p>レシピ(プリント)は配付する。 栄養士・管理栄養士をめざす人の調理・献立作成の基礎 坂本他 化学同人 本体価格1500円 9784759818260 食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表2023(2023年10月16日出版)新しい食生活を考える会編著 大修館書店 本体価格1,760円 9784469270167</p>
------	---

参考書	<p>はじめようHACCP HACCPの考え方を取り入れた衛生管理のための手引き書 公益社団法人日本食品衛生協会 本体価格700円: 9784889250978 そのほか、必要に応じて授業の中で紹介する。</p>
-----	---

履修条件・他の科目との関連	<p>栄養士免許必修科目である。 調理学実習 I からの積み上げ科目である。調理学実習 I でしっかりと基礎の技術力を身につけておくこと。 実習を欠席した場合は、Classroomにレシピ(プリント)をアップロードしておくので、次の実習までに印刷し、予習しておくこと。</p>
---------------	--

授業コード	22033401	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	調理学実習Ⅲ [対面]				
シラバス執筆(全員)	西尾 幸子				
シラバス執筆(主)	西尾 幸子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本実習は、調理学実習Ⅱで身につけた調理技術や知識を活かし、利用者に対して安心・安全でおいしい食事を提供するための実践力を身につけることを目的とする。具体的には、市場に出回っている多くの食材や調味料の特徴を活かし適切な調理法を選択し、季節感(旬の食材)を大切に調理をする、味付け・盛り付け・配膳まで気を配り調理する、食事を安心・安全に提供するための調理を実践する。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

D-2食事と調理の科学の理解

2-1) 調理の基本

2-2) 食べ物のおいしさの評価と応用

2-3) 食事計画と調理・食事提供

2-4) 食文化と調理

D-1 食べ物と健康の関連の理解

1-3) 食品の安全性

1-4) 病原性微生物, 有害物質による食品の汚染とその防止

次の項目とも関連する

A-4プロフェッショナルリズム

A-5栄養・食の質と安全の管理

A-6連携と協働

到達目標

1. 市場に出回っている多くの食材や調味料の特徴を活かし、適切な調理法を選択することができる
2. 季節感(旬の食材)を大切に調理することができる
3. 味付け・盛り付け・配膳まで気を配り調理することができる
4. 食事を安心・安全に提供できるための調理法を実践できる

授業計画

【第1回】オリエンテーション、調理の基本と復習

: 基本の切り方、実習の手順と進め方、盛り付け・配膳・料理の演出、箸の持ち方

【第2回】基本の調理技術の確認テスト

: 包丁の扱い・切り方確認テスト

【第3回】魚の下処理、煮魚のコツ、だしの種類と取り方の復習、飾り切り、合わせ酢の種類と用途 (日本料理)

: さつま芋ご飯、魚の煮つけ、蛇腹きゅうりの生姜酢、沢煮椀

【第4回】肉種の応用、えびの下処理、大豆もやしと青菜の茹で方、とろみのつけ方の復習 (中国料理)

: ならまんじゅう、大豆もやしと青菜のナムル、中華風コーンスープ

【第5回】パスタの種類と用途、貝の扱いと保存 (西洋料理)

: ペンネ・オルトラーナ(菜園風)、あさりのチャウダー、豆乳のデザート

【第6回】圧力鍋の扱いと注意点、春雨について(エスニック風料理)

: しょうがご飯、圧力鍋を使った煮込み、春雨のタイ風サラダ、卵とオクラのスープ

【第7回】調理技術確認テスト

【第8回】季節の蒸し物、和え衣について、酒かすの扱い、裏ごしの使い方(日本料理)

: れんこんご飯、白身魚のかぶら蒸し、春菊の白和え、酒かす汁

【第9回】ハンバーグ材料の応用、マッシュポテトの作り方、ブイヨンとコンソメについて(西洋料理)

: シェパードパイ、蒸し豆とトマトのサラダ、もち麦入りスープ

【第10回】おもてなし料理(中国料理)

: 中華おこわ、海鮮のレタス包み、酸辣湯、中華クッキー

【第11回】おもてなし料理(西洋料理)

: バターライス、ローストポーク、キノコのスープ、簡単ティラミス

【第12回】お正月料理(飾り切り、半月盆の盛り付け)

: みぞれ雑煮、若竹きゅうり、2色きんとん、伊達巻、豚肉の味噌風味、れんこんの炒めなます

【第13回】クリスマス料理

: フリカッセ・ド・プーレ（鶏肉の白い煮込み）、シーザーサラダ、クレープ・リンゴのキャラメリゼ添え

【第14回】おもてなし料理（日本料理）

: 梅の香ご飯、牛肉の柚子こしょう風味、さつま芋と果物のおろし和え、茶わん蒸し、和菓子

【第15回】軽食（中国料理）、授業のまとめ、掃除

: 天津飯、鶏手羽のスープ

※ 授業計画は、食材の入荷状況、授業の進行状況によって変更する場合があります

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

授業（1回につき3時間として計算）と事前事後を合わせて1単位あたり45時間が必要です。

【事前の学習】: 配付した実習プリントを熟読し、必要箇所に記入しておく。わからないところは質問できるようにしておく。

【事後の学習】: 実習レポート(振り返りシート)を記入し完成させておく。
学んだ調理上のポイント、食品や調味料などの特徴、感想、考察などの実習記録をまとめておく。

(実習プリントを整理し、実習ファイルを作成する)

課題に対するフィードバックの方法

各回の実習レポート(振り返りシート)、課題レポートを点検、確認し、コメントを記入して次回に返却する。再提出となった場合は、再確認を受ける。実技については、技術不足を個別で指導する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格点とし、所定の単位を認定する

【授業内での評価】: 実習への取り組み姿勢、実習態度、班員との協力姿勢を評価(45)
: 調理技術確認テストの結果を評価(15)

【授業外での評価】: 実習レポート(振り返りシート)の完成度を評価(30)

【定期試験に代わるレポート等】: レポート課題の結果を評価(10)

【定期試験】: なし

【その他】: なし

※ 5回を超えての欠席(欠席5回、遅刻1回)は「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	実習への取り組み姿勢、実習態度を評価(35) 班員との協力姿勢の評価(10) 調理技術確認テストの結果を評価(15)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	30	実習レポート(振り返りシート)の完成度を評価(30)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート課題の結果を評価(10)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト テキストは使用せず、プリントを配付する

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する

履修条件・他の科目との関連 栄養士免許必修科目である。「調理学実習Ⅰ・Ⅱ」からの積み上げ科目です。「調理学実習Ⅰ・Ⅱ」が履修できていないと「調理学実習Ⅲ」を受講できません。基本の切り方、調理法をしっかりと理解し、普段から調理をする機会を作り、基本的な調理技術を身につけておく。実習を欠席した場合は、Classroomに配付された次回の実習プリントを熟読し予習をしておくこと。

授業コード	22011301	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	給食管理 [対面]				
シラバス執筆(全員)	笠間 基寛				
シラバス執筆(主)	笠間 基寛				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、給食の概念、給食運営のマネジメント、給食施設における栄養管理と品質管理、食材料管理、給食の生産・提供における衛生管理、給食の生産管理、給食施設における事故対策の基本について説明できることを目的とする。給食の意義・役割を理解し、利用者に適切な食事を提供するための給食運営に必要な実践的な知識や技術を講義形態で概説する。具体的に、食品の安全の確保や衛生管理に必要な法規や制度を説明する、食品の汚染と防止法を説明する、特定給食施設の種類の目的と特徴を説明する、給食運営における管理業務とマネジメントサイクルを説明する、給食の品質管理の意義とその方法について説明する、衛生管理プログラムと HACCP システムとの関連を説明する、給食施設により生産・提供システムが異なることを説明する、給食施設における事故対策の必要性について説明する。

担当教員が社会福祉施設や給食会社に勤務した経験をもとに、実務家教員として、理論と実務をつなげる授業を行う。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

- D-1 食べ物と健康の関連の理解
- 1-3) 食品の安全性
- 1-4) 病原性微生物、有害物質による食品の汚染とその防止
- D-3 給食と給食運営管理の理解
- 3-1) 給食の概念
- 3-2) 給食運営のマネジメント
- 3-3) 給食施設における栄養管理と品質管理
- 3-4) 食材料管理
- 3-5) 給食の生産・提供における衛生管理
- 3-6) 給食の生産管理
- 3-7) 給食施設における事故対策の基本

以下の項目とも関連する

- A-3 対象者の理解と食事の管理を中心とした栄養管理の実践
- A-2 栄養学の知識と課題対応能力
- A-5 栄養・食の質と安全の管理
- A-6 連携と協働
- C-4 食事の管理を中心とした栄養管理の基本

到達目標

1. 食品の安全の確保や衛生管理に必要な法規や制度を説明できる。
2. 食品の汚染と防止法を説明できる。
3. 特定給食施設の種類の目的と特徴を説明できる。
4. 給食運営における管理業務とマネジメントサイクルを説明できる。
5. 給食の品質管理の意義とその方法について説明できる。
6. 衛生管理プログラムと HACCP システムとの関連を説明できる。
7. 給食施設により生産・提供システムが異なることを説明できる。
8. 給食施設における事故対策の必要性について説明できる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション：オリエンテーション・給食の概念について学ぶ
 - 【第2回】 経営管理：給食経営に必要な資源や組織について学ぶ
 - 【第3回】 栄養・食事管理：給食を管理するための食事計画や栄養教育、PDCAを学ぶ
 - 【第4回】 給食の品質：品質管理・献立の標準化・ISO
 - 【第5回】 給食の生産①：食材料の管理について学ぶ
 - 【第6回】 給食の生産②：大量調理の特性や少量調理の違い、方法を学ぶ
 - 【第7回】 給食の安全・衛生①：食中毒やHACCPについて学ぶ
 - 【第8回】 給食の安全・衛生②：大量調理施設衛生管理マニュアルを学ぶ
 - 【第9回】 給食の安全・衛生③：検査の意味、保存食の重要性を学ぶ
 - 【第10回】 給食の安全・衛生④：事故や災害時における給食の役割・対応について学ぶ
 - 【第11回】 給食の施設・設備：給食施設の設備や、その基準と関連法規を学ぶ
 - 【第12回】 給食の人事・事務：給食業務の人事管理や情報技術（IT）の活用した事務作業について学ぶ
 - 【第13回】 給食の会計・原価：給食に関する原価の計算や損益分岐点について学ぶ
 - 【第14回】 各種給食施設①：病院や介護福祉施設等の特性について学ぶ
 - 【第15回】 各種給食施設②：学校や事業所、その他の給食施設の特性について学ぶ
- ※進行によっては、授業計画が前後する場合があります。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：授業終了時に予習すべき内容を伝えるので、教科書を読んでおくこと。
事後学習：授業内で学んだ知識を授業ノート、教科書を読み返し、必要に応じ実習書に書き込む。
小テストを実施するので、しっかり勉強すること。
定期的にノート提出のため、しっかりまとめておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

小テストについて、翌週以降に授業内で解説する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する
授業内での評価：授業における発表姿勢・内容を評価する
授業における小テストの点数で評価する
授業外での評価：ノートの完成度を評価する
定期試験：筆記試験の点数で評価する
5回を超えての欠席（欠席5回、遅刻1回）や正当な理由のない定期試験の欠席は成績評価を「K」とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	授業における発表姿勢・内容を評価する(15) 授業における小テストの点数で評価する(20:1回5点で4回実施)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8
授業外での評価	15	ノートの完成度を評価する(15:1回5点で3回実施)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8
定期試験	50	筆記試験(50)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	「新・実践 給食経営管理論[第3版](補正版)」、藤原政嘉・田中俊治・赤尾正 編、株式会社みらい、2,750円(本体2,500円+税10%)、9784860153229
------	--

参考書	「給食経営管理実習ワークブック[第3版]」、藤原政嘉・田中俊治・赤尾正 編、株式会社みらい、2,090円(本体1,900円+税10%)、9784860153434 その他、必要に応じて授業の中で紹介する
-----	--

履修条件・他の科目との関連	本科目は栄養士免許必修科目である。 授業を欠席した場合は、次の回までに授業内容を確認し自宅学習をすること。 欠席時の配付プリントは次回の授業までに申し出ること。 <他の科目との関連> 基礎栄養学、食品学、応用栄養学、調理学、食品衛生学と関連する。
---------------	---

授業コード	22033601	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	給食計画論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	笠間 基寛				
シラバス執筆(主)	笠間 基寛				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、食事計画と調理・食事提供、給食施設における栄養管理と品質管理、食品成分表について身に付けることを目的とする。給食の意義・役割を理解し、利用者に適切な食事を提供するための給食運営に必要な実践的な知識や技術を講義形態で概説する。具体的には、食品成分表の利用における留意点を説明する、主食・主菜・副菜を組み合わせた日常食を計画を説明する、食品成分表を食事計画に活用する方法を説明する、「日本人の食事摂取基準」を活用して対象者に応じた食事計画を説明する、調味パーセントを活用した調味の標準化を説明する、給食施設の給与栄養目標量を算出できるよう説明する。給食の運営業務における給食計画や給食施設の特性に基づいた生産管理について、食事の計画や献立作成、評価、調理を含めた給食計画に関することを総合的に説明する。

担当教員が社会福祉施設や給食会社に勤務した経験をもとに、実務家教員として、理論と実務をつなげる授業を行う。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

- D-1 食べ物と健康の関連の理解
 - 1-1) 食品成分表
- D-2 食事と調理の科学の理解
 - 2-3) 食事計画と調理・食事提供
- D-3 給食と給食運営管理の理解
 - 3-3) 給食施設における栄養管理と品質管理

以下の項目とも関連する

- A-1 プロフェッショナリズム
- A-2 栄養学の知識と課題対応能力
- A-3 対象者の理解と食事の管理を中心とした栄養管理の実践
- A-5 栄養・食の質と安全の管理

到達目標

1. 食品成分表の利用における留意点を説明できる。
2. 主食・主菜・副菜を組み合わせた日常食を計画できる。
3. 食品成分表を食事計画に活用できる。
4. 食事摂取基準を活用して対象者に応じた食事計画ができる。
5. 調味パーセントを活用した調味の標準化ができる。
6. 給食施設の給与栄養目標量を算出できる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション : オリエンテーション、給食計画の目的について学ぶ
 - 【第2回】 給与栄養目標量の設定① : 給与栄養目標量の算出方法を学ぶ
 - 【第3回】 給与栄養目標量の設定② : 給与栄養目標量の作成方法について学ぶ
 - 【第4回】 食品群別加重平均成分表の作成 : 食品群別加重平均成分表の作成方法を学ぶ
 - 【第5回】 食品構成表の作成① : 穀類と動物性食品の決定方法を学ぶ
 - 【第6回】 食品構成表の作成② : 植物性食品と調味料・油脂・砂糖の算出方法を学ぶ
 - 【第7回】 食品構成表の作成③ : 食品構成表の栄養価計算をまとめる
 - 【第8回】 栄養出納表の作成 : 栄養出納表の算出方法を学ぶ
 - 【第9回】 献立計画① : 献立計画表の作成方法を学ぶ
 - 【第10回】 献立計画② : 週間献立計画表の作成方法を学ぶ
 - 【第11回】 献立計画③ : 食品廃棄率の計算、発注量の計算を学ぶ
 - 【第12回】 献立作成① : 主食・主菜・副菜について、メニューの組み合わせについて、塩分濃度について学ぶ
 - 【第13回】 献立作成② : 主菜・副菜・汁物の料理一覧表の作成
 - 【第14回】 献立作成③ : 料理一覧表から料理を選び、献立を組み立てる
 - 【第15回】 まとめ : 授業内容、課題のまとめ
- ※進行によっては、授業計画が前後する場合があります。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 事前学習 : 授業終了時に予習すべき内容を伝えるので、教科書を読んでおくこと。
- 事後学習 : 授業内で学んだ知識を授業プリント、教科書を読み返し、必要に応じ実習書に書き込む。課題作成に向けて計画的に取り組むこと。

課題に対するフィードバックの方法

課題について、翌週以降に授業内で解説する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する

授業内での評価：授業における発表姿勢・内容を評価する

授業外での評価：授業プリントの完成度を評価する

課題の内容を評価する

定期試験：筆記試験の点数で評価する

5回を超えての欠席(欠席5回、遅刻1回)や正当な理由のない定期試験の欠席は成績評価を「K」とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	54	授業における発表姿勢・内容を評価する(15) 課題の内容を評価する(39:1回3点で13回実施)	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	10	ノートの完成度を評価する(10:1回5点で2回実施)	1, 2, 3, 4, 5
定期試験	36	筆記試験(36)	1, 2, 3, 4, 5, 6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	「新・実践 給食経営管理論[第3版](補正版)」、藤原政嘉・田中俊治・赤尾正 編、株式会社みらい、2,750円(本体2,500円+税10%)、9784860153229 「食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表2023」(2023年10月16日出版) 新しい食生活を考える会編著、大修館書店、1,760円(本体1,600円+税10%)、9784469270167
------	--

参考書	「給食経営管理実習ワークブック[第3版]」、藤原政嘉・田中俊治・赤尾正 編、株式会社みらい、2,090円(本体1,900円+税10%)、9784860153434 その他、必要に応じて授業の中で紹介する
-----	--

履修条件・他の科目との関連	本科目は栄養士免許必修科目である。 授業を欠席した場合は、次の回までに授業内容を確認し自宅学習をすること。 欠席時の配付プリントは次回の授業までに申し出ること。 <他の科目との関連> 基礎栄養学、食品学、応用栄養学、調理学、食品衛生学と関連する。
---------------	---

授業コード	22048801	授業形態	実習	実務家教員	○
授業科目名	給食管理実習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	笠間 基寛				
シラバス執筆(主)	笠間 基寛				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本実習は、給食施設における献立作成と栄養管理、品質管理、食材料管理、給食の生産・提供における衛生管理、給食の生産管理について実践できることを目的とする。大量調理の献立計画から調理・提供までの給食の運営、大量調理施設衛生管理マニュアルに基づく衛生管理を含めた給食経営管理業務の基礎について実習形態で実践する。具体的には、各食材料について適切な調理法を実施・説明する、主食・主菜・副菜を組み合わせた日常食を計画の方法を説明する、大量調理に適した献立作成を説明する、給食の目的に応じた食材料の選択を実施・説明する、衛生管理基準に沿った調理工程の衛生管理を実施する、調理機器を使用して給食の生産・提供を実施・説明する。また、実習前には喫食者の栄養指導に向けた媒体を作成し、実習終了後はアンケート調査の集計、帳票類の作成を行うことで、給食の意義・役割を理解し、利用者に適切な食事を提供するための給食運営に必要な実践的な知識や技術を実施・説明する。担当教員が社会福祉施設や給食会社に勤務した経験をもとに、実務家教員として、理論と実務をつなげる授業を行う。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

D-2食事と調理の科学の理解

2-1) 調理の基本

2-3) 食事計画と調理・食事提供

D-3給食と給食運営管理の理解

3-3) 給食施設における栄養管理と品質管理

3-4) 食材料管理

3-5) 給食の生産・提供における衛生管理

3-6) 給食の生産管理

以下の項目とも関連する

A-3対象者の理解と食事の管理を中心とした栄養管理の実践

A-4栄養・食の選択と決定を支援するコミュニケーション能力

A-5栄養・食の質と安全の管理

A-6連携と協働

到達目標

1. 各食材料について適切な調理ができる。
2. 主食・主菜・副菜を組み合わせた日常食を計画できる。
3. 大量調理に適した献立作成ができる。
4. 給食の目的に応じた食材料の選択ができる。
5. 衛生管理基準に沿った調理工程の衛生管理を実践できる。
6. 調理機器を使用して給食の生産・提供ができる。

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション：オリエンテーション、調理技術実技テスト、給食管理実習室見学・役割分担決め
 - 【第2回】献立作成：献立作成、実習献立栄養価算出実習献立発注・出庫計画
 - 【第3回】大量基礎実習：食材検収、大量基礎実習
 - 【第4回】試作1：試作・献立の改善
 - 【第5回】改善献立の発注：献立の修正、栄養価算出、作業工程表、発注
 - 【第6回】試作2：改善献立試作
 - 【第7回】改善献立の発注：改善献立の修正、栄養価算出、作業工程表、発注
 - 【第8回】帳票類の作成：出庫計画、作業工程表、ポスター、アンケート用紙
 - 【第9回】大量調理実習①：食材検収、1班が考案（主菜の主材料・調理方法、料理様式）した献立を提供
 - 【第10回】大量調理実習②：食材検収、2班が考案（主菜の主材料・調理方法、料理様式）した献立を提供
 - 【第11回】大量調理実習③：食材検収、3班が考案（主菜の主材料・調理方法、料理様式）した献立を提供
 - 【第12回】大量調理実習④：食材検収、4班が考案（主菜の主材料・調理方法、料理様式）した献立を提供
 - 【第13回】大量調理実習⑤：食材検収、5班が考案（主菜の主材料・調理方法、料理様式）した献立を提供
 - 【第14回】大量調理実習⑥：食材検収、6班が考案（主菜の主材料・調理方法、料理様式）した献立を提供
 - 【第15回】実務への展開：実習後資料整理、学習課題整理、まとめ
- ※進行によっては、授業計画が前後する場合がある。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

実習前には作業工程表に目を通し、必要事項を記入しておく。また作業がわからない内容については質問できるよう準備しておく。実習後は実習中に学んだ大量調理の要点、献立作成に役立つよう実習記録をつけておく。

課題に対するフィードバックの方法

実習課題は内容を点検し、コメントを記入し返却する。
なお、実習課題は「必要な内容を記入していること」が提出の条件となる。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
5回を超えての欠席(欠席5回、遅刻1回)はK評価となる。
定期試験に代わるレポート等が未提出の場合、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	実習資料作成(30) 実習役割実践(30)	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	10	課題(10)	4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート課題(30)	2, 3, 4
その他	0		

テキスト	「新・実践 給食経営管理論[第3版](補正版)」、藤原政嘉・田中俊治・赤尾正 編、株式会社みらい、 2,750円(本体2,500円+税10%)、9784860153229 「食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表2023」(2023年10月16日出版) 新しい食生活を考える会編著、大修館書店、1,760円(本体1,600円+税10%)、 9784469270167 「調理のためのベーシックデータ 第6版」、女子栄養大学調理学研究室女子栄養大学短期大学部 調理学研究室/監修、女子栄養大学出版部、 2,200円(本体2,000円+税10%)、978-4-7895-0325-9
------	---

参考書	「給食経営管理実習ワークブック[第3版]」、藤原政嘉・田中俊治・赤尾正 編、株式会社みらい、 2,090円(本体1,900円+税10%)、9784860153434 その他、必要に応じて授業の中で紹介する
-----	--

履修条件・他の科目との関連	栄養士免許必修科目である。 実習の前日に実施される「食材検収」もこの授業の一部なので、必ず出席すること。 実習の際は、実習用白衣、前掛け、帽子、シューズ、着替えを持参すること。 実習を欠席した場合には、教員までプリント配付の有無を確認して受け取りについて申し出ること。 <他の科目との関連> 基礎栄養学、食品学、応用栄養学、調理学、食品衛生学、給食管理、給食計画論と関連する。
---------------	---

授業コード	22048901	授業形態	実習	実務家教員	○
授業科目名	実践給食管理実習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	笠間 基寛				
シラバス執筆(主)	笠間 基寛				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本実習は、応用栄養学や臨床栄養学、実践栄養学で学んだ知識を基に、子どもと高齢者における食事の管理を中心とした栄養管理を実践するための知識と技術を修得することを目的とする。なお、対象者にあった適切な食事を提供するためには、献立を作成する能力を向上させることが重要となる。したがって、この授業では、献立作成に関わる演習を実施した上で、子ども分野では食物アレルギー対応食や子どものおやつを提案できるように実習を行う。高齢者分野では咀嚼、嚥下障害、低栄養に対応した食事について理解し提案できるように実習を行う。さらに、一般食から特別食への展開方法について理解できるように実習を通じて説明する。担当教員が社会福祉施設や給食会社に勤務した経験をもとに、実務家教員として、理論と実務をつなげる授業を行う。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】

- D-2. 食事と調理の科学の理解
- 2-3) 食事計画と調理・食事提供
- D-3. 給食と給食運営管理の理解
- 3-3) 給食施設における栄養管理と品質管理
- 3-4) 食材料管理
- 3-5) 給食の生産・提供における衛生管理
- 3-6) 給食の生産管理

到達目標

1. 保育所、幼稚園、高齢者福祉施設を想定した献立を考えることができる。
2. 弁当や行事食などの給食形態について説明できる。
3. 併設の認定こども園の園児を対象とした給食提供を通して、子どもの現状を説明できる。
4. 栄養士として給食現場での作業を理解することや、それぞれの給食形態の違いやその特性を理解し対応できる。
5. 安全な給食を提供するための適切な衛生管理ができる。
6. 給食を実施する上で必要な書類を作成できる。

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション、献立作成、栄養価算出
 - 【第2回】実習献立決定、試作の発注、出庫計画、帳票作成
 - 【第3回】試作①、食材検収、献立修正・改善献立の作成、発注、帳票作成
 - 【第4回】試作②、食材検収、献立修正・改善献立の作成、発注、帳票作成
 - 【第5回】実習献立の発注（実習献立の発注、出庫計画、帳票作成、媒体作成）
 - 【第6回】大量調理実習①：食材検収、1班が考案（主菜の主材料・調理方法、料理様式）した高齢者向け献立を提供
 - 【第7回】大量調理実習②：食材検収、2班が考案（主菜の主材料・調理方法、料理様式）した高齢者向け献立を提供
 - 【第8回】大量調理実習③：食材検収、3班が考案（主菜の主材料・調理方法、料理様式）した事業所向け弁当献立を提供
 - 【第9回】食教育の媒体作成、実習資料整理
 - 【第10回】大量調理実習④：食材検収、4班が考案（主菜の主材料・調理方法、料理様式）した事業所向け弁当献立を提供
 - 【第11回】大量調理実習⑤：食材検収、5班が考案（主菜の主材料・調理方法、料理様式）した幼稚園向け献立を提供
 - 【第12回】大量調理実習⑥：食材検収、6班が考案（主菜の主材料・調理方法、料理様式）した幼稚園向け献立を提供
 - 【第13回】大量調理実習⑦：食材検収、7班が考案（主菜の主材料・調理方法、料理様式）した幼稚園向け献立を提供
 - 【第14回】実習の目標達成度の評価、学習課題整理、実習室整理
- ※進行によっては、授業計画が前後する場合があります。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

実習前には作業工程表に目を通し、必要事項を記入しておく。また作業がわからない内容については質問できるよう準備しておく。実習後は実習中に学んだ内容等について、実習記録をつけておく。

課題に対するフィードバックの方法

実習課題は内容を点検し、コメントを記入し返却する。

なお、実習課題は「必要な内容を記入していること」が提出の条件となる。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
授業回数の1/3を超えての欠席は「K」評価となる。詳細は授業で説明する。
定期試験に代わるレポート等が未提出の場合、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	実習資料(帳票類や献立資料等)作成(30) 実習役割実践(30)	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	全授業終了後に実施するレポート等(40)	2, 3, 4
その他	0		

テキスト	「新・実践 給食経営管理論[第3版](補正版)」、藤原政嘉・田中俊治・赤尾正 編、株式会社みらい、 2,750円(本体2,500円+税10%)、9784860153229 「食品解説つき 八訂準拠 ビジュアル食品成分表2023」(2023年10月16日出版) 新しい食生活を考える会編著、大修館書店、1,760円(本体1,600円+税10%)、 9784469270167 「調理のためのベーシックデータ 第6版」、女子栄養大学調理学研究室女子栄養大学短期大学部 調理学研究室/監修、女子栄養大学出版部、 2,200円(本体2,000円+税10%)、978-4-7895-0325-9
------	---

参考書	「給食経営管理実習ワークブック[第3版]」、藤原政嘉・田中俊治・赤尾正 編、株式会社みらい、 2,090円(本体1,900円+税10%)、9784860153434 その他、必要に応じて授業の中で紹介する
-----	--

履修条件・他の科目との関連	給食管理実習を履修していること。 実習の前日に実施される「食材検収」もこの授業の一部なので、必ず出席すること。実習の際は、 実習用白衣、前掛け、帽子、シューズ、着替えを持参すること。 実習を欠席した場合には、教員までプリント配付の有無を確認して受け取りについて申し出ること。
---------------	--

授業コード	22039101	授業形態	実習	実務家教員	○
授業科目名	栄養士校外実習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	笠間 基寛				
シラバス執筆(主)	笠間 基寛				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本実習は、学外の特定給食施設において約1週間の実習を行うことで、給食施設における栄養士の役割を理解し、利用者の栄養管理の課題を関連部門・多職種と共有し、給食提供に展開するための力を修得することを目的とする。具体的には、事前学習を通じて校外実習の目標・ねらいを説明する、栄養士の職業倫理について給食の運営の中で説明する、利用者および多職種とのコミュニケーションを実施・説明する、給食施設の特性を理解し、献立計画を説明する、給食施設の特性を理解し、調理・提供を説明する、給食施設における多職種との連携による利用者の栄養管理を説明する。さらに、事後学習では実習記録をもとに資料を作成し、栄養士校外実習報告会を通じて、実習内容の整理や共有を行い、プレゼンテーション能力を活用できるようにする。担当教員が社会福祉施設や給食会社に勤務した経験をもとに、実務家教員として、理論と実務をつなげる授業を行う。

【栄養学教育モデル・コア・カリキュラムとの関連性】
G-1 給食施設の利用者への食事の管理を中心とした栄養管理の実践

到達目標

1. 事前学習を通じて校外実習の目標・ねらいを説明できる。
2. 栄養士の職業倫理について給食の運営の中で説明できる。
3. 利用者および多職種とのコミュニケーションを実践できる。
4. 給食施設の特性を理解し、献立計画を実践できる。
5. 給食施設の特性を理解し、調理・提供を実践できる。
6. 給食施設における多職種との連携による利用者の栄養管理を説明できる。

授業計画

<事前学習>

- 第1回 栄養士校外実習の概要について（目的や内容、実習の心構えと注意事項）
- 第2回 栄養士校外実習の心構えと注意事項（卒業生による栄養士校外実習体験談、質疑応答）
- 第3回 実習先の施設別説明、実習課題の作成（施設別の栄養士業務の内容を把握）
- 第4回 学習目標の設定、実習先との電話連絡
（目標管理シートを作成、施設に応じた課題献立を作成する、事前訪問の際の電話連絡の仕方）
- 第5回 調理技術実技テスト（野菜の切り方）
- 第6回 給食施設における衛生管理の復習（給食運営に必要な衛生管理について確認テストを行い、その後解説する）
- 第7回 栄養士校外実習ノート（冊子）の記入方法について
（実習ノートに記載されている内容の確認と、実習ノートの必要箇所の記入方法を把握する）
- 第8回 携行物品の配布、最終チェック（学外での施設実習にふさわしい服装や持ち物について把握し、確認を行う）
- 第9回 礼状の作成（手紙の書式を知り、各施設に応じた礼状を作成する）

<事後学習>

- 第10回 栄養士校外実習報告会資料の作成1（報告会で使用するパワーポイントを作成する）
 - 第11回 栄養士校外実習報告会資料の作成2（報告会で使用する読み原稿を作成する）
 - 第12回 栄養士校外実習報告会資料の作成3（プレゼンテーションを行い不備のあった箇所を加筆修正する）
 - 第13回 栄養士校外実習報告会予行演習（報告会の予行演習をする）
 - 第14回 栄養士校外実習報告会（報告会でプレゼンテーションを行う）
 - 第15回 栄養士校外実習報告会の振り返り、実習先での取り組みに対する自己評価、まとめ
- ※進行によっては、授業計画が前後する場合がある。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前・事後学習に要する時間を十分に確保すること。
学外での施設実習を行う目的、課題、学外での施設実習後の発表等、事前・事後学習ともに作業は多い。時間をかけて準備すること。

課題に対するフィードバックの方法

確認テスト（筆記）は返却するので復習すること。
栄養士校外実習報告会での発表は講評するので振り返ること。

成績評価の方法・基準(方針)

「成績評価の種類」に示す評価方法により判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

以下に、学外での給食施設での実習を受講することができる条件と評価不能Kとなる場合を示す。

＜給食施設での実習を受講することができる条件＞

学内での事前学習において、①～③すべてを満たすことで受講できる。

- ①栄養士校外実習の開始時点までにおいて5分の4以上出席していること。
- ②事前課題及び目標管理シートなどの提出物が指定された期限までに提出していること（未提出がない）。
- ③確認テストの成績が合格基準に達していること。

なお、本学の規則に違反し又は学生としての本分に反する行為をした者については、学外での実習の受講を認めない（学則第38条）。

＜評価不能「K」となる場合＞

- ①事前・事後学習を5回以上欠席した場合は、K評価とする。
- ②栄養士校外実習先で規定時間実習を行えなかった場合は、K評価とする。
- ③栄養士校外実習報告会で発表できなかった場合は、K評価とする。
- ④定期試験に代わるレポートを期限までに提出しなかった場合は、K評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	45	事前・事後学習に関する評価 ＜事前指導＞授業回数9回 ・事前課題、目標管理シートなど提出物(10) ・実技テスト(5) ・確認テスト(5) ＜事後指導＞授業回数6回 ・お礼状や報告会資料の作成(15) ・栄養士校外実習報告会(10)	1, 2, 4
授業外での評価	50	栄養士校外実習に関する評価 ・実習ノート(冊子)(10) ・校外実習先の総合評価(40)	1, 2, 3, 5, 6
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	5	振り返りレポート(5)	1, 2, 6
その他	0		

テキスト	プリントを配付する。専用ファイルを配付するので必ず整理して綴じておき、校外実習先の施設には持参すること。
------	--

参考書	適宜紹介する。
-----	---------

履修条件・他の科目との関連	<p>栄養士免許必修科目である。</p> <p>＜履修条件＞</p> <p>栄養士校外実習を履修するための条件は、「履修の手引」栄養士課程履修細則表備考4に示すとおりである（以下、抜粋）。</p> <p>①2年次前期までに開講される栄養士免許に関わる必修科目において、GPA1.8以上であること。</p> <p>②「給食の運営」の分野のうち、給食管理・給食計画論・給食管理実習・調理学実習Ⅰ・調理学実習Ⅱについては事前に単位の修得ができていないこと。</p> <p>なお、上記①、②に加え1年次前期に開講される栄養士免許に関わる必修科目において単位の未修得がないことも履修条件とする。</p>
---------------	--

授業コード	22049601	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	市民と生活 [対面]				
シラバス執筆(全員)	林 兵磨				
シラバス執筆(主)	林 兵磨				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は、私達が社会の中で一般市民の一人として日常生活を送る上で必要とされる社会制度(税金、年金など)に関する知識を教授することを目的とする。日常生活に関わるさまざまな社会制度に関するトピックを取り上げ、受講生がそれらについて正しい知識を得て、問題意識を高めることにより、これからの生き方の指針を見出すことを指向している。

授業の進め方は、毎回担当者による一定のレクチャーの後、授業トピックに関する問題演習(授業中ワーク)とその解答解説を行うという方法で進めていく。受講生には積極的な姿勢をもって授業に臨むことが求められる。

到達目標

本科目における受講生の到達目標は下記のとおりとする。

1. 受講生が一個人として各自の将来設計を構築し、ライフイベント表等の作成ができるようになること
2. 受講生が日常生活を送る上で必要とされるさまざまな財務に関する知識を取得し、その知識に基づいて数量的算定ができるようになること
3. 受講生が日本で社会生活を送る上で必要となる法知識を取得して、その内容や立法趣旨について論理的に説明できるようになること

授業計画

- 第1講 ライフプランニング(ライフイベント表、将来キャッシュフロー表、バランスシート)
- 第2講 貯蓄と投資(1) 銀行預金、投資(株式投資、債券投資、投資信託等)
- 第3講 貯蓄と投資(2) 消費者保護に関する法律、投資に関する係数
- 第4講 税金関係(1) 所得税(所得税の体系、給与所得、源泉徴収制度、年末調整)
- 第5講 税金関係(2) 所得税(事業所得、確定申告制度)
- 第6講 税金関係(3) 所得税(各種所得税控除)、住民税、固定資産税
- 第7講 社会保険関係(1) 医療保険(国民健康保険、健康保険)
- 第8講 社会保険関係(2) 公的年金(国民年金、厚生年金)
- 第9講 社会保険関係(3) 労災保険、介護保険、雇用保険
- 第10講 労働法関係 労働基準法、労働契約法
- 第11講 労働問題 各種労働問題(非正規雇用、ワークライフバランス、ハラスメント、ガバナンス、コンプライアンス等)
- 第12講 リスクマネジメントと保険 民間保険(生命保険、損害保険、その他の保険)
- 第13講 個人情報保護法と著作権法
- 第14講 政治参加(選挙制度、直接請求権)
- 第15講 ボランティア活動とNPO(非営利団体)

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習を必要とする。

必要学習時間は、毎回事前学習・事後学習各1.5時間である。また、これに加えて期末試験対策のための学習時間として合計15時間を要する。

- 第1講
事前学習 各自の将来のライフプランについて考えておく
事後学習 ライフイベント表、将来キャッシュフロー表、バランスシートについて授業時に指示した課題に取り組むこと
- 第2節
事前学習 貯蓄と投資それぞれの特徴点と相違点について調べておく
事後学習 株式投資等について授業時に指示した課題に取り組むこと
- 第3講
事前学習 消費者保護法について調べておく
事後学習 投資に関する6つの係数について授業時に指示した課題に取り組むこと
- 第4講
事前学習 所得税の全体像について調べておく
事後学習 所得税の給与所得について授業時に指示した課題に取り組むこと
- 第5講
事前学習 所得税の確定申告制度について調べておく
事後学習 所得税の事業所得について授業時に指示した課題に取り組むこと
- 第6講
事前学習 所得税の各種所得控除について調べておく
事後学習 所得税の所得控除について授業時に指示した課題に取り組むこと
- 第7講

事前学習	日本の公的医療保険制度について調べておく
事後学習	日本の公的医療保険制度について授業時に指示した課題に取り組むこと
第8講	
事前学習	日本の公的年金制度について調べておく
事後学習	日本の公的年金制度について授業時に指示した課題に取り組むこと
第9講	
事前学習	労災保険、介護保険、雇用保険、について調べておく
事後学習	労災保険等について授業時に指示した課題に取り組むこと
第10講	
事前学習	労働基準法及び労働契約法について調べておく
事後学習	労働基準法及び労働契約法について授業時に指示した課題に取り組むこと
第11講	
事前学習	日本におけるさまざまな労働問題について調べておく
事後学習	さまざまな労働問題について授業時に指示した課題に取り組むこと
第12講	
事前学習	日本の民間の保険制度について調べておく
事後学習	民間保険について授業時に指示した課題に取り組むこと
第13講	
事前学習	個人情報保護法及び著作権法について調べておく
事後学習	個人情報保護法及び著作権法について授業時に指示した課題に取り組むこと
第14講	
事前学習	日本の選挙制度及び直接請求権について調べておく
事後学習	日本の選挙制度及び直接請求権について授業時に指示した課題に取り組むこと
第15講	
事前学習	日本のボランティア活動及びNPOの現状について調べておく
事後学習	日本のボランティア活動及びNPOについて授業時に指示した課題に取り組むこと

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業後にGoogle Classroomを通じて課題提出を求める。提出された課題については次の授業にて講評を行う。また、重要と思われる論点については再度次の授業内で補足説明を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

下記の各評価項目に基づき総合的に判断し、100点満点で60点以上を合格とする。
 正当な理由なく5回を超えて欠席した場合や定期試験に代わるレポートを提出しなかった場合には、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業中ワーク	2, 3
授業外での評価	30	事後課題	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	定期試験に代わるレポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	滝澤ななみ『みんなが欲しかった！FPの教科書3級2023-2024年』TAC出版、2023年、1,650円(税込) ISBN: 987-4300105177
------	---

参考書	必要に応じて授業中に指示する。
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	やむを得ず授業を欠席した場合には、Google Classroomで授業資料を確認して、授業内容を自身でフォローしておくこと。
---------------	---

授業コード	22049801	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	医療事務演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	中原 亜紀美				
シラバス執筆(主)	中原 亜紀美				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

医療事務の重要な業務の一つに診療報酬請求事務がある。適切な診療報酬の算定とレセプト作成および点検のスキルは、医療事務職を目指す上で必要不可欠である。この授業では主に、外来時の算定方法について概説する。また、「医科 医療事務管理士技能認定試験」の検定試験合格を目指し、学科問題および実技問題の対策も兼ねる。

到達目標

1. 診療報酬請求事務のしくみを説明することができる。
2. 外来時の算定ができる。

授業計画

第1回	診療報酬請求事務のしくみ（診療報酬制度の復習とレセプト作成時のポイント）
第2回	初診料の算定
第3回	再診料の算定
第4回	医学管理料の算定①（特定疾患療養管理料、特定疾患治療管理料、情報提供料）
第5回	医学管理料の算定②（その他医学管理等の算定方法）
第6回	投薬料の算定①（薬剤の基礎知識、院内処方）
第7回	投薬料の算定②（院外処方）
第8回	注射料の算定（薬剤の基礎知識、注射料の算定）
第9回	検査料の算定①（検体検査料の算定）
第10回	検査料の算定②（生体検査料の算定）
第11回	処置料の算定
第12回	手術料の算定
第13回	輸血料の算定
第14回	麻酔料・神経ブロック料の算定
第15回	在宅医療の算定（在宅患者診療・指導料、在宅療養指導管理料）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前学習】
 次回の授業テーマを確認し、該当するテキストの範囲を熟読しておく。
 【事後学習】
 授業で学んだ範囲について復習し、授業時に課される課題に取り組む。
 授業で学んだ内容を点数表に書き込む、付箋等を貼るなど、資料作りをしておく。

課題に対するフィードバックの方法

小テストは採点后、返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下の評価割合に基づき総合的に評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく、5回を超えて授業を欠席した場合や定期試験を欠席した場合は、原則として「K」評価とする。
- ・授業への積極的参加（発言等）は加点する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	小テスト	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	50	筆記試験	1, 2
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	10	課題提出	1, 2

テキスト *『診療点数早見表(最新版)』医学通信社 4,500円(4月新版のため現在、ISBN申請中のた

テキスト	<p>め不明)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 『薬価表』ソラスト 300円 (ISBNなし) * 『テキスト2 算定とレセプト(上)』ソラスト 1,800円 (ISBNなし) * 『テキスト3 算定とレセプト(下)』ソラスト 1,300円 (ISBNなし) <p>上記はすべて「医療事務演習Ⅱ」「医療事務特講」でも併用する。</p>
参考書	必要に応じ授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> * 原則として、前期「医療事務のしくみ」を履修した学生のみ履修可能とする。 * 本授業は、「医療事務演習Ⅱ」の内容に関連しているため、必ず「医療事務演習Ⅱ」も履修すること。 * 「医科 医療事務管理士技能認定試験」の合格を目指す学生は、前期開講「医療事務のしくみ」、後期開講の「医療事務演習Ⅱ」「医療事務特講」を履修すること。

授業コード	22030401	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	医学一般と薬理の知識 [対面]				
シラバス執筆(全員)	中原 亜紀美				
シラバス執筆(主)	中原 亜紀美				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

医療秘書職や医療事務職であっても医療機関で働くには、最低限の医学や薬理の知識は必要である。この授業では、人体構造や機能の基本、解剖・生理の知識、さまざまな疾患、薬の知識を身につけるために必要なことを概説する。また、「医療事務演習Ⅰ」「医療事務演習Ⅱ」「医療事務特講」内で取り上げるカルテの症例理解にもつなげる。

到達目標

1. 人体構造と機能の基本について説明することができる。
2. 授業で学んだ解剖・生理の知識について説明することができる。
3. 授業で学んだ疾患の特徴について説明することができる。
3. 医薬品の特徴や服用時の配慮について説明することができる。

授業計画

第1回	人体構造の基本
第2回	解剖・生理①（あ・か行）
第3回	解剖・生理②（さ・た行）
第4回	解剖・生理③（な・は行）
第5回	解剖・生理④（ま行以降）
第6回	確認テスト（解剖・生理）
第7回	医薬品とは、薬の種類
第8回	薬の服用と副作用
第9回	薬投与時に配慮が必要なケース
第10回	薬理①（あ行～た行）
第11回	薬理②（な行以降）
第12回	確認テスト（薬理）
第13回	新生物
第14回	感染症
第15回	グループ発表

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前学習】

各回で指示する事柄について情報収集しておく。

【事後学習】

授業で学んだ範囲について復習し、授業時に課される課題に取り組む。
授業で学んだ内容をまとめておく。

課題に対するフィードバックの方法

確認テストは採点后、講評を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下の評価割合に基づき総合的に評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく、5回を超えて授業を欠席した場合や定期試験を欠席した場合は、原則として「K」評価とする。
- ・授業への積極的参加（発言等）は加点する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	確認テスト	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	50	筆記試験	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		

その他	10	課題・ワークへの取り組み	1, 2, 3, 4
テキスト	テキストは使用せず、授業内で資料を提示する		
参考書	『医療秘書講座 2 からだの構造と機能 臨床検査と薬の知識』 メヂカルフレンド社		
履修条件・他の科目との関連	<p>* 授業計画は、前年度の内容に基づくものである。第1回目の授業で興味・関心のある疾患や履修目的などに関するアンケートを行い、その結果によって授業内容や順番に変更が生じる可能性がある。</p> <p>* 授業欠席時にプリント等が配布 (classroomで配信)された場合、申し出により後日配布 (配信)する。</p>		

授業コード	22030501	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	診療報酬請求事務〔対面〕				
シラバス執筆(全員)	中原 亜紀美				
シラバス執筆(主)	中原 亜紀美				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

医療事務の重要な業務の一つに診療報酬請求事務がある。適切な診療報酬の算定とレセプト作成および点検のスキルは、医療事務職を目指す上で必要不可欠である。この授業では主に、「医療事務演習Ⅰ」で学習した外来時の算定方法に基づき、レセプト作成の方法について概説する。
また、「医科 医療事務管理士技能認定試験」の検定試験合格を目指し、実技問題の対策も兼ねる。

到達目標

1. 診療報酬請求事務のしくみを説明することができる。
2. 外来時の算定ができる。
3. 外来のレセプト作成ができる。

授業計画

第1回	診療報酬請求事務のしくみ（レセプトの書き方）
第2回	初診料の算定（レセプト記入と摘要欄の書き方）
第3回	再診料の算定（レセプト記入と摘要欄の書き方）
第4回	医学管理料の算定①（特定疾患療養管理料、特定疾患治療管理料、情報提供料のレセプト記入と摘要欄の書き方）
第5回	医学管理料の算定②（その他医学管理等のレセプト記入と摘要欄の書き方）
第6回	投薬料の算定①（薬剤の基礎知識、院内処方レセプト記入と摘要欄の書き方）
第7回	投薬料の算定②（院外処方レセプト記入と摘要欄の書き方）
第8回	注射料の算定（薬剤の基礎知識、注射料の算定のレセプト記入と摘要欄の書き方）
第9回	検査料の算定①（検体検査料のレセプト記入と摘要欄の書き方）
第10回	検査料の算定②（生体検査料のレセプト記入と摘要欄の書き方）
第11回	処置料の算定（レセプト記入と摘要欄の書き方）
第12回	手術料の算定（レセプト記入と摘要欄の書き方）
第13回	輸血料の算定（レセプト記入と摘要欄の書き方）
第14回	麻酔料・神経ブロック料の算定（レセプト記入と摘要欄の書き方）
第15回	在宅医療の算定（レセプト記入と摘要欄の書き方）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前学習】

次回の授業テーマに関する「医療事務演習Ⅰ」の内容を復習しておくこと。

【事後学習】

授業で学んだ範囲について復習し、授業時に課される課題に取り組む。
授業で学んだ内容を点数表に書き込む、付箋等を貼るなど、資料作りをしておく。

課題に対するフィードバックの方法

小テストは採点后、返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下の評価割合に基づき総合的に評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく、5回を超えて授業を欠席した場合や定期試験を欠席した場合は、原則として「K」評価とする。
- ・授業への積極的参加（発言等）は加点する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	小テスト	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	50	筆記試験	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	10	課題提出	1, 2, 3

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> * 『診療点数早見表(最新版)』医学通信社 4,500円(4月新版のため現在、ISBN申請中のため不明) * 『薬価表』ソラスト 300円 (ISBNなし) * 『テキスト2 算定とレセプト(上)』ソラスト 1,800円 (ISBNなし) * 『テキスト3 算定とレセプト(下)』ソラスト 1,300円 (ISBNなし) <p>上記はすべて「医療事務演習 I」「医療事務特講」でも併用する。</p>
参考書	必要に応じ授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> * 原則として、前期「医療事務のしくみ」を履修した学生のみ履修可能とする。 * 本授業は、「医療事務演習 I」の内容に関連しているため、必ず「医療事務演習 I」も履修すること。 * 「医科 医療事務管理士技能認定試験」の合格を目指す学生は、前期開講の「医療事務のしくみ」、後期開講の「医療事務演習 I」「医療事務特講」も履修すること。

授業コード	22015103	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	社会福祉概論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	藤田 了				
シラバス執筆(主)	藤田 了				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、社会で生活している自分自身を含め、我々の今日的な「幸せ」に着目し、「より良い暮らし」の実現に向けて行われるさまざまな実践について社会福祉の領域から説明する。社会福祉に関連する制度や仕組みについて、健康の考え方、社会保障と公衆衛生、介護や保育等に関する諸制度について概説する。具体的には、社会福祉の対象者である高齢者、障がい者、児童、傷病者、低所得者等に対する制度・政策やサービスについてフォーマル・インフォーマルの両側面から説明する。授業は講義形式が中心であるが、適宜授業の理解を深めるために、DVD等の視聴覚教材の活用、ペアワーク、グループワーク等の演習を行うので主体的に取り組むことが必要である。講義はパワーポイントによる文字情報および静止画・動画の資料などを提示しながらすすめていく。長年、社会福祉法人等で福祉・介護業界に従事してきた経験をもとに、実務家教員として、福祉・介護などの分野に興味がある人に対しても、具体的な実践についてイメージができるよう授業を展開する。

到達目標

1. 自身が考える「福祉」について自己理解を深め記述することができる。
2. 社会生活の中で、「より良い暮らし」が阻害されている要因を説明できる。
3. 各領域の福祉（貧困・低所得者、児童福祉、障がい者福祉、高齢者福祉）について説明できる。
4. 福祉関係の専門職について説明できる。

授業計画

- 【第1回】 授業オリエンテーション：授業の進め方、受講ルールと福祉に関連する対象者についての説明
- 【第2回】 少子高齢化の現状
- 【第3回】 貧困・低所得者の福祉
- 【第4回】 児童福祉関連の制度
- 【第5回】 児童福祉関連のサービス（フォーマル・インフォーマル）
- 【第6回】 児童福祉に関連する具体的な実践について
- 【第7回】 障がい者・障がい児福祉関連の制度
- 【第8回】 社会福祉概論前半のまとめ（中間レポート実施）
- 【第9回】 障がい者・障がい児福祉関連のサービス（フォーマル・インフォーマル）
- 【第10回】 障がい者・障がい児福祉に関連する具体的な実践について
- 【第11回】 高齢者福祉関連の制度
- 【第12回】 介護保険法
- 【第13回】 高齢者福祉関連のサービス（フォーマル・インフォーマル）
- 【第14回】 高齢者福祉に関連する具体的な実践について
- 【第15回】 権利擁護と成年後見制度

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
- 【事前】 授業のシラバスを確認しておく。1.0時間
- 【事後】 授業ルールの確認。ノートを準備する。2.0時間
- 第2回
- 【事前】 社会福祉に関連する記事やニュースなどを視聴する。1.5時間
- 【事後】 授業の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
- 第3回
- 【事前】 前回のノートを復習し「貧困」について調べる。1.5時間
- 【事後】 授業の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
- 第4回
- 【事前】 自身の地域の児童の問題について調べておく。1.5時間
- 【事後】 「児童福祉」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
- 第5回
- 【事前】 自身の地域の保育所・幼稚園・こども園について設置数や概要を調べておく。1.5時間
- 【事後】 「児童福祉」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
- 第6回
- 【事前】 児童福祉に関連するサービスを調べておく。1.5時間
- 【事後】 「児童福祉」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
- 第7回
- 【事前】 自身の地域の障がい者・障がい児の問題について調べておく。1.5時間
- 【事後】 「障がい者・障がい児」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
- 第8回
- 【事前】 第2回から第7回のノート、資料を復習する。1.5時間

【事後】 第9回	第2回から第7回の授業内容について説明できるようノートを再加筆する。 2.5時間
【事前】 【事後】 第10回	自身の地域の障がい者・障がい児施設について設置数や概要を調べておく。1.5時間 「障がい者・障がい児」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
【事前】 【事後】 第11回	障がい者・障がい児福祉に関連するサービスを調べておく。1.5時間 「障がい者・障がい児福祉」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
【事前】 【事後】 第12回	自身の地域の高齢者の問題について調べておく。1.5時間 「高齢者福祉」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
【事前】 【事後】 第13回	介護保険法について調べておく。1.5時間 「高齢者福祉」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
【事前】 【事後】 第14回	自身の地域の介護問題について調べておく。1.5時間 「高齢者福祉」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
【事前】 【事後】 第15回	自身の地域の高齢者施設について設置数や概要を調べておく。1.5時間 「高齢者福祉」の資料を参照のうえノートを加筆する。2.5時間
【事前】 【事後】	「社会福祉協議会」の概要について自分なりに調べておく。1.5時間 「権利擁護、成年後見制度」の資料を参照のうえノートを加筆する。3.5時間

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題について採点した後希望者に点数及び内容を開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 ※授業内に実施される「第8回の間接レポート」は、正当な理由（公欠等）が無い場合の未提出は評価しない。（正当な理由については必ず申し出ること。正当な理由と認められれば欠席課題を課し評価対象とする）
 ※授業内で課されるレポート課題は、レポートの質、課題への積極性（文章量）などの内容に対して評価を行う。
 ※授業内で課されるレポート課題は、正当な理由がない未提出分については評価しない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	・毎回の授業内で課される課題(第1回、第8回以外): 各5/計13回(65) ・第8回:前半のまとめ(中間レポート)(15)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	学修した内容についてレポートを課す(20)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず適宜プリント(資料)を配布する。
参考書	現代社会福祉要説/松井圭三・今井慶宗編著/ふくろう出版/2500+税/ISBN978-4-86186-806-1
履修条件・他の科目との関連	・授業内で配布した資料を用い各自がしっかりと自身の講義ノートを作成することが求められます。 ・状況により授業内容の一部および進め方や順番、授業形態などを変更する場合があります。その場合は随時連絡します。

授業コード	22037901	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	表計算演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	浅里 京子				
シラバス執筆(主)	浅里 京子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

情報化社会では、多くのオフィスにおいてパソコンが導入され、様々なデータ処理がなされている。そのような現場で、よく利用されているものに表計算ソフトウェアがある。この授業では、すでに科目「コンピュータ基礎演習II」にて表計算ソフトウェアExcelの基礎を学んだ学生を対象に、さらに高度なデータ処理演習を行う。複数の表形式データの処理、日付・時刻や文字列に関する処理、様々なグラフ処理、複雑な条件による判断処理、クロス集計、表検索処理などについて、それらの機能と操作方法を解説する。また、各種演習課題を与え、Excelを用いて具体的な事例に対して情報処理ができるよう指導する。

授業の形態は、各機能の操作方法の解説及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. Excelを用いて日付・時刻に関する処理を行うことができる。
2. Excelを用いて文字列に関する処理を行うことができる。
3. Excelを用いて様々なグラフ処理を行うことができる。
4. Excelを用いて複雑な判断処理を行うことができる。
5. Excelを用いてクロス集計を行うことができる。
6. Excelを用いて表検索処理を行うことができる。
7. Excelの高度な機能を理解し活用することができる。

授業計画

- 第1回 Excelの基本操作（授業の進め方・受講ルール、四則演算・基本的関数・グラフ機能等の復習）
 第2回 日付・時刻に関する処理（日付等のデータ入力・書式設定、日付等データの演算・関数等）
 第3回 文字列に関する処理（文字列の抽出・加工、文字列に関する関数等）
 第4回 様々なグラフ作成（複合グラフ、散布図、バブルチャート等）
 第5回 複雑な判断処理（多分岐処理、論理演算子による複雑な条件等）
 第6回 条件付き関数（条件付き集計関数SUMIF等を用いた判断処理）
 第7回 複合演習（テキスト第11～14章に解説されている機能・関数を用いた複合的な演習）
 第8回 クロス集計処理（1）（ピボットテーブルの作成・編集、クロス集計等）
 第9回 クロス集計処理（2）（フィールドのグループ化、集計方法の変更、フィルターによる抽出等）
 第10回 表検索処理（1）（VLOOKUP関数の文法、完全一致検索、近似値検索等）
 第11回 表検索処理（2）（検索時のエラー処理等）
 第12回 便利な機能（条件付き書式、入力規則の設定、ゴールシーク等）
 第13回 総合応用演習（1）（テキスト第11～14章に解説されている機能・関数を用いた応用）
 第14回 総合応用演習（2）（テキスト第15～17章に解説されている機能・関数を用いた応用）
 第15回 学習のまとめ（これまでの学習内容の整理、最終課題等）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- ・事前には、各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと。
- ・事後には、学んだ例題・演習課題を一部改変した問題を自ら作成し、その解答を作成すること。
- ・各回につき0.5時間以上の事前学習および0.5時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・課題の演習時に机間巡視を行い、各学生の演習内容について、間違い及び優れた点の指摘と助言等を行う。
- ・定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	演習課題の達成度	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験	7
その他	0		
テキスト	コンピューターリテラシー Microsoft Office Excel編[改訂版]、多田憲孝・内藤富美子 著、オーム社、2,640円（本体2,400円＋税）、ISBN:978-4-274-22920-6		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・「コンピュータ基礎演習Ⅱ(表計算基礎)」の単位を修得している、あるいは同等の知識・技術があることを前提とする。 ・欠席した場合、その回の教材(演習課題等)を指定されている教材格納フォルダ(あるいはGoogle Classroomのトピック)よりダウンロードし、復習しておくこと。 		

授業コード	22035001	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	コンピュータ会計 [対面]				
シラバス執筆(全員)	林 兵磨				
シラバス執筆(主)	林 兵磨				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は、近年実務で広く普及している会計のコンピュータ化の動向を踏まえコンピュータ会計の知識を深め、コンピュータ会計の実務を教授することを目的とする。授業を通じ会計実務にコンピュータを導入することの有用性について指導する。本年度はさまざまな業種の中で特にコンピュータによる会計実務の導入が進んでいる製造業に当てて、製造業の簿記(工業簿記)や原価計算を取り上げ、コンピュータが製品製造に欠かせない原価計算の支援をすることによって、ひいては企業全体の経営管理に大きく貢献しているという現状を明らかにしていきたい。

授業の進め方は、毎回担当者による一定のレクチャーの後、授業トピックに関する問題演習とその解答解説を行うという方法で進めていく。受講生には積極的な姿勢で授業に臨むことが求められる。

到達目標

本科目における受講生の到達目標は下記のとおりとする。

1. コンピュータ会計の実務の現状を説明できるようになること
2. 紙媒体会計と比較してからコンピュータ会計の有用性を説明できるようになること
3. コンピュータが企業経営全体に対して与える影響を説明できるようになること

授業計画

第1講	製造業の簿記会計とコンピュータ	
第2講	製造業で行われる原価計算の意義と分類	—コンピュータによる支援に関連して—
第3講	費目別原価計算① 材料費	
第4講	費目別原価計算② 労務費及び経費	
第5講	費目別原価計算③ 製造間接費と配賦	
第6講	費目別原価計算④ 当月製造原価	
第7講	売上原価と財務諸表	
第8講	CVP分析① 基本	
第9講	CVP分析② 応用	
第10講	予算実績差異分析① 基本	
第11講	予算実績差異分析② 応用	
第12講	コンピュータ会計による労務管理支援	
第13講	コンピュータ会計による税務処理支援	
第14講	コンピュータ支援による企業経営	
第15講	AIの発展に伴うコンピュータ会計の発展性と企業経営への影響	

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

必要学習時間は、毎回事前学習・事後学習各1.5時間である。また、これに加えて期末課題(レポート)作成のための学習時間として合計15時間は要する。

第1講		
事前学習	テキスト全体に目を通しておくこと	
事後学習	授業時に指示した課題に取り組むこと	
第2節		
事前学習	テキストの第1章「原価計算の基礎」及び第4章「原価計算の流れ」よく読んでおくこと	
事後学習	授業時に指示した課題に取り組むこと	
第3講		
事前学習	テキストの第5章「材料費」をよく読んでおくこと	
事後学習	授業時に指示した課題に取り組むこと	
第4講		
事前学習	テキストの第6章「労務費」及び第7章「経費」をよく読んでおくこと	
事後学習	授業時に指示した課題に取り組むこと	
第5講		
事前学習	テキストの第8章「製造直接費と製造間接費」をよく読んでおくこと	
事後学習	授業時に指示した課題に取り組むこと	
第6講		
事前学習	テキストの第9章「製造原価の計算」をよく読んでおくこと	
事後学習	授業時に指示した課題に取り組むこと	
第7講		
事前学習	テキストの第10章「損益計算書の作成」の章よく読んでおくこと	
事後学習	授業時に指示した課題に取り組むこと	
第8講		

事前学習	テキストの第2章「CVP分析」のうち第1節をよく読んでおくこと
事後学習	授業時に指示した課題に取り組むこと
第9講	
事前学習	テキストの第2章「CVP分析」のうち第2節及び第3節をよく読んでおくこと
事後学習	授業時に指示した課題に取り組むこと
第10講	
事前学習	テキストの第3章「予算実績差異分析」の前半部分をよく読んでくること
事後学習	授業時に指示した課題に取り組むこと
第11講	
事前学習	テキストの第3章「予算実績差異分析」の後半部分をよく読んでくること
事後学習	授業時に指示した課題に取り組むこと
第12講	
事前学習	企業の労務管理にはどのようなものがあるかを調べておくこと
事後学習	授業時に指示した課題に取り組むこと
第13講	
事前学習	企業の税務処理にはどのようなものがあるかを調べておくこと
事後学習	授業時に指示した課題に取り組むこと
第14講	
事前学習	企業経営におけるコンピュータ導入の現状について調べておくこと
事後学習	授業時に指示した課題に取り組むこと
第15講	
事前学習	AIが企業経営に及ぼしている現状について調べておくこと
事後学習	授業時に指示した課題に取り組むこと

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業後にGoogle Classroom通じて課題提出を求める。課題の解答は採点をして返却する。また、重要と思われる論点については再度次の授業内で補足説明を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

下記の各評価項目に基づき総合的に判断し、100点満点で60点以上を合格とする。正当な理由なく5回を超えて欠席した場合や定期試験を受験しなかった場合には、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業中ワーク	1, 2, 3
授業外での評価	30	事後課題	1, 2, 3
定期試験	40	定期試験	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	滝澤ななみ『スッキリわかる日商原価計算初級』TAC出版、2018年、1,100円(税込) ISBN:978-4813274742
参考書	必要に応じて授業中に指示する。
履修条件・他の科目との関連	・簿記会計Ⅰ及び簿記会計Ⅱの内容が前提となるので両科目いずれも履修しておくこと ・やむを得ず授業を欠席した場合には、Google Classroomで授業資料を確認して、授業内容を自身でフォローしておくこと。

授業コード	22039311	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a [対面]				
シラバス執筆(全員)	朝野 美穂				
シラバス執筆(主)	朝野 美穂				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ライフデザイン学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送るために、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要がある。「セミナー I a」では、2年間の履修計画を立て、短期大学での学習や学生生活のアドバイスを行う。
あわせて、建学の精神についても学ぶ。

また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。
さらに、就職・進学対策として、キャリアサポートセンター（CSC）ガイドツアー、一般常識対策試験などを実施する。
授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる。
2. 一般常識対策試験・定期試験に代わるレポート等で60点以上の点数を取ることができる。
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる。
4. 大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる。
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる。

授業計画

- 第1回 【合同】オリエンテーション（セミナー I の運営説明、「建学の精神」の説明）。「Cheerfrees」メンバー募集。履修（時間割）指導。
- 第2回 Eメールの送り方、守口市との共同研究の説明
- 第3回 PROGテスト（社会人基礎力測定テスト「PROG」を受検する）
- 第4回 図書館ツアー（図書館の利用方法、図書の検索方法を演習する）、守口市との共同研究①（守口市を知る）
- 第5回 基礎学力テスト（学習支援室のテストを使用）
- 第6回 守口市との共同研究②（守口市の要望を知る）
- 第7回 【合同】PROGテスト解説会
- 第8回 【合同】キャリアサポートセンターガイドツアー（CSCの役割、利用方法を説明する）
- 第9回 守口市との共同研究③（人生設計を学ぶ）
- 第10回 守口市との共同研究④（守口市の人生設計を学ぶ、考える）
- 第11回 守口市との共同研究⑤（守口市の人生設計をグループで検討する）
- 第12回 一般常識対策のための模擬試験（あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施）、守口市との共同研究⑥（グループ発表の準備をする）
- 第13回 守口市との共同研究⑦（守口市の人生設計についてグループ発表を実施する）
- 第14回 一般常識対策本試験（あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施）、守口市との共同研究⑧（グループ発表を振り返る、今後の課題を検討する）
- 第15回 前期学習内容の振り返り・夏休み前の事前連絡

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

事前 オリエンテーションで配布された書類・履修の手引きをよく読んで、履修登録に間違いがないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後 指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】

事前 Eメールに関する事前配布の資料を確認しておく。守口市のホームページを確認しておく。
事後 実際にEメールの送信を行ってみる。守口市との共同研究について学んだことを整理しておく。

【第3回】

事前 「社会人基礎力」と「ジェネリックスキル」とは何か調べてくる
事後 テストの回答を思い出し、自分の性格における長所・短所を考えてみる

【第4回】

事前 図書館の利用方法について考えること、第6次守口市総合計画基本計画の基本構想をよく読んで、疑問点を整理しておくこと

事後 図書館の利用方法、図書検索のポイントについて、ノートにまとめること、基本構想を学んで感じたことをまとめておくこと

【第5回】

事前 基礎学力テストの対策を行う(0IU/0ICドリルの活用等)

事後 基礎学力テストの結果を確認し、不得手な部分を学習する

【第6回】

事前 第6次守口市総合計画基本計画の前期基本計画をよく読んで、疑問点を整理しておくこと

事後 前期基本計画における守口市の要望を整理しておくこと

【第7回】

事前 「リテラシー」「コンピテンシー」とは何かを考える

事後 測定項目の個別結果から、自身の強みと弱みを把握する。また解説書を利用して、向上させたい力を考え、向上させるために努力する場面・方法など、具体的な行動目標・行動計画を立てる

【第8回】

事前 キャリアサポートセンターとは何かを調べておく

事後 自分がキャリアサポートセンターを通じてお願いできることは何かを考える

【第9回】

事前 人生設計とは何かを整理しておくこと

事後 人生設計を学んで、学生目線での考え方、感じ方を整理しておくこと

【第10回】

事前 守口市の人生設計を整理しておくこと

事後 守口市の人生設計について検討すべきことを整理しておくこと

【第11回】

事前 グループ内で発表する守口市の人生設計について整理しておくこと

事後 グループ発表で出た意見を整理しておくこと

【第12回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる、グループ発表の実施に向けて、準備しておくこと

事後 試験の解答を思い出し、本試験に向けて学習する、授業で指導された内容を確認し、パワーポイントを修正すること

【第13回】

事前 グループ発表のプレゼンを作成し、発表練習を行っておく

事後 指導された内容を確認し、修正内容を反映しておくこと

【第14回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる、グループ発表の振り返りを整理しておく

事後 試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する、課題について整理しておく

【第15回】

事前 前期の授業全体を振り返ってくる

事後 全体を振り返り、今後の目標を立てる

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する。また、発表については授業中にフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	一般常識対策試験(20)、基礎学力テストの基準レベル到達(10)、プレゼンテーション(20)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	前期の振り返りレポート(30)	5
その他	20	授業中の発言・取り組み(10)、グループワークでの貢献度(10)	3, 4

テキスト	テキストは使用しない。
------	-------------

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none">・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。・後期にセミナー I bを履修すること。・欠席した場合はGoogle Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039312	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a [対面]				
シラバス執筆(全員)	木下 佳代子				
シラバス執筆(主)	木下 佳代子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ライフデザイン学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送るために、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要がある。「セミナー I a」では、2年間の履修計画を立て、短期大学での学習や学生生活のアドバイスをを行う。あわせて、建学の精神についても学ぶ。

また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。さらに、就職・進学対策として、キャリアサポートセンター(CSC)ガイドツアー、一般常識対策試験などを実施する。授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる。
2. 基礎学力テスト、一般常識対策試験・定期試験に代わるレポートで60点以上の点数を取ることができる。
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる。
4. 大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる。
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる。

授業計画

- 第1回 【合同】オリエンテーション(セミナー I の運営説明、「建学の精神」の説明)。「Cheerfrees」メンバー募集。履修(時間割)指導。
- 第2回 Eメールの書き方、送り方、短大生活について
- 第3回 PROGテスト(社会人基礎力測定テスト「PROG」を受検する)
- 第4回 文章作成の基礎① 作文のルール
- 第5回 基礎学力テスト(学習支援室のテストを使用)
- 第6回 文章作成の基礎② レポートの書き方
- 第7回 【合同】PROGテスト解説会
- 第8回 【合同】キャリアサポートセンターガイドツアー(CSCの役割、利用方法を説明する)
- 第9回 図書館ツアー、グループワーク① テーマについての話し合い
- 第10回 グループワーク② 情報収集
- 第11回 大学祭について
- 第12回 一般常識対策のための模擬試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施)
- 第13回 グループワーク③ 発表
- 第14回 一般常識対策本試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施)
- 第15回 前期学習内容の振り返り・夏休み前の事前連絡

※進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

各回の学習について示すが、それ以外に常にOIU/OICドリルを活用して勉強すること。課題やグループ活動の作成物については、次の週までに必要なところまで作成しておくこと。締め切りなどは別途指示する。

【第1回】

事前 オリエンテーションで配布された書類・履修の手引きをよく読んで、履修登録に間違いがないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと

事後 指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】

事前 大学生活における時間管理と健康管理について調べておくこと

事後 大学生活における時間管理と健康管理についてまとめておくこと
セミナー担任にEメールの送信を行ってみる

【第3回】

事前 「社会人基礎力」と「ジェネリックスキル」とは何か調べてくる

事後 テストの回答を思い出し、自分の性格における長所・短所を考えてみる

【第4回】

事前 事前に配布する文章術のプリントを読んでおく

事後 OIU/OICドリルで敬語の使い方を復習する

【第5回】

事前 基礎学カテストの対策を行う(OIU/OICドリルの活用等)

事後 基礎学カテストの結果を確認し、不得手な部分を学習する

【第6回】

事前 事前に配布する文章術のプリントを読んでおく

事後 「書き言葉」と「話し言葉」の違いを復習すること。レポートを仕上げる

【第7回】

事前 「リテラシー」「コンピテンシー」とは何かを考える

事後 測定項目の個別結果から、自身の強みと弱みを把握する。また解説書を利用して、向上させたい力を考え、向上させるために努力する場面・方法など、具体的な行動目標・行動計画を立てる

【第8回】

事前 キャリアサポートセンターとは何かを調べておく

事後 自分がキャリアサポートセンターを通じてお願いできることは何かを考える

【第9回】

事前 グループワークのテーマを考えてくる

事後 テーマについて予想されることをまとめる

【第10回】

事前 テーマについて下調べをする

事後 授業内で調べきれなかった内容をグループで手分けをして調べる。

【第11回】

事前 大学祭で取り組みたいことを考えておくこと

事後 話し合いで決まったことをまとめておくこと

【第12回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる

事後 試験の解答を思い出し、本試験に向けて学習する

【第13回】

事前 グループごとに発表をまとめる

事後 ほかのグループの発表についての感想をまとめておく

【第14回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる

事後 試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する

【第15回】

事前 前期の授業全体を振り返ってくる

事後 全体を振り返り、今後の目標を立てる

課題に対するフィードバックの方法

・レポートについては提出後確認をし、コメントを記入して返却する。再提出が必要な場合があるので対応すること。

成績評価の方法・基準(方針)

以下の評価割合に基づき総合的に評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

授業への積極的参加姿勢、提出物、発表、一般常識試験等の総合評価とする。

正当な理由がなく欠席が5回を超えた場合は「K」評価となる。

正当な理由がなく「定期試験に代わるレポート」を指定した期限までに提出しなかった場合は「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	基礎学カテスト(10) 一般常識対策試験(10) レポート課題(20) 授業中の発言や取り組み(20) グループワーク課題発表(20)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	授業の振り返りレポート(20)	2
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず資料を配布する
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業必修科目である。 ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更したりする場合がある。 ・後期にセミナー I bを履修すること。 ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039313	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a [対面]				
シラバス執筆(全員)	中原 亜紀美				
シラバス執筆(主)	中原 亜紀美				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ライフデザイン学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送るために、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要がある。「セミナー I a」では、2年間の履修計画を立て、短期大学での学習や学生生活のアドバイスをを行う。
あわせて、建学の精神についても学ぶ。

また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。
さらに、就職・進学対策として、キャリアサポートセンター(CSC)ガイドツアー、一般常識対策試験などを実施する。
授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる。
2. 一般常識対策試験・定期試験に代わるレポートで60点以上の点数を取ることができる。
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる。
4. 大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる。
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる。

授業計画

- 第1回 【合同】オリエンテーション(セミナー I の運営説明、「建学の精神」の説明)。「Cheerfrees」メンバー募集。履修(時間割)指導。
- 第2回 Eメールの書き方、送り方
- 第3回 PROGテスト(社会人基礎力測定テスト「PROG」を受検する)
- 第4回 コミュニケーションワーク
- 第5回 基礎学力テスト(学習支援室のテストを使用)
- 第6回 文章表現基礎①(話し言葉と書き言葉)
- 第7回 【合同】PROGテスト解説会
- 第8回 【合同】キャリアサポートセンターガイドツアー(CSCの役割、利用方法を説明する)
- 第9回 文章表現基礎②(文体・主観と客観)
- 第10回 文章表現基礎③(箇条書きと文章)
- 第11回 文章表現演習(作文)
- 第12回 一般常識対策のための模擬試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施)
- 第13回 キャリアマップの作成
- 第14回 一般常識対策本試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施)
- 第15回 前期学習内容の振り返り・夏休み前の事前連絡

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

事前 オリエンテーションで配布された書類・履修の手引きをよく読んで、履修登録に間違いがないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと

事後 指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】

事前 Eメールに関する事前配布の資料を確認しておく

事後 実際にEメールの送信を行ってみる

【第3回】

事前 「社会人基礎力」と「ジェネリックスキル」とは何か調べてくる

事後 テストの回答を思い出し、自分の性格における長所・短所を考えてみる

【第4回】

事前 コミュニケーションの基本について復習しておく

事後 授業内での気づきや学んだことをまとめておく
その他、授業内での指示に従って課題等に取り組む

【第5回】

事前 基礎学力テストの対策を行う (OIU/OICドリルの活用等)
 事後 基礎学力テストの結果を確認し、不得手な部分を学習する

【第6回】

事前 次回の授業テーマを確認し、学びたい内容などについてまとめておく
 事後 授業内での気づきや学んだことをまとめておく
 その他、授業内での指示に従って課題等に取り組む

【第7回】

事前 「リテラシー」「コンピテンシー」とは何かを考える
 事後 測定項目の個別結果から、自身の強みと弱みを把握する。また解説書を利用して、向上させたい力を考え、向上させるために努力する場面・方法など、具体的な行動目標・行動計画を立てる

【第8回】

事前 キャリアサポートセンターとは何かを調べておく
 事後 自分がキャリアサポートセンターを通じてお願いできることは何かを考える

【第9回】

事前 次回の授業テーマを確認し、学びたい内容などについてまとめておく
 事後 授業内での気づきや学んだことをまとめておく
 その他、授業内での指示に従って課題等に取り組む

【第10回】

事前 次回の授業テーマを確認し、学びたい内容などについてまとめておく
 事後 授業内での気づきや学んだことをまとめておく
 その他、授業内での指示に従って課題等に取り組む

【第11回】

事前 作文のテーマについて情報収集をしておく
 事後 授業内での気づきや学んだことをまとめておく
 その他、授業内での指示に従って課題等に取り組む

【第12回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
 事後 試験の解答を思い出し、本試験に向けて学習する

【第13回】

事前 将来目指したい職業や興味のある事柄について考えておく
 事後 授業内での気づきや学んだことをまとめておく
 その他、授業内での指示に従って課題等に取り組む

【第14回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
 事後 試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する

【第15回】

事前 前期の授業全体を振り返ってくる
 事後 全体を振り返り、今後の目標を立てる

課題に対するフィードバックの方法

課題について授業内で講評し、必要に応じて個別指導を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下の評価割合に基づき総合的に評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく、5回を超えて授業を欠席した場合や定期試験に代わるレポート等未提出の場合は、原則として「K」評価とする。
- ・授業への積極的参加（発言等）は加点する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業中の発言内容・取り組み(50)、一般常識対策試験(20)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポート	2, 5
その他	10	提出物	5

テキスト テキストは使用せず、授業内で資料やワークシートを配布する。

参考書 必要に応じて授業内で紹介する。

履修条件・他の科目との関連

- ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。
- ・後期に「セミナー I b」を履修すること。
- ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039314	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a [対面]				
シラバス執筆(全員)	林 兵磨				
シラバス執筆(主)	林 兵磨				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ライフデザイン学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送るために、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要がある。「セミナー I a」では、2年間の履修計画を立て、短期大学での学習や学生生活のアドバイスを行う。あわせて、建学の精神についても学ぶ。また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。さらに、就職・進学対策として、キャリアサポートセンター(CSC)ガイドツアー、一般常識対策試験などを実施する。授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる。
2. 一般常識対策試験・定期試験に代わるレポート等で60点以上の点数を取ることができる。
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる。
4. 大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる。
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる。

授業計画

- 第1回 【合同】オリエンテーション(セミナー I の運営説明、「建学の精神」の説明)。「Cheerfrees」メンバー募集。履修(時間割)指導。
- 第2回 Eメールの書き方・送り方、授業ノートの取り方
- 第3回 PROGテスト(社会人基礎力測定テスト「PROG」を受検する)
- 第4回 パソコンの基本的な使い方、プレゼンテーションの練習
- 第5回 基礎学力テスト(学習支援室のテストを使用)、自己分析
- 第6回 図書館ツアー
- 第7回 【合同】PROGテスト解説会
- 第8回 【合同】キャリアサポートセンターガイドツアー(CSCの役割、利用方法を説明する)
- 第9回 プレゼンテーション① スライドの作成
- 第10回 プレゼンテーション② 発表原稿の作成
- 第11回 プレゼンテーション③ 本番
- 第12回 一般常識対策のための模擬試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施)
- 第13回 外部社会見学
- 第14回 一般常識対策本試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施)
- 第15回 前期学習内容の振り返り・夏休み前の事前連絡

上記計画は一部変更となる場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】
事前 オリエンテーションで配布された書類・履修の手引きをよく読んで、履修登録に間違いがないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後 指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】
事前 Eメールに関する事前配布の資料を確認しておく
事後 実際にEメールの送信を行ってみる

【第3回】
事前 「社会人基礎力」と「ジェネリックスキル」とは何か調べてくる
事後 テストの回答を思い出し、自分の性格における長所・短所を考えてみる

【第4回】
事前 これまでのパソコンスキルを確認しておく
事後 授業の受講で必要なパソコンスキルを身につける

【第5回】
事前 基礎学力テストの対策を行う(OIU/OICドリルの活用等)

事後 基礎学力テストの結果を確認し、不得手な部分を学習する

【第6回】

事前 図書館での検索方法を調べておく

事後 図書館ガイダンスで身につけた利用方法に基づき実際に利用してみる

【第7回】

事前 「リテラシー」「コンピテンシー」とは何かを考える

事後 測定項目の個別結果から、自身の強みと弱みを把握する。また解説書を利用して、向上させたい力を考え、向上させるために努力する場面・方法など、具体的な行動目標・行動計画を立てる

【第8回】

事前 キャリアサポートセンターとは何かを調べておく

事後 自分がキャリアサポートセンターを通じてお願いできることは何かを考える

【第9回】

事前 プレゼンテーションのテーマを考える

事後 プレゼンテーションのスライドを完成させる

【第10回】

事前 プレゼンテーションの発表原稿を考える

事後 プレゼンテーションの発表原稿を考える

【第11回】

事前 プレゼンテーションの練習をする

事後 プレゼンテーションの反省点を考える

【第12回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる

事後 試験の解答を思い出し、本試験に向けて学習する

【第13回】

事前 模擬試験の見直し

事後 本試験に向けた直前対策を行う

【第14回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる

事後 試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する

【第15回】

事前 前期の授業全体を振り返ってくる

事後 全体を振り返り、今後の目標を立てる

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業時の発表等に基づき課した課題内容について、次の授業時に指導を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

下記の評価割合に基づき総合的に評価を行い、100点満点で60点以上を合格とする。
正当な理由なく5回を超えて欠席した場合、前期の振り返りレポートの提出がない場合には、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	一般常識対策試験(30) 演習課題(30) 基礎学力テストの基準レベル到達(10)	2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	前期の振り返りレポート	1, 2, 5
その他	0		

テキスト テキストは使用しない。授業時に必要に応じて資料を配布する。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連
・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。
・後期にセミナー I bを履修すること。
・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039315	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a [対面]				
シラバス執筆(全員)	加藤 淳一				
シラバス執筆(主)	加藤 淳一				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ライフデザイン学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送るために、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要がある。
「セミナー I a」では、2年間の履修計画を立て、短期大学での学習や学生生活のアドバイスを行う。
あわせて、建学の精神についても学ぶ。
また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。
さらに、就職・進学対策として、キャリアサポートセンター(GSC)ガイドツアー、一般常識対策試験などを実施する。
授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる。
2. 一般常識対策試験・定期試験に代わるレポート等で60点以上の点数を取ることができる。
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる。
4. 大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる。
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる。

授業計画

- 第1回 【合同】オリエンテーション(セミナー I の運営説明、「建学の精神」の説明)。「Cheerfrees」メンバー募集。履修(時間割)指導。
- 第2回 Eメールの書き方、送り方
- 第3回 PROGテスト(社会人基礎力測定テスト「PROG」を受検する)
- 第4回 【観光・英語合同】「新潟・トキエア連携プロジェクト」のアイデアコンペの説明。地域協働Cの活動紹介。沖縄・ハワイ・カナダ研修紹介
- 第5回 基礎学力テスト(学習支援室のテストを使用)
- 第6回 図書館ツアー、「新潟・トキエア連携プロジェクト」プレゼン資料の構想・分担
- 第7回 【合同】PROGテスト解説会
- 第8回 【合同】キャリアサポートセンターガイドツアー(CSCの役割、利用方法を説明する)
- 第9回 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料作成
- 第10回 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料中間チェック
- 第11回 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料仕上げ
- 第12回 一般常識対策のための模擬試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施)、アイデアコンペの発表練習
- 第13回 【観光・英語合同】「新潟・トキエア連携プロジェクト」のアイデアコンペの実施
- 第14回 一般常識対策本試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施)
- 第15回 前期学習内容の振り返り・夏休み前の事前連絡

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

事前 オリエンテーションで配布された書類・履修の手引きをよく読んで、履修登録に間違いがないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後 指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】

事前 Eメールに関する事前配布の資料を確認しておく
事後 実際にEメールの送信を行ってみる

【第3回】

事前 「社会人基礎力」と「ジェネリックスキル」とは何か調べてくる
事後 テストの回答を思い出し、自分の性格における長所・短所を考えてみる

【第4回】

事前 興味のある体験型研修について考える
事後 体験型研修やボランティアなどの参加を具体的に考える。アイデアコンペの推進方法を考える

【第5回】

事前 基礎学力テストの対策を行う (OIU/OICドリルの活用等)
 事後 基礎学力テストの結果を確認し、不得手な部分を学習する

【第6回】

事前 OIU/OICの図書館情報を事前に確認する、アイデアコンペの構想を考える
 事後 図書館の利用方法、検索方法の確認。実際に借りて感想文を提出

【第7回】

事前 「リテラシー」「コンピテンシー」とは何かを考える
 事後 測定項目の個別結果から、自身の強みと弱みを把握する。また解説書を利用して、向上させたい力を考え、向上させるために努力する場面・方法など、具体的な行動目標・行動計画を立てる

【第8回】

事前 キャリアサポートセンターとは何かを調べておく
 事後 自分がキャリアサポートセンターを通じてお願いできることは何かを考える

【第9回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の作成
 事後 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の作成

【第10回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の進捗チェック
 事後 プレゼンテーションの資料を仕上げる計画を策定

【第11回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の作成
 事後 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の作成

【第12回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる、アイデアコンペの発表練習
 事後 試験の解答を思い出し、本試験に向けて学習する

【第13回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のアイデアコンペの発表準備
 事後 アイデアコンペの振り返り

【第14回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
 事後 試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する

【第15回】

事前 前期の授業全体を振り返ってくる
 事後 全体を振り返り、今後の目標を立てる

課題に対するフィードバックの方法

全体に向け、課題やレポートに対しての振り返りとフィードバックを行うと共に、必要に応じて個人に対し、課題やレポートのコメントなどをClassroomやOIUメール、または直接口頭で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 なお、正当な理由なく、欠席の回数が授業回数の1/3を超える(6回以上欠席)の場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	一般常識対策試験の評価(10) 基礎学力テストの基準レベル到達(10) 授業中に作成指示したパワーポイントの内容やプレゼンテーション、グループワークの取り組み姿勢を評価(20)	2, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終レポートの内容を評価	2, 5
その他	40	授業に関する発言・質問、授業態度・マナーを評価	1, 2, 3, 4, 5

テキスト テキストは使用しない。
必要に応じて、プリントを配布する。

参考書 必要に応じて、授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。

履修条件・他の科目との関連

- ・後期にセミナー I bを履修すること。
- ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039316	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a [対面]				
シラバス執筆(全員)	阪口 葉子				
シラバス執筆(主)	阪口 葉子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ライフデザイン学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送るために、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要がある。「セミナー I a」では、2年間の履修計画を立て、短期大学での学習や学生生活のアドバイスをを行う。
あわせて、建学の精神についても学ぶ。

また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。
さらに、就職・進学対策として、キャリアサポートセンター(CSC)ガイドツアー、一般常識対策試験などを実施する。
授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる。
2. 一般常識対策試験・定期試験に代わるレポートで60以上の点数を取ることができる。
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる。
4. 大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる。
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる。

授業計画

- 第1回 【合同】オリエンテーション(セミナー I の運営説明、「建学の精神」の説明)。「Cheerfrees」メンバー募集。履修(時間割)指導。
- 第2回 Eメールの書き方、送り方
- 第3回 PROGテスト(社会人基礎力測定テスト「PROG」を受検する)
- 第4回 【観光・英語合同】「新潟・トキエア連携プロジェクト」のアイデアコンペの説明。地域協働Cの活動紹介。沖縄・ハワイ・カナダ研修紹介
- 第5回 基礎学力テスト(学習支援室のテストを使用)
- 第6回 図書館ツアー、「新潟・トキエア連携プロジェクト」プレゼン資料の構想・分担
- 第7回 【合同】PROGテスト解説会
- 第8回 【合同】キャリアサポートセンターガイドツアー(CSCの役割、利用方法を説明する)
- 第9回 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料作成
- 第10回 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料中間チェック
- 第11回 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料仕上げ
- 第12回 一般常識対策のための模擬試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施)、アイデアコンペの発表練習
- 第13回 【観光・英語合同】「新潟・トキエア連携プロジェクト」のアイデアコンペの実施
- 第14回 一般常識対策本試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施)
- 第15回 前期学習内容の振り返り・夏休み前の事前連絡

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

事前 オリエンテーションで配布された書類・履修の手引きをよく読んで、履修登録に間違いがないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後 指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】

事前 Eメールに関する事前配布の資料を確認しておく
事後 実際にEメールの送信を行ってみる

【第3回】

事前 「社会人基礎力」と「ジェネリックスキル」とは何か調べてくる
事後 テストの回答を思い出し、自分の性格における長所・短所を考えてみる

【第4回】

事前 興味のある体験型研修について考える
事後 体験型研修やボランティアなどの参加を具体的に考える。アイデアコンペの推進方法を考える

【第5回】

事前 基礎学カテストの対策を行う (OIU/OICドリルの活用等)
 事後 基礎学カテストの結果を確認し、不得手な部分を学習する

【第6回】

事前 OIU/OICの図書館情報を事前に確認する、アイデアコンペの構想を考える
 事後 図書館の利用方法、検索方法の確認。実際に借りて感想文を提出

【第7回】

事前 「リテラシー」「コンピテンシー」とは何かを考える
 事後 測定項目の個別結果から、自身の強みと弱みを把握する。また解説書を利用して、向上させたい力を考え、向上させるために努力する場面・方法など、具体的な行動目標・行動計画を立てる

【第8回】

事前 キャリアサポートセンターとは何かを調べておく
 事後 自分がキャリアサポートセンターを通じてお願いできることは何かを考える

【第9回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の作成
 事後 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の作成

【第10回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の進捗チェック
 事後 プレゼンテーションの資料を仕上げる計画を策定

【第11回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の作成
 事後 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の作成

【第12回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる、アイデアコンペの発表練習
 事後 試験の解答を思い出し、本試験に向けて学習する

【第13回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のアイデアコンペの発表準備
 事後 アイデアコンペの振り返り

【第14回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
 事後 試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する

【第15回】

事前 前期の授業全体を振り返ってくる
 事後 全体を振り返り、今後の目標を立てる

課題に対するフィードバックの方法

授業内で作成するレポートや発表については、授業中に即座にフィードバックする。
 あるいは授業後の早い段階で、Google Classroomでフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

1. 一般常識対策試験の得点 (30)
2. 卒業要件や、PROGテストの結果を踏まえ、自分の特性を他者に説明することができる (10)
3. 体験型研修やボランティアなどの参加を具体的に考える (15)
4. レポート課題を論理的に組み立てて作成し発表する (25)
5. 「新潟・トキエア連携プロジェクト」について、積極的にアイディアを出し、まとめることができる (20)
6. 正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	一般常識対策試験の得点(30) 卒業要件や、PROGテスト結果も踏まえ、自分の特性を他者に説明できる(10)	1, 2
授業外での評価	15	体験型研修やボランティアなどの参加を具体的に考える	3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	定期試験に代わるレポート(25)	4
その他	20	関西から新潟への観光促進研究において、積極的にアイディアを出し、まとめることができる(20)	5

テキスト テキストは使用せず、必要に応じてプリントを配布するか、授業資料をGoogle Classroomに添付す

テキスト	る。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none">・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。・後期にセミナー I bを履修すること。・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039317	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a [対面]				
シラバス執筆(全員)	杉山 維彦				
シラバス執筆(主)	杉山 維彦				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ライフデザイン学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送るために、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要がある。「セミナー I a」では、2年間の履修計画を立て、短期大学での学習や学生生活のアドバイスをを行う。
あわせて、建学の精神についても学ぶ。

また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。
さらに、就職・進学対策として、キャリアサポートセンター(CSC)ガイドツアー、一般常識対策試験などを実施する。
授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる。
2. 一般常識対策試験・定期試験に代わるレポートで60以上の点数を取ることができる。
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる。
4. 大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる。
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる。

授業計画

- 第1回 【合同】オリエンテーション(セミナー I の運営説明、「建学の精神」の説明)。「Cheerfrees」メンバー募集。履修(時間割)指導。
- 第2回 Eメールの書き方、送り方
- 第3回 PROGテスト(社会人基礎力測定テスト「PROG」を受検する)
- 第4回 【観光・英語合同】「新潟・トキエア連携プロジェクト」のアイデアコンペの説明。地域協働Cの活動紹介。沖縄・ハワイ・カナダ研修紹介
- 第5回 基礎学力テスト(学習支援室のテストを使用)
- 第6回 図書館ツアー、「新潟・トキエア連携プロジェクト」プレゼン資料の構想・分担
- 第7回 【合同】PROGテスト解説会
- 第8回 【合同】キャリアサポートセンターガイドツアー(CSCの役割、利用方法を説明する)
- 第9回 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料作成
- 第10回 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料中間チェック
- 第11回 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料仕上げ
- 第12回 一般常識対策のための模擬試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施)、アイデアコンペの発表練習
- 第13回 【観光・英語合同】「新潟・トキエア連携プロジェクト」のアイデアコンペの実施
- 第14回 一般常識対策本試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施)
- 第15回 前期学習内容の振り返り・夏休み前の事前連絡

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

事前 オリエンテーションで配布された書類・履修の手引きをよく読んで、履修登録に間違いがないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後 指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】

事前 Eメールに関する事前配布の資料を確認しておく
事後 実際にEメールの送信を行ってみる

【第3回】

事前 「社会人基礎力」と「ジェネリックスキル」とは何か調べてくる
事後 テストの回答を思い出し、自分の性格における長所・短所を考えてみる

【第4回】

事前 興味のある体験型研修について考える
事後 体験型研修やボランティアなどの参加を具体的に考える。アイデアコンペの推進方法を考える

【第5回】

事前 基礎学力テストの対策を行う (OIU/OICドリルの活用等)
事後 基礎学力テストの結果を確認し、不得手な部分を学習する

【第6回】

事前 OIU/OICの図書館情報を事前に確認する、アイデアコンペの構想を考える
事後 図書館の利用方法、検索方法の確認。実際に借りて感想文を提出

【第7回】

事前 「リテラシー」「コンピテンシー」とは何かを考える
事後 測定項目の個別結果から、自身の強みと弱みを把握する。また解説書を利用して、向上させたい力を考え、向上させるために努力する場面・方法など、具体的な行動目標・行動計画を立てる

【第8回】

事前 キャリアサポートセンターとは何かを調べておく
事後 自分がキャリアサポートセンターを通じてお願いできることは何かを考える

【第9回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の作成
事後 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の作成

【第10回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の進捗チェック
事後 プレゼンテーションの資料を仕上げる計画を策定

【第11回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の作成
事後 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の作成

【第12回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる、アイデアコンペの発表練習
事後 試験の解答を思い出し、本試験に向けて学習する

【第13回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のアイデアコンペの発表準備
事後 アイデアコンペの振り返り

【第14回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後 試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する

【第15回】

事前 前期の授業全体を振り返ってくる
事後 全体を振り返り、今後の目標を立てる

課題に対するフィードバックの方法

毎回コメントシートなどの記述や、グループワークやプレゼンテーション、指名による発言などを行ってもらう。
記述したものは追って返却し、プレゼンテーションや発言についてはその都度コメントバックします。
また、一般常識試験や基礎学力テストは採点后返却します。

成績評価の方法・基準(方針)

毎回求めるコメント、授業態度、課題、授業への貢献度を総合的に判断する。
正当な理由なく、5回を超えて授業を欠席した場合や定期試験に代わるレポート等未提出の場合は、原則として「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業態度、プレゼンテーション、指名での返答数を考慮する。	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	20	一般常識試験や基礎学力テストの点数や習熟度。	2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	テーマは授業中に指示する。	2, 5
その他	0		

テキスト テキストは使用しない。

参考書 友原嘉彦編著『クリエイティブツールの「あの人」に会いに行く旅』古今書店 2022年 【ISBN978-4-7722-3200-5】

履修条件・他の科目との関連

- ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。
- ・後期にセミナー I bを履修すること。
- ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

Schedules are subject to change without notice.

授業コード	22039318	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a [対面]				
シラバス執筆(全員)	森田 篤司				
シラバス執筆(主)	森田 篤司				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ライフデザイン学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送るために、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要がある。「セミナー I a」では、2年間の履修計画を立て、短期大学での学習や学生生活のアドバイスをを行う。
あわせて、建学の精神についても学ぶ。

また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。
さらに、就職・進学対策として、キャリアサポートセンター(CSC)ガイドツアー、一般常識対策試験などを実施する。
授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる。
2. 一般常識対策試験・定期試験に代わるレポート等で60点以上の点数を取ることができる。
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる。
4. 大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる。
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる。

授業計画

- 第1回 【合同】オリエンテーション(セミナー I の運営説明、「建学の精神」の説明)。「Cheerfrees」メンバー募集。履修(時間割)指導。
- 第2回 Eメールの書き方、送り方
- 第3回 PROGテスト(社会人基礎力測定テスト「PROG」を受検する)
- 第4回 【観光・英語合同】「新潟・トキエア連携プロジェクト」のアイデアコンペの説明。地域協働Cの活動紹介。沖縄・ハワイ・カナダ研修紹介
- 第5回 基礎学力テスト(学習支援室のテストを使用)
- 第6回 図書館ツアー、「新潟・トキエア連携プロジェクト」プレゼン資料の構想・分担
- 第7回 【合同】PROGテスト解説会
- 第8回 【合同】キャリアサポートセンターガイドツアー(CSCの役割、利用方法を説明する)
- 第9回 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料作成
- 第10回 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料中間チェック
- 第11回 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料仕上げ
- 第12回 一般常識対策のための模擬試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施)、アイデアコンペの発表練習
- 第13回 【観光・英語合同】「新潟・トキエア連携プロジェクト」のアイデアコンペの実施
- 第14回 一般常識対策本試験(あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施)
- 第15回 前期学習内容の振り返り・夏休み前の事前連絡

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

事前 オリエンテーションで配布された書類・履修の手引きをよく読んで、履修登録に間違いがないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後 指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】

事前 Eメールに関する事前配布の資料を確認しておく
事後 実際にEメールの送信を行ってみる

【第3回】

事前 「社会人基礎力」と「ジェネリックスキル」とは何か調べてくる
事後 テストの回答を思い出し、自分の性格における長所・短所を考えてみる

【第4回】

事前 興味のある体験型研修について考える
事後 体験型研修やボランティアなどの参加を具体的に考える。アイデアコンペの推進方法を考える

【第5回】

事前 基礎学力テストの対策を行う (OIU/OICドリルの活用等)
 事後 基礎学力テストの結果を確認し、不得手な部分を学習する

【第6回】

事前 OIU/OICの図書館情報を事前に確認する、アイデアコンペの構想を考える
 事後 図書館の利用方法、検索方法の確認。実際に借りて感想文を提出

【第7回】

事前 「リテラシー」「コンピテンシー」とは何かを考える
 事後 測定項目の個別結果から、自身の強みと弱みを把握する。また解説書を利用して、向上させたい力を考え、向上させるために努力する場面・方法など、具体的な行動目標・行動計画を立てる

【第8回】

事前 キャリアサポートセンターとは何かを調べておく
 事後 自分がキャリアサポートセンターを通じてお願いできることは何かを考える

【第9回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の作成
 事後 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の作成

【第10回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の進捗チェック
 事後 プレゼンテーションの資料を仕上げる計画を策定

【第11回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の作成
 事後 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の作成

【第12回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる、アイデアコンペの発表練習
 事後 試験の解答を思い出し、本試験に向けて学習する

【第13回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のアイデアコンペの発表準備
 事後 アイデアコンペの振り返り

【第14回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
 事後 試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する

【第15回】

事前 前期の授業全体を振り返ってくる
 事後 全体を振り返り、今後の目標を立てる

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する。
 また発表については、授業中にフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由なく、6回以上欠席した場合は「K」評価とする

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	各種レポート(10) 一般常識対策試験(10) 基礎学力テストの基準レベル到達(10) 課題研究プロジェクト(30)	各種レポート: 1, 3, 5 一般常識対策試験: 2 基礎学力テストの基準レベル到達: 2 課題研究プロジェクト: 4, 5
授業外での評価	20	課題レポート(10) 課題研究プロジェクト調査(10)	課題レポート: 5 課題研究プロジェクト調査: 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	前期振り返りのレポート(10)	前期振り返りのレポート: 2, 5
その他	10	積極的な取組み、発表	積極的な取組み、発表: 4

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて別途プリントを配布する
------	------------------------------

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none">・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。・後期にセミナー I bを履修すること。・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039411	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b [対面]				
シラバス執筆(全員)	朝野 美穂				
シラバス執筆(主)	朝野 美穂				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ライフデザイン学科の学生として、学生生活を有意義かつ積極的に送るためには、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要があるため、これらについて説明するとともに、短期大学での学習や学生生活のアドバイスを行う。

また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。

さらに、就職・進学対策として、合同進路ガイダンス、一般常識対策試験などを実施する。

授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる。
2. 一般常識対策試験で60点以上の点数を取ることができる。
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる。
4. 課題研究レポート、学外授業、大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる。
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる。

授業計画

- 第1回 【合同】学修ポートフォリオ。セミナーの運営方針等の説明、履修指導（履修修正に関して指導）、GPAの確認
- 第2回 守口市との共同研究①（前期の発表を振り返り、課題を再検討する）
- 第3回 守口市との共同研究②（守口市の若い世代に応じた人生設計を検討する）
- 第4回 【合同】課外活動奨励者表彰式、守口市との共同研究③（グループ発表の準備をする）
- 第5回 守口市との共同研究④（グループ発表の準備をする）
- 第6回 【合同】進路ガイダンス（卒業生のお話を聞こう：キャリアサポートセンター主催）
- 第7回 2年生卒業研究発表会の見学（日時を12月23日の2時間目に振り替えて実施）
- 第8回 【合同】就職対策（履歴書の書き方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催）
- 第9回 【合同】就職対策（面接の受け方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催）
- 第10回 一般常識対策のための模擬試験（あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施）、守口市との共同研究⑤（グループ発表の準備をする）
- 第11回 一般常識対策本試験（あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施）、守口市との共同研究⑥（グループ発表の準備をする）
- 第12回 守口市との共同研究⑦（グループ発表を実施する）
- 第13回 【合同】進路ガイダンス（内定した2年生の体験談をインタビュー形式で聞く）
- 第14回 【合同】「セミナーⅡa・Ⅱb」説明会（終了後、セミナー希望調査を実施する）
- 第15回 振り返りおよび諸連絡（後期終講にあたっての各種連絡を行う。また、2年次に向けての留意事項や課題について説明する）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

事前 前期の成績を確認し、後期に追加・変更が必要な科目がないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと

事後 授業で指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】

事前 前期の発表内容を確認し、指摘された事項を整理しておくこと

事後 授業で指導された内容を確認し、整理しておくこと

【第3回】

事前 若い世代の人生の生き方の構想を描くことができるように、自分自身の人生設計を整理しておくこと

事後 授業で指導された内容を確認し、整理しておくこと

【第4回】

事前 前期の資格の獲得状況を振り返る、

事後 次回の資格取得に向け、目標を考える、

【第5回】

事前 グループ発表の実施に向けて、準備しておくこと
 事後 授業で指導された内容を確認し、パワーポイントを修正すること

【第6回】

事前 自分の進路について方向性を考えてくる
 事後 先輩の話をもとに将来設計を試みる

【第7回】

事前 2年生卒業研究発表会についてセミナー担任の連絡内容を確認する
 事後 発表を聞いて課題を提出する

【第8回】

事前 履歴書に何を書くか調べてくる
 事後 履歴書作成を完成させる

【第9回】

事前 就活時の面接について調べておく
 事後 模擬面接で得たことを振り返り、シミュレーションしておく

【第10回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる、グループ発表の実施に向けて、準備しておくこと
 事後 試験の結果をもとに不得手な部分を学習し、本試験に備える、授業で指導された内容を確認し、パワーポイントを修正すること

【第11回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる、グループ発表の実施に向けて、準備しておくこと
 事後 試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する、授業で指導された内容を確認し、パワーポイントを修正すること

【第12回】

事前 グループ発表のプレゼンを作成し、発表練習を行っておく
 事後 指導された内容を確認し、修正内容を反映しておくこと

【第13回】

事前 自分の就活の方向性を再度考えてくる
 事後 先輩の話から自分が何をしたいかさらに導く

【第14回】

事前 自分の将来を考え次年度のセミナーについて適任な担任を選んでおく
 事後 セミナー希望調査の結果を仮定して、卒業研究のテーマを考える

【第15回】

事前 振り返り、今後の目標を設定する
 事後 全体を振り返り、次年度の目標を設定する

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する。また、発表については授業中にフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	一般常識対策試験(20)、プレゼンテーション(20)、演習課題(10)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	後期の振り返りレポート(30)	5
その他	20	授業中の発言・取り組み(10)、グループワークでの貢献度(10)	3, 4

テキスト テキストは使用しない。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。

履修条件・他の科目との関連

- ・前期にセミナー I aを履修していること。
- ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039412	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b [対面]				
シラバス執筆(全員)	木下 佳代子				
シラバス執筆(主)	木下 佳代子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ライフデザイン学科の学生として、学生生活を有意義かつ積極的に送るためには、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要があるため、これらについて説明するとともに、短期大学での学習や学生生活のアドバイスを行う。

また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。さらに、就職・進学対策として、合同進路ガイダンス、一般常識対策試験などを実施する。

授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる。
2. 一般常識対策試験で60点以上の点数を取ることができる。
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる。
4. 課題研究レポート、学外授業、大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる。
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる。

授業計画

- 第1回 【合同】学修ポートフォリオ、セミナーの運営方針等の説明。履修指導（履修修正に関して指導）、GPAの確認。
- 第2回 大学祭の準備
- 第3回 防災について
- 第4回 【合同】課外活動奨励者表彰式
- 第5回 文章作成の応用① 正確な文章
- 第6回 【合同】進路ガイダンス（卒業生のお話を聞こう：キャリアサポートセンター主催）
- 第7回 2年生卒業研究発表会の見学（日時を12月23日の2時間目に振り替えて実施）
- 第8回 【合同】就職対策（履歴書の書き方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催）
- 第9回 【合同】就職対策（面接の受け方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催）
- 第10回 一般常識対策のための模擬試験（あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施）
- 第11回 一般常識対策本試験（あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施）
- 第12回 文章作成の応用② 配慮のある文章
- 第13回 【合同】進路ガイダンス（内定した2年生の体験談をインタビュー形式で聞く）
- 第14回 【合同】「セミナーⅡa・Ⅱb」説明会（終了後、セミナー希望調査を実施する）
- 第15回 振り返りおよび諸連絡（後期終講にあたっての各種連絡を行う。また、2年次に向けての留意事項や課題について説明する）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

事前 前期の成績を確認し、後期に追加・変更が必要な科目がないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと

事後 授業で指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】

事前 大学祭の出し物に必要なものについて考えてくる

事後 決められた役割に従って準備を行う

【第3回】

事前 防災について調べる

事後 レポートを仕上げる

【第4回】

事前 前期の資格の獲得状況を振り返る

事後 次回の資格取得に向け、目標を考える

【第5回】

事前 事前に配布するプリントを読んでおく

事後 レポートを仕上げる

【第6回】

事前 自分の進路について方向性を考えてくる
 事後 先輩の話をもとに将来設計をしてみる

【第7回】

事前 2年生の卒業研究発表会について、セミナー担任の連絡内容を確認する
 事後 発表を聞いて課題を提出する

【第8回】

事前 履歴書に何を書くか調べてくる
 事後 履歴書作成を完成させる

【第9回】

事前 就活時の面接について調べておく
 事後 模擬面接で得たことを振り返り、シミュレーションしておく

【第10回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
 事後 試験の結果をもとに不得手な部分を学習し、本試験に備える

【第11回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
 事後 試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する

【第12回】

事前 事前に配布するプリントを読んでおく
 事後 レポートを仕上げる

【第13回】

事前 自分の就活の方向性を再度考えてくる
 事後 先輩の話から自分が何をしたいかさらに導く

【第14回】

事前 自分の将来を考え次年度のセミナーについて適任な担任を選んでおく
 事後 セミナー希望調査の結果を仮定して、卒業研究のテーマを考える

【第15回】

事前 振り返り、今後の目標を設定する
 事後 全体を振り返り、次年度の目標を設定する

課題に対するフィードバックの方法

・レポートについては提出後確認をし、コメントを記入して返却する。再提出が必要な場合があるので対応すること。

成績評価の方法・基準(方針)

以下の評価割合に基づき総合的に評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 授業への積極的参加姿勢、提出物、発表、一般常識試験等の総合評価とする。
 正当な理由がなく欠席が5回を超えた場合は「K」評価となる。
 正当な理由がなく「定期試験に代わるレポート」を指定した期限までに提出しなかった場合は「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	一般常識対策試験(10) OIU/OICドリル(20) 進路ガイダンスのレポートの評価(10:5×2) 授業中の発言や取り組み(20) 課題(20)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	授業の振り返りレポート(20)	3, 4, 5
その他	0		

テキスト テキストは使用せず資料を配布する

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する

履修条件・他の科目との関連 ・卒業必修科目である。
 ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更したりする場合がある。

履修条件・他の科目との関連

- ・前期にセミナー I aを履修していること。
- ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039413	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b [対面]				
シラバス執筆(全員)	中原 亜紀美				
シラバス執筆(主)	中原 亜紀美				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ライフデザイン学科の学生として、学生生活を有意義かつ積極的に送るためには、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要があるため、これらについて説明するとともに、短期大学での学習や学生生活のアドバイスを行う。

また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。

さらに、就職・進学対策として、合同進路ガイダンス、一般常識対策試験などを実施する。授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる。
2. 一般常識対策試験で60点以上の点数を取ることができる。
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる。
4. 課題研究レポート、学外授業、大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる。
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる。

授業計画

- 第1回 【合同】学修ポートフォリオ、セミナーの運営方針等の説明。履修指導（履修修正に関して指導）、GPAの確認。
- 第2回 コミュニケーションワーク
- 第3回 自己分析と他己分析
- 第4回 【合同】課外活動奨励者表彰式
- 第5回 文章表現演習
- 第6回 【合同】進路ガイダンス（卒業生のお話を聞こう：キャリアサポートセンター主催）
- 第7回 2年生卒業研究発表会の見学(日時を12月23日の2時間目に振り替えて実施)
- 第8回 【合同】就職対策(履歴書の書き方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催)
- 第9回 【合同】就職対策(面接の受け方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催)
- 第10回 一般常識対策のための模擬試験（あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施）
- 第11回 一般常識対策本試験（あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施）
- 第12回 プレゼンテーション演習
- 第13回 【合同】進路ガイダンス（内定した2年生の体験談をインタビュー形式で聞く）
- 第14回 【合同】「セミナーⅡa・Ⅱb」説明会（終了後、セミナー希望調査を実施する）
- 第15回 振り返りおよび諸連絡（後期終講にあたっての各種連絡を行う。また、2年次に向けての留意事項や課題について説明する）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

事前 前期の成績を確認し、後期に追加・変更が必要な科目がないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと

事後 授業で指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】

事前 強化したいコミュニケーションスキルを書き出しておくこと

事後 授業内での気づきや学んだことをまとめておくこと

【第3回】

事前 自覚している性格について書き出しておくこと

事後 授業内での気づきや学んだことをまとめておくこと

【第4回】

事前 前期の資格の獲得状況を振り返る

事後 次回の資格取得に向け、目標を考える

【第5回】

事前 次回の授業テーマを確認し、学びたいことなどをメモにまとめておくこと

事後 授業内での気づきや学んだことをまとめておくこと

【第6回】

事前 自分の進路について方向性を考えてくる
 事後 先輩の話をもとに将来設計を試みる

【第7回】

事前 2年生の卒業研究発表会について、セミナー担任の連絡内容を確認する
 事後 発表を聞いて課題を提出する

【第8回】

事前 履歴書に何を書くか調べてくる
 事後 履歴書作成を完成させる

【第9回】

事前 就活時の面接について調べておく
 事後 模擬面接で得たことを振り返り、シミュレーションしておく

【第10回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
 事後 試験の結果をもとに不得手な部分を学習し、本試験に備える

【第11回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
 事後 試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する

【第12回】

事前 次回の授業テーマを確認し、学びたいことなどをメモにまとめておくこと
 事後 授業内での気づきや学んだことをまとめておくこと

【第13回】

事前 自分の就活の方向性を再度考えてくる
 事後 先輩の話から自分が何をしたいかさらに導く

【第14回】

事前 自分の将来を考え次年度のセミナーについて適任な担任を選んでおく
 事後 セミナー希望調査の結果を仮定して、卒業研究のテーマを考える

【第15回】

事前 振り返り、今後の目標を設定する
 事後 全体を振り返り、次年度の目標を設定する

課題に対するフィードバックの方法

課題について授業内で講評し、必要に応じて個別指導を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下の評価割合に基づき総合的に評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく、5回を超えて授業を欠席した場合や定期試験に代わるレポート未提出の場合は、原則として「K」評価とする。
- ・授業への積極的参加（発言等）は加点する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業中の発言内容・取り組み(50)、一般常識対策試験(20)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポート	1, 4, 5
その他	10	提出物	5

テキスト テキストは使用せず、授業内で資料やワークシートを配布する。

参考書 必要に応じて授業内で紹介する。

履修条件・他の科目との関連

- ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。
- ・前期に「セミナー I a」を履修していること。
- ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039414	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b [対面]				
シラバス執筆(全員)	林 兵磨				
シラバス執筆(主)	林 兵磨				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ライフデザイン学科の学生として、学生生活を有意義かつ積極的に送るためには、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要があるため、これらについて説明するとともに、短期大学での学習や学生生活のアドバイスを行う。

また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。

さらに、就職・進学対策として、合同進路ガイダンス、一般常識対策試験などを実施する。

授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる。
2. 一般常識対策試験で60点以上の点数を取ることができる。
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる。
4. 課題研究レポート、学外授業、大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる。
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる。

授業計画

- 第1回 【合同】学修ポートフォリオ、セミナーの運営方針等の説明。履修指導（履修修正に関して指導）、GPAの確認。
- 第2回 ライフイベント表の作成
- 第3回 将来キャッシュ・フロー計算書の作成
- 第4回 【合同】課外活動奨励者表彰式 将来キャッシュ・フロー計算書の作成
- 第5回 バランスシートの作成
- 第6回 【合同】進路ガイダンス（卒業生の話进行こう：キャリアサポートセンター主催）
- 第7回 2年生卒業研究発表会の見学（日時を12月23日の2時間目に振り替えて実施）
- 第8回 【合同】就職対策（履歴書の書き方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催）
- 第9回 【合同】就職対策（面接の受け方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催）
- 第10回 一般常識対策のための模擬試験（あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施）
- 第11回 一般常識対策本試験（あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施）
- 第12回 時事問題討論
- 第13回 【合同】進路ガイダンス（内定した2年生の体験談をインタビュー形式で聞く）
- 第14回 【合同】「セミナーⅡa・Ⅱb」説明会（終了後、セミナー希望調査を実施する）
- 第15回 振り返りおよび諸連絡（後期終講にあたっての各種連絡を行う。また、2年次に向けての留意事項や課題について説明する）
- 上記計画は一部変更になる場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

事前 前期の成績を確認し、後期に追加・変更が必要な科目がないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと

事後 授業で指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】

事前 ライフイベント表とは何かを予習しておく

事後 ライフイベント表を完成させる

【第3回】

事前 将来キャッシュ・フロー計算書とは何かを予習しておく

事後 将来キャッシュ・フロー計算書の続きを作成する

【第4回】

事前 前期の資格の獲得状況を振り返る。将来キャッシュ・フロー計算書の続きを作成する

事後 次回の資格取得に向け、目標を考える。将来キャッシュ・フロー計算書を完成させる

【第5回】

事前 バランスシートとは何かを予習しておく

事後 バランスシートを完成させる

【第6回】
 事前 自分の進路について方向性を考えてくる
 事後 先輩の話をもとに将来設計を試みる

【第7回】
 事前 2年生の卒業研究発表会について、セミナー担任の連絡内容を確認する
 事後 発表を聞いて課題を提出する

【第8回】
 事前 履歴書に何を書くか調べてくる
 事後 履歴書作成を完成させる

【第9回】
 事前 就活時の面接について調べておく
 事後 模擬面接で得たことを振り返り、シミュレーションしておく

【第10回】
 事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
 事後 試験の結果をもとに不得手な部分を学習し、本試験に備える

【第11回】
 事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
 事後 試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する

【第12回】
 事前 一般常識試験の見直し
 事後 一般常識試験のより進めた学習

【第13回】
 事前 自分の就活の方向性を再度考えてくる
 事後 先輩の話から自分が何をしたいかさらに導く

【第14回】
 事前 自分の将来を考え次年度のセミナーについて適任な担任を選んでおく
 事後 セミナー希望調査の結果を仮定して、卒業研究のテーマを考える

【第15回】
 事前 振り返り、今後の目標を設定する
 事後 全体を振り返り、次年度の目標を設定する

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業時の発表等に基づき課した課題内容について、次の授業時に指導を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

下記の評価割合に基づき総合的に評価を行い、100点満点で60点以上を合格とする。
 正当な理由なく5回を超えて欠席した場合、後期の振り返りレポートの提出がない場合には、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	一般常識対策試験(30) 演習課題(40)	2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	1年間の振り返りレポート(30)	1, 2, 5
その他	0		

テキスト テキストは使用しない。授業時に必要に応じて資料を配布する。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連
 ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。
 ・前期にセミナー I aを履修していること。
 ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039415	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b [対面]				
シラバス執筆(全員)	加藤 淳一				
シラバス執筆(主)	加藤 淳一				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ライフデザイン学科の学生として、学生生活を有意義かつ積極的に送るためには、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要があるため、これらについて説明するとともに、短期大学での学習や学生生活のアドバイスをを行う。

また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。

さらに、就職・進学対策として、合同進路ガイダンス、一般常識対策試験などを実施する。

授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる。
2. 一般常識対策試験で60点以上の点数を取ることができる。
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる。
4. 課題研究レポート、学外授業、大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる。
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる。

授業計画

- 第1回 【合同】学修ポートフォリオ、セミナーの運営方針等の説明。履修指導（履修修正に関して指導）、GPAの確認。
- 第2回 【観光・英語合同】コミュニケーション・ワーク。体験型研修の情報共有、募集
- 第3回 企業研究①（企業研究の必要性を学ぶ）
- 第4回 【合同】課外活動奨励者表彰式
- 第5回 企業研究②（企業研究における情報収集の仕方を学ぶ）
- 第6回 【合同】進路ガイダンス（卒業生の話进行こう：キャリアサポートセンター主催）
- 第7回 2年生卒業研究発表会の見学（※日時を12月23日の2時間目に振り替えて実施）
- 第8回 【合同】就職対策（履歴書の書き方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催）
- 第9回 【合同】就職対策（面接の受け方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催）
- 第10回 一般常識対策のための模擬試験（あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施）
- 第11回 一般常識対策本試験（あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施）
- 第12回 企業研究③（企業研究にて知りえた情報を共有する）
- 第13回 【合同】進路ガイダンス（内定した2年生の体験談をインタビュー形式で聞く）
- 第14回 【合同】「セミナーⅡa・Ⅱb」説明会（終了後、セミナー希望調査を実施する）
- 第15回 振り返りおよび諸連絡（後期終講にあたっての各種連絡を行う。また、2年次に向けての留意事項や課題について説明する）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。
この他、授業全体の振り返りやまとめ、および最終レポート作成として、15時間程度の学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

全体に向け、課題やレポートに対しての振り返りとフィードバックを行うと共に、必要に応じて個人に対し、課題やレポートのコメントなどをClassroomやO1Uメール、または直接口頭で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由なく、欠席の回数が授業回数の1/3を超える（6回以上欠席）の場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	一般常識対策試験の評価(10) 授業中に作成指示したパワーポイントの内容やプレゼンテーション、グループワークの取り組み姿勢を評価(20)	2, 4, 5
授業外での評価	0		

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終レポートの内容を評価	4, 5
その他	50	授業に関する発言・質問、授業態度・マナーを評価	1, 2, 3, 4, 5

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、プリントを配布する。		
------	----------------------------------	--	--

参考書	必要に応じて、授業の中で紹介する。		
-----	-------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。 ・前期にセミナー I aを履修していること。 ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。 		
---------------	---	--	--

授業コード	22039416	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b [対面]				
シラバス執筆(全員)	阪口 葉子				
シラバス執筆(主)	阪口 葉子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ライフデザイン学科の学生として、学生生活を有意義かつ積極的に送るためには、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要があるため、これらについて説明するとともに、短期大学での学習や学生生活のアドバイスを行う。

また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。

さらに、就職・進学対策として、合同進路ガイダンス、一般常識対策試験などを実施する。

授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる。
2. 一般常識対策試験で60点以上の点数を取ることができる。
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる。
4. 課題研究レポート、学外授業、大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる。
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる。

授業計画

- 第1回 【合同】学修ポートフォリオ、セミナーの運営方針等の説明。履修指導（履修修正に関して指導）、GPAの確認。
- 第2回 【観光・英語合同】コミュニケーション・ワーク。体験型研修の情報共有、募集
- 第3回 学外研修についての計画
- 第4回 【合同】課外活動奨励者表彰式
- 第5回 学外研修
- 第6回 【合同】進路ガイダンス（卒業生の話进行こう：キャリアサポートセンター主催）
- 第7回 2年生卒業研究発表会の見学(日時を12月23日の2時間目に振り替えて実施)
- 第8回 【合同】就職対策(履歴書の書き方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催)
- 第9回 【合同】就職対策(面接の受け方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催)
- 第10回 一般常識対策のための模擬試験（あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施）
- 第11回 一般常識対策本試験（あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施）
- 第12回 進路についての個別面談
- 第13回 【合同】進路ガイダンス（内定した2年生の体験談をインタビュー形式で聞く）
- 第14回 【合同】「セミナーⅡa・Ⅱb」説明会（終了後、セミナー希望調査を実施する）
- 第15回 振り返りおよび諸連絡（後期終講にあたっての各種連絡を行う。また、2年次に向けての留意事項や課題について説明する）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

事前 前期の成績を確認し、後期に追加・変更が必要な科目がないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと

事後 授業で指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】

事前 興味のある体験型研修について考える

事後 体験型研修やボランティアなどの参加を具体的に考える

【第3回】

事前 学外研修で学びたい場所を考える(推奨場所のプレゼンを作成)

事後 学外研修の訪問場所の事前調査

【第4回】

事前 前期の資格の獲得状況を振り返る

事後 次回の資格取得に向け、目標を考える

【第5回】

事前 学外研修の準備

事後 学外研修の振り返り、まとめ

【第6回】

事前 自分の進路について方向性を考えてくる
 事後 先輩の話をもとに将来設計をしてみる

【第7回】

事前 2年生の卒業研究発表会について、セミナー担任の連絡内容を確認する
 事後 発表を聞いて課題を提出する

【第8回】

事前 履歴書に何を書くか調べてくる
 事後 履歴書作成を完成させる

【第9回】

事前 就活時の面接について調べておく
 事後 模擬面接で得たことを振り返り、シミュレーションしておく

【第10回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
 事後 試験の結果をもとに不得手な部分を学習し、本試験に備える

【第11回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
 事後 試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する

【第12回】

事前 進路について考える
 事後 進路について考える

【第13回】

事前 自分の就活の方向性を再度考えてくる
 事後 先輩の話から自分が何をしたいかさらに導く

【第14回】

事前 自分の将来を考え次年度のセミナーについて適任な担任を選んでおく
 事後 セミナー希望調査の結果を仮定して、卒業研究のテーマを考える

【第15回】

事前 振り返り、今後の目標を設定する
 事後 全体を振り返り、次年度の目標を設定する

課題に対するフィードバックの方法

授業内で作成するレポートや発表については、授業中に即座にフィードバックする。
 あるいは授業後の早い段階で、Google Classroomでフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

1. 一般常識対策試験で60点以上の点数を取ることができる(25)
2. 学外授業、大学祭、AKVなどの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる(30)
3. 進路について考える(20)
4. 定期試験にかわるレポート課題(25)
5. 正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	25	一般常識対策試験の得点	1
授業外での評価	30	学外授業、学園祭、AKVなどの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる(30)	2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	定期試験にかわるレポート課題(25)	4
その他	20	進路について考える	3

テキスト 必要に応じてプリントを配布するか、Google Classroomに授業資料を添付する。

参考書 必要に応じてプリントを配布するか、Google Classroomに授業資料を添付する。

履修条件・他の科目との関連

- ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。
- ・前期にセミナー I aを履修していること。
- ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの

授業コード	22039417	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b [対面]				
シラバス執筆(全員)	杉山 維彦				
シラバス執筆(主)	杉山 維彦				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ライフデザイン学科の学生として、学生生活を有意義かつ積極的に送るためには、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要があるため、これらについて説明するとともに、短期大学での学習や学生生活のアドバイスを行う。

また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。

さらに、就職・進学対策として、合同進路ガイダンス、一般常識対策試験などを実施する。

授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる。
2. 一般常識対策試験で60点以上の点数を取ることができる。
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる。
4. 課題研究レポート、学外授業、大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる。
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる。

授業計画

- 第1回 【合同】学修ポートフォリオ、セミナーの運営方針等の説明。履修指導（履修修正に関して指導）、GPAの確認。
- 第2回 【観光・英語合同】コミュニケーション・ワーク。体験型研修の情報共有、募集
- 第3回 フィールドワーク準備
- 第4回 【合同】課外活動奨励者表彰式
- 第5回 フィールドワーク
- 第6回 【合同】進路ガイダンス（卒業生のお話を聞こう：キャリアサポートセンター主催）
- 第7回 2年生卒業研究発表会の見学(日時を12月23日の2時間目に振り替えて実施)
- 第8回 【合同】就職対策(履歴書の書き方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催)
- 第9回 【合同】就職対策(面接の受け方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催)
- 第10回 一般常識対策のための模擬試験（あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施）
- 第11回 一般常識対策本試験（あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施）
- 第12回 全国観光学専攻学生発表会参加
- 第13回 【合同】進路ガイダンス（内定した2年生の体験談をインタビュー形式で聞く）
- 第14回 【合同】「セミナーⅡa・Ⅱb」説明会（終了後、セミナー希望調査を実施する）
- 第15回 振り返りおよび諸連絡（後期終講にあたっての各種連絡を行う。また、2年次に向けての留意事項や課題について説明する）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

事前 前期の成績を確認し、後期に追加・変更が必要な科目がないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと

事後 授業で指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】

事前 興味のある体験型研修について考える

事後 体験型研修やボランティアなどの参加を具体的に考える

【第3回】

事前 フィールドワークの行先について考える

事後 決定したフィールドワークの行先について調べる

【第4回】

事前 前期の資格の獲得状況を振り返る

事後 次回の資格取得に向け、目標を考える

【第5回】

事前 フィールドワークの行先について、交通機関など調査する

事後 フィールドワークについて感想をまとめる

【第6回】

事前 自分の進路について方向性を考えてくる
事後 先輩の話をもとに将来設計をしてみる

【第7回】

事前 2年生の卒業研究発表会について、セミナー担任の連絡内容を確認する
事後 発表を聞いて課題を提出する

【第8回】

事前 履歴書に何を書くか調べてくる
事後 履歴書作成を完成させる

【第9回】

事前 就活時の面接について調べておく
事後 模擬面接で得たことを振り返り、シミュレーションしておく

【第10回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後 試験の結果をもとに不得手な部分を学習し、本試験に備える

【第11回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
事後 試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する

【第12回】

事前 発表会の当番の手順を確認をする
事後 発表会の片づけをする

【第13回】

事前 自分の就活の方向性を再度考えてくる
事後 先輩の話から自分が何をしたいかさらに導く

【第14回】

事前 自分の将来を考え次年度のセミナーについて適任な担任を選んでおく
事後 セミナー希望調査の結果を仮定して、卒業研究のテーマを考える

【第15回】

事前 振り返り、今後の目標を設定する
事後 全体を振り返り、次年度の目標を設定する

課題に対するフィードバックの方法

毎回コメントシートなどの記述や、グループワークやプレゼンテーション、指名による発言などを行ってもらう。
記述したものは追って返却し、プレゼンテーションや発言についてはその都度コメントバックします。
また、一般常識試験や基礎学力テストは採点后返却します。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とします。

成績評価の方法・基準(方針)

毎回求めるコメント、授業態度、課題、授業への貢献度、一般常識試験の点数、フィールドワークの参加、全国観光学専攻学生発表会の参加などを総合的に判断する。
また、正当な理由なく、5回を超えて授業を欠席した場合や定期試験に代わるレポート等未提出の場合は、原則として「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	授業態度、プレゼンテーション、指名での返答数を考慮する。	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	40	フィールドワークへの参加、行程作成、当日のリーダーシップ、および、全国観光学専攻学生発表会での貢献度。	4, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	テーマは授業中に指示する。	2, 5
その他	0		

テキスト テキストは使用しない。

参考書 友原嘉彦編著『クリエイティブツーリズム「あの人」に会いに行く旅』古今書店 2022年【ISBN978-4-7722-3200-5】

履修条件・他の科目との関連 ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。

履修条件・他の科目との関連

- ・前期にセミナー I aを履修していること。
- ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

Schedules are subject to change without notice.

授業コード	22039418	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b [対面]				
シラバス執筆(全員)	森田 篤司				
シラバス執筆(主)	森田 篤司				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ライフデザイン学科の学生として、学生生活を有意義かつ積極的に送るためには、履修方法、卒業要件、資格取得等について理解しておく必要があるため、これらについて説明するとともに、短期大学での学習や学生生活のアドバイスを行う。

また、将来社会人として活躍するためには、学生時代に一定の能力を身につけておく必要があるため、レポートの作成法などについての指導を行う。

さらに、就職・進学対策として、合同進路ガイダンス、一般常識対策試験などを実施する。

授業の形態は、講義・グループワーク・発表等を取り交ぜたものである。

到達目標

1. 資格取得の方法や卒業要件について他者に説明することができる。
2. 一般常識対策試験で60点以上の点数を取ることができる。
3. PROGテストの結果を踏まえて、自分の特性を他者に説明することができる。
4. 課題研究レポート、学外授業、大学祭などの行事へ積極的に参加し、協力し合うことができる。
5. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる。

授業計画

- 第1回 【合同】学修ポートフォリオ、セミナーの運営方針等の説明。履修指導（履修修正に関して指導）、GPAの確認。
- 第2回 【観光・英語合同】コミュニケーション・ワーク。体験型研修の情報共有、募集
- 第3回 学外研修についての計画
- 第4回 【合同】課外活動奨励者表彰式
- 第5回 学外研修
- 第6回 【合同】進路ガイダンス（卒業生のお話を聞こう：キャリアサポートセンター主催）
- 第7回 2年生卒業研究発表会の見学(日時を12月23日の2時間目に振り替えて実施)
- 第8回 【合同】就職対策(履歴書の書き方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催)
- 第9回 【合同】就職対策(面接の受け方について説明を受け実践する：キャリアサポートセンター主催)
- 第10回 一般常識対策のための模擬試験（あらかじめ告知した出題範囲に基づき模擬試験を実施）
- 第11回 一般常識対策本試験（あらかじめ告知した出題範囲に基づき本試験を実施）
- 第12回 進路についての個別面談
- 第13回 【合同】進路ガイダンス（内定した2年生の体験談をインタビュー形式で聞く）
- 第14回 【合同】「セミナーⅡa・Ⅱb」説明会（終了後、セミナー希望調査を実施する）
- 第15回 振り返りおよび諸連絡（後期終講にあたっての各種連絡を行う。また、2年次に向けての留意事項や課題について説明する）

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

事前 前期の成績を確認し、後期に追加・変更が必要な科目がないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと

事後 授業で指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】

事前 興味のある体験型研修について考える

事後 体験型研修やボランティアなどの参加を具体的に考える

【第3回】

事前 学外研修で学びたい場所を考える(推奨場所のプレゼンを作成)

事後 学外研修の訪問場所の事前調査

【第4回】

事前 前期の資格の獲得状況を振り返る

事後 次回の資格取得に向け、目標を考える

【第5回】

事前 学外研修の準備

事後 学外研修の振り返り、まとめ

【第6回】

事前 自分の進路について方向性を考えてくる
 事後 先輩の話をもとに将来設計を試みる

【第7回】

事前 2年生の卒業研究発表会について、セミナー担任の連絡内容を確認する
 事後 発表を聞いて課題を提出する

【第8回】

事前 履歴書に何を書くか調べてくる
 事後 履歴書作成を完成させる

【第9回】

事前 就活時の面接について調べておく
 事後 模擬面接で得たことを振り返り、シミュレーションしておく

【第10回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
 事後 試験の結果をもとに不得手な部分を学習し、本試験に備える

【第11回】

事前 テキストのあらかじめ告知した出題範囲を学習してくる
 事後 試験の解答を思い出し、不得手な部分を学習する

【第12回】

事前 進路について考える
 事後 進路について考える

【第13回】

事前 自分の就活の方向性を再度考えてくる
 事後 先輩の話から自分が何をしたいかさらに導く

【第14回】

事前 自分の将来を考え次年度のセミナーについて適任な担任を選んでおく
 事後 セミナー希望調査の結果を仮定して、卒業研究のテーマを考える

【第15回】

事前 振り返り、今後の目標を設定する
 事後 全体を振り返り、次年度の目標を設定する

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する。
 また、発表については授業内にフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	課題レポート(40) 一般常識試験(10) 自己分析、各種就職対策(10)	課題レポート: 4, 5 一般常識試験: 2 自己分析、各種就職対策: 1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	20	就職や進路についてのまとめ(履歴書作成など)(20)	就職や進路についてのまとめ(履歴書作成など): 1, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	後期振り返りのレポート(10)	後期振り返りのレポート: 2, 3, 5
その他	10	セミナーへの積極的な参画(10)	セミナーへの積極的な参画: 4

テキスト テキストは使用しない。必要に応じて別途プリントを配布する。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。
 ・前期にセミナー I a を履修していること。

履修条件・他の科目との関連

・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039511	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	朝野 美穂				
シラバス執筆(主)	朝野 美穂				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

社会人基礎力（前に踏み出す力“アクション”、考え抜く力“シンキング”、チームで働く力“チームワーク”）を身につけるために、与えられた課題に対して、個人またはグループで課題に取り組み、自分の意見を組み立てて文章で表現し、相手に伝えることができるように指導する。さらに、レポートやパワーポイントに分かりやすくまとめるための技術や、説得力のあるプレゼンテーションスキルを身に付けるための指導も行う。

前半は、就職活動対策として、履歴書・エントリーシート作成、模擬面接などに取り組みながら、ビジネスコミュニケーションについて指導する。

後半は、後期に作成する卒業研究レポートの作成方法を説明し、各自が興味を抱くテーマを設定するために必要な考え方や技術について解説するとともに、演習を行う。

到達目標

1. 自分の意見を的確に他者に伝えることができる。
2. グループでの話し合いを円滑に進めることができる。
3. 他者に伝わるプレゼンテーションができる。
4. 卒業研究レポートのテーマについて目的・背景などを説明することができる。

授業計画

- 第1回 【合同】オリエンテーション（セミナーⅡの運営説明）、「学修ポートフォリオ」の説明。履修（時間割）指導。
- 第2回 守口市との共同研究の説明
- 第3回 就職活動対策（自己PR、学生時代に力を入れたこと、個別面談）
- 第4回 図書館ツアー（図書館の利用方法、図書の検索方法を演習する）、守口市との共同研究（守口市を知る）
- 第5回 就職活動対策（個人面接対策、個別面談）
- 第6回 守口市との共同研究（守口市の要望を知る）
- 第7回 就職活動対策（集団面接対策、個別面談）
- 第8回 就職活動対策（グループディスカッション対策、個別面談）
- 第9回 守口市との共同研究（人生設計を学ぶ）
- 第10回 守口市との共同研究（守口市の人生設計を学ぶ、考える）
- 第11回 守口市との共同研究（守口市の人生設計をグループで検討する）
- 第12回 守口市との共同研究（グループ発表の準備をする）
- 第13回 守口市との共同研究（守口市の人生設計についてグループ発表を実施する）
- 第14回 守口市との共同研究（グループ発表を振り返る、今後の課題を検討する、卒業研究レポートのテーマを検討する）
- 第15回 前期のまとめ・各種連絡

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

事前 履修の手引きをよく読んで、履修登録に問題がないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後 指導された内容や学修ポートフォリオを確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】

事前 守口市のホームページを確認しておく。
事後 守口市との共同研究について学んだことを整理しておく。

【第3回】

事前 自己PR、学生時代に力を入れたことについて、ノートにまとめておくこと
事後 授業で指導された内容を確認し、完成させておくこと

【第4回】

事前 図書館の利用方法について考えること、第6次守口市総合計画基本計画の基本構想をよく読んで、疑問点を整理しておくこと
事後 図書館の利用方法、図書検索のポイントについて、ノートにまとめること、基本構想を学んで感じたことをまとめておくこと

【第5回】

事前 個人面接でよく聞かれる質問を調べ、回答をノートにまとめておくこと

事後 授業で指導された内容を確認し、個人面接の練習をしておくこと

【第6回】

事前 第6次守口市総合計画基本計画の前期基本計画をよく読んで、疑問点を整理しておくこと

事後 前期基本計画における守口市の要望を整理しておくこと

【第7回】

事前 集団面接でよく聞かれる質問を調べ、回答をノートにまとめておくこと

事後 授業で指導された内容を確認し、集団面接の練習をしておくこと

【第8回】

事前 グループディスカッションでよく聞かれる質問を調べ、回答をノートにまとめておくこと

事後 授業で指導された内容を確認し、グループディスカッションの練習をしておくこと

【第9回】

事前 人生設計とは何かを整理しておくこと

事後 人生設計を学んで、学生目線での考え方、感じ方を整理しておくこと

【第10回】

事前 守口市の人生設計を整理しておくこと

事後 守口市の人生設計について検討すべきことを整理しておくこと

【第11回】

事前 グループ内で発表する守口市の人生設計について整理しておくこと

事後 グループ発表で出た意見を整理しておくこと

【第12回】

事前 グループ発表の実施に向けて、準備しておくこと

事後 授業で指導された内容を確認し、パワーポイントを修正すること

【第13回】

事前 グループ発表のプレゼンを作成し、発表練習を行っておく

事後 指導された内容を確認し、修正内容を反映しておくこと

【第14回】

事前 グループ発表の振り返りを整理しておく

事後 課題について整理しておく

【第15回】

事前 前期の授業全体を振り返ってくる

事後 全体を振り返り、今後の目標を立てる

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する。また、発表については授業中にフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	プレゼンテーション(30)、卒業研究レポートテーマ(20)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	レポート(30)	1, 4
その他	20	授業中の発言・取り組み(10)、グループワークでの貢献度(10)	1, 2

テキスト テキストは使用しない。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連
・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。
・後期にセミナーⅡbも継続して履修すること。
・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039512	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	木下 佳代子				
シラバス執筆(主)	木下 佳代子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

社会人として活躍するためには、基礎的学力はもちろんのこと、「自分で考える力」や「計画を実行する能力」、人間関係を円滑にする「コミュニケーション能力」などが必要である。これらの能力を身につけるために、また、就職対策を兼ねて、まず、自己アピールや一般常識試験対策、グループワークなどに取り組み、次に、卒業研究の準備のためにレポート作成に必要な考え方や技術について解説するとともに、演習を行う。授業の形態は、講義と演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. 各自でテーマを考え、インターネットや図書館等で文献検索を行い、情報収集できる。
2. 得られた情報を基にレシピアイベントを考えることができる。
3. 積極的にコミュニケーションをとりながら、他者と協力できる。
4. 自分の考え、意見をまとめることができる。

授業計画

第1回	【合同】オリエンテーション（セミナーⅡの運営説明）、「学修ポートフォリオ」の説明。履修（時間割）指導。
第2回	就職活動対策① 自己PR
第3回	就職活動対策② 一般常識問題
第4回	就職活動対策③ 個人面接対策
第5回	グループワーク①
第6回	グループワーク②
第7回	グループワーク③
第8回	グループワーク④
第9回	プレゼンテーション① 調査
第10回	プレゼンテーション② 資料のまとめ
第11回	プレゼンテーション③ 発表資料の作成
第12回	プレゼンテーション④ 発表
第13回	卒業研究テーマの選定
第14回	卒業研究の計画
第15回	卒業研究の情報収集

※進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【事前学習】

次回の授業テーマを確認し、学びたいことなどをメモにまとめておくこと。

【事後学習】

具体的な内容については、各回で指示する。

授業までに必要なことをまとめ、授業時に報告・相談等ができるようにしておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で課題の講評を行い、必要に応じて個別に指導する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下の評価割合に基づき総合的に評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

授業への積極的参加姿勢、提出物、発表などの総合評価とする。

正当な理由がなく欠席が5回を超えた場合は「K」評価となる。

正当な理由がなく「定期試験に代わるレポート」を指定した期限までに提出しなかった場合は「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	演習課題(25) 授業中の発言や取り組み(25) グループワーク課題発表(30)	1, 2, 3, 4

授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	振り返りレポート(20)	4
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず資料を配布する
------	------------------

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業必修科目である。 ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更したりする場合がある。 ・後期にセミナー II bも継続して履修すること。 ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。
---------------	--

授業コード	22039513	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	中原 亜紀美				
シラバス執筆(主)	中原 亜紀美				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

社会人として活躍するために必要な基礎力を涵養するため、さまざまなチャレンジをしながら自身を高めていく。チャレンジの内容については、セミナー生と相談しながら決めていくが、可能であれば学外での活動も行っていく。また、文章表現力やプレゼンテーション力を養うための演習、就職活動のための履歴書づくりや面接対策などもセミナーの中で行う予定である。

到達目標

1. 就職活動や編入への下調べ(企業研究・学部学科選択)ができる。
2. 効果的なプレゼンテーションができる。
3. 自分の意見を上手くまとめることができる。
4. 定期試験に代わるレポートにおいて、60点以上を取ることができる。

授業計画

第1回	【合同】オリエンテーション(セミナーⅡの運営説明)、「学修ポートフォリオ」の説明。履修(時間割)指導。
第2回	コミュニケーションワーク
第3回	就職活動対策①(個別面談、自己PR、志望動機)
第4回	就職活動対策②(個別面談、グループ面接対策)
第5回	就職活動対策③(個別面談、個人面接対策)
第6回	プレゼンテーションの基礎
第7回	プレゼンテーション準備
第8回	発表①
第9回	プレゼンテーション応用
第10回	プレゼンテーション修正
第11回	発表②
第12回	卒業研究テーマの選定
第13回	卒業研究の計画
第14回	卒業研究の情報収集
第15回	振り返りとまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

事前 履修の手引きをよく読んで、履修登録に間違いがないか確認するとともに、疑問点を整理しておくこと。
事後 指導された内容や学修ポートフォリオを確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと。

【第2回】

事前 自己紹介文を考えておくこと。
事後 具体的な内容については、各回で指示する。
授業までに必要なことをまとめ、授業時に報告・相談等ができるようにしておくこと。

【第3回】

事前 自分の強みや長所を書き出しておくこと。
事後 具体的な内容については、各回で指示する。
授業までに必要なことをまとめ、授業時に報告・相談等ができるようにしておくこと。

【第4回】

事前 次回の授業テーマを確認し、学びたいことなどをメモにまとめておくこと。
事後 具体的な内容については、各回で指示する。
授業までに必要なことをまとめ、授業時に報告・相談等ができるようにしておくこと。

【第5回】

事前 次回の授業テーマを確認し、学びたいことなどをメモにまとめておくこと。
事後 具体的な内容については、各回で指示する。
授業までに必要なことをまとめ、授業時に報告・相談等ができるようにしておくこと。

- 【第6回】
 事前 次回の授業テーマを確認し、学びたいことなどをメモにまとめておくこと。
 事後 具体的な内容については、各回で指示する。
 授業までに必要なことをまとめ、授業時に報告・相談等ができるようにしておくこと。
- 【第7回】
 事前 プレゼンテーションに必要な情報収集をしておくこと。
 事後 具体的な内容については、各回で指示する。
 授業までに必要なことをまとめ、授業時に報告・相談等ができるようにしておくこと。
- 【第8回】
 事前 他社に伝わる効果的なプレゼンテーションを準備しておくこと。
 事後 具体的な内容については、各回で指示する。
 授業までに必要なことをまとめ、授業時に報告・相談等ができるようにしておくこと。
- 【第9回】
 事前 前回の発表を振り返り、よかった点と反省点を書き出しておくこと。
 事後 具体的な内容については、各回で指示する。
 授業までに必要なことをまとめ、授業時に報告・相談等ができるようにしておくこと。
- 【第10回】
 事前 よかったと思うプレゼンテーションのポイントについて書き出しておくこと。
 事後 具体的な内容については、各回で指示する。
 授業までに必要なことをまとめ、授業時に報告・相談等ができるようにしておくこと。
- 【第11回】
 事前 効果的なプレゼンテーションのポイントを基に、ブラッシュアップさせてくること。
 事後 具体的な内容については、各回で指示する。
 授業までに必要なことをまとめ、授業時に報告・相談等ができるようにしておくこと。
- 【第12回】
 事前 興味のある分野やテーマについて書き出しておくこと。
 事後 具体的な内容については、各回で指示する。
 授業までに必要なことをまとめ、授業時に報告・相談等ができるようにしておくこと。
- 【第13回】
 事前 卒業研究の意義について調べておくこと。
 事後 具体的な内容については、各回で指示する。
 授業までに必要なことをまとめ、授業時に報告・相談等ができるようにしておくこと。
- 【第14回】
 事前 卒業研究のおおまかな構成を作成しておくこと。
 事後 具体的な内容については、各回で指示する。
 授業までに必要なことをまとめ、授業時に報告・相談等ができるようにしておくこと。
- 【第15回】
 事前 これまでの資料などを振り返っておくこと。
 事後 後期に向けて卒業研究を進めておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で課題の講評を行い、必要に応じて個別に指導する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下の評価割合に基づき総合的に評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく、5回を超えて授業を欠席した場合や定期試験に代わるレポート未提出の場合は、原則として「K」評価とする。
- ・授業への積極的参加（発言等）は加点する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業中の発言内容・取り組み(30)、プレゼンテーション(30)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	レポート	3, 4
その他	10	提出物	1, 2, 3

テキスト テキストは使用しないが、授業内にて資料やワークシートを配布する。

参考書 必要に応じて授業内で指示する。

履修条件・他の科目との関連

- ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。
- ・後期に「セミナーⅡb」も継続して履修すること。
- ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039514	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	林 兵磨				
シラバス執筆(主)	林 兵磨				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本セミナーは、これまでの学習の集大成として、卒業研究レポートの完成させることを目的とする。各自の問題意識に基づいて、資料収集、調査を積極的に行い、執筆と推敲を重ねていきながら論文の完成へとつなげていく。
また、研究発表会の準備も行い、プレゼンテーション能力の体得もしていくよう指導を行う。授業の形態は演習形式が中心となる。

到達目標

1. 就職活動や編入への下調べを、しっかりできる。(企業研究・学部学科選択)
2. 効果的なエントリーシートや履歴書を作成できる。
3. 卒業研究についてプレゼンテーションをすることができる。
4. 定期試験に代わるレポートで60点以上を取ることができる。

授業計画

第1回	【合同】オリエンテーション(セミナーⅡの運営説明)、「学修ポートフォリオ」の説明。履修(時間割)指導。
第2回	ポートフォリオの説明及びその実践
第3回	就職活動対策Ⅰ(面接対策)
第4回	就職活動対策Ⅱ(自己PR文作成等)
第5回	就職活動対策Ⅲ(一般常識問題対策)
第6回	就職活動対策Ⅳ(グループディスカッション対策)
第7回	卒業研究レポート作成Ⅰ レポート作成手順の説明
第8回	卒業研究レポート作成Ⅱ テーマ選定に向けての予備学術知識指導①
第9回	卒業研究レポート作成Ⅲ テーマ選定に向けての予備学術知識指導②
第10回	卒業研究レポート作成Ⅳ ライブラリーツアー
第11回	卒業研究レポート作成Ⅴ テーマ選定活動①
第12回	卒業研究レポート作成Ⅵ テーマ選定活動②
第13回	卒業研究レポート作成Ⅶ レポートテーマ確定
第14回	卒業研究レポート作成Ⅷ 各自テーマに基づく作成方針の選定
第15回	卒業研究レポート作成Ⅸ 各自テーマ発表

上記計画は一部変更となる場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

事前 履修の手引きをよく読んで、履修登録に間違いがないか確認するとともに、疑問点を整理しておくこと
事後 指導された内容や学修ポートフォリオを確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】

事前 ポートフォリオについての事前知識を得るために各自よく調べておく
事後 ポートフォリオについて授業時で得た内容についてレビューを行う

【第3回】

事前 就職活動対策の一つとして面接練習を行うので、どのような質問が通常就職活動でなされるのか調べておく
事後 授業時で得た面接に対する知識や実践方法を確実に身につけるためのレビューを行う

【第4回】

事前 就職活動対策の一つとして自己PR文の作成練習を行うので自己PRする内容をまとめておく
事後 授業時に学んだ自己PR文作成の技術に基づき再度よく復習をしておく

【第5回】

事前 就職活動対策の一つとして一般常識問題対策を行うので出題傾向等を調べておく
事後 授業時に身につけた知識を確認しつつ再度問題対策に取り組む

【第6回】

事前 就職活動対策の一つとしてグループディスカッション対策を行うのでどのようなものか調べておく
事後 授業時に学んだグループディスカッションの練習を行う

【第7回】

事前 卒業研究レポート作成の前段階としてレポート作成手順について関連する書籍に目を通しておく
 事後 レポート作成手順に関する工程表を完成させる

【第8回】

事前 卒業研究レポートのテーマ選定に関連してこれまで過去にどのようなものがあったかを調べる
 事後 卒業研究レポートのテーマ分野の候補を複数挙げられるようにしておく

【第9回】

事前 卒業研究レポートのテーマ選定に関連して各自の関心分野について調べておく
 事後 授業時に受けたアドバイスに基づき各自の関心分野についてさらに調べておく

【第10回】

事前 各自の関心分野についてどのような書籍があるのか事前に調べておく
 事後 各自の関心分野に基づき文献収集を行う

【第11回】

事前 各自の関心分野からどのような問題意識があげられるのかを考えておく
 事後 授業時に学んだ知識に基づきレポートテーマの候補をいくつか列挙

【第12回】

事前 各自あげたいいくつかのレポートテーマについてそれぞれの問題意識（論点）を整理しておく
 事後 授業時に受けた指導に基づき複数のレポートテーマ間の比較検討する

【第13回】

事前 各自のレポートテーマにつき候補の順位付けをしておく
 事後 授業時に確定したテーマに基づき各自の今後の工程表を作成する

【第14回】

事前 作成した工程表に基づき文献等資料リストアップを行っていく
 事後 授業時に受けた指導に基づき各自の資料収集を行う

【第15回】

事前 レポートテーマに関する発表に先立ちその準備を行う
 事後 発表時に受けた意見や質問に基づき選定テーマに関する論点の調整を行う

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業時の発表等に基づき課した課題内容について、次の授業時に指導を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

下記の評価割合に基づき総合的に評価を行い、100点満点で60点以上を合格とする。
 正当な理由なく5回を超えて欠席した場合、（卒業研究レポートの）予備レポートの提出がない場合には、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	就職試験対策課題(30) 卒業研究に関する授業内レポート(40)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	卒業研究レポートの予備レポート	4
その他	0		

テキスト テキストは使用しない。授業時に必要に応じて資料を配布する。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連
 ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。
 ・後期にセミナーⅡbも継続して履修すること。
 ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039515	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	加藤 淳一				
シラバス執筆(主)	加藤 淳一				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

社会人として求められる、「自分の頭で考える力」「自分の考えを的確に伝える力」「他の人と協力して課題に取り組む力」を高めるために、課題を与え、グループで話し合い、調査を行うよう指導する。また、得られた結果をレポートやパワーポイントに分かりやすくまとめられるよう指導する。これらは、後期の卒業研究レポートに向けた練習としての位置づけも兼ねる。このほか、受講者の希望に応じて、ボランティア活動など授業外での体験的学習の機会も提供する。

到達目標

1. 調査の基本的な方法について理解する。
2. 自分の意見をわかりやすく他者に伝えることができる。
3. グループでの討議を通じて適切に合意形成を行うことができる。
4. 話し合いや調査を通じて得たことを、レポートやパワーポイントにて分かりやすくまとめることができる。

授業計画

- 第1回 【合同】オリエンテーション（セミナーⅡの運営説明）、「学修ポートフォリオ」の説明。履修（時間割）指導。
- 第2回 自己紹介と自己PRの練習（各自で自己PRの文章を作成し、それをを用いてセミナー内での自己紹介を行い、相互評価する。また、新しいセミナーにおける学生間の交流も兼ねる）
- 第3回 ライブラリーツアー（図書館の利用方法、図書館での検索等について説明を行う）
- 第4回 【観光・英語合同】「新潟・トキエア連携プロジェクト」のアイデアコンペの説明。ハワイ・カナダ研修紹介
- 第5回 調査方法を学ぶ（調査に必要な基本的知識〔一次情報・二次情報など〕を確認し、情報を収集する練習を行う）
- 第6回 調査方法を学ぶ（調査の具体的方法〔アンケート、インタビュー、文献調査など〕や留意事項を理解する）
- 第7回 インターネットでの調査（与えられたテーマに沿って、インターネットを利用して適切に情報を収集する練習を行う）
- 第8回 インターネットでの調査（各自で興味のある分野について、インターネットを利用して適切に情報を収集する練習を行う）
- 第9回 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料作成
- 第10回 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の中間チェック
- 第11回 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料仕上げ
- 第12回 プレゼンテーションの実践（パワーポイントを用いて、これまでの調査を通じて得られた結果を発表する）
- 第13回 【観光・英語合同】「新潟・トキエア連携プロジェクト」のアイデアコンペの実施
- 第14回 フィールドワークについての検討（フィールドワークの説明と、実施方法などについての打合せを行う）
- 第15回 前期の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。
この他、授業全体の振り返りやまとめ、および最終レポート作成として、15時間程度の学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

全体に向け、課題やレポートに対しての振り返りとフィードバックを行うと共に、必要に応じて個人に対し、課題やレポートのコメントなどをClassroomやOIUメール、または直接口頭で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由なく、欠席の回数が授業回数の1/3を超える（6回以上欠席）の場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	グループワークやプレゼンテーションでの取り組み姿勢を評価	1, 2, 3, 4

授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	最終レポートの内容を評価	2, 4
その他	50	授業に関する発言・質問、授業態度・マナーを評価	1, 2, 3, 4

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、プリントを配布する。		
------	----------------------------------	--	--

参考書	必要に応じて、授業の中で紹介する。		
-----	-------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。 ・後期にセミナー II bも継続して履修すること。 ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。 		
---------------	--	--	--

授業コード	22039516	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	阪口 葉子				
シラバス執筆(主)	阪口 葉子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

希望進路に向けてやるべきことを説明する。
就職への企業研究や面接への助言、編入について何をすべきかなど、個々人へアドバイスをする。
また、卒業研究レポート作成へのテーマ設定や書き方についてアドバイスをする。
学生が、社会人基礎力（前に踏み出す力・考え抜く力・チームで働く力）を、のばしていけるように指導する。
学生は、毎回の授業のはじめに、世の中の最新ニュースを紹介・自分がどう感じているかについて発表する。
この習慣を続けることで、世の中のことに目を向け、考える力を養うとともに、就職活動で尋ねられても答えられるようにする。

到達目標

1. 就職活動や編入への下調べを、しっかりできる。（企業研究・学部学科選択）
2. 効果的なエントリーシートや履歴書を作成できる。
3. 世の中のニュースにいつも目を向け、セミナーで毎回発表し、自分の意見を言える。
4. 定期試験に代わるレポートについては、60点以上を取ることができる。
5. 関西から新潟への観光促進研究を積極的に取り組む

授業計画

- 第1回 【合同】オリエンテーション（セミナーⅡの運営説明）、「学修ポートフォリオ」の説明。履修（時間割）指導。
- 第2回 1年次の反省と2年次の目標設定
- 第3回 就職について（個別面談、履歴書の作成等）
- 第4回 【観光・英語合同】「新潟・トキエア連携プロジェクト」のアイデアコンペの説明。ハワイ・カナダ研修紹介
- 第5回 学外研修についての計画
- 第6回 課題研究プロジェクト（日本の戦後について考える）
- 第7回 学外研修
- 第8回 課題研究プロジェクト（将来について考える：山中伸弥教授・スティーブ・ジョブズ）
- 第9回 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料作成
- 第10回 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の中間チェック
- 第11回 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料仕上げ
- 第12回 後期の海外協定校との交流準備、プレゼンの発表練習
- 第13回 【観光・英語合同】「新潟・トキエア連携プロジェクト」のアイデアコンペの実施
- 第14回 後期の卒業研究テーマを考える
- 第15回 前期の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

事前 履修の手引きをよく読んで、履修登録に間違いがないか確認するとともに、疑問点を整理しておくこと
事後 指導された内容や学修ポートフォリオを確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】

事前 1年次の成績の振り返り。2年次の履修の個別相談
事後 2年次の目標を考える

【第3回】

事前 就職についての準備を考える
事後 就職活動について考え、実行に移す

【第4回】

事前 興味のある体験型研修について考える
事後 体験型研修やボランティアなどの参加を具体的に考える。アイデアコンペの推進方法を考える

【第5回】

事前 学外研修で学びたい場所を考える（推奨場所のプレゼンを作成）
事後 学外研修の訪問場所の事前調査

【第6回】

事前 課題についての事前準備
事後 課題のまとめ

【第7回】

事前 学外研修の準備
事後 学外研修の振り返り、まとめ

【第8回】

事前 課題についての事前準備
事後 課題のまとめ

【第9回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の作成
事後 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の作成

【第10回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の進捗チェック
事後 プレゼンテーションの資料を仕上げる計画を策定

【第11回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の作成
事後 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料を完成させる

【第12回】

事前 プレゼンの発表練習についてインターネットなどで調べる
事後 今日の事業の振り返りをする。

【第13回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のアイデアコンペの準備
事後 アイデアコンペの振り返り

【第14回】

事前 後期の卒業研究レポートの題材を考えてくる
事後 授業で話し合った卒業研究レポートの題材について、再度考える

【第15回】

事前 前期の振り返り
事後 後期に向けての目標の確認

課題に対するフィードバックの方法

授業内で作成するレポートや発表については、授業中に即座にフィードバックする。
あるいは授業後の早い段階で、Google Classroomでフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

1. 就職活動や編入への下調べを、しっかりできる。(企業研究・学部学科選択)(15)
2. 効果的なエントリーシートや履歴書を作成できる(25)
3. 世の中のニュースにいつも目を向け、セミナーで毎回発表し、自分の意見を言える(10)
4. 定期試験に代わるレポートについては、60点以上を取ることができる(30)
5. 関西から新潟への観光促進研究に積極的に取り組む(20)
6. 正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	企業研究や学部学科調べ(15) 効果的なエントリーシートや履歴書作成(25) 世の中のニュースを紹介し、自分の意見を言える(10) 関西から新潟への観光促進研究に取り組む(20)	1, 2, 3, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	レポート試験(30)	4
その他	0		

テキスト 必要に応じてプリントを配布するか、Google Classroomに授業資料を添付する。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。
・後期にセミナーⅡbも継続して履修すること。

履修条件・他の科目との関連

・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039517	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	杉山 維彦				
シラバス執筆(主)	杉山 維彦				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ゼミナール形式の授業により、コミュニケーションや、プレゼンテーション、ホスピタリティの運用能力をさらに身に付けること、主に職業生活や社会生活で必要となる基本的な能力を身に付けることを目標にする。そして、企業活動に関する事柄、時事的課題等をテーマに取り上げ、その調査や口頭発表の実践により発信力を身に付ける。

また、基礎教養知識の向上を図るとともに、コースの特長でもある専門領域の内容の活用、的確な意見の延べ方、論理的思考、客観的思考などについても学習し、社会人基礎力の土台を築くことを目指す。

到達目標

1. 卒業研究について、自分でテーマを決定し、そのテーマについて詳しく説明できる。
2. これまでの自己分析により、自分の特性や就活の方向性について説明することができる。
3. ホスピタリティマインドを持って、ビジネスマナーの基本を習得し、実践ができる。
4. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる。
5. 自発的に旅行計画ができる。

授業計画

- 第1回 【合同】オリエンテーション（セミナーⅡの運営説明）、「学修ポートフォリオ」の説明。履修（時間割）指導。
- 第2回 コミュニケーション① (1. コミュニケーションとは 2. コミュニケーションの方法 3. 新メンバーとのコミュニケーション)
- 第3回 コミュニケーション② (1. コミュニケーションツール 2. SNSなど)
- 第4回 【観光・英語合同】「新潟・トキエア連携プロジェクト」のアイデアコンペの説明。ハワイ・カナダ研修紹介
- 第5回 コミュニケーション③ (1. ビジネスコミュニケーション 2. 就活での企業とのコミュニケーション)
- 第6回 コミュニケーション④ (1. 言語以外のコミュニケーション 2. 異文化コミュニケーション)
- 第7回 フィールドワーク準備
- 第8回 フィールドワーク
- 第9回 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料作成
- 第10回 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の中間チェック
- 第11回 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料仕上げ
- 第12回 全国観光学専攻学生発表会
- 第13回 【観光・英語合同】「新潟・トキエア連携プロジェクト」のアイデアコンペの実施
- 第14回 卒業研究のテーマ決め
- 第15回 前期の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

事前 履修の手引きをよく読んで、履修登録に間違いがないか確認するとともに、疑問点を整理しておくこと
 事後 指導された内容や学修ポートフォリオを確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】

事前 コミュニケーションとは何か調べる
 事後 新メンバーとのコミュニケーションを考える

【第3回】

事前 自分のSNSを紹介する準備をする
 事後 他人のSNSを見してみる

【第4回】

事前 興味のある体験型研修について考える
 事後 体験型研修やボランティアなどの参加を具体的に考える。アイデアコンペの推進方法を考える

【第5回】

事前 ビジネスツールとしてのコミュニケーションを考える
 事後 具体的に就活に活かせるか検討する

【第6回】

事前 言語以外のコミュニケーションを考える
 事後 実際に友達とこれまでにないツールでコミュニケーションを取ってみる

【第7回】

事前 フィールドワークの行先を考える
 事後 決定したフィールドワークの行先について調査する

【第8回】

事前 フィールドワークの行先について交通機関を調べる
 事後 フィールドワークについて感想を整理する

【第9回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の作成
 事後 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の作成

【第10回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の進捗チェック
 事後 プレゼンテーションの資料を仕上げる計画を策定

【第11回】

前学 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の作成
 事後 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料を完成させる

【第12回】

事前 全国観光学専攻学生発表会の当番の手順を確認する
 事後 発表会について感想をまとめる

【第13回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のアイデアコンペの準備
 事後 アイデアコンペの振り返り

【第14回】

事前 興味分野を考えてくる
 事後 テーマを決めて夏休みに何をするか考える

【第15回】

事前 前期の振り返り
 事後 後期に向けての目標の確認

課題に対するフィードバックの方法

毎回講義内容に関するコメントを求める。
 コメントに対し、追って返却をする。

成績評価の方法・基準(方針)

毎回求めるコメント、授業態度、課題、授業への貢献度を総合的に判断する。
 また、正当な理由なく、5回を超えて授業を欠席した場合や定期試験に代わるレポート等未提出の場合は、原則として「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	ディスカッションや発表の参加度、指名での返答割合、授業に臨む態度を考慮する	1, 2, 3, 4
授業外での評価	30	フィールドワークへの参加、および、行程作成、当日のリーダーシップなど。	5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	テーマは授業中に指示する。 序論・本論・結論で書けていなければ大きく減点する。	1, 2, 4
その他	0		

テキスト 使用するテキストは別途、アドバイスするので指示に従うこと

参考書 「クリエイティブツリズム ～「あの人」に会いに行く旅～」友原嘉彦編著 古今書院 [ISBN978-4-7722-3200-5]

履修条件・他の科目との関連
 ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。
 ・後期にセミナーⅡbも継続して履修すること。
 ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039518	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	森田 篤司				
シラバス執筆(主)	森田 篤司				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

当セミナーでは、受講生一人ひとりが希望する進路を確認し、その業界の特徴についての研究を行うと同時に、エントリーシート作成や採用面接・試験の準備を含む就職活動についての具体的な進め方について指導を行う。また、観光・英語コース全体の取組みとして、「新潟・トキエア連携プロジェクト」のコンペを実施するので、メンバーで協力して資料の作成、発表を行う。

到達目標

1. 就職活動や編入の下調べを、しっかりできる(企業研究・学部学科選択)
2. 効果的なエントリーシートや履歴書を作成できる
3. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる
4. プロジェクト推進、発表の効率的な段取りができる

授業計画

第1回	【合同】オリエンテーション(セミナーⅡの運営説明)、「学修ポートフォリオ」の説明。履修(時間割)指導。
第2回	1年次の反省と2年次の目標設定
第3回	就職について(個別面談、履歴書の作成等)
第4回	【観光・英語合同】「新潟・トキエア連携プロジェクト」のアイデアコンペの説明。ハワイ・カナダ研修紹介
第5回	学外研修についての計画
第6回	課題研究プロジェクト(進路についての研究)
第7回	学外研修
第8回	課題研究プロジェクト(将来について考える:山中伸弥教授・スティーブ・ジョブズ)
第9回	「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料作成
第10回	「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の中間チェック
第11回	「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料仕上げ
第12回	後期の海外協定校との交流準備、次週の発表練習
第13回	【観光・英語合同】「新潟・トキエア連携プロジェクト」のアイデアコンペの実施
第14回	後期の卒業研究テーマを考える
第15回	前期の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

事前 履修の手引きをよく読んで、履修登録に間違いがないか確認するとともに、疑問点を整理しておくこと
 事後 指導された内容や学修ポートフォリオを確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】

事前 1年次の成績の振り返り。2年次の履修の個別相談
 事後 2年次の目標を考える

【第3回】

事前 就職についての準備を考える
 事後 就職活動について考え、実行に移す

【第4回】

事前 興味のある体験型研修について考える
 事後 体験型研修やボランティアなどの参加を具体的に考える。アイデアコンペの推進方法を考える

【第5回】

事前 学外研修で学びたい場所を考える(推奨場所のプレゼンを作成)
 事後 学外研修の訪問場所の事前調査

【第6回】

事前 課題についての事前準備
 事後 課題のまとめ

【第7回】

事前 学外研修の準備
 事後 学外研修の振り返り、まとめ

【第8回】

事前 課題についての事前準備
 事後 課題のまとめ

【第9回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の作成
 事後 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の作成

【第10回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の進捗チェック
 事後 プレゼンテーションの資料を仕上げる計画を策定

【第11回】

前学 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料の作成
 事後 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のプレゼン資料を完成させる

【第12回】

事前 インドネシアについて調べる
 事後 次週の発表の準備をする

【第13回】

事前 「新潟・トキエア連携プロジェクト」のアイデアコンペの準備
 事後 アイデアコンペの振り返り

【第14回】

事前 卒業研究テーマを考える
 事後 卒業研究テーマを考える

【第15回】

事前 前期の振り返り
 事後 後期に向けての目標の確認

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する。
 また、発表については授業中にフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す方法により、総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由なく、6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	自己PR・模擬面接(10) 就職(進学)希望先の調査・履歴書作成 (20) 課題研究プロジェクト(30)	自己PR・模擬面接: 1, 2 就職(進学)希望先の調査・履歴書作成: 1, 2 課題研究プロジェクト: 3, 4
授業外での評価	30	各種レポート(20) 課題研究プロジェクト調査(10)	各種レポート: 1, 2, 3, 4 課題研究プロジェクト調査: 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	前期振り返りのレポート(10)	前期振り返りのレポート: 1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト テキストは使用しない。必要に応じて別途プリントを配布する。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連

- ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。
- ・後期にセミナーⅡbも継続して履修すること。
- ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039611	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb [対面]				
シラバス執筆(全員)	朝野 美穂				
シラバス執筆(主)	朝野 美穂				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

社会人基礎力（前に踏み出す力“アクション”、考え抜く力“シンキング”、チームで働く力“チームワーク”）を高めるために、セミナーⅡaでの取り組みをもとに、他者にわかりやすい卒業研究レポートとしてまとめ、説得力のあるプレゼンテーションができるように指導する。主体的に課題を発見し、問題解決をすることにより深い知識や応用力が身につく、調査したことを論理的にまとめることを目的とする。

到達目標

1. 問題解決のための目標を設定し、計画的に物事を進めることができる。
2. グループでの話し合いを円滑に進めることができる。
3. 調査、研究した内容をレポートにまとめることができる。
4. 説得力のあるプレゼンテーションを行うことができる。

授業計画

- 第1回 学修ポートフォリオ。履修指導（履修修正に関して指導）、GPAの確認。
- 第2回 守口市との共同研究①（前期の発表を振り返り、課題を再検討する）
- 第3回 守口市との共同研究②（守口市の若い世代に応じた人生設計を検討する）
- 第4回 守口市との共同研究③（守口市の若い世代に応じた人生設計を討論する）
- 第5回 PROGテスト実施
- 第6回 守口市との共同研究④（守口市の若い世代に応じた人生設計を再検討する）
- 第7回 守口市との共同研究⑤（グループ発表の準備をする）
- 第8回 守口市との共同研究⑥（グループ発表の準備をする）
- 第9回 【合同】PROGテスト解説会
- 第10回 守口市との共同研究⑦（グループ発表の準備をする）
- 第11回 守口市との共同研究⑧（グループ発表の準備をする）
- 第12回 守口市との共同研究⑨（セミナー内発表）
- 第13回 守口市との共同研究⑩（グループ発表を振り返る、今後の課題を検討する）
- 第14回 【合同】全体卒業研究発表会（1年生と合同）
- 第15回 まとめ セミナーの振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

事前 前期の成績は確認し、後期に追加・変更が必要な科目がないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後 授業で指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】

事前 前期の発表内容を確認し、指摘された事項を整理しておくこと
事後 授業で指導された内容を確認し、整理しておくこと

【第3回】

事前 若い世代の人生の生き方の構想を描くことができるように、自分自身の人生設計を整理しておくこと
事後 授業で指導された内容を確認し、整理しておくこと

【第4回】

事前 討論のための資料整理、発表内容を整理しておくこと
事後 授業で指導された内容を確認し、整理しておくこと

【第5回】

事前 「社会人基礎力」と「ジェネリックスキル」とは何かを調べ、1年次のProgテストを振り返る
事後 テストの回答を思い出し、自分の性格における長所・短所を考えてみる

【第6回】

事前 討論で指摘された内容を整理しておくこと
事後 授業で指導された内容を確認し、整理しておくこと

【第7回】

事前 グループ発表の実施に向けて、準備しておくこと
 事後 授業で指導された内容を確認し、パワーポイントを修正すること

【第8回】

事前 グループ発表の実施に向けて、準備しておくこと
 事後 授業で指導された内容を確認し、パワーポイントを修正すること

【第9回】

事前 PROGテスト対策
 事後 解説を基に社会人としての行動を考える

【第10回】

事前 グループ発表の実施に向けて、準備しておくこと
 事後 授業で指導された内容を確認し、パワーポイントを修正すること

【第11回】

事前 グループ発表の実施に向けて、準備しておくこと
 事後 授業で指導された内容を確認し、パワーポイントを修正すること

【第12回】

事前 グループ発表のプレゼンを作成し、発表練習を行っておく
 事後 指導された内容を確認し、修正内容を反映しておくこと

【第13回】

事前 グループ発表で指導された内容を整理しておくこと
 事後 今後の課題について、取りまとめること

【第14回】

事前 発表者はプレゼン資料を完成させること。その他のメンバーは発表者の研究についてコメントする
 事後 発表を参考に自分の卒業研究の再チェックを行う

【第15回】

事前 短大生活全体を振り返ってくること
 事後 全体を振り返り、卒業後の目標を立てる

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する。また、発表については授業中にフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由なく6回以上欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	卒業研究レポート発表(50)	4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	卒業研究レポート(30)	1, 3
その他	20	授業中の発言・取り組み(10)、グループワークでの貢献度(10)	1, 2

テキスト テキストは使用しない。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連

- ・卒業必修科目である。
- ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。
- ・前期にセミナーⅡaを履修していること。
- ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039612	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb [対面]				
シラバス執筆(全員)	木下 佳代子				
シラバス執筆(主)	木下 佳代子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

社会人として活躍するためには、基礎的学力はもちろんのこと、「自分で考える力」や「計画を実行する能力」、人間関係を円滑にする「コミュニケーション能力」などが必要である。これらの能力を身につけるために、セミナーⅡaでの取り組みをベースに、ものごとを論理的に考えて発表する能力を養うための演習を行い、その成果を卒業研究としてレポートにまとめて発表できるように指導する。授業の形態は、グループワーク・演習が中心である。

到達目標

1. 各自でテーマを考え、インターネットや図書館等で文献検索を行い、情報収集できる。
2. 得られた情報を基にレシピやイベントを考えることができる。
3. 積極的にコミュニケーションをとりながら、他者と協力できる。
4. 自分の考え、意見をまとめることができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション、学修ポートフォリオ、履修指導(履修修正に関して指導)、GPAの確認
 第2回 卒業研究レポートのための調査①
 第3回 卒業研究レポートのための調査②
 第4回 卒業研究レポートのための調査③
 第5回 PROGテスト実施
 第6回 卒業研究レポートのための調査④
 第7回 卒業研究レポートの作成①
 第8回 卒業研究レポートの作成②
 第9回 【合同】PROGテスト解説会
 第10回 卒業研究レポートの作成③
 第11回 卒業研究レポート発表スライドの作成
 第12回 卒業研究レポート セミナー内発表会①
 第13回 卒業研究レポート セミナー内発表会②
 第14回 【合同】全体卒業研究発表会(1年生と合同)
 第15回 まとめ セミナーの振り返り

※進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【事前学習】

次回の授業テーマを確認し、学びたいことなどをメモにまとめておくこと。

【事後学習】

具体的な内容については、各回で指示する。

授業までに必要なことをまとめ、授業時に報告・相談等ができるようにしておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で課題の講評を行い、必要に応じて個別に指導する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下の評価割合に基づき総合的に評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

授業への積極的参加姿勢、提出物、発表、一般常識試験等の総合評価とする。

正当な理由がなく欠席が5回を超えた場合は「K」評価となる。

正当な理由がなく「定期試験に代わるレポート」を指定した期限までに提出しなかった場合は「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	演習課題(25) 卒業研究レポートの発表(15)	1, 2, 3, 4

授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	授業振り返りレポート(20)	4
その他	40	卒業研究レポート(40)	1, 2, 4

テキスト	テキストは使用せず資料を配布する
------	------------------

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・卒業必修科目である。 ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更したりする場合がある。 ・前期にセミナーⅡaを履修していること。 ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。
---------------	---

授業コード	22039613	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb [対面]				
シラバス執筆(全員)	中原 亜紀美				
シラバス執筆(主)	中原 亜紀美				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

社会人として活躍するために必要な基礎力を涵養するため、さまざまなチャレンジをしながら自身を高めていく。各自で興味のあるテーマを設定し、卒業研究レポートとしてまとめ、プレゼンテーションを行う。また、セミナー内企画の立案・運営を行う機会も設ける。

到達目標

1. 就職活動や編入への下調べ(企業研究・学部学科選択)ができる。
2. 効果的なプレゼンテーション資料の作成ができる。
3. 卒業研究についてプレゼンテーションをすることができる。
4. 定期試験に代わるレポートで60点以上を取ることができる。

授業計画

- 第1回 学修ポートフォリオ。履修指導(履修修正に関して指導)、GPAの確認。
- 第2回 卒業研究テーマの見直し、計画
- 第3回 情報収集
- 第4回 レポート作成①(はじめに)
- 第5回 PROGテスト実施
- 第6回 レポート作成②(本論)
- 第7回 グループディスカッション
- 第8回 レポート作成③(結論)
- 第9回 【合同】PROGテスト解説会
- 第10回 レポート修正
- 第11回 発表準備①(全体構成案の作成)
- 第12回 発表準備②(効果的なプレゼンテーション資料の作成)
- 第13回 セミナー内発表
- 第14回 【合同】全体卒業研究発表会(1年生と合同)
- 第15回 まとめ セミナーの振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

事前 前期の成績は確認し、後期に追加・変更が必要な科目がないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後 授業で指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】

事前 卒業研究の進行状況と今後の計画について説明できるようにしておくこと。
事後 次回までに必要なことをまとめ、授業時に報告・相談等ができるようにしておくこと。

【第3回】

事前 卒業研究の進行状況と今後の計画について説明できるようにしておくこと。
事後 次回までに必要なことをまとめ、授業時に報告・相談等ができるようにしておくこと。

【第4回】

事前 卒業研究の進行状況と今後の計画について説明できるようにしておくこと。
事後 次回までに必要なことをまとめ、授業時に報告・相談等ができるようにしておくこと。

【第5回】

事前 「社会人基礎力」と「ジェネリックスキル」とは何かを調べ、1年次のPROGテストを振り返る
事後 テストの回答を思い出し、自分の性格における長所・短所を考えてみる

【第6回】

事前 卒業研究の進行状況と今後の計画について説明できるようにしておくこと。
事後 次回までに必要なことをまとめ、授業時に報告・相談等ができるようにしておくこと。

【第7回】

事前 卒業研究の進行状況と今後の計画について説明できるようにしておくこと。

事後 次回までに必要なことをまとめ、授業時に報告・相談等ができるようにしておくこと。

【第8回】

事前 卒業研究の進行状況と今後の計画について説明できるようにしておくこと。

事後 次回までに必要なことをまとめ、授業時に報告・相談等ができるようにしておくこと。

【第9回】

事前 PROGテスト対策

事後 解説を基に社会人としての行動を考える

【第10回】

事前 卒業研究の進行状況と今後の計画について説明できるようにしておくこと。

事後 次回までに必要なことをまとめ、授業時に報告・相談等ができるようにしておくこと。

【第11回】

事前 卒業研究の進行状況と今後の計画について説明できるようにしておくこと。

事後 次回までに必要なことをまとめ、授業時に報告・相談等ができるようにしておくこと。

【第12回】

事前 卒業研究の進行状況と今後の計画について説明できるようにしておくこと。

事後 次回までに必要なことをまとめ、授業時に報告・相談等ができるようにしておくこと。

【第13回】

事前 プレゼンテーションを準備しておくこと。

事後 授業までに必要なことをまとめ、授業時に報告・相談等ができるようにしておくこと。

【第14回】

事前 発表者はプレゼン資料を完成させること。その他のメンバーは発表者の研究についてコメントする

事後 発表を参考に自分の卒業研究の再チェックを行う

【第15回】

事前 これまでの振り返りをしておくこと。

事後 卒業研究レポートの最終チェックをしておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で課題の講評を行い、必要に応じて個別に指導する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下の評価割合に基づき総合的に評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく、5回を超えて授業を欠席した場合や定期試験に代わるレポート未提出の場合は、原則として「K」評価とする。
- ・授業への積極的参加（発言等）は加点する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	最終発表(40)、授業中の発言内容・取り組み(20)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	卒業研究レポート	4
その他	0		

テキスト テキストは使用せず、授業内で資料を提示する。

参考書 必要に応じて授業内で指示する。

履修条件・他の科目との関連

- ・卒業必修科目である。
- ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。
- ・前期に「セミナーⅡa」を履修していること。
- ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039614	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb [対面]				
シラバス執筆(全員)	林 兵磨				
シラバス執筆(主)	林 兵磨				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本セミナーは、これまでの学習の集大成として、卒業研究レポートの完成させることを目的とする。各自の問題意識に基づいて、資料収集、調査を積極的に行い、執筆と推敲を重ねていきながら論文の完成へとつなげていく。
また、研究発表会の準備も行い、プレゼンテーション能力の体得もしていく。
授業の形態は各自の執筆作業の他、プレゼンテーションに基づくディスカッションも積極的に実施していく予定である。

到達目標

1. 就職活動や四年制大学編入への下調べを、しっかりできる。(企業研究・学部学科選択)
2. 効果的なエントリーシートや履歴書を作成できる。
3. 卒業研究についてプレゼンテーションをすることができる。
4. 定期試験に代わるレポートで60点以上を取ることができる。

授業計画

- 第1回 学修ポートフォリオ。履修指導(履修修正に関して指導)、GPAの確認。
 第2回 卒業研究レポート作成 レポート作成に向けての今後の方針指導
 第3回 卒業研究レポート作成 各自選定テーマに基づく調査研究活動①
 第4回 卒業研究レポート作成 各自選定テーマに基づく調査研究活動②
 第5回 PROGテスト実施
 第6回 卒業研究レポート作成 各自選定テーマに基づく調査研究活動③
 第7回 卒業研究レポート作成V レポート執筆開始
 第8回 卒業研究レポート作成VI レポート作成継続
 第9回 【合同】PROGテスト解説会
 第10回 発表資料及びスライドの作成]準備活動
 第11回 発表資料及びスライドの作成|完成後の見直し
 第12回 セミナー内での研究発表
 第13回 セミナー内での研究発表
 第14回 【合同】全体卒業研究発表会(1年生と合同)
 第15回 まとめ セミナーの振り返り
 上記計画は一部変更となる場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

事前 前期の成績は確認し、後期に追加・変更が必要な科目がないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
 事後 授業で指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】

事前 第1回授業時に示した卒業研究レポートの今後の方針をよく読んで理解しておくこと
 事後 各自の選定テーマに基づく予定の見直しを行う

【第3回】

事前 調査研究活動に先立ち必要となる資料及び文献のリストアップをしておく
 事後 収集した資料及び文献等について考察を進める

【第4回】

事前 卒業研究レポートについて追加で必要となる資料等のリストアップを行う
 事後 収集した資料及び文献等について考察を進める

【第5回】

事前 「社会人基礎力」と「ジェネリックスキル」とは何かを調べ、1年次のPROGテストを振り返る
 事後 テストの回答を思い出し、自分の性格における長所・短所を考えてみる

【第6回】

事前 卒業研究レポートについて収集した関係資料について整理を行っておく
 事後 収集した資料及び文献等について考察を進める

【第7回】
 事前 収集した資料ごとの要約をまとめておく
 事後 レポートの構成（段落等）を考える

【第8回】
 事前 レポートの下書きを開始する
 事後 授業時に受けた指導に基づき下書きを修正する

【第9回】
 事前 Progテスト対策
 事後 解説を基に社会人としての行動を考える

【第10回】
 事前 下書きに基づき本文作成に取り掛かる
 事後 授業時に受けた指導に基づき本文を加筆修正を行う
 発表資料及びスライドの作成にも取り掛かる

【第11回】
 事前 レポート作成を継続していく
 事後 今回の解説を基に社会人としての行動を考える

【第12回】
 事前 セミナー内での発表の練習を行う。13回目に発表の者はレポート作成を継続する
 事後 発表時に受けた質問や意見に基づきレポート及び全体卒業研究発表会計の準備を行う

【第13回】
 事前 セミナー内での発表の練習を行う発表を終えた者はレポート作成の継続を行う
 事後 発表時に受けた質問や意見に基づきレポート及び全体卒業研究発表会計の準備を行う
 発表を前日に終えた者はレポート作成の続きを行う

【第14回】
 事前 発表者はプレゼン資料を完成させること。その他のメンバーは発表者の研究についてコメントする
 事後 発表を参考に自分の卒業研究の再チェックを行う

【第15回】
 事前 卒業研究レポートの最終チェックを行う
 事後 これまでの学生生活の総括を行う

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業時の発表等に基づき課した課題内容について、次の授業時に指導を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

下記の評価割合に基づき総合的に評価を行い、100点満点で60点以上を合格とする。
 正当な理由なく5回を超えて欠席した場合、卒業研究レポートの提出がない場合には、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	エントリーシート・履歴書に関するレポート(10) 卒業研究レポートの発表(20) 卒業研究に関する授業内レポート(20)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	卒業研究レポート	4
その他	0		

テキスト テキストは使用しない。授業時に必要に応じて資料を配布する。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連

- ・卒業必修科目である。
- ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。
- ・前期にセミナーⅡaを履修していること。
- ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039615	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb [対面]				
シラバス執筆(全員)	加藤 淳一				
シラバス執筆(主)	加藤 淳一				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

2年間の短大での学修の集大成として、卒業研究レポートに取り組み、関心を持った内容について深く考える力、知りたい内容について自らの手で調査を計画し実行する力、自身の研究を通じて分かったことを他者にわかりやすく伝える力などを身に付けられるよう指導する。
このほか受講者の希望に応じて、伝統文化体験、大学祭への参加、ボランティア活動など、授業外での体験的学習の機会も提供する。

到達目標

1. 自身の関心をもとに、自らの生きる社会の幅広い事柄への視野を広げる。
2. 一定期間にわたる卒業研究活動を計画し、それに沿って適切に活動を進めることができる。
3. 調査の基本的な方法を理解し、それをもとに実際に調査を計画し実行することができる。
4. 自分の意見をレポートやスライドに整理し、わかりやすく他者に伝えることができる。

授業計画

- 第1回 学修ポートフォリオ。履修指導(履修修正に関して指導)、GPAの確認。
第2回 【観光・英語合同】コミュニケーション・ワーク。体験型研修の共有、募集
第3回 フィールドワークの準備(フィールドワークの準備に対して、分担し協力して取り組む)
第4回 フィールドワークの実施(フィールドワークを実施する)
第5回 PROGテスト実施
第6回 卒業研究レポートの調査(各自のテーマに沿って、卒業研究レポートの調査を進める)
第7回 卒業研究レポートの調査(各自のテーマに沿って、引き続き調査を進める)
第8回 卒業研究レポートの執筆(卒業研究レポートの執筆に取り組む)
第9回 【合同】PROGテスト解説会
第10回 卒業研究レポートの執筆(卒業研究レポートをまとめ上げる)
第11回 セミナー内発表(卒業研究レポートの発表を行う)
第12回 セミナー内発表(卒業研究レポートの発表を行う)
第13回 卒業研究レポートの仕上げ
第14回 【合同】全体卒業研究発表会(1年生と合同)
第15回 まとめ セミナーの振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。
この他、授業全体の振り返りやまとめ、および最終レポート作成として、15時間程度の学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

全体に向け、課題やレポートに対しての振り返りとフィードバックを行うと共に、必要に応じて個人に対し、課題やレポートのコメントなどをClassroomやOIUメール、または直接口頭で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由なく、欠席の回数が授業回数の1/3を超える(6回以上欠席)の場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	卒業研究レポートのプレゼンテーションを評価	2, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	卒業研究レポートの内容を評価(50) 最終レポートの内容を評価(10)	1, 2, 3, 4
その他	20	授業に関する発言・質問、授業態度・マナーを評価	1, 2, 3, 4

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、プリントを配布する。
参考書	必要に応じて、授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。 ・前期にセミナーⅡaを履修していること。 ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039616	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb [対面]				
シラバス執筆(全員)	阪口 葉子				
シラバス執筆(主)	阪口 葉子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

後期は、卒業研究レポートのテーマを決め、資料集めをして、卒業研究レポートを完成させることを主とする。セミナーでは、各人に、卒業研究レポート作成への指導をする。学生は、設定したテーマを調査し、内容をまとめて提出する過程を通じて、目標達成を目指す。卒業研究レポートは、決められた期限内に提出する。卒業研究レポートへのアドバイス他、面談も頻繁に行う。

到達目標

1. 卒業研究レポートのテーマに沿った資料集め、考察、まとめができる。(20)
2. 卒業研究レポート内容とプレゼンテーションをすることができる。(30)
3. PROGテストを受験し、自分のことを他者に説明できる(20)
4. 定期試験に代わるレポートで60点以上を取ることができる(30)

授業計画

- 第1回 学修ポートフォリオ。履修指導(履修修正に関して指導)、GPAの確認。
- 第2回 【観光・英語合同】コミュニケーション・ワーク。体験型研修の共有、募集
- 第3回 面談・卒業研究レポート作成の計画を立てる。
- 第4回 卒業研究レポートについて助言する。
- 第5回 PROGテスト実施
- 第6回 卒業研究レポート指導
- 第7回 卒業研究レポート指導
- 第8回 卒業研究レポート指導
- 第9回 【合同】PROGテスト解説会
- 第10回 卒業研究レポートの中間報告
- 第11回 卒業研究レポートをセミナー内で発表する。
- 第12回 卒業研究レポートの合同発表会での発表者を選ぶ。
- 第13回 卒業研究レポートの仕上げ
- 第14回 【合同】全体卒業研究発表会(1年生と合同)
- 第15回 まとめ セミナーの振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

事前 前期の成績は確認し、後期に追加・変更が必要な科目がないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
事後 授業で指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】

事前 興味のある体験型研修について考える
事後 体験型研修やボランティアなどの参加を具体的に考える

【第3回】

事前 卒業研究レポート作成について、どのように進めていくかを考える。
事後 今日の振り返りをする。

【第4回】

事前 卒業研究レポートを書き進める。
事後 今日のセミナーで、教員や学生たちと話した内容をまとめる。

【第5回】

事前 「社会人基礎力」と「ジェネリックスキル」とは何かを調べ、1年次のPROGテストを振り返る
事後 テストの回答を思い出し、自分の性格における長所・短所を考えてみる

【第6回】

事前 卒業研究レポート内容の確認
事後 卒業研究レポート内容ふりかえりと内容修正

【第7回】

事前 卒業研究レポート内容の確認

事後 卒業研究レポート内容ふりかえりと内容修正

【第8回】

事前 卒業研究レポート内容の確認

事後 卒業研究レポート内容ふりかえりと内容修正

【第9回】

事前 Progテスト対策

事後 解説を基に社会人としての行動を考える

【第10回】

事前 卒業研究レポートのセミナーでの発表のため、各人がパワーポイントを作成してくる。

事後 卒業研究レポートの様式を整えるなど最終確認をする。

【第11回】

事前 卒業研究レポートの合同発表会での発表者を選考えてくる。

事後 引き続き卒業研究レポートの内容を見返す。

【第12回】

事前 卒業研究レポートのセミナー内での発表

事後 振り返り

【第13回】

事前 卒業研究レポートの見直し

事後 卒業研究レポートの仕上げ

【第14回】

事前 発表者はプレゼン資料を完成させること。その他のメンバーは発表者の研究についてコメントする

事後 発表を参考に自分の卒業研究の再チェックを行う

【第15回】

事前 短大2年間の振り返り。卒業研究レポートの提出確認

事後 短大2年間の振り返り

課題に対するフィードバックの方法

授業内で作成するレポートや発表については、授業中に即座にフィードバックする。
あるいは授業後の早い段階で、Google Classroomでフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

1. 卒業研究レポートのテーマに沿った資料集め(20)
2. 卒業研究レポート内容とプレゼンテーションをすることができる(30)
3. PROGテストを受験し、自分のことを他者に説明できる(20)
4. 定期試験に代わるレポートで60点以上を取ることができる(30)
5. 正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	卒業研究レポートのテーマに沿った資料集め(20)その内容とプレゼンテーション(30)PROGテストを受験したことにより、自分のことを他者に説明できる(20)	1
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	レポートで、60点以上を取ることができる(30)	4
その他	0		

テキスト テキストは使用せず、プリントを配布するか、Google Classroomに授業資料を添付する。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連

- ・卒業必修科目である。
- ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。
- ・前期にセミナーⅡaを履修していること。
- ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

授業コード	22039617	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb [対面]				
シラバス執筆(全員)	杉山 維彦				
シラバス執筆(主)	杉山 維彦				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

ゼミナール形式の授業により、2年間の学びのまとめとなる調査・研究を行う。これまでに学習したことを自分なりに研究し、文献調査、アンケート調査、フィールド調査等を行いながら卒業研究としてまとめ発表を行う。また、コースの特長でもある専門領域の内容や社会における実務に対する基礎教養知識をあわせて向上を図る。

到達目標

1. 卒業研究について、自分で決定したテーマについて詳しく説明できる。
2. これまでの自己分析により、自身の良さや強みを生かして、社会人としての基礎力を伸ばす。
3. ホスピタリティマインドを持って、ビジネスマナーの基本を習得し、実践ができる。
4. レポート課題を論理的に組み立てて作成し、発表することができる。
5. 旅行日程を企画できる。

授業計画

- 第1回 学修ポートフォリオ。履修指導(履修修正に関して指導)、GPAの確認。
 第2回 【観光・英語合同】コミュニケーション・ワーク。体験型研修の共有、募集
 第3回 卒業研究レポートの書き方① テーマ決定
 第4回 卒業研究レポートの書き方② 研究目的
 第5回 PROGテスト実施
 第6回 先行研究の選定① 先行研究とは何か
 第7回 先行研究の選定② 参考文献とは
 第8回 フィールドワーク
 第9回 【合同】PROGテスト解説会
 第10回 卒論構成考察① 序論・本論・結論の確認
 第11回 卒論構成考察② アンケート調査・フィールド調査
 第12回 全国観光学専攻学生発表会
 第13回 卒業研究レポートの仕上げ
 第14回 【合同】全体卒業研究発表会(1年生と合同)
 第15回 まとめ セミナーの振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

事前 前期の成績は確認し、後期に追加・変更が必要な科目がないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
 事後 授業で指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】

事前 興味のある体験型研修について考える
 事後 体験型研修やボランティアなどの参加を具体的に考える

【第3回】

事前 自分の強みは何か考えてくる(卒業研究に関して)
 事後 テーマを正式に決定する

【第4回】

事前 卒業研究のテーマを研究する意味は何か考える
 事後 卒業研究をどのような流れで書くか決める

【第5回】

事前 「社会人基礎力」と「ジェネリックスキル」とは何かを調べ、1年次のPROGテストを振り返る
 事後 テストの回答を思い出し、自分の性格における長所・短所を考えてみる

【第6回】

事前 先行研究とは何か調べる
 事後 自分の卒業研究の先行研究を探す

【第7回】
 事前 参考文献とは何か調べる
 事後 参考文献をコピーしないでレポートを書くにはどうするか考える

【第8回】
 事前 現地の観光資源を考える
 事後 現地の情報をまとめる

【第9回】
 事前 PROGテスト対策
 事後 解説を基に社会人としての行動を考える

【第10回】
 事前 卒業研究レポートの構成を考えてくる
 事後 構成を序論・本論・結論に対応させる

【第11回】
 事前 どのような調査ができるか調べる
 事後 自分の研究について発表の準備をする

【第12回】
 事前 発表準備
 事後 他の発表の考察

【第13回】
 事前 卒業研究レポートの作成
 事後 失業研究レポートの仕上げ

【第14回】
 事前 発表者はプレゼン資料を完成させること。その他のメンバーは発表者の研究についてコメントする
 事後 発表を参考に自分の卒業研究の再チェックを行う

【第15回】
 事前 短大2年間の振り返り。卒業研究レポートの提出確認
 事後 短大2年間の振り返り

課題に対するフィードバックの方法

毎週進捗状況を報告してもらおう。
 その都度指示、指導するので、それに従うこと。

成績評価の方法・基準(方針)

毎週の進捗状況の報告や、指示、指導についての出来具合などについて総合的に判断する。
 連絡を取らない、指示に従わない、文章の手直しをしないなどは、大きく減点する。
 卒業研究について、期日に指示したことを行わない(調査を行わない、文章を書いてこない、作表をしない、文献の読み込みをしない、など)ことで減点をしていく。
 また、正当な理由なく、5回を超えて授業を欠席した場合や定期試験に代わるレポート等未提出の場合は、原則として「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	ディスカッションやプレゼンテーションの参加度、指名での返答割合、授業に臨む態度、貢献度などを考慮する。 また、卒業研究レポートの研究目的、調査、考察、結論などについて解説してもらう。	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	フィールドワークの参加、その行程作成、当日のリーダーシップ、および、全国観光学専攻学生発表会への参加。	5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	卒業研究レポートをもって、定期試験に代わるレポートとする。 序論・本論・結論について正しく理論的に書かれているか問う。	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない
参考書	「文化系」学生のレポート・卒論術(渡辺 潤・宮入 恭平 著)青弓社
履修条件・他の科目との関連	・卒業必修科目である。 ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。

履修条件・他の科目との関連

- ・前期にセミナーⅡaを履修していること。
- ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。

Schedules are subject to change without notice.

授業コード	22039618	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb [対面]				
シラバス執筆(全員)	森田 篤司				
シラバス執筆(主)	森田 篤司				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

国際的視野育成のために、セミナーメンバーは、海外協定校の学生と協業する。具体手にはテーマ設定、調査・研究・分析を海を隔てた2国間のコミュニケーションにより推進し、資料を作成すると共に発表ができるように指導する。テーマの選定は、社会、文化、生活など幅広い範囲の中から、お互いに興味を持つものを相談のうえ、決定するように導く。また、プロジェクト推進に当たって、目標設定とともに実現に向けて成果物を完成するためのスケジュールを立て、自主的なタイムマネジメントを実践していくよう指導する。

到達目標

1. プレゼンテーションの資料の構想を練ることができる
2. タイムマネジメントができる
3. 海外の学生とコミュニケーションができる
4. 効果的なプレゼンテーションの資料作成、発表ができる
5. 卒業研究レポートを仕上げるができる

授業計画

- 第1回 学修ポートフォリオ。履修指導(履修修正に関して指導)、GPAの確認。
 第2回 【観光・英語合同】コミュニケーション・ワーク。体験型研修の共有、募集
 第3回 海外協定校との合同研究プロジェクトのグループ分け。研究の構想を練る
 第4回 海外協定校との合同研究プロジェクトの推進プラン策定
 第5回 PROGテスト実施
 第6回 海外協定校との合同研究プロジェクト資料作成
 第7回 海外協定校との合同研究プロジェクト資料作成
 第8回 海外協定校との合同研究プロジェクト資料作成
 第9回 【合同】PROGテスト解説会
 第10回 卒業研究レポート、海外協定校との合同研究プロジェクト資料の仕上げ
 第11回 卒業研究レポート、次週の発表準備
 第12回 海外協定校との合同研究プロジェクト発表会
 第13回 卒業研究レポートの仕上げ
 第14回 【合同】全体卒業研究発表会(1年生と合同)
 第15回 まとめ セミナーの振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき、事前、事後学習を合わせて1時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

- 事前 前期の成績は確認し、後期に追加・変更が必要な科目がないか確認するとともに疑問点を整理しておくこと
 事後 授業で指導された内容を確認し、必要に応じて履修登録に反映させておくこと

【第2回】

- 事前 興味のある体験型研修について考える
 事後 体験型研修やボランティアなどの参加を具体的に考える

【第3回】

- 事前 共同研究プロジェクトの構想を練る
 事後 協定校のグループとなるメンバーと交信を行う

【第4回】

- 事前 共同研究プロジェクト発表までの段取りを考える
 事後 プレゼン資料を作成開始

【第5回】

- 事前 「社会人基礎力」と「ジェネリックスキル」とは何かを調べ、1年次のPROGテストを振り返る
 事後 テストの回答を思い出し、自分の性格における長所・短所を考えてみる

【第6回】

- 事前 プレゼン資料の作成

事後 プレゼン資料の作成

【第7回】

事前 プレゼン資料の作成
事後 プレゼン資料の作成

【第8回】

事前 プレゼン資料の作成
事後 プレゼン資料の作成

【第9回】

事前 Progテスト対策
事後 解説を基に社会人としての行動を考える

【第10回】

事前 卒業研究レポートの作成について理解する
事後 プレゼン資料の仕上げ、発表練習

【第11回】

事前 プレゼン資料の最終チェック、発表練習
事後 発表準備

【第12回】

事前 発表準備
事後 発表の振り返り

【第13回】

事前 卒業研究レポートの作成
事後 失業研究レポートの仕上げ

【第14回】

事前 発表者はプレゼン資料を完成させること。その他のメンバーは発表者の研究についてコメントする
事後 発表を参考に自分の卒業研究の再チェックを行う

【第15回】

事前 短大2年間の振り返り。卒業研究レポートの提出確認
事後 短大2年間の振り返り

課題に対するフィードバックの方法

授業内での課題の講評を行うとともに、必要に応じて個別に指導する。
また、発表については授業内でフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく、6回以上欠席した場合は「K」評価とする

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	海外協定校との合同研究のプレゼン資料の作成 (30) 海外協定校との合同研究の発表 (20)	海外協定校との合同研究のプレゼン資料の作成 : 1, 4 海外協定校との合同研究の発表 : 1
授業外での評価	30	発表資料のストーリー構築・調査活動(10) タイムマネジメント(10) コミュニケーションの実践(10)	発表資料のストーリー構築・調査活動: 1, 4 タイムマネジメント: 2 コミュニケーションの実践: 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	卒業研究レポート作成(20)	卒業研究レポート: 2, 5
その他	0		

テキスト

テキストは使用しない。必要に応じて別途プリントを配布する。

参考書

必要に応じて授業の中で紹介する

履修条件・他の科目との関連

- ・卒業必修科目である。
- ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更する場合がある。
- ・前期にセミナー II aを履修していること。
- ・欠席した場合は、Google Classroomの資料・課題等を確認する、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。



授業コード	22021001	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	秘書概論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	児島 尚子				
シラバス執筆(主)	児島 尚子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

グローバル社会で働くことの意義と目的を理解するために、「会社」という組織に関連する経営や法律などの基本概念から組織体について概説し、そこで働く秘書の業務に着眼しながら説明を加えていく。秘書に必要とされる資質、求められる能力、職場での人間関係等を理解し、また、実際の業務に必要な経理の関連知識についても概説する。「秘書」の業務内容を学ぶことにより、ビジネス実務能力の向上を目的とし、自らのライフデザイン構築の一助となることを期待している。授業は、対面で実施する。毎回、授業の習熟度を課題提出により確認する。

* 実務家としての経歴を活かす授業

企業での役員秘書の経験をもとに、実務家教員として、秘書業務に関する理論と実践への応用を関連付けながら授業を行う。また、ビジネスマンを目指す人たちに役立つ授業にしたい。

到達目標

1. グローバル社会や日本企業のしくみが説明できる
2. 「秘書」としての基礎から専門にいたる知識を習得し、実践できる
3. 社会人としての常識や問題解決能力を身につけ、実践できる
4. 人生における仕事の持つ意味や社会が求める人間像について説明できる
5. 自主的なライフデザイン構築の一助となり実行できる

授業計画

★この授業は、対面授業です。

【第1回】

テーマ：オリエンテーション

内容・方法：半年間の講義内容、授業に対する姿勢、成績算出方法などを説明する

【第2回】

テーマ：秘書の歴史、秘書の概念

内容・方法：「秘書」が成立した過程を古代から概観する。また、「秘書」の意味を説明し、歴史的に担った役割を大別して、これからの秘書の概念について考える

【第3回】

テーマ：秘書と急変する企業環境

内容・方法：組織としての企業をとりまく環境について概説する

【第4回】

テーマ：秘書と会社組織

内容・方法：会社の分類・機能、秘書業務の形態について概説する

【第5回】

テーマ：秘書の職務と職能

内容・方法：秘書の職務内容、上司と秘書の職能の関係、また秘書に求められる能力について概説する

【第6回】

テーマ：秘書に求められる資質

内容・方法：秘書の資質として、どのようなパーソナリティが秘書として相応しいか概説する

【第7回】

テーマ：秘書と人間関係

内容・方法：コミュニケーションの要素を分析し、秘書に必要なコミュニケーションについて概説する

【第8回】

テーマ：秘書と情報管理

内容・方法：情報ネットワークが形成した企業内における秘書業務の変化について概説する

【第9回】

テーマ：秘書教育とキャリアデザイン

内容・方法：女性の働き方が変化する中で、秘書もキャリアデザインしながら未来に向けて変化している例を挙げながら概説する

【第10回】

テーマ：秘書と法律の知識

内容・方法：企業で働く秘書にとって必要となる法律の知識を概説する

【第11回】

テーマ：リスク・マネジメント

内容・方法：リスク・マネジメント、ダイバーシティ・マネジメントについて概説する

【第12回】

テーマ：秘書と異文化理解

内容・方法：異文化理解とコミュニケーションの取り方について概説する

【第13回】

テーマ：秘書のマナーとプロトコル

内容・方法：国際儀礼も含め、秘書に必要なマナー全般を概説する

【第14回】

テーマ：秘書とホスピタリティ・これからの秘書

内容・方法：ホスピタリティとサービスの違いについて概説する。また、秘書業務におけるホスピタリティについて概説する

【第15回】

テーマ：振り返りとまとめ

内容・方法：秘書としての資質・求められる能力・職場での人間関係等を理解できたか、また、実際の業務に必要な法律などの知識が身についたかを総復習する

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

1回につき2時間として計算 事前事後あわせて1単位あたり45時間が必要となる
各回について、それぞれ事前学習1.5時間、事後学習2.5時間を要する
事前・事後学習を合わせ4時間以上の学習を必要とする

【第1回】

①事前学習課題：この講義のシラバス内容を読んでおくこと

②事後学習課題：自分自身が考える「秘書像」を列記しておくこと

【第2回】

①事前学習課題：日本の歴史において有名な秘書的役割を担う人物を調べておくこと

②事後学習課題：日本の秘書と欧米の秘書の成り立ちについて整理しておくこと また、秘書の概念をまとめ、必要となる資質をピックアップしておくこと

【第3回】

①事前学習課題：企業をとりまく環境について見ておくこと

②事後学習課題：秘書をとりまく環境の変化について認識しておくこと

【第4回】

①事前学習課題：会社の分類・組織、秘書の業務形態について熟読しておくこと

②事後学習課題：会社の組織構造と秘書の業務形態について認識しておくこと

【第5回】

①事前学習課題：役員秘書の一日について考えてみる

②事後学習課題：秘書に求められる能力について理解しておくこと

【第6回】

①事前学習課題：自分自身のパーソナリティについて考えておくこと

②事後学習課題：「秘書の資質」に自分自身のパーソナリティがどの位置にあるか認識しておくこと

【第7回】

①事前学習課題：「バーバル・コミュニケーション」と「ノンバーバル・コミュニケーション」について調べておくこと

②事後学習課題：秘書としての対人コミュニケーションにおける注意点をまとめておくこと

【第8回】

①事前学習課題：秘書として必要な情報について読んでおくこと

②事後学習課題：個人情報取り扱いについて覚えておくこと

【第9回】

①事前学習課題：「キャリアデザイン」について調べておくこと

②事後学習課題：秘書がキャリアを意識して歩んでいる道をまとめ、自分自身の「キャリア」について卒業後のあるべき姿を見据えて考えたことをまとめておくこと

【第10回】

①事前学習課題：「コンプライアンス」について調べておくこと

②事後学習課題：企業活動に関する法律知識を整理しておくこと

【第11回】

①事前学習課題：「リスク・マネジメント」について調べておくこと

②事後学習課題：「リスク・マネジメント」と「ダイバーシティ・マネジメント」についてまとめておくこと

【第12回】

①事前学習課題：グローバル社会に秘書は必要かどうかを考えておくこと

②事後学習課題：国際秘書の役割をまとめておくこと

【第13回】

①事前学習課題：「マナー」と「プロトコル」について分かる範囲内で調べておくこと

②事後学習課題：秘書にとってのマナーとは何か、外人のお客様を迎える時の注意点をまとめておくこと

【第14回】

①事前学習課題：ホスピタリティとは何か調べておくこと

②事後学習課題：秘書業務におけるホスピタリティとは何かまとめておくこと

【第15回】

①事前学習課題：テキストや配布されたプリントを見直しておくこと

②事後学習課題：苦手意識のある箇所を再確認しておくこと

課題に対するフィードバックの方法

提出物、各講義の要約やフィードバックシートは、授業内で講評する

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する
正当な理由なく6回以上欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする

成績評価の種類

評価割合 (%)

評価方法・割合

評価対象となる到達目標

授業内での評価	80	授業の取り組み姿勢(10) フィードバックシート(70)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポートを通じて、グローバル社会や日本企業のしくみ、「秘書」としての基礎から専門にいたる知識、社会人としての常識や問題解決能力、人生における仕事の持つ意味や社会が求める人間像についてなど、どの程度修得できたかをレポートにより評価する	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	『企業と秘書』大窪久代 水原道子編著 高橋真知子 小西俊二郎他 / (株)樹村房 / 1900 ISBN978-4-88367-197-7		
------	---	--	--

参考書	秘書検定関連図書 その他、必要に応じて授業の中で紹介する。		
-----	----------------------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	「秘書士」「上級秘書士」「上級秘書士(メディカル秘書)」資格の必修科目である。		
---------------	---	--	--

授業コード	22021101	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	秘書実務 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	中原 亜紀美				
シラバス執筆(主)	中原 亜紀美				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

秘書業務を学び、役割や働き方を理解した上で専門的な知識や実践的な技能習得を目的としている。それらの知識をもとに技能を習得するための演習を繰り返し、社会組織のなかに適応し協働していくためのビジネスパーソンを育成する。

秘書業務の基本となる仕事の取り組み方を学んだ上で、円滑なビジネスコミュニケーションがとれるように言語表現（言葉遣い）や非言語表現を伴う接遇やマナー、電話応対などの知識や技能も身につける。単に知識の習得にとどまらず、応用動作を発揮してロールプレイをしていく。

また、秘書技能検定2級の対策も兼ねる。

授業の形態は、実技演習やグループワーク・ペアワーク等である。

到達目標

1. 秘書とは何かを把握し、説明できる
2. 秘書としての基本行動に必要な社会常識や倫理を理解した上で説明できる
3. 秘書業務の基本スキル（連絡・報告、仕事の進め方、接遇・マナー）を説明できる
4. ビジネスコミュニケーションの基本（来客・電話応対、聞き方・話し方）を実行できる

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：オリエンテーション
 内容・方法：半年間の講義内容、授業に対する姿勢、演習方法、成績算出方法などを説明する
- 【第2回】
 テーマ：企業とビジネス社会、仕事の進め方
 内容・方法：秘書としての心構えや仕事の計画の立て方・進め方、オフィスワークと企業倫理について説明する
- 【第3回】
 テーマ：秘書とコミュニケーション（1）
 内容・方法：社内における人間関係と秘書がとるべきコミュニケーション方法について説明する
- 【第4回】
 テーマ：秘書とコミュニケーション（2）
 内容・方法：話し方・聞き方について説明する
- 【第5回】
 テーマ：接遇表現と言葉づかい（1）
 内容・方法：ビジネスで必要となる言葉づかいの基本とさまざまな接遇表現について説明する
- 【第6回】
 テーマ：接遇表現と言葉づかい（2）
 内容・方法：敬語の基本を再確認し、ビジネスシーンで用いられる敬語表現について説明する
- 【第7回】
 テーマ：接遇表現と言葉づかい（3）
 内容・方法：ビジネスシーンでの誤用表現について説明する
- 【第8回】
 テーマ：電話応対（1）
 内容・方法：電話応対の基本マナーについて説明する
- 【第9回】
 テーマ：電話応対（2）
 内容・方法：電話のかけ方・受け方について説明する
- 【第10回】
 テーマ：電話応対（3）
 内容・方法：電話応対の際に伝言メモを書かなければならない場合の方法について電話応対例をもとに実践する
- 【第11回】
 テーマ：電話応対（4）
 内容・方法：事前に説明した電話応対の演習を実施する
- 【第12回】
 テーマ：電話応対テスト
 内容・方法：設定に基づいて電話応対テストを実施する
- 【第13回】
 テーマ：秘書の来客応対（受付、取り次ぎ、案内、見送り）
 内容・方法：社内における応対業務の種類と方法を説明する
- 【第14回】
 テーマ：秘書の来客応対（茶菓接待、紹介）
 内容・方法：応接室への入室から茶菓接待の方法などを実践する
- 【第15回】
 テーマ：振り返りとまとめ
 内容・方法：秘書として、ビジネスパーソンとして実社会に出た時、必要となることの総まとめをする

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
事前学習課題：この講義のシラバス内容を読んでおくこと
事後学習課題：自分の日常生活において時間の無駄はないか、時間の有効利用について考えること
- 【第2回】
事前学習課題：テキストのP. 11～24を読んでおくこと
事後学習課題：働く上での仕事の取り組み方、職場におけるルールやマナーについてまとめておくこと
- 【第3回】
事前学習課題：テキストのP. 25～32を読んでおくこと。第一印象の大切さをまとめておくこと
事後学習課題：職場における人間関係のマナーの重要性をまとめておくこと
- 【第4回】
事前学習課題：テキストのP. 33～36を読んでおくこと
事後学習課題：接遇における基本的な表現方法を復習して、何度も繰り返し覚えること
- 【第5回】
事前学習課題：テキストのP. 37～41を読んでおくこと
事後学習課題：敬語の基本を理解し、ビジネス場面で乱用されている誤用表現を復習すること
- 【第6回】
事前学習課題：テキストのP. 42～43を読んでおくこと
事後学習課題：ビジネス場面での表現を覚えておくこと
- 【第7回】
事前学習課題：テキストのP. 44～47を読んでおくこと
事後学習課題：ビジネス場面での表現を覚えておくこと
- 【第8回】
事前学習課題：テキストのP. 49～59を読んでおくこと
事後学習課題：電話対応の基本を復習すること
- 【第9回】
事前学習課題：テキストのP. 52～59を読んでおくこと
事後学習課題：電話のかけ方・受け方について復習すること
- 【第10回】
事前学習課題：テキストのP. 60～61を読んでおくこと
事後学習課題：電話対応の流れを復習すること
- 【第11回】
事前学習課題：テキストのP. 63を読んでおくこと
事後学習課題：授業内で指示した演習課題に取り組んでおくこと
- 【第12回】
事前学習課題：電話テストの設定を頭に入れておくこと
事後学習課題：電話テストの振り返りをまとめておくこと
- 【第13回】
事前学習課題：テキストのP. 66～79を読んでおくこと
事後学習課題：来客対応について復習しておくこと
- 【第14回】
事前学習課題：テキストのP. 66～79を読んでおくこと
事後学習課題：来客対応のマナーを再度復習して、実践できるようにすること
- 【第15回】
事前学習課題：これまでの学習内容の復習をし、不明な点をメモに書き留めておくこと
事後学習課題：これまでの学習内容を復習し、実践できるようにすること

課題に対するフィードバックの方法

小テストは採点後にフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下の評価割合に基づき総合的に評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく、5回を超えて授業を欠席した場合や定期試験を欠席した場合は、原則として「K」評価とする。
- ・授業への積極的参加（発言等）は加点する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	小テスト・演習テスト(30)、ワークシート(30)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	40	筆記試験	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト 『新・ビジネスとオフィスワーク』水原道子、平田祐子 他 / (株)樹村房
ISBN978-4-88367-335-3 (¥1,900 税別)

参考書	秘書検定関連図書、その他、授業の中で必要に応じて紹介する。
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none">● 演習中心に進めるので、積極的に取り組むことを必須条件とする。● 言葉づかいに関しては、「基礎演習 I（日本語表現）」を履修していることが望ましい。● 「秘書士」「上級秘書士」「上級秘書士(メディカル秘書)」資格取得の必修科目である。

授業コード	22021201	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	秘書実務Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	中原 亜紀美				
シラバス執筆(主)	中原 亜紀美				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

秘書業務を学び、その役割や働き方を理解した上で専門的な知識や実践的な技能を習得することを目的としている。それらの知識をもとに技能を習得するための演習を繰り返し、社会組織のなかに適応し協働していくためのビジネスパーソンを育てる。

秘書業務の基本となるビジネス文書作成、文書の取り扱い、慶弔業務などの知識や技能も身につけ、さらに組織での役割を理解し、応用動作を発揮して円滑なビジネスコミュニケーションがとれるようにしていく。単に知識の習得にとどまらず、実践活動につなげるためにビジネス文書作成やスケジュールリングの演習を行う。また、秘書技能検定2級の対策も兼ねる。

到達目標

1. 秘書業務に携わるための専門的な知識や実践的な技能を習得し、説明できる
2. 秘書業務に必要なビジネス文書が作成できる
3. 郵便の知識、文書の取り扱い、文書管理、ファイリングについて説明できる
4. スケジュールリングについて説明でき、スケジュール表を作成することができる
5. 慶弔業務について説明できる

授業計画

- 【第1回】テーマ：オリエンテーション
内容・方法：半年間の講義内容、秘書技能検定への取り組み方法、授業に対する姿勢、成績算出方法などを説明する
- 【第2回】テーマ：ビジネスにおける慶弔業務
内容・方法：ビジネス社会で必要となる冠婚葬祭の「慶事・弔事」について説明する
- 【第3回】テーマ：ビジネスにおける贈答のマナー
内容・方法：ビジネス社会で必要となる「贈答・見舞い」について説明する
- 【第4回】テーマ：秘書の文書業務
内容・方法：ビジネス文書の種類と基本ルール、文書事務について説明する
- 【第5回】テーマ：ビジネス文書の基礎知識
内容・方法：ビジネス文書の種類を説明し、社内文書や社外文書の基本的な知識と作成方法を概説する
- 【第6回】テーマ：ビジネス文書作成（書式と基本文例）
内容・方法：ビジネス文書の書式を説明し、特有の定型文についても概説する
- 【第7回】テーマ：ビジネス文書作成（社内）
内容・方法：ケースを提示して社内文書を作成し、作成したものを添削指導する
- 【第8回】テーマ：ビジネス文書作成（社外）
内容・方法：ケースを提示して社外文書を作成し、作成したものを添削指導する
- 【第9回】テーマ：通信業務
内容・方法：一般的な文書や秘密文書の取り扱い方法について説明する
- 【第10回】テーマ：文書管理とファイリング
内容・方法：ファイリングシステムやファイリングの種類や方法について説明する
- 【第11回】テーマ：スケジュールリング
内容・方法：秘書に最も求められるスケジュール管理について種類や方法を説明する
- 【第12回】テーマ：出張業務
内容・方法：上司が出張する際に秘書が行う業務、或いは出張中に秘書に求められる業務について概説する
- 【第13回】テーマ：会議のコーディネーター
内容・方法：会議の種類や運営、会議を開催するまでの流れについて説明する
- 【第14回】テーマ：オフィスの環境整備
内容・方法：ビジネスパーソンが快適に働くためのオフィス環境について概説する
- 【第15回】テーマ：振り返りと総まとめ
内容・方法：秘書として、ビジネスパーソンとして実社会に出た時に必要となることの振り返りをする

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
- ①事前学習課題：前期の「秘書実務Ⅰ」で学んだ「秘書の役割と仕事」と、シラバスを読んで内容を理解しておくこと
 - ②事後学習課題：前期の「秘書実務Ⅰ」で学んだ内容の復習をしておくこと
- 【第2回】
- ①テキストのP. 121～127を読んでくること
 - ②賀寿の種類や「表書き」を漢字で書けるように復習すること
- 【第3回】
- ①テキストのP. 128～138を読んでくること

②「贈答・見舞い」の注意点をまとめておくこと

【第4回】

①テキストのP.97～104を読んでくること

②文書作成の基本ルールをまとめておくこと

【第5回】

①事前学習課題：前期の「秘書実務Ⅰ」で学んだ、ビジネス文書の種類と基本ルール、文書事務について（テキストP.97～105）復習をしてくること

②事後学習課題：社内文書と社外文書の種類を整理し、各事項の意味合いも確認しておくこと

【第6回】

①事前学習課題：ビジネス文書と私文書の表現の相違点を（テキストP.97～105）考えてくること

②事後学習課題：社内文書と社外文書の書式を理解して、次週には書けるように覚えておくこと

【第7回】

①事前学習課題：社内文書について（テキストP.98～99）理解してくること

②事後学習課題：添削後の間違っ箇所を確認しておくこと

【第8回】

①事前学習課題：社外文書について（テキストP.100～104）理解してくること

②事後学習課題：添削後の間違っ箇所を確認しておくこと

【第9回】

①事前学習課題：文書・郵便物の取り扱い（テキストのP.106～108）を熟読してくること

②事後学習課題：秘密文書の取り扱い方法をまとめておくこと

【第10回】

①事前学習課題：ファイリング（テキストP.114～120）を熟読してくること

②事後学習課題：履修中の講義資料等を習ったファイリングに従って、整理してみる

【第11回】

①事前学習課題：スケジューリング（テキストP.149～153）を熟読してくること

②事後学習課題：スケジュール管理のポイントをまとめておくこと

【第12回】

①事前学習課題：出張業務（テキストP.154～160）を熟読してくること

②事後学習課題：自分自身が出張すると仮定して、どのようなことをチェックするべきか書き上げておくこと

【第13回】

①事前学習課題：会議（テキストP.140～144）を熟読してくること

②事後学習課題：重要語句をまとめて覚えておくこと

【第14回】

①事前学習課題：日常生活において、不快感を感じることを列挙しておき、環境整備（テキストP.145～148）を熟読してくること

②事後学習課題：ビジネス現場において、必要な環境整備をまとめておくこと

【第15回】

①事前学習課題：テキスト、配布資料を見直してくること

②事後学習課題：間違っ箇所を確認しておくこと

課題に対するフィードバックの方法

小テストは採点后、返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下の評価割合に基づき総合的に評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく、5回を超えて授業を欠席した場合や定期試験を欠席した場合は、原則として「K」評価とする。
- ・授業への積極的参加（発言等）は加点する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	小テスト(30)、ワークシート・課題(30)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	40	筆記試験	1, 2, 3, 4, 5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『新・ビジネスとオフィスワーク』 水原道子、平田祐子他 / (株)樹村房 ISBN978-4-88367-335-3 (¥1,900 税別)
------	---

参考書	テキスト：「秘書実務Ⅰ」と同じテキスト 参考書：秘書検定関連図書 必要に応じて授業の中で紹介する
-----	--

履修条件・他の科目との関連	●演習を中心に進める ●積極的に取り組むことを必須条件とする ●「秘書実務Ⅰ」を履修済みであることが望ましい ●「上級秘書士」「上級秘書士(メディカル秘書)」資格取得の必修科目である
---------------	--

授業コード	22021202	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	秘書実務Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	三次 亜紀子				
シラバス執筆(主)	三次 亜紀子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

秘書業務を学び、その役割や働き方を理解した上で専門的な知識や実践的な技能を習得することを目的としている。それらの知識をもとに技能を習得するための演習を繰り返し、社会組織のなかに適応し協働していくためのビジネスパーソンを育てる。
 秘書業務の基本となるビジネス文書作成、文書の取り扱い、慶弔業務などの知識や技能も身につけ、さらに組織での役割を理解し、応用動作を発揮して円滑なビジネスコミュニケーションがとれるようにしていく。単に知識の習得にとどまらず、実践活動につなげるためにビジネス文書作成やスケジュールリングの演習を行う。
 また、秘書技能検定2級の対策も兼ねる。

到達目標

1. 秘書業務に携わるための専門的な知識や実践的な技能を習得し、説明できる
2. 秘書業務に必要なビジネス文書が作成できる
3. 郵便の知識、文書の取り扱い、文書管理、ファイリングについて説明できる
4. スケジュールリングについて説明でき、スケジュール表を作成することができる
5. 慶弔業務について説明できる

授業計画

- 【第1回】テーマ：オリエンテーション
 内容・方法：半年間の講義内容、秘書技能検定への取り組み方法、授業に対する姿勢、成績算出方法などを説明する
- 【第2回】テーマ：ビジネスにおける慶弔業務
 内容・方法：ビジネス社会で必要となる冠婚葬祭の「慶事・弔事」について説明する
- 【第3回】テーマ：ビジネスにおける贈答のマナー
 内容・方法：ビジネス社会で必要となる「贈答・見舞い」について説明する
- 【第4回】テーマ：秘書の文書業務
 内容・方法：ビジネス文書の種類と基本ルール、文書事務について説明する
- 【第5回】テーマ：ビジネス文書の基礎知識
 内容・方法：ビジネス文書の種類を説明し、社内文書や社外文書の基本的な知識と作成方法を概説する
- 【第6回】テーマ：ビジネス文書作成（書式と基本文例）
 内容・方法：ビジネス文書の書式を説明し、特有の定型文についても概説する
- 【第7回】テーマ：ビジネス文書作成（社内）
 内容・方法：ケースを提示して社内文書を作成し、作成したものを添削指導する
- 【第8回】テーマ：ビジネス文書作成（社外）
 内容・方法：ケースを提示して社外文書を作成し、作成したものを添削指導する
- 【第9回】テーマ：通信業務
 内容・方法：一般的な文書や秘密文書の取り扱い方法について説明する
- 【第10回】テーマ：文書管理とファイリング
 内容・方法：ファイリングシステムやファイリングの種類や方法について説明する
- 【第11回】テーマ：スケジュールリング
 内容・方法：秘書に最も求められるスケジュール管理について種類や方法を説明する
- 【第12回】テーマ：出張業務
 内容・方法：上司が出張する際に秘書が行う業務、或いは出張中に秘書に求められる業務について概説する
- 【第13回】テーマ：会議のコーディネーター
 内容・方法：会議の種類や運営、会議を開催するまでの流れについて説明する
- 【第14回】テーマ：オフィスの環境整備
 内容・方法：ビジネスパーソンが快適に働くためのオフィス環境について概説する
- 【第15回】テーマ：振り返りと総まとめ
 内容・方法：秘書として、ビジネスパーソンとして実社会に出た時に必要となることの振り返りをする

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
 ①事前学習課題：前期の「秘書実務Ⅰ」で学んだ「秘書の役割と仕事」と、シラバスを読んで内容を理解しておくこと
 ②事後学習課題：前期の「秘書実務Ⅰ」で学んだ内容の復習をしておくこと
- 【第2回】
 ①テキストのP. 121～127を読んでくること
 ②賀寿の種類や「表書き」を漢字で書けるように復習すること
- 【第3回】
 ①テキストのP. 128～138を読んでくること

②「贈答・見舞い」の注意点をまとめておくこと

【第4回】

①テキストのP.97～104を読んでくること

②文書作成の基本ルールをまとめておくこと

【第5回】

①事前学習課題：前期の「秘書実務Ⅰ」で学んだ、ビジネス文書の種類と基本ルール、文書事務について（テキストP.97～105）復習をしてくること

②事後学習課題：社内文書と社外文書の種類を整理し、各事項の意味合いも確認しておくこと

【第6回】

①事前学習課題：ビジネス文書と私文書の表現の相違点を（テキストP.97～105）考えてくること

②事後学習課題：社内文書と社外文書の書式を理解して、次週には書けるように覚えておくこと

【第7回】

①事前学習課題：社内文書について（テキストP.98～99）理解してくること

②事後学習課題：添削後の間違っ箇所を確認しておくこと

【第8回】

①事前学習課題：社外文書について（テキストP.100～104）理解してくること

②事後学習課題：添削後の間違っ箇所を確認しておくこと

【第9回】

①事前学習課題：文書・郵便物の取り扱い（テキストのP.106～108）を熟読してくること

②事後学習課題：秘密文書の取り扱い方法をまとめておくこと

【第10回】

①事前学習課題：ファイリング（テキストP.114～120）を熟読してくること

②事後学習課題：履修中の講義資料等を習ったファイリングに従って、整理してみる

【第11回】

①事前学習課題：スケジューリング（テキストP.149～153）を熟読してくる

②事後学習課題：スケジュール管理のポイントをまとめておくこと

【第12回】

①事前学習課題：出張業務（テキストP.154～160）を熟読してくる

②事後学習課題：自分自身が出張すると仮定して、どのようなことをチェックするべきか書き上げておく

【第13回】

①事前学習課題：会議（テキストP.140～144）を熟読してくる

②事後学習課題：重要語句をまとめて覚えておく

【第14回】

①事前学習課題：日常生活において、不快感を感じることを列挙しておき、環境整備（テキストP.145～148）を熟読してくる

②事後学習課題：ビジネス現場において、必要な環境整備をまとめておく

【第15回】

①事前学習課題：テキスト、配布資料を見直してくる

②事後学習課題：間違っ箇所を確認しておく

課題に対するフィードバックの方法

小テストは採点后、返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下の評価割合に基づき総合的に評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく、5回を超えて授業を欠席した場合や定期試験を欠席した場合は、原則として「K」評価とする。
- ・授業への積極的参加（発言等）は加点する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	小テスト(30)、ワークシート・課題(30)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	40	筆記試験	1, 2, 3, 4, 5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『新・ビジネスとオフィスワーク』 水原道子、平田祐子他 / (株)樹村房 ISBN978-4-88367-335-3 (¥1,900 税別)
------	---

参考書	テキスト：「秘書実務Ⅰ」と同じテキスト 参考書：秘書検定関連図書 必要に応じて授業の中で紹介する
-----	--

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ●演習を中心に進める ●積極的に取り組むことを必須条件とする ●「秘書実務Ⅰ」を履修済みであることが望ましい ●「上級秘書士」「上級秘書士(メディカル秘書)」資格取得の必修科目である
---------------	--

授業コード	22014402	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	自己開発演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	木下 佳代子				
シラバス執筆(主)	木下 佳代子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本演習は、自分の良さや強みを発見し、人間関係構築のための基盤となる知識と技術を修得すること目的とする。個人ワーク、ペアワーク及びグループワークの形式の演習を行う。テーマとして「自分自身」、「対人関係の中の自分」、「集団の中の自分」などを取り上げる。ペアワークやグループワークにおいては演技をする、意見を述べる、相談する、発表するなどの形態を伴うが、積極的に参加することで自分の良さ、他の人の良さ及び自分の強みを見つけることができるように実施する。様々なワークによって得た自己分析結果やコミュニケーション能力は生活場面でも活用できるように振り返りを行う。

到達目標

1. 自分および他者の良さ、強みを伝えることができる。
2. 人間関係構築のための基礎となる知識と技術を用いて、生活場面で活用できる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション：授業内容の説明と授業の進め方、評価方法について
- 【第2回】 人としての私の成長（1）：自己好感度について
- 【第3回】 人としての私の成長（2）：自分の性格について
- 【第4回】 人としての私の成長（3）：自我同一性について
- 【第5回】 人としての私の成長（4）：気分について
- 【第6回】 対人関係（1）：自己主張について
- 【第7回】 対人関係（2）：対人恐怖について
- 【第8回】 対人関係（3）：完全主義について
- 【第9回】 対人関係（4）：共感について
- 【第10回】 対人関係（5）：抑鬱について
- 【第11回】 集団の中の私（1）：友人関係について
- 【第12回】 集団の中の私（2）：コーピングについて
- 【第13回】 集団の中の私（3）：ソーシャルスキルについて
- 【第14回】 集団の中の私（4）：人との関わり方について
- 【第15回】 まとめ：第1回目から第14回までの振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】の前はシラバスを読んでおく。また自身の長所や短所について考えておく。
- 【第2回】～【第14回】前回の授業で経験した個人ワークにおける自己分析、ペアワークやグループワークにおける対人関係の見方・考え方、技術について、実生活に適用することが事後学習である。したがって事後学習を中心に毎回4時間相当以上の学習を要する。
- 【第15回】自分の良さや強みについて説明を試みる。また、ポジティブになるための考え方を整理する。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業内課題について次の授業内で講評・解説する。レポートは、評価基準表に基づく評価結果をフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格点とし、所定の単位を認定する。正当な理由がなく欠席が5回を超えた場合は「K」評価となる。正当な理由がなく「定期試験に代わるレポート」を指定した期限までに提出しなかった場合は「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	85	毎回の授業内で課される課題(計15回)(各5×15) 授業内でのペアやグループ活動への貢献度(10)	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	レポート(15)	1, 2

その他	0		
テキスト	資料を配布する。		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	欠席した場合、配布資料を木下研究室まで取りに来ること。その後、自主学習に努めること。		

授業コード	22026001	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	人間関係 [対面]				
シラバス執筆(全員)	大塚 穂波				
シラバス執筆(主)	大塚 穂波				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

私たちは日々他者とさまざまなレベルで関わり合いながら生活している。この講義では、人と人がどのようにつながり、関係を築いているのかについて理解を深めることを目的とし、人間関係の形成プロセスについて主に発達心理学、社会心理学の視点から概説する。

到達目標

1. 人間関係の発達や関連要因について、基本的事項を説明することができる
2. 他者とよりよい関係を築く方法について、多様な視点から考え文章化することができる

授業計画

- 第1回 イン트로ダクション：他者とのかわり
- 第2回 人とかわる自己
- 第3回 構成的グループエンカウンターと自己開示、他者評価
- 第4回 人間関係の展開
- 第5回 言語的・非言語的コミュニケーション
- 第6回 オンラインコミュニケーション
- 第7回 好意と嫌悪
- 第8回 人間関係と恋愛
- 第9回 援助行動と傍観者効果
- 第10回 支配と服従、説得
- 第11回 権威への抵抗
- 第12回 攻撃と対立
- 第13回 囚人のジレンマ
- 第14回 集団と群集心理
- 第15回 まとめと振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

予習としてシラバスを読んで毎回の授業テーマを確認し、自分の関心を整理しておくこと。授業後は配布資料・ノートをもとに授業内容を復習し、疑問点等を整理すること。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーは次回の授業内で紹介する。
課題・試験の結果については希望者に対して開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格として所定の単位を認定する。正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	リアクションペーパー(30)演習課題の達成度(50)	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	全授業終了後に実施するレポート	2
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず資料を配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	欠席した回の資料はGoogle Classroomよりダウンロードし、自習すること。

授業コード	22030201	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	メディカル秘書概論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	中原 亜紀美				
シラバス執筆(主)	中原 亜紀美				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

現代の医療は、高度化・専門化・複雑化が進み、量から質への転換が迫られている。その中で、医療機関における理事長、病院長などの病院経営者や各診療部門の管理者、医局の医師などが本来の業務に専念できるように補佐する医療秘書の果たす役割の重要性が高く認識されてきている。この授業では、医療機関の組織や医療秘書とは何かという基本から、医療秘書の職能や必要な知識・技能は何か、医療秘書としての患者や協働しているスタッフとのコミュニケーションについて概説する。また、医師のサポート役として注目されている医師事務作業補助者についても説明する。

到達目標

1. 医療機関の組織について理解し、説明することができる。
2. 医療秘書とは何かについて具体的に説明することができる。
3. 医師事務作業補助者とは何かについて説明することができる。
4. 医療秘書、医師事務作業補助者、医療事務の違いについて説明することができる。

授業計画

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 医療機関とは
(Hospitalの語源、病院と診療所の違い、医療機関の分類) |
| 第2回 | 医療機関の経営と管理
(病院の組織、医療機関の経営要素、チーム医療) |
| 第3回 | 秘書の定義と歴史
(秘書とは何か、秘書の定義、秘書の歴史の変遷) |
| 第4回 | 秘書の形態
(所属による分類、機能による分類、専門分野による分類) |
| 第5回 | 医療秘書の歴史
(医療秘書の誕生を知る) |
| 第6回 | 医療秘書の役割と機能
(医療秘書の定義について考える) |
| 第7回 | 医療秘書の形態
(個人つきの医療秘書、部門つきの医療秘書、兼務型の医療秘書) |
| 第8回 | 医療秘書の業務
(大学病院の教授につく場合、医療機関の経営者につく場合、医師につく場合) |
| 第9回 | 医療秘書に求められる資質と能力
(医療秘書職に求められる資質、能力、スキルについて考える) |
| 第10回 | 医療秘書の現状と新たなニーズへの対応
(医師事務作業補助体制加算の新設の背景と現状) |
| 第11回 | 医師事務作業補助者の役割と機能
(医師事務作業補助者の定義について概説する) |
| 第12回 | 医師事務作業補助者の業務
(医師事務作業補助者の業務内容について概説する) |
| 第13回 | 医療秘書と医師事務作業補助者
(医療秘書と医師事務作業補助者、医療事務の違いについて考える) |
| 第14回 | 医療秘書職の呼称、コミュニケーション
(医療秘書と医師事務作業補助者の呼称、医療秘書職に求められるコミュニケーション力) |
| 第15回 | 総括、まとめ |

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前学習】

授業時に指示があった場合、事前に課題について考え、まとめてくること。

【事後学習】

毎回の授業内容をレポートにまとめて提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

授業レポートは、適宜コメントをつけて返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下の評価割合に基づき総合的に評価の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく、5回を超えて授業を欠席した場合や定期試験を欠席した場合は、原則として「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	45	ワークシート(20)、受講レポート(25)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	40	筆記試験	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	15	授業に関する質問・発言や取り組み姿勢	1, 2, 3

テキスト	テキストは使用せず、授業内で資料を提示する
参考書	『現代医療秘書 役割と実務』 中村健壽監修 西文社
履修条件・他の科目との関連	「上級秘書士(メディカル)」資格を取得希望の学生は必ず履修すること。

授業コード	22030302	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	メディカル秘書実務 [対面]				
シラバス執筆(全員)	中原 亜紀美				
シラバス執筆(主)	中原 亜紀美				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

現代の医療は、高度化・専門化・複雑化が進み、量から質への転換が迫られている。その中で、医療機関における理事長、病院長などの病院経営者や各診療部門の管理者、医局の医師などが本来の業務に専念できるように補佐する医療秘書の果たす役割の重要性が高く認識されてきている。この授業では、医療秘書が業務を遂行し、達成するために必要な接遇、電話対応などの知識やスキルについて概説し、演習課題を行う。

到達目標

1. 医療秘書としての職場でのマナー、心構えについて説明することができる。
2. 医療機関での接遇の基本を理解し、上司や患者、見舞い客などへの対応ができる。
3. 演習の設定に応じて、「正確に」、「早く」、「美しく」医療秘書業務（演習問題）をこなすことができる。

授業計画

- | | |
|------|---|
| 第1回 | 医療秘書における職場でのマナーと心構え
(あいさつ、言葉遣い、敬語、求められる資質とスキル) |
| 第2回 | 患者対応の心構え①
(外来受付窓口) |
| 第3回 | 患者対応のケーススタディ①
(外来受付窓口) |
| 第4回 | 患者対応の心構え②
(入退院受付・病棟) |
| 第5回 | 患者対応のケーススタディ②
(入退院受付・病棟) |
| 第6回 | いろいろな接遇
(子ども、高齢者、障がい者、外国人への接遇ポイント) |
| 第7回 | 接遇演習
(子ども、高齢者、障がい者、外国人への接遇演習) |
| 第8回 | クレーム対応
(クレーム時の対応ポイントとケーススタディ) |
| 第9回 | 電話対応
(電話対応の基本、電話のかけ方、電話の受け方、メモの取り方) |
| 第10回 | 電話対応演習①
(患者への電話、患者の家族からの電話) |
| 第11回 | 電話対応演習②
(外部業者からの電話、医師の家族からの電話) |
| 第12回 | 電話対応演習③
(クレーム対応) |
| 第13回 | 電話テスト
(設定に応じた電話対応ができるかどうかのテストを実施) |
| 第14回 | 総合演習
(設定に応じた医療秘書業務) |
| 第15回 | 振り返り・まとめ
(電話テストと総合演習の振り返り) |

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【事前学習】
各回の指示に従って課題等に取り組む。
- 【事後学習】
授業で学んだ範囲について復習し、授業時に課される課題に取り組む。
授業で学んだ内容をまとめておく。

課題に対するフィードバックの方法

演習課題・電話テストについて、授業内で講評を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下の評価割合に基づき総合的に評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく、5回を超えて授業を欠席した場合や定期試験を欠席した場合は、原則として「K」評価とす

る。
 ・授業への積極的参加（発言等）は加点する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	演習課題(40)、電話テスト(20)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	40	筆記試験	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト テキストは使用せず、授業内で資料を提示する。

参考書 『現代医療秘書 役割と実務』 中村健壽監修 西文社

履修条件・他の科目との関連
 ＊「上級秘書士(メディカル)」資格を取得希望の学生は必ず履修すること。
 ＊ 進行によっては、授業計画の順序が変更することがある。

授業コード	22041901	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	情報処理のしくみ [対面]				
シラバス執筆(全員)	朝野 美穂				
シラバス執筆(主)	朝野 美穂				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

現在の情報社会において、情報は大きな価値を持ち、これらはコンピューターを用いた情報システムにより管理・運用されている。情報システムとは、社会や企業等の活動に必要な情報の利活用に関わるしくみである。情報社会を生きる者にとって、情報を理解しコンピューターを適切に使いこなす能力は不可欠といえよう。この授業では、情報社会とコンピューターの関わり、数値・文字・画像などのデータ表現、コンピューターのハードウェアとソフトウェアの構成とその動作原理、情報ネットワークのしくみ、セキュリティ等について解説する。

到達目標

1. 情報社会とコンピューターの関わりについて説明できる。
2. データの表現について説明できる。
3. コンピューターのハードウェアとソフトウェアの構成とその動作原理を説明できる。
4. 情報ネットワークのしくみとセキュリティについて説明できる。
5. 上記の知識を用いて、身の回りにある情報機器等のしくみを概説することができる。

授業計画

- 第1回 コンピューターとは(授業の進め方、受講ルール、情報処理とコンピューター等)
- 第2回 データ表現(1)(アナログとデジタル、ビットとバイト、数値の表現等)
- 第3回 データ表現(2)(文字の表現、画像と動画の表現等)
- 第4回 データ表現(3)(音の表現、データの圧縮等)
- 第5回 ハードウェアの構成(1)(コンピューター機器の構成、制御装置・演算装置等)
- 第6回 ハードウェアの構成(2)(記憶装置、入出力装置等)
- 第7回 ソフトウェアの構成(1)(ソフトウェアの概要、オペレーティングシステム(1)等)
- 第8回 ソフトウェアの構成(2)(オペレーティングシステム(2)、アプリケーションソフトウェア等)
- 第9回 アルゴリズムとプログラム(1)(アルゴリズムと流れ図、基本的な制御構造、データ構造等)
- 第10回 アルゴリズムとプログラム(2)(代表的アルゴリズム、プログラミング言語、ソフトウェア開発等)
- 第11回 ソフトウェアの応用(1)(データベース、コンピューターグラフィックス等)
- 第12回 ソフトウェアの応用(2)(人工知能とソフトコンピューティング等)
- 第13回 通信のしくみ(ネットワークの構成、通信プロトコル、インターネットのしくみ等)
- 第14回 インターネットの利用(インターネットへの接続方法とサービス、セキュリティ対策等)
- 第15回 学習のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- ・事前には、各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと。
- ・事後には、学んだ重要キーワード及びその周辺事項について、インターネットを用いて調査すること。
- ・各回につき2時間以上の事前学習および2時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で実施した小テスト等の解答・解説を行う。これにより自己採点と復習を可能とする。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。
- ・正当な理由なく定期試験を欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	各回で小テスト・課題等を課し、その得点で評価する。	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	50	全授業終了後に実施される定期試験	1, 2, 3, 4, 5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	・コンピューターと情報システム、福田真規夫 監修、日本理工出版会、2,500円(税別)、ISBN978-4-89019-528-2 ・資料を必要に応じて配付する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	・本科目履修後、「情報社会のしくみ」を履修することが望ましい。 ・欠席した場合は、その回の学習内容・課題等をGoogle Classroomで確認する、担当教員に聞くなどの方法で自習しておくこと。

授業コード	22021901	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	表現力開発 [対面]				
シラバス執筆(全員)	三次 亜紀子				
シラバス執筆(主)	三次 亜紀子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

対人コミュニケーションのしくみを概説した後、コミュニケーションサイクルの要素に従って言語表現、非言語表現の違いを認識した上で、講義と演習を織り交ぜた授業形式のもとでペアワークやグループワークを行いながら自己表現の手法を体得していくことを目的としている。
自らの意思（意見や思い）を的確に表現して、相手に分かりやすく話す表現能力を身につけるため、就職活動にも役立てることができる。また、最適な人間関係を保っていくための言語表現や相手を納得させられるような表現方法についても説明する。

到達目標

1. コミュニケーションのしくみやコミュニケーション・サイクルが説明できる
2. 相手の話をしっかりと聞き、留意するポイントを説明できる
3. 自らの考えをまとめることができ、聞き手に分かりやすく話すことができる
4. 自らの意見を明確に表現でき、相手が納得するような話し方が実行できる
5. 良好な人間関係を築くための表現方法を理解し、実行できる

授業計画

- 【第1回】
テーマ：オリエンテーション
内容・方法：講義の内容、自己表現力向上のための取り組み方法、受講姿勢、成績算出方法などを説明する
- 【第2回】
テーマ：コミュニケーションの要素について
内容・方法：コミュニケーションのプロセスとサイクルについて概説し、グループワークに取り組む
- 【第3回】
テーマ：メタメッセージを意識する（非言語コミュニケーションについて）
内容・方法：ノン・バーバル・コミュニケーションの種類や効果を述べ、重要性を説明し、グループワークに取り組む
- 【第4回】
テーマ：傾聴・観察のスキル
内容・方法：対人コミュニケーションにおけるインプット・スキルの「傾聴・観察」について説明し、グループディスカッションに取り組む
- 【第5回】
テーマ：反射・言い換えのスキル
内容・方法：対人コミュニケーションにおけるインプット・スキルの「反射・言い換え」について説明し、グループワークに取り組む
- 【第6回】
テーマ：共感のスキル
内容・方法：対人コミュニケーションにおけるインプット・スキルの「共感」について説明し、ペアワークに取り組む
- 【第7回】
テーマ：質問・確認のスキル
内容・方法：対人コミュニケーションにおけるアウトプット・スキルの「質問・確認」について説明し、ペアワークに取り組む
- 【第8回】
テーマ：熟考・関連づけ・優先づけのスキル
内容・方法：対人コミュニケーションにおけるアウトプット・スキルの「熟考・関連づけ・優先づけ」について説明し、グループワークに取り組む
- 【第9回】
テーマ：ビジネスコミュニケーションについて
内容・方法：ビジネスの場で求められるコミュニケーションについて説明し、グループワークに取り組む
- 【第10回】
テーマ：ディベートの定義
内容・方法：コミュニケーション手法のひとつであるディベートの方法と期待できる効果について説明し、即興ディベートに取り組む
- 【第11回】
テーマ：わかりやすい伝達方法（報告・連絡・説明のスキル）
内容・方法：対人コミュニケーションにおけるアウトプット・スキルの「報告・連絡・説明」のわかりやすい伝達方法について説明し、グループワークに取り組む
- 【第12回】
テーマ：パーソナルブランディング
内容・方法：就職活動や自己肯定感の向上にも役立つ、自身の強みを見つけるワークを実践し、グループにてシェアする
- 【第13回】

テーマ：好感度の高い話し方の練習

内容・方法：学生生活のみならず、就職活動や社会人生活にも役立つ、人前での好感度の高い話し方について説明し、最終プレゼンテーションに向けてグループにて実践する

【第14回】

テーマ：最終プレゼンテーション（スピーチ）の実践 ①

内容・方法：発表者はプレゼンテーション（スピーチ）を実践し、傍観者は与えられたシートに所感を記載する

【第15回】

テーマ：ト最終プレゼンテーション（スピーチ）の実践 ②

内容・方法：発表者はプレゼンテーション（スピーチ）を実践し、傍観者は与えられたシートに所感を記載する

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回、事前学習1.5時間、事後学習2.5時間、合わせて4時間以上の学習を必要とする。

【第1回】

①事前学習課題：本講義のシラバス内容を読んでおくこと

②事後学習課題：なぜコミュニケーション・スキルを身につけるべきなのかを考えてくること

【第2回】

①事前学習課題：テキストのP. 8、9のシーン1・2に関する所感をまとめてくること

②事後学習課題：テキストのP. 13【ワーク2】コミュニケーションにおいて大切なことをまとめること

【第3回】

①事前学習課題：テキストのP. 14、15のシーン1・2に関する所感をまとめてくること

②事後学習課題：ハンドミラーや姿見に自身の容姿を映し出し、非言語表現の効果を再確認すること
テキストのP. 19【ワーク2】コミュニケーションを成功させるためにどのようなことを心掛ければよいかをまとめること

【第4回】

①事前学習課題：テキストのP. 30、31のシーン1・2に関する所感をまとめてくること

②事後学習課題：テキストのP. 37【ワーク2】傾聴・観察・共感についてそれぞれのスキルの概略や注意点をまとめること

【第5回】

①事前学習課題：他者とコミュニケーションをとる際に、どのようなことに気をつけているかをまとめてくること

②事後学習課題：「うなづき・相づち」「リピート・言い換え」「ペーシングミラーリング」について復習しておくこと

【第6回】

①事前学習課題：「同情」と「共感」の相違点を考えてくること

②事後学習課題：テキストのP. 39【振り返りシート】共感ワークを実践した際の①話し手②聞き手③観察者の役割について感じたことをまとめること

【第7回】

①事前学習課題：テキストのP. 42、43のシーン1・2に関する所感をまとめてくること

②事後学習課題：「閉じた質問」「開いた質問」の違いを復習しておくこと

【第8回】

①事前学習課題：テキストのP. 50、51のシーン1・2に関する所感をまとめてくること

②事後学習課題：テキストのP. 56【ワーク3】熟考・関連付け・優先順位付けの重要性についてまとめること

【第9回】

①事前学習課題：学生のコミュニケーションとビジネスコミュニケーションの違いを考えてくること

②事後学習課題：ビジネスコミュニケーションの表現を復習しておくこと

【第10回】

①事前学習課題：傾聴・共感・質問など、今までの授業を振り返っておくこと

②事後学習課題：どのような表現がディベートには効果的かをまとめること

【第11回】

①事前学習課題：テキストのP. 58、59のシーン1・2に関する所感をまとめてくること

②事後学習課題：「報告・連絡」の手順や、分かりやすい話し方について復習すること

【第12回】

①事前学習課題：自身の強みについて考え、周りの人にインタビューすること

②事後学習課題：与えられたテーマについて考え、プレゼンテーションの原稿を作成すること

【第13回】

①事前学習課題：テキストのP. 72、73のシーン1・2に関する所感をまとめてくること

②事後学習課題：PREP法など人に伝える表現方法について復習し、アイコンタクトの練習など、プレゼンテーションの準備をすること

【第14回】

①事前学習課題：PREP法など人に伝える表現方法について復習し、アイコンタクトの練習など、プレゼンテーションの準備をすること

②事後学習課題：発表者は自身のプレゼンテーションについて振り返ること、未発表者はプレゼンテーションの準備をすること

【第15回】

①事前学習課題：PREP法など人に伝える表現方法について復習し、アイコンタクトの練習など、プレゼンテーションの準備をすること

②事後学習課題：発表者は自身のプレゼンテーションについて振り返ること、定期試験に代わるレポート課題に取り組むこと

課題に対するフィードバックの方法

各回のワークへの取り組みを、授業内でフィードバックする。

各回の振り返りレポートを、次回授業にてフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 なお、正当な理由なく欠席数が5回を超えた場合（出席数が10回未満の場合）は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	①ペアワークやグループワークへの取り組み姿勢、毎時間の発言点を加算していく(15%) ②各回振り返りレポート(25%) ③テキスト提出(10%) ④第14回 or 第15回 授業内プレゼンテーション(20%)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	10	プレゼンテーション原稿提出	1, 2, 3, 4, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	(当該授業終講後)レポート提出(Google classroomにて出題)	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	『ワークで学ぶコミュニケーション・スキル』中村健壽、平田祐子 他 / (株) 西文社/1500/ ISBN978-4-904540-21-3
------	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	毎時間、演習形式を取り入れるため、演習への取り組み姿勢や毎回の発言や発表を重視する。
---------------	--

授業コード	22006001	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	ホスピタリティ [対面]				
シラバス執筆(全員)	阪口 葉子				
シラバス執筆(主)	阪口 葉子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

客室乗務員・グランドスタッフ・航空会社支店長の経験と、現在は、本学が産学連携協定を結んでいる新規航空会社の会長をしており、ホスピタリティについても多くの講演を行っている。これらの経験をもとに、実務家教員として、将来航空関連の仕事に就きたい学生は勿論のこと、どの業種の仕事に就いても役立つ授業を展開する。ホスピタリティ文化の起源と語源、サービスとホスピタリティの違いを概説する。また歴史上の人物である千利休と松下幸之助のホスピタリティ精神を紹介する。広義な意味でのホスピタリティ産業に分類される運輸業、宿泊業、旅行業や外食産業などでのホスピタリティについて概説し、学生の経験談も聞きたい。

到達目標

1. ホスピタリティについて説明できる。
2. ホスピタリティとサービスの違いを説明できる。
3. ホスピタリティの実践について具体的に説明できる。

授業計画

【第1回】ホスピタリティ文化の起源と語源
ホスピタリティの概念となる言葉の起源と語源について概説する。

【第2回】留学生が感じる日本・大阪のホスピタリティ
本学留学生に聞いてみた生の声の蓄積を紹介する

【第3回】サービスとホスピタリティ
サービスとホスピタリティの概念の違いを説明する

【第4回】千利休と、松下幸之助から学ぶホスピタリティ
千利休七則と、松下幸之助の考え方を紹介する。

【第5回】ホスピタリティの基本
マナー、身だしなみ、第一印象、挨拶、笑顔など、当たり前なことが基本であることを認識する。

【第6回】心くばり
コミュニケーション力、機転を利かす力、先読みする力などを養う。

【第7回】心くばり
お客様がしてほしいことを真剣に考え、要望を超えたサービスや予想を上回るサービスが感動につながることを認識する。

【第8回】航空運輸業におけるホスピタリティ
大勢のお客様に短時間でおもてなしの心を表す客室乗務員やグランドスタッフは、どのように対応しているのかを紹介し議論する。

【第9回】宿泊業であるホテル・旅館のホスピタリティ
宿泊業におけるホスピタリティの実例を紹介し議論する。

【第10回】交通運輸業におけるホスピタリティ
交通運輸業におけるホスピタリティの実例を紹介し議論する。

【第11回】旅行業である旅行代理店のホスピタリティ
旅行業のホスピタリティの実例を紹介し、議論する。

【第12回】外食産業でのホスピタリティ
外食産業におけるホスピタリティの実例を紹介し議論する。

【第13回】ホスピタリティのためのケーススタディ
実例の紹介を通して、自分が考えるホスピタリティについて発表する。

【第14回】ホスピタリティを形成する要素
人的なもの以外でも、ホスピタリティを形成する要素となっている。美しい景色、清潔さ、Wi-Fiなどの普及、テクノロジーの発達についても概説する。

【第15回】ホスピタリティ全般
まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。
授業時間（1回につき2時間として計算）と事前・事後学習を含めて90時間の学習が必要である。15週の授業時間で確保される30時間に加えて、事前・事後の学習として60時間が必要であるため、毎回事前・事後をあわせて4時間の学習が必要である。
【事前】各回の授業テーマに関連する内容について、インターネットなどであらかじめ情報収集し、内容をまとめておく。(2時間)
【事後】授業で学んだ内容を振り返り、知識を自分のものにする。(2時間)

課題に対するフィードバックの方法

授業内で作成するレポートや発表については、授業中に即座にフィードバックする。
あるいは授業後の早い段階で、Google Classroomでフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

課題提出とその内容(50)

定期試験に代わるレポート等(30)

事前・事後学習(20)

正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	課題提出(20) 課題内容(30)	1, 2, 3
授業外での評価	20	事前(10) 事後学習・授業時間に完成できなかった課題の提出など(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	レポート試験(30)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリントを配布するか、授業資料をGoogle Classroomに添付する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	必ずしも必須ではないが、エアライン実務論の授業においても、多くのホスピタリティ事例が学べる。 阪口 葉子 y-sakaguchi@oiu.jp

授業コード	22006002	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	ホスピタリティ [対面]				
シラバス執筆(全員)	中原 亜紀美				
シラバス執筆(主)	中原 亜紀美				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「ホスピタリティ」という言葉はよく耳にするが、その概念を理解し、実践するまでに至るのは簡単なことではない。この授業では、ホスピタリティとは何かという基本やホスピタリティ・マインドを形成するために必要な概説を行い、グループワークやペアワークにてケーススタディを行う。また、各自の意識を高めるために授業内でプレゼンテーションの機会も設ける。

到達目標

1. ホスピタリティとは何かを理解し、説明することができる。
2. ホスピタリティ・マインドを身につけ、日頃から実践できるようになる。

授業計画

- | | |
|------|--|
| 第1回 | ホスピタリティの基本
(ホスピタリティとは何か、ホスピタリティをめぐる言葉について概説する) |
| 第2回 | 自分を知る
(ワークを通して自分を知る) |
| 第3回 | ホスピタリティを実践する3つのステップ①
(基本マナーについて学ぶ) |
| 第4回 | ホスピタリティを実践する3つのステップ②
(気くばりについて考える) |
| 第5回 | ホスピタリティを実践する3つのステップ③
(心くばりについて考える) |
| 第6回 | ホスピタリティ・マインド
(ホスピタリティ・マインドの高め方を考える) |
| 第7回 | ホスピタリティとコミュニケーション
(ホスピタリティとコミュニケーションのかかわりについて考える) |
| 第8回 | 感動体験とリピーター
(ホスピタリティとは何かを再考する) |
| 第9回 | ホスピタリティの実践例①
(ディズニーの取り組み) |
| 第10回 | ホスピタリティの実践例②
(ザ・リッツ・カールトンの取り組み) |
| 第11回 | ケーススタディ①
(ホスピタリティのためのケーススタディを通して実践力を磨く) |
| 第12回 | ケーススタディ②
(ホスピタリティのためのケーススタディを通して実践力を磨く) |
| 第13回 | ケーススタディ③
(ホスピタリティのためのケーススタディを通して実践力を磨く) |
| 第14回 | 振り返りとプレゼンテーション準備 |
| 第15回 | プレゼンテーション |

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前学習】

これまでのホスピタリティ体験をメモしておく。また、次回の授業までに日常の中で見つけたホスピタリティをメモしておく。次回の授業のテーマを確認し、あらかじめ情報収集しておく。

【事後学習】

授業で学んだことを復習し、メモをまとめておく。授業内での指示に基づいて実践報告等をまとめる。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題や授業中に取り組んだケーススタディ、プレゼンテーションについては、授業内で講評する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下の評価割合に基づき総合的に評価の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく、5回を超えて授業を欠席した場合や定期試験に代わるレポート等未提出の場合は、原則として「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	プレゼンテーション(30)、授業中の発言内容・演習の取り組み(20)	1, 2
授業外での評価	40	各回の受講レポート	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、授業内で授業資料を提示する。
------	--------------------------

参考書	『図解版 ホスピタリティの教科書』 林田正光監修 あさ出版 『ホスピタリティ検定 公式テキスト&問題集』 ホスピタリティ機構監修 経済法令研究会
-----	---

履修条件・他の科目との関連	進行によっては、授業計画の順序や内容が変更することがある。
---------------	-------------------------------

授業コード	22030701	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	観光概論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	加藤 淳一				
シラバス執筆(主)	加藤 淳一				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「観光概論」は、他の観光関連授業の基礎となる科目である。また、観光以外の様々な分野とも関連性の高い分野でもある。
 観光は誰にでも親しみやすい分野であるので、観光学を通して知的好奇心を養い、観光に関する基礎・専門知識について指導するとともに、他の分野でも応用できる汎用性のある思考能力を身につけ、様々な社会的課題を解決できる能力を修得出来るよう、ホテルや旅行業、レジャー観光関連施設など様々な観光関連業務に従事した実務経験をもとに受講生の将来に役立つ講義を実施する。

到達目標

1. 観光学に関わる基礎的用語について説明できる。
2. 観光とは何か？その現代的意義について説明できる。
3. 観光産業の社会的意義について説明できる。
4. 観光の現状や課題について判断できる。
5. 観光の将来や課題解決について、自ら考え実行し解決できる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション：授業の概要や進め方、テキストの活用方法や事前・事後学習の方法、成績評価方法などについて説明
- 【第2回】 観光を学ぶ意義と観光の様々な効果：現代社会と観光、観光を学ぶ意義、観光が人間・企業・地域にもたらす効果や影響
- 【第3回】 観光に関わる言葉：旅と旅行、観光、余暇（レジャー）、レクリエーション、ホスピタリティー
- 【第4回】 観光のしくみ：観光を構成する要素、観光事業の意味としくみ
- 【第5回】 観光資源と観光対象：観光資源の意味、観光資源と観光対象、観光対象の特徴
- 【第6回】 観光産業の構成と特徴：観光産業の定義と種類、観光産業・観光ビジネスの特徴
- 【第7回】 様々な観光ビジネス（旅行業）：旅行業とは、旅行業の歴史、旅行業の商品と形態、旅行業と地域の関わり
- 【第8回】 様々な観光ビジネス（宿泊産業）：宿泊産業の歴史と発展、様々な宿泊施設の分類、ホテルの機能と業務
- 【第9回】 様々な観光ビジネス（交通運輸業）：観光と交通の関わり、交通と交通運輸業、観光交通ビジネスの特性、観光交通への新たな要請
- 【第10回】 様々な観光ビジネス（その他関連産業）：テーマパーク、スキー場、展示・鑑賞施設、観光土産品と土産産業
- 【第11回】 観光と情報：観光行動と情報、観光情報の媒体（ツール）、効果的な観光情報の発信・提供方法
- 【第12回】 観光政策と観光行政：観光政策と観光行政、国・地方の観光政策と観光行政
- 【第13回】 観光のマーケティング：マーケティングと観光への応用、観光マーケティングの対象と観光消費に対象となる「商品」、観光マーケティング活動の実態
- 【第14回】 旅の歴史とこれからの旅行：旅の歴史、マストゥリズムからサスティナブル・ツーリズムへ
- 【第15回】 観光と国際経済・社会・文化（インバウンドと異文化理解）：わが国におけるインバウンドの動向、観光と国際経済の関わり、観光と国際社会・文化の関わり

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【事前】 各回の授業前に、授業テーマに該当するテキスト対応部分に目を通し、「Self Check」を解答しておくこと。
 加えて、関連する内容・役割・動向をインターネットなどで情報収集し、内容を取りまとめておく。
 また毎回グループにてPowerPointによるプレゼンテーションを行うので、指名されたグループのメンバーは、協力して該当するテーマのプレゼンテーション準備を行う（各2時間）。
- 【事後】 授業で学んだ内容を振り返り、知識の定着を図ると共に、疑問な点を発見した場合は、まず自身で調べ、それでも不明な部分は教員へ連絡する（各1.5時間）。
- 【定期試験対策】 15時間以上の復習を行い、試験に臨む。

課題に対するフィードバックの方法

全体に向け、課題やレポートに対しての振り返りとフィードバックを行うと共に、必要に応じて個人に対し、課題やレポートのコメントなどをClassroomやOJUメール、または直接口頭で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 なお、正当な理由なく、欠席の回数が授業回数の1/3を超える（6回以上欠席）の場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	積極的な取り組み姿勢、グループワークやプレゼンテーションを評価	4, 5
授業外での評価	15	振り返りシートの提出状況や内容を評価	1, 2, 3
定期試験	50	授業で扱った基本的語句の説明、内容の理解、記述説明等における総合的評価	1, 2, 3, 4, 5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	15	授業に関する発言・質問、受講態度・マナーを評価	1, 2, 3

テキスト	観光学基礎 (JTB総合研究所、2,750円、978-4902772494)
------	--

参考書	必要に応じて、授業の中で紹介する。
-----	-------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>観光実務士の資格取得に必要な必修科目である。</p> <p>進行によっては、授業計画の順序や内容を変更することがある。</p> <p>なお、欠席者に対しては、次回出席時に授業の前後で個別にてフォローを行うと共に、配布物があった場合は、配布する。</p>
---------------	---

授業コード	22049001	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	旅行業実務論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	杉山 維彦				
シラバス執筆(主)	杉山 維彦				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義では「旅行業」の歴史、現状、経営などを概観したうえで、実際に業務に必要な知識を得ることを目的とする。
また、旅行業務取扱管理者試験だけでなく、旅程管理主任者などの関連資格についても詳しく解説をする。

授業は講義と実演（旅行会社のスタッフとしてカウンター業務や電話対応）をペアワーク・グループワークで行う。

観光関連産業で紹介するDVDを見たり、やゲスト招き、現場の最新動向及びゲスト自身の業務内容や、観光業界で働くことに対する考えなどの講義を受けたのちに質疑の時間をとる。
ディスカッションは講義内容に関係した内容を設定して行う。

到達目標

1. 旅行会社の仕事について、理解し説明できる。
2. 旅行会社の種類について、理解し説明できる。
3. 旅行会社のカウンターに必要な資格(旅行業務取扱管理者)について説明ができる。
4. 添乗員の仕事について説明できる。
5. 合わせて日本の観光業関連産業の現状・課題・方向性について説明ができる。

授業計画

- 【第1回】 プロローグ(ガイダンス)
- 【第2回】 旅行業①
- 【第3回】 旅行業②
- 【第4回】 旅行業③
- 【第5回】 旅行業に関するディスカッション
- 【第6回】 観光関連事業と旅行業のつながり①
- 【第7回】 観光関連事業と旅行業のつながり②
- 【第8回】 観光関連事業に関するディスカッション
- 【第9回】 宿泊業と旅行業のつながり①
- 【第10回】 宿泊業と旅行業のつながり②
- 【第11回】 宿泊業に関するディスカッション
- 【第12回】 交通産業①
- 【第13回】 交通産業②
- 【第14回】 交通産業に関するディスカッション
- 【第15回】 エピローグ(まとめ・質疑応答)

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

前回までの講義内容を確認し復習しておくこと。また、日頃より観光業界の動向について新聞や専門誌などを用いて情報収集を行うこと。

【第1回】

事前 シラバスを熟読し、旅行業とは何かを調べておく。 2.0時間
事後 旅行会社の行う仕事は何か理解する。 2.0時間

【第2回】

事前 実際に最寄りの旅行会社へ行って事務所に入りパンフレットをもらってくる。 2.0時間
事後 ツアー(企画旅行)とは何か理解する。 2.0時間

【第3回】

事前 以前「旅行代理店」と言われていた経緯を調べる。 2.0時間
事後 旅行会社のカウンターの仕事を理解する。 2.0時間

【第4回】

事前 旅行業の登録について調べる。 2.0時間
事後 旅行会社のカウンターでは行わない仕事を理解する。 2.0時間

【第5回】

事前 旅行会社について自分の意見を考えてくる。 2.0時間
事後 ディスカッションした内容を自分なりに整理する。 2.0時間

【第6回】

事前 旅行業と関連する観光関連産業について調べる。 2.0時間
 事後 ツアーに必要な観光関連産業を理解する。 2.0時間

【第7回】

事前 代理と呼ばれた時代の「代理」とは何が再考する。 2.0時間
 事後 JRの乗車券類・フェリーの乗船券類・高速バスの乗車券類の販売について理解する。 2.0時間

【第8回】

事前 旅行会社が行っている宿泊の「代理」販売について自分の意見を考えてくる。 2.0時間
 事後 ディスカッションした内容を自分なりに整理する。 2.0時間

【第9回】

事前 宿泊業について調べる。 2.0時間
 事後 宿泊クーポンと「R」について理解する。 2.0時間

【第10回】

事前 旅行会社がホテル・旅館の販売をする意義を考えてくる。 2.0時間
 事後 Web販売について理解する。 2.0時間

【第11回】

事前 宿泊業について自分の意見を考えてくる。 2.0時間
 事後 ディスカッションした内容を自分なりに整理する。 2.0時間

【第12回】

事前 交通業について調べる。 2.0時間
 事後 乗車券類と「コミッション」について理解する。 2.0時間

【第13回】

事前 旅行会社が交通機関の販売をする意義を考えてくる。 2.0時間
 事後 Web販売について理解する。 2.0時間

【第14回】

事前 旅行会社が行っている交通の「代理」販売について自分の意見を考えてくる。 2.0時間
 事後 ディスカッションした内容を自分なりに整理する。 2.0時間

【第15回】

事前 これまでの全体を振り返り、わからないことをまとめてくる。 2.0時間
 事後 旅行業の将来を考える。 2.0時間

課題に対するフィードバックの方法

毎回コメントシートを提出する。
 ディスカッションした場合は自分の意見をまとめて、次週提出すること。

成績評価の方法・基準(方針)

毎回求めるコメント、課題提出、定期試験、授業態度により総合的に判断し、60点以上を合格とする。
 正当な理由がない欠席6回以上、課題提出がなされない、定期試験の点数が著しく悪い(100点満点中60点未満)、
 などの場合は評価対象とはしない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	小テスト(10)、ディスカッションや発表の参加(15)、指名での返答(10)、授業に臨む態度を考慮する	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	20	レポート課題を5回程度課する。テーマは授業中に指示するのでできる限り欠席しないように	1, 2, 3, 4
定期試験	45	15回の授業で行ったことのまとめとして試験を行う。試験に欠席した時点で「K」評価となる。	1, 2, 3, 4, 5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト テキストは使用しない

参考書 必要に応じ紹介する

履修条件・他の科目との関連 講義を主体とするが、ディスカッションや発表も行ってもらう。
 特にグループワークやペアワークは、欠席・遅刻・取り組みに対する消極的な姿勢などが他のメンバーに迷惑をかけることを自覚すること。また、減点の対象とする。
 配布物(プリントなど)は、翌々回(次の次の回)までしか配布しないので、欠席する場合は注意!

履修条件・他の科目との関連

観光関連業界を学ぶ上で「観光ビジネス実務総論」の受講を勧める。

Schedules are subject to change without notice.

授業コード	22049101	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	ホテル実務論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	加藤 淳一				
シラバス執筆(主)	加藤 淳一				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

ホテルなどの宿泊業界で働くことを目指す学生を対象にする内容である。ホテルスタッフとして高いホスピタリティマインドを持って仕事に携わること为目标とするため、宿泊業界の歴史や仕組み、また職種ごとの業務内容について解説し、サービスの基礎や宿泊ビジネスに必要な戦略などについて指導する。

またホテルは、単なる宿泊施設としての機能だけでなく、国際的な催事の会場をはじめ、結婚式やグローバルなコミュニティの空間として、政治、経済、文化交流の重要な役割を担っている。このような重要な役割を持って運営されるホテルに、将来携わってほしいとする学生の実務知識に関する理解度を高めるられるよう、ホテルマネジメント業務に従事した実務経験をもとに、受講生の将来に役立つ講義を実施する。

到達目標

1. ホテル業界の基礎知識を説明できる。
2. ホテルの宿泊・料飲・宴会を中心としたサービスオペレーションを体系的に説明できる。
3. 即戦力として接客業務に従事する能力を発揮できる。
4. 観光実務士やホテルビジネス実務検定試験の受験対策として応用できる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション：授業の概要や進め方、テキストの活用方法や事前・事後学習の方法、成績評価方法などについて説明
- 【第2回】 ホテルの基礎①：観光産業の概況、ホテル産業の概要
- 【第3回】 ホテルの基礎②：実務者として必要な基本知識
- 【第4回】 宿泊部門の業務①：宿泊部門の概要
- 【第5回】 宿泊部門の業務②：宿泊部門の実務
- 【第6回】 外部講師による特別講義①：現場の第一線で活躍されているホテリエによる特別講義
- 【第7回】 料飲部門の業務①：料飲部門の概要
- 【第8回】 料飲部門の業務②：料飲部門の実務
- 【第9回】 宴会部門の業務①：宴会部門の概要
- 【第10回】 宴会部門の業務②：宴会部門の実務
- 【第11回】 外部講師による特別講義②：現場の第一線で活躍されているホテリエによる特別講義
- 【第12回】 調理部門の業務①：調理部門の概要
- 【第13回】 調理部門の業務②：調理部門の実務
- 【第14回】 ホテルの基礎③：ホテル英語の基本
- 【第15回】 全体総括とH検受験説明：学習した項目の全体総括

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【事前】各回の授業テーマに該当するテキスト対応部分に目を通し、関連する内容・役割・動向をインターネットなどで情報収集し、内容を取りまとめておく（各2時間）。
- 【事後】授業で学んだ内容を振り返り、知識の定着を図ると共に、疑問な点を発見した場合は、まず自身で調べ、それでも不明な部分は教員へ連絡する（各1.5時間）。
- 【期末試験対策】15時間以上の復習を行い、試験に臨む。

課題に対するフィードバックの方法

全体に向け、課題やレポートに対しての振り返りとフィードバックを行うと共に、必要に応じて個人に対し、課題やレポートのコメントなどをClassroomやOIUメール、または直接口頭で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由なく、欠席の回数が授業回数の1/3を超える（6回以上欠席）の場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	45	理解度を確認するために、毎回小テストを実施(20) 全体を通してのまとめテスト(25)	1, 2, 4

授業外での評価	25	特別講義のレポート提出(10) 振り返りシートの記入・提出状況や内容を評価(15)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	授業で扱った基本的語句の説明、内容の理解、記述説明等における最終レポートの内容を評価	1, 2, 3, 4
その他	15	授業に関する発言・質問、受講態度・マナーを評価	3, 4

テキスト	ホテルビジネス基礎編(日本ホテル教育センター、5,500円) (各自で「日本ホテル教育センター」のホームページ: https://www.jec-jp.org/hken/textbooks/index.php より直接購入すること。)		
------	--	--	--

参考書	必要に応じて、授業の中で紹介する。		
-----	-------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	観光実務士の資格取得に必要な選択科目であり、ホテルビジネス実務検定試験の受験対策内容を含む。 外部講師による特別講義を予定している。 進行によっては、授業計画の順序や内容を変更することがある。 なお、欠席者に対しては、次回の出席時に授業の前後で個別にてフォローを行うと共に、配布物があった場合は、配布する。		
---------------	--	--	--

授業コード	22049201	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	エアライン実務論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	阪口 葉子				
シラバス執筆(主)	阪口 葉子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

客室乗務員・グランドスタッフ・航空会社支店長の経験と、現在は、本学が産学連携協定を結んでいる新規航空会社の会長をしており、著書「素敵なあなたになれる空港グランドスタッフの世界」をもとに、実務家教員として、将来、航空・観光分野で活躍したい学生に、航空業界の最新情報を届け、就職にも役立つ授業を展開する。また、航空業界への就職を目指していない学生にも役立つ授業にする。航空業界の歴史や仕組み、業務内容、航空ビジネス全般についての基礎知識を概説する。

到達目標

1. 航空業界の仕組みや航空ビジネスに関する基礎知識を説明できる。
2. 航空業界で求められる人材について説明できる。
3. 授業内容を理解したかについて、レポート試験で判断する。
4. 正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

授業計画

- 【第1回】客室乗務員・グランドスタッフ採用で求められる人材・応募方法・最近の傾向
航空業界で求められる適性、英語力などについて概説する。
- 【第2回】航空業界の歴史・現在・未来
航空会社の発展の歴史、最先端テクノロジー活用による利便性向上について概説する。
- 【第3回】日本の航空会社と世界の航空会社
エアリアンス（航空会社同士の連合や提携）・コードシェア・マイレージなどについて概説する。
- 【第4回】客室乗務員の業務内容
機上で、サービスのみならず安全のために徹底した保安体制をしいていることを概説する。
- 【第5回】グランドスタッフの業務内容
機上と同じく、サービス・保安を念頭に、ありとあらゆる地上での旅客対応をしていることを概説する。
- 【第6回】出発業務と到着業務
どんな仕事内容なのかを詳しく概説する。
- 【第7回】アナウンス実践
機内や地上でするアナウンスを実践する。
- 【第8回】航空会社のトラブルや、受けるクレームのすべてと、その対応
遅延やキャンセル他のケースで、どのような対応をするかを概説する。
- 【第9回】世界に通用するコミュニケーションスキルの実践
世界に通用する接客の極意を概説し、クレーム解決について、授業の中でロールプレイする。
- 【第10回】客室乗務員がグランドスタッフ（現役あるいは経験者）の話聞く。
エアライン業界で活躍している人の話を聞いて参考にする。（講演者のスケジュールにより、日程変更もありうる。）
- 【第11回】日本の空港・世界の空港
関西にある3空港の歴史、世界の空港の特徴、空港コード、現在・未来の空港を概説する
- 【第12回】飛行機運航に関わる関連企業、役所、その他の施設や団体
航空関連の業種（機内食会社・税関などの役所・ホテル・病院・消防署など）との関りを概説する。
- 【第13回】特別旅客の対応
車いすなど体のご不自由な旅客への対応、特別食、子供の一人旅、ペットを連れた旅客対応、ラウンジ案内、救急車対応などの業務を概説する。
- 【第14回】安全と保安
飛行機運航において、安全と保安が一番大切なことである。ハイジャックやテロから乗客や乗務員を守るために、航空会社と保安会社が連携して行っていることを概説する。
- 【第15回】全回のまとめ・新しい航空会社のスタイル
世界の航空会社がたゆまぬ改善を続けている顧客満足と定時運航の大切さを概説する

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。
授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。
毎回事前・事後をあわせて4時間の学習が必要である。

- 【事前】各回の授業テーマに関連する内容について、インターネットなどであらかじめ情報収集し、内容をまとめておく。
- 【事後】授業で学んだ内容を振り返り、知識を自分のものにする。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で作成するレポートや発表については、授業中に即座にフィードバックする。
あるいは授業後の早い段階で、Google Classroomでフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

1. 課題提出とその内容
2. 事前事後学習、授業時間内にできなかった課題を完成させる。
3. レポート試験
4. 正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	課題提出(20) その内容(30)	1
授業外での評価	20	事前・事後学習(10) 授業時間内にできなかった課題を完成させるなど(10)	2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	レポート試験(30)	3
その他	0		

テキスト テキストは使用せず、Google Classroomに授業資料を添付するか、必要に応じて配布する。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 ホスピタリティ授業では、エアラインのホスピタリティも紹介している。
連絡先は、y-sakaguchi@oiu.jp

授業コード	22030801	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	観光ビジネス実務総論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	杉山 維彦				
シラバス執筆(主)	杉山 維彦				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「観光とは何か、観光産業とはどのような産業か、観光ビジネスの特性は何か」など基本的な事柄について解説し、「観光地の現場で実際に起きていること」そして、今後の動きを見通した「観光ビジネスや観光地がどのような対応をしようとしているか(町おこし・村おこしなど)」について説明する。

この授業では、観光産業が及ぼす社会的・経済的役割を理解し、観光業を担う旅行業、宿泊業、航空やバスなどの交通運輸業、お土産品業、飲食店業など観光産業全般の実務内容を理解し基礎的な観光ビジネス知識を解説する。
合わせて観光の歴史を学び、今年度は特にインバウンドの訪日について考察していく。

到達目標

1. 観光に関する基礎的・基本的な知識・能力を説明できる。
2. 訪日外国人旅行(インバウンド)の業務内容、誘致、特性、課題、方向性などについて説明できる。
3. 旅行業、宿泊業などを中心とした旅行・観光関連産業について関連性を説明できる。
4. MICEについて理解し、説明できる。

授業計画

- 【第1回】 プロローグ & ガイダンス
- 【第2回】 観光客数 IN and OUT (1. 訪日観光客数と日本人海外渡航者数比較 2. 観光を貿易として考察 3. インバウンド・アウトバウンドとは何か)
- 【第3回】 観光資源① (1. 観光資源 2. 自然資源 3. 人文資源)
- 【第4回】 観光資源② (1. 自然遺産 2. 文化遺産 3. 複合遺産 4. 無形遺産 5. 日本の世界遺産)
- 【第5回】 観光資源③ (1. 文化財 2. 町並み保存 3. 村おこし・町おこし 4. 観光資源についてディスカッションする)
- 【第6回】 観光世界歴史とビジネス (1. 古代オリンピック 2. 宗教巡礼 3. モータースポーツ)
- 【第7回】 観光日本史とビジネス (1. 参勤交代 2. 旅行会社の歴史 3. 日本ガイドブックの歴史)
- 【第8回】 旅行業と法律 (1. 旅行業(旅行会社)の仕事 2. 登録制度 3. 国内旅行業務取扱管理者 4. 総合旅行業務取扱管理者 5. 旅行業法 6. 旅行業約款)
- 【第9回】 宿泊業と法律 (1. 和風旅館 2. ホテル 3. 登録制度 4. リゾートホテル 5. ビジネスホテル 6. ホテルチェーン 7. 旅館業法 8. 温泉法 9. 国際観光ホテル整備法 10. 旅行業と観光業の違いについてディスカッションする)
- 【第10回】 交通業と法律 (1. 鉄道(鉄道営業法・鉄道事業法・地方鉄道法・など) 2. 航空(航空法・空港法・など) 3. バス・タクシー(道路運送法・一般貸切旅客自動車運送事業標準運送約款・など) 4. フェリー・クルーズ船(海上輸送法・船舶法・など) 5. 運輸安全委員会(運輸安全委員会設置法))
- 【第11回】 観光文化① (1. 観光文化とは 2. 異文化理解 3. 異文化コミュニケーション 4. 海外旅行の意義 5. 宗教対立)
- 【第12回】 観光文化② (1. 世界の宗教 2. 世界の言語 3. 世界の習慣)
- 【第13回】 観光文化③ (1. 世界の衣料 2. 世界の食事 3. 世界の住居)
- 【第14回】 ツーリズム研究とビジネス (1. エコ・ツーリズム 2. グリーン・ツーリズム 3. フード・ツーリズム 4. マス・ツーリズム 5. イベント・ツーリズム 6. ヘルス・ツーリズム 7. コンテンツ・ツーリズム 8. 聖地巡礼 9. 宇宙旅行 10. 21世紀の観光)
- 【第15回】 エピローグ & まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

前回までの講義内容を確認し復習しておくこと。また、日頃より観光業界の動向について新聞や専門誌などを用いて情報収集を行うこと。

- 【第1回】
- 事前 シラバスを熟読し、旅行業とは何かを調べておく。 2.0時間
- 事後 旅行会社だけでなく観光業の仕事は何か理解する。 2.0時間

- 【第2回】
- 事前 インバウンドとは何か調べる。 2.0時間
- 事後 インバウンド増加の要因を理解する。 2.0時間

- 【第3回】
- 事前 観光資源とは何か調べる。 2.0時間
- 事後 観光資源、自然資源、人文資源の違いを理解する。 2.0時間

【第4回】

事前 世界遺産とは何か調べる。 2.0時間
 事後 日本の世界遺産を確認し覚える。 2.0時間

【第5回】

事前 何が観光資源になるか考えてくる。 2.0時間
 事後 身近の村おこし・町おこしの事例を理解する。 2.0時間

【第6回】

事前 観光の始まり調べる。 2.0時間
 事後 信仰に基づく移動とは何か理解する。 2.0時間

【第7回】

事前 日本での観光の始まりを調べる。 2.0時間
 事後 江戸時代の参勤交代や諸国漫遊を理解する。 2.0時間

【第8回】

事前 旅行業の仕事を調べる。 2.0時間
 事後 旅行業に関連する法律を理解する。 2.0時間

【第9回】

事前 宿泊業について調べる。 2.0時間
 事後 旅館とホテルの違いを理解する。 2.0時間

【第10回】

事前 交通業について調べる。 2.0時間
 事後 交通の種類について理解する。 2.0時間

【第11回】

事前 異文化とは何か調べる。 2.0時間
 事後 異文化コミュニケーションの方法について理解する。 2.0時間

【第12回】

事前 世界の宗教・言語・習慣について調べる。 2.0時間
 事後 日本と海外の違いを理解する。 2.0時間

【第13回】

事前 世界の美食について考えてくる。 2.0時間
 事後 日本と海外の違いを理解する。 2.0時間

【第14回】

事前 SDGsとは何か調べる。 2.0時間
 事後 今後の観光のあり方を整理する。 2.0時間

【第15回】

事前 これまでの全体を振り返り、わからないことをまとめてくる。 2.0時間
 事後 観光業の将来を考える。 2.0時間

課題に対するフィードバックの方法

毎回コメントシートを提出する。その内容について、次週返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

毎回求めるコメント、課題提出、定期試験に代わるレポート、授業態度により総合的に判断し、60点以上を合格とする。
 正当な理由がない欠席6回以上、課題提出が著しく悪い、定期試験に代わるレポート未提出、これらの場合は評価対象とはしない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	小テスト(10)、ディスカッションや発表の参加(10)、指名での返答(10)、授業に臨む態度を考慮する	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	レポート課題を5回程度課する。テーマは授業中に指示するのでできる限り欠席しないように。	2, 3, 4
定期試験	50	学習したこと全体から定期試験を行う。 記述式(25)、選択問題(25)で行う。 配布資料の持込可。	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない
------	------------

参考書	必要に応じ紹介する
履修条件・他の科目との関連	<p>講義を主体とするが、ディスカッションや発表も行ってもらおう。 特にグループワークは、欠席・遅刻・取り組みに対する消極的な姿勢などが他のメンバーに迷惑をかけることを自覚すること。 配布物(プリントなど)は、翌々回(次の次の回)までしか配布しないので、欠席する場合は注意!</p> <p>観光関連業界を学ぶ上で「エアライン実務論」、「ホテル実務論」、「旅行業実務論」、「ブライダル実務論」の受講を勧める。</p> <p>Schedules are subject to change without notice.</p>

授業コード	22030901	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	国内観光資源 [対面]				
シラバス執筆(全員)	杉山 維彦				
シラバス執筆(主)	杉山 維彦				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「国内観光資源」は、観光学を学ぶ上で基礎となる科目である。

観光資源の名称だけではなく地域の特徴や文化的背景、歴史などを学び、地図上でのその位置を解説する。白地図を活用しながら毎週授業テーマに沿った事前・事後学修を通して、観光資源の位置関係について解説する。授業では、日本の北海道から順に沖縄まで7つのエリアに区分し、スライドや動画なども活用しながら都道府県毎に重要な観光資源の解説をする。

また、この科目を学ぶことで、合わせて国家試験である「旅行業務取扱管理者（受験科目「国内旅行実務」のうち「国内観光資源」の部分）」や、旅行地理検定協会が行う「日本旅行地理検定」の学習ができる。

到達目標

1. 観光業界で活躍するために必要とされる観光地理の知識を確実なものとする
2. 各都道府県の観光地を説明できる。
3. 各都道府県の名産品を説明できる。
4. ひとつの観光地だけでなく、観光地を線でつなぎツアープランニングすることができる。

授業計画

- 【第1回】 プロローグ(ガイダンス)
- 【第2回】 北海道
- 【第3回】 東北①(青森・岩手・宮城)
- 【第4回】 東北②(秋田・山形・福島)
- 【第5回】 北関東(茨城・栃木・群馬)
- 【第6回】 首都圏(東京・神奈川・千葉・埼玉)
- 【第7回】 中部・北陸①(新潟・富山・石川・福井)
- 【第8回】 中部・北陸②(山梨・長野・岐阜・静岡・愛知)
- 【第9回】 近畿①(三重・滋賀・京都)
- 【第10回】 近畿②(大阪・兵庫・奈良・和歌山)
- 【第11回】 中国(鳥取・島根・岡山・広島・山口)
- 【第12回】 四国(徳島・香川・愛媛・高知)
- 【第13回】 九州・沖縄①(福岡・佐賀・長崎・熊本)
- 【第14回】 九州・沖縄②(大分・宮崎・鹿児島・沖縄)
- 【第15回】 エピローグ(まとめ・質疑応答)

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回学んだ内容を振り返り、知識の定着を図ると共に、疑問な点を発見した場合は、まず自身で調べ、それでも不明な部分は講師へ連絡する(各1.5時間)。

- 【第1回】
 事前 シラバスを熟読し、観光資源とは何かを調べておく。 2.0時間
 事後 観光資源の種類について理解する。 2.0時間

- 【第2回】
 事前 北海道の観光資源を調べる。 2.0時間
 事後 学習した観光資源について理解する。 2.0時間

- 【第3回】
 事前 青森・岩手・宮城の観光資源を調べる。 2.0時間
 事後 学習した観光資源について理解する。 2.0時間

- 【第4回】
 事前 秋田・山形・福島の観光資源を調べる。 2.0時間
 事後 学習した観光資源について理解する。 2.0時間

- 【第5回】
 事前 茨城・栃木・群馬の観光資源を調べる。 2.0時間
 事後 学習した観光資源について理解する。 2.0時間

【第6回】
事前 東京・神奈川・千葉・埼玉の観光資源を調べる。 2.0時間
事後 学習した観光資源について理解する。 2.0時間

【第7回】
事前 新潟・富山・石川・福井の観光資源を調べる。 2.0時間
事後 学習した観光資源について理解する。 2.0時間

【第8回】
事前 山梨・長野・岐阜・愛知の観光資源を調べる。 2.0時間
事後 学習した観光資源について理解する。 2.0時間

【第9回】
事前 三重・滋賀・京都の観光資源を調べる。 2.0時間
事後 学習した観光資源について理解する。 2.0時間

【第10回】
事前 大阪・兵庫・奈良・和歌山の観光資源を調べる。 2.0時間
事後 学習した観光資源について理解する。 2.0時間

【第11回】
事前 鳥取・島根・岡山・広島・山口の観光資源を調べる。 2.0時間
事後 学習した観光資源について理解する。 2.0時間

【第12回】
事前 徳島・香川・愛媛・高知の観光資源を調べる。 2.0時間
事後 学習した観光資源について理解する。 2.0時間

【第13回】
事前 福岡・佐賀・長崎・熊本の観光資源を調べる。 2.0時間
事後 学習した観光資源について理解する。 2.0時間

【第14回】
事前 大分・島根・宮崎・鹿児島・沖縄の観光資源を調べる。 2.0時間
事後 学習した観光資源について理解する。 2.0時間

【第15回】
事前 これまでの全体を振り返り、わからない観光資源の種類や地域をまとめてくる。 2.0時間
事後 日本地図を頭に入れる。 2.0時間

課題に対するフィードバックの方法

レポート課題（白地図）や小テスト・定期試験について、確認・採点后、本人へ返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

毎回行う小テスト、課題提出、期末試験、授業態度により総合的に判断し、60点以上を合格とする。
正当な理由がない欠席6回以上、課題提出が著しく悪い、期末試験未受験、これらの場合は評価対象とはしない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	小テスト(20)、指名での返答(10)、授業に臨む態度を考慮する	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	レポート課題を5回程度課する。テーマは授業中に指示するのでできる限り欠席しないように。	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	学習したこと全体からレポート課題を行う。 テーマはこちらがいくつか出題するので、その中から選択して書いてもらう。 期限、文字数などは別途指示するので、それに従うこと。	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト 使用しない

参考書 2024年版 U-CANの国内・総合旅行業務取扱管理者 速習レッスン(ユーキャンの資格試験シリーズ)
旅行業実務シリーズ「4. 国内旅行実務・国内観光資源」(株)JTB総合研究所
国内観光地理サブノート(株)JTB総合研究所
旅に出たくなる地図: 日本(帝国書院)
その他、必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連

観光実務士の資格取得に必要な選択必修科目で、国内旅行業務取扱管理者試験、日本旅行地理検定の受験対策内容を含む。

「旅行業特講Ⅰ」および「旅行業特講Ⅱ」で用いるテキストをメインに活用する。

なお、欠席者に対しては、次回の出席時に授業の前後で個別にてフォローを行なうと共に、配布物があった場合は、配布するので必ず教員にコンタクトすること。

Schedules are subject to change without notice.

授業コード	22044301	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	English Communication I [対面]				
シラバス執筆(全員)	森田 篤司				
シラバス執筆(主)	森田 篤司				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

英語を母語としない人々に向け、身近なテーマを取り上げ、オンライン教材も活用し、4技能の中でも特にスピーキングとリスニングを中心とした実践的な演習を行い、正しい発音と語感を身に付けるように指導する。又、授業での双方向のコミュニケーションを通じ、コミュニケーション能力を高めるよう指導する。

到達目標

1. 新出単語を使用して文章作成することができる。
2. 文法を理解し、それを踏まえコミュニケーションを実践できる。
3. リスニングで内容把握ができる。
4. テキストReadingパートのシャドーイングができる。
5. テキストReadingパートの和訳ができる。
6. 英語発音が向上し、音声認識により発話からテキストに変換できる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（授業の概要、進め方、評価の方法、到達目標について説明。）
 第2回 Unit 1 Meeting New People 自己紹介での会話の演習を実施する
 第3回 Unit1 Reading, Writing
 第4回 Unit1復習クイズ、Unit 2 School Life 学校での出来事や授業についての演習を実施する
 第5回 Unit2 Reading, Writing
 第6回 Unit2 復習クイズ、Unit 3 Seeing a Doctor 通院を想定した場面での演習を実施する
 第7回 Unit3 Reading, Writing
 第8回 Unit3 復習クイズ、Unit 4 Expressing Yourself 感情、性格、趣味等の表現の演習を実施する
 第9回 Unit4 Reading, Writing
 第10回 Unit4 復習クイズ、TOEIC対策
 第11回 Unit 5 Getting Around 外出先でのさまざまなシチュエーションを説明する
 第12回 Unit5 Reding, Writing
 第13回 Unit5 復習クイズ、Unit 6 Talking about the Time 時間や予定についての表現の演習を実施する
 第14回 Unit6 Reding, Writing
 第15回 Unit6 復習クイズ、前期の総復習

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。Unit毎に新出する単語やフレーズを調べ、理解し、暗記する。又、テキストReadingパートの「音読」の練習（シャドーイング）を繰り返し実施するLINGUA PORTAの学習アプリに取り組む（事前・事後学習毎回平均各2時間）。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対する取り組み・レポートや授業内での発表、復習クイズ結果などに対して解説を行う。英語学習アプリ（LINGUA PORTA）を使い、復習を行い、課題達成状況のフィードバックを行う

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により60点以上を合格として単位を認定する。
 正当な理由無しに5回または、それ以上欠席した場合には原則として評価不能とみなしK評価とする。
 遅刻3回で欠席1回の扱いとする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	Vocabulary Worksheet (10) L&R 演習、発表(10) 復習クイズ(15)	Vocabulary Worksheet: 1L&R演習、発表: 1, 3, 4, 5復習クイズ:1, 2, 3, 6
授業外での評価	15	読解演習 (5) LINGUA PORTA総合演習プログラム(10)	読解演習 1, 4, 5LINGUA PORTA総合演習プログラム 1, 2, 6

定期試験	50	筆記試験	1, 2, 3, 6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		
テキスト	Live Escalate Book 1: Base Camp ISBN 978-4-7919-7221-0/角山 照彦 / LiveABC editors/成美堂 / 2,750		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	この授業で使うテキストは後期の「English Communication II」でも引き続き使用する。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 授業を欠席した場合は、欠席した授業の内容をクラスメートに確認し、自らフォローアップしておくこと。		

授業コード	22043101	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	英語総合演習 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	森田 篤司				
シラバス執筆(主)	森田 篤司				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

世界共通語としての英語の4技能をバランスよく修得し、英語の運用能力を高めるよう指導する。英文の速読と精読及びリスニングを行い論旨を理解することはもとより、英語でどのように表現するかを単語レベル、コロケーションレベル、センテンスレベルで理解できるよう指導する。また、授業における双方向コミュニケーションを通じて、実践的な英語でのコミュニケーション能力が高まるように指導する。

到達目標

1. 新出単語を使用して文章作成ができる。
2. 英語の基礎ルールを正しく理解できて応用ができる。
3. 英語の基礎ルールを踏まえコミュニケーションを実践ができる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション Unit 1: be動詞（現在形・過去形）、及び疑問詞に焦点を当てた授業を行う。
- 第2回 Unit 1: 入国審査に関する英文を聞き読解力を高める演習を行う。
- 第3回 Unit 2: 一般動詞（現在形）の語尾変化、疑問文、否定文の演習を行う。
- 第5回 Unit 2: 税関検査に関する英文を聞き読解力を高める演習を行う。
- 第6回 Unit 3: 一般動詞（過去形）の活用を確認し、英語での自己紹介を行う。
- 第7回 Unit 3: 空港での出迎えに関する英文を聞き読解力を高める演習を行う。
- 第8回 Unit 4: 進行形の演習を行う。
- 第9回 Unit 4: ホームステイに関する英文を聞き読解力を高める演習を行う。
- 第10回 Unit 5: 未来表現の演習を行う。
- 第11回 Unit 5: 語学研修に関する英文を聞き読解力を高める演習を行う。
- 第12回 Unit 6: 動詞の過去分詞の活用、及び受動態の演習を行う。
- 第13回 Unit 6: ホームステイに関する英文を聞き読解力を高める演習を行う。
- 第14回 Unit 7: 助動詞のバリエーションの理解と演習を行う。
- 第15回 Unit 7: レストランに関する英文を聞き読解力を高める演習を行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。全授業において、事前学習に1時間、事後学習に3時間の自主学習を行う。
 事前学習：新出単語の意味を事前にチェックし、テキストの会話の内容を理解する。
 事後学習：授業内にまとめた単語を見直して暗記すると共に、オンラインによるLINGUA PORTA総合演習プログラムを実施する。

課題に対するフィードバックの方法

既習箇所の習熟度を確認するために、既習箇所の復習クイズを行う。復習クイズの結果を授業内で解説する。LINGUA PORTAは課題の進捗度をフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下の評価方法により60点以上を合格として単位を認定する。
 正当な理由無しに5回または、それ以上欠席した場合には原則として評価不能とみなしK評価とする。
 遅刻3回で欠席1回の扱いとする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	Dictation Quiz・復習クイズ(20) 音読・内容理解度(10)	1, 2, 3
授業外での評価	10	LINGUA PORTAの演習プログラム(10)	1, 2, 3
定期試験	50	筆記試験	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	10	積極的な質問・意見発表・とりくみ(10)	2, 3

テキスト	Let's Read Aloud and Learn English: Going Abroad/角山照彦/成美堂/2530/ ISBN978-4-7919-7226-5
参考書	必要に応じて適宜指示する。
履修条件・他の科目との関連	習熟度チェックの結果によっては授業計画が前後することがある。 授業を欠席した場合は、欠席した授業の内容をクラスメートに確認し、各自でフォローアップしておくこと。

授業コード	22043102	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	英語総合演習 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	細井 利枝子				
シラバス執筆(主)	細井 利枝子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

世界共通語としての英語の4技能をバランスよく修得し、英語の運用能力を高めるよう指導する。英文の速読と精読及びリスニングを行い論旨を理解することはもとより、英語でどのように表現するかを単語レベル、コロケーションレベル、センテンスレベルで理解できるよう指導する。また、クラスメートとの共同作業を通じて実践的な英語でのコミュニケーション能力が高まるように指導する。

到達目標

1. 語彙力の向上。語彙拡大と新出単語を使用して文章作成ができる。
2. 英語の基礎ルールを正しく理解できて応用ができる。
3. 英語の基礎ルールを踏まえコミュニケーションを実践できる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション Unit 1: be動詞(現在形・過去形)、及び疑問詞に焦点を当てた授業を行う。
 第2回 Unit 1: 入国審査に関する英文を聞き読解力を高める演習を行う。
 第3回 Unit 2: 一般動詞(現在形)の語尾変化、疑問文、否定文の演習を行う。
 第5回 Unit 2: 税関検査に関する英文を聞き読解力を高める演習を行う。
 第6回 Unit 3: 一般動詞(過去形)の活用を確認し、英語での自己紹介を行う。
 第7回 Unit 3: 空港での出迎えに関する英文を聞き読解力を高める演習を行う。
 第8回 Unit 4: 進行形の演習を行う。
 第9回 Unit 4: ホームステイに関する英文を聞き読解力を高める演習を行う。
 第10回 Unit 5: 未来表現の演習を行う。
 第11回 Unit 5: 語学研修に関する英文を聞き読解力を高める演習を行う。
 第12回 Unit 6: 動詞の過去分詞の活用、及び受動態の演習を行う。
 第13回 Unit 6: ホームステイに関する英文を聞き読解力を高める演習を行う。
 第14回 Unit 7: 助動詞のバリエーションの理解と演習を行う。
 第15回 Unit 7: レストランに関する英文を聞き読解力を高める演習を行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

全授業において、事前学習に1時間、事後学習に3時間程度の自主学習を行う。

【事前学習】：新出単語の意味を事前にチェックし、テキストの会話の内容を理解する。

【事後学習】：授業内にまとめた単語を見直して暗記すると共に、オンラインによるLINGUAPORTA総合演習プログラムを実施する。

課題に対するフィードバックの方法

既習箇所の習熟度を確認するために、既習箇所の復習テストを行う。復習テストの結果を授業内で講評し、個人のスコアカードに反映する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下の評価方法により60点以上を合格として単位を認定する。
 正当な理由なしに5回以上で休んだ場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	復習テスト(20)	1, 2, 3
授業外での評価	20	LINGUA PORTAの演習プログラム、及び課題提出(20)	1, 2, 3
定期試験	50	筆記試験	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	10	積極的な質問・意見発表・とりくみ(10)	3

テキスト	Let's Read Aloud and Learn English: Going Abroad/角山照彦/成美堂/2530/ISBN978-4-7919-7226-5
------	--

参考書	必要に応じて適宜指示する。
履修条件・他の科目との関連	習熟度チェックの結果によっては授業計画が前後することがある。 授業を欠席した場合は、欠席した授業の内容をクラスメートに確認し、各自でフォローアップしておくこと。

授業コード	22043201	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	英語総合演習Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	森田 篤司				
シラバス執筆(主)	森田 篤司				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

企業で一般に使用されるビジネス英語を解説・指導し、ビジネス分野での英語コミュニケーションの基礎力を養う。様々なビジネスシーン・環境の解説を加えながら、テキストに沿ったTOEICの問題パターンに慣れるよう演習を実施する。

到達目標

1. 新出単語を使用して文章作成することができる。
2. 授業で学んだ基礎を身につけ、応用ができる。
3. TOEICの試験の概要とパターンを理解することができる。
4. TOEICを受験しスコア350点以上をとることを到達目標にする。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（授業の概要、進め方、評価の方法、到達目標について説明する）。
- 第2回 Unit 1: Travelをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
- 第3回 Unit 1: Travelをテーマとした実用英語の演習を文法（時制）及び読解を中心に行う。
- 第4回 Unit 2: Dining Outをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
- 第5回 Unit 2: Dining Outをテーマとした実用英語の演習を文法（主述の一致）及び読解を中心に行う。
- 第6回 Unit 3: Mediaをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
- 第7回 Unit 3: Mediaをテーマとした実用英語の演習を文法（能動態・受動態）及び読解を中心に行う。
- 第8回 Unit 4: Entertainmentをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
- 第9回 Unit 4: Entertainmentをテーマとした実用英語の演習を文法（動名詞・不定詞）及び読解を中心に行う。
- 第10回 Unit 5: Purchasingをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
- 第11回 Unit 5: Purchasingをテーマとした実用英語の演習を文法（代名詞）及び読解を中心に行う。
- 第12回 Unit 6: Clientsをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
- 第13回 Unit 6: Clientsをテーマとした実用英語の演習を文法（品詞）及び読解を中心に行う。
- 第14回 Unit 7: Recruitingをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
- 第15回 Unit 7: Recruitingをテーマとした実用英語の演習を文法（品詞）及び読解を中心に行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。授業外課題は主にリスニングと文法を中心に、アプリでの演習を行い、繰り返し学んで身に付ける。また、授業でのL&R演習の説明ができるよう予習・復習を行う。（事前・事後学習毎回平均各2時間）。

課題に対するフィードバックの方法

既習箇所の習熟度を確認するために毎回復習を行う。毎回の単語課題、L&R演習の取り組み結果、並びに、授業での発表等に対し解説を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により60点以上を合格として所定の単位を認定する。正当な理由無しに5回以上欠席した場合には原則として評価不能とみなしK評価とする。遅刻3回で欠席1回の扱いとする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	Vocabulary Worksheet (10) 単語・文法Quiz (10) L&R演習、発表 (15)	Vocabulary Worksheet: 1, 4単語・文法Quiz: 1, 4L&R演習、発表: 2, 3, 4
授業外での評価	10	テキストのReadingの演習を行う	テキストのReadingの演習を行う: 2, 3, 4
定期試験	50	筆記試験 (Listening & Reading)	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		

その他	5	積極的な質問・発表・取り組み	2, 3
テキスト	The HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST 金星堂/2,200/ISBN978-4-7647-4045-7		
参考書	必要に応じて授業の中で別途紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 授業を欠席した場合は、欠席した授業の内容をクラスメートに確認し、自らフォローアップしておくこと。		

授業コード	22012401	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	経営のしくみ [遠隔リアルタイム]				
シラバス執筆(全員)	市川 直樹				
シラバス執筆(主)	市川 直樹				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

経営のしくみは、ビジネス環境が変化する状況で、経営資源を最適に組み合わせ適切にマネジメントを行うために、ビジネスに携わるために必要な資質や能力を養成することを目標とします。このため、経営の①企業、②組織、③経営資源のマネジメントで構成します。

① ビジネスとマネジメント

ここでは、企業や会社、ビジネスおよびマネジメントの概要について理解するとともに、マネジメントの意義と課題について考察します。また、創業者や経営者の理念が企業の発展に及ぼす影響について、具体的な事例を用いて分析します。

② 組織のマネジメント

ここでは、組織の形態、経営理念や経営戦略などの組織のマネジメントについて理解するとともに、企業を取り巻く環境の分析、経営戦略の具体的な事例などを紹介します。

③ 経営資源のマネジメント

ここでは、経営資源としての人的資源、物的資源、財務的資源、情動的資源などがあることを理解し、これらのマネジメントに関する技法を習得し、経営資源の適切な管理と効果的な活用について考察します。

到達目標

- ① 経営の仕組みについて実務に即して体系的・系統的に理解します。
- ② 経営管理に関する基礎的な知識や理論を習得させ、ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自ら学び、ビジネスにおけるマネジメントに主体的かつ協働的に取り組む態度を養成します。
- ③ マネジメントに関する課題を発見し、ビジネスに携わる者として科学的な根拠に基づいて創造的に解決する能力と態度を養成します。

授業計画

第1回 オリエンテーション

企業と経営について考察します。

第2回 企業と会社

会社の種類、会社の設立、会社運営の仕組み、経営資源について考察します。

第3回 マネジメントの役割

現代社会における企業やビジネスの役割、およびマネジメントの役割について考察します。

第4回 イノベーションの重要性

イノベーションの意義、イノベーションの障害と克服などについて考察します。

第5回 ビジネスの外部環境

グローバル化、規制緩和、情報通信技術の発展、少子高齢化などの影響について考察します。

第6回 組織の形態

組織とマネジメント、分業と分化、組織の基本形態、人と組織のマネジメントについて考察します。

第7回 経営理念

企業の存在目的、経営理念の意義と必要性、コーポレート・アイデンティティなどについて考察します。

第8回 経営戦略

経営戦略の意義、3C分析、SWOT分析、組織の形態（機能別部門組織と事業部制組織）などについて考察します。

第9回 経営戦略の方向性

プロダクト・ポートフォリオ・マネジメント、ファイブフォース分析、競争戦略などについて考察します。

第10回 人的資源のマネジメント

人的資源の管理の考え方、人的資源をマネジメントする上での課題について考察します。人的資源仕事の配分と人材の育成（教育・訓練と昇進・キャリア）、給与体系、勤労意欲と動機づけ、労使の利害調整などについて解説します。

第11回 物的資源のマネジメント

物的資源をマネジメント（マーケティング）する上での課題について考察します。販売活動とマーケティング、マーケティング要素（製品開発、価格決定、流通チャネル、販売促進）とマーケティング・ミックスなどについて解説します。

第12回 財務的資源のマネジメント

財務的資源をマネジメントする上での課題について考察します。資本の調達方法、効率的な資本の運用などについて理解し、資本調達と資本運用の現状・課題について考察します。さらに、財務諸表の役割について具体的な事例と関連付けて解説します。

第13回 情動的資源のマネジメント

情動的資源をマネジメントする上での課題について考察します。企業を取り巻く外部環境に関する情報、顧客情報、知的財産等の技術力、信用など情動的資源の重要性とその管理の方法および情動的資源をマネジメントする上での課題について解説します。

第14回 企業の秩序と責任

企業統治、リスクマネジメント、企業の社会的責任について考察します。

第15回 経営の仕組みのまとめ

①企業、②組織、③経営資源のマネジメントについてまとめます。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業は講義形式ですが、ここで紹介する技法を活用し、身近な問題に活用するなどの作業を行います。事前学習では、授業計画を一読し、経営用語などをインターネットや参考書などで調べて、授業に臨んでください。

事後学習では、参考書などにより補足して理解を深め、習得できるまで復習してください。Moodle上の演習問題が100%の正解となるように努力し、参考書などにより補足して理解を深めるなどの主体的学習に努めてください。さらに、課題に取り組んでください。

第1回 授業オリエンテーション

事前学習

授業のシラバスを一読し、授業構成を理解する 1.0 時間

事後学習

オリエンテーション説明内容にもとづき経営の基礎知識を自修し、ノートを準備する 1.0 時間

第2回 企業と会社

事前学習

講義要綱を一読し、記載されている用語や内容を調べたうえで、授業に臨んでください。1.5時間

事後学習

プリントにより復習し、Moodleにより演習問題おとび課題を提出してください。2.5時間

第3回 マネジメントの役割

事前学習

講義要綱を一読し、記載されている用語や内容を調べたうえで、授業に臨んでください。1.5時間

事後学習

プリントにより復習し、Moodleにより演習問題おとび課題を提出してください。2.5時間

第4回 イノベーションの重要性

事前学習

講義要綱を一読し、記載されている用語や内容を調べたうえで、授業に臨んでください。1.5時間

事後学習

プリントにより復習し、Moodleにより演習問題おとび課題を提出してください。2.5時間

第5回 ビジネスの外部環境

事前学習

講義要綱を一読し、記載されている用語や内容を調べたうえで、授業に臨んでください。1.5時間

事後学習

プリントにより復習し、Moodleにより演習問題おとび課題を提出してください。2.5時間

第6回 組織の形態

事前学習

講義要綱を一読し、記載されている用語や内容を調べたうえで、授業に臨んでください。1.5時間

事後学習

プリントにより復習し、Moodleにより演習問題おとび課題を提出してください。2.5時間

第7回 経営理念

事前学習

講義要綱を一読し、記載されている用語や内容を調べたうえで、授業に臨んでください。1.5時間

事後学習

プリントにより復習し、Moodleにより演習問題おとび課題を提出してください。2.5時間

第8回 経営戦略

事前学習

講義要綱を一読し、記載されている用語や内容を調べたうえで、授業に臨んでください。1.5時間

事後学習

プリントにより復習し、Moodleにより演習問題おとび課題を提出してください。2.5時間

第9回 経営戦略の方向性

事前学習

講義要綱を一読し、記載されている用語や内容を調べたうえで、授業に臨んでください。1.5時間

事後学習

プリントにより復習し、Moodleにより演習問題おとび課題を提出してください。2.5時間

第10回 人的資源のマネジメント

事前学習

講義要綱を一読し、記載されている用語や内容を調べたうえで、授業に臨んでください。1.5時間

事後学習

プリントにより復習し、Moodleにより演習問題おとび課題を提出してください。2.5時間

第11回 物的資源のマネジメント

事前学習

講義要綱を一読し、記載されている用語や内容を調べたうえで、授業に臨んでください。1.5時間

事後学習

プリントにより復習し、Moodleにより演習問題おとび課題を提出してください。2.5時間

第12回 財務的資源のマネジメント

事前学習

講義要綱を一読し、記載されている用語や内容を調べたうえで、授業に臨んでください。1.5時間

事後学習

プリントにより復習し、Moodleにより演習問題おとび課題を提出してください。2.5時間

第13回 情報的資源のマネジメント

事前学習

講義要綱を一読し、記載されている用語や内容を調べたうえで、授業に臨んでください。1.5時間

事後学習

プリントにより復習し、Moodleにより演習問題おとび課題を提出してください。2.5時間

第14回 企業の秩序と責任

事前学習
講義要綱を一読し、記載されている用語や内容を調べたうえで、授業に臨んでください。1.5時間
事後学習
プリントにより復習し、Moodleにより演習問題おとび課題を提出してください。2.5時間
第15回 経営の仕組みのまとめ
事前学習
第2回から第14回までのテキストを復習し、経営の仕組みに関する基本的な知識や考え方をまとめてください。1.5時間
事後学習
これまでの講義を振り返り、マネジメントについて再考してください。2.5時間

課題に対するフィードバックの方法

例題については授業内で解説する。
演習問題についてはMoodleにより実施するためMoodleによりフィードバックされる。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業期間中に実施される演習問題や課題、および定期試験（Moodleによる筆記試験）の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定されます。なお、定期試験の受験がない場合には、評価の対象とせず、「K」評価となります。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	演習問題(Moodle)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Google Classroomから出される課題	1, 2, 3
定期試験	50	定期試験(Moodleによる筆記試験)	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト テキストは使わず、プリントを配布する予定です。

参考書
周佐喜和著『専門基礎ライブラリー 経営学1』実教出版 ISBN978-4-407-31617-9 1,650円
井原久光著『テキスト経営学:基礎から最新の理論まで』
榊原清則著『経営学入門 上・下』
藤田誠著『経営学入門』
網倉久永・新宅純二郎著『経営戦略入門』
ピーター・F・ドラッカー著 上田惇生翻訳『マネジメント エssenシャル版 - 基本と原則』
中川功一著『ど素人でもわかる経営学の本 単行本』
三谷宏治著『新しい経営学 単行本』
長内厚著『読まずにわかる!「経営学」イラスト講義』
高橋伸夫

履修条件・他の科目との関連 特にありません。

授業コード	22012601	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	経済のしくみ [遠隔リアルタイム]				
シラバス執筆(全員)	市川 直樹				
シラバス執筆(主)	市川 直樹				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「経済のしくみ」は、ミクロ経済理論およびマクロ経済理論の基礎的な知識を習得し、「経済のしくみ」や概念について理解させるとともに、経済理論にもとづいて価格の決定、景気の循環、経済政策の影響など経済の動きに着目して、経済事象を主体的に考察する能力と態度を養成することを目標とします。このため、①市場と経済、②需要と供給、③経済成長と景気循環、④経済政策から構成します。また、経済事象を主体的に考察できるようにするため、新聞やテレビ、およびインターネットなどによく出てくる用語を取り上げ、日ごろから経済社会の動向に興味・関心をもたせるとともに、具体的な経済事象について経済理論と関連付けて考察します。

①市場と経済

生活と市場との関わりを理解し、市場の概念や資源配分の手段としての市場メカニズムを理解し、市場の役割および市場の課題について、サービス化・情報化・国際化の観点から考察します。

②需要と供給

需要の概念と需要の変化と供給の概念と供給の変化を取り扱い、需要と供給の変化の特徴や需要と供給に影響を与える要因について、および需要と供給に着目した市場に関する理論について理解し、価格決定の仕組みおよび現実社会における市場の役割と課題について検討します。

③経済成長と景気循環

国内総生産について理解し、物価の変動による国内総生産への影響、経済成長の要因、景気循環の仕組みなどを取り扱います。また、インフレーションとデフレーションが経済社会に及ぼす影響について、経済指標の国際比較などにしたがって分析し、日本の経済成長と景気変動の現状について考察します。

④経済政策

財政政策と金融政策の意義および財政と中央銀行の役割について理解し、日本における財政政策と金融政策の現状・課題について考察します。

到達目標

- ① 経済のしくみや概念について理解します。
- ② 経済に関する基礎的な知識を習得させ、経済理論が果たす役割と意義を理解します。
- ③ 経済に関する基礎的な知識や理論にもとづき、経済事象や経済社会の動向を主体的に考える能力と態度を養成します。

授業計画

第1回 授業オリエンテーション

経済学の体系と授業の構成について説明します。経済学の目的、経済学の方法、経済学を学ぶ理由について考察します。

第2回 経済とは

経済活動、消費、生産、資本、貨幣、所得について説明します。財とサービス、消費と生産、分配、欲求と消費、効用、生産と生産活動、生産要素、希少性、資本と資本の分類、生産財、貨幣と貨幣の機能、家計と企業、所得と所得の種類と所得の分配について考察します。

第3回 市場と経済

資源配分の仕組み、現代の市場、市場と競争について説明します。財とサービス、資源配分メカニズム、市場メカニズム、市場経済と計画経済、市場の役割や位置づけの発展、現代の市場経済の特色、金融市場の役割、現代の金融市場、市場と差別化、市場の種類、市場経済と競争について考察します。

第4回 需要と供給

消費行動の原理、生産者の行動原理、需要と供給の概念について説明します。消費行動、限界効用逓減の法則、価格と消費量、需要の概念、生産活動の目的、売上高と費用と利潤、投入物と産出物、資本と労働、価格と生産量、供給の概念、について考察します。

第5回 価格決定と市場の役割

価格決定のメカニズム、市場の役割と課題について説明します。市場と価格、プライス・テーカー、需要と供給と価格の関係、価格決定、市場と市場メカニズム、財と生産要素の配分、完全競争市場と不完全競争市場、独占と独占企業、寡占と寡占市場、カルテル・トラスト・コンツェルン、独占禁止法について考察します。

第6回 市場の役割と政府の役割

市場の失敗、経済の外部性、情報の非対称性、公共財の供給問題、市場の失敗と政府の役割について説明します。外部経済と外部不経済の特徴、情報の非対称性の問題と対処法、私的財と公共財、法規制や監視組織の整備、税・補助金政策、情報公開制度や認可制度の整備、公共財の供給、市場の役割と政府の役割について考察します。

第7回 マクロ経済学の基本

マクロ経済学の対象、経済の大きさ、景気と景気循環、物価と物価指数について説明します。国の豊かさ、国民所得、国富、フローとストック、付加価値、国民経済計算、国内総生産、景気と景気循環、物価と物価指数について考察します。

第8回 経済活動の大きさ

国内総生産と国内純生産、経済規模を測る指標、三面等価の原理について説明します。国内総生産(GDP)、国内純生産(NDP)、国民所得(NI)と国内総所得(GDI)、国内総支出(GDE)、一人当たり国内総生産、付加価値、間接税と補助金、三面等価の原理について考察します。

第9回 インフレーションとデフレーション

物価と景気変動、景気変動の原因、インフレーション、デフレーションについて説明します。物価、物価指数、物価上昇率、消費者物価指数と企業物価指数、需要ショックと供給ショック、スタグフレーション、インフレーション（インフレ）、デフレーション（デフレ）、良いインフレと悪いインフレについて考察します。

第10回 為替レートと貿易収支

為替レートと外国為替市場、円高と円安、貿易収支について説明します。為替、為替レート、外国為替市場、円高と円安、為替リスク、国際収支、経常収支、貿易収支、貿易黒字と貿易赤字について考察します。

第11回 政府の役割

政府の役割、大きな政府、小さな政府について説明します。政府の市場介入、混合経済体制、国有化と民営化、公共サービスの提供、社会資本の整備、所得の再分配、経済の安定化について考察します。

第12回 社会保障制度と租税制度

社会保障制度、租税政策について説明します。社会財政政策、生存権とナショナル・ミニマム、社会保険、公的扶助、社会福祉、公衆衛生、社会保障の給付と負担の問題、高齢化、セーフティ・ネット、租税政策、国税と地方税、可処分所得、直接税と間接税、国民負担率、減税政策と増税政策、最高限界税率、国際競争力について考察します。

第13回 財政政策

財政政策、日本の財政の現状について説明します。経済政策、財政政策、自動安定化装置と裁量の財政政策、財政出動、公共投資、一般会計、特別会計、公営企業会計、国家予算、財政赤字と国債、国家財政と地方財政、日本の財政の課題、について考察します。

第14回 金融政策

金融、中央銀行の役割、金融政策について説明します。金融と金融政策、直接金融と間接金融、市中銀行と中央銀行、日本銀行の業務、準備預金制度、本源的預金、信用創造、通貨、政府預金、金融引締策と金融緩和策、マネタリーベース、マネー・ストック、ハイパワード・マネーについて考察します。

第15回 経済の仕組みのまとめ

①市場と経済、②需要と供給、③経済成長と景気循環、④経済政策についてまとめます。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習では、テキストには書き込み式のWork Shopがあります。ここでは、テキストでの学びを、社会の経済現象から経済学を学ぶ形式で、Work Shopに調査・分析・比較して、作成することになっています。このため、Work Shopの内容を確認し、授業内で作成できるよう、事前に考えて、授業に臨んでください。

事後学習では、参考書などにより補足するなど、完全に理解できるまで復習してください。また、授業内でWork Shopでの解答例を例示しますから、これにもとづいて解答を再考してください。さらに、Moodle上の演習問題を実行し、その解答が100%の正解になるように努力してください。このように、事前・事後学習においても主体的に学習をしてください。

第1回 授業オリエンテーション

事前学習

授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する 1.0 時間

事後学習

オリエンテーション説明内容にもとづき心理学の基礎知識を自修し、ノートを準備する 1.0 時間

第2回 経済とは

事前学習

テキストを一読し、用語や内容を調べたうえで、Google ClassroomでのWork Shopの解答を考えてください。1.5 時間

事後学習

テキストにより復習し、Work Shopを再考してください。また、Moodleにより演習問題を繰り返し行ってください。2.5時間

第3回 市場と経済

事前学習

テキストを一読し、用語や内容を調べたうえで、Google ClassroomでのWork Shopの解答を考えてください。1.5 時間

事後学習

テキストにより復習し、Work Shopを再考してください。また、Moodleにより演習問題を繰り返し行ってください。2.5時間

第4回 需要と供給

事前学習

テキストを一読し、用語や内容を調べたうえで、Google ClassroomでのWork Shopの解答を考えてください。1.5 時間

事後学習

テキストにより復習し、Work Shopを再考してください。また、Moodleにより演習問題を繰り返し行ってください。2.5時間

第5回 価格決定と市場の役割

事前学習

テキストを一読し、用語や内容を調べたうえで、Google ClassroomでのWork Shopの解答を考えてください。1.5 時間

事後学習

テキストにより復習し、Work Shopを再考してください。また、Moodleにより演習問題を繰り返し行ってください。2.5時間

第6回 市場の役割と政府の役割

事前学習

テキストを一読し、用語や内容を調べたうえで、Google ClassroomでのWork Shopの解答を考えてください。1.5 時間

事後学習

テキストにより復習し、Work Shopを再考してください。また、Moodleにより演習問題を繰り返し行ってください。2.5時間

第7回 マクロ経済学の基本

<p>事前学習 テキストを一読し、用語や内容を調べたうえで、Google ClassroomでのWork Shopの解答を考えてください。1.5時間</p> <p>事後学習 テキストにより復習し、Work Shopを再考してください。また、Moodleにより演習問題を繰り返し行ってください。2.5時間</p> <p>第8回 経済活動の大きさ</p> <p>事前学習 テキストを一読し、用語や内容を調べたうえで、Google ClassroomでのWork Shopの解答を考えてください。1.5時間</p> <p>事後学習 テキストにより復習し、Work Shopを再考してください。また、Moodleにより演習問題を繰り返し行ってください。2.5時間</p> <p>第9回 インフレーションとデフレーション</p> <p>事前学習 テキストを一読し、用語や内容を調べたうえで、Google ClassroomでのWork Shopの解答を考えてください。1.5時間</p> <p>事後学習 テキストにより復習し、Work Shopを再考してください。また、Moodleにより演習問題を繰り返し行ってください。2.5時間</p> <p>第10回 為替レートと貿易収支</p> <p>事前学習 テキストを一読し、用語や内容を調べたうえで、Google ClassroomでのWork Shopの解答を考えてください。1.5時間</p> <p>事後学習 テキストにより復習し、Work Shopを再考してください。また、Moodleにより演習問題を繰り返し行ってください。2.5時間</p> <p>第11回 政府の役割</p> <p>事前学習 テキストを一読し、用語や内容を調べたうえで、Google ClassroomでのWork Shopの解答を考えてください。1.5時間</p> <p>事後学習 テキストにより復習し、Work Shopを再考してください。また、Moodleにより演習問題を繰り返し行ってください。2.5時間</p> <p>第12回 社会保障制度と租税制度</p> <p>事前学習 テキストを一読し、用語や内容を調べたうえで、Google ClassroomでのWork Shopの解答を考えてください。1.5時間</p> <p>事後学習 テキストにより復習し、Work Shopを再考してください。また、Moodleにより演習問題を繰り返し行ってください。2.5時間</p> <p>第13回 財政政策</p> <p>事前学習 テキストを一読し、用語や内容を調べたうえで、Google ClassroomでのWork Shopの解答を考えてください。1.5時間</p> <p>事後学習 テキストにより復習し、Work Shopを再考してください。また、Moodleにより演習問題を繰り返し行ってください。2.5時間</p> <p>第14回 金融政策</p> <p>事前学習 テキストを一読し、用語や内容を調べたうえで、Google ClassroomでのWork Shopの解答を考えてください。1.5時間</p> <p>事後学習 テキストにより復習し、Work Shopを再考してください。また、Moodleにより演習問題を繰り返し行ってください。2.5時間</p> <p>第15回 「経済のしくみ」のまとめ</p> <p>事前学習 第2回から第14回までのテキストを復習し、経済の仕組みに関する基本的な知識や考え方をまとめてください。1.5時間</p> <p>事後学習 これまでの講義を振り返り、経済と現在の経済社会の動向との関係について再考してください。2.5時間</p>

課題に対するフィードバックの方法

Work Shopについては授業内で解説します。
演習問題についてはMoodleにより実施するためMoodleによりフィードバックします。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業期間中にMoodleにより実施される演習問題、Work Shop演習問題についてはMoodleにより実施するためMoodleによりフィードバックされます。
および試験（Moodleによる筆記試験）の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定されます。なお、定期試験の受験がない場合には、評価の対象とせず、「K」評価となります。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
---------	----------	---------	-------------

授業内での評価	30	演習問題 (Moodle)	1, 2, 3
授業外での評価	20	Work Shop (Google Classroom)	1, 2, 3
定期試験	50	定期試験 (Moodleによる筆記試験)	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	山田久監修 大久保研治、柴田有祐、清水雅貴、葉山幸嗣、半谷俊彦、望陀英美子著 『Primary大学テキスト これだけはおさえたい経済学 学びのガイダンス』実教出版 ISBN 978-4-407-33550-7 1,650円 (税込)		
------	--	--	--

参考書	木暮太一著『社会人のためのやりなおし経済学』 小塩 隆士著『高校生のための経済学入門』 茂木 喜久雄著『らくらく経済学入門たまご』 高橋洋一著『たった1つの図でわかる! 図解経済学入門』 菅原晃著『高校生からわかるマクロ・ミクロ経済学』 ジョセフ E. スティグリッツ著『スティグリッツ入門経済学 第4版』 井堀利宏著『大学4年間の経済学が10時間でざっと学べる』 池上彰著『経済のことよくわからないまま社会人になってしまった人へ』 N・グレゴリー・マンキュー著『マンキュー入門経済学 第3版 マンキュー経済学シ		
-----	--	--	--

履修条件・他の科目との関連	特にありません。		
---------------	----------	--	--

授業コード	22053301	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	起業概論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	杉山 維彦				
シラバス執筆(主)	杉山 維彦				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義では、著名な起業家・創業者の事例に基づきながら、ベンチャー企業を取り巻く経営環境とその経営戦略について詳しく学ぶ。
 その際、起業家の着眼点のユニークさや新規事業展開のあり方に焦点を当てることとする。
 受講学生の中にある起業家に対するイメージと実態のギャップを埋めることと、アントレプレナーシップに関わるスキルが重要なテーマとなる。
 「起業家＝お金持ち＝成功者」という単純な図式に疑問を投げかけられるよう講義を展開していく。
 本講義で起業家のリーダーシップ(アントレプレナーシップ)を学ぶと共に、将来起業する際のリスクや必要となる法律問題も取り上げていく。

到達目標

1. ベンチャー企業を取り巻く経営環境とその変化を理解する。
2. ベンチャー企業の果たす社会的な役割を理解し、大企業、中小企業との相違を説明できる。
3. 起業に関連する社会貢献の重要性を理解する。
4. アントレプレナーシップを理解する。

授業計画

- 【第1回】 プロローグ & ガイダンス (経営・企業・ベンチャーとは何か)
- 【第2回】 ベンチャー企業とは —ベンチャービジネスとスタートアップス
- 【第3回】 起業家の特徴と背景 起業家を取り巻く経営環境とその変化
- 【第4回】 社会企業家とソーシャルイノベーション
- 【第5回】 アントレプレナーシップ
- 【第6回】 市場参入計画 —魅力ある事業分野の選択
- 【第7回】 創業計画作成 —事業コンセプトの策定と確立 創業計画作成
- 【第8回】 起業のリスクと法律問題
- 【第9回】 ベンチャーキャピタルと支援インフラ
- 【第10回】 企業の資金調達と人材マネジメント
- 【第11回】 成長のマネジメント① —事業承継の重要性
- 【第12回】 成長のマネジメント② —「ファミリービジネス」の有用性
- 【第13回】 ベンチャー論のフロンティア —「ボーングローバル」の登場
- 【第14回】 職業選択としての起業
- 【第15回】 エピローグ & まとめ (現代のビジネスパーソンにとっても重要な能力)

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

前回までの講義内容を確認し復習しておくこと。また、日頃より観光業界の動向について新聞や専門誌などを用いて情報収集を行うこと。

- 【第1回】
 事前 シラバスを熟読し、起業とは何かを調べておく。 2.0時間
 事後 経営とベンチャーについて理解する。 2.0時間
- 【第2回】
 事前 ベンチャー企業とは何か調べる。 2.0時間
 事後 経営する事とは何か理解する。 2.0時間
- 【第3回】
 事前 どんな起業家がいるか調べてくる。 2.0時間
 事後 起業家の苦悩を理解する。 2.0時間
- 【第4回】
 事前 ソーシャルイノベーションとは何かを調べる。 2.0時間
 事後 未来を拓く社会的価値の創造とは何か覚える。 2.0時間
- 【第5回】
 事前 アントレプレナーシップとは何かを調べる。 2.0時間
 事後 アントレプレナーシップに関わるスキルを覚える。 2.0時間
- 【第6回】
 事前 市場参入とは何か調べる。 2.0時間

事後 新規事業の立ち上げと参入パターンのプロセスを覚える。 2.0時間

【第7回】

事前 創業計画作成とは何か調べる。 2.0時間

事後 事業を始めるにあたってその事業の概略や資金調達の方法について考える。 2.0時間

【第8回】

事前 リスクマネジメントについて調べる。 2.0時間

事後 起業リスクを整理する。 2.0時間

【第9回】

事前 ベンチャーキャピタルとは何か調べる。 2.0時間

事後 投資へのリターンについて理解する。 2.0時間

【第10回】

事前 人材マネジメントとは何か調べる。 2.0時間

事後 「ヒト」「モノ」「カネ」を理解する。 2.0時間

【第11回】

事前 事業承継とは何か調べる。 2.0時間

事後 後継者、休廃業・解散、を整理する。 2.0時間

【第12回】

事前 ファミリービジネスとは何か調べる。 2.0時間

事後 起業の私物化を理解する。 2.0時間

【第13回】

事前 ボーングローバル企業を調べてくる。 2.0時間

事後 グローバリゼーションを理解する。 2.0時間

【第14回】

事前 自分で会社設立 - 起業する方法を調べる。 2.0時間

事後 起業のメリットを考える。 2.0時間

【第15回】

事前 これまでの全体を振り返り、わからないことをまとめてくる。 2.0時間

事後 就職せず起業することの選択肢を考える。 2.0時間

課題に対するフィードバックの方法

毎回コメントシートを提出する。その内容について、次週返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

毎回求めるコメント、課題提出、定期試験に代わるレポート、授業態度により総合的に判断し、60点以上を合格とする。
正当な理由がない欠席6回以上、課題提出が著しく悪い、定期試験に代わるレポート未提出、これらの場合は評価対象とはしない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	小テスト(15)、指名での返答(15)、授業に臨む態度を考慮する	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	レポート課題を5回程度課する。テーマは授業中に指示するのでできる限り欠席しないように。	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	学習したこと全体からテーマを絞り、レポート課題をおこなう。 テーマは複数準備するので、その中から選択して提出をしよう。 テーマやボリューム、提出期限、提出方法など詳細は授業中に説明をする。	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト テキストは使用しない。

参考書 松田修一『経営学入門シリーズ ベンチャー企業(第3版)』日本経済新聞社
江副浩正『リクルートのDNA—起業家精神とは何か』角川書店
大江 建『起業戦略—ビジネスの生み方・育て方』講談社現代新書
忽那憲治・山田幸三・明石芳彦『日本のベンチャー企業 アーリーステージの課題と支援』日本経済評論社
アレックス・オスターワルダー&イヴ・ビニョール著、小山龍介訳『ビジネスモデル・ジェネレーション』翔泳

参考書	社 P.F.ドラッカー著、上田淳生訳『イノベーションと起業家精神』ダイヤモンド社
履修条件・他の科目との関連	<p>「経営のしくみ」を受講していることが望ましい。 講義を主体とするが、その場でグループワークや個人の指名も行う。 配布物(プリントなど)は、翌々回(次の次の回)までしか配布しないので、欠席する場合は注意! 授業内で小テストを行い、また、レポート課題も授業内で提示する。 また、期末試験に代わるレポートも授業中にテーマを発表する。 よって、欠席した場合は、これらの情報や得点が得られない懸念があるので、なるべく欠席をしない様に。 あわせてGoogle classroomでも情報を発信するが、教室内で伝達の方が有利な情報があることを承知してください。</p> <p>Schedules are subject to change without notice.</p>

授業コード	22039902	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	マナー演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	栗栖 美帆				
シラバス執筆(主)	栗栖 美帆				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

マナー、ホスピタリティについて学び、どのような場面においても、美しい日本語、英語を話し、首尾一貫した美しい立ち居振る舞いができ、様々な社会や文化の理解を通して、国際社会に通用するマナーを身に付けることを目的とする。担当教員が以前、航空会社の国内線・国際線の客室乗務員や国際ボランティアに従事していた経験をもとに、実務家教員として、グローバルな視野を持って、国際社会で自信を持って立ち居振る舞うことができるマナーを身に付けて頂けるよう演習型の授業を実施する。授業は演習型で進めていき、授業内でペアワークやグループワークを通して、実践的にマナーを学ぶと同時に協調性や協働性を通して、他者への思いやりの精神、ホスピタリティマインドを育み、あらゆる場面で活かすことができる接遇力向上も図る。

到達目標

1. 様々な社会や文化を理解し、国際社会で通用するマナーを身に付け、実践することができる。
2. ビジネスの場だけでなく、社会生活のどのような場面においても、美しい日本語、英語を話し、首尾一貫した美しい立ち居振る舞いができる。
3. ペアワークやグループワークに積極的に参加し、協調性、協働性を身に付け、他者への思いやりの精神やホスピタリティマインドを育む。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（授業の進め方・授業概要・評価基準説明・自己紹介）
 第2回 マナーの歴史と意味・レポート課題提出
 第3回 国際人としてのプロトコール
 第4回 良い第一印象の決め方・美しい立ち居振る舞い
 第5回 実技演習（入退室・お辞儀・椅子の座り方/立ち方）
 第6回 日本語の敬語（美しい言葉遣い）
 第7回 英語の敬語
 第8回 小テスト（敬語）・異文化理解と接客英会話①
 第9回 異文化理解と接客英会話②・レポート課題提出
 第10回 社会人としての心構え・ビジネスマナー
 第11回 実技演習（名刺交換）・電話対応の仕方（日本語）
 第12回 電話対応の仕方（英語）
 第13回 食事のマナー
 第14回 冠婚葬祭
 第15回 小テスト・総括

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

事前学習：毎回、その回のテーマのテキスト箇所を目を通して授業に出席する。

事後学習：各回、学んだ内容を復習し、授業の振り返り学習をする。また、内容によっては、繰り返し声に出して復習することや実技の反復練習を実施することで、知識の定着を図り、実践で活かすことができるようにする。

課題に対するフィードバックの方法

実技演習や実技テストの結果や授業で課した課題に関しては、授業内でフィードバック・指導する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。尚、正当な理由なく欠席回数が5回を超えた場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	実技テスト(2回)(20) / 小テスト(2回)(20)	1, 2, 3
授業外での評価	20	レポート(2回)(20)	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポート(当該授業終了後)(20)	1, 2

その他	20	授業内の質問・発言・取り組み姿勢(20)	1, 2, 3
テキスト	『マナー＆プロトコルの基礎知識』/ NPO法人日本・マナープロトコル協会著/NPO法人日本マナー・プロトコル協会発行/ 1650円(税込) ISBN 978-4-9913-0500-9		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	※正当な理由がなく欠席回数が5回を超えた場合は、成績評価不能「K」評価となるので注意すること。		

授業コード	22034701	授業形態	演習	実務家教員	<input type="radio"/>
授業科目名	秘書実務総合演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	児島 尚子				
シラバス執筆(主)	児島 尚子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「秘書概論」や「秘書実務Ⅰ・Ⅱ」で学んだ知識やスキルを活用しながら、ビジネス場面を想定した実践の場で課題が解決できる能力を育成する。

具体的には、PBL (Project-Based Learning) を導入して問題を発見し、チーム単位で解決すべき課題を明確にする。次にその課題を解決するための資料を収集し、調査を行い、得られたデータを整理分析する。さらにこの分析に基づき、解決策を考察し、その結果を振り返りながら発表する。

授業の形態は、グループワーク・発表等である。

* 実務家としての経歴を活かす授業

企業での役員秘書の経験をもとに、実務家教員として、秘書業務に関する理論と実践への応用を関連付けながら授業を行う。また、ビジネスマンを目指す人たちに役立つ授業にしたい。

到達目標

1. グループで意見交換ができる
2. 自らの力で問題発見ができる
3. 秘書が現実に直面する問題点を浮き彫りにして、説明できる
4. 自分自身で問題発見ができ、それを分析して問題解決ができる
5. 補助資料となるパワーポイントが作成できる
6. 全員の前でプレゼンテーションができる

授業計画

★この授業は、対面授業です。

【第1回】

テーマ：オリエンテーション (PBLの説明) 問題解決のための基礎知識

内容・方法：授業の進行と注意点、PBLの概要についての説明をしてからグループ分けをする

【第2回】

テーマ：「来客対応」における問題発見、話し合い、役割分担

内容・方法：来客対応をする際の問題点を発見し、グループワークしながら来客対応時に必要な秘書の心構えや秘書に求められる能力について話し合い、役割を決める

【第3回】

テーマ：「来客対応」に関する資料収集、パワーポイントの作成

内容・方法：情報収集したものを基に、発表の準備をする

【第4回】

テーマ：各チームの発表、評価表作成 (聴衆)

内容・方法：チームごとにパワーポイントを用いながら発表し、聴衆は評価シートに記入する

【第5回】

テーマ：「電話対応」における問題発見、話し合い、役割分担

内容・方法：グループワークしながら電話対応時に必要な秘書の心構えや秘書に求められる能力について話し合い、役割を決める

【第6回】

テーマ：資料収集、パワーポイントの作成

内容・方法：情報収集したものを基に、発表の準備をする

【第7回】

テーマ：「電話対応」に関する各チームの発表、評価表作成 (聴衆)

内容・方法：チームごとにパワーポイントを用いながら発表し、聴衆は評価シートに記入する

【第8回】

テーマ：「会議のコーディネート」における問題発見、話し合い

内容・方法：グループワークしながら会議コーディネート時に必要な秘書の心構えや秘書に求められる能力について話し合い、役割を決める

【第9回】

テーマ：「会議のコーディネート」に関する資料収集、パワーポイントの作成

内容・方法：情報収集したものを基に、発表の準備をする

【第10回】

テーマ：「会議のコーディネート」に関する各チームの発表、評価表作成 (聴衆)

内容・方法：チームごとにパワーポイントを用いながら発表し、聴衆は評価シートに記入する

【第11回】

テーマ：「出張業務」における問題発見、話し合い、役割分担

内容・方法：グループワークしながら出張業務時に必要な秘書の心構えや秘書に求められる能力について話し合い、役割を決める

【第12回】

テーマ：「出張業務」に関する資料収集、パワーポイントの作成

内容・方法：情報収集したものを基に発表の準備をする

【第13回】

テーマ：「出張業務」に関する「各チームの発表、評価表作成（聴衆）」

内容・方法：チームごとにパワーポイントを用いながら発表し、聴衆は評価シートに記入する

【第14回】

テーマ：レポート作成

内容・方法：「ナレッジワーカーとなるために必要なことは何か」について今まで調べたり発表したことから考察してレポートを作成する

【第15回】

テーマ：結果の発表と全体の評価、まとめ

内容・方法：4つのテーマのまとめと、これからのビジネスワーカーに必要な事柄をまとめる

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要となる。各回はそれぞれ事前学習1.5時間、事後学習2.5時間を要する。事前・事後学習を合わせ4時間以上の学習を必要とする。
グループで課題についてパワーポイントを使用してプレゼンテーションを行うため、自身の役割をよく把握し、調査、発表準備を行うこと。

課題に対するフィードバックの方法

プレゼンテーションの後、質疑応答を行い、スライドや発表に關しての詳細をコメントする。

成績評価の方法・基準(方針)

評価割合に基づき総合的に評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
授業への積極的参加（発言等）は加点する。
グループワークでの取り組み姿勢、資料作成、プレゼンテーション等で評価する。毎回ワークシートを提出すること。
正当な理由なく、6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	グループワークでの取り組み姿勢(30)、資料作成(20)、プレゼンテーション(30)等で評価する。毎回、ワークシートを提出すること。	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	課題提出	2, 3
その他	0		

テキスト 1年次に履修した「秘書概論」と「秘書実務Ⅰ・Ⅱ」のテキストを使用する。

参考書 『秘書概論—これからの企業秘書・国際秘書へ向けて—』北垣日出子、高橋眞知子、平田祐子 他 / (株)樹村房 / ISBN978-4-88367-217-2
『新・ビジネスとオフィスワーク』水原道子、平田祐子 他 / (株)樹村房 / ISBN978-4-88367-335-3

履修条件・他の科目との関連 ●2年生後期開始までに、『秘書概論』『秘書実務Ⅰ・Ⅱ』の単位を修得済みであることが履修条件である。
●「上級秘書士」の資格取得のための必修科目である。
●全員がパワーポイントを用いて発表するため、プレゼンテーションの基本として、前期に「基礎演習Ⅱ（プレゼンテーション）」を履修していることが望ましい。
●授業日に配付する書類は出席や成績の対象となるため、必ず、授業が終わるまでに提出すること（後日は受け付けない）。

授業コード	22034801	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	簿記会計 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	林 兵磨				
シラバス執筆(主)	林 兵磨				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は、企業が行っている簿記の基本的技法や、さらに簿記の根底にある会計理論を教授することを目的とする。ここで学習する簿記とは、簡単に言うと企業が行う様々な取引(売上げなど)を記録するための記録方法のことを指すが、その記録だけではなく、その記録に基づき1年間のもうけ(利益)の金額を計算し、それを広く社会に報告するという一連の行為までのことをいう。

特にこの科目(簿記会計 I)では、企業が日常的に行っている取引(収入や支出、仕入れや売り上げなど)の記録方法を指導する。

授業の進め方は、毎回担当者による一定のレクチャーの後、問題演習とその解答解説を行うという方法で進めていく。受講生には積極的な姿勢をもって授業に参加することが求められる。

到達目標

本科目における受講生の到達目標は下記のとおりとする。

1. 受講生が簿記の意義や簿記が現代社会の中で果たしている役割について説明できるようになること
2. 受講生が複式簿記の基本原則を理解し、それを他者に説明できるようになること
3. 受講生が企業が行現金の収入・支出や商品の仕入れ・売り上げといった日常的な取引について、簿記で正確に記帳ができるようになること

授業計画

第1回	簿記の意義と目的
第2講	簿記一巡の流れ
第3講	簿記の5要素と仕訳の基本
第4講	現金の会計処理
第5講	預金の会計処理
第6講	商品売買の会計処理 I 商品売買の基本仕訳
第7講	商品売買の会計処理 II 手形取引、電子記録債権債務
第8講	商品売買の会計処理 III 前払金及び前受金、クレジット売掛金、受取商品券
第9講	商品売買の会計処理 IV 商品売買に係る補助簿
第10講	その他の債権・債務の会計処理 I 貸付金及び借入金等
第11講	その他の債権・債務の会計処理 II 給料関係
第12講	有形固定資産の会計処理 I 有形固定資産の意義及び特徴等
第13講	有形固定資産の会計処理 II 有形固定資産の取得及び売却、減価償却
第14講	純資産(資本)の会計処理
第15講	税金関係の会計処理

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

必要学習時間は、毎回事前学習・事後学習各1.5時間である。また、これに加えて期末試験対策のための学習時間として合計15時間は要する。

第1講	
事前学習	テキストの「はじめに」の部分をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの第1章の該当箇所の問題に取り組むこと
第2節	
事前学習	テキストの「簿記の意義と目的」の章の前半部分をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの「簿記の意義と目的」の該当問題に取り組むこと
第3講	
事前学習	テキストの「簿記の意義と目的」の章の後半部分をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの「簿記の意義と目的」の該当問題に取り組むこと
第4講	
事前学習	テキストの「現金預金」の章の前半部分をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの「現金預金」の該当問題に取り組むこと
第5講	
事前学習	テキストの「現金預金」の章の後半部分をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの「現金預金」の該当問題に取り組むこと
第6講	
事前学習	テキストの「商品売買 I」の章をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの「商品売買 I」の該当箇所の問題に取り組むこと
第7講	
事前学習	テキストの「商品売買 II」の章をよく読んでおくこと

事後学習	テキストの「商品売買Ⅱ」の該当箇所の問題に取り組むこと
第8講 事前学習	テキストの「商品売買Ⅲ」の章をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの「商品売買Ⅲ」の該当箇所の問題に取り組むこと
第9講 事前学習	テキストの「商品売買Ⅳ」の章をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの「商品売買Ⅳ」の該当箇所の問題に取り組むこと
第10講 事前学習	テキストの「貸付金・借入金」の章をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの「貸付金・借入金」の該当箇所の問題に取り組むこと
第11講 事前学習	テキストの「給料関係」の章をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの「給料関係」の該当箇所問題に取り組むこと
第12講 事前学習	テキストの「固定資産Ⅰ」の章をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの「固定資産Ⅰ」の該当箇所問題に取り組むこと
第13講 事前学習	テキストの「固定資産Ⅱ」の章をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの「固定資産Ⅱ」の該当箇所の問題に取り組むこと
第14講 事前学習	テキストの「純資産(資本金)」の章をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの「純資産(資本金)」の該当箇所の問題に取り組むこと
第15講 事前学習	テキストの「税金関係」の章をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの「税金関係」の該当箇所の問題に取り組むこと

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業後にGoogle class roomを通じて課題提出を求める。課題の解答は採点をして返却する。また、重要と思われる論点については再度次の授業内で補足説明を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

下記の各評価項目に基づき総合的に判断し、100点満点で60点以上を合格とする。正当な理由なく5回を超えて欠席した場合や定期試験を受験しなかった場合には、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業中ワーク	1, 2, 3
授業外での評価	30	事後課題	1, 2, 3
定期試験	40	定期試験	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	林兵磨『簿記会計基本講義』三恵社、2,992円(税込)、2023年／ISBN番号 978486693764-9 また、上記テキストの他、毎授業前にGoogle Classroom を通じて補足資料を載せる。さらに授業中においても必要に応じてプリント配布を行う場合もある。
------	--

参考書	必要に応じて授業中に指示する。
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・簿記会計Ⅱと合わせて日商簿記検定3級の範囲を網羅するので、会計Ⅱも受講すること。 ・授業時には電卓を持参すること。 ・やむを得ず授業を欠席した場合には、Google Classroomで授業資料を確認して、授業内容を自身でフォローしておくこと。
---------------	---

授業コード	22034901	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	簿記会計Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	林 兵磨				
シラバス執筆(主)	林 兵磨				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は、企業が行っている簿記の基本的技法や、さらに簿記の根底にある会計理論を教授することを目的とする。ここで学習する簿記とは、簡単に言うと企業が行う様々な取引(売り上げなど)を記録するための記録方法を指すが、その記録のことでなく、その記録に基づき1年間のもうけ(利益)の金額を計算し、それを広く社会に報告するという一連の行為までのことをいう。特にこの科目(簿記会計Ⅱ)では、利益額を計算するための決算整理仕訳および公表財務諸表の作成について指導を行う。

授業の進め方は、毎回担当者による一定のレクチャーの後、問題演習とその解答解説を行うという方法で進めていく。受講者には積極的な姿勢をもって授業に臨むことが求められる。

到達目標

本科目における受講生の到達目標は下記のとおりとする。

1. 受講生が簿記の決算手続き及び正確な利益額の算定ができるようになること
2. 受講生が公表財務諸表を作成できるようになること
3. 受講生が簿記一巡の流れについて総合的な理解ができ、それを他者に説明できるようになること

授業計画

第1講	試算表
第2講	決算整理事項Ⅰ 決算整理の概要
第3講	決算整理事項Ⅱ 売上原価
第4講	決算整理事項Ⅲ 貸倒引当金
第5講	決算整理事項Ⅳ 減価償却費
第6講	決算整理事項Ⅴ 費用の未払い、収益の未収
第7講	決算整理事項Ⅵ 費用の前払い、収益の前受け
第8講	決算整理事項Ⅶ 現金過不足
第9講	決算整理事項Ⅷ その他の事項(当座借越、貯蔵品)
第10講	決算整理後残高試算表
第11講	精算表
第12講	財務諸表
第13講	伝票会計
第14講	証憑(ひょう)
第15講	その他(修正仕訳等)

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習を必要とする。

必要学習時間は、毎回事前学習・事後学習各1.5時間である。また、これに加えて期末試験対策のための学習時間として合計15時間は要する。

第1講	
事前学習	テキストの「試算表」の章をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの「試算表」の章の問題に取り組むこと
第2節	
事前学習	テキストの「決算整理の概要」の箇所をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの「決算整理の概要」の該当箇所の問題に取り組むこと
第3講	
事前学習	テキストの「売上原価」の箇所をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの「売上原価」の該当箇所の問題に取り組むこと
第4講	
事前学習	テキストの「貸倒引当金」の箇所をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの「貸倒引当金」の該当箇所の問題に取り組むこと
第5講	
事前学習	テキストの「減価償却費」の箇所をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの「減価償却費」の該当箇所の問題に取り組むこと
第6講	
事前学習	テキストの「費用の未払い・収益の未収」の箇所をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの「費用の未払い・収益の未収」の該当箇所の問題に取り組むこと
第7講	
事前学習	テキストの「費用の前払い・収益の前受け」の箇所よく読んでおくこと
事後学習	テキストの「費用の前払い・収益の前受け」の該当箇所の問題に取り組むこと

第8講 事前学習	テキストの「決算整理事項・現金過不足」の箇所をよく読んでいくこと
事後学習	テキストの「決算整理事項・現金過不足」の該当箇所の問題に取り組むこと
第9講 事前学習	テキストの「決算整理事項・その他の事項」の箇所をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの「決算整理事項・その他の事項」の該当箇所の問題に取り組むこと
第10講 事前学習	テキストの「決算整理後残高試算表」の箇所をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの「決算整理後残高試算表」の該当箇所の問題に取り組むこと
第11講 事前学習	テキストの「精算表」の箇所をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの「精算表」の該当箇所の問題に取り組むこと
第12講 事前学習	テキストの「財務諸表」の箇所をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの「財務諸表」の該当箇所の問題に取り組むこと
第13講 事前学習	テキストの「伝票」の箇所をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの「伝票」の該当箇所の問題に取り組むこと
第14講 事前学習	テキストの「証憑(ひょう)」の箇所よく読んでおくこと
事後学習	テキストの「証憑(ひょう)」の該当問題の問題に取り組むこと
第15講 事前学習	テキストの「修正仕訳等」の箇所をよく読んでおくこと
事後学習	テキストの「修正仕訳等」の該当箇所の問題に取り組むこと

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業後にGoogle Classroom を通じて課題提出を求める。課題の解答は採点をして返却する。また、重要と思われる論点については再度次の授業内で補足説明を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

下記の各評価項目に基づき総合的に判断し、100点満点で60点以上を合格とする。
正当な理由なく5回を超えて欠席した場合や定期試験を受験しなかった場合には、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業中ワーク	1, 2, 3
授業外での評価	30	事後課題	1, 2, 3
定期試験	40	定期試験	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	林兵磨『簿記会計基本講義』三恵社、2,992円(税込)、2023年／ISBN番号 978486693764-9 また、上記テキストの他、毎授業前にGoogle Classroom を通じて資料を提示する。さらに授業中においても必要に応じてプリント配布を行う。
------	--

参考書	必要に応じて授業中に指示する。
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業は簿記会計 I の授業内容が前提となって展開されるため、簿記会計 I を履修済みであることを履修条件とする。 ・授業時には電卓を持参すること。 ・やむを得ず授業を欠席した場合には、Google Classroom で授業資料を確認して、授業内容を自分でフォローしておくこと。
---------------	--

授業コード	22040301	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	簿記会計特講 [対面]				
シラバス執筆(全員)	林 兵磨				
シラバス執筆(主)	林 兵磨				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本科目は、日商簿記検定3級の学習範囲をひとつとおり学習した学生(2年生)を対象に、総合問題演習や簿記の背景となる理論的側面の学習を通じて検定試験の合格水準の実力を養成することを目的とする。簿記の理論は近年、日商簿記検定でもしばしば出題されているところである。また、簿記の理論は日商簿記検定3級対策のみならず、今後上級の検定を目指す者にとっても有益であるといえる。

授業の進め方は、毎回担当者による一定のレクチャーの後、授業トピックに関する問題演習とその解答解説を行うという方法で進めていく。授業に積極的な姿勢で臨めるよう配慮していく。

到達目標

本科目における受講生の到達目標は下記のとおりとする。

1. 受講生が日商簿記検定3級レベルの仕訳問題をスムーズに解答できる知識を習得し、その説明ができるようになること
2. 受講生が日商簿記検定3級の財務諸表を作成できるようになること
3. 受講生が会計処理の誤りを発見・訂正して正確な財務諸表の作成ができるようになること

授業計画

第1回	簿記の基本原理の確認、簿記検定試験の概要
第2講	仕訳問題の再確認Ⅰ 現金取引
第3講	仕訳問題の再確認Ⅱ 債権債務
第4講	仕訳問題の再確認Ⅲ 商品売買
第5講	仕訳問題の再確認Ⅳ 固定資産
第6講	仕訳問題の再確認Ⅴ 純資産、税金、その他
第7講	補助簿の再確認
第8講	伝票の再確認
第9講	決算整理仕訳の再確認Ⅰ 売上原価
第10講	決算整理仕訳の再確認Ⅱ 貸倒引当金
第11講	決算整理仕訳の再確認Ⅲ 減価償却
第12講	決算整理仕訳の再確認Ⅳ 経過項目
第13講	簿記会計知識Ⅰ 帳簿組織
第14講	簿記会計知識Ⅱ 株式会社の仕組み
第15講	簿記会計知識Ⅲ 会計理論

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習を必要とする。

必要学習時間は、毎回事前学習・事後学習各1.5時間である。また、これに加えて期末試験対策のための学習時間として合計15時間は要する。

第1講	
事前学習	日商簿記3級の試験概要について調べておくこと
事後学習	テキストの簿記の基本原理に関する箇所の問題に取り組むこと
第2節	
事前学習	テキストの「現金預金」の章をよく読んで学習しておくこと
事後学習	テキストの「現金預金」の章の問題に取り組むこと
第3講	
事前学習	テキストの「債権債務」の章をよく読んで学習しておくこと
事後学習	テキストの「債権債務」の章の問題に取り組むこと
第4講	
事前学習	テキストの「商品売買」の章をよく読んで学習しておくこと
事後学習	テキストの「商品売買」の章の問題に取り組むこと
第5講	
事前学習	テキストの「固定資産」の章をよく読んで学習しておくこと
事後学習	テキストの「固定資産」の章の問題に取り組むこと
第6講	
事前学習	テキストの「純資産」の章をよく読んで学習しておくこと
事後学習	テキストの「純資産」章の問題に取り組むこと
第7講	
事前学習	「補助簿」についてよく確認しておくこと
事後学習	Google Classroomの「補助簿」の問題に取り組むこと
第8講	

事前学習	「伝票」についてよく確認しておくこと
事後学習	Google Classroomの「伝票」の問題に取り組むこと
第9講	
事前学習	テキストの「売上原価」の箇所をよく読んで学習しておくこと
事後学習	テキストの「売上原価」の該当箇所の問題に取り組むこと
第10講	
事前学習	テキストの「貸倒引当金」の箇所をよく読んで学習しておくこと
事後学習	テキストの「貸倒引当金」の該当箇所の問題に取り組むこと
第11講	
事前学習	テキストの「減価償却」の箇所をよく読んで学習しておくこと
事後学習	テキストの「減価償却」の該当箇所の問題に取り組むこと
第12講	
事前学習	テキストの「財務諸表」の箇所をよく読んで学習しておくこと
事後学習	テキストの「財務諸表」の該当箇所の問題に取り組むこと
第13講	
事前学習	テキストの「帳簿組織」の箇所をよく読んで学習しておくこと
事後学習	テキストの「帳簿組織」の該当箇所の問題に取り組むこと
第14講	
事前学習	テキストの「株式会社」の箇所をよく読んで学習しておくこと
事後学習	テキストの「株式会社」の該当箇所の問題に取り組むこと
第15講	
事前学習	テキストの「会計理論」の箇所をよく読んで学習しておくこと
事後学習	テキストの「会計理論」の該当箇所の問題に取り組むこと

課題に対するフィードバックの方法

毎回授業後にGoogle Classroomを通じて課題提出を求める。課題の解答は採点をして返却する。また、重要と思われる論点については再度次の授業内で補足説明を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

下記の各評価項目に基づき総合的に判断し、100点満点で60点以上を合格とする。
正当な理由なく5回を超えて欠席した場合や定期試験を受験しなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業中ワーク	1, 2, 3
授業外での評価	30	事後課題	1, 2, 3
定期試験	40	定期試験	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	林兵磨『財務会計論講義』創成社、2016年、2,200円(税込) ISBN: 978-4794415044 テキスト購入方法については授業中に指示する。
------	--

参考書	必要に応じて授業中に指示する。
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・簿記会計Ⅰ及びⅡのいずれも単位取得済みであること。 ・授業時には電卓を持参すること ・やむを得ず授業を欠席した場合には、Google Classroomで授業資料を確認して、授業内容を自身でフォローしておくこと。
---------------	---

授業コード	22049301	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	販売実務 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	三次 亜紀子				
シラバス執筆(主)	三次 亜紀子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

ライフデザイン学科で学ぶ学生にとって、企業の接客業務や販売業務等に関わる基本的な知識や対応方法、マナー等を学習・理解しておくことは、ビジネス社会で働く際に不可欠である。また、それらを学ぶことで、消費者としての視点から企業のビジネス活動を学ぶことにもなり、今後の日常生活や消費生活のあり方を考えるうえでも役立つと思われる。テキストを中心に分かりやすく解説し、演習問題等でそれらの能力を育成する。

内容の理解の深化には問題解答演習や課題演習が欠かせない。演習量の不足分は事後学習にて各自が積極的に取り組む必要がある。

特に、学習内容と深く関連し、就職活動を有利に展開する公的な資格として、流通業界だけでなく、幅広い業界に認められている「リテールマーケティング（販売士）検定試験3級（日本商工会議所実施）受験を推奨している。

到達目標

1. 小売業の役割が説明できる。
2. マーチャンダイジングの構成要素を理解し、その説明ができる。
3. 接客・販売業務の基本について説明できる。
4. 感じの良い接客マナーや挨拶、言葉遣いが実践できる
5. 商品価格の構成について説明できる。

授業計画

【第1回】

テーマ：オリエンテーション

内容：授業内容、リテールマーケティング（販売士）検定3級の概要、成績算出等の説明、検定合格に向けての勉強の仕方、敬語の知識

【第2回】

テーマ：第1章 小売業の類型①【1-1～1-4】

内容：小売業の役割と形態、組織小売業、フランチャイズについて説明する

【第3回】

テーマ：第1章 小売業の類型②【1-5～1-8】

内容：販売形態の種類と特徴（チェーンストア、インターネットショップとリアルショップ）について説明する

【第4回】

テーマ：第1章 小売業の類型③【1-9～1-13】

内容：店舗形態の種類と特徴（業種と業態、専門店、百貨店、スーパーマーケット）について説明する

【第5回】

テーマ：第1章 小売業の類型④【1-14～1-18】

内容：店舗形態の種類と特徴（ホームセンター、ドラッグストア、コンビニエンスストア、アアウトレットストア、COOP）について説明する

【第6回】

テーマ：第1章 小売業の類型⑤【1-19～1-22】

内容：店舗形態の種類と特徴（商店街、ショッピングセンター）について説明する

【第7回】

テーマ：第1回～第6回までの授業のまとめと確認

内容：第1回～第6回の授業内容の振り返り「第1章 小売業の種類」★理解度確認テスト1回目

【第8回】

テーマ：第2章 マーチャンダイジング①【2-1～2-4】

内容：商品の基本、マーチャンダイジングの基本、コンビニエンスストアのシステムについて説明する

【第9回】

テーマ：第2章 マーチャンダイジング②【2-5～2-8】

内容：コンビニエンスストアのシステム、商品計画の基本（品揃え、仕入など）について説明する

【第10回】

テーマ：第2章 マーチャンダイジング③【2-9～2-12】

内容：商品計画の基本（ディスプレイなど）、仕入れ計画、価格設定の基本の基本について説明する

【第11回】

テーマ：第2章 マーチャンダイジング④【2-13～2-15】

内容：価格政策と利益の構造、在庫管理の基本について説明する

【第12回】

テーマ：第2章 マーチャンダイジング⑤【2-16～2-19】

内容：在庫管理、販売管理の基本、POSシステム・バーコードの仕組みについて説明する

【第13回】

テーマ：第8回～第12回までの授業のまとめと確認

内容：第8回～第12回の授業内容の振り返り「第2章 マーチャンダイジング」★理解度確認テスト2回目

【第14回】

テーマ：第5章 販売・経営管理 ①【5-1～5-3】

内容：接客マナー、敬語、クレーム処理について説明する【第15回】

テーマ：第1回～第14回までの授業のまとめと確認

内容：第1回～第14回の授業内容の振り返り ★理解度確認テスト3回目

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回、事前学習1.5時間、事後学習2.5時間、合わせて4時間以上の学習を必要とする。

主として、各回とも下記のような事前及び事後の学習を必要とする。詳細は授業内で説明する。

- (1) 事前学習課題：テキストの指示された箇所を読み、内容の理解を心がける。
また、別途与えた課題内容について対応する。(1.5時間)
- (2) 事後学習課題：学習した内容のテキスト内問題や配布するプリントの問題を解答する。
また、検定頻出用語等を暗記し記憶量を増やす。(2.5時間)

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認テストを実施した際、授業内にて解答と解説等を行う。
課題については提出物等を採点し、他の学生にとって参考となるものは授業時に紹介する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由なく欠席数が5回を超えた場合(出席数が10回未満の場合)は、評価の対象とせず、成績評価不能「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	課題の提出状況、取り組み方を評価する(35%) 3回行う理解度確認テストの成績を評価する(15%×3回=45%)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	(当該授業終講後)レポート提出(GoogleClassroomにて出題)	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト 『1回で合格！リテールマーケティング(販売士)検定3級 テキスト&問題集』 / 上岡 史郎 著 / 成美堂出版 / 1,760円 / 978-4-415-23432-8

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連
★欠席数が5回を超えた場合(出席数が10回未満の場合)は成績評価不能「K」評価となるので注意すること。
★「リテールマーケティング(販売士)検定試験」3級受験予定者は、前期開講の「販売実務Ⅱ」「販売実務総合演習」も同時に必ず受講すること。
★この科目は、「リテールマーケティング(販売士)検定試験」3級受験者にとって、対策学習に適した科目である。
★上記テキストは、「販売実務Ⅱ」「販売実務総合演習」で使用されるテキストと同じものであるので、重複して購入しないこと。
★3回実施する理解度確認テストはパソコンを使用するので必ず持参すること。

授業コード	22049401	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	販売実務Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	三次 亜紀子				
シラバス執筆(主)	三次 亜紀子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

ライフデザイン学科で学ぶ学生にとって、企業のマーケティングや経営について理解しておくことは、ビジネス社会で働く際に不可欠である。また、それらを学ぶことで、消費者としての視点から企業のビジネス活動を学ぶことにもなり、今後の日常生活や消費生活のあり方を考えるうえでも役立つと思われる。テキストを中心に分かりやすく解説し、演習問題等でそれらの能力を育成する。

内容の理解の深化には問題解答演習や課題演習が欠かせない。演習量の不足分は事後学習にて各自が積極的に取り組む必要がある。特に、学習内容と深く関連し、就職活動を有利に展開する公的な資格として、流通業界だけでなく、幅広い業界に認められている「リテールマーケティング（販売士）検定試験3級」（日本商工会議所実施）受験を推奨している。

到達目標

1. ストアオペレーションについて理解し、その説明ができる。
2. マーケティングについて理解し、その説明ができる。
3. 利益の基本について理解し、計算ができる。
4. 感じの良い接客マナーや挨拶、言葉遣いが実践できる

授業計画

<p>【第1回】 テーマ：オリエンテーション 内容：授業内容、リテールマーケティング（販売士）検定3級の概要、成績算出等の説明、検定合格に向けての勉強の仕方、表書きと水引【3-9】について説明する</p> <p>【第2回】 テーマ：第3章 ストアオペレーション①【3-1～3-5】 内容：ストアオペレーションの基本、レジ係の役割、リーダーの資質、荷受・検収について説明する</p> <p>【第3回】 テーマ：第3章 ストアオペレーション②【3-6～3-8、3-10】 内容：補充発注、POP広告、包装の基本、ディスプレイの原則について説明する</p> <p>【第4回】 テーマ：第3章 ストアオペレーション③【3-11～3-13】 内容：ディスプレイの手法と目的について説明する</p> <p>【第5回】 テーマ：第1回～第4回までの授業のまとめと確認 内容：第1回～第4回の授業内容の振り返り「第3章 ストアオペレーション」★理解度確認テスト1回目</p> <p>【第6回】 テーマ：第4章 マーケティング①【4-1～4-4】 内容：マーケティングの基本と顧客満足経営について説明する</p> <p>【第7回】 テーマ：第4章 マーケティング②【4-5～4-8】 内容：多頻度で買い物する顧客や商圈範囲と立地条件について説明する</p> <p>【第8回】 テーマ：第4章 マーケティング③【4-9～4-12】 内容：狭域型購買促進、訪日外国人の現状、について説明する</p> <p>【第9回】 テーマ：第4章 マーケティング④【4-13～4-17】 内容：売り場づくりの基本知識、照明の基本知識について説明する</p> <p>【第10回】 テーマ：第6回～第9回までの授業のまとめと確認 内容：第6回～第9回の授業内容の振り返り「第4章 マーケティング」★理解度確認テスト2回目</p> <p>【第11回】 テーマ：第5章 販売・経営管理①【5-4～5-7】 内容：小売業・販売活動・商品・販売促進に関する法令について説明する</p> <p>【第12回】 テーマ：第5章 販売・経営管理②【5-8～5-10】 内容：環境問題に関する法令、計数管理について説明する</p> <p>【第13回】 テーマ：第5章 販売・経営管理③【5-11～5-14】 内容：消費税の基本、金銭管理、商品ロス、衛生管理について説明する</p> <p>【第14回】 テーマ：第5章 販売・経営管理④ 内容：売買損益計算の練習</p>

【第15回】

テーマ：第11回～第14回までの授業のまとめと確認

内容：第12回～第14回の授業内容の振り返り「第5章 販売・経営管理」★理解度確認テスト3回目

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回、事前学習1.5時間、事後学習2.5時間、合わせて4時間以上の学習を必要とする。

主として、各回とも下記のような事前及び事後の学習を必要とする。詳細は授業内で説明する。

- (1) 事前学習課題：テキストの指示された箇所を読み、内容の理解を心がける。
また、別途与えた課題内容について対応する。(1.5時間)
- (2) 事後学習課題：学習した内容のテキスト内問題や配布するプリントの問題を解答する。
また、検定頻出用語等を暗記し記憶量を増やす。(2.5時間)

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認テストを実施した際は、授業内で解答・解説等を行う。
課題については提出物等を採点し、他の学生にとって参考となるものは授業時に紹介する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由なく欠席数が5回を超えた場合(出席数が10回未満の場合)は、評価の対象とせず、成績評価不能「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	課題の提出状況、取り組み方を評価する(35%) 3回行う理解度確認テストの成績を評価する(15%×3回=45%)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	(当該授業終講後)レポート提出(Google Classroomにて出題)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	『1回で合格！リテールマーケティング(販売士)検定3級 テキスト&問題集』 / 上岡 史郎 著 / 成美堂出版 / 1,760円 / 978-4-415-23432-8
------	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	<p>★欠席数が5回を超えた場合(出席数が10回未満の場合)は成績評価不能「K」評価となるので注意すること。</p> <p>★「リテールマーケティング(販売士)検定試験」3級受験予定者は、前期開講の「販売実務Ⅰ」「販売実務総合演習」も同時に必ず受講すること。</p> <p>★この科目は、「リテールマーケティング(販売士)検定試験」3級受験者にとって、対策学習に適した科目である。</p> <p>★上記テキストは、「販売実務Ⅰ」「販売実務総合演習」で使用されるテキストと同じものであるので、重複して購入しないこと。</p> <p>★3回実施する理解度確認テストはパソコンを使用するので必ず持参すること。</p>
---------------	---

授業コード	22049501	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	販売実務総合演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	三次 亜紀子				
シラバス執筆(主)	三次 亜紀子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

ライフデザイン学科で学ぶ学生にとって、小売店舗経営のしくみや接客・販売技術、利益計画等の知識や態度・考え方等を理解・習得しておくことは、ビジネス社会で働く際に不可欠である。また、それらを学ぶことで、消費者としての視点から企業のビジネス活動を学ぶことにもなり、今後の日常生活や消費生活のあり方を考えるうえでも役立つと思われる。

上記に関する基本的な知識と能力は、「販売実務Ⅰ」及び「販売実務Ⅱ」においてその概略を学習することとなるが、これらの内容の深化と定着を図る目的で当該科目が開講されている。したがって、1年次前期開講の「販売実務Ⅰ」及び「販売実務Ⅱ」を履修していなければ、この授業の理解は困難である。

テキストの内容に関わる一般知識問題や演習問題、検定の過去問題を中心に授業を行い「リテールマーケティング検定3級」合格レベルの知識獲得を目指し、分かりやすく解説する。講義では日本商工会議所が実施している「リテールマーケティング検定試験3級」取得を目指して指導しているため、受検することを推奨している。この検定試験は、就職活動を有利に展開する公的な資格として、流通業界だけでなく、幅広い業界に認められている。なお、内容の理解の深化には問題解答演習や課題演習が欠かせないため、演習量の不足分は事後学習にて各自が積極的に取り組む必要がある。加えて「リテールマーケティング検定3級」を受験し合格を目指す意欲や積極性が大いに必要である。

到達目標

1. 小売店舗経営のしくみや接客・販売技術、販売促進等の知識や態度・考え方を理解し、説明できる。
2. 日本商工会議所主催の「リテールマーケティング（販売士）検定3級」レベルの内容や解法を理解し実行できる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：オリエンテーション
 内容：授業内容、リテールマーケティング（販売士）検定3級の概要、成績算出等の説明、検定問題の解答の仕方、略語の知識
- 【第2回】
 テーマ：第1章 小売業の類型
 内容：第1章 小売業の類型の重要ワードについて解説する
- 【第3回】
 テーマ：第2章 マーチャンダイジング
 内容：第2章 マーチャンダイジングの重要ワードについて解説する
- 【第4回】
 テーマ：第3章 ストアオペレーション
 内容：第3章 ストアオペレーションの重要ワードについて解説する
- 【第5回】
 テーマ：第4章 マーケティング
 内容：第4章 マーケティングの重要ワードについて解説する
- 【第6回】
 テーマ：第5章 販売経営管理
 内容：第5章 販売経営管理の重要ワードについて解説する
- 【第7回】
 テーマ：第1回～第6回までの学習内容の復習 理解度確認
 内容：第1回～第6回までの学習内容の復習 ★理解度確認テスト1回目
- 【第8回】
 テーマ：リテールマーケティング（販売士）検定3級の問題研究①
 内容：第1章小売業の類型 過去問題の解答及び解説
- 【第9回】
 テーマ：リテールマーケティング（販売士）検定3級の問題研究②
 内容：第3章ストアオペレーション 過去問題の解答及び解説
- 【第10回】
 テーマ：リテールマーケティング（販売士）検定3級の問題研究③
 内容：第4章マーケティング 過去問題の解答及び解説
- 【第11回】
 テーマ：リテールマーケティング（販売士）検定3級の問題研究④
 内容：第2章マーチャンダイジング 過去問題の解答及び解説
- 【第12回】
 テーマ：リテールマーケティング（販売士）検定3級の問題研究⑤

内容：第5章 販売経営管理 過去問題の解答及び解説

【第13回】

テーマ：第8回～第12回までの復習 理解度確認

内容：第8回～第12回までの学習内容の復習 ★理解度確認テスト2回目

【第14回】

テーマ：リテールマーケティング（販売士）検定3級の問題研究⑦

内容：第1章～第5章までの振り返りQuiz

【第15回】

テーマ：第1回～第14回までの復習 理解度確認

内容：第1回～第14回までの学習内容の復習 ★理解度確認テスト3回目

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回、事前学習1.5時間、事後学習2.5時間、合わせて4時間以上の学習を必要とする。

主として、各回とも下記のような事前及び事後の学習を必要とする。詳細は授業内で説明する。

- (1) 事前学習課題：テキストの指示された箇所を読み、内容の理解を心がける。
また、別途与えた課題内容について対応する。(1.5時間)
- (2) 事後学習課題：学習した内容のテキスト内問題や問題集の問題を解答する。
また、検定頻出用語等を暗記し記憶量を増やす。(2.5時間)

課題に対するフィードバックの方法

理解度確認テストを実施した際は、授業内にて解答・解説を行う。

課題については提出物等を採点し、他の学生にとって参考となるものは授業時に紹介する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

なお、正当な理由なく欠席数が5回を超えた場合（出席数が10回未満の場合）は、評価の対象とせず、成績評価不能「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	課題の提出状況、授業の取り組み方を評価する(35%) 3回行う理解度確認テストの成績を評価する(15%×3回=45%)	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	(当該授業終講後)レポート提出(Google Classroomにて出題)	1, 2
その他	0		

テキスト	『1回で合格！リテールマーケティング（販売士）検定3級 テキスト&問題集』 / 上岡 史郎 著 / 成美堂出版 / 1,760円 / 978-4-415-23432-8
------	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	★欠席数が5回を超えた場合（出席数が10回未満の場合）は成績評価不能「K」評価となるので注意すること。 ★「リテールマーケティング（販売士）検定試験」3級受験予定者は、前期開講の「販売実務Ⅰ」「販売実務Ⅱ」も同時に必ず受講すること。 ★検定試験問題の傾向と対策が中心となる。 ★上記テキストは、「販売実務Ⅰ」「販売実務Ⅱ」で使用されるテキストと同じものであるため、重複して購入しないこと。 ★3回実施する理解度確認テストはパソコンを使用するので必ず持参すること。
---------------	---

授業コード	22040601	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	国際ビジネス [対面]				
シラバス執筆(全員)	森田 篤司				
シラバス執筆(主)	森田 篤司				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

自動車、食品、流通分野等において日本及び海外の企業が進めてきた国際化に対する取組を、具体的な企業のケーススタディーとして取り上げ企業の基礎分析の方法を指導すると共に、各企業の現在の立ち位置及び将来の方向性について分析する基礎力を育成する。マーケティングについても解説する。

到達目標

1. グローバル企業が取り組んできた国際化に対する取組を理解し他者に説明できるようになる
2. 企業の基礎情報の分析ができるようになる
3. 国際ビジネスに対する自分自身の考えを整理して、他者に説明できるようになる

授業計画

第1回	オリエンテーション (内容・方法：授業の概要、評価の方法、到達目標について説明する) 日本経済の流れと、マーケティングの基礎について学ぶ。
第2回	日本経済の流れと、マーケティングの基礎と実践活動について学ぶ。
第3回	日清食品が推進した事業の多角化と時代背景、及び製品の多角化のアプローチについて学ぶ。
第4回	日清食品が推進した事業の多角化と国際化について学ぶ。
第5回	マクドナルドの歴史と戦略について学ぶ
第6回	ユニクロの歴史と戦略について学ぶ
第7回	コーヒー業界並びにスターバックスの歴史、グローバル戦略について学ぶ。
第8回	トヨタ自動車の北米への輸出の推進と課題、及び、北米生産の展開及び背景について学ぶ。
第9回	トヨタ自動車の将来の構想と、自動車業界が進む将来の方向について研究する。
第10回	ネスレ、コカ・コーラのグローバルR&Dについて学ぶ。
第11回	流通① 日系最大手のイオンとセブン&アイホールディングスの国際化の現状と課題を研究する。
第12回	流通② 米国大手流通を学ぶ。NIKEの戦略について学ぶ。
第13回	グローバル企業の歴史、マーケティング戦略についてのグループ研究①
第14回	グローバル企業の歴史、マーケティング戦略についてのグループ研究②
第15回	授業で学んだ国際ビジネスの意義及び国際企業の多面的な展開、アプローチについて振り返りを実施する

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。小レポート準備の為の事前・事後学習及び授業外課題に対する取り組みの為の調査・分析を行う。更に、期末試験の準備の為の授業外学習を要する。（毎回平均1.5時間の事前学習と2.5時間の事後学習が必要）

課題に対するフィードバックの方法

講義の中で小レポートを繰り返し実施し、随時受講生の理解度を確認し、解説を行う

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により60点以上を合格として所定の単位を認定する。
正当な理由無しに欠席が5回を超えた場合には原則として評価不能とみなしK評価とする。
遅刻3回で欠席1回の扱いとする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	15	国際ビジネス研究課題の発表(15)	国際ビジネス研究課題の発表: 1, 2, 3
授業外での評価	35	国際ビジネス研究課題のプレゼン資料のまとめ(10) 国際ビジネス研究課題のレポート(5) 課題レポート提出(20)	国際ビジネス研究課題まとめ: 1, 2, 3 国際ビジネス研究課題のレポート: 1, 2, 3 課題レポート提出: 1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	レポート	1, 2, 3

その他	0		
テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて別途プリントを配布する。		
参考書	必要に応じて別途紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	<p>進行によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更したりすることがある。 【講義を欠席する場合】プリント類はClassroomを確認すること(原則後日配布はしない)。 又、欠席した授業の内容をクラスメートに確認し、自らフォローアップを行っておくこと。</p>		

授業コード	22039701	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	インターンシップ（国内） [対面]				
シラバス執筆(全員)	林 兵磨、木下 佳代子、加藤 淳一				
シラバス執筆(主)	林 兵磨				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	3単位

授業の目的・概要

本授業は、企業・団体など実社会の仕事現場で、長期休暇期間を中心に就業体験（以下、インターンシップ）を行う実習科目である。仕事の実践を通じて、職業理解と自己理解を深め、経験からの気づきや学びを、将来の自律的なキャリアデザインに活かしていくことを目的とする。

事前授業では、インターンシップに目的を持って参加し、成長目標を達成していけるよう、インターンシップの参加に必要な事柄と心構えについて解説する。

事後授業では、経験の振り返りと意味づけを行い、インターンシップでの経験を活かしていくための考え方や方法を解説する。

①すべての授業への参加と授業課題の期限内提出、②すべてのエントリープロセスへの参加とエントリー課題の期限内提出、③インターンシップ実習（80時間以上）への参加と実習課題の期限内提出、これらの単位認定要件をすべて満たした者を成績評価の対象とする。

なお、本科目は、集中科目であるため通常の時間割外の時間での活動となる。また、インターンシップ実習（80時間以上）の具体的な日程は受入企業ごとに異なる。

到達目標

1. インターンシップ先企業・団体の産業・業界・職種、事業や仕事の特徴を他者にわかりやすく説明することができる
2. 自分の立場と周囲からの期待を理解し、役割を果たし、周囲に貢献することができる
3. 目標を掲げ、目標達成に向けて行動し、行動を内省・省察し、行動をより良く変えていくことができる
4. 経験に意味を見出し、自分の将来や学生生活にどのように活かしていくか説明することができる

授業計画

授業・実習等の詳細は科目説明会にて説明するので受講希望者は申し込みの上、必ず参加すること。科目説明会の日時等については、UNIPAにて案内するので、確認すること。

【事前授業(1)】オリエンテーション

授業目的・内容・プログラム・スケジュール・エントリープロセス・単位認定要件・受講条件を理解する

【事前授業(2)】目的目標設定とエントリーシートの作成

自己分析ワークを通じて、実習への参加目的と成長目標を明確にし、エントリーシート作成のための必要な視点を学ぶ

【事前授業(3)】学内選考準備

学内選考として行う教員面談を受けるための準備を行う

【事前授業(4)】事前訪問準備

受け入れ先企業・団体へ事前訪問するための準備を行う

【事前授業(5)】キックオフ研修

インターンシップ実習スタートにあたっての注意事項、実習中の心構え、実習中課題について理解する

【インターンシップ実習】

長期休暇期間を利用し、80時間以上のインターンシップ実習（期間・日時は企業ごとのプログラムによる）を行う。毎日、活動日誌を作成し、1日の振り返りを行う。

【中間授業】中間の振り返り

インターンシップ実習の折り返し地点での振り返りを行う

【事後授業】経験の振り返り

インターンシップ終了後、経験を振り返り、今後のアクションプランを言語化する

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

必要に応じて、担当教員より指示する。

授業（14時間）、インターンシップ実習（80時間以上）以外に合計41時間の事前事後学習が必要である。

【事前授業(1)】

〈事前〉シラバスを熟読の上、授業内容を理解しておくこと

〈事後〉プロフィールシートを作成すること

【事前授業(2)】

〈事前〉エントリーシートに記載が必要な項目を理解しておくこと

〈事後〉エントリーシートを作成すること

【事前授業(3)】

〈事前〉ビジネス上で必要なコミュニケーションにはどのようなものがあるか調べておくこと

〈事後〉面談担当教員に連絡の上、面談を受ける

【事前授業(4)】

〈事前〉教員面談での指導を受け、エントリーシートの内容を再考、修正しておくこと

〈事後〉受入企業担当者に連絡、日程調整の上、事前訪問（オンラインも想定）すること

【事前授業(5)】

〈事前〉企業訪問報告書をまとめておくこと

〈事後〉実習準備を整え、実習直前に企業担当者へ連絡し、最終確認を行う

【インターンシップ実習】

〈事前〉毎回の実習前には、当日の活動内容の確認を行うこと

〈事後〉毎回の実習後には、振り返りの上、活動報告書を作成する

【中間授業】

〈事前〉中間振り返りシートをまとめておくこと

〈事後〉中間振り返りシートの内容を再考すること

【事後授業】

〈事前〉最終振り返りシートをまとめておくこと

〈事後〉修了報告書を作成すること

課題に対するフィードバックの方法

課題は、授業内で講評する。また、必要に応じて個別にコメントを付して、あるいは口頭で直接フィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

すべての単位認定要件を満たした者に対し、以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

【単位認定要件】

①すべての授業への参加と授業課題の期限内提出

②すべてのエントリープロセスへの参加とエントリー課題の期限内提出

③インターンシップ実習（80時間以上）への参加と実習課題の期限内提出

【その他、成績評価に関する注意事項】

・ 正当な理由なく、所定の授業・エントリープロセス・実習に「出席しない」場合は「K評価」とする。

・ 正当な理由なく、期限までに「必要な課題の提出」がない場合、その時点で、それ以降の受講を認めない。

・ 正当な理由なく、期限までに「必要な取り組み」を行わない場合、その時点で、それ以降の受講を認めない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	20	振り返りシート 20%	1, 2, 3, 4
授業外での評価	50	エントリー課題 40% 活動報告書 10%	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	終了報告書 30%	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト テキストは使用せず、資料を配布する。

参考書 必要に応じて、授業内で紹介する。

履修条件・他の科目との関連

- ・ 集中科目であるため、学生は年度当初の履修登録の必要はない
- ・ 受講希望者は、科目説明会への参加を必須とする
- ・ 科目説明会の詳細は、対象者にUNIPAにて案内する
- ・ 科目説明会の参加は申し込みを必須とし、説明会への不参加は、その後の受講を認めない
- ・ 科目説明会に参加できなかった場合の事後対応(個別説明)は行わない

授業コード	22029101	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	ライフデザイン論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	木下 佳代子、阪口 葉子、加藤 淳一、中原 亜紀美、杉山 維彦、森田 篤司、朝野				
シラバス執筆(主)	木下 佳代子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本講義は、学生が将来の生活や人生設計について考えるための様々な知識や視点を獲得し、それらを活用しながら自身のライフプランを設計する方法を身に付けることをねらいとした、キャリアデザインコースと観光・英語コースの教員8名によるオムニバス講義である。

具体的にはまず、キャリアデザインの意義や、社会で求められるコミュニケーションスキルについて解説する。次に、資格・働くことの意義・生涯賃金・お金の大切さ等について解説するとともに、自立するとはどういうことか考察する。さらに、企業研究の必要性について解説し、自分自身の強み・弱みについての分析を行う。最後に、学習の集大成として、学生一人ひとりが自身のライフプランを作成し発表できるように指導する。

到達目標

1. 様々な視点から自己や自己を取り巻く社会を捉えることができる。
2. 暮らしや生き方をイメージし、デザインする方法を説明することができる。
3. 自立した個人として自分らしい人生のあり方を考えることができる。
4. 将来の職業を視野に入れたライフプランを設計することができる。

授業計画

【第1回】	森田	オリエンテーション(キャリアデザインとは)
【第2回】	木下	大学生生活を有意義に過ごすために
【第3回】	中原	コミュニケーションについて
【第4回】	林	資格の意義・働く意義
【第5回】	林	ニート・フリーター・貧困と生涯賃金
【第6回】	杉山	身近な異文化と多文化
【第7回】	加藤	ボランティアと人生
【第8回】	阪口	AKV25(関西国際空港ボランティア活動)
【第9回】	木下	自己分析と学生生活(PROGテストの結果・強化書を持参する)
【第10回】	森田	企業研究の必要性
【第11回】	加藤	ホスピタリティについて
【第12回】	朝野	生涯学習とワークライフバランス
【第13回】	朝野	ライフプランの作成
【第14回】	木下	ライフプラン発表準備
【第15回】	全教員	マイライフプラン発表

※授業の順番や担当者は変更する場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- (1) 第1回については事後学習3時間、他の回はそれぞれ事前学習1時間、事後学習3時間を要する。
・学習内容は各回で説明する。
- (2) このほか、発表準備としてさらに1時間を要する。

課題に対するフィードバックの方法

各教員が、テーマと授業方法に応じて適切な方法でフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

各担当教員が授業内で課す課題またはレポートと授業終講後の定期試験に代わるレポートの総合評価とする。欠席した場合には、その回の担当教員に連絡をして指示を受けること。指示に従わない場合にはその回の点が0になる。
正当な理由がなく欠席が5回を超えた場合は「K」評価となる。
正当な理由がなく「定期試験に代わるレポート」を指定した期限までに提出しなかった場合は「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	85	「各回の担当教員による課題」 到達目標に照らして、その達成度を、各回単位で、担当教員が点数評価する。 担当教員が行った各回の評価点を、同じ重み付けで加算する。	1, 2, 3, 4

授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	構成、文字数、論理性、文章の適切さなど、統一基準で、各教員がアトランダムに分担し採点する。	4
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず資料を配布する。
------	-------------------

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	授業形式: 8名の教員によるオムニバス講義で行う。 欠席した場合には、その回の担当教員に連絡をして指示を受けること。 卒業必修科目である。
---------------	---

授業コード	22039801	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	地域研究 [対面]				
シラバス執筆(全員)	朝野 美穂				
シラバス執筆(主)	朝野 美穂				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

急速な社会変化の中で、地域社会には様々な課題が生じている。同時に地域は、若者にとっての居場所や活躍の場となる可能性を持っている。この授業ではこうした背景を踏まえ、本学周辺の地域社会の現状について学ぶとともに、地域にある課題を見つけ、解決策を編み出していく方法について学習する。そして市役所等と連携し、学生が実際に地域課題の発見や解決に取り組む機会を提供し、地域社会担い手としての意欲や力を高めることを目指す。

到達目標

1. 地域社会に参加することの意義や重要性を説明できる。
2. 大学周辺地域の魅力や課題について理解し、説明できる。
3. 地域社会の課題を解決するために行動することができる。

授業計画

第1回	講義ガイダンス
第2回	地域を知るための基礎学習(1)(身近な地域の課題を見つける)
第3回	地域を知るための基礎学習(2)(課題解決の方法を学ぶ)
第4回	守口市の課題に触れる/グループのテーマ決定
第5回	グループでの学習活動(1)(資料等を用いた調査)
第6回	グループでの学習活動(2)(フィールドワークの準備)
第7回	フィールドワーク
第8回	フィールドワークの振り返り
第9回	中間発表会の準備
第10回	中間発表会
第11回	解決策の立案(1)(アイデアを出し合い選定する)
第12回	解決策の立案(2)(アイデアを練り上げる)
第13回	最終発表会の準備
第14回	最終発表会
第15回	まとめと振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回の授業で課題を課すので、次の授業前もしくは授業時に提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

授業内に実施した課題について、授業時に全般的な解説・講評を行う。定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく6回以上欠席した場合や最終発表を欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	グループワークでの貢献度(20)、ワークシート(20)、グループ発表(40)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	全授業終了後に実施するレポート試験(20)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連

- ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、一部内容を変更する場合がある。
- ・初回のガイダンスで授業の詳細について説明します。履修を考えている人は必ず出席してください。(やむをえず出席できない場合は、m-asano@oiu.jp まで連絡すること。)
- ・この授業では、グループ単位での討議や調査、発表などを多く取り入れるため、積極的に参加する姿勢を望みます。無断欠席が多い場合は、グループの活動に大きな支障をきたし、外部にも迷惑がかかるため、単位取得ができないことがあります。
- ・欠席した場合は、その回の学習内容・課題等をGoogle Classroomで確認し、期日までに課題を提出すること。

授業コード	22040701	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	食と生活 [対面]				
シラバス執筆(全員)	木下 佳代子				
シラバス執筆(主)	木下 佳代子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

近年、「食」に関する問題が後を絶たない。ライフスタイルの多様化による生活習慣病の増加、食を取り巻く環境の変化による事件、事故など、食生活がもたらす健康への影響が問題視されている。このような状況にある今、「食と生活」について、しっかりとした意識と見識を持ち、幅広い知識を習得し、総合的にアドバイスできる人材が求められている。

この授業では、栄養や調理、食品やその衛生面、食マーケットや食に関する経済について解説する。食を通じて適切な助言や指導ができるスペシャリストである「食生活アドバイザー®」3級に合格できる力をつけるよう、講義、演習形式で授業を進める。

到達目標

1. 栄養と健康に関する基礎知識を習得し、食生活アドバイザーの試験問題を解けるようになる。
2. 食文化と食習慣に関する基礎知識を習得し、食生活アドバイザーの試験問題を解けるようになる。
3. 食品学に関する基礎知識を習得し、食生活アドバイザーの試験問題を解けるようになる。
4. 衛生管理に関する基礎知識を習得し、食生活アドバイザーの試験問題を解けるようになる。
5. 食マーケットに関する基礎知識を習得し、食生活アドバイザーの試験問題を解けるようになる。
6. 社会生活に関する基礎知識を習得し、食生活アドバイザーの試験問題を解けるようになる。

授業計画

- 【第1回】 食生活アドバイザーについて：はじめに 食生活アドバイザーとは？
- 【第2回】 ウェルネス上手になろう (1) 栄養と栄養素
- 【第3回】 ウェルネス上手になろう (2) 食生活と病気予防
- 【第4回】 ウェルネス上手になろう (3) 栄養と健康のまとめ
- 【第5回】 もてなし上手になろう (1) 行事や郷土料理
- 【第6回】 もてなし上手になろう (2) 料理法と食事のマナー
- 【第7回】 買い物上手になろう (1) 食品の種類
- 【第8回】 買い物上手になろう (2) 食品表示
- 【第9回】 段取り上手になろう (1) 食中毒の予防
- 【第10回】 段取り上手になろう (2) 食品の安全性
- 【第11回】 生き方上手になろう (1) 消費者と食マーケット
- 【第12回】 生き方上手になろう (2) 流通
- 【第13回】 やりくり上手になろう (1) 暮らしと経済
- 【第14回】 やりくり上手になろう (2) 食品と環境問題
- 【第15回】 まとめ これまでの授業を振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前学習】 (各回につき1.5時間)
受講前にテキストの当該ページを熟読しておく。疑問点を明らかにし、授業で質問できるよう準備をしておく。

【事後学習】 (各回につき2.5時間)
受講後の家庭学習としては、テキスト、配付プリントを参照しながら单元ごとの問題を解き、知識の定着を図る。

課題に対するフィードバックの方法

提出課題の解答はClassroomに掲示する。
小テストの解答と解説は、授業内またはClassroomでの配信で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく5回をこえて授業に欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	課題(まとめプリント・練習問題)(40) 小テスト(30)	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	0		

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	食生活アドバイザー3級合格に準ずる内容(30)	1, 2, 3, 4, 5, 6
その他	0		
テキスト	改訂版[公式]食生活アドバイザー®テキスト&問題集／一般社団法人FLAネットワーク協会 編 ／日本能率協会マネジメントセンター／1,980 円(税込)／ISBN:9784820729808		
参考書	FLAネットワーク協会編「食生活アドバイザー公式重要用語辞典」日本能率協会マネジメントセンター発行 村井美月著「3ステップで最短合格!食生活アドバイザー検定3級テキスト&模擬問題[第4版]」秀和システム発行		
履修条件・他の科目との関連	授業内容の一部が、前期「クッキング論」や「クッキングの基礎」と重なるため、この2科目を受講していると理解が進みやすい。(本科目のみの受講は可能)		

授業コード	22040801	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	クッキング論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	木下 佳代子				
シラバス執筆(主)	木下 佳代子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

調理とは、献立作成に始まり、食材の選択入手、それを加工(調理操作)し、できた料理を盛りつけ、テーブルにセッティングするまでの一連の過程をいう。本講義では、食材を加工(調理操作)して料理にする部分を中心に、講義を進める。調理操作には、安全性への注意、栄養性の向上はもとより、おいしくすることが求められる。そこで初めに、調理とおいしさについて解説し、それから基本的な調理操作と、それらに必要な調理器具・機器についてと、よく使われる食品の調理特性を、順に、科学的理論をもとに解説する。また、近年流行の調理器具や機器、食材についても触れる。

到達目標

1. 調理の意義を説明できる。
2. おいしさの要因について説明できる。
3. 非加熱調理操作と非加熱用器具の原理・要点を説明できる。
4. 加熱調理操作と加熱用器具の原理・要点を説明できる。
5. 様々な食品の調理性を説明できる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：本授業について 調理の意義、食事設計
 内容・方法：授業の進め方、授業内容、成績評価等について説明する。調理することの意義、食事の意義と分類、献立作成の基本について講義する。
- 【第2回】
 テーマ：食べ物の嗜好性 おいしさの演出
 内容・方法：食べ物のおいしさに関与するいろいろな要因について講義する。
- 【第3回】
 テーマ：非加熱調理操作(計量・洗浄・浸漬)と器具、小テスト
 内容・方法：非加熱調理操作(計量・洗浄・浸漬)と、使用する器具について講義する。
- 【第4回】
 テーマ：非加熱調理操作(切断・粉碎・磨砕・ろ過・裏ごし・混合・攪拌・成形)と器具
 内容・方法：非加熱調理操作(切断・粉碎・磨砕・ろ過・裏ごし・混合・攪拌・成形)と使用する器具について講義する。
- 【第5回】
 テーマ：非加熱調理操作(冷却・凍結・解凍)と機器
 内容・方法：非加熱調理操作(冷却・凍結・解凍)と使用する機器について講義する。
- 【第6回】
 テーマ：加熱調理操作(ゆでる・煮る・蒸す・炊く・加圧調理)と器具、小テスト
 内容・方法：加熱操作の原理、加熱調理操作(ゆでる・煮る・蒸す・炊く・加圧調理)について講義する。
- 【第7回】
 テーマ：加熱調理操作(焼く・揚げる・炒める)と器具
 内容・方法：加熱調理操作(焼く・揚げる・炒める)について講義する。
- 【第8回】
 テーマ：加熱調理操作(電子レンジ加熱・電磁調理器加熱)と機器
 内容・方法：その他の加熱調理操作(電子レンジ加熱・電磁調理器加熱)と機器について講義する。
- 【第9回】
 テーマ：熱源の種類と加熱機器・器具、小テスト
 内容・方法：調理に使われる熱源、加熱調理機器や器具の特徴について講義する。
- 【第10回】
 テーマ：食品素材(炭水化物を多く含む食品)の調理性
 内容・方法：炭水化物の調理による変化、炭水化物を多く含む食品(米・小麦粉)の調理性について講義する。
- 【第11回】
 テーマ：食品素材(炭水化物を多く含む食品)の調理性
 内容・方法：炭水化物を多く含む食品(いも類・豆類・雑穀・でんぷん)の調理性について講義する。
- 【第12回】
 テーマ：食品素材(たんぱく質を多く含む食品)の調理性
 内容・方法：たんぱく質の調理による変化、たんぱく質を多く含む食品(食肉類・魚介類・卵類)の調理性について講義する。
- 【第13回】
 テーマ：食品素材(たんぱく質を多く含む食品)と(ビタミン・無機質を多く含む食品)の調理性
 内容・方法：たんぱく質を多く含む食品(乳とその加工品・大豆および大豆の加工品)とビタミンを多く含む食品(野菜)の調理性について講義する。
- 【第14回】
 テーマ：食品素材(ビタミン・無機質を多く含む食品)と(ゲル化剤)の調理性
 内容・方法：ビタミン・無機質を多く含む食品(果物・きのこ類・藻類・種実類)とゲル化剤(寒天・ゼラチン)

など)の調理特性について講義する。

【第15回】

テーマ：まとめ、小テスト

内容・方法：理解しにくかった部分を中心に振り返り講義する。 今後の実生活への応用について細く解説する。

※授業の進捗状況等により、授業の進行を変更する場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】事前学習2時間以上、事後学習2時間以上行う

①事前学習課題：特にありませんが、本講義を通して何を学びたいか考えてみておいてください。

②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく。
・講義で説明した食の形態や献立について、日常の食事の中で確認しておく。

【第2回】事前学習2時間以上、事後学習2時間以上行う

①事前学習課題：・テキストに目を通しておく。
・今までに一番おいしいと感じた時の食べ物とその時の状況を思い出して置いておいてください。

②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく。
・講義で説明した味や味覚について、日常の食事の中で確認しておく。

【第3回】事前学習2時間以上、事後学習2時間以上行う

①事前学習課題：・テキストに目を通しておく。
・非加熱調理操作(計量・洗浄・浸漬)に使う調理器具の種類や形状等をみておく。

②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく。
・講義中に出てきた調理器具を自宅及び店頭で確認しておく。

【第4回】事前学習2時間以上、事後学習2時間以上行う

①事前学習課題：・テキストに目を通しておく。
・非加熱調理操作(切断・粉碎・磨砕・ろ過・裏ごし・混合・攪拌・成形)に使う調理器具の種類や形状等をみておく。

②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく。
・講義で説明した内容を自宅及び店頭の冷凍冷蔵庫で確認しておく。

【第5回】事前学習2時間以上、事後学習2時間以上行う

①事前学習課題：・テキストに目を通しておく。
・自宅にある冷凍冷蔵庫の構造や庫内の食品の保管位置確認しておく。

②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく。
・講義中に出てきた調理器具を自宅及び店頭で確認しておく。
・1回目課題レポートに取り組む。

【第6回】事前学習2時間以上、事後学習2時間以上行う

①事前学習課題：・テキストに目を通しておく。
・加熱調理操作(ゆでる・煮る・蒸す・炊く・加圧調理)に使う器具の種類や使い方を確認しておく。

②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく。
・講義中に出てきた調理機器を自宅及び店頭で確認しておく。

【第7回】事前学習2時間以上、事後学習2時間以上行う

①事前学習課題：・テキストに目を通しておく。
・加熱調理操作(焼く・揚げる・炒める)に使う器具の種類や使い方を確認しておく。

②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく。
・講義中に出てきた食品を自宅及び店頭で確認しておく。

【第8回】事前学習2時間以上、事後学習2時間以上行う

①事前学習課題：・テキストに目を通しておく。
・自宅にあれば、電子レンジや電磁調理器の操作方法などを確認しておく。

②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく。
・講義中に出てきた食品を自宅及び店頭で確認しておく。

【第9回】事前学習2時間以上、事後学習2時間以上行う

①事前学習課題：・テキストに目を通しておく。
・自宅で使っている熱源、加熱調理機器や器具の種類を調べてみる。

②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく。
・講義中に出てきた食品を自宅及び店頭で確認しておく。

【第10回】事前学習2時間以上、事後学習2時間以上行う

①事前学習課題：・テキストに目を通しておく。
・米・小麦粉、およびそれらの加工品の種類調べてみる。

②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく。
・講義中に出てきた食品を自宅及び店頭で確認しておく。
・2回目課題レポートに取り組む。

【第11回】事前学習2時間以上、事後学習2時間以上行う

①事前学習課題：・テキストに目を通しておく。
・いも類・豆類・雑穀・でんぷんおよびそれらの加工品の種類調べてみる。

②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく。
・講義中に出てきた食品を自宅及び店頭で確認しておく。

【第12回】事前学習2時間以上、事後学習2時間以上行う

①事前学習課題：・テキストに目を通しておく。
・食肉類・魚介類・卵類、およびそれらの加工品の種類調べてみる。

②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく。
・講義中に出てきた食品を自宅及び店頭で確認しておく。

【第13回】事前学習2時間以上、事後学習2時間以上行う

①事前学習課題：・テキストに目を通しておく。
・乳とその加工品・大豆および大豆の加工品・野菜類の種類調べてみる。

- ②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく。
 ・講義中に出てきた食品を自宅及び店頭で確認しておく。
 【第14回】事前学習2時間以上、事後学習2時間以上行う
- ①事前学習課題：・テキストに目を通しておく。
 ・果物・きのこ類・藻類・種実類、ゲル化剤の種類を調べてみる。
- ②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく。
 ・講義中に出てきた食品を自宅及び店頭で確認しておく。
 【第15回】事前学習2時間以上、事後学習2時間以上行う
- ①事前学習課題：・テキスト全般に目を通し、これまでに学習した内容を復習しておく。
 ②事後学習課題：・テキストやノートで、講義内容を確認しておく。
 ・講義中に出てきた食品を自宅及び店頭で確認しておく。

課題に対するフィードバックの方法

提出課題は授業内で解説を行う。場合により個別にコメントを記入する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、評価方法・基準により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	小テスト(40:10×4)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	30	各回の課題レポート(30)	1, 2, 3, 4, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	授業まとめレポート(30)	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	調理学 第2版 / 日本フードスペシャリス協会 編 / 建帛社 / 2,090円(税込み価格) / ISBN:978-4-7679-0656-0
------	---

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	本講義を通じて、食の大切さ、調理することの楽しさやおもしろさを伝えます。日頃から、食品や調理器具・機器等に関心を持ち、できるだけ実際に触れ、調理し、食べることを心がけてください。
---------------	---

授業コード	22040901	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	クッキングの基礎 [対面]				
シラバス執筆(全員)	木下 佳代子				
シラバス執筆(主)	木下 佳代子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本実習は、基礎的な調理技術と知識を身につけることを第一の目的とする調理実習科目である。調理器具の衛生的な取り扱いや包丁の扱い方、素材の下処理から料理に仕上げるまでの基礎技術について指導する。また、配膳や食事のマナー、後片付けも学ぶとともに、食事の大切さと調理することの楽しさも体験できるよう指導する。

到達目標

1. 食材の基本的な扱いができる。(計量、下処理、切り方など)
2. 調理器具を適切に調理に活用できる。
3. 基本的な調理操作ができる。(ゆでる、煮る、蒸す、炊く、焼く、炒める、揚げる)
4. 盛り付け、配膳まで気を配り、調理することができる。
5. 他者と必要なコミュニケーションを取ることができる

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション・調理の基本及び献立
 ・調理実習を行うにあたっての心得や注意事項、衛生管理について
 ・授業の進め方 実習記録の取り方 成績評価について
 ・調理の基本及び献立について(講義)
- 【第2回】調理の基本・基本的な焼き菓子(1)
 <内容> ・調理器具および調理台の扱い方、計量の仕方。
 ・焼き菓子(クッキー)の基本。
- 【第3回】基本的な調理(日本料理)
 <内容> ・炊飯について
 ・包丁の種類と扱い方
 ・基本的な切り方①
- 【第4回】基本的な調理(日本料理)
 <内容> ・塩味ご飯
 ・だし汁の取り方(いりこだし)
 ・卵の調理①(焼く時の注意点とポイント)
 ・青菜の扱いと茹で方
 ・基本の盛つけと配膳について
- 【第5回】基本的な調理(西洋料理)
 <内容> ・肉の調理①、フライパンの扱い方
 ・基本的な切り方②
 ・根菜、野菜の茹で方、コンソメについて
- 【第6回】基本的な調理(日本料理)
 <内容> ・肉の調理②
 ・だし汁の取り方(混合だし)
 ・野菜の下処理、合わせ酢の種類と用途
- 【第7回】基本的な調理操作(西洋料理)
 <内容> ・魚の調理①(魚の種類と扱い方)
 ・ポタージュについて
 ・ゼラチンの扱い方
- 【第8回】基本的な調理操作(中国料理)
 <内容> ・炒め料理の基本(中華鍋の扱いと火加減)
 ・片栗粉によるとろみのつけ方
 ・魚介類の下処理(えび、いか)
 ・基本的な切り方③と飾り切り
- 【第9回】基本的な調理操作(日本料理)
 <内容> ・醤油味ご飯の種類と炊き方
 ・魚の調理②(煮物)
 ・基本的な切り方④、すり鉢の扱い方
- 【第10回】基本的な調理(西洋料理)

- <内容> ・ホワイトソースの作り方と料理の種類
 ・卵の調理②（茹でる時のポイント）
 ・パスタの種類と用途

【第11回】基本的な調理（中国料理）

- <内容> ・蒸し料理の基本（蒸し器の扱い方）
 ・焼売の包み方
 ・基本的な野菜の切り方⑤と飾り切り

【第12回】基本的な調理（日本料理）

- <内容> ・寿司飯の作り方と具材の準備
 ・白玉粉の扱い方
 ・飾り切りの種類と切り方

【第13回】クリスマス料理（西洋料理）

- <内容> ・各国のクリスマス料理について

【第14回】基本の調理確認テスト

- <内容> ・基本的な調理技術確認テスト（実技テスト）
 ・基本の調理テスト（筆記テスト）

【第15回】基本的な焼き菓子②

- <内容> ・基本的な焼き菓子（ケーキ）
 ・授業のまとめ
 ・調理室の清掃

※ 食材の入荷状況、実習の進行状況によって実習内容を一部変更する場合がある。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前事後学習として30時間（1回につき2時間）が必要です。

- 【事前学習】：前の週に事前課題用のプリントを配付する。
 配布した実習プリントを熟読し、分からないところは質問できるようにしておく。
 【事後学習】：実習レポート（食材の特徴や学んだ調理上のポイント、感想や考察などを記録する）をまとめ完成させる。
 ：実習した献立を作る。

課題に対するフィードバックの方法

各回の実習レポート（実習記録）を点検、確認し、理解できていない箇所にコメントを記入して返却する。

成績評価の方法・基準（方針）

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格点とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由がなく欠席が5回を超えた場合は「K」評価となる。
 正当な理由がなく「定期試験に代わるレポート」を指定した期限までに提出しなかった場合は「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	実習への取り組み姿勢、実習態度を評価(45) 班員との協力姿勢を評価(10) 調理技術確認テストの結果を評価(実技テスト)(15)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	20	実習レポートの完成度を評価(20)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート(調理の基本確認)の結果を評価	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト テキストを使用せず、プリントを配布する。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連
 ・授業の取り組み・手際を重視する。
 ・実習費別途徴収(7500円予定)。
 ・諸事情により実習内容が変更となる場合がある。
 ・白衣または割烹着などの長袖のもの(色柄可)、帽子または頭全体を覆える大きさの三角巾(バンダナ可)を各自準備すること。
 ・やむを得ず欠席した場合は、後日実習のプリントを受け取ること。
 ・欠席回の課題レポートを提出することがある。

授業コード	22041001	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	スイーツの基礎 [対面]				
シラバス執筆(全員)	木下 佳代子				
シラバス執筆(主)	木下 佳代子				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

家庭にある調理器具を使用して、洋菓子を中心に、簡単な和菓子、中華菓子の調理実習を行う。それに応じた飲みものや、テーブルセッティングを学び、家庭人として潤いのある生活を送るために、ティータイムの楽しみ方やおもてなしの心を習得できるよう指導する。

到達目標

1. 食品を扱う際の衛生管理ができる。
2. 食材の特徴を理解し、適切に扱うことができる。
3. 製菓に必要な調理理論を理解し、実践（製菓調理）することができる。
4. レシピを読み解き、段取りを自身で考え目的とする製菓を作成することができる。
5. テーブルセッティングを実践することができる。

授業計画

【第1回】

テーマ：スイーツ実習をはじめるにあたって（第1回のみ実習室ではなく普通教室にて実施予定。教室は後日Googleクラスルーム等で連絡）

内容・方法：オリエンテーション、実習室の使用法、調理器具の取り扱い、食品衛生について、手洗いの方法（スクラブ法）

【第2回】

テーマ：洋菓子の基本1

内容・方法：パンケーキ 調理器具の扱い方、基本的な食材の扱い方について

【第3回】

テーマ：和菓子の基本1

内容・方法：イチゴ大福、どら焼き

【第4回】

テーマ：洋菓子の基本2

内容・方法：パウンドケーキ、スノーボールクッキー、紅茶の入れ方

【第5回】

テーマ：洋菓子の応用1（イーストを使用した菓子）、氷菓子

内容・方法：ベルギーワッフル、アイスクリーム、コーヒーの入れ方

【第6回】

テーマ：和菓子の基本2（小豆あんの扱い方、米粉の扱い方）

内容・方法：小倉カステラ、みたらし団子、緑茶の入れ方

【第7回】

テーマ：洋菓子の応用2（揚げ菓子、ゲル化菓子）

内容・方法：ドーナツ、オレンジグレープフルーツゼリー、アイスティアー

【第8回】

テーマ：中華菓子の基本

内容・方法：杏仁豆腐、中華クッキー、マーラーカオ、中国茶の入れ方

【第9回】

テーマ：ゼラチンを使った洋菓子、

内容・方法：チーズケーキ、アレンジティー

【第10回】

テーマ：チョコレートを使った洋菓子

内容・方法：ブランデーチョコレートブラウニー、ホイップクリーム

【第11回】

テーマ：課題のお菓子制作（基本練習）

内容・方法：スポンジケーキ、プリン、デコレーションのデザイン画作成

【第12回】

テーマ：製パンの基本

内容・方法：発酵パン、紅茶

【第13回】

テーマ：和菓子と抹茶

内容・方法：桜餅、わらびもち、抹茶の立て方

【第14回】

テーマ：課題のお菓子制作（発表）

内容・方法：デコレーションケーキを制作し、発表する。（各自）

【第15回】

テーマ：アフタヌーンティー、清掃

内容・方法：テーブルセッティング、スコーン、焼き菓子、サンドウィッチ、紅茶

※ 食材の入荷状況、実習の進行状況によって順序の変更、実習内容の一部変更をする場合がある。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前事後学習として30時間（1回につき2時間）が必要です。

【事前学習】：前の週に事前課題用のプリントを配付する。
配付した実習プリントを熟読し、分からないところは質問できるようにしておく。
【事後学習】：実習レポート（食材の特徴や学んだ調理上のポイント、感想や考察などを記録する）をまとめ完成させる。
：実習した献立を作る。

課題に対するフィードバックの方法

オンラインでのレポート返却時にフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格点とし、所定の単位を認定する。
正当な理由がなく欠席が5回を超えた場合は「K」評価となる。
正当な理由がなく「定期試験に代わるレポート」を指定した期限までに提出しなかった場合は「K」評価となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	実習(事前準備および後片付けも含む)に取り組む態度(30) 実習時間内または期限内に作品(製菓)を仕上げることができる(10) 最終規定課題の制作(30)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	15	課題レポートの提出(15)	3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	授業まとめレポート(15)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト テキストは使用せず、プリントを配布する

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する

履修条件・他の科目との関連

- ・授業の取り組み・手際を重視する。
- ・実習費別途徴収(9000円予定)。
- ・諸事情により菓子の種類等が変更となる場合がある。
- ・白衣または割烹着などの長袖のもの(色柄可)、帽子または頭全体を覆える大きさの三角巾(バンダナ可)を各自準備すること。
- ・やむを得ず欠席した場合は、後日実習のプリントを受け取ること。
- ・欠席回の課題レポートを提出することがある。
- ・第14回および15回2回にわたる課題のお菓子製作回および最終回の実習室清掃に欠席した場合、単位を認めない。(やむを得ず学内で実習がなかった場合は清掃については免除する)

授業コード	22045801	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	カラーコーディネート [対面]				
シラバス執筆(全員)	加藤 由佳里				
シラバス執筆(主)	加藤 由佳里				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

現代社会は、色で溢れている。色は心や身体に大きな影響を与えるものであることから、個人の装いはもとより、医療、ビジネスの世界でも重要視されている。この授業では、色の知識を基礎から応用まで概説する。色は単なる感覚、感性で成り立つものではなく、理論が確立されている。その色の基礎的な知識を得ることによって社会人として、家庭人として、社会や家庭生活の中で応用できるよう、また、将来、色彩やカラーコーディネートの分野で活躍したい人にも役立つよう実務家教員としてカラーコーディネート業務に従事した経験をもとに授業を展開する。授業形態は、主として講義であるが、課題や配色分析などの実習を通して、色に関する情報収集、分析、整理についても言及する。

到達目標

1. 色に関する基本的な事柄を説明できる。
2. 色の知識を使って、配色に応用できる。
3. 社会人として、家庭人として、適切なカラーコーディネートができる。

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション（色のはたらき）
色の表し方1（色の名前）
- 【第2回】色の表し方2（色の分類）
- 【第3回】色の表し方3（PCCSの色相・明度・彩度）
- 【第4回】色の表し方4（PCCSのトーン）
- 【第5回】【第1回】～【第4回】の復習と実習〈1〉
- 【第6回】光と色（光と色の見え方・眼のしくみ・照明と色の見え方・混色）
- 【第7回】色がもたらす心理的作用（色と心理・視覚効果・錯視）と配色のイメージ（色の3属性と配色イメージ）
- 【第8回】【第6回】・【第7回】の復習と実習〈2〉
- 【第9回】配色の調和1（配色の基本・色相からの配色）
- 【第10回】配色の調和2（トーンからの配色・配色のテクニック）
- 【第11回】ファッションの中の色彩
- 【第12回】【第9回】～【第11回】の復習と配色分析の実習
- 【第13回】インテリアの中の色彩
- 【第14回】配色分析の実習作品の解説と講評
- 【第15回】まとめ
- ※受講人数により、計画の変更があり得る

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習は、該当回のテキストに目を通しておくことである。（各回1.5時間）
事後学習は、毎回の授業内容を復習し、十分に理解したうえで、必ず、次回までに必要事項を覚えてくること。
また、実習課題は期限内に仕上げしておくことである。（各回2.5時間）
それらを怠ると、次回以降の授業内容が理解できなくなる。

課題に対するフィードバックの方法

課題や実習については、講義終了時もしくは、提出期限までにGoogle Classroomに提出してもらい、コメント欄を使いながらフィードバックを行うとともに疑問点が残らないよう授業内で解説、講評する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下に示す評価方法により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく5回をこえて授業に欠席した場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
- ・配色分析課題の未提出、定期試験の未受験も「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	課題(12回を予定)(各2)、実習作品<1・2>の達成度(各6)、配色分析実習の達成度(24)	1, 2, 3
授業外での評価	0		

定期試験	40	筆記試験	1, 2
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	<p>1. 最短合格！色彩検定3級 出る順テキスト&問題集、カラボ色大学、(株)ナツメ社、1,500円＋税、ISBN 978-4-8163-6870-7</p> <p>2. ファッション&ビューティーの色彩、大関徹・田原二美・高田葉子、日本色研事業(株)、1,000円＋税、ISBN 978-4-907564-19-3</p> <p>※ 2については、在庫のある書店が少ない書籍であるため、学内書店での購入が望ましい。</p>
------	---

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・実習が含まれるので、のり、はさみ、定規などの文房具、および実習材料を必要に応じて準備すること。 ・新型コロナウイルス感染状況等により、進め方や内容を一部変更する場合があります、その場合は、Google Classroomに連絡する。
---------------	--

授業コード	22040201	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	フィットネス [対面]				
シラバス執筆(全員)	殿谷 成子				
シラバス執筆(主)	殿谷 成子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

自らの健康維持増進のために、生活の中に適度な運動を取り入れることが必要です。日常生活の中に運動を取り入れて、身体も心もリフレッシュしましょう。少し意識して身体を動かすだけで、身体だけでなく心や脳の働きにも良い影響があります。まずは正しい姿勢や美しい歩き方を身につけましょう。仲間と一緒に楽しく汗をかきましょう。日常生活でできる簡単な運動を紹介します。授業は実技を中心にを行い、健康の大切さを説明し、運動の方法を解説します。

到達目標

1. 良い姿勢を意識し、美しく歩くことができる
2. 自らの健康づくりに関心を持ち、基礎体力の向上に努める
3. 音楽に合わせて軽やかに動くことができる

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：オリエンテーションとストレッチ
 内容・方法：筋肉や関節を伸ばして、身体をほぐす
- 【第2回】
 テーマ：エアロビックダンス1
 内容・方法：リズムに乗って楽しく動く
- 【第3回】
 テーマ：エアロビックダンス2
 内容・方法：リズムに乗って楽しく動く
- 【第4回】
 テーマ：エクササイズウォーキング
 内容・方法：有酸素運動となる効果的なウォーキングを学ぶ
- 【第5回】
 テーマ：姿勢を美しく
 内容・方法：美しい姿勢を身につけるためのトレーニング
- 【第6回】
 テーマ：学外ウォーキング
 内容・方法：屋外の空気に触れ、大学周辺の景色を楽しみながら歩く(雨天順延)
- 【第7回】
 テーマ：レクリエーション、ゲーム
 内容・方法：コミュニケーションを楽しみながら身体を動かす
- 【第8回】
 テーマ：クラシックバレエの基礎
 内容・方法：フロアーレッスン：日常生活の立ち振る舞いが美しくなるように全身を意識して動かせる
- 【第9回】
 テーマ：ジャズダンスの基礎1
 内容・方法：アイソレーション(部位運動) アフタービートの音をとる
- 【第10回】
 テーマ：ジャズダンスの基礎2
 内容・方法：簡単なステップ
- 【第11回】
 テーマ：ウォーキングの復習
 内容・方法：良い姿勢で美しく歩く
- 【第12回】
 テーマ：ウォーキングのスキルテスト
 内容・方法：美しく自分らしく歩く
- 【第13回】
 テーマ：タオルを使って
 内容・方法：身近にあるタオルを使ってストレッチを行う
- 【第14回】
 テーマ：簡単な体力テスト ダンスステップのテスト
 内容・方法：自分の体力を知る リズミカルに動く
- 【第15回】
 テーマ：エアロビックスダンス3
 内容・方法：リズムに乗って楽しく動く

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

すべての回において、事前学習として、健康づくりについて知識を得る学習を1時間以上、事後学習として、学んだことを日常生活に取り入れることを3時間以上行う。

課題に対するフィードバックの方法

本人から希望があれば、具体的な点数を伝えて、どのような基準で採点したかを説明する。

成績評価の方法・基準(方針)

1. 以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する

受講態度：授業への取り組み姿勢を評価

ウォーキングのスキルテスト：良い姿勢で美しく歩いているかを評価

簡単な体力テスト：体力テストの判定基準に従う

ダンスステップのテスト：音楽に合わせて軽やかに動いているかを評価

レポート：健康づくりについて、自分の考えを含め、記述できているかを評価

2. 評価不能「K」について、成績評価対象は欠席5回までとする。欠席5回を越えた、遅刻、早退、および欠席はK評価とする

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への取り組み姿勢(60) ウォーキングのスキルテスト(10) 簡単な体力テスト(10) ダンスステップのテスト(10)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポートの完成度を評価	2
その他	0		

テキスト テキストを使用しない。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 体操服・運動靴、あるいはダンスウェア・ダンスシューズを着用すること。
美しくなりたいという意識を持って授業に参加すること。
欠席した場合は、授業中に行った連絡について、友人に自分から聞いて確認すること。

授業コード	22040202	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	フィットネス [対面]				
シラバス執筆(全員)	林 兵磨、松永 美規				
シラバス執筆(主)	林 兵磨				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

自らの健康維持増進のために、生活の中に適度な運動を取り入れることが必要です。日常生活の中に運動を取り入れて、身体も心もリフレッシュしましょう。少し意識して身体を動かすだけで、身体だけでなく心や脳の働きにも良い影響があります。まずは正しい姿勢や美しい歩き方を身につけましょう。仲間と一緒に楽しく汗をかきましょう。日常生活でできる簡単な運動を紹介します。授業は実技を中心に行い、健康の大切さを説明し、運動の方法を解説します。

到達目標

1. 良い姿勢を意識し、美しく歩くことができる
2. 自らの健康づくりに関心を持ち、基礎体力の向上に努める
3. 音楽に合わせて軽やかに動くことができる

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：オリエンテーションとストレッチ
 内容・方法：筋肉や関節を伸ばして、身体をほぐす
- 【第2回】
 テーマ：エアロビックダンス1
 内容・方法：リズムに乗って楽しく動く
- 【第3回】
 テーマ：エアロビックダンス2
 内容・方法：リズムに乗って楽しく動く
- 【第4回】
 テーマ：エクササイズウォーキング
 内容・方法：有酸素運動となる効果的なウォーキングを学ぶ
- 【第5回】
 テーマ：姿勢を美しく
 内容・方法：美しい姿勢を身につけるためのトレーニング
- 【第6回】
 テーマ：学外ウォーキング
 内容・方法：屋外の空気に触れ、大学周辺の景色を楽しみながら歩く(雨天順延)
- 【第7回】
 テーマ：レクリエーション、ゲーム
 内容・方法：コミュニケーションを楽しみながら身体を動かす
- 【第8回】
 テーマ：クラシックバレエの基礎
 内容・方法：フロアーレッスン：日常生活の立ち振る舞いが美しくなるように全身を意識して動かせる
- 【第9回】
 テーマ：ジャズダンスの基礎1
 内容・方法：アイソレーション(部位運動) アフタービートの音をとる
- 【第10回】
 テーマ：ジャズダンスの基礎2
 内容・方法：簡単なステップ
- 【第11回】
 テーマ：ウォーキングの復習
 内容・方法：良い姿勢で美しく歩く
- 【第12回】
 テーマ：ウォーキングのスキルテスト
 内容・方法：美しく自分らしく歩く
- 【第13回】
 テーマ：タオルを使って
 内容・方法：身近にあるタオルを使ってストレッチを行う
- 【第14回】
 テーマ：簡単な体力テスト ダンスステップのテスト
 内容・方法：自分の体力を知る リズミカルに動く
- 【第15回】
 テーマ：エアロビックスダンス3
 内容・方法：リズムに乗って楽しく動く

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。
 すべての回において、事前学習として、健康づくりについて知識を得る学習を1時間以上、事後学習として、学んだことを日常生活に取り入れることを3時間以上行う。

課題に対するフィードバックの方法

本人から希望があれば、具体的な点数を伝えて、どのような基準で採点したかを説明する。

成績評価の方法・基準(方針)

下記の各評価項目に基づき総合的に判断し、100点満点で60点以上を合格とする。
 正当な理由なく5回を超えて欠席した場合や定期試験を受験しなかった場合には、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への取り組み姿勢(60) ウォーキングのスキルテスト(10) 簡単な体カテスト(10) ダンスステップのテスト(10)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポートの完成度を評価	2
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	体操服・運動靴、あるいはダンスウェア・ダンスシューズを着用すること。 美しくなりたいという意識を持って授業に参加すること。 欠席した場合は、授業中に行った連絡について、友人に自分から聞いて確認すること。

授業コード	22041201	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	住まいと生活 [対面]				
シラバス執筆(全員)	郭 雅ウエン				
シラバス執筆(主)	郭 雅ウエン				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

住まいは地域の自然や歴史、生活様式、文化、慣習などを色濃く反映したものである。生活する時代や社会、また個人の価値観や生活スタイルの影響も受けている。現代のあふれる情報のなかで、また多様な生活様式がある中で、様々な要求に柔軟に対応し得る住まいが求められている。人々の生活と切り離すことが出来ない住まいのことを深く知ることで生活はより豊かなものとなる。本講義では、建物としての住まいだけでなく、そのなかで繰り広げられる日々の暮らしについても関心を高め、生活する居住者の立場に立って住まいを見直し、住まいの本質について学ぶ。時代、気候風土、日本や欧米、アジア等の各地域による住まいの違い等、様々な角度から住まいと生活について考える。

到達目標

- 1、住まいや生活にとって本当の豊かさとは何か自分の考えを述べることができる。
- 2、時代、地域、気候風土、生活文化、価値観など様々なことが住まいに影響していることについて説明できる。
- 3、日本や海外の各地域による住まいの違いから住まいと生活の多様性について説明できる。
- 4、「住まいとは何か」について自分の考えを述べることができる。

授業計画

- 第1回：住まいとは何か
内容・方法：住まいの多様化する機能について学ぶ。
- 第2回：日本の住まいの変遷 1
内容・方法：時代とともに移り変わる日本の住まいについて学ぶ。
- 第3回：日本の住まいの変遷 2
内容・方法：オモテとオク、中廊下型住宅、和洋折衷住宅について学ぶ。
- 第4回：日本の住まいの変遷 3
内容・方法：生活改善運動、イス座とユカ座、食寝分離論について学ぶ。
- 第5回：日本の住まいの変遷 4
内容・方法：モダンリビング、ダイニングキッチンが登場について学ぶ。
- 第6回：日本の住まいの変遷 5
内容・方法：標準設計、nLDK型住宅について学ぶ。
- 第7回：日本の住まい
内容・方法：日本の各地域による住まいの違いを学ぶ。
- 第8回：海外の住まい 1
内容・方法：欧米の住まい、風土による住まいの違いについて学ぶ。
- 第9回：海外の住まい 2
内容・方法：アジアの住まい、風土による住まいの違いについて学ぶ。
- 第10回：海外の住まい 3
内容・方法：その他の地域の住まいについて学ぶ。
- 第11回：環境共生のすまい
内容・方法：自然環境を取り入れた住まいについて学ぶ。
- 第12回：近代建築家の住まい 1 (1900年代)
内容・方法：建築家の設計した住まいについて学ぶ。
- 第13回：近代建築家の住まい 2 (1900年代)
内容・方法：建築家の設計した住まいについて学ぶ。
- 第14回：現代建築家の住まい (2000年代)
内容・方法：建築家の設計した住まいについて学ぶ。
- 第15回：住まいのインテリア
内容・方法：内装、家具、照明などについて学ぶ。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
事前学習課題：住まいに自分が最も求めるものは何か考えておいてください。
事後学習課題：授業レジメで復習する。
- 第2回
事前学習課題：人はどんな住まいで暮らしてきたのか調べておいてください。
事後学習課題：授業参考資料等で復習する。
- 第3回
事前学習課題：日本のオモテとオク、中廊下型住宅、和洋折衷住宅について調べておいてください。
事後学習課題：授業参考資料等で復習する。
- 第4回

事前学習課題：生活改善運動、イス座とユカ座、食寝分離論について調べておいてください。
 事後学習課題：授業参考資料等で復習する。
 第5回
 事前学習課題：モダンリビング、ダイニングキッチンについて調べておいてください。
 事後学習課題：授業参考資料等で復習する。
 第6回
 事前学習課題：標準設計、nLDK型住宅について調べておいてください。
 事後学習課題：授業参考資料等で復習する。
 第7回
 事前学習課題：日本の地域の住まいについて調べておいてください。
 事後学習課題：授業参考資料等で復習する。
 第8回
 事前学習課題：欧米の地域の住まいについて調べておいてください。
 事後学習課題：授業参考資料等で復習する。
 第9回
 事前学習課題：アジアの地域の住まいについて調べておいてください。
 事後学習課題：授業参考資料等で復習する。
 第10回
 事前学習課題：欧米とアジアの以外の地域の住まいについて調べておいてください。
 事後学習課題：授業参考資料等で復習する。
 第11回
 事前学習課題：環境共生の住まいとはなにか事前に調べておいてください。
 事後学習課題：授業参考資料等で復習する。
 第12回
 事前学習課題：近代の建築家（1900年代）について調べておいてください。
 事後学習課題：授業参考資料等で復習する。
 第13回
 事前学習課題：近代の建築家（1900年代）の設計した住まいについて調べておいてください。
 事後学習課題：授業参考資料等で復習する。
 第14回
 事前学習課題：現代の建築家（2000年代）の設計した住まいについて調べておいてください。
 事後学習課題：授業参考資料等で復習する。
 第15回
 事前学習課題：色は人に大きく影響を与えますが、照明や家具はどうでしょう。調べておいてください。
 事後学習課題：授業参考資料等で復習する。

事前1.5時間、事後2.5時間（15×4＝60時間）合計60時間

課題に対するフィードバックの方法

レポート、感想コメント提出期限後、授業内で講評・解説し、教員コメントをフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 授業内容、課題文に対する感想コメント、授業に関する発言、事前事後学習への取組みにて理解度評価。
 小レポート課題（1回）にて問題意識評価。最終レポート課題にて総合的評価。
 また正当な理由なく、2/3以上（15回中10回）の出席がない場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内容感想コメント(30)、授業に関する発言(10)、事前事後学習への取組み(10)	2, 3
授業外での評価	20	レポート課題(1回)	1
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	最終レポート課題	4
その他	0		

テキスト	授業時に適宜レジメ、参考資料等配布予定
参考書	授業時に適宜紹介
履修条件・他の科目との関連	講義で紹介したスライドなどを授業後にクラスルームに公開しますので復習などに役立ててください。

授業コード	22041601	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	防災と生活 [対面]				
シラバス執筆(全員)	諏訪 清二				
シラバス執筆(主)	諏訪 清二				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

日本は災害大国である。自然災害に対しては極めて脆弱な国である。ところが市民感覚は、「私は災害に遭わない」「災害に遭ったとしても自分は助かる」といった認識レベルでとどまっている。災害発生後のマスコミのインタビューでは「まさか自分が災害に遭うなんて」という発言がいつも繰り返される。

阪神・淡路大震災(1995)や東日本大震災(2011)の被災地では、多くの悲劇が発生し、災害からの復旧・復興に多大な努力が注ぎ込まれたが、その事実が日本全国の市民レベルで共有されているとは言えない。

本講義では、災害時に生き残り(Survivorとなるための防災教育)、他者を支援し(Supporterとなるための防災教育)、何より日常をゆたかに生き、その結果、災害時に生き延びることができ、被災者を支援できる人となる(市民力を育む防災教育)を中心に、災害との向き合い方を考える。

大阪北部地震など地域災害も取り上げながら、ハザードの理解、災害への備え、正しい対応といった狭義の防災(ミニマム・エッセンシャルズ)から、自然・人・社会との向き合い、災害体験の語り継ぎといった「広義の防災」にも学びを広げる。また、同世代の若者がどのように災害と向き合っているかを全国の実践から学び、災害を生き延びる姿勢を中心に、災害ボランティアに関心を持つ学生、災害を中心に福祉や教育、ボランティアなど、さまざまな分野で災害と向き合える学生を育成することを目指す。

学生が専攻するライフデザイン、栄養と防災との関連も考察する。

到達目標

到達目標

履修学生は以下の目標に到達することを期待される。

1. 災害を発生させるメカニズムを理解し、説明できる。
2. ハザード別に、正しい備えの方法を理解し、実行できる。
3. ハザード別に、災害発生時の正しい対応の仕方を理解し、説明できる。
4. 災害体験の語り継ぎを読み(聞き)、災害のシーンに自分を重ねて考え、自分ならどう行動するかを説明できる。
5. 自然・人・社会と災害の関係性を広い視点でとらえ、説明できる。
6. 学びを通して、災害への備え、災害ボランティアなど、実際のアクションを起こす。

授業計画

- 【第1回】
オリエンテーション 阪神・淡路大震災の語り継ぎ①：起こった事実、教訓
- 【第2回】
阪神・淡路大震災の語り継ぎ②：こどもたちが体験した震災(DVD、作文)
- 【第3回】
東日本大震災の語り継ぎ①：起こった事実、教訓
- 【第4回】
東日本大震災の語り継ぎ②：子どもたちの体験「16歳の語り部」
- 【第5回】
災害ボランティアを考える 小テスト①
- 【第6回】
災害の基本：ハザードの理解、災害対応、社会背景と私たちにできること
- 【第7回】
ワークショップ①：時系列ワークショップ「災害発生！どうする？」
- 【第8回】
大阪北部地震の教訓
- 【第9回】
南海トラフ巨大地震と各地の防災教育、防災体制
- 【第10回】
気象災害を考える 近年の水害の事実と教訓
- 【第11回】
これから日本を襲う災害 首都直下地震 南海トラフ巨大地震と津波 各地の水害 富士山の噴火 日本は大丈夫なのか 小テスト②
- 【第12回】
海外の被災地支援 ネパール地震 中国・四川大地震 インド洋大津波
- 【第13回】
ライフデザイン、栄養と災害
- 【第14回】
ワークショップ②：一日前プロジェクト 明日災害が起こる 今日何をする？
- 【第15回】
総括 災害多発国日本で、どう生きていくか 小テスト③

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。
事前にGoogle Classroomで配布される資料を読み、関連する分野の書籍で予習しておくこと。事後には質問があれば問い合わせ、かつ、自分で回答を探していく姿勢が必要である。
事前1時間、事後2時間
別途小テストの勉強5時間、レポート作成10時間
(3時間×15回+5時間+10時間=60時間)

課題に対するフィードバックの方法

毎時間、最後に小レポートを書いてもらう。疑問点などを記入してもらえれば、次回の講義の冒頭に回答する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく5回をこえて授業に欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	毎時の小レポート 30% 小テスト 30%	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	40	4, 5, 6
その他	0		

テキスト	なし 授業ごとに資料を配布する。
------	---------------------

参考書	「高校生、災害と向き合う」(岩波書店) 「夢みる防災教育」(晃洋書房) 「防災教育の不思議な力」(岩波書店) 「16歳の語り部」(ポプラ社) 「図解でわかる 14歳からの自然災害と防災」(太田出版)
-----	---

履修条件・他の科目との関連	出席を重視し、点数化する。つまり、欠席は減点となる。欠席、遅刻などはしないこと。既定の時数を出席しなければ履修は認めない。
---------------	---

授業コード	22040101	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	育児学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	松井 妙実				
シラバス執筆(主)	松井 妙実				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

乳幼児期は成長・発達の著しい時期であるため、日常の育児の在り方が乳幼児の心身の発達に大きな影響を与える。本講義では、将来の育児に役立つよう、乳幼児期の成長・発達の特徴を学び、成長・発達に応じた対応や支援ができる実践力を身につける。

到達目標

1. 乳幼児の成長・発達の特徴について説明できる。
2. 乳幼児の日常生活習慣の自立に向けての支援について説明できる。
3. 乳幼児期に罹患しやすい疾患の特徴と早期発見・予防について説明できる。
4. 救急時の対応や事故防止、安全管理の実際について説明できる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション
- 【第2回】 妊娠と出産
- 【第3回】 乳幼児を取り巻く環境
- 【第4回】 乳児の成長・発達(新生児～6か月)
- 【第5回】 乳児の成長・発達(7～12か月)
- 【第6回】 幼児の成長・発達(1歳～5歳)
- 【第7回】 乳幼児の基本的生活習慣の形成(食事・排泄・睡眠)
- 【第8回】 乳幼児の基本的生活習慣の形成(清潔・衣服の着脱・遊び)
- 【第9回】 乳幼児に罹患しやすい疾患とホームケア(発熱・腹痛・頭痛・下痢・嘔吐・咳嗽)
- 【第10回】 乳幼児に罹患しやすい疾患とホームケア(発疹・痙攣・感染症)
- 【第11回】 乳幼児の事故の特徴と事故予防対策
- 【第12回】 乳幼児の事故防止と救急処置(溺水・熱傷・外傷・誤飲・熱中症)
- 【第13回】 乳幼児の事故防止と救急処置(心肺蘇生法・AEDの使用法)
- 【第14回】 乳幼児健診と予防接種
- 【第15回】 まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
 - 【事前】 シラバスを確認し、授業構成を理解する。1.0時間
 - 【事後】 自分が幼児期に両親からしてもらってうれしかった出来事について、ノートに記述する。2.0時間
- 第2回
 - 【事前】 今までに学習した妊娠についての知識をまとめ、ノートに記述する。2.5時間
 - 【事後】 授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
- 第3回
 - 【事前】 乳幼児に関連した最近のニュースを見つけ、そのニュースについての感想をノートに記述する。2.5時間
 - 【事後】 授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
- 第4回
 - 【事前】 新生児の特徴について調べ、ノートに記述する。2.5時間
 - 【事後】 授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
- 第5回
 - 【事前】 1歳児の特徴について調べ、ノートに記述する。2.5時間
 - 【事後】 授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
- 第6回
 - 【事前】 2歳児の特徴について調べ、ノートに記述する。2.5時間
 - 【事後】 授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
- 第7回
 - 【事前】 乳幼児の食事について調べ、ノートに記述する。2.5時間
 - 【事後】 授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
- 第8回
 - 【事前】 乳幼児の衣服について調べ、レポートを作成する。2.5時間
 - 【事後】 授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
- 第9回
 - 【事前】 乳幼児の発熱がみられる疾患について調べ、ノートに記述する。2.5時間
 - 【事後】 授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
- 第10回
 - 【事前】 乳幼児の発疹がみられる疾患について調べ、ノートに記述する。2.5時間
 - 【事後】 授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間

第11回	【事前】乳幼児の事故について調べ、ノートに記述する。2.5時間 【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第11回	【事前】乳幼児の事故を防止する対策について考え、ノートに記述する。2.5時間 【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第12回	【事前】最近のニュースで最近の乳幼児の事故の記事を探し、感想をノートに記述する。2.5時間 【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第13回	【事前】今まで学習した心肺蘇生法について想起し、ノートに記述する。2.5時間 【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第14回	【事前】予防接種の種類について調べ、ノートに記述する。2.5時間 【事後】授業資料を参照し、ノートに記述する。1.5時間
第15回	【事前】授業資料、ノートを用いて復習し、不明な点について質問できるように準備する。2.5時間 【事後】授業資料、ノートをまとめる。2.5時間

課題に対するフィードバックの方法

実施したレポート、課題について採点し、評価結果については開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す通り、授業中に実施する課題・レポートと定期試験(レポート)の評価結果に基づき評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由のない欠席6回以上、課題・定期試験に代わるレポートが未提出な場合は評価対象外とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業内で課される課題(30) 毎回の授業終了時に記述する受講レポート(40)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全講義終了後に実施する定期試験に代わるレポート課題(30)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	最新初めての育児新百科、高橋孝雄監修、ベネッセコーポレーション、1400円(税別)、ISBN-978-8288-7167-7 資料として、Google Classroom を通じて授業資料のPDFファイルを適宜配布する。
参考書	必要に応じて、授業中に紹介する。
履修条件・他の科目との関連	日頃から乳幼児に関するニュースや育児雑誌を見て情報を得ておくことが望ましい。 正当な理由のない6回以上の欠席は評価対象外とする。 Goggle Classroom のクラスコードは開講までに UNIPA を通じて掲示するので、開講が近づいたら確認しておくこと。 第1回の講義に必ず出席して講義の進め方に関する注意事項を確認すること。

授業コード	22049701	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	子どもの発達論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	雨堤 優介				
シラバス執筆(主)	雨堤 優介				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

子育てや教育において子どもの発達や学習の仕組みについての知識は重要である。心理学、とりわけ発達心理学や教育心理学の分野で各発達段階での子どもの発達や課題に関する知見が蓄積されている。各発達段階の子どもがどういった能力を発達させるのかを大人が知っていれば適切な時期に、適切な方法で子どもの背中を押すことができる。そのため心理学で蓄積されてきた発達論は子どもを教育する際に役立つといえる。一方で人間には個人差があり、平均的な子どもを想定した理論のみで子どもを理解するには不十分である。発達のばらつき、つまり個人差は子どもの生まれもった特性や置かれた環境によって生まれる。子どもの個人差への気づきや個人差を理解しようとする姿勢は子どもを支援する際に役立つといえる。

本講義では、各発達段階の子どもの特徴や各発達段階で子どもが抱えやすい課題に関わる発達心理学・教育心理学の基礎的な知見について紹介する。フリースクール等での発達支援の経験をもとに、実務家教員として不適応に陥った子どもの心理やその子への支援についても適宜解説していく。授業はパワーポイントと配布資料を用いて講義形式で行う。

到達目標

1. 各発達段階の子どもの特徴を説明できる。
2. 各発達段階の子どもが抱えやすい課題について説明できる。
3. 心理学の基礎的な知識を基に子どもに対する望ましい関わり方について考えることができる。

授業計画

第1回オリエンテーション：本講義について概説する。
 第2回発達とは：人間の発達に関する基本的な考え方について説明する。
 第3回認知発達①：ピアジェの認知発達段階を中心に子どもの認知発達について説明する。
 第4回認知発達②：記憶の発達を中心に子どもの認知発達について説明する。
 第5回社会性の発達①：愛着理論を中心に子どもの社会性の発達について説明する。
 第6回社会性の発達②：仲間関係をを中心に子どもの社会性の発達について説明する。
 第7回パーソナリティ発達：人間のパーソナリティ発達について説明する。
 第8回適応と不適応：欲求や葛藤を中心に人間の個人内および環境への適応、不適応について説明する。
 第9回学習：学習理論について説明する。
 第10回動機づけ：動機づけの諸理論について説明する。
 第11回乳幼児期の発達：これまでの内容を踏まえながら乳幼児期の発達について説明する。
 第12回児童期の発達：これまでの内容を踏まえながら児童期の発達について説明する。
 第13回青年期の発達：これまでの内容を踏まえながら青年期の発達について概説する。
 第14回発達障害：発達障害について説明する。
 第15回子どもの発達とは：これまで学んだ知識の確認と振り返りを行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

第1回
 事前：シラバスを読み、本講義の目的・概要や評価方法について理解する。(1時間)
 事後：子どもの発達・教育に関するニュース等で気になったことをメモにまとめる。(1時間)

第2回
 事前：発達という言葉の意味を自分なりに考えメモしておく。(2時間)
 事後：学んだことを踏まえて自分なりの発達観を文章にまとめる。(2時間)

第3回
 事前：これまでの経験で気になった赤ちゃんや幼児の行動をメモしておく。(2時間)
 事後：自身の幼少期や周囲の乳幼児の行動を振り返り文章にまとめる。(2時間)

第4回
 事前：記憶に関して自分の関心事をみつけ、メモしておく。(2時間)
 事後：自身の記憶活動について振り返り、自身の記憶活動の特徴を文章にまとめる。(2時間)

第5回
 事前：自身の周囲やメディアから子育てに関する情報を集めメモしておく。(2時間)
 事後：学んだことを踏まえて発達における愛着の役割についてまとめる。(2時間)

第6回
 事前：今までの友達関係や最近の子どもの友達関係で気になったことをメモしておく。(2時間)
 事後：学んだことを踏まえて自身や現代の子どもの友達関係について文章にまとめる。(2時間)

第7回
 事前：自身で考える自分らしさについて文章にまとめる。(2時間)
 事後：学んだことを踏まえて個性をいかに育てるかについて文章にまとめる。(2時間)

第8回
 事前：現実の生活で「上手に過ごす」とは何か自身の考えを文章にまとめる。(2時間)

事後：学んだことを踏まえて適応的に過ごすとは何か考えて文章にまとめる。(2時間)

第9回
事前：今まで経験してきた学校での勉強や部活等の練習の仕方について文章にまとめる。(2時間)
事後：学んだことを踏まえて自身の生活に学習理論できるかを考え、文章にまとめる。(2時間)

第10回
事前：どうやったら子どもにやる気を出させるかを考え、文章にまとめる。(2時間)
事後：学んだことを踏まえて自身や他者の動機づけのコントロールについて考えて文章にまとめる。(2時間)

第11回
事前：自身や周囲の赤ちゃんや幼児の生活を振り返り、気になったことをメモしておく。(2時間)
事後：学んだことを踏まえて赤ちゃんや幼児への望ましい関わりを考え、文章にまとめる。(2時間)

第12回
事前：自身や周囲の小学校の生活を振り返り、気になったことをメモしておく。(2時間)
事後：学んだことを踏まえて児童への望ましい関わりを考え、文章にまとめる。(2時間)

第13回
事前：自身や周囲の中学校・高校・現在の生活を振り返り、気になったことをメモしておく。(2時間)
事後：学んだことを踏まえて大人になるとは何か考え、文章にまとめる。(2時間)

第14回
事前：発達障害について書籍やインターネットで調べ、気になったことをメモしておく。(2時間)
事後：学んだことを踏まえて発達障害をもつ人への関わり方について文章にまとめる。(2時間)

第15回
事前：これまでの授業内容を思い返し、学んだ知識を文章にまとめる。(3時間)
事後：学んだことを踏まえて、子どもの発達にとって大事なことや問題を抱えた子どもへの望ましい関わり方について文章にまとめる。(3時間)

課題に対するフィードバックの方法

各回に行う小レポートに関しては、次回講義の冒頭にフィードバックの時間を設ける。小テストやレポート課題に関しては採点后、希望者に開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、各授業後に実施される学習内容を確認する小レポート、授業期間中に実施される小テスト、授業期間終了後に実施される習熟度を確認するためのレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席が10回に満たない場合、小テストが2回以上未提出の場合、授業期間後に実施するレポートの提出がない場合は評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	各授業終了後に提出する小レポート(30)、第6回・第11回・第15回授業に実施する小テスト課題(45)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	学習した内容の習熟度を確認するためのレポートを課す	1, 2, 3
その他	0		

テキスト テキストは使用しない。

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 授業に対する積極的な姿勢(メモを取る、各授業後に行う小レポートでの質問等)、授業を妨げるような行為をしないことを求める。

授業コード	22030101	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	心理学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	安原 彰子				
シラバス執筆(主)	安原 彰子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

心理学は心や行動について科学的に理解し、自分自身や他者といった人間理解に役立つ学問である。本講義では、心理学事象の基礎となる感情、判断と意思決定、パーソナリティについて学ぶ。これらを通して、自分や他者の心理を理解するために、人間の心の働きを「記述する」と「説明する」ことを目標とする。

到達目標

1. 人間の心の働きを記述することができる
2. 人間の心の働きを説明することができる

授業計画

- 【第1回】 授業オリエンテーション
 - ・本科目の目的と概要について述べる。
- 【第2回】 感情 1
 - ・感情の定義と理論を紹介する。
- 【第3回】 感情 2
 - ・感情の機能について紹介する。
- 【第4回】 感情 3
 - ・感情と関連のある精神疾患について紹介する。
- 【第5回】 感情 4
 - ・ポジティブ感情と健康の関連について紹介する。
- 【第6回】 判断と意思決定 1
 - ・人の思考のクセを紹介する。
- 【第7回】 判断と意思決定 2
 - ・社会的影響力について紹介する。
- 【第8回】 判断と意思決定 3
 - ・承諾の心理メカニズムを紹介する。
- 【第9回】 判断と意思決定 4
 - ・リスク認知の特徴について紹介する。
- 【第10回】 判断と意思決定 5
 - ・災害発生時の意思決定の特徴、行動について紹介する。
- 【第11回】 パーソナリティ 1
 - ・パーソナリティの理論を紹介する。
- 【第12回】 パーソナリティ 2
 - ・パーソナリティの発達や形成要因について紹介する。
- 【第13回】 パーソナリティ 3
 - ・パーソナリティの測定方法について紹介する。
- 【第14回】 パーソナリティ 4
 - ・パーソナリティ障害について紹介する。
- 【第15回】 総括と到達度確認テスト

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

第1回

- 【事前】 授業のシラバスを熟読し、授業構成を理解する
- 【事後】 オリエンテーションの説明内容にもとづき心理学の位置づけを理解し、書き出す

第2回

- 【事前】 感情の理論について文献を検索し、その内容を書き出す
- 【事後】 授業で提示した「感情の理論」についての課題に取り組む。

第3回

- 【事前】 自身の経験を振り返り、感情の機能を考え、書き出す。
- 【事後】 授業で提示した「感情の機能」についての課題に取り組む。

第4回

- 【事前】 感情に関連のある精神疾患について検索し、その内容を書き出す。
- 【事後】 授業で提示した「精神疾患と感情の関連」についての課題に取り組む。

第5回

- 【事前】 ポジティブ感情の機能に関する文献を検索し、その内容を書き出す。
- 【事後】 授業で提示した「ポジティブ感情と健康」についての課題に取り組む。

第6回

- 【事前】 2重過程理論について文献を検索し、その内容を書き出す。
- 【事後】 授業で提示した「2つの思考システム」についての課題に取り組む。

第7回	【事前】自身の経験を振り返り、他者の依頼を承諾した時の心理学的メカニズムを考え、書き出す。 【事後】授業で提示した「社会的影響力」についての課題に取り組む。
第8回	【事前】社会的影響力について文献を検索し、その内容を書き出す。 【事後】授業で提示した「承諾の心理」についての課題に取り組む。
第9回	【事前】リスク認知に関する文献を検索し、その内容を書き出す。 【事後】授業で提示した「リスク認知」についての課題に取り組む。
第10回	【事前】災害時の意思決定について文献を検索し、その内容を書き出す 【事後】授業で提示した「災害時の意思決定」についての課題に取り組む。
第11回	【事前】パーソナリティの理論について文献を検索し、その内容を書き出す 【事後】授業で提示した「パーソナリティ理論」についての課題に取り組む。
第12回	【事前】パーソナリティの発達に関する文献を検索し、その内容を書き出す 【事後】授業で提示した「パーソナリティの発達」についての課題に取り組む。
第13回	【事前】性格検査に関する文献を検索し、その内容を書き出す 【事後】授業で提示した「パーソナリティの測定方法」についての課題に取り組む。
第14回	【事前】パーソナリティ障害に関する文献を検索し、その内容を書き出す 【事後】授業で提示した「パーソナリティ障害」についての課題に取り組む。
第15回	【事前】第1回から14回の内容を復習する。 【事後】到達度確認テストの振り返りをする。

課題に対するフィードバックの方法

- ・毎回の授業内課題に対して授業内で講評・解説します。
- ・到達度確認テストは、授業内で講評・解説します。
- ・レポートは、評価基準表にもとづく評価結果をフィードバックします。

成績評価の方法・基準(方針)

5回を超えての欠席(欠席5回、遅刻1回)はK評価となる。
以下に示す通り、授業内で実施される課題・到達度確認テストと、定期試験に代わるレポート、授業内での発言の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定します。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	毎回の授業内で課す課題(計15回・各3) 第15回に実施する到達度確認テスト(25)	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	これまでに学習した内容について課題を出す(15)	1, 2
その他	15	授業に関する発言・質問・受講態度・マナーを評価(15)	2

テキスト テキストは使用せず資料を配布します

参考書 必要に応じて授業の中で紹介します。

履修条件・他の科目との関連 受講にあたり、特別な配慮を必要とする学生は申し出てください。

授業コード	22041701	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	医療事務のしくみ [対面]				
シラバス執筆(全員)	中原 亜紀美				
シラバス執筆(主)	中原 亜紀美				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

国民皆保険制度により、今日の医療機関では保険診療業務がほとんどであり、正確かつ円滑な事務処理が求められている。この授業では、医療事務職には欠かせない医療保険制度のしくみや医療関係法規、診療報酬制度について概説する。
また、「医科 医療事務管理士技能認定試験」の検定試験合格を目指し、学科問題の対策も兼ねる。

到達目標

1. 日本の医療保険制度について説明することができる。
2. 日本の医療関連制度について説明することができる。
3. 診療報酬請求のしくみについて説明することができる。

授業計画

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 医療機関と医療保障制度
(日本の医療保障制度について概説する) |
| 第2回 | 医療保険制度
(医療保険制度のしくみについて概説する) |
| 第3回 | 保険給付
(保険給付の範囲と種類、給付割合と患者負担) |
| 第4回 | 医療保険関係法規
(健康保険法、国民健康保険法、高齢者の医療の確保に関する法律) |
| 第5回 | 公費負担医療制度
(生活保護法、感染症法、精神保健福祉法、障害者総合支援法、難病法) |
| 第6回 | その他の医療保険制度
(労働者災害補償保険、自動車損害賠償保障法) |
| 第7回 | 保険医療機関と医師
(二重指定制度、DPC制度) |
| 第8回 | 保険医療機関の指定と保険医の登録
(保険医療機関の指定、保険医の登録、指定・登録の取消し) |
| 第9回 | 施設基準等
(施設基準等の通則と届出) |
| 第10回 | 療養担当規則
(保険診療の方針と診療録の作成、保健医療機関の責務) |
| 第11回 | 診療報酬請求
(診療報酬請求のしくみ、診療報酬の審査制度) |
| 第12回 | 医療関係法規
(医療法、医師法、薬剤師法、保健師助産師看護師法など) |
| 第13回 | 演習問題①
(検定学科問題Ⅰ～Ⅲ) |
| 第14回 | 演習問題②
(検定学科問題Ⅳ・Ⅴ) |
| 第15回 | 演習問題③
(模擬試験問題) |

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【事前学習】
次回の授業テーマを確認し、該当するテキストの範囲を熟読しておく。
- 【事後学習】
授業で学んだ範囲について復習し、授業時に課される課題に取り組む。
授業で学んだ内容をテキストに書き込む、付箋等を貼るなど、資料作りをしておく。

課題に対するフィードバックの方法

小テストは採点后、返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下の評価割合に基づき総合的に評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく、5回を超えて授業を欠席した場合や定期試験を欠席した場合は、原則として「K」評価とする。
- ・授業への積極的参加(発言等)は加点する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	小テスト	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	50	筆記試験	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	10	課題提出	1, 2, 3

テキスト	『保険診療 基本法令テキストブック』 社会保険研究所(最新版) 2,600円 (ISBN:9784789409063)		
参考書	必要に応じ授業の中で紹介する		
履修条件・他の科目との関連	*「医科 医療事務管理士技能認定試験」の合格を目指す学生は、後期開講の「医療事務演習Ⅰ」「医療事務演習Ⅱ」「医療事務特講」を履修すること。		

授業コード	22053601	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	医療事務演習 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	中原 亜紀美				
シラバス執筆(主)	中原 亜紀美				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

医療事務の重要な業務の一つに診療報酬請求事務がある。適切な診療報酬の算定とレセプト作成および点検のスキルは、医療事務職を目指す上で必要不可欠である。この授業では主に、外来時の算定方法について概説する。また、「医科 医療事務管理士技能認定試験」の検定試験合格を目指し、学科問題および実技問題の対策も兼ねる。

到達目標

1. 診療報酬請求事務のしくみを説明することができる。
2. 外来時の算定ができる。

授業計画

第1回	診療報酬請求事務のしくみ（診療報酬制度の復習とレセプト作成時のポイント）
第2回	初診料の算定
第3回	再診料の算定
第4回	医学管理料の算定①（特定疾患療養管理料、特定疾患治療管理料、情報提供料）
第5回	医学管理料の算定②（その他医学管理等の算定方法）
第6回	投薬料の算定①（薬剤の基礎知識、院内処方）
第7回	投薬料の算定②（院外処方）
第8回	注射料の算定（薬剤の基礎知識、注射料の算定）
第9回	検査料の算定①（検体検査料の算定）
第10回	検査料の算定②（生体検査料の算定）
第11回	処置料の算定
第12回	手術料の算定
第13回	輸血料の算定
第14回	麻酔料・神経ブロック料の算定
第15回	在宅医療の算定（在宅患者診療・指導料、在宅療養指導管理料）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前学習】

次回の授業テーマを確認し、該当するテキストの範囲を熟読しておく。

【事後学習】

授業で学んだ範囲について復習し、授業時に課される課題に取り組む。
授業で学んだ内容を点数表に書き込む、付箋等を貼るなど、資料作りをしておく。

課題に対するフィードバックの方法

小テストは採点后、返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下の評価割合に基づき総合的に評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく、5回を超えて授業を欠席した場合や定期試験を欠席した場合は、原則として「K」評価とする。
- ・授業への積極的参加（発言等）は加点する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	小テスト	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	50	筆記試験	1, 2
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	10	課題提出	1, 2

テキスト *『診療点数早見表(最新版)』医学通信社 4,500円(4月新版のため現在、ISBN申請中のた

テキスト	<p>め不明)</p> <ul style="list-style-type: none"> * 『薬価表』ソラスト 300円 (ISBNなし) * 『テキスト2 算定とレセプト(上)』ソラスト 1,800円 (ISBNなし) * 『テキスト3 算定とレセプト(下)』ソラスト 1,300円 (ISBNなし) <p>上記はすべて「医療事務演習Ⅱ」「医療事務特講」でも併用する。</p>
参考書	必要に応じ授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> * 原則として、前期「医療事務のしくみ」を履修した学生のみ履修可能とする。 * 本授業は、「医療事務演習Ⅱ」の内容に関連しているため、必ず「医療事務演習Ⅱ」も履修すること。 * 「医科 医療事務管理士技能認定試験」の合格を目指す学生は、前期開講「医療事務のしくみ」、後期開講の「医療事務演習Ⅱ」「医療事務特講」を履修すること。

授業コード	22053701	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	医療事務演習Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	中原 亜紀美				
シラバス執筆(主)	中原 亜紀美				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

医療事務の重要な業務の一つに診療報酬請求事務がある。適切な診療報酬の算定とレセプト作成および点検のスキルは、医療事務職を目指す上で必要不可欠である。この授業では主に、「医療事務演習Ⅰ」で学習した外来時の算定方法に基づき、レセプト作成の方法について概説する。
また、「医科 医療事務管理士技能認定試験」の検定試験合格を目指し、実技問題の対策も兼ねる。

到達目標

1. 診療報酬請求事務のしくみを説明することができる。
2. 外来時の算定ができる。
3. 外来のレセプト作成ができる。

授業計画

第1回	診療報酬請求事務のしくみ（レセプトの書き方）
第2回	初診料の算定（レセプト記入と摘要欄の書き方）
第3回	再診料の算定（レセプト記入と摘要欄の書き方）
第4回	医学管理料の算定①（特定疾患療養管理料、特定疾患治療管理料、情報提供料のレセプト記入と摘要欄の書き方）
第5回	医学管理料の算定②（その他医学管理等のレセプト記入と摘要欄の書き方）
第6回	投薬料の算定①（薬剤の基礎知識、院内処方レセプト記入と摘要欄の書き方）
第7回	投薬料の算定②（院外処方レセプト記入と摘要欄の書き方）
第8回	注射料の算定（薬剤の基礎知識、注射料の算定のレセプト記入と摘要欄の書き方）
第9回	検査料の算定①（検体検査料のレセプト記入と摘要欄の書き方）
第10回	検査料の算定②（生体検査料のレセプト記入と摘要欄の書き方）
第11回	処置料の算定（レセプト記入と摘要欄の書き方）
第12回	手術料の算定（レセプト記入と摘要欄の書き方）
第13回	輸血料の算定（レセプト記入と摘要欄の書き方）
第14回	麻酔料・神経ブロック料の算定（レセプト記入と摘要欄の書き方）
第15回	在宅医療の算定（レセプト記入と摘要欄の書き方）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前学習】

次回の授業テーマに関する「医療事務演習Ⅰ」の内容を復習しておくこと。

【事後学習】

授業で学んだ範囲について復習し、授業時に課される課題に取り組む。
授業で学んだ内容を点数表に書き込む、付箋等を貼るなど、資料作りをしておく。

課題に対するフィードバックの方法

小テストは採点后、返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下の評価割合に基づき総合的に評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく、5回を超えて授業を欠席した場合や定期試験を欠席した場合は、原則として「K」評価とする。
- ・授業への積極的参加（発言等）は加点する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	小テスト	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	50	筆記試験	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	10	課題提出	1, 2, 3

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> * 『診療点数早見表(最新版)』医学通信社 4,500円(4月新版のため現在、ISBN申請中のため不明) * 『薬価表』ソラスト 300円 (ISBNなし) * 『テキスト2 算定とレセプト(上)』ソラスト 1,800円 (ISBNなし) * 『テキスト3 算定とレセプト(下)』ソラスト 1,300円 (ISBNなし) <p>上記はすべて「医療事務演習Ⅰ」「医療事務特講」でも併用する。</p>
参考書	必要に応じ授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> * 原則として、前期「医療事務のしくみ」を履修した学生のみ履修可能とする。 * 本授業は、「医療事務演習Ⅰ」の内容に関連しているため、必ず「医療事務演習Ⅰ」も履修すること。 * 「医科 医療事務管理士技能認定試験」の合格を目指す学生は、前期開講の「医療事務のしくみ」、後期開講の「医療事務演習Ⅰ」「医療事務特講」も履修すること。

授業コード	22041801	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	医療事務特講 [対面]				
シラバス執筆(全員)	中原 亜紀美				
シラバス執筆(主)	中原 亜紀美				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

医療事務の重要な業務の一つに診療報酬請求事務がある。適切な診療報酬の算定とレセプト作成および点検のスキルは、医療事務職を目指す上で必要不可欠である。
この授業では、「医療事務演習Ⅰ」「医療事務演習Ⅱ」の続きとして、外来・入院時の算定方法について概説し、レセプト作成を行う。
また、「医科 医療事務管理士技能認定試験」の検定試験合格を目指し、学科問題・実技問題の対策も兼ねる。

到達目標

1. 外来・入院ともに診療報酬の算定ができる。
2. 外来・入院ともにレセプトの作成および点検ができる。

授業計画

第 1 回	画像診断料の算定
第 2 回	画像診断料のレセプト記入
第 3 回	リハビリテーション料の算定
第 4 回	リハビリテーション料のレセプト記入
第 5 回	精神科専門治療法・放射線治療の算定
第 6 回	精神科専門治療法・放射線治療の算定のレセプト記入
第 7 回	確認テスト①（外来）
第 8 回	入院基本料の算定
第 9 回	入院基本料のレセプト記入
第 10 回	入院料に関する各種算定
第 11 回	確認テスト②（入院）
第 12 回	レセプトの点検方法
第 13 回	総合演習①
第 14 回	確認テスト③（点検）
第 15 回	総合演習②

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【事前学習】

次回の授業テーマを確認し、該当するテキストの範囲を熟読しておく。

【事後学習】

授業で学んだ範囲について復習し、授業時に課される課題に取り組む。
授業で学んだ内容を点数表に書き込む、付箋等を貼るなど、資料作りをしておく。

課題に対するフィードバックの方法

確認テストは採点后、返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下の評価割合に基づき総合的に評価し、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく、5回を超えて授業を欠席した場合や定期試験を欠席した場合は、原則として「K」評価とする。
- ・授業への積極的参加（発言等）は加点する。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	確認テスト	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	50	筆記試験	1, 2
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	10	課題提出	1, 2

テキスト	<p>「医療事務のしくみ」「医療事務演習Ⅰ」「医療事務演習Ⅱ」で使用したテキスト、問題集のすべて</p> <p>※検定試験を受験する人には、検定対策の問題集について別途案内する。 (2025年1月頃に案内)</p>
参考書	<p>必要に応じ授業の中で紹介する</p>
履修条件・他の科目との関連	<p>*原則として、「医療事務のしくみ」「医療事務演習Ⅰ」「医療事務演習Ⅱ」すべてを履修した学生のみ履修可能とする。</p> <p>*「医科 医療事務管理士技能認定試験」の合格を目指す学生は、前期開講の「医療事務のしくみ」、後期開講の「医療事務演習Ⅰ」「医療事務演習Ⅱ」も履修すること。</p>

授業コード	22010201	授業形態	講義	実務家教員	○
授業科目名	介護概論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	藤田 了				
シラバス執筆(主)	藤田 了				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

我が国は、少子高齢化社会の進展と障がいなどのために介護を必要とする人も含め、介護の問題は特定の人に対する問題から社会全体の問題となっている。本講義は、当事者である介護が必要な人と、介護者の理解を深め、多種多様な生活課題に対応する制度・政策・サービス・支援について説明する。また、介護に関連する福祉・保健・医療の領域の専門職について概説する。

授業は講義形式が中心であるが、適宜授業の理解を深めるために、DVD等の視聴覚教材の活用、ペアワーク、グループワーク等の演習を行うので主体的に取り組むことが必要である。講義はパワーポイントによる文字情報および静止画・動画の資料などを提示しながらすすめていく。

長年、社会福祉法人等で福祉・介護業界に従事してきた経験をもとに、実務家教員として、将来福祉・介護関係の業務に従事したいと考えている人に対しても実践・理論等役立つ授業を展開する。

到達目標

1. 要介護者の「生活のしづらさ」について個人因子と環境因子の両側面から説明することができる。
2. 介護に関連するフォーマル・インフォーマル支援について実践者として説明することができる。
3. 具体的な居宅サービス、施設サービスについて説明することができる。
4. ICFについて基礎的な事項を説明することができる。

授業計画

- 【第1回】 授業オリエンテーション（授業の進め方、受講ルール）
- 【第2回】 高齢化の進展による介護問題
- 【第3回】 介護の実際：食事介護・入浴介護
- 【第4回】 介護の実際：排泄介護・その他の介護
- 【第5回】 介護保険制度：制度の概要
- 【第6回】 介護保険制度：制度の活用方法
- 【第7回】 障がい者の運動能力の特徴と運動や活動
- 【第8回】 介護概論前半のまとめ（中間レポート実施）
- 【第9回】 居宅（在宅）サービスの概要
- 【第10回】 居宅（在宅）サービス：訪問系・通所系サービス
- 【第11回】 居宅（在宅）サービス：さまざまな居宅サービス
- 【第12回】 施設（入所）サービスの概要
- 【第13回】 施設（入所）サービス：介護保険施設
- 【第14回】 施設（入所）サービス：さまざまな高齢者福祉施設
- 【第15回】 ICFの基礎的理解と活用方法

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回
 - 【事前】 授業のシラバスを確認しておく。 1.0時間
 - 【事後】 授業ルールの確認。ノートを準備する。 2.0時間
- 第2回
 - 【事前】 介護に関連する記事やニュースなどを視聴し介護の問題を自分なりに考えておく。 1.5時間
 - 【事後】 授業の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間
- 第3回
 - 【事前】 社会における介護の問題を列挙する。 1.5時間
 - 【事後】 授業の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間
- 第4回
 - 【事前】 自身の地域の要介護者について、人数や要介護度を調べておく。 1.5時間
 - 【事後】 要介護者と要支援者が説明できるようノートを加筆する。 2.5時間
- 第5回
 - 【事前】 介護保険制度の概要について自分なりに調べておく。 1.5時間
 - 【事後】 「介護保険制度」の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間
- 第6回
 - 【事前】 介護保険のサービスについて調べておく。 1.5時間
 - 【事後】 「介護保険制度」の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間
- 第7回
 - 【事前】 これまで学んだことをノートにまとめておく。 1.5時間
 - 【事後】 授業の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間
- 第8回
 - 【事前】 第2回から第7回のノート、資料を復習する。 1.5時間
 - 【事後】 第2回から第7回の授業内容について説明できるようノートを再加筆する。 2.5時間

第9回	【事前】 居宅サービスにはどのような種類があるのか調べておく。 1.5時間 【事後】 「居宅（在宅）サービス」の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間	
第10回	【事前】 訪問系と通所系のサービスについて調べておく。 1.5時間 【事後】 「居宅（在宅）サービス」の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間	
第11回	【事前】 これまで学んだ居宅サービス以外にどのようなサービスがあるか調べておく。 1.5時間 【事後】 「居宅（在宅）サービス」の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間	1.5時間
第12回	【事前】 施設サービスにはどのような種類があるのか調べておく。 1.5時間 【事後】 「施設（入所）サービス」の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間	
第13回	【事前】 介護保険施設について調べておく。 1.5時間 【事後】 「施設（入所）サービス」の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間	
第14回	【事前】 これまで学んだ施設以外にどのような施設があるか調べておく。 1.5時間 【事後】 「施設（入所）サービス」の資料を参照のうえノートを加筆する。 2.5時間	
第15回	【事前】 自分自身が考える「自立」とは何かノートにまとめておく。 1.5時間 【事後】 「ICF」の資料を参照のうえノートを加筆する。 4.5時間	

課題に対するフィードバックの方法

実施した課題について採点した後希望者に点数及び内容を開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すとおり、授業内に実施される課題と、定期試験に代わるレポートの評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 ※授業内に実施される「第8回の間接レポート」は、正当な理由（公欠等）が無い場合の未提出は評価しない。（正当な理由については必ず申し出ること。正当な理由と認められれば欠席課題を課し評価対象とする）
 ※授業内で課されるレポート課題は、レポートの質、課題への積極性（文章量）などの内容に対して評価を行う。
 ※授業内で課されるレポート課題は、正当な理由がない未提出分については評価しない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	・毎回の授業内で課される課題(第1回、第8回以外): 各5/計13回(65) ・第8回:前半のまとめ(中間レポート)(15)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	学修した内容についてレポートを課す(20)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず適宜プリント(資料)を配布する。
参考書	NIE介護の基本演習/松井圭三・小倉毅・今井慶宗/大学教育出版/2160+税/ISBN978-4-86692-004-7
履修条件・他の科目との関連	・介護・社会福祉関連の科目を履修していることが望ましい。 ・状況により授業内容の一部および進め方や順番、授業形態などを変更する場合があります。その場合は随時連絡します。

授業コード	22040001	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	情報社会のしくみ [対面]				
シラバス執筆(全員)	朝野 美穂				
シラバス執筆(主)	朝野 美穂				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

現在の情報社会において、情報は大きな価値を持ち、これらはコンピューターを用いた情報システムにより管理・運用されている。情報システムとは、社会や企業等の活動に必要な情報の利活用に関わるしくみのことであり、本講義では効果的な情報デザイン手法、生活・ビジネス・ものづくりを支える情報システム、情報モラル、未来の情報技術等について解説していく。
 授業の形態は、講義・演習・グループワーク等である。

到達目標

1. 効果的な情報デザイン手法を使ってコンテンツを作成することができる。
2. 生活・ビジネス・ものづくりを支える情報システムについて説明できる。
3. 情報モラル及びセキュリティについて説明できる。
4. 未来の情報社会と情報システムについて説明できる。
5. 上記の知識を用いて、身の回りにある情報システムのしくみを概説することができる。
6. 積極的にコミュニケーションを取りながら、他者と協力できる。

授業計画

第1回	オリエンテーション（授業の進め方、受講ルール、情報システムの概要等）
第2回	情報デザイン（情報の構造化、レイアウト、文字等）
第3回	生活を支える情報システム（1）（電子行政と電子認証、気象・防災システム）
第4回	生活を支える情報システム（2）（交通関連システム、医療情報システム）
第5回	生活を支える情報システム（3）（情報家電と組み込みシステム、日常生活の進化）
第6回	ビジネスを支える情報システム（1）（電子商取引、電子決済）
第7回	ビジネスを支える情報システム（2）（販売時点情報管理、顧客情報管理、企業資源管理計画等）
第8回	ビジネスを支える情報システム（3）（供給連鎖管理システム、ネットビジネス等）
第9回	ものづくりを支える情報システム（1）（設計・製造・生産管理における情報システム等）
第10回	ものづくりを支える情報システム（2）（生産管理・農業・漁業における情報システム等）
第11回	情報モラル（1）（情報社会の特徴と問題点、著作権問題、ネット上のルールとマナー等）
第12回	情報モラル（2）（情報漏えいと対策、サイバー犯罪、サイバー攻撃と防衛等）
第13回	未来の情報技術（ユビキタスコンピューティング、新たなユーザーインターフェイス等）
第14回	未来の情報社会と人間（現在の情報社会、現在から未来へつながる技術、未来の情報社会等）
第15回	学習のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回に対応するテキストの内容を事前に熟読し概要を理解しておくこと。また事後には、学んだ重要キーワード及びその周辺事項について、インターネットを用いて調査すること。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で実施した課題の解答・解説を行う。その他のレポート、定期試験に代わるレポートの結果については希望者に個別にフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業期間中に実施される課題(20)、レポート(20)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	全授業終了後に実施するレポート試験(40)	5
その他	20	授業中の取り組み(20)	6

テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピューターと情報システム、福田真規夫 監修、日本理工出版会、2,500円(税別)、ISBN978-4-89019-528-2 ・資料を必要に応じて配付する。
参考書	<p>必要に応じて授業の中で紹介する。</p>
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、一部内容を変更する場合がある。 ・「情報処理のしくみ」の単位を取得済み、あるいは同等の知識を有していることを前提とする。 ・欠席した場合は、その回の学習内容・課題等をGoogle Classroomで確認し、期日までに課題を提出すること。

授業コード	22043501	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	表計算特講 [対面]				
シラバス執筆(全員)	朝野 美穂				
シラバス執筆(主)	朝野 美穂				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

MOS Excel 2019 一般レベル合格を目指すための受験対策授業である。
 MOSは「Microsoft Office Specialist」という世界共通のビジネス資格であり、Microsoft Office製品の利用スキルを客観的に証明してくれ、就職活動の際などに実力をアピールすることができる。
 本授業では、Excelの基礎からMOS Excel 2019 一般レベル合格のためのスキルに至るまでしっかりと指導し、合格を目指す。
 具体的には、MOS Excel 2019 一般レベルの出題範囲に沿って、ワークシートやブックの管理、セルやセル範囲のデータの管理、テーブルとテーブルのデータの管理、数式や関数を使用した演算の実行、グラフの管理などについて、それらの機能と操作方法を解説する。また、模擬試験プログラムを用いて合格に必要なスキルを身につけられるよう指導する。
 授業の形態は、各機能の操作方法の解説及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. Excelのワークシートやブックを管理することができる
2. Excelを用いて表形式データの作成と編集を行うことができる
3. Excelを用いてテーブル形式データの作成と編集を行うことができる
4. Excelを用いて簡単な計算処理を行うことができる
5. Excelを用いてグラフの作成と編集を行うことができる
6. Excelの基本的な機能を理解し活用することができる

授業計画

- 第1回 表計算特講の概要（授業の進め方、MOS Excel 2019の概要、成績評価の方法）
- 第2回 ワークシートやブックの管理（1）（ブック内の移動、ワークシートやブックの書式設定、オプションと表示のカスタマイズ）
- 第3回 ワークシートやブックの管理（2）（共同作業のためのコンテンツ設定、ブックへのデータのインポート、確認問題）
- 第4回 セルやセル範囲のデータの管理（1）（シートのデータの操作、セルやセル範囲の書式の設定）
- 第5回 セルやセル範囲のデータの管理（2）（名前付き範囲の定義と参照、データの視覚的まとめ、確認問題）
- 第6回 テーブルとテーブルのデータの管理（1）（テーブルの作成と書式設定、テーブルの変更）
- 第7回 テーブルとテーブルのデータの管理（2）（テーブルのデータのフィルタリングと並べ替え、確認問題）
- 第8回 数式や関数を使用した演算の実行（1）（参照の追加、データの計算と加工）
- 第9回 数式や関数を使用した演算の実行（2）（文字列の変更と書式設定、確認問題）
- 第10回 グラフの管理（グラフの作成、グラフの変更、グラフの書式設定、確認問題）
- 第11回 模擬試験プログラムの起動方法、学習方法、使い方の解説、第1回模擬試験の実施、解説
- 第12回 第2回模擬試験の実施、解説
- 第13回 第3回模擬試験の実施、解説
- 第14回 第4回模擬試験の実施、解説
- 第15回 学習のまとめ（これまでの学習内容の振り返りと整理）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前には、各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと。
 事後には、各回で学んだ内容を復習しておくこと。
 各回につき2時間以上の事前学習および2時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

小課題はコメントを付して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。
 正当な理由なく定期試験を欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
---------	----------	---------	-------------

授業内での評価	50	小課題	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	50	実技試験	6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Excel 365&2019 対策テキスト&問題集、FOM出版(富士通エフ・オー・エム株式会社)、2,310円(本体2,100円+税)、ISBN:978-4-86510-429-5
------	--

参考書	コンピューターリテラシーMicrosoft Office Excel編[改訂版]、多田憲孝・内藤富美子 著、オーム社、2,640円(本体2,400円+税)、ISBN:978-4-274-22920-6
-----	--

履修条件・他の科目との関連	「コンピュータ基礎演習II(表計算基礎)」または同等の科目を受講済みであることが望ましい。テキストは初回授業までに必ず購入しておくこと。
---------------	--

授業コード	22043401	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	ワープロ特講 [対面]				
シラバス執筆(全員)	朝野 美穂				
シラバス執筆(主)	朝野 美穂				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

MOS Word 2019 一般レベル合格を目指すための受験対策授業である。
 MOSは「Microsoft Office Specialist」という世界共通のビジネス資格であり、Microsoft Office製品の利用スキルを客観的に証明してくれ、就職活動の際などに実力をアピールすることができる。
 本授業では、Wordの基礎からMOS Word 2019 一般レベル合格のためのスキルに至るまでしっかりと指導し、合格を目指す。
 具体的には、MOS Word 2019 一般レベルの出題範囲に沿って、文書管理、文字・段落・セクションの挿入と書式設定、表やリストの管理、参考資料の作成と管理、グラフィック要素の挿入と書式設定、文書の共同作業の管理などについて、それらの機能と操作方法を解説する。また、模擬試験プログラムを用いて合格に必要なスキルを身につけられるよう指導する。
 授業の形態は、各機能の操作方法の解説及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. Wordを用いて基本的な文書を作成することができる。
2. Wordを用いて表やリストの入った文書を作成することができる。
3. Wordを用いて図やSmartArtなどのグラフィック要素の入った文書を作成することができる。
4. Wordのコメントや変更履歴を利用することができる。
5. Wordの基本的な機能を理解し活用することができる。

授業計画

- 第1回 ワープロ特講の概要（授業の進め方、MOS Word 2019の概要、成績評価の方法など）
- 第2回 文書の管理（1）（文書の移動、文書の書式設定）
- 第3回 文書の管理（2）（文書の保存と共有、文書の検査、確認問題）
- 第4回 文字、段落、セクションの挿入と書式設定（文字列や段落の挿入、文字列や段落の書式設定、文書のセクション作成と設定、確認問題）
- 第5回 表やリストの管理（1）（表の作成、表の変更）
- 第6回 表やリストの管理（2）（リストの作成と変更、確認問題）
- 第7回 参考資料の作成と管理（参照のための要素の作成と管理、参照のための一覧の作成と管理、確認問題）
- 第8回 グラフィック要素の挿入と書式設定（1）（図やテキストボックスの挿入、図やテキストボックスの書式設定）
- 第9回 グラフィック要素の挿入と書式設定（2）（グラフィック要素へのテキスト追加、グラフィック要素の変更、確認問題）
- 第10回 文書の共同作業の管理（コメントの追加と管理、変更履歴の管理、確認問題）
- 第11回 模擬試験プログラムの起動方法、学習方法、使い方の解説、第1回模擬試験の実施、解説
- 第12回 第2回模擬試験の実施、解説
- 第13回 第3回模擬試験の実施、解説
- 第14回 第4回模擬試験の実施、解説
- 第15回 学習のまとめ（これまでの学習内容の振り返りと整理）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前には、各回に対応するテキストの内容を熟読し概要を理解しておくこと。
 事後には、各回で学んだ内容を復習しておくこと。
 各回につき2時間以上の事前学習および2時間以上の事後学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

小課題はコメントを付して返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。
 正当な理由なく定期試験を欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	小課題	1, 2, 3, 4

授業外での評価	0		
定期試験	50	実技試験	5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	よくわかるマスター Microsoft Office Specialist Word 365&2019 対策テキスト&問題集、FOM出版(富士通エフ・オー・エム株式会社)、2,310円(本体2,100円+税)、ISBN:978-4-86510-430-1		
参考書	コンピューターリテラシー Microsoft Office Word & PowerPoint編[改訂版]、花木泰子・浅里京子著、オーム社、2,640円(本体2,400円+税)、ISBN:978-4-274-22919-0		
履修条件・他の科目との関連	「コンピュータ基礎演習I(ワープロ)」または同等の科目を受講済みであることが望ましい。テキストは初回授業までに必ず購入しておくこと。		

授業コード	22027601	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	ビジネスシミュレーション [対面]				
シラバス執筆(全員)	朝野 美穂				
シラバス執筆(主)	朝野 美穂				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

企業において、業績の評価や意思決定を行うには、的確な情報分析及びシミュレーションが不可欠である。この授業では、ビジネスに関するデータ分析ならびにシミュレーション手法について解説する。また、各種演習課題を与え、表計算ソフトウェアExcelを活用し具体的なモデルに対して問題解決ができるよう指導する。授業の形態は、講義及びコンピュータ演習を組み合わせたものである。

到達目標

1. ビジネスに関する各種データ分析手法を説明できる。
2. ビジネスに関する各種シミュレーション手法を説明できる。
3. ビジネスに関する分析やシミュレーションに必要な表計算ソフトウェアの機能を理解し活用することができる。
4. 表計算ソフトウェアを用いて、簡単なデータ分析を行うことができる。
5. 表計算ソフトウェアを用いて、簡単なシミュレーションを行うことができる。

授業計画

第1回	ビジネスシミュレーションの概要（授業の進め方・受講ルール、シミュレーションの概要）
第2回	表計算ソフトウェアの基本操作（四則演算、基本的関数の使い方、判断処理等）
第3回	クロス集計の基礎（ピボットテーブルの操作及び基本的集計）
第4回	クロス集計によるデータ分析（ピボットテーブルによる集計処理及び分析）
第5回	グラフ作成の基礎（表計算ソフトウェアによる各種グラフ作成）
第6回	データの可視化と分析（グラフによるビジネスデータの分析）
第7回	ゴールシークによる数値解法（ゴールシークの操作方法、目標値からの逆算方法、方程式の解法）
第8回	シナリオによるシミュレーション（シナリオの操作、シナリオによる各種検討項目の評価法）
第9回	ソルバーによる数値解法（ソルバーの操作方法、制約条件の設定、目標値からの逆算方法等）
第10回	近似曲線と予測（近似曲線の求め方、各種近似曲線の特色、回帰式による予測）
第11回	Zチャート（Zチャートの概要、移動合計・移動平均、売上動向等への応用）
第12回	ファンチャート（ファンチャートの概要、売上動向等への応用）
第13回	ABC分析（ABC分析の概要、データの並べ替え、商品管理等への応用）
第14回	総合演習（各種ビジネスシミュレーション手法とその応用）
第15回	学習のまとめ（これまでの学習内容の整理、最終課題等）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

各回に対応するテキストの内容を事前に熟読し概要を理解しておくこと。また事後には、学んだ例題・演習課題を一部改変した問題を自ら作成し、その解答を作成すること。

課題に対するフィードバックの方法

- ・ 課題の演習時に机間巡視を行い、各学生の演習内容について、間違い及び優れた点の指摘と助言等を行う。
- ・ 定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	演習課題の達成度(60)	3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験(30)	1, 2
その他	10	授業中の取り組み(10)	1, 2, 3, 4, 5

テキスト	Excel ビジネスデータ分析 徹底活用ガイド、平井明夫 著、技術評論社、2,480円(税別)、
------	--

テキスト	ISBN978-4-297-10300-2
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、一部内容を変更する場合がある。 ・「コンピュータ基礎演習Ⅱ(表計算基礎)」を履修していること、あるいは同等のスキルがあることを前提とする。 ・「表計算演習」を並行して履修することが望ましい。 ・欠席した場合は、その回の学習内容・課題等をGoogle Classroomで確認し、期日までに課題を提出すること。

授業コード	22042201	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	インターネットビジネス [対面]				
シラバス執筆(全員)	朝野 美穂				
シラバス執筆(主)	朝野 美穂				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

実社会は、ITの利活用が大きく叫ばれている。その活用の方法や社会に与える影響などを正確に理解していないと、大きな損失となる。本授業では、社会におけるITの利活用の動向、法務、技術戦略等について、ITパスポート試験の「ストラテジー系」の内容を参照しながら易しく進める。また、静止画・動画の資料を提示しながら概説する。
 授業の形態は、講義・演習・グループワーク等である。

到達目標

1. 社会生活を送るために必要な情報技術や経営について説明することができる。
2. 社会におけるIT・データの利活用について説明することができる。
3. 企業における法務について説明することができる。
4. 企業の経営・技術戦略マネジメントについて説明することができる。
5. 積極的にコミュニケーションを取りながら、他者と協力できる。

授業計画

第1回	オリエンテーション（授業の進め方、受講ルール、インターネットビジネスの概要等）
第2回	社会におけるIT利活用の動向 1：第4次産業革命（インダストリー4.0）、Society 5.0等
第3回	社会におけるIT利活用の動向 2：DX（Digital Transformation/デジタルトランスフォーメーション）等
第4回	データの利活用：データサイエンス、ビッグデータ分析等
第5回	企業と法務 1：知的財産権等
第6回	企業と法務 2：セキュリティ関連法規、その他の法律等
第7回	企業と法務 3：情報倫理、標準化等
第8回	第2回～第7回のまとめ：理解度テスト等
第9回	経営戦略マネジメント 1：経営情報分析手法等
第10回	経営戦略マネジメント 2：マーケティング手法等
第11回	技術戦略マネジメント 1：技術開発戦略の立案等
第12回	技術戦略マネジメント 2：ビジネスシステム等
第13回	技術戦略マネジメント 3：eビジネス、IoTシステム・組み込みシステム等
第14回	第9回～第13回のまとめ：理解度テスト等
第15回	学習のまとめ（これまでの学習内容の整理、最終課題等）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：各回に対応する内容・キーワードの概要をインターネットを用いて理解しておくこと。
 事後学習：授業範囲の過去問題を繰り返し解くこと。日頃からテレビや新聞等のニュースを注視し、私たちの周りで現実に行っている社会・経済・ビジネスにおける様々な課題に対し問題意識を持ち、自分なりの意見を整理し他者に説明できるようにする。

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業内で実施した課題の解説を行う。理解度テストの答えは模範解答と採点基準を付して返却する。
- ・定期試験に代わるレポートの結果については希望者に個別にフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業期間中に実施される課題(20)、理解度テスト(20)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	全授業終了後に実施するレポート試験(40)	1, 2, 3, 4

その他	20	授業中の取り組み(20)	5
テキスト	テキストは使用しない。		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・マーケティング関連の科目を受講することが望ましい。 ・進行によっては、授業計画の順序が前後したり、一部内容を変更する場合がある。 ・欠席した場合は、その回の学習内容・課題等をGoogle Classroomで確認し、期日までに課題を提出すること。 		

授業コード	22028301	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	情報総合演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	朝野 美穂				
シラバス執筆(主)	朝野 美穂				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

ビジネスで活躍し広く社会の問題解決を行うためには、潜在的な課題を発見し対応していく「課題発見力」や、すでに発生している問題に対して的確な手法をもって解決に導く「問題解決力」が必要不可欠である。このような問題発見や課題解決に取り組む手法の1つに「ロジカルシンキング」がある。ロジカルシンキングとは、物事を筋道立てて矛盾がないように考える思考法という意味で、この授業では、ロジカルシンキングの考え方・手法について解説し、それらを用いて課題を発見しその解決を図るための演習を個人あるいはグループ単位で行う。具体的には、コンピュータを活用して、ロジックツリーやピラミッドストラクチャーなどの図解を取り入れた文書やスライドを作成し、問題解決のためのプレゼンテーションができるように指導する。

到達目標

1. 問題発見の基本的な流れを説明できる。
2. 問題解決の一連の流れを説明できる。
3. ロジカルシンキングの概要を説明できる。
4. ExcelやPowerPointのSmartArt機能を使いこなすことができる。
5. PowerPointを用いて分析結果をプレゼンテーション資料としてまとめることができる。

授業計画

- 第1回 ロジカルシンキングの概要
- 第2回 ロジカルシンキングの基本となる思考
- 第3回 Whatツリーの活用
- 第4回 Whyツリーの活用
- 第5回 Howツリーの活用
- 第6回 ピラミッドストラクチャーの活用
- 第7回 マトリクスの活用
- 第8回 問題発見のための情報収集・資料作成
- 第9回 問題解決プロセスの実践(1) (問題発見)
- 第10回 問題解決プロセスの実践(2) (原因分析)
- 第11回 問題解決プロセスの実践(3) (解決手段の検討)
- 第12回 発表用スライドの作成(1) (スライドの作成)
- 第13回 発表用スライドの作成(2) (スライドの最適化)
- 第14回 プレゼンテーションと評価
- 第15回 プレゼンテーションと評価(予備)

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- ・事前にはあらかじめ提示された資料を読んで準備をしておくこと。
- ・事後には、授業中に出題された課題を完成させておくこと。
- ・第1回については事後学習2.5時間、他の回はそれぞれ事前学習1.5時間、事後学習2.5時間を要する。このほか発表準備としてさらに1.5時間を要する。

課題に対するフィードバックの方法

- ・授業内の課題については、机間巡視により理解度を把握し、間違いや優れた点の指摘、助言等を行う。
- ・最終発表と定期試験に代わるレポートの評価結果については希望があれば開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

- ・以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
- ・正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	演習課題の達成度(30) プレゼンテーション(40)	4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート試験	1, 2, 3
その他	0		
テキスト	テキストは使用せず、必要に応じて資料を配布する。		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・Word、Excel、PowerPointの基本的な使い方を修得していること。 ・欠席した場合、Google Classroomの資料などを見る、友人や担当教員に聞くなどの方法で当該授業の内容を理解しておくこと。 		

授業コード	22042401	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	海外観光資源Ⅰ [対面]				
シラバス執筆(全員)	加藤 淳一				
シラバス執筆(主)	加藤 淳一				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「海外観光資源」は、観光学を学ぶ上で基礎となる科目である。観光資源の名称だけではなく、その特徴や文化的背景、歴史などとともに、地図上での位置を把握することも重要である。このため、サブノートや白地図を活用しながら各週の授業テーマに沿った事前・事後学習課題を通して、観光資源の位置関係の把握出来るよう指導する。授業では、スライドや動画等も活用して重要な観光資源の講義と学生のプレゼンテーションを進める。

- 海外観光資源Ⅰ（1年後期）では、アジア、南北アメリカ、オセアニアの研究を行う。
- 海外観光資源Ⅱ（2年前期）では、ヨーロッパ、中近東、アフリカの研究を行う。

到達目標

1. 観光学の土台になる海外観光資源の基礎知識を説明できる。
2. 海外の観光資源の名称やその文化的背景・歴史に関する知識を説明できる。
3. 事前学習課題で研究・調査したことをプレゼンテーションすることができる。
4. 旅行業務取扱管理者試験（国家資格）や観光実務士、旅行地理検定の受験対策としても応用できる。

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション
授業の概要や進め方、テキスト・サブノート・白地図の活用方法や事前・事後学習の方法、成績評価方法などについて説明
- 【第2回】アジアの観光資源①（韓国、中国北部）
アジアの観光資源についての講義と学生の事前学修課題の発表
- 【第3回】アジアの観光資源②（中国南部・香港・マカオ・台湾、シルクロード・チベット）
アジアの観光資源についての講義と学生の事前学修課題の発表
- 【第4回】アジアの観光資源③（東南アジアⅠ、Ⅱ）
アジアの観光資源についての講義と学生の事前学修課題の発表
- 【第5回】アジアの観光資源④（インド・ネパール・スリランカ・モルディブ、パキスタン・アフガニスタン・中央アジア）
アジアの観光資源についての講義と学生の事前学修課題の発表
- 【第6回】アジアの観光資源（アジア地域の世界遺産）
アジアの観光資源についての講義と学生の事前学修課題の発表、小テスト①（アジア地域）
- 【第7回】北アメリカの観光資源①（米国）
南北アメリカの観光資源についての講義と学生の事前学修課題の発表
- 【第8回】北アメリカの観光資源②（ハワイ州、カナダ）
南北アメリカの観光資源についての講義と学生の事前学修課題の発表
- 【第9回】中央アメリカの観光資源③（中米）
南北アメリカの観光資源についての講義と学生の事前学修課題の発表
- 【第10回】北・中央アメリカの観光資源（北・中央アメリカ地域の世界遺産）
南北アメリカの観光資源についての講義と学生の事前学修課題の発表、小テスト②（北・中央アメリカ地域）
- 【第11回】南アメリカの観光資源（カリブ諸島、南米）
オセアニアの観光資源についての講義と学生の事前学修課題の発表
- 【第12回】オセアニアの観光資源（オーストラリア、ニュージーランド）
オセアニアの観光資源についての講義と学生の事前学修課題の発表
- 【第13回】南太平洋の観光資源（グアム・サイパン・南太平洋）
オセアニアの観光資源についての講義と学生の事前学修課題の発表
- 【第14回】南アメリカ・オセアニアの観光資源（南アメリカ・オセアニア地域の世界遺産）
オセアニアの観光資源についての講義と学生の事前学修課題の発表、小テスト③（南アメリカ・オセアニア地域）
- 【第15回】全体総括
アジア、南北アメリカおよびオセアニアをテーマに学修した項目の全体総括

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【事前】各回の授業テーマに該当するテキスト・サブノート対応部分に目を通し、解答すると共に、関連する内容・役割・動向をインターネットなどで情報収集し、内容を取りまとめておく。また、毎回PowerPointによるプレゼンテーションを行うので、指名された学生はプレゼンテーションの準備を行う（各2時間）。
- 【事後】授業で学んだ内容を振り返り、知識の定着を図ると共に、疑問な点を発見した場合は、まず自身で調べ、それでも不明な部分は教員へ連絡する（各1.5時間）。
- この他、授業全体の振り返りやまとめ、および最終レポート作成として、15時間程度の学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

全体に向け、課題やレポートに対しての振り返りとフィードバックを行うと共に、必要に応じて個人に対し、課題やレポートのコメントなどをClassroomやOIUメール、または直接口頭で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
なお、正当な理由なく、欠席の回数が授業回数の1/3を超える（6回以上欠席）の場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	55	理解度を確認するために、小テストを実施(20) プレゼンテーション評価(10) 全体を通してのまとめテスト(25)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	白地図(15)、サブノート(5)の作成内容を評価	1, 2, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	最終レポートの内容を評価	1, 2, 4
その他	15	授業に関する発言・質問、受講態度・マナーを評価	1, 2, 3

テキスト	海外観光資源(JTB総合研究所、3,300円、978-4910578088) 海外観光地理サブノート(JTB総合研究所、1,430円、978-4902772807) 世界白地図(JTB総合研究所、620円)
------	---

参考書	旅に出たくなる地図:世界(帝国書院) その他、必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	--

履修条件・他の科目との関連	観光実務士の資格取得に必要な選択科目であり、旅行業務取扱管理者試験、旅行地理検定の受験対策内容を含む。 海外観光資源の理解を深めるため、「海外観光資源Ⅱ」も履修することが望ましい。 進行によっては、授業計画の順序や内容を変更することがある。 なお、欠席者に対しては、次回出席時に授業の前後で個別にてフォローを行うと共に、配布物があった場合は、配布する。
---------------	---

授業コード	22042501	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	海外観光資源Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	加藤 淳一				
シラバス執筆(主)	加藤 淳一				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

「海外観光資源」は、観光学を学ぶ上で基礎となる科目である。観光資源の名称だけではなく、その特徴や文化的背景、歴史などとともに、地図上での位置を把握することも重要である。このため、サブノートや白地図を活用しながら各週の授業テーマに沿った事前・事後学習課題を通して、観光資源の位置関係の把握出来るよう指導する。授業では、スライドや動画等も活用して重要な観光資源の講義と学生のプレゼンテーションを進める。

- 海外観光資源Ⅰ（1年後期）では、アジア、南北アメリカ、オセアニアの研究を行う。
- 海外観光資源Ⅱ（2年前期）では、ヨーロッパ、中近東、アフリカの研究を行う。

到達目標

1. 観光学の土台になる海外観光資源の基礎知識を説明できる。
2. 海外の観光資源の名称やその文化的背景・歴史に関する知識を説明できる。
3. 事前学習課題で研究・調査したことをプレゼンテーションすることができる。
4. 旅行業務取扱管理者試験（国家資格）や観光実務士、旅行地理検定の受験対策としても応用できる。

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション
授業の概要や進め方、テキスト・サブノート・白地図の活用方法や事前・事後学習の方法、成績評価方法などについて説明
- 【第2回】中近東・アフリカの観光資源①（中東Ⅰ、Ⅱ）
中近東・アフリカ諸国の観光資源について講義と学生の事前学修課題の発表
- 【第3回】中近東・アフリカの観光資源②（トルコ、エジプト）
中近東・アフリカ諸国の観光資源について講義と学生の事前学修課題の発表
- 【第4回】中近東・アフリカの観光資源③（アフリカ北部、東部）
中近東・アフリカ諸国の観光資源について講義と学生の事前学修課題の発表
- 【第5回】中近東・アフリカの観光資源④（南アフリカ・マダガスカル・セーシェル）
中近東・アフリカ諸国の観光資源について講義と学生の事前学修課題の発表、小テスト①（中東・アフリカ地域）
- 【第6回】ヨーロッパの観光資源①（英国）
ヨーロッパ諸国の観光資源について講義と学生の事前学修課題の発表
- 【第7回】ヨーロッパの観光資源②（北欧、スペイン・ポルトガル）
ヨーロッパ諸国の観光資源について講義と学生の事前学修課題の発表
- 【第8回】ヨーロッパの観光資源③（フランス）
ヨーロッパ諸国の観光資源について講義と学生の事前学修課題の発表
- 【第9回】ヨーロッパの観光資源④（ベネルクス3国、スイス・オーストリア）
ヨーロッパ諸国の観光資源について講義と学生の事前学修課題の発表、小テスト②（ヨーロッパ地域（1））
- 【第10回】ヨーロッパの観光資源⑤（ドイツ）
ヨーロッパ諸国の観光資源について講義と学生の事前学修課題の発表
- 【第11回】ヨーロッパの観光資源⑥（イタリア・バチカン市国・サンマリノ・マルタ）
ヨーロッパ諸国の観光資源について講義と学生の事前学修課題の発表
- 【第12回】ヨーロッパの観光資源⑦（中欧、東欧）
ヨーロッパ諸国の観光資源について講義と学生の事前学修課題の発表
- 【第13回】ヨーロッパの観光資源⑧（ギリシャ、バルト3国）
ヨーロッパ諸国の観光資源について講義と学生の事前学修課題の発表
- 【第14回】ヨーロッパの観光資源⑨（ロシア・ウクライナ・ジョージア）
ヨーロッパ諸国の観光資源について講義と学生の事前学修課題の発表、小テスト③（ヨーロッパ地域（2））
- 【第15回】全体総括
中近東・アフリカ諸国およびヨーロッパ諸国をテーマに学修した項目の全体総括

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【事前】各回の授業テーマに該当するテキスト・サブノート対応部分に目を通し、解答すると共に、関連する内容・役割・動向をインターネットなどで情報収集し、内容を取りまとめておく。また、毎回PowerPointによるプレゼンテーションを行うので、指名された学生はプレゼンテーションの準備を行う（各2時間）。
- 【事後】授業で学んだ内容を振り返り、知識の定着を図ると共に、疑問な点を発見した場合は、まず自身で調べ、それでも不明な部分は教員へ連絡する（各1.5時間）。
- この他、授業全体の振り返りやまとめ、および最終レポート作成として、15時間程度の学習を要する。

課題に対するフィードバックの方法

全体に向け、課題やレポートに対しての振り返りとフィードバックを行うと共に、必要に応じて個人に対し、課題やレポートのコメントなどをClassroomやO1Uメール、または直接口頭で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 なお、正当な理由なく、欠席の回数が授業回数の1/3を超える(6回以上欠席)の場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	理解度を確認するために、小テストを実施(25) プレゼンテーション評価(10)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	25	白地図(20)、サブノート(5)の作成内容を評価	1, 2, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	最終レポートの内容を評価	1, 2, 4
その他	15	授業に関する発言・質問、受講態度・マナーを評価	1, 2, 3

テキスト	※「海外観光資源Ⅰ」を履修し、上記教材を既に所持している場合は、新たに購入する必要はありません。 海外観光資源(JTB総合研究所、3,300円、978-4910578088) 海外観光地理サブノート(JTB総合研究所、1,430円、978-4902772807) 世界白地図(JTB総合研究所、620円)
------	---

参考書	旅に出たくなる地図:世界(帝国書院) その他、必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	--

履修条件・他の科目との関連	観光実務士の資格取得に必要な選択科目であり、旅行業務取扱管理者試験、旅行地理検定の受験対策内容を含む。 海外観光資源の理解を深めるため、「海外観光資源Ⅰ」を単位取得もしくは履修していることが望ましい。 進行によっては、授業計画の順序や内容を変更することがある。 なお、欠席者に対しては、次回の出席時に授業の前後で個別にてフォローを行うと共に、配布物があった場合は、配布する。
---------------	--

授業コード	22019101	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	地域と観光演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	加藤 淳一				
シラバス執筆(主)	加藤 淳一				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

人口増加が期待できない時代において、「観光戦略」は“地方創生”のひとつの大きなテーマとなっている。実際、“これっ”といった観光資源を有していなかった地域が、知恵と工夫によって人を集め、地域活力を高めている。

地域の観光資源を「発見すること」、そして発見した資源をもとに「活用すること」、そして「実践すること」に取り組むことで、地域観光の担い手としての意欲や能力を高められるような講義を行なう。

また「地域ならではの最大の魅力素材（観光資源）」である地域の暮らしぶりや地域に住む人々の心意気（もてなしの心や人情等）、史跡や神社仏閣、特産物、気候・風土、植生・山里の文化といった、先人たちが地域での営みや自然との関わりの中で連綿と培ってきた風土・暮らしぶりを再認識することで地域の魅力資源を再発見、そして発信出来るよう実務経験をもとに、受講生の将来に役立つ講義を実施する。

到達目標

1. 地域観光資源の意義や重要性について判断できる。
2. 地域観光資源において、どのような課題が生じているのか説明できる。
3. 地域観光資源の課題を解決するための様々な方法を応用できる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション：授業の概要や進め方、成績評価方法などについて説明
- 【第2回】 PBLとは？（PBLについて学ぶ）
- 【第3回】 PBLの実践に向けた基本的なグループワーク（身近なテーマについて、グループワークを実施する）
- 【第4回】 PBLの実践に向けた基本的なグループワーク（身近なテーマについて、グループにてプレゼンテーションする）
- 【第5回】 地域観光資源を知るための基礎学習（グループワークにて、身近な地域観光資源の課題を見つける）
- 【第6回】 地域観光資源を知るための基礎学習（グループワークにて、課題解決の方法を検討する）
- 【第7回】 地域観光資源を知るための基礎学習（グループにて、課題解決策をプレゼンテーションする）
- 【第8回】 外部講師による特別授業
- 【第9回】 課題解決策の立案（グループワークにて、地域観光資源の課題について検討する）
- 【第10回】 課題解決策の立案（グループワークにて、課題解決に向けたアイデアを出し合う）
- 【第11回】 課題解決策の立案（グループワークにて、課題解決案を練り上げる）
- 【第12回】 最終発表会の準備
- 【第13回】 最終発表会
- 【第14回】 最終発表会
- 【第15回】 まとめと振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

第1回・第15回は事後学習2時間、第2回～第14回は事前学習各1時間・事後学習各3時間をそれぞれ要する（内容は初回に指示、もしくは各回で説明する）。このほかレポート作成に4時間を要する。

課題に対するフィードバックの方法

全体に向け、課題やレポートに対しての振り返りとフィードバックを行うと共に、必要に応じて個人に対し、課題やレポートのコメントなどをClassroomやOIUメール、または直接口頭で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 なお、正当な理由なく、欠席の回数が授業回数の1/3を超える（6回以上欠席）の場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	グループワークへの積極的な取り組み姿勢(30)、プレゼンテーション(30)を評価	1, 2, 3
授業外での評価	10	レポートや課題の提出状況や内容を評価	1, 2, 3

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	最終レポートの内容を評価	1, 2, 3
その他	20	授業に関する発言・質問、受講態度・マナーを評価	1, 2, 3

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、プリントを配布する。		
------	----------------------------------	--	--

参考書	必要に応じて、授業の中で紹介する。		
-----	-------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	<p>観光実務士の資格取得に必要な必修科目である。</p> <p>グループでの討議や調査、発表などを多く取り入れて進めるので、受け身や消極的な態度ではなく、積極的に参加する姿勢を期待する。</p> <p>土・日・祝など休日を利用したフィールドワークを行う可能性がある。</p> <p>進行によっては、授業計画の順序や内容を変更することがある。</p> <p>なお、欠席者に対しては、次回出席時に授業の前後で個別にてフォローを行なうと共に、配布物があった場合は、配布する。</p>		
---------------	---	--	--

授業コード	22025101	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	旅行業特講 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	杉山 維彦				
シラバス執筆(主)	杉山 維彦				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

国内旅行業務取扱管理者試験（国家資格）に関連する事項の学習科目。

国内旅行における移動は、鉄道・航空・フェリーを利用する。団体旅行になれば、これに貸切バスが加わる。多岐にわたる交通とその料金・運賃計算と旅行業法などについて解説する。

本講義では旅行業務取扱管理者試験の問題を中心に、JR運賃&料金・国内航空運賃・フェリー運賃計算の方法について講義を行う。

到達目標

旅行業務取扱管理者試験における科目の中で、JR・国内航空・フェリー・貸切バスについて、

1. 運賃と料金の違いを説明することができる
2. JR・国内航空・フェリー・貸切バス、それぞれの運賃・料金の異なる点を説明できる
3. JR・国内航空・フェリー・貸切バス、それぞれの運賃・料金の計算ができる
4. 国家試験の問題を解答できる

授業計画

- 【第1回】 プロローグ(ガイダンス)
- 【第2回】 国内航空運送約款①(航空運賃・料金の基礎知識)
- 【第3回】 国内航空運送約款②(割引運賃)
- 【第4回】 国内航空運送約款③(都市コード(3レターコード))
- 【第5回】 貸切バス運送約款①(貸切バスの運賃・料金の基本)
- 【第6回】 貸切バス運送約款②(計算方法)
- 【第7回】 フェリー標準運送約款
- 【第8回】 JR営業規則
- 【第9回】 JR運賃・料金①(幹線・地方交通線、小児・幼児料金)
- 【第10回】 JR運賃・料金②(営業キロ・換算キロ・擬制キロ・運賃計算キロ、境界駅)
- 【第11回】 JR運賃・料金③(営業キロの通算・打ち切り、通過連絡運輸、特定区間、)
- 【第12回】 JR運賃・料金④(学生割引・往復割引、特急料金、寝台料金、グリーン料金)
- 【第13回】 JR運賃・料金⑤(新幹線の乗継、在来線の乗継、料金を通算できない特例)
- 【第14回】 JR運賃・料金⑥(団体旅客扱い、乗車変更、払い戻し)
- 【第15回】 エピローグ(まとめ・質疑応答)

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

予習は講義で行ったテキストの、次の単元を事前に学習してくる。復習は必ず行い、理解できない場合は必ず質問すること。

【第1回】

事前 シラバスを熟読し、運賃と料金は何かを調べておく。 1.5時間

事後 JR・航空・フェリーなど公共交通機関の運賃と料金の違いを覚える。 2.5時間

【第2回】

事前 約款に意味は何か調べる。 1.5時間

事後 国内航空運送とJR運送約款の違いを理解する。 2.5時間

【第3回】

事前 国内航空運送約款を調べてくる。 1.5時間

事後 旅客の補償について確認をする。 2.5時間

【第4回】

事前 国内航空運賃について調べてくる。 1.5時間

事後 航空会社ごとの航空運賃について確認をする。 2.5時間

【第5回】

事前 貸切バスを使う理由を考えてくる。 1.5時間

事後 貸切バスの地域による違いについて理解する。 2.5時間

【第6回】

事前 貸切バスの計算方法を調べてくる。 1.5時間

事後 貸切バスの各種計算問題を行う。 2.5時間

【第7回】

事前 フェリー標準運送約款について調べてくる。 1.5時間

事後 フェリーの各種計算問題を行う。 2.5時間

【第8回】

事前 JR時刻表を入手し、ピンクのページを読んでおく。 1.5時間

事後 運賃と料金の違いを確認する。 2.5時間

【第9回】

事前 実際に最寄りのJR駅の運賃表を調べ、そのもととなるものを考えてくる。 1.5時間

事後 営業キロと運賃の関係を確認する。 2.5時間

【第10回】

事前 営業キロの計算について調べてくる。 1.5時間

事後 運賃計算の各種計算問題を解く。 2.5時間

【第11回】

事前 例外のある場合の運賃計算を調べてくる。 1.5時間

事後 運賃計算の複雑な計算問題を解く。 2.5時間

【第12回】

事前 JR料金の種類について調べてくる。 1.5時間

事後 料金計算の各種計算問題を解く。 2.5時間

【第13回】

事前 半額になる料金とならない料金について調べてくる。 1.5時間

事後 料金計算の複雑な計算問題を解く。 2.5時間

【第14回】

事前 団体の種類について調べてくる。 1.5時間

事後 団体の計算・払い戻しの計算問題を解く。 2.5時間

【第15回】

事前 これまでの全体を振り返り、わからないことをまとめてくる。 1.5時間

事後 国家試験の問題を繰り返し解く。 2.5時間

課題に対するフィードバックの方法

毎回小テストを行う(国家試験の過去問題の場合あり)。
内容は前回の復習、または、当日の復習とする。
採点后返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

毎回行う小テスト、課題提出、定期試験、授業態度により総合的に判断し、60点以上を合格とする。
正当な理由がない欠席6回以上、課題提出が著しく悪い、定期試験未受験、これらの場合は評価対象とはしない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	10	課題提出、指名の返答具合(復習具合)、授業内課題、これらについて真剣に講義に向かっているか判断する。	1, 2, 3
授業外での評価	30	ほぼ毎回レポート課題や計算問題の課題を出すので、その場合は翌週に提出する。	2, 3
定期試験	60	国家試験形式の問題を含め、筆記試験を行う。	3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	2024年版 U-CANの国内・総合旅行業務取扱管理者 速習レッスン(ユーキャンの資格試験シリーズ)【ISBNコードおよび価格未定】
------	--

参考書	JR時刻表 2024年4月号(交通新聞社) 旅行業実務シリーズ「3. 国内運賃・料金」(株)JTB総合研究所 参考書は指示をするまで購入しないこと。
-----	--

履修条件・他の科目との関連	① 国家試験「国内旅行業務取扱管理者」受験者の必須科目である。国家試験を受験する者が受講してもらいたい。 ② 国家試験受験の場合は「旅行業特講II」「旅行業特講III(集中)」も受講すること。 ③ 1回の欠席でその学習が全く理解できなくなるので、気を抜かず必ず全出席すること。 ④ 復習は各自必ず行うこと。
---------------	--

履修条件・他の科目との関連

⑤ 計算問題を行うので指示をした日以降電卓を持参すること。忘れた場合はこの科目に対する受講意思がないものと判断する。

Schedules are subject to change without notice.

授業コード	22044101	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	旅行業特講Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	杉山 維彦				
シラバス執筆(主)	杉山 維彦				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

国内旅行業務取扱管理者試験（国家資格）に関連する事項の学習科目。

旅行業界では、「旅行業法」により営業が行われている。また、業務における対価は「旅行業約款」にて決められ收受している。
これら「旅行業法」と「旅行業約款」について説明する。

本講義では旅行業務取扱管理者試験の問題を中心に、「旅行業法」と「旅行業約款」について解説を行う。

到達目標

- 国内旅行業務取扱管理者試験を受験する場合の、
1. 基礎的な事項(国家試験の内容や業法の目的など)を説明できる
 2. 旅行業に必要な基本知識を持っている
 3. 旅行業に必要な能力を身に付けている
- これらに加え、
4. 旅行会社の仕事(カウンター業務)に必要な知識をもっている

授業計画

- 【第1回】 プロローグ(ガイダンス)
- 【第2回】 旅行業法① (1.目的 2.登録制度)
- 【第3回】 旅行業法② (1.営業保証金制度 2.供託金)
- 【第4回】 旅行業法③ (1.旅行業務取扱管理者 2.旅程管理者)
- 【第5回】 旅行業法④ (1.旅行取引に関する諸規則 2.契約 3.特約)
- 【第6回】 旅行業法⑤ (1.旅程管理 2.添乗員)
- 【第7回】 旅行業法⑥ (1.禁止 2.業務改善命令)
- 【第8回】 旅行業法⑦ (1.旅行業協会 2.消費者保護)
- 【第9回】 旅行業約款① (募集型企画旅行)
- 【第10回】 旅行業約款② (受注型企画旅行)
- 【第11回】 旅行業約款③ (手配旅行)
- 【第12回】 旅行業約款④ (1.旅行相談契約 2.手続代行契約)
- 【第13回】 旅行業約款⑤ (特別保証)
- 【第14回】 旅行業約款⑥ (解除)
- 【第15回】 エピローグ(まとめ・質疑応答)

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

予習は講義で行ったテキストの、次の単元を事前に学習してくる。復習は必ず行い、理解できない場合は必ず質問すること。

【第1回】

事前 シラバスを熟読し、旅行業法と旅行業約款は何かを調べておく。 1.5時間
事後 旅行業法の必要性を理解する。 2.5時間

【第2回】

事前 旅行業法の目的、登録制度は何か調べてくる。 1.5時間
事後 旅行者と旅行者の違いを理解する。 2.5時間

【第3回】

事前 営業保証金制度、供託金とは何か調べてくる。 1.5時間
事後 保証金と供託金の違いを理解する。 2.5時間

【第4回】

事前 旅行業務取扱管理者、旅程管理者とは何か調べてくる。 1.5時間
事後 旅行業務取扱管理者と旅程管理者の違いを理解する。 2.5時間

【第5回】

事前 旅行取引に関する諸規則、契約、特約について調べてくる。 1.5時間
事後 旅行取引について契約について理解する。 2.5時間

【第6回】

事前 旅程管理と添乗員について調べてくる。 1.5時間
事後 添乗員の仕事について理解する。 2.5時間

【第7回】

事前 禁止事項、業務改善命令について調べてくる。 1.5時間
事後 旅行者と旅行者それぞれの禁止事項を理解する。 2.5時間

【第8回】

事前 旅行業協会の仕事について調べてくる。 1.5時間
事後 旅行に関する消費者保護について理解する。 2.5時間

【第9回】

事前 募集型企画旅行とは何か調べてくる。 1.5時間
事後 募集型企画旅行の実例を考える。 2.5時間

【第10回】

事前 受注型企画旅行とは何か調べてくる。 1.5時間
事後 受注型企画旅行の実例を考える。 2.5時間

【第11回】

事前 手配旅行とは何か調べてくる。 1.5時間
事後 手配旅行の実例を考える。 2.5時間

【第12回】

事前 旅行相談契約と手続代行契約とは何か調べてくる。 1.5時間
事後 旅行相談契約と手続代行契約の違いを理解する。 2.5時間

【第13回】

事前 特別保証とは何か調べてくる。 1.5時間
事後 特別保証の種類と内容を理解する。 2.5時間

【第14回】

事前 旅行の解除について調べてくる。 1.5時間
事後 旅行の解除について、旅行者と旅行者の方法の違いについて理解する。 2.5時間

【第15回】

事前 これまでの全体を振り返り、わからないことをまとめてくる。 1.5時間
事後 国家試験の問題を繰り返し解く。 2.5時間

課題に対するフィードバックの方法

毎回小テストを行う(国家試験の過去問題の場合あり)。
内容は前回の復習、または、当日の復習とする
採点后返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

毎回行う小テスト、課題提出、定期試験、授業態度により総合的に判断し、60点以上を合格とする。
正当な理由がない欠席6回以上、課題提出が著しく悪い、定期試験未受験、これらの場合は評価対象とはしない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	10	課題提出、指名の返答具合(復習具合)、授業内課題、これらについて真剣に講義に向かっているか判断する。	1, 2, 3, 4
授業外での評価	30	ほぼ毎回レポート課題や計算問題の課題を出すので、その場合は翌週に提出する。	1, 2
定期試験	60	国家試験形式の問題を含め、筆記試験を行う。	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト 2024年版 U-CANの国内・総合旅行業務取扱管理者 速習レッスン(ユーキャンの資格試験シリーズ)【ISBNコードおよび価格未定】

参考書 旅行業実務シリーズ「1. 旅行業法及びこれに基づく命令」・「2. 運送・宿泊約款」(株)JTB総合研究所

履修条件・他の科目との関連 ① 国家試験「国内旅行業務取扱管理者」受験者の必須科目である。国家試験を受験する者が受講してもらいたい。
② 国家試験受験の場合は「旅行業特講Ⅰ」「旅行業特講Ⅲ(集中)」も受講すること。
③ 1回の欠席でその学習が全く理解できなくなるので、気を抜かず必ず全出席すること。
④ 復習は各自必ず行うこと

Schedules are subject to change without notice.

授業コード	22044201	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	旅行業特講Ⅲ [対面]				
シラバス執筆(全員)	杉山 維彦				
シラバス執筆(主)	杉山 維彦				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

国内旅行業務取扱管理者試験（国家資格）受験対策講座。

国家試験合格を目指すことが木橋である。

本講義では旅行業務取扱管理者試験の問題を中心に講義を行う。

到達目標

- 国内旅行業務取扱管理者試験を受験する場合の、
1. 基礎的な事項(国家試験の内容や業法の目的など)を説明できる
 2. 旅行業法や旅行業約款について理解し、説明できる
 3. JR・国内航空・フェリー・貸切バス、それぞれの運賃・料金の計算ができる
- これらに加え、
4. 旅行会社の仕事(カウンター業務)に必要な知識をもっている

授業計画

- 【第1回】 旅行業法令 まとめと演習
旅行業法令の重要ポイントの復習
- 【第2回】 旅行業法令 まとめと演習
旅行業法令の重要ポイントの復習し、演習をおこなう
- 【第3回】 国内地理 演習・国内旅行業務（フェリー・貸し切りバス）演習
国内地理、国内旅行業務のそれぞれの演習問題を解く
- 【第4回】 国内旅行業務（宿泊・国内航空運賃）演習
国内旅行業務のそれぞれの演習問題を解く
- 【第5回】 国内旅行業務（宿泊・国内航空運賃）演習
国内旅行業務のそれぞれの演習問題を解く
- 【第6回】 国内観光地理 演習
ジャンル別や都道府県別など、様々な側面からの演習問題を解く
- 【第7回】 国内旅行実務（JR運賃）まとめと演習
JR運賃計算の重要ポイントの復習し、演習問題を解く
- 【第8回】 国内旅行実務（JR運賃）まとめと演習
JR運賃計算の重要ポイントの復習し、演習問題を解く
- 【第9回】 国内旅行実務（JR料金）まとめと演習
JR料金計算の重要ポイントの復習し、演習問題を解く
- 【第10回】 国内旅行実務（JR料金）まとめと演習
JR料金計算の重要ポイントの復習し、演習問題を解く
- 【第11回】 国内観光地理 演習
ジャンル別や都道府県別など、様々な側面からの演習問題を解く
- 【第12回】 約款 まとめと演習
旅行業約款と各種約款の重要ポイントを復習
- 【第13回】 約款 まとめと演習
旅行業約款と各種約款の重要ポイントを復習
- 【第14回】 模擬試験
これまでの総復習と疑問点の克服をおこない、本年度の試験に対応した模擬試験問題を本番と同様の環境でおこなう
- 【第15回】 模擬試験の解答・解説
模擬試験の欠点を検証

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

前回までの講義内容を確認し復習しておくこと。
分からない部分は次回必ず質問すること。

- 【第1回】
事前 国内旅行業務取扱管理者試験の過去問題を数多く行う。 1.5時間
事後 旅行業法の目的を理解する。 2.5時間

- 【第2回】
事前 旅行業登録・旅程管理・営業保証金を覚えてくる。 1.5時間
事後 旅行業法の全体を理解する。 2.5時間

【第3回】
 事前 フェリー・貸切バスについて調べる。 1.5時間
 事後 フェリー・貸切バスの運賃料金を理解する。 2.5時間

【第4回】
 事前 宿泊約款を調べる。 1.5時間
 事後 宿泊について確認し覚える。 2.5時間

【第5回】
 事前 国内航空運送約款を調べる。 1.5時間
 事後 国内航空について確認し覚える。 2.5時間

【第6回】
 事前 国内観光資源を覚えてくる。 1.5時間
 事後 都道府県別に観光資源を整理する。 2.5時間

【第7回】
 事前 JRの運賃計算の方法を復習する。 1.5時間
 事後 幹線・地方交通線・そのミックスの計算方法を理解する。 2.5時間

【第8回】
 事前 鉄道会社をまたがる計算を覚えてくる。 1.5時間
 事後 複雑な運賃計算ができるようにする。 2.5時間

【第9回】
 事前 JRの料金の種類を調べる。 1.5時間
 事後 特急料金の種類を覚える。 2.5時間

【第10回】
 事前 グリーン料金・寝台料金を調べる。 1.5時間
 事後 団体の計算方法を理解する。 2.5時間

【第11回】
 事前 国内観光資源を復習して来る。 1.5時間
 事後 観光資源の種類ごとに整理する。 2.5時間

【第12回】
 事前 旅行業約款を復習して来る。 1.5時間
 事後 旅行契約について理解する。 2.5時間

【第13回】
 事前 旅程保証を調べる。 1.5時間
 事後 旅程保証について補償額を理解する。 2.5時間

【第14回】
 事前 過去問題を解いてくる。 1.5時間
 事後 不得手な部分のあぶり出しを行う。 2.5時間

【第15回】
 事前 解答できなかった部分を復習する。 1.5時間
 事後 国家試験受験に向けて学習を続ける。 2.5時間

課題に対するフィードバックの方法

毎回小テストを行う(国家試験の過去問題の場合あり)。
 内容は前回の復習、または、当日の復習とする。
 持ち帰り課題(宿題)とする場合もある。
 採点后返却する

成績評価の方法・基準(方針)

毎回行う演習問題、課題提出、定期試験、授業態度により総合的に判断し、60点以上を合格とする。
 正当な理由がない欠席6回以上、課題提出が著しく悪い、定期試験未受験、これらの場合は評価対象とはしない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	10	課題提出、指名の返答具合(復習具合)、授業内課題、これらについて真剣に講義に向かっているか判断する。	1, 2, 3, 4
授業外での評価	30	ほぼ毎回レポート課題や計算問題の課題を出すので、その場合は翌日に提出する。	1, 2, 3
定期試験	60	国家試験形式の問題を、筆記試験で行う。	1, 2, 3

定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		
テキスト	2024年版 U-CANの国内・総合旅行業務取扱管理者 速習レッスン(ユーキャンの資格試験シリーズ)【ISBNコードおよび価格未定】		
参考書	旅行業実務シリーズ「1. 旅行業法及びこれに基づく命令」・「2. 運送・宿泊約款」・「3. 国内運賃・料金」・「4. 国内観光資源」 (株)JTB総合研究所		
履修条件・他の科目との関連	<p>① 国家試験「国内旅行業務取扱管理者」受験者の必須科目である。</p> <p>② 国家試験受験の場合は「旅行業特講Ⅰ」「旅行業特講Ⅱ」も受講していること。</p> <p>③ 直前合格対策である。国家試験受験希望者のみ受講すること。</p> <p>④ 演習中心であるため、復習は各自必ず行ない、集中講義以前にも事前に試験科目の勉強を十分しておくこと。</p> <p>Schedules are subject to change without notice.</p>		

授業コード	22049901	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	ブライダル実務論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	杉山 維彦				
シラバス執筆(主)	杉山 維彦				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

ブライダル全般についての基本的な知識を総合的に解説する

ブライダルの歴史と慣習、挙式のスタイル、結婚披露宴のスタイル、披露宴進行と演出などの理解を深める。さらにホテルにおける婚礼部門の位置づけ、組織およびスタッフの役割を理解し、その業務内容についても学習する。

ブライダル関連産業で紹介するDVDを見たり、ゲストを招き現場の最新動向及びゲスト自身の業務内容やブライダル業界で働くことに対する考えなどの講義を受けたのちに質疑の時間をとる。ディスカッションは講義内容に関係した内容を設定して行う。

到達目標

1. ブライダルの仕事について、説明できる。
2. ブライダル産業の種類について、理解できる。
3. ブライダルの仕事に必要な資格(ブライダルコーディネート技能検定)の受験に応用できる。
4. 合わせて日本のブライダル関連産業の現状・課題・方向性について解説できる。

授業計画

- 【第1回】 プロローグ(ガイダンス)
- 【第2回】 ブライダルとは何か
- 【第3回】 ブライダル産業・ブライダルビジネス
- 【第4回】 ブライダルの歴史・世界の結婚事情(キリスト教、イスラム教、仏教、神式)
- 【第5回】 ブライダル業に関するディスカッション
- 【第6回】 日本の習慣と由来・欧米の習慣と由来
- 【第7回】 ブライダルの分類・婚礼の種類・挙式スタイル(神前、キリスト教、人前)・披露宴の種類
- 【第8回】 ブライダルにまつわる慣習・婚礼部門の組織・スタッフの役割
- 【第9回】 ブライダルコーディネーター・ウエディングプランナー
- 【第10回】 葬儀・法事(宗教による分類、形態、進行とマナー)
- 【第11回】 葬祭ディレクター
- 【第12回】 ブライダル産業の変遷と婚約指輪
- 【第13回】 ブライダル商品の企画
- 【第14回】 ブライダル商品企画のプレゼンテーション
- 【第15回】 エピローグ(まとめ・質疑応答)

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

前回までの講義内容を確認し復習しておくこと。また、日頃よりブライダル業界の動向について新聞や専門誌などを用いて情報収集を行うこと。

【第1回】
事前 シラバスを熟読し、ブライダルとは何かを調べておく。 2.0時間
事後 ブライダル(結婚式)を行う必要性を理解する。 2.0時間

【第2回】
事前 ブライダルブライダルの必要性を考えてくる。 2.0時間
事後 ブライダルの意義について理解する。 2.0時間

【第3回】
事前 ブライダル産業(ブライダルビジネス)とは何かを調べておく。 2.0時間
事後 結婚式場の行う仕事は何か理解する。 2.0時間

【第4回】
事前 海外の結婚式を調べておく。 2.0時間
事後 ブライダルの始まり(歴史)を理解する。 2.0時間

【第5回】
事前 ブライダルの必要性を考えてくる。 2.0時間
事後 ディスカッションの内容をまとめる。 2.0時間

【第6回】

事前 海外と日本の結婚式の違いを調べておく。 2.0時間
事後 海外と日本のブライダルの習慣の違いを理解する。 2.0時間

【第7回】

事前 挙式のスタイルを調べておく。 2.0時間
事後 挙式の違いを理解する。 2.0時間

【第8回】

事前 結婚式場の仕事を調べておく。 2.0時間
事後 結婚式場のスタッフの役割を理解する。 2.0時間

【第9回】

事前 結婚式を企画する人について調べておく。 2.0時間
事後 ブライダルコーディネーター技能検定について理解する。 2.0時間

【第10回】

事前 葬儀について調べておく。 2.0時間
事後 葬儀の仕事を理解する。 2.0時間

【第11回】

事前 葬儀ディレクターについて調べておく。 2.0時間
事後 葬祭ディレクター技能審査試験について理解する。 2.0時間

【第12回】

事前 指輪の交換の意味を調べておく。 2.0時間
事後 ブライダル産業を理解する。 2.0時間

【第13回】

事前 ブライダル商品とは何か調べておく。 2.0時間
事後 ブライダル商品を考えてみる。 2.0時間

【第14回】

事前 ブライダル商品を企画してくる。 2.0時間
事後 自分のブライダル商品について再考する。 2.0時間

【第15回】

事前 これまでの全体を振り返り、わからないことをまとめてくる。 2.0時間
事後 ブライダル産業の将来を考える。 2.0時間

課題に対するフィードバックの方法

毎回講義内容に関係するコメントを求める。
コメントに対し、追って返却をする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
また、正当な理由がない欠席6回以上、課題提出が著しく悪い、定期試験の未受験、これらの場合は評価対象とはしない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	小テスト(10)、ディスカッションや発表の参加(10)、指名での返答(10)、など授業に臨む態度を考慮する	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	レポート課題を4回程度課と1回の発表をする。テーマは授業中に指示するのでできる限り欠席しないように	1, 2, 3
定期試験	50	15回の授業で行ったことのまとめとして試験を行う。試験に欠席した時点で「K」評価となる。	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト テキストは指示を受けてから購入するように

参考書 必要に応じ紹介する

履修条件・他の科目との関連 講義を主体とするが、ディスカッションや発表も行ってもらう。
特にグループワークは、欠席・遅刻・取り組みに対する消極的な姿勢などが他のメンバーに迷惑をかけることを自覚すること。
配布物(プリントなど)は、翌々回(次の次の回)までしか配布しないので、欠席する場合は注意!
観光関連業界を学ぶ上で「観光ビジネス実務総論」の受講を勧める。

授業コード	22050001	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	リゾート演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	加藤 淳一				
シラバス執筆(主)	加藤 淳一				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

国内有数のリゾート観光地である「沖縄」にて、観光産業や観光資源、および琉球独特の文化や風習について理解を深める。
 現地では、6泊7日の行程予定で、ホテル研修・空港研修・テーマパーク/観光施設見学・世界遺産見学・地域観光資源見学、および事前に各自でテーマを決めたフィールドトリップの実施など、様々な経験を積む。
 研修実施後には、研修内容や学びの発表、および研修報告レポートの作成を行う。

到達目標

1. 実践的な専門知識を高める。
2. 研修先企業や団体の事業内容や業種・職種の特徴を他者にわかりやすく説明することが出来る。
3. リゾート観光の現状や課題について学ぶ。
4. リゾート観光の将来や課題解決について、自ら考え、提案できる能力を身に付ける。

授業計画

本研修参加に際し、5月に研修説明会を実施するので、希望者は申し込みの上、説明会へ参加すること。
 研修説明会の日時等は、別途、案内するので、確認すること。

【事前研修】30時間

- ・オリエンテーション
- ・沖縄（琉球）について
- ・研修先企業研究（ホテル・空港・タラソ）
- ・見学研修先研究（首里城、沖縄県内世界遺産について）
- ・フィールドトリップの企画 など

【現地研修】50時間

- ・ホテル研修
- ・空港研修
- ・ヘルスツーリズム施設研修
- ・テーマパーク/観光施設見学
- ・地域観光資源見学
- ・フィールドトリップ など

【事後研修】10時間

- ・プレゼンテーション準備
- ・プレゼンテーション実施
- ・研修報告レポート作成・提出

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

学内での1回の研修に対し、事前・事後学習を合わせ1時間以上の学習を必要とする。
 現地での1日の活動に対し、事前・事後学習を合わせ2時間以上の学習を必要とする。

課題に対するフィードバックの方法

全体に向け、課題やレポートに対しての振り返りとフィードバックを行うと共に、必要に応じて個人に対し、課題やレポートのコメントなどをClassroomやOIUメール、または直接口頭で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 なお、正当な理由なく、欠席の回数が授業回数の1/3を超える（6回以上欠席）の場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	事前研修ならびに現地研修における受講態度・マナー、積極的な取組姿勢を評価	1, 2, 3
授業外での評価	0		

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	研修内容や学びについてのプレゼンテーション、および研修報告レポートを評価	1, 2, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、プリントを配布する。		
------	----------------------------------	--	--

参考書	必要に応じて、授業の中で紹介する。		
-----	-------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	<p>別途、研修参加費用が必要であり、集合・解散は『那覇空港』とするので、早い段階から航空券の手配など、各自の主体的な行動が必要である。</p> <p>集中科目であるため、年度当初の履修登録の必要はない。</p> <p>実際に企業や施設にて研修を受けさせて頂くため、目的意識をしっかりと持ち、意欲的・積極的に研修へ参加すること。</p> <p>「観光概論」、「国内観光資源」は、履修しておくことが理想である。</p> <p>なお、社会情勢や研修先の状況により、研修計画の順序や内容を変更することがある。</p>		
---------------	---	--	--

授業コード	22042601	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	インターンシップ（海外） [対面]				
シラバス執筆(全員)	森田 篤司、阪口 葉子、加藤 淳一、杉山 維彦				
シラバス執筆(主)	森田 篤司				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	3単位

授業の目的・概要

海外での研修及びホームステイを通じて、異文化に対する国際的な視野及びコミュニケーション力を育成する。現地JTBでのインターンシップ体験を通して、海外と日本の観光業の違いに気づくことで、職業意識を養う。また、現地の語学学校では、活きた英語を指導する。事前学習では、インターンシップ、ホームステイ、危機管理などについて概説する。尚、現地に渡航する前には、十分な事前学習を行う。帰国後は発表を行う。

到達目標

1. 実践的な観光専門知識を体得し他者に説明できるようになる。
2. 現地での英語学習を通じて英語力を向上させると共に、外国人に対して自主的に話しかける積極性を身に付ける。
3. ホームステイなど現地の人々との交流を通じて、異文化理解、国際的な視野と判断力を身に付ける。

授業計画

【事前学習 10時間】

1. インターンシップとは
2. ホームステイについて
3. チーム（観光資源）研究・中間報告・最終発表
4. 危機管理オリエンテーション
5. 渡航手続きについて（eTA, ESTA申請含む）
6. 英会話（サバイバル英語研修）
7. 同窓会への報告
8. まとめ
9. 結団式

【現地研修 117時間】

1. 語学研修（語学学校集中トレーニング）
2. 観光施設視察
3. ホテル視察
4. フィールドワーク（週末）
5. JTB旅行研修
6. バンクーバー空港視察
8. 学びのまとめ発表、修了式

【帰国報告発表 10時間】

1. プレゼンテーション資料作成
2. 帰国報告発表
3. 帰国レポート作成・提出

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。現地での具体的な目標を事前に立てて、現地では自分の活動を適宜振り返り、目標に対する進捗度合いをチェックする。現地ではすべての事が初めての貴重な経験となるが、その中でもカギとなる異文化、語学、観光に関する学びについては、必ずその場でメモに記録し、後刻見直す、調べる、覚えるなどの努力を怠らぬに実施する。又、1日の終わりに、ホストファミリーとの交流及び学習の振り返り、現地での目標達成の進捗管理を行い、日誌に記入する。事前事後学習時間は、国内の1回の演習に対し前後合わせ平均約1時間、現地での1日の活動につき前後合わせ平均約2時間とする。

課題に対するフィードバックの方法

学内での事前学習においては、研修生の課題進捗を確認しながら適宜助言を与え、指導を行う。一方、現地では、研修生の活動日誌を通して、引率教員が研修生とのきめ細かいコミュニケーションを図り、必要に応じて、課題や困りごとに対し個別面談を実施する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により60点以上を合格として所定の単位を認定する。事前学習やオリエンテーションにおいて正当な理由なく欠席率が30%を超える場合は、学習意欲・態度が不十分と判断し、不合格となり、カナダでの実地研修の参加が認められない場合がある。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	カナダ観光業の専門的知識体得(10) 語学学校での評価(英語力の向上と積極性)(50) 現地旅行会社での研修評価(10) 事前学習(自主課題、各種事前研修)(10)	カナダ観光業の専門的知識体得:1語学学校での評価(英語力の向上と積極性):2,3現地旅行会社での研修評価:1,3事前学習(自主課題、各種事前研修):1,2
授業外での評価	10	研修日誌	研修日誌:1,3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	海外研修帰国レポート・発表	海外研修帰国レポート・発表:1,2,3
その他	0		

テキスト	プリントを配布する
参考書	必要に応じて事前研修の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	目的をしっかりと持ち、意欲的・積極的に研修に参加すること。 研修に関連する科目である、英語と観光関連科目は1年次にできるだけ多く履修すること。 研修用のノートを作成すること。 状況によっては授業計画の順序が前後したり、内容が変更したりすることがある。

授業コード	22046001	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	English Communication II [対面]				
シラバス執筆(全員)	森田 篤司				
シラバス執筆(主)	森田 篤司				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

英語を母語としない人々に向け、身近なテーマを取り上げ、オンライン教材も活用し、4技能の中でも特にスピーキングとリスニングを中心とした実践的な演習を行い、正しい発音と語感を身に付けるように指導する。又、授業での双方向コミュニケーションを通して、コミュニケーション能力を高めるよう指導する。

到達目標

1. 新出単語を使用して文章作成することができる。
2. 文法を理解し、それを踏まえコミュニケーションを実践できる。
3. リスニングで内容把握ができる。
4. テキストReadingパートのシャドーイングができる。
5. テキストReadingパートの和訳ができる。
6. 英語発音が向上し、音声認識により発話からテキストに変換できる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション (授業の概要、進め方、評価の方法、到達目標について説明。)
- 第2回 Unit 7 Eating Out 外食での会話の演習を実施する
- 第3回 Unit 7 Reading, Writing
- 第4回 復習クイズ、Unit8 At the Supermarket スーパーでの買い物を想定した場面での演習を実施する
- 第5回 Unit 8 Reading, Writing
- 第6回 復習クイズ、Unit9 Hobbies 趣味についての会話の演習を実施する
- 第7回 Unit 9 Reading, Writing
- 第8回 復習クイズ、Unit10 Shop Till you Drop 買い物を想定した場面での演習を実施する
- 第9回 Unit 10 Reading, Writing
- 第10回 復習クイズ、TOEIC対策
- 第11回 Unit 11 Going on Vacation 休暇についての会話や表現の演習を実施する
- 第12回 Unit 11 Reading, Writing
- 第13回 復習クイズ、Unit 12 さまざまなスポーツについての表現を学び、演習を実施する
- 第14回 Unit 12 Reading, Writing
- 第15回 復習クイズ、後期の総復習

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業(1回につき2時間として計算)と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。Unit毎に新出する単語やフレーズを調べ、理解し、暗記する。又、テキストReadingパートの「音読」の練習(シャドーイング)を繰り返し実施するLINGUA PORTAの学習アプリに取り組む。(事前・事後学習毎回平均各2時間)。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対する取り組み・レポートや授業内での発表、復習クイズ結果などに対して解説を行う。授業内で英語学習アプリ(LINGUA PORTA)を使い、復習を行い、課題の達成状況をフィードバックする

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により60点以上を合格として単位を認定する。
正当な理由無しに5回または、それ以上欠席した場合には原則として評価不能とみなしK評価とする。
遅刻3回で欠席1回の扱いとする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	Vocabulary Worksheet (10) L&R 演習、発表(10) 復習クイズ(15)	Vocabulary Worksheet: 1L&R演習、発表: 1, 3, 4, 5復習クイズ:1, 2, 3, 6
授業外での評価	15	読解演習 (5) LINGUA PORTA総合演習プログラム(10)	読解演習 1, 4, 5LINGUA PORTA総合演習プログラム 1, 2, 6

定期試験	50	筆記試験	1, 2, 3, 6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	Live Escalate Book 1: Base Camp ISBN 978-4-7919-7221-0/角山 照彦 / LiveABC editors/成美堂 / 2,750 /
------	---

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	この授業は“English Communication I”からの継続であり、テキストは“English Communication I”で使用したものと同一とする。 授業を年間で計画しているので、前期の“English Communication I”を受講していることが望ましい。 進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。 授業を欠席した場合は、欠席した授業の内容をクラスメートに確認し、自らフォローアップしておくこと。
---------------	---

授業コード	22044401	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	English Writing I [対面]				
シラバス執筆(全員)	宮本 佳奈				
シラバス執筆(主)	宮本 佳奈				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

文法の基礎知識と英語の構造を解説するとともに、文法知識、英文法構造を踏まえて、短い英文が書ける様に指導する。授業での双方向のコミュニケーションを通じて、簡単な英語によるコミュニケーションができるように指導する。

到達目標

1. 新出単語を使用して文章を作成することができる。
2. 英語の文法を理解できる。
3. 英語の構造を理解できる。
4. 英語の文法、構造を短い英文作成に応用できる。
5. 他者との短い英語でのコミュニケーションが実行できるようになる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（授業の概要について説明）又、基礎語学力の理解度チェックを実施。
 第2回 Unit 1 「出身地」をテーマに、BE動詞を活用した英作文の応用練習を実施。
 第3回 Unit 1 「出身地」をテーマにListening、Reading、Writingの演習を実施。
 第4回 理解度クイズ。Unit 2「趣味」をテーマに、一般動詞を活用した英作文の応用練習を実施。
 第5回 Unit 2 「趣味」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。
 第6回 理解度クイズ。Unit 3「ショッピング」をテーマに、名詞、代名詞の基礎を解説し、英作文の応用練習を実施。
 第7回 Unit 3 「ショッピング」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。
 第8回 理解度クイズ。Unit 4 「自然」をテーマに、疑問詞 (WH)を解説し、英作文の応用練習を実施。
 第9回 Unit 4 「自然」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。
 第10回 理解度クイズ。Unit 5「夢の家」をテーマに、前置詞を解説し、英作文の応用練習を実施。
 第11回 Unit 5 「夢の家」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。
 第12回 理解度クイズ。Unit6「食べ物」をテーマに、接続詞を解説し、英作文の応用練習を実施。
 第13回 Unit6 「食べ物」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。
 第14回 理解度クイズ。Unit7 「初めてのデート」をテーマに、過去形を解説し、英作文の応用練習を実施。
 第15回 Unit7 「初めてのデート」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。講義の最後に提示される授業外課題に着実に取り組む事により、事前・事後学習を確実なものにする。又、課題以外にも自主的に、できるだけ多くの英作文を日頃から作成する習慣をつけるように指導。（毎回平均1時間）

課題に対するフィードバックの方法

課題は基本的には全てパソコン入力の方法を取る。これに伴い、フィードバックもパソコン上で行う事が基本となる。又、同時に、課題に対してクラス内で模範となる解答や、共通の文法間違いなどが確認できた場合は、次の講義の際に冒頭で発表若しくは解説を行いフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により60点以上を合格として所定の単位を認定する。
 成績評価対象は欠席4回までとする。正当な理由無しに5回以上欠席した場合は原則として評価不能とみなしK評価とする。
 遅刻3回で欠席1回の扱いとする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	Vocabulary Worksheet (10) 理解度クイズ (30) 授業内の活動への積極的な参加、振り返りの提出等 (10)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	20	英作文演習	1, 2, 3, 4

定期試験	30	筆記試験	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	English Ace / Atsuko Yamamoto et al. / SEIBIDO / 2200円 / ISBN978-4-7919-5089-8
------	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	この授業で使用するテキストは後期の「English Writing II」でも引き続き使用する。授業を年間で計画しているので、後期「English Writing II」を受講することが望ましい。 パソコンとイヤホンを毎回持参すること。 授業資料は授業終了後Google Classroomに提示するので、欠席した場合は必ず確認すること。
---------------	---

授業コード	22044402	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	English Writing I [対面]				
シラバス執筆(全員)	細井 利枝子				
シラバス執筆(主)	細井 利枝子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

文法の基礎知識と英語の構造を解説するとともに、文法知識、英文法構造を踏まえて、短い英文が書ける様に指導する。又クラスメートとの共同作業などで簡単な英語によるコミュニケーションができるように指導する。

到達目標

1. 新出単語を使用して文章を作成することができる。
2. 英語の文法を理解できる。
3. 英語の構造を理解できる。
4. 英語の文法、構造を短い英文作成に応用できる。
5. 他者との短い英語でのコミュニケーションが実行できるようになる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション(授業の概要について説明)又、基礎語学力の理解度チェックを実施。
 第2回 Unit 1 「出身地」をテーマに、BE動詞を活用した英作文の応用練習を実施。
 第3回 Unit 1 「出身地」をテーマにListening、Reading、Writingの演習を実施。
 第4回 理解度クイズ。Unit 2 「趣味」をテーマに、一般動詞を活用した英作文の応用練習を実施。
 第5回 Unit 2 「趣味」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。
 第6回 理解度クイズ。Unit 3 「ショッピング」をテーマに、名詞、代名詞の基礎を解説し、英作文の応用練習を実施。
 第7回 Unit 3 「ショッピング」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。
 第8回 理解度クイズ。Unit 4 「自然」をテーマに、疑問詞(WH)を解説し、英作文の応用練習を実施。
 第9回 Unit 4 「自然」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。
 第10回 理解度クイズ。Unit 5 「夢の家」をテーマに、前置詞を解説し、英作文の応用練習を実施。
 第11回 Unit 5 「夢の家」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。
 第12回 理解度クイズ。UNIT6 「食べ物」をテーマに、接続詞を解説し、英作文の応用練習を実施。
 第13回 Unit6 「食べ物」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。
 第14回 Unit7 「初めてのデート」をテーマに、過去形を解説し、英作文の応用練習を実施。
 第15回 理解度クイズ。Unit7 「初めてのデート」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業(1回につき2時間として計算)と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。講義の最後に提示される授業外課題に着実に取り組む事により、事前・事後学習を確実なものにする。又、課題以外にも自主的に、できるだけ多くの英作文を日頃から作成する習慣をつけるように指導。(毎回平均1時間)

課題に対するフィードバックの方法

課題は基本的には全てパソコン入力の方法を取る。これに伴い、フィードバックもパソコン上で行う事が基本となる。又、同時に、課題に対してクラス内で模範となる解答や、共通の文法間違いなどが確認できた場合は、次の講義の際に冒頭で発表若しくは解説を行いフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により60点以上を合格として所定の単位を認定する。正当な理由無しに5回、またはそれ以上休んだ場合は、K評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	25	Vocabulary Worksheet (10) 理解度クイズ(10) 音読・発話(5)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	文法、構造の理解度クイズ、英作文演習(20)	2, 3, 4
定期試験	50	筆記試験	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	5	発話練習への積極的な取り組み、ペア活動(対話)の発	5

テキスト	English Ace / Atsuko Yamamoto et al. / SEIBIDO / 2200/ ISBN978-4-7919-5089-8
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	この授業で使用するテキストは後期の「English Writing II」でも引き続き使用する。授業を年間で計画しているので、後期「English Writing II」を受講することが望ましい。 授業を欠席した場合は、欠席した授業の内容をクラスメートに確認し、自らフォローアップしておくこと。

授業コード	22044501	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	English Writing II [対面]				
シラバス執筆(全員)	宮本 佳奈				
シラバス執筆(主)	宮本 佳奈				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

English Writing Iから継続して、更に英語の知識を深めつつ英文が書けるように指導する。パラグラフの書き方を解説し、様々なトピックについて自分の考えをまとめ英文でパラグラフが書ける様に、又授業での双方向のコミュニケーションを通じて、英語によるコミュニケーションができるように指導する。

到達目標

1. 新出単語を使用して文章を作成することができる。
2. パラグラフの構成に従って、自分の考えをまとめ、英文でパラグラフを書くことができる。
3. 自分の考えをまとめ、他者との英語でのコミュニケーションが実行できる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション、前期の復習
 第2回 Unit 8 「推理小説」をテーマに、進行形を解説し、英作文の応用練習を実施。
 第3回 Unit 8 「推理小説」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。
 第4回 理解度クイズ Unit 9 「キャリア」をテーマに、現在完了を解説し、英作文の応用練習を実施。
 第5回 Unit 9 「キャリア」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。
 第6回 理解度クイズ。Unit 10 「パーティー」をテーマに、未来表現を解説し、英作文の応用練習を実施。
 第7回 Unit 10 「パーティー」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。
 第8回 理解度クイズ。Unit 11 「規則」をテーマに、助動詞を解説し、英作文の応用練習を実施。
 第9回 Unit 11 「規則」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。
 第10回 理解度クイズ。Unit 12 「発明と発見」をテーマに、受動態を解説し、英作文の応用練習を実施。
 第11回 Unit 12 「発明と発見」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。
 第12回 理解度クイズ。Unit 13 「映画評論」をテーマに、形容詞・副詞を解説し、英作文の応用練習を実施。
 第13回 UNIT13「映画評論」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。
 第14回 理解度クイズ。Unit 14 「世界記録」をテーマに、比較級・最上級を解説し、英作文の応用練習を実施。
 第15回 Unit 14 「世界記録」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。講義の最後に提示される授業外課題に着実に取り組む事により、事前・事後学習を確実なものにする。又、課題以外にも自主的に、できるだけ多くの英作文を日ごろから作成する習慣をつける様に指導。（毎回平均1時間）

課題に対するフィードバックの方法

課題は基本的には全てパソコン入力の方法を取る。これに伴い、フィードバックもパソコン上で行う事が基本となる。又、同時に、課題に対してクラス内で模範となる解答や、共通の文法間違いなどが確認できた場合は、次の講義の際に冒頭で発表若しくは解説を行いフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により60点以上を合格として所定の単位を認定する。成績評価対象は欠席4回までとする。正当な理由無しに5回以上欠席した場合は原則として評価不能とみなしK評価とする。遅刻3回で欠席1回の扱いとする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	Vocabulary Worksheet (10) 理解度クイズ (30) 授業内の活動への積極的な参加、振り返りの提出等 (10)	1, 2, 3
授業外での評価	20	英作文演習	1, 2
定期試験	30	筆記試験	1, 2, 3

定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		
テキスト	English Ace / Atsuko Yamamoto et al. / 成美堂 / 2200円 / ISBN978-4-7919-5089-8		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	<p>この授業は、“English Writing I”からの継続であり、テキストは“English Writing I”で使用したものと同一とする。</p> <p>授業を年間で計画しているので、前期“English Writing I”を受講していることが望ましい。</p> <p>パソコンとイヤホンを毎回持参すること。</p> <p>授業資料は授業終了後Google Classroomに提示するので、欠席した場合は必ず確認すること。</p>		

授業コード	22044502	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	English Writing II [対面]				
シラバス執筆(全員)	細井 利枝子				
シラバス執筆(主)	細井 利枝子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

English Writing Iから継続して、更に英語の知識を深めつつ英文が書けるように指導する。パラグラフの書き方を解説し、様々なトピックについて自分の考えをまとめ英文でパラグラフが書ける様に、又クラスメートとの共同作業などで英語によるコミュニケーションができるように指導する。

到達目標

1. 新出単語を使用して文章を作成することができる。
2. パラグラフの構成に従って、自分の考えをまとめ、英文でパラグラフが書くことができる。
3. 自分の考えをまとめ、他者との英語でのコミュニケーションが実行できる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション、前期の復習
- 第2回 Unit 8 「推理小説」をテーマに、進行形を解説し、英作文の応用練習を実施。
- 第3回 Unit 8 「推理小説」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。
- 第4回 理解度クイズ Unit 9 「キャリア」をテーマに、現在完了を解説し、英作文の応用練習を実施。
- 第5回 Unit 9 「キャリア」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。
- 第6回 理解度クイズ。Unit 10 「パーティー」をテーマに、未来表現を解説し、英作文の応用練習を実施。
- 第7回 Unit 10 「パーティー」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。
- 第8回 理解度クイズ。Unit 11 「規則」をテーマに、助動詞を解説し、英作文の応用練習を実施。
- 第9回 Unit 11 「規則」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。
- 第10回 理解度クイズ。Unit 12 「発明と発見」をテーマに、受動態を解説し、英作文の応用練習を実施。
- 第11回 Unit 12 「発明と発見」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。
- 第12回 理解度クイズ。Unit 13 「映画評論」をテーマに、形容詞・副詞を解説し、英作文の応用練習を実施。
- 第13回 UNIT13「映画評論」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。
- 第14回 理解度クイズ。Unit 14 「世界記録」をテーマに、比較級・最上級を解説し、英作文の応用練習を実施。
- 第15回 Unit 14 「世界記録」をテーマに、Listening、Reading、Writingの演習を実施。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。講義の最後に提示される授業外課題に着実に取り組む事により、事前・事後学習を確実なものにする。又、課題以外にも自主的に、できるだけ多くの英作文を日ごろから作成する習慣をつける様に指導。（毎回平均1時間）

課題に対するフィードバックの方法

課題は基本的には全てパソコン入力の方法を取る。これに伴い、フィードバックもパソコン上で行う事が基本となる。又、同時に、課題に対してクラス内で模範となる解答や、共通の文法間違いなどが確認できた場合は、次の講義の際に冒頭で発表若しくは解説を行いフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により60点以上を合格として所定の単位を認定する。正当な理由無しに5回、またはそれ以上休んだ場合は、K評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	25	Vocabulary Worksheet (10) 理解度クイズ (10) 音読・発話(5)	1, 2, 3
授業外での評価	20	文法、構造の理解度クイズ、英作文演習 (20)	2
定期試験	50	筆記試験	1, 2
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	5	発話練習への積極的な取り組み、ペア活動(対話)の発表	3

テキスト	English Ace / Atsuko Yamamoto et al. / 成美堂 / 2200 / ISBN978-4-7919-5089-8
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	この授業は、“English Writing I”からの継続であり、テキストは“English Writing I”で使用したものと同一とする。 授業を年間で計画しているので、前期“English Writing I”を受講していることが望ましい。 授業を欠席した場合は、欠席した授業の内容をクラスメートに確認し、自らフォローアップしておくこと。

授業コード	22044601	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	English Listening I [対面]				
シラバス執筆(全員)	J.C. デン				
シラバス執筆(主)	J.C. デン				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

In this course, I will explain how to develop your listening skills. To improve this language skill, you must learn to listen for specific facts, details, and reasons, as well as learn to understand how speakers show interest and understanding. There will be many listening assignments in class and for homework. As strong vocabulary is also necessary for good listening, this course includes vocabulary building. Particular attention is paid to strategy development for listening during testing situations and in academic settings, as well as differentiating specific sounds of English. Course information and homework assignments will be on Google Classroom.

到達目標

By successfully completing this course, students will be able to...

1. Learn a variety of listening strategies for general comprehension of conversations about everyday themes
2. Apply listening strategies to other contexts
3. Practice bottom-up skills through pronunciation, intonation, and dictation exercises
4. Improve grammar and vocabulary for listening

授業計画

- 【第1回】
 テーマ： Unit 1 & Course Introduction. Google Class registration and explanation.
 内容・方法： “The Weekend” : Listening and conversation practice
- 【第2回】
 テーマ： Unit 2
 内容・方法： “City Transportation” : Listening and conversation practice
- 【第3回】
 テーマ： Unit 3
 内容・方法： “Neighbors” : Listening and conversation practice
- 【第4回】
 テーマ： Unit 4
 内容・方法： “Celebrations” : Listening and conversation practice
- 【第5回】
 テーマ： Evaluation 1: Units 1-4
 内容・方法： Chapter review test.
- 【第6回】
 テーマ： Unit 5
 内容・方法： “Restaurants” : Listening and conversation practice
- 【第7回】
 テーマ： Unit 6
 内容・方法： “Gifts” : Listening and conversation practice
- 【第8回】
 テーマ： Unit 7
 内容・方法： “Air Travel” : Listening and conversation practice
- 【第9回】
 テーマ： Unit 8
 内容・方法： “Mishaps” : Listening and conversation practice
- 【第10回】
 テーマ： Evaluation 2: Units 5-8
 内容・方法： Chapter review test.
- 【第11回】
 テーマ： Unit 9
 内容・方法： “Jobs” : Listening and conversation practice
- 【第12回】
 テーマ： Unit 10
 内容・方法： “Keeping Fit” : Listening and conversation practice
- 【第13回】
 テーマ： Unit 11
 内容・方法： “Invitations” : Listening and conversation practice
- 【第14回】
 テーマ： Unit 12
 内容・方法： “Campus Life” : Listening and conversation practice
- 【第15回】
 テーマ： Evaluation 3: Units 9-12

内容・方法：Chapter review test.
Final Evaluation explanation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
事前学修課題： Review the syllabus. Purchase the textbook.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第2回】
事前学修課題： Read Unit 2 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第3回】
事前学修課題： Read Unit 3 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第4回】
事前学修課題： Read Unit 4 and check word meanings.
事後学修課題： Review chapters 1-4
- 【第5回】
事前学修課題： Prepare for Evaluation 1
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第6回】
事前学修課題： Read Unit 5 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第7回】
事前学修課題： Read Unit 6 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第8回】
事前学修課題： Read Unit 7 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第9回】
事前学修課題： Read Unit 8 and check word meanings.
事後学修課題： Review chapters 5-8
- 【第10回】
事前学修課題： Prepare for Evaluation 2
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第11回】
事前学修課題： Read Unit 9 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第12回】
事前学修課題： Read Unit 10 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments
- 【第13回】
事前学修課題： Read Unit 11 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第14回】
事前学修課題： Read Unit 12 and check word meanings.
事後学修課題： Review chapters 9-12
- 【第15回】
事前学修課題： Prepare for Evaluation 3
事後学修課題： Prepare for Final Evaluation

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

成績評価の方法・基準(方針)

Note: The course plan and grading criteria are subject to change. Information about coursework and grading policy will be on Google Classroom.

Active participation in class (10%)
Vocabulary and Dictation quizzes (10%),
Semester evaluations (30%)
Homework assignments (20%)
Self-study units (10%)
Final evaluation exam (20%)

A score of 60% or higher is required to receive credit.
If you are absent 5 or more times without a valid reason, you will be graded 「K」

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	Active participation in class (10%), vocabulary and	1, 3

		dictation quizzes (10%) and semester evaluations (30%)	
授業外での評価	30	Homework assignments (20%) and self-study units (10%)	2, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	20	Final evaluation exam (20%)	3, 4
その他	0	none	

テキスト	Tactics for Listening Developing Student Book, Third Edition: Jack C Richards with Grant Trew; 2011, (Oxford University Press) ISBN: 978-0-19-401385-7		
------	--	--	--

参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する		
-----	--	--	--

履修条件・他の科目との関連	<p>Notes:</p> <p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 10 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は10分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>		
---------------	---	--	--

授業コード	22044602	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	English Listening I [対面]				
シラバス執筆(全員)	S. D. ラーダー				
シラバス執筆(主)	S. D. ラーダー				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

In this course, I will explain how to develop your listening skills. To improve this language skill, you must learn to listen for specific facts, details, and reasons, as well as learn to understand how speakers show interest and understanding. There will be many listening assignments in class and for homework. As strong vocabulary is also necessary for good listening, this course includes vocabulary building. Particular attention is paid to strategy development for listening during testing situations and in academic settings, as well as differentiating specific sounds of English. Course information and homework assignments will be on Google Classroom.

到達目標

By successfully completing this course, students will be able to...

1. Learn a variety of listening strategies for general comprehension of conversations about everyday themes
2. Apply listening strategies to other contexts
3. Practice bottom-up skills through pronunciation, intonation, and dictation exercises
4. Improve grammar and vocabulary for listening

授業計画

- 【第1回】
 テーマ： Unit 1 & Course Introduction. Google Class registration and explanation.
 内容・方法： “The Weekend” : Listening and conversation practice
- 【第2回】
 テーマ： Unit 2
 内容・方法： “City Transportation” : Listening and conversation practice
- 【第3回】
 テーマ： Unit 3
 内容・方法： “Neighbors” : Listening and conversation practice
- 【第4回】
 テーマ： Unit 4
 内容・方法： “Celebrations” : Listening and conversation practice
- 【第5回】
 テーマ： Evaluation 1: Units 1-4
 内容・方法： Chapter review test.
- 【第6回】
 テーマ： Unit 5
 内容・方法： “Restaurants” : Listening and conversation practice
- 【第7回】
 テーマ： Unit 6
 内容・方法： “Gifts” : Listening and conversation practice
- 【第8回】
 テーマ： Unit 7
 内容・方法： “Air Travel” : Listening and conversation practice
- 【第9回】
 テーマ： Unit 8
 内容・方法： “Mishaps” : Listening and conversation practice
- 【第10回】
 テーマ： Evaluation 2: Units 5-8
 内容・方法： Chapter review test.
- 【第11回】
 テーマ： Unit 9
 内容・方法： “Jobs” : Listening and conversation practice
- 【第12回】
 テーマ： Unit 10
 内容・方法： “Keeping Fit” : Listening and conversation practice
- 【第13回】
 テーマ： Unit 11
 内容・方法： “Invitations” : Listening and conversation practice
- 【第14回】
 テーマ： Unit 12
 内容・方法： “Campus Life” : Listening and conversation practice
- 【第15回】
 テーマ： Evaluation 3: Units 9-12

内容・方法： Chapter review test.
Final Evaluation explanation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
事前学修課題： Review the syllabus. Purchase the textbook.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第2回】
事前学修課題： Read Unit 2 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第3回】
事前学修課題： Read Unit 3 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第4回】
事前学修課題： Read Unit 4 and check word meanings.
事後学修課題： Review chapters 1-4
- 【第5回】
事前学修課題： Prepare for Evaluation 1
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第6回】
事前学修課題： Read Unit 5 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第7回】
事前学修課題： Read Unit 6 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第8回】
事前学修課題： Read Unit 7 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第9回】
事前学修課題： Read Unit 8 and check word meanings.
事後学修課題： Review chapters 5-8
- 【第10回】
事前学修課題： Prepare for Evaluation 2
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第11回】
事前学修課題： Read Unit 9 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第12回】
事前学修課題： Read Unit 10 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments
- 【第13回】
事前学修課題： Read Unit 11 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第14回】
事前学修課題： Read Unit 12 and check word meanings.
事後学修課題： Review chapters 9-12
- 【第15回】
事前学修課題： Prepare for Evaluation 3
事後学修課題： Prepare for Final Evaluation

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

成績評価の方法・基準(方針)

Note: The course plan and grading criteria are subject to change. Information about coursework and grading policy will be on Google Classroom.

Active participation in class (10%)
Vocabulary and Dictation quizzes (10%),
Semester evaluations (30%)
Homework assignments (20%)
Self-study units (10%)
Final evaluation exam (20%)

A score of 60% or higher is required to receive credit.
If you are absent 5 or more times without a valid reason, you will be graded 「K」

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	Active participation in class (10%), vocabulary and	1, 3

		dictation quizzes (10%) and semester evaluations (30%)	
授業外での評価	30	Homework assignments (20%) and self-study units (10%)	2, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	20	Final evaluation exam (20%)	3, 4
その他	0	none	

テキスト	Tactics for Listening Developing Student Book, Third Edition: Jack C Richards with Grant Trew; 2011, (Oxford University Press) ISBN: 978-0-19-401385-7		
------	--	--	--

参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する		
-----	--	--	--

履修条件・他の科目との関連	<p>Notes:</p> <p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>		
---------------	---	--	--

授業コード	22044701	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	English Listening II [対面]				
シラバス執筆(全員)	J.C. デン				
シラバス執筆(主)	J.C. デン				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

In this course, I will explain how to develop your listening skills. To improve this language skill, you must learn to listen for specific facts, details, and reasons, as well as learn to understand how speakers show interest and understanding. There will be many listening assignments in class and for homework. As strong vocabulary is also necessary for good listening, this course includes vocabulary building. Particular attention is paid to strategy development for listening during testing situations and in academic settings, as well as differentiating specific sounds of English. Course information and homework assignments will be on Google Classroom.

到達目標

By successfully completing this course, students will be able to...

1. Learn a variety of listening strategies for general comprehension of conversations about everyday themes
2. Apply listening strategies to other contexts
3. Practice bottom-up skills through pronunciation, intonation, and dictation exercises
4. Improve grammar and vocabulary for listening

授業計画

- 【第1回】
 テーマ： Unit 13 & Course Introduction.
 内容・方法：“Hobbies and Pastimes”：Listening and conversation practice
- 【第2回】
 テーマ： Unit 14
 内容・方法：“Shopping Problems”：Listening and conversation practice
- 【第3回】
 テーマ： Unit 15
 内容・方法：“Hotel Services”：Listening and conversation practice
- 【第4回】
 テーマ： Unit 16
 内容・方法：“Movies”：Listening and conversation practice
- 【第5回】
 テーマ： Evaluation 1: Units 13-16
 内容・方法：Chapter review test.
- 【第6回】
 テーマ： Unit 17
 内容・方法：“Fears”：Listening and conversation practice
- 【第7回】
 テーマ： Unit 18
 内容・方法：“Phone Messages”：Listening and conversation practice
- 【第8回】
 テーマ： Unit 19
 内容・方法：“Touring a City”：Listening and conversation practice
- 【第9回】
 テーマ： Unit 20
 内容・方法：“Airports”：Listening and conversation practice
- 【第10回】
 テーマ： Evaluation 2: Units 17-20
 内容・方法：Chapter review test.
- 【第11回】
 テーマ： Unit 21
 内容・方法：“Hotels”：Listening and conversation practice
- 【第12回】
 テーマ： Unit 22
 内容・方法：“Traffic”：Listening and conversation practice
- 【第13回】
 テーマ： Unit 23
 内容・方法：“Roommates”：Listening and conversation practice
- 【第14回】
 テーマ： Unit 24
 内容・方法：“Travel”：Listening and conversation practice
- 【第15回】
 テーマ： Evaluation 3: Units 21-24

内容・方法： Chapter review test.
Final Evaluation explanation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
事前学修課題： Review the syllabus. Purchase the textbook.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第2回】
事前学修課題： Read Unit 14 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第3回】
事前学修課題： Read Unit 15 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第4回】
事前学修課題： Read Unit 16 and check word meanings.
事後学修課題： Review chapters 13-16
- 【第5回】
事前学修課題： Prepare for Evaluation 1
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第6回】
事前学修課題： Read Unit 17 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第7回】
事前学修課題： Read Unit 18 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第8回】
事前学修課題： Read Unit 19 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第9回】
事前学修課題： Read Unit 20 and check word meanings.
事後学修課題： Review chapters 17-20
- 【第10回】
事前学修課題： Prepare for Evaluation 2
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第11回】
事前学修課題： Read Unit 21 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第12回】
事前学修課題： Read Unit 22 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments
- 【第13回】
事前学修課題： Read Unit 23 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第14回】
事前学修課題： Read Unit 24 and check word meanings.
事後学修課題： Review chapters 21-24
- 【第15回】
事前学修課題： Prepare for Evaluation 3
事後学修課題： Prepare for Final Evaluation

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

成績評価の方法・基準(方針)

Note: The course plan and grading criteria are subject to change. Information about coursework and grading policy will be on Google Classroom.

Active participation in class (10%)
Vocabulary and Dictation quizzes (10%),
Semester evaluations (30%)
Homework assignments (20%)
Self-study units (10%)
Final evaluation exam (20%)

A score of 60% or higher is required to receive credit.
If you are absent 5 or more times without a valid reason, you will be draded 「K」

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	Active participation in class (10%), vocabulary and	1, 3

		dictation quizzes (10%) and semester evaluations (30%)	
授業外での評価	30	Homework assignments (20%) and self-study units (10%)	2, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	20	Final evaluation exam (20%)	1, 3, 4
その他	0	none	

テキスト	Tactics for Listening Developing Student Book, Third Edition: Jack C Richards with Grant Trew; 2011, (Oxford University Press) ISBN: 978-0-19-401385-7		
------	--	--	--

参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する		
-----	--	--	--

履修条件・他の科目との関連	<p>Notes:</p> <p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>		
---------------	---	--	--

授業コード	22044702	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	English Listening II [対面]				
シラバス執筆(全員)	S. D. ラーダー				
シラバス執筆(主)	S. D. ラーダー				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

In this course, I will explain how to develop your listening skills. To improve this language skill, you must learn to listen for specific facts, details, and reasons, as well as learn to understand how speakers show interest and understanding. There will be many listening assignments in class and for homework. As strong vocabulary is also necessary for good listening, this course includes vocabulary building. Particular attention is paid to strategy development for listening during testing situations and in academic settings, as well as differentiating specific sounds of English. Course information and homework assignments will be on Google Classroom.

到達目標

By successfully completing this course, students will be able to...

1. Learn a variety of listening strategies for general comprehension of conversations about everyday themes
2. Apply listening strategies to other contexts
3. Practice bottom-up skills through pronunciation, intonation, and dictation exercises
4. Improve grammar and vocabulary for listening

授業計画

- 【第1回】
 テーマ： Unit 13 & Course Introduction.
 内容・方法：“Hobbies and Pastimes”：Listening and conversation practice
- 【第2回】
 テーマ： Unit 14
 内容・方法：“Shopping Problems”：Listening and conversation practice
- 【第3回】
 テーマ： Unit 15
 内容・方法：“Hotel Services”：Listening and conversation practice
- 【第4回】
 テーマ： Unit 16
 内容・方法：“Movies”：Listening and conversation practice
- 【第5回】
 テーマ： Evaluation 1: Units 13-16
 内容・方法：Chapter review test.
- 【第6回】
 テーマ： Unit 17
 内容・方法：“Fears”：Listening and conversation practice
- 【第7回】
 テーマ： Unit 18
 内容・方法：“Phone Messages”：Listening and conversation practice
- 【第8回】
 テーマ： Unit 19
 内容・方法：“Touring a City”：Listening and conversation practice
- 【第9回】
 テーマ： Unit 20
 内容・方法：“Airports”：Listening and conversation practice
- 【第10回】
 テーマ： Evaluation 2: Units 17-20
 内容・方法：Chapter review test.
- 【第11回】
 テーマ： Unit 21
 内容・方法：“Hotels”：Listening and conversation practice
- 【第12回】
 テーマ： Unit 22
 内容・方法：“Traffic”：Listening and conversation practice
- 【第13回】
 テーマ： Unit 23
 内容・方法：“Roommates”：Listening and conversation practice
- 【第14回】
 テーマ： Unit 24
 内容・方法：“Travel”：Listening and conversation practice
- 【第15回】
 テーマ： Evaluation 3: Units 21-24

内容・方法： Chapter review test.
Final Evaluation explanation.

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
事前学修課題： Review the syllabus. Purchase the textbook.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第2回】
事前学修課題： Read Unit 14 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第3回】
事前学修課題： Read Unit 15 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第4回】
事前学修課題： Read Unit 16 and check word meanings.
事後学修課題： Review chapters 13-16
- 【第5回】
事前学修課題： Prepare for Evaluation 1
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第6回】
事前学修課題： Read Unit 17 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第7回】
事前学修課題： Read Unit 18 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第8回】
事前学修課題： Read Unit 19 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第9回】
事前学修課題： Read Unit 20 and check word meanings.
事後学修課題： Review chapters 17-20
- 【第10回】
事前学修課題： Prepare for Evaluation 2
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第11回】
事前学修課題： Read Unit 21 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第12回】
事前学修課題： Read Unit 22 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments
- 【第13回】
事前学修課題： Read Unit 23 and check word meanings.
事後学修課題： Complete Homework assignments.
- 【第14回】
事前学修課題： Read Unit 24 and check word meanings.
事後学修課題： Review chapters 21-24
- 【第15回】
事前学修課題： Prepare for Evaluation 3
事後学修課題： Prepare for Final Evaluation

課題に対するフィードバックの方法

1. Feedback on assignments will be provided regularly in class and via Google Classroom.
2. Overall course progress and feedback will be given at midterm and before the final class.
3. Students can contact their teacher for an appointment if they need advice or assistance.

成績評価の方法・基準(方針)

Note: The course plan and grading criteria are subject to change. Information about coursework and grading policy will be on Google Classroom.

Active participation in class (10%)
Vocabulary and Dictation quizzes (10%),
Semester evaluations (30%)
Homework assignments (20%)
Self-study units (10%)
Final evaluation exam (20%)

A score of 60% or higher is required to receive credit .
If you are absent 5 or more times without a valid reason, you will be graded 「K」

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	Active participation in class (10%), vocabulary and	1, 3

		dictation quizzes (10%) and semester evaluations (30%)	
授業外での評価	30	Homework assignments (20%) and self-study units (10%)	2, 4
定期試験	0	none	
定期試験に代わるレポート等	20	Final evaluation exam (20%)	1, 3, 4
その他	0	none	

テキスト	Tactics for Listening Developing Student Book, Third Edition: Jack C Richards with Grant Trew; 2011, (Oxford University Press) ISBN: 978-0-19-401385-7		
------	--	--	--

参考書	Introduce in class as needed 必要に応じ授業の中で紹介する		
-----	--	--	--

履修条件・他の科目との関連	<p>Notes:</p> <p>1) You will get more information from the course teacher during the first class. This syllabus is subject to change. Changes will be announced in class. 詳細は、初回授業時にコース担当者から説明します。このシラバスは変更される可能性があります。変更された場合は、授業中にお知らせします。</p> <p>2) If you are absent more than 4 times without excuse, you cannot receive credit (5th absence results in automatic failure). 5回以上欠席すると、単位を取得することができない。</p> <p>3) If you are late 3 times, it will be counted as one absence. 遅刻3回は、欠席1回としてみなされる。</p> <p>4) If you arrive more than 30 minutes late to a 90-minute class, you may study, but you will be marked as absent. 90分の授業の場合遅刻は30分までとし、それを超えて遅刻した場合は、授業に参加することはできないが、欠席扱いとなる。</p> <p>5) BYOD: Bring Your Own Device. Be sure to bring all necessary materials with you to class, including a charged laptop. A smartphone is not suitable for class activities. BYOD - 充電済みのノート型パソコンなど、授業に必要なものは持参すること。スマートフォンは授業に適しません。</p>		
---------------	---	--	--

授業コード	22050101	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	English Reading [対面]				
シラバス執筆(全員)	宮本 佳奈				
シラバス執筆(主)	宮本 佳奈				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業の主な目的はインプットスキル、特に基本的な英語リスニング・リーディングスキルの習得です。授業では身近なテーマ（例：Unit 3 スターバックスはなぜ日本で成功したのか）の文章を以下の手順で読み進めていきます。① 短めの英文（60～70語程度）を読んでざっくりと内容理解をする、② 文章中で使われる英文法を学習する、③ 同じトピックについて書かれた長め（180語程度）の英文を様々な形式の質問に答えながら読解する。さらに、リスニング活動と音読練習を繰り返すことで英語のリズムや発音の特徴をつかみ、まとまった英文を効率よく聴いたり読んだりできるよう指導します。

到達目標

1. 基本的な英語の知識（語彙、英文法）を習得し、テキストの英文をより正確に理解することができる。
2. テキストの英文を正しい発音でスムーズに音読することができる。
3. 英語のリズムや発音の特徴をつかみ、まとまった英文を効率よく聴いたり読んだりできる。
4. テキストの英文内容を理解し、テーマについての知識を広げたり理解を深めたりできる。

授業計画

- 【第1回】 Course Orientation 授業の目標、進め方、評価方法など / Unit 1-(1) Who Is Pepper? [現在形]
- 【第2回】 Unit 1-(2)
- 【第3回】 Unit 2-(1) What's It Like to Be a Self-Sufficient Family? [代名詞]
- 【第4回】 Unit 2-(2)
- 【第5回】 Review Quiz (Unit 1-2) / Unit 3-(1) Why Did Starbucks Become a Hit in Japan? [過去形]
- 【第6回】 Unit 3-(2)
- 【第7回】 Unit 4-(1) How Do Americans Celebrate Halloween? [可算名詞・不可算名詞]
- 【第8回】 Unit 4-(2)
- 【第9回】 Review Quiz (Unit 3-4) / Unit 5-(1) Do You Want to Travel Back in Time to a Roman Thermae? [時と場所を表す前置詞]
- 【第10回】 Unit 5-(2)
- 【第11回】 Unit 6-(1) Are You Going Cashless? [進行形]
- 【第12回】 Unit 6-(2)
- 【第13回】 Review / Christmas
- 【第14回】 Unit 8-(1) Would You Like to Be a Pioneer Like Coco Chanel? [動名詞・不定詞]
- 【第15回】 Unit 8-(2) / Final Examination (定期試験) の説明

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業時間（30時間＝1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。
 事前学習：テーマを事前に確認しておくこと。
 事後学習：単語や英文法の復習 / 音声を聞きながら自分で音読練習 / 出された課題は必ず提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

- ・ Review Quiz（復習クイズ）や授業外の提出課題にはポイントを付与し、適宜フィードバックをする。
- ・ 授業中の活動（ペアワーク、演習）については、机間巡視により理解度を把握し、助言等を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下の評価方法により60点以上を合格として単位を認定する。正当な理由なく欠席回数が5回を超えた場合は、評価の対象とせず「K」評価となるため、注意すること。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	Review Quizzes [vocabulary、文法、内容理解] (40) 授業内の活動への積極的な参加、振り返りの提出等 (10)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	課題の提出	1, 2, 3
定期試験	30	Final Examination(筆記試験)	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		

その他	0		
テキスト	Reading Link / Robert Hickling, Misato Usukura / KINSEIDO / 2000円 / ISBN978-4-7647-4100-3		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・進行によっては、授業計画の順序や内容が変更されることがある。 ・パソコンとイヤホンを毎回持参すること。 ・授業資料は授業終了後Google Classroomに提示するので、欠席した場合は必ず確認すること。 		

授業コード	22046101	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	Travel English [対面]				
シラバス執筆(全員)	宮本 佳奈				
シラバス執筆(主)	宮本 佳奈				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

海外で安全に楽しく旅行するためには現地でのコミュニケーションが大切です。この授業では、海外旅行中に遭遇する様々な場面を想定した英会話表現を学習します。また、毎回ペアやグループでロールプレイングを行い、学習した表現を実践的に使う機会を多く設けます。対話形式の練習を通して旅行者としての立場だけでなく、海外からの旅行者に対応するためのフレーズも同時に身につけます。異なる文化的背景を持つ人たちと自信を持って英語でコミュニケーションができるようになります。

到達目標

1. 観光・旅行関連の基礎的な単語やフレーズを覚え、それらを使って英会話ができる。
2. 海外旅行時や訪日外国人観光客と接する時に自信を持って英語でコミュニケーションができる。
3. 多文化・異文化及び自国の文化に関する理解を深め、異文化間コミュニケーションを円滑に図ることができる。
4. ペアワークやグループワークを通して他者と協調し、協同作業をすることができる。

授業計画

- 【第1回】オリエンテーション
内容：コース全体の流れと学び方についての説明、海外旅行に関するトピック、自己紹介等。
- 【第2回】テーマ：入国審査
内容：空港での入国審査における基本的なやりとりを学習する。
(テキスト Unit 1: What's the purpose of your visit?)
- 【第3回】テーマ：目的地への移動 / 交通機関 / 乗換案内
内容：目的地までの移動手段を尋ねたり答えたりする表現、また交通機関を利用する際に必要な表現や乗換案内の表現を学習する。
(テキスト Unit 3: When is the next train to Xi'an?)
- 【第4回-5回】テーマ：ホテル
内容：チェックイン/チェックアウト手続きのやり取りを学習する。また、ホテルへの要望やトラブルの伝え方を覚える。
(テキスト Unit 4: The TV is broken. / Unit 17: I don't think this is right.)
※第4回 Review Quiz ①
- 【第6回-7回】テーマ：観光 / 道案内
内容：旅行先で観光情報（おすすめの観光地、食べ物、アクティビティーなど）を尋ねたり答えたりする表現、道案内の表現を学習する。
(テキスト Unit 5: What is there to see? / Unit 11: Would you like to visit the Temple of Heaven? / Unit 14: Go straight along this road.)
- 【第8-9回】テーマ：買い物
内容：スーパーでの買い物、また洋服やお土産を選んだり購入したりする際の店員と客とのやり取りを学習する。
(テキスト Unit 2: How much is it?)
※第8回 Review Quiz ②
- 【第10回-12回】テーマ：食事
内容：レストランでオーダーする時の店員（サーバー）とのやり取り、カフェやファーストフード店でテイクアウトメニューをオーダーする時のやり取りを学習する。
(テキスト Unit 10: I'd like a cup of coffee, please. / Unit 13: I'd like a chicken sandwich, please.)
- 【第13回】テーマ：トラブル
内容：体調不良や怪我をした時の伝え方を学習する。
(テキスト Unit 9: Does it hurt?)
- 【第14回】Speaking演習（準備・練習）
内容：これまで学習した場面からひとつ選び、ペアまたはグループでSkit（寸劇）を作る。
※Review Quiz ③
- 【第15回】Speaking演習（発表）
内容1：ペアまたはグループ発表（Skit）
内容2：Final Examinationの説明

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間（30時間＝1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。
事前学習：事前にテーマを確認して授業に参加すること。その際、旅行者としての立場に加えて、自分が訪日観光客に対応する立場だったらどのように説明するかも考えてみましょう。
事後学習：学習した単語・英会話表現を繰り返し声に出して練習すること。単語のつづりも覚えましょう。既習内容については随時Review Quiz（復習クイズ）で定着度を確認するののでしっかり復習すること。また、出された課題は確実にこなした上で次の授業に臨むよう努めてください。

課題に対するフィードバックの方法

- ・ Review Quizにはポイントを付与し、適宜フィードバックをする。
- ・ 授業中の活動（ペア・グループワーク）については、机間巡視により理解度を把握し、助言等を行う。
- ・ Speaking演習についてはルーブリックで評価基準を明確にし、発表後にクラスメートと教員によるフィードバックをする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下の評価方法により60点以上を合格として単位を認定する。正当な理由なく欠席回数が5回を超えた場合は、評価の対象とせず「K」評価となるため、注意すること。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	Review Quizzes (30) Speaking演習 (30) ペア・グループワークへの積極的な参加、振り返りの提出等 (10)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	30	Final Examination (リスニング問題を含む筆記試験)	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	PASSPORT2 / Angela Buckingham, Lewis Lansford / Oxford University Press / 2765円 / ISBN 978-0-19-471822-6
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none">・ 学習した英会話表現を実践的に使えるようになるため、ペア・グループワークに積極的に参加すること。・ 授業資料は授業終了後Google Classroomに提示するので、欠席した場合は必ず確認すること。

授業コード	22043301	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	英語総合演習Ⅲ [対面]				
シラバス執筆(全員)	細井 利枝子				
シラバス執筆(主)	細井 利枝子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

英語総合演習Ⅰから継続して、更に英語の運用能力が向上するよう指導する。英文の構造を理解し、スラッシュリーディングの正確さ、及びリスニングの精度も高めるよう指導する。また、クラスメートとの共同作業を通じて実践的な英語でのコミュニケーション能力及び自分の意思を英語で的確に述べる事が出来るよう指導する。

到達目標

1. 語彙力の向上。語彙拡大と新出単語を使用して文章作成ができる。
2. 英語の基礎ルールを正しく理解できて応用ができる。
3. 英語の基礎ルールを踏まえコミュニケーションを実践できる。
4. 様々な英語資格試験の取得の際、英語4技能に応用、実践できる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション、及びUnit 8 (助動詞)に焦点を当てた演習を行う。
- 第2回 Unit 8: 「Diraction」を行い、吸収される音に慣れる演習を行う。
- 第3回 Unit 9: (形容詞、副詞)の活用及び文脈の理解を深める演習を行う。
- 第4回 Unit 9: (機能語)の吸収音をリスニングを通じて演習する。
- 第5回 Unit 10: (不定詞)の重要性と、文中での意味を理解し、長文のスラッシュリーディングを行う。
- 第6回 Unit 10: リエゾンで消える音の説明を行い、リスニング強化のための演習を実施する。
- 第7回 語彙クイズ (Unit8~Unit10)を行い、語彙力の進捗状況を確認する。
- 第8回 Unit 11: 分詞について演習する。
- 第9回 Unit 11: 文脈の中での分詞の働きについて演習する。
- 第10回 Unit 12: 比較級について演習する。
- 第11回 Unit 12: 比較級、最上級の比較演習を行う。
- 第12回 Unit 13: (関係詞)について演習を行う。
- 第13回 Unit 13: 様々な(関係詞)を文脈で理解する演習を行う。
- 第14回 Unit 14: (接続詞)(前置詞)の演習を行う。
- 第15回 Unit 14: 文脈の中での(接続詞)(前置詞句)の機能を演習する。又、後期学習した全てのUnitの語彙テストを行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業すべての回において、事前学習に1時間、事後学習に3時間の自主学習を行う。

【事前学習】：次回授業の新出単語の意味を調べる。

【事後学習】：既習の単語を完全に習得し、review testに備える。

又、長文の読解速度を上げるために、スクリプトは繰り返し音読する。

課題に対するフィードバックの方法

授業の習熟度を測るための既習箇所の復習テストを毎回行い、採点基準点に達していない場合は、追加課題の提出を求める。

また、授業内での講評を通じて、十分理解て来ていない箇所を各自で確認し、その結果を個人スコアを加算していく。

成績評価の方法・基準(方針)

以下の評価方法により60点以上を合格として単位を認定する。

正当な理由なしに5回、またはそれ以上休んだ場合は、K評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	Vocabulary Test (30) Dictation Test (10)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	50	筆記試験	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	10	積極的な質問(5)、意見発表(5)	2, 3, 4

テキスト	Let's Read Aloud and Learn English Going Abroad/角山照彦／成美堂/2530 ISBN978-4-7919-7226-5
参考書	必要に応じて授業の中で別途紹介する。
履修条件・他の科目との関連	この授業は、前期の演習 I からの継続であり、テキストは同一のものを使用する。授業を通年で計画しているので、前期“英語総合演習 I”を受講していることが望ましい。プリントを多用するので、授業を欠席した場合には、内容をクラスメートに確認し、自分自身でフォローアップしておくこと。

授業コード	22046201	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	英語総合演習Ⅳ [対面]				
シラバス執筆(全員)	森田 篤司				
シラバス執筆(主)	森田 篤司				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

英語総合演習Ⅱから継続して、企業で一般に使用されるビジネス英語を解説・指導し、ビジネス分野での英語コミュニケーションの基礎力を養う。様々なビジネスシーン・環境の解説を加えながら、テキストに沿ったTOEICの問題パターンに慣れるよう演習を実施する。

到達目標

1. 新出単語を使用して文章作成することができる。
2. TOEICの試験の概要とパターンを理解できる。
3. 授業で学んだ基礎を応用して問題を解く能力を身に付けることができる。
4. TOEICを受験しスコア450点以上をとることを到達目標にする。

授業計画

第1回	オリエンテーション（授業の概要、進め方、評価の方法、到達目標について説明する）。
第2回	Unit 8: Personnelをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第3回	Unit 8: Personnelをテーマとした実用英語の演習を文法（品詞）及び読解を中心に行う。
第4回	Unit 9: Advertisingをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第5回	Unit 9: Advertisingをテーマとした実用英語の演習を文法（比較）及び読解を中心に行う。
第6回	Unit 10: Meetingsをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第7回	Unit 10: Meetingsをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第8回	Unit 12: Officesをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第9回	Unit 12: Officesをテーマとした実用英語の演習を文法（接続詞・前置詞）及び読解を中心に行う。
第10回	Unit 13: Daily Lifeをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第11回	Unit 13: Daily Lifeをテーマとした実用英語の演習を文法（関係代名詞）及び読解を中心に行う。
第12回	Unit 14: Sales&Marketingをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第13回	Unit 14: Sales&Marketingをテーマとした実用英語の演習を文法（語彙）及び読解を中心に行う。
第14回	Unit 15: Eventsをテーマとした実用英語の演習をリスニング中心に行う。
第15回	Unit 15: Eventsをテーマとした実用英語の演習を文法（語彙）及び読解を中心に行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。授業外課題はリスニングを中心に、アプリでの演習を行う。また、授業でのL&R演習の説明ができるよう復習を行う。（事前・事後学習毎回平均各2時間）。

課題に対するフィードバックの方法

既習箇所の習熟度を確認するために復習を行う。毎回の単語課題、L&R演習の取り組み結果、並びに、授業での発表等に対し解説を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により60点以上を合格として所定の単位を認定する。正当な理由無しに5回または、それ以上欠席した場合には原則として評価不能とみなしK評価とする。遅刻3回で欠席1回の扱いとする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	Vocabulary Worksheet (10) L&R演習、発表 (20)	Vocabulary Worksheet: 1, 4 L&R演習、発表: 2, 3, 4
授業外での評価	15	TOEIC English Upgrader(15)	TOEIC English Upgrader: 2, 3
定期試験	50	筆記試験(Listening & Reading)	筆記試験: 1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	5	積極的な質問・発表・取り組み	積極的な質問・発表・取り組み: 2, 3

テキスト	The HIGH ROAD TO THE TOEIC LISTENING AND READING TEST 金星堂/2,200/ISBN978-4-7647-4045-7
参考書	必要に応じて授業の中で別途紹介する。
履修条件・他の科目との関連	<p>本科目は英語総合演習Ⅱの延長の位置付けであるが、今回初めて受講される方でも安心して受講可能である。</p> <p>テキストも英語総合演習Ⅱと同一のテキストと同一のものを使用する。</p> <p>進行によっては、授業計画の順序が前後することがある。</p> <p>授業を欠席した場合は、欠席した授業の内容をクラスメートに確認し、自らフォローアップしておくこと。</p>

授業コード	22044801	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	夏季特別集中講座 [対面]				
シラバス執筆(全員)	森田 篤司				
シラバス執筆(主)	森田 篤司				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この夏季集中講座は、実用的な英語を集中的に学ぶことで、総合的な英語力の向上を目指すことを目的とする。TOEICスコア400点以上を到達目標とする。テキストは、TOEIC対策教材を使用し、頻出トピックで、単語、文法、リスニング、長文読解の問題パターンに慣れるよう演習を実施する。また、単語と文法については補助教材も活用しながら基礎力の確認も行う。

到達目標

1. テキストの新出単語の意味を理解することができる
2. TOEICの試験の概要とパターンを理解することができる。
3. TOEICを受験し、スコア400点以上をとることを到達目標にする。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション(授業の概要、進め方、補助教材、評価の方法、到達目標について説明する)
文法の基礎についての解説
- 第2回 エクササイズUNIT1: Restaurant
第3回 エクササイズUNIT2: Offices
- 第4回 エクササイズUNIT 3: Daily Life
第5回 エクササイズUNIT 4: Personnel
第6回 エクササイズ UNIT 5: Shopping
- 第7回 エクササイズ UNIT 6: Finances
第8回 エクササイズ UNIT 7: Transportation
第9回 エクササイズ UNIT 8: Technology
- 第10回 エクササイズ UNIT 9: Health
第11回 エクササイズUNIT 10: Travel
第12回 エクササイズUNIT 11: Business
- 第13回 エクササイズ UNIT 12: Entertainment
第14回 エクササイズUNIT 13: Education
第15回 エクササイズUNIT 14: Housing

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習として、以下の課題(Homework)に取り組むこと

- (1) 単語アプリでの学習
- (2) テキスト補助教材の LINGUA PORTA 演習

課題に対するフィードバックの方法

授業での発表や小テストに対しての解説を行う

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す方法により総合的に判定の上で、60点以上を合格とし、単位を認定する。
正当な理由なく5回以上欠席した場合は「K」評価とする

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	Review Quiz (10) テキストの読解・解説 (20)	Review Quiz: 1, 2, 3 テキストの読解・解説: 2, 3
授業外での評価	20	単語学習 (10) LINGUAPORTA Review (10)	単語学習: 1, 3LINGUAPORTA Review: 1, 2, 3
定期試験	50	試験(Listening & Reading) (50)	試験(Listening &

			Reading):1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		
テキスト	A COMMUNICATIVE APPROACH TO THE TOEIC L&R TEST Book1:Elementary 成美堂 / 2,530 / ISBN978-4-7919-7252-4		
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	進捗によっては、授業計画の順序が前後したり、内容を変更したりすることがある。 夏季特別集中講座開講前の事前課題に取り組むこと(7月頃に連絡予定)		

授業コード	22050201	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	時事英語 [対面]				
シラバス執筆(全員)	宮本 佳奈				
シラバス執筆(主)	宮本 佳奈				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業の目的は時事英語のリスニングを入口に4技能のスキルを高めることです。授業ではニュース音声（あるいは動画）を視聴した後、クイズ形式で内容を理解していきます。また、リスニングと音読を繰り返すことで英語の音の特徴をつかみ、ニュースの英文を効率よく聴いたり読んだりできるよう指導します。さらにインプットからアウトプットへつなげるために、関連したトピックをペアで話し合ったり3～5文程度の英文を書いたりして、様々な問題について自分なりの考えを英語で伝える演習を行います。なお、ニュース記事はCNN（アメリカのニュース専門メディア）やその他の媒体からスポーツ、社会、文化など幅広い分野の話題を取り上げる予定です。

到達目標

1. 英語ニュースを読むための語彙を増やし、ニュース音声を聴いた時にそれらを聴き取ることができる。
2. 英語ニュースを聴いたり読んだりして、大まかな内容を把握することができる。
3. ニュースの原稿(transcript)を正しい発音でスムーズに音読することができる。
4. ニュースに関連した問題について、自分なりの考えを英語で伝えることができる。
5. 世界で起きている様々な課題に対する問題意識を持ち、それらについて考えることができる。

授業計画

- 【第1回】 Course Orientation
授業の目標、進め方、評価、授業内容などの説明
- 【第2回】 News Article 1
語彙 (Vocabulary) の確認 / ニュース音声を繰り返し聴きながら内容を把握 / ニュースの英文を読み、内容をクイズ形式で確認し内容理解を深める / ニュース音声と原稿(Transcript)を使って音読練習 / ニュースに関する問いについてペアで感想や意見を出し合う / (以下同様)
- 【第3回】 News Article 2
- 【第4回】 News Article 3
- 【第5回】 News Article 4
- 【第6回】 Review Quiz (News Article 1-4)、Speaking演習
- 【第7回】 News Article 5
- 【第8回】 News Article 6
- 【第9回】 News Article 7
- 【第10回】 News Article 8
- 【第11回】 Review Quiz (News Article 5-8)、Speaking演習
- 【第12回】 News Article 9
- 【第13回】 News Article 10
- 【第14回】 News Article 11
- 【第15回】 News Article 12 / Final Examinationの説明

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業時間（30時間＝1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

事前学習：テーマを事前に確認しておくこと。

事後学習：単語の復習 / ニュース音声を聞きながら音読練習 / 出された課題は必ず提出すること。

課題に対するフィードバックの方法

- ・ Review Quiz（復習クイズ）は点数を開示し、必要に応じて解説をする。
- ・ ライティング課題については適宜フィードバックをする。
- ・ Speaking演習については授業内で適宜フィードバックする。
- ・ 授業中の活動（ペア・グループワーク）については、机間巡視により理解度を把握し、助言等を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下の評価方法により60点以上を合格として単位を認定する。正当な理由なく欠席回数が5回を超えた場合は、評価の対象とせず「K」評価となるため、注意すること。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	Review Quizzes(30) Speaking演習 [音読テスト、アウトプット活動](20)	1, 2, 3, 4, 5

		授業内の活動への積極的な参加、振り返りの提出等 (10)	
授業外での評価	10	課題の提出	1, 2, 3, 4
定期試験	30	Final Examination(リスニング問題を含む筆記試験)	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	CNN Workbook Intensive Course 2023 / Asahi Press / 748円 / ISBN978-4-255-60020-8		
------	---	--	--

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。		
-----	------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・進行によっては、授業計画の順序や内容が変更されることがある。 ・パソコンとイヤホンを毎回持参すること。 ・授業資料は授業終了後Google Classroomに提示するので、欠席した場合は必ず確認すること。 		
---------------	--	--	--

授業コード	22044901	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	英語集中演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	森田 篤司				
シラバス執筆(主)	森田 篤司				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

TOEIC受験者の一般的なスコア特性として、リーディングスコアがリスニングスコアを下回る傾向がある。本科目では、苦手とみなされるリーディングの文法と読解を中心に、ビジネス英語力の向上を図ると共に、課題に対し主体的に取り組む姿勢を育成する。

到達目標

1. 新出単語を使用して文章を作成することができる
2. TOEIC頻出テーマを取り上げ、応用問題を解く力を身に付けている。
3. TOEICを受験しスコア500点以上をとることを到達目標にする。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション（授業の概要について説明する）。
- 第2回 UNIT1 Home Appliancesに関する頻出問題対策
- 第3回 UNIT2 Recreationに関する頻出問題対策
- 第4回 UNIT3 Restaurantに関する頻出問題対策
- 第5回 UNIT4 Supermarket Shoppingに関する頻出問題対策
- 第6回 UNIT5 Housingに関する頻出問題対策
- 第7回 UNIT6 Businessに関する頻出問題対策
- 第8回 復習とTOEIC特別対策
- 第9回 UNIT7 Bank & Post officeに関する頻出問題対策
- 第10回 UNIT8 Job Huntingに関する頻出問題対策
- 第11回 UNIT9 Healthに関する頻出問題対策
- 第12回 復習とTOEIC特別対策
- 第13回 UNIT10 Tourism: Travel by Landに関する頻出問題対策
- 第14回 UNIT11 Tourism: Travel by Airに関する頻出問題対策
- 第15回 UNIT12 Tourism: Hotelsに関する頻出問題対策

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。講義で学んだ内容の復習、並びに講義の最後に提示される翌週の授業の為に授業外課題に着実に取り組み、翌週の授業で個人の取り組みの成果を確認する。更に、事前学習では、クラス内の他の受講生に対して説明ができる様に事前の深い理解と学びを会得する様に努力する（毎回の平均事前学習3時間、事後学習1時間）。

課題に対するフィードバックの方法

語彙力と読解力の向上に向け、授業外課題への取り組みを行う。適宜Review Quizを実施し、個人の理解度を確認すると共に、必要に応じて個人指導を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により60点以上を合格として所定の単位を認定する。
正当な理由無しに5回または、それ以上欠席した場合には原則として評価不能とみなしK評価とする。
3回の遅刻で1回の欠席とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	文法Review Quiz(20) 文法・読解の解説発表(10)	2, 3
授業外での評価	20	Vocabulary Sheet(10) LINGUA PORTA(空所補充)(10)	Vocabulary Sheet: 1, 3LINGUA PORTA(空所補充): 1, 3
定期試験	50	筆記試験(文法と読解問題)	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	AN AMAZING APPROACH TO THE TOEIC L&R TEST 成美堂 / 2,530 / ISBN978-4-7919-7188-6
参考書	必要に応じて、授業の中で別途紹介する。
履修条件・他の科目との関連	この授業は、予習・復習を着実にやり。実用英語、特にReadingの力の修得を希望する学生の受講が望まれる。 受講に当たっては、英検準2級レベル(又はTOEIC350点)程度の語学力が望ましく、既にクリアしている学生も含め、TOEIC 500点以上を到達目標とする。 授業を欠席した場合は、欠席した授業の内容をクラスメートに確認し、自らフォローアップしておくこと。

授業コード	22046301	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	特別支援教育 [対面]				
シラバス執筆(全員)	宋 知潤				
シラバス執筆(主)	宋 知潤				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

[授業の目的・ねらい]

- ・インクルーシブ保育・教育を含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みについて説明する。
- ・障害児や特別な配慮を要する幼児、児童および生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を概説し、保育実践、計画作成、家庭支援、関係機関との連携ができる保育者としての資質・能力を育てていく。

[授業全体の内容の概要]

- ・障害児保育を支える理念や歴史的変遷を学び、障害児や特別な配慮を要する幼児、児童および生徒の理解を深めた上で、現状と課題に照らした発達援助や支援法、子ども同士の関わり、職員間・家族・関係機関との望ましい連携について説明する。

到達目標

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

1. 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について説明できる。
2. 個々の特性や心身の発達等にに応じた援助や配慮について応用できる。
3. 障害児やその他の特別な配慮を要する幼児、児童および生徒の保育における計画の作成について実行できる。
4. 障害児その他の特別な配慮を要する幼児、児童および生徒の家庭への支援や関係機関との連携・協議について説明できる。
5. 障害児その他の特別な配慮を要する幼児、児童および生徒の保育に関する現状と課題について説明できる。

授業計画

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- 1 「障害」の概念と障害児保育の概要
- 2 発達と障害（合理的配慮・地域社会へのインクルージョンも含む）
- 3 知的障害児の理解と援助（ダウン症）
- 4 身体障害の理解と支援①（視覚障害・聴覚障害等）
- 5 身体障害の理解と支援②（肢体不自由・医療的ケア・重症心身障害児）
- 6 発達障害児の理解と援助①（LD, ADHD）
- 7 発達障害児の理解と援助②（ASD①）
- 8 発達障害児の理解と援助③（ASD② 広汎性発達障害(PDD)）
- 9 障害はないが特別な支援を要する子ども（外国籍の子ども、貧困問題など）
- 10 言語・コミュニケーションの支援方法
 - 11 環境の設定と視覚支援
 - 12 視覚支援の教材研究
 - 13 指導計画及び個別の支援計画の作成
 - 14 保護者や家族・きょうだい児に対する理解と支援
 - 15 職員間および専門機関との連携・協働

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

事前：各回のテーマに沿って、調べ学習や配布資料を熟読しておくこと（1時間）

事後：授業内容についてレポートにまとめる。

授業で学んだテーマのキーワードや内容について調べたり、各自積極的に学びを深めること（3時間）

課題に対するフィードバックの方法

授業内に行った課題については提出後に確認し、質問や優れた内容に関する指摘、助言等を授業開始時に全体で共有する。

成績評価の方法・基準(方針)

1. 各回のワークシート、演習課題の到達度、グループワークの積極的参加度、定期試験に代わるレポート等を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位と認定する。
2. 公欠を含め、正当な理由のある欠席の場合は、その回の授業に関連したレポート課題によって評価する。
3. 正当な理由のない欠席6回以上の場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。
4. 定期試験に代わるレポートが未提出の場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
---------	------	---------	-------------

	(%)		
授業内での評価	70	各回のワークシートの取組み(30%)、演習課題の到達度とグループワークの積極的参加度(20%)、プレゼンテーション(20%)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	定期試験に代わるレポート等(30%)を総合的に判定のうえ、所定の単位と認定する。	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、配布資料を活用する。配布資料はGoogle Classroomに提示する。
------	---

参考書	「ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育」小林 徹・栗山 宣夫 編 みらい社 2020 2,640円 ISBN 9784860155049 幼稚園教育要領、保育所保育指針、保育要領幼保連携型認定こども園教育・保育要領
-----	---

履修条件・他の科目との関連	欠席した回の資料はGoogle Classroomより自習すること。
---------------	------------------------------------

授業コード	22045001	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	保育内容（健康） [対面]				
シラバス執筆(全員)	織田 恵輔				
シラバス執筆(主)	織田 恵輔				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

- ・健康についての概念を明らかにし、幼児期の健康について概説する。
- ・乳幼児期の発育発達について理解し、基本的な生活習慣の獲得について解説する。
さらに教員の視点から子どもに対する現状の課題や問題について焦点を当て、その改善について考えることで保育者としての役割について解説する。
- ・幼稚園教育要領に示された健康領域の内容について解説する

到達目標

1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における、領域「健康」を説明できる。
2. 睡眠や食事といった生活習慣についての重要性を理解し、健康な体の育成法について実践できる。
3. 保育時における安全対策を説明できる。
4. 自分なりの観点をもち、制作物の作成や保育の実践ができる。
5. 情報機器を用いた保育を実践できる。
6. 模擬保育とその振り返りを通し、具体的な保育方法を立案できる。
7. 健康における幼児から小学校へのつながりや変化を説明できる。

授業計画

【第1回】

テーマ：健康の定義、幼児期における健康の定義
内容・方法：健康とは何か、幼児期における健康教育とは何か。

【第2回】

テーマ：領域「健康」とは
内容・方法：健康の内容およびねらいについて、幼児期・児童期（小学校）・青年期（20歳まで）までの発育・発達と健康について

【第3回】

テーマ：幼児期運動指針について
内容・方法：幼児期運動指針についての内容と解説

【第4回】

テーマ：幼児の体力測定評価および幼児期の体力に影響する要因について①
内容・方法：幼児の体力測定・小学校での体力測定の方法を解説

【第5回】

テーマ：幼児の体力測定評価および幼児期の体力に影響する要因について②
内容・方法：幼児の体力・小学校（児童）の体力について評価法を解説

【第6回】

テーマ：運動指導案の作成
内容・方法：指導案のねらいと目的、教師の配慮などの指導上の留意点を解説

【第7回】

テーマ：子どもの睡眠について①
内容・方法：適正な睡眠時間や、乳児期における睡眠の注意点（SIDS）について

【第8回】

テーマ：子どもの睡眠について②
内容・方法：睡眠不足による心身への影響（精神病や内分泌について）

【第9回】

テーマ：人の免疫機能について
内容・方法：免疫力獲得における発達、免疫システムについて

【第10回】

テーマ：感染症について・病気の予防について
内容・方法：子どもに起こりやすい感染症やその対応について

【第11回】

テーマ：保育現場でのリスクマネジメントについて
内容・方法：子どもの怪我が起きやすい状況や、子どもの視野を理解する。

【第12回】

テーマ：保健便りの作成
内容・方法：季節ごとの健康テーマを考えた保健便りを作成する

【第13回】

テーマ：情報機器を使った教材作成
内容・方法：情報機器を用いて教材の例や実際に作成を行う

【第14回】

テーマ：模擬保育
内容・方法：健康にかかわる模擬保育を行う

【第15回】

テーマ：模擬保育における評価と振り返り

内容・方法：模擬保育後にグループワーク形式で評価・振り返り・発表を行う

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題：子どもの健康において何が大事か自分の意見を述べるよう考えておく。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第2回】

- ①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第3回】

- ①事前学修課題：幼児期運動指針を一読すること。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第4回】

- ①事前学修課題：幼児期の体力測定の内容を知っておくこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第5回】

- ①事前学修課題：幼児期の体力測定の内容を知っておくこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第6回】

- ①事前学修課題：指導案の書き方について事前学習を行うこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第7回】

- ①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第8回】

- ①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第9回】

- ①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第10回】

- ①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第11回】

- ①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第12回】

- ①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第13回】

- ①事前学修課題：事前資料で提示された保健だよりテーマから選択をしておくこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第14回】

- ①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第15回】

- ①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

課題に対するフィードバックの方法

振り返りプリントを毎授業実施・提出を行い、次回講義にてその内容の講評を行い、反映していく。

成績評価の方法・基準(方針)

1. 60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
2. 正当な理由なく、6回以上の授業欠席をした場合は「K」評価とする。
3. 幼児の健康について基礎的な理解ができている。
4. 振り返りプリントなどの提出及び理解状況。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	45	授業への取り組み状況・態度(15) 制作課題の提出及びその内容(30)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
授業外での評価	30	各授業後の振り返り用紙の提出(15) 各授業後の振り返り用紙における理解度(15)	1, 2, 3, 4, 6
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	レポートの内容	1, 2, 3

その他	0		
テキスト	テキストは使用しない。資料の配布を適宜行う。		
参考書	<p>* 購入必須ではない 文部科学省「幼稚園教育要領」 厚生労働省「保育所保育指針」 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携認定こども園教育保育要領」</p>		
履修条件・他の科目との関連	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各授業で学んだことについては振り返りプリントに記入・提出を行うこと 2. 全出席を目指すこと 3. 欠席した回の資料は申し出があった場合、再配布を行う。 		

授業コード	22045003	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	保育内容（健康） [対面]				
シラバス執筆(全員)	谷 玲子				
シラバス執筆(主)	谷 玲子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

- ・健康についての概念を明らかにし、幼児期の健康について概説する。
- ・乳幼児期の発育発達について理解し、基本的生活習慣の獲得について解説する。
さらに教員の視点から子どもに対する現状の課題や問題について焦点を当て、その改善について考えることで保育者としての役割について解説する。
- ・幼稚園教育要領に示された健康領域の内容について解説する

到達目標

1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における、領域「健康」を説明できる。
2. 睡眠や食事といった生活習慣についての重要性を理解し、健康な体の育成法について実践できる。
3. 保育時における安全対策を説明できる。
4. 自分なりの観点をもち、制作物の作成や保育の実践ができる。
5. 情報機器を用いた保育を実践できる。
6. 模擬保育とその振り返りを通し、具体的な保育方法を立案できる。
7. 健康における幼児から小学校へのつながりや変化を説明できる。

授業計画

【第1回】

テーマ：健康の定義、幼児期における健康の定義
内容・方法：健康とは何か、幼児期における健康教育とは何か。

【第2回】

テーマ：領域「健康」とは
内容・方法：健康の内容およびねらいについて、幼児期・児童期（小学校）・青年期（20歳まで）までの発育・発達と健康について

【第3回】

テーマ：幼児期運動指針について
内容・方法：幼児期運動指針についての内容と解説

【第4回】

テーマ：幼児の体力測定評価および幼児期の体力に影響する要因について①
内容・方法：幼児の体力測定・小学校での体力測定の方法を解説

【第5回】

テーマ：幼児の体力測定評価および幼児期の体力に影響する要因について②
内容・方法：幼児の体力・小学校（児童）の体力について評価法を解説

【第6回】

テーマ：運動指導案の作成
内容・方法：指導案のねらいと目的、教師の配慮などの指導上の留意点を解説

【第7回】

テーマ：子どもの睡眠について①
内容・方法：適正な睡眠時間や、乳児期における睡眠の注意点（SIDS）について

【第8回】

テーマ：子どもの睡眠について②
内容・方法：睡眠不足による心身への影響（精神病や内分泌について）

【第9回】

テーマ：人の免疫機能について
内容・方法：免疫力獲得における発達、免疫システムについて

【第10回】

テーマ：感染症について・病気の予防について
内容・方法：子どもに起こりやすい感染症やその対応について

【第11回】

テーマ：保育現場でのリスクマネジメントについて
内容・方法：子どもの怪我が起きやすい状況や、子どもの視野を理解する。

【第12回】

テーマ：保健便りの作成
内容・方法：季節ごとの健康テーマを考えた保健便りを作成する

【第13回】

テーマ：情報機器を使った教材作成
内容・方法：情報機器を用いて教材の例や実際に作成を行う

【第14回】

テーマ：模擬保育
内容・方法：健康にかかわる模擬保育を行う

【第15回】

テーマ：模擬保育における評価と振り返り

内容・方法：模擬保育後にグループワーク形式で評価・振り返り・発表を行う

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題：子どもの健康において何が大事か自分の意見を述べるよう考えておく。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第2回】

- ①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第3回】

- ①事前学修課題：幼児期運動指針を一読すること。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第4回】

- ①事前学修課題：幼児期の体力測定の内容を知っておくこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第5回】

- ①事前学修課題：幼児期の体力測定の内容を知っておくこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第6回】

- ①事前学修課題：指導案の書き方について事前学習を行うこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第7回】

- ①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第8回】

- ①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第9回】

- ①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第10回】

- ①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第11回】

- ①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第12回】

- ①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第13回】

- ①事前学修課題：事前資料で提示された保健だよりテーマから選択をしておくこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第14回】

- ①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第15回】

- ①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
- ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

課題に対するフィードバックの方法

振り返りプリントを毎授業実施・提出を行い、次回講義にてその内容の講評を行い、反映していく。

成績評価の方法・基準(方針)

1. 60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
2. 正当な理由なく、6回以上の授業欠席をした場合は「K」評価とする。
3. 幼児の健康について基礎的な理解ができている。
4. 振り返りプリントなどの提出及び理解状況。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	45	授業への取り組み状況・態度(15) 制作課題の提出及びその内容(30)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
授業外での評価	30	各授業後の振り返り用紙の提出(15) 各授業後の振り返り用紙における理解度(15)	1, 2, 3, 4, 6
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	レポートの内容	1, 2, 3

その他	0		
テキスト	テキストは使用しない。資料の配布を適宜行う。		
参考書	<p>* 購入必須ではない 文部科学省「幼稚園教育要領」 厚生労働省「保育所保育指針」 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携認定こども園教育保育要領」</p>		
履修条件・他の科目との関連	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各授業で学んだことについては振り返りプリントに記入・提出を行うこと 2. 全出席を目指すこと 3. 欠席した回の資料は申し出があった場合、再配布を行う。 		

授業コード	22045201	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	保育内容（環境） [対面]				
シラバス執筆(全員)	古海 忍				
シラバス執筆(主)	古海 忍				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

〔目的〕

子どもたちの成長や発達・学びは、子どもの身近にある環境によって大きく変わる。保育者は環境の与える影響の大切さを知り、それを踏まえて環境設定を行っていく必要がある。これを踏まえて、本授業では幼児教育において育みたい資質・能力を理解し、それを実現するための5領域のねらいや内容の全体像を把握し、領域「環境」の位置づけについて説明する。日々の生活や遊びの中で、どのような環境が子どもたちの主体的・対話的で深い学びに繋がっていくのかを理解できるようにする。子どもの発達や現在の姿を踏まえて、実際の保育場面を想定しながら、指導案を作成し、模擬保育を通して保育を実践する力を身に付けることや、常に保育の質向上に努めるため、最新動向の把握や情報機器・教材研究を怠らない学び続ける力を培うことができるよう授業を行う。

〔概要〕

基本的な知識や考え方を講義形式で学ぶとともに、事例研究や発表などの実践活動により、各自の意見を他者と交換し、指導案の作成、模擬保育の実施を通して、保育の捉え方、配慮事項、幼児の主体的な学びについて考え

到達目標

1. 幼児教育の基本を踏まえた領域「環境」のねらい及び内容について、概略を説明することができる。
2. 幼児の発達や学びの過程を理解した上で、具体的な保育場面を想定し、適切な情報機器や教材を活用した指導案を作成し、保育を実施することができる。
3. 実施した保育の内容を振り返り、改善を検討することや、最新の保育動向に気を配り、質の向上を図ることができる。

授業計画

【第1回】

テーマ：保育内容「環境」のねらいと内容

内容・方法：領域「環境」のねらいと内容について学び、保育の役割と意義について学ぶ

【第2回】

テーマ：物的・人的・自然環境

内容・方法：子どもたちが身近に接する環境とはどのようなものかを具体的に考察する

【第3回】

テーマ：物的環境を生かした保育

内容・方法：子どもたちが遊びを通して学ぶ中で、遊びを豊かにする物的環境について考え、その効果について検討する

【第4回】

テーマ：自然環境を生かした保育（学外授業）

内容・方法：一つとして同じものがない自然環境の美しさや大きさ、おもしろさについて考え、子どもが自然環境をどのように遊びに取り入れていくのか考察する

【第5回】

テーマ：人的環境としての保育者の役割（学外授業）

内容・方法：人的環境として保育者が求められる役割の多様性に気づき、その意義を考える

【第6回】

テーマ：5領域の関連性と保育計画

内容・方法：5領域の中の環境の位置づけや総合的な学びを実現する保育計画のありかたについて考察する

【第7回】

テーマ：具体的な保育場面を想定した保育計画

内容・方法：保育場面を想定しながら環境に関連した保育計画について考える

【第8回】

テーマ：幼児の発達や学習過程を踏まえた保育上の留意点

内容・方法：園内の保育室や園庭の環境構成を子どもの動線から考察する

【第9回】

テーマ：幼児の発達特性を踏まえた情報機器と教材の活用

内容・方法：情報機器や教材研究を行い、幼児の発達に合わせた保育に活用する

【第10回】

テーマ：保育における評価の観点

内容・方法：保育における評価の考え方について知り、評価の観点を学習する

【第11回】

テーマ：指導案の理解と具体的な保育場面での指導案作成

内容・方法：指導案の成り立ちについて知り、保育場面を想定しながら指導案を作成する

【第12回】

テーマ：模擬保育の実施

内容・方法：作成した指導案に基づき模擬保育を行い、反省・評価を行う

【第13回】

テーマ：幼児教育から小学校教育へのつながり

内容・方法：幼児教育と小学校教育の特性を知り、現状の課題を整理し、円滑な接続のための連携について考える

【第14回】

テーマ：文字や数への興味関心を高める

内容・方法：身近な自然や生活の中で触れることができる文字や数の存在や子どもの捉え方について学ぶ

【第15回】

テーマ：保育内容の改善と最新動向を踏まえた保育の質向上

内容・方法：保育内容を振り返り、課題の発見、改善を行い、最新動向を念頭におきながら、保育の質を常に向上させる手段について検討する

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

①事前学修課題：5領域について調べる

②事後学修課題：領域「環境」の内容を見直し、自分なりに大切にしたい内容を選び、自分なりの考えを持つ

【第2回】

①事前学修課題：物的・人的・自然環境の具体例を考えておく

②事後学修課題：物的・人的・自然環境の特徴について考える

【第3回】

①事前学修課題：保育現場にある物的環境を一つ取り上げ、意味を考える

②事後学修課題：授業で共有した物的環境の意味について自分なりに考える

【第4回】

①事前学修課題：保育に取り入れられる自然環境の例とその意味について考える

②事後学修課題：自然環境を取り入れた活動とそのねらいについて具体例を一つ考える

【第5回】

①事前学修課題：人的環境として“友だち”の意味を考える

②事後学修課題：人的環境として“保育者”の役割について再度ふりかえって考える

【第6回】

①事前学修課題：保育計画について調べる

②事後学修課題：総合的な保育の意味について再度考える

【第7回】

①事前学修課題：季節の移り変わりを感じる事柄について考えておく

②事後学修課題：子どもの主体性を支える環境について具体例を考える

【第8回】

①事前学修課題：子どもの発達過程について調べる

②事後学修課題：子どもの発達過程に応じた環境構成について再度ふりかえる

【第9回】

①事前学修課題：保育活動の具体例を調べる

②事後学修課題：保育のねらいを実現するために役立つ情報機器の活用方法について調べる

【第10回】

①事前学修課題：保育における評価の特徴について調べる

②事後学修課題：具体的な例をもとに評価方法について図書館やインターネットなどで調べる

【第11回】

①事前学修課題：指導案について調べる

②事後学修課題：指導案に基づいて具体的な手順をシミュレーションする

【第12回】

①事前学修課題：模擬保育を行う前の準備物を用意する

②事後学修課題：模擬保育を振り返り、今後の課題を挙げ、改善策を立てる

【第13回】

①事前学修課題：幼児教育と小学校教育の違いについて考える

②事後学修課題：保育現場と小学校現場の連携の方法について具体例を調べる

【第14回】

①事前学修課題：生活の中で見ることができる文字や数の例を考える

②事後学修課題：文字や数に自然に興味を持つきっかけについて考える

【第15回】

①事前学修課題：最新の保育に関するトピックスを考える

②事後学修課題：保育を振り返り、改善につなげる方法を具体的に考える

課題に対するフィードバックの方法

授業のテーマにあわせて各自が自分の考えを表現したレポートや製作、ワークシートについては、全体に共有化したい内容は授業で取り上げ、解説を行う。個々にフィードバックを行いたい内容は、プリント内にコメントをつけるなど、各自の状況にあわせて対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

授業毎に授業内容を考えたり整理したりする課題を提示する。これらの内容と期末レポートを総合評価し、60点以上を合格とする。

正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」（評価不能）とする

期末レポートの提出は必須とする。提出されない場合は単位を認定しない（評価不能「K」）。

成績評価の種類

評価割合
(%)

評価方法・割合

評価対象となる到達目標

授業内での評価	70	毎回の授業で提示するワークシートやレポート、発表内容(70)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	期末レポート(30)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	<p>新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 環境 無藤隆 監修 福元真由美 編者代表 萌文書林 2000円＋税 978-4-89347-258-8</p>		
------	---	--	--

参考書	<p>〈平成30年施行〉 保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント 汐見稔幸／無藤隆 ミネルヴァ書房編集部〔編〕 ミネルヴァ社 1500円＋税 978-4-623-08098-4</p>		
-----	---	--	--

履修条件・他の科目との関連	<p>「幼児と環境」の授業で学んだ基礎知識をもとに、実際の保育場面に応用させて理解を深めてください。 保育内容5領域のうち、環境以外の領域を学ぶ授業を意識しながら学習を進めるようにしてください。 自然環境について学ぶため学外授業を実施する予定です(状況に応じて中止する場合があります)。 実施時期はシラバスに示された授業回とは異なる可能性があります、少なくとも1か月前には日程などの詳細を授業内で連絡します。</p>		
---------------	---	--	--

授業コード	22045202	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	保育内容（環境） [対面]				
シラバス執筆(全員)	古本 敦子				
シラバス執筆(主)	古本 敦子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

〔目的〕

子どもたちの成長や発達・学びは、子どもの身近にある環境によって大きく変わる。保育者は環境の与える影響の大切さを知り、それを踏まえて環境設定を行っていく必要がある。これを踏まえて、本授業では幼児教育において育みたい資質・能力を理解し、それを実現するための5領域のねらいや内容の全体像を把握し、領域「環境」の位置づけについて説明する。日々の生活や遊びの中で、どのような環境が子どもたちの主体的・対話的で深い学びに繋がっていくのかを理解できるようにする。子どもの発達や現在の姿を踏まえて、実際の保育場面を想定しながら、指導案を作成し、模擬保育を通して保育を実践する力を身に付けることや、常に保育の質向上に努めるため、最新動向の把握や情報機器・教材研究を怠らない学び続ける力を培うことができるよう授業を行う。

〔概要〕

基本的な知識や考え方を講義形式で学ぶとともに、事例研究や発表などの実践活動により、各自の意見を他者と交換し、指導案の作成、模擬保育の実施を通して、保育の捉え方、配慮事項、幼児の主体的な学びについて考え

到達目標

1. 幼児教育の基本を踏まえた領域「環境」のねらい及び内容について、概略を説明することができる。
2. 幼児の発達や学びの過程を理解した上で、具体的な保育場面を想定し、適切な情報機器や教材を活用した指導案を作成し、保育を実施することができる。
3. 実施した保育の内容を振り返り、改善を検討することや、最新の保育動向に気を配り、質の向上を図ることができる。

授業計画

【第1回】

テーマ：保育内容「環境」のねらいと内容

内容・方法：領域「環境」のねらいと内容について学び、保育の役割と意義について学ぶ

【第2回】

テーマ：物的・人的・自然環境

内容・方法：子どもたちが身近に接する環境とはどのようなものかを具体的に考察する

【第3回】

テーマ：物的環境を生かした保育

内容・方法：子どもたちが遊びを通して学ぶ中で、遊びを豊かにする物的環境について考え、その効果について検討する

【第4回】

テーマ：自然環境を生かした保育（学外授業）

内容・方法：一つとして同じものがない自然環境の美しさや大きさ、おもしろさについて考え、子どもが自然環境をどのように遊びに取り入れていくのか考察する

【第5回】

テーマ：人的環境としての保育者の役割（学外授業）

内容・方法：人的環境として保育者が求められる役割の多様性に気付き、その意義を考える

【第6回】

テーマ：5領域の関連性と保育計画

内容・方法：5領域の中の環境の位置づけや総合的な学びを実現する保育計画のありかたについて考察する

【第7回】

テーマ：具体的な保育場面を想定した保育計画

内容・方法：保育場面を想定しながら環境に関連した保育計画について考える

【第8回】

テーマ：幼児の発達や学習過程を踏まえた保育上の留意点

内容・方法：園内の保育室や園庭の環境構成を子どもの動線から考察する

【第9回】

テーマ：幼児の発達特性を踏まえた情報機器と教材の活用

内容・方法：情報機器や教材研究を行い、幼児の発達に合わせた保育に活用する

【第10回】

テーマ：保育における評価の観点

内容・方法：保育における評価の考え方について知り、評価の観点を学習する

【第11回】

テーマ：指導案の理解と具体的な保育場面での指導案作成

内容・方法：指導案の成り立ちについて知り、保育場面を想定しながら指導案を作成する

【第12回】

テーマ：模擬保育の実施

内容・方法：作成した指導案に基づき模擬保育を行い、反省・評価を行う

【第13回】

テーマ：幼児教育から小学校教育へのつながり

内容・方法：幼児教育と小学校教育の特性を知り、現状の課題を整理し、円滑な接続のための連携について考える

【第14回】

テーマ：文字や数への興味関心を高める

内容・方法：身近な自然や生活の中で触れることができる文字や数の存在や子どもの捉え方について学ぶ

【第15回】

テーマ：保育内容の改善と最新動向を踏まえた保育の質向上

内容・方法：保育内容を振り返り、課題の発見、改善を行い、最新動向を念頭におきながら、保育の質を常に向上させる手段について検討する

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

①事前学修課題：5領域について調べる

②事後学修課題：領域「環境」の内容を見直し、自分なりに大切にしたい内容を選び、自分なりの考えを持つ

【第2回】

①事前学修課題：物的・人的・自然環境の具体例を考えておく

②事後学修課題：物的・人的・自然環境の特徴について考える

【第3回】

①事前学修課題：保育現場にある物的環境を一つ取り上げ、意味を考える

②事後学修課題：授業で共有した物的環境の意味について自分なりに考える

【第4回】

①事前学修課題：保育に取り入れられる自然環境の例とその意味について考える

②事後学修課題：自然環境を取り入れた活動とそのねらいについて具体例を一つ考える

【第5回】

①事前学修課題：人的環境として“友だち”の意味を考える

②事後学修課題：人的環境として“保育者”の役割について再度ふりかえって考える

【第6回】

①事前学修課題：保育計画について調べる

②事後学修課題：総合的な保育の意味について再度考える

【第7回】

①事前学修課題：季節の移り変わりを感じる事柄について考えておく

②事後学修課題：子どもの主体性を支える環境について具体例を考える

【第8回】

①事前学修課題：子どもの発達過程について調べる

②事後学修課題：子どもの発達過程に応じた環境構成について再度ふりかえる

【第9回】

①事前学修課題：保育活動の具体例を調べる

②事後学修課題：保育のねらいを実現するために役立つ情報機器の活用方法について調べる

【第10回】

①事前学修課題：保育における評価の特徴について調べる

②事後学修課題：具体的な例をもとに評価方法について図書館やインターネットなどで調べる

【第11回】

①事前学修課題：指導案について調べる

②事後学修課題：指導案に基づいて具体的な手順をシミュレーションする

【第12回】

①事前学修課題：模擬保育を行う前の準備物を用意する

②事後学修課題：模擬保育を振り返り、今後の課題を挙げ、改善策を立てる

【第13回】

①事前学修課題：幼児教育と小学校教育の違いについて考える

②事後学修課題：保育現場と小学校現場の連携の方法について具体例を調べる

【第14回】

①事前学修課題：生活の中で見ることができる文字や数の例を考える

②事後学修課題：文字や数に自然に興味を持つきっかけについて考える

【第15回】

①事前学修課題：最新の保育に関するトピックスを考える

②事後学修課題：保育を振り返り、改善につなげる方法を具体的に考える

課題に対するフィードバックの方法

授業のテーマにあわせて各自が自分の考えを表現したレポートや製作、ワークシートについては、全体に共有化したい内容は授業で取り上げ、解説を行う。個々にフィードバックを行いたい内容は、プリント内にコメントをつけるなど、各自の状況にあわせて対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

授業毎に授業内容を考えたり整理したりする課題を提示する。これらの内容と期末レポートを総合評価し、60点以上を合格とする。

正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」（評価不能）とする

期末レポートの提出は必須とする。提出されない場合は単位を認定しない（評価不能「K」）。

成績評価の種類

評価割合
(%)

評価方法・割合

評価対象となる到達目標

授業内での評価	70	毎回の授業で提示するワークシートやレポート、発表内容(70)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	期末レポート(30)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	<p>新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 環境 無藤隆 監修 福元真由美 編者代表 萌文書林 2000円＋税 978-4-89347-258-8</p>		
------	---	--	--

参考書	<p>〈平成30年施行〉 保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント 汐見稔幸／無藤隆 ミネルヴァ書房編集部〔編〕 ミネルヴァ社 1500円＋税 978-4-623-08098-4</p>		
-----	---	--	--

履修条件・他の科目との関連	<p>「幼児と環境」の授業で学んだ基礎知識をもとに、実際の保育場面に応用させて理解を深めてください。 保育内容5領域のうち、環境以外の領域を学ぶ授業を意識しながら学習を進めるようにしてください。 自然環境について学ぶため学外授業を実施する予定です(状況に応じて中止する場合があります)。 実施時期はシラバスに示された授業回とは異なる可能性があります、少なくとも1か月前には日程などの詳細を授業内で連絡します。</p>		
---------------	---	--	--

授業コード	22045501	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	保育内容（表現Ⅱ） [対面]				
シラバス執筆(全員)	作野 理恵、渡邊 詩子				
シラバス執筆(主)	作野 理恵				
開講年次	2年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

【前期】
「保育内容（表現Ⅰ）」の保育内容をより充実・発展させ、授業内で模擬保育を多く取り入れ、保育に還元する態度を育てる。
造形活動における材料・用具を活動内容に合わせた扱いができるよう説明する。
造形表現における評価の考え方を説明する。

【後期】
「保育内容（表現Ⅰ）」の保育内容をより充実・発展させ、授業内で模擬実技発表を多く取り入れながら、幼児の音楽的表現活動の現状や様々な問題点を考察し、指導計画の立案とその考え方を説明する。
音楽的・舞踏的・言語的・造形的表現の要素が含まれている幼児のオペレッタ・劇あそびなどを取り上げ、その指導方法や教育的意義を解説する。

到達目標

【前期】
1、幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」のねらい及び内容を理解し、応用できる。
2、小学校教科とのつながりを意識し、保育で実践できる。
3、表現活動における指導上の留意点を理解し、模擬保育を実践できる。
4、感じたことや考えたことを自分なりに表現できる。
5、材料・用具を活動内容に合わせて活用できる。

【後期】
1、幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」のねらい及び内容を理解し、応用できる。
2、年齢別での活動内容の違いを理解し、保育で実践できる。
3、表現活動における指導上の留意点を理解し、模擬保育を実践できる。
4、感じたことや考えたことを自分なりに表現できる。

授業計画

【第1回】～【第15回】を渡邊が担当する
【第16回】～【第30回】を作野が担当する

【第1回】
テーマ：乳幼児の絵画・造形表現の理解
乳幼児の絵画・造形表現を理解する
内容・方法：保育内容「表現」における絵画・造形分野を理解し、乳幼児の絵画造形表現を鑑賞する

【第2回】
テーマ：新聞紙による表現活動Ⅰ
内容・方法：新聞を使った表現活動を理解し、実践する

【第3回】
テーマ：新聞紙による表現活動Ⅱ
内容・方法：新聞紙による保育の計画を立て、模擬保育と振り返りを行う

【第4回】
テーマ：布による表現活動Ⅰ
内容・方法：乳幼児の生活雑貨を取り入れた新たな表現を理解し、実践する

【第5回】
テーマ：布による表現活動Ⅱ
内容・方法：布遊びによる保育の計画を立て、指導案を作成する

【第6回】
テーマ：身近な環境「光」による表現活動Ⅰ
内容・方法：乳幼児の環境を取り入れた「光と影」による表現活動を理解し、実践する

【第7回】
テーマ：身近な環境「光」による表現活動Ⅱ
内容・方法：「光と影」による表現活動をグループで制作し、発表する

【第8回】
テーマ：行事と造形活動Ⅰ
内容・方法：壁面掲示の表現方法を情報機器で調べ、幼児の行事体験における壁面制作を構想する

【第9回】
テーマ：行事と造形活動Ⅱ
内容・方法：幼児の行事体験における壁面制作を実践する

【第10回】
テーマ：感触遊びによる表現活動Ⅰ
内容・方法：感触遊びを理解し、実践する

【第11回】

テーマ：感触遊びによる表現活動Ⅱ

内容・方法：感触遊びの指導方法と評価方法を理解する

【第12回】

テーマ：空き箱による表現活動

内容・方法：空き箱による乳幼児の造形表現から、小学生の図工科へのつながりを理解し、実践する

【第13回】

テーマ：絵本を制作する表現活動Ⅰ

内容・方法：絵本の表現方法を情報機器で調べ、絵本制作を構想する

【第14回】

テーマ：絵本を制作する表現活動Ⅱ

内容・方法：絵本制作の表現方法を理解し、実践する

【第15回】

テーマ：絵本の読み聞かせによる表現活動

内容・方法：絵本の読み聞かせによる保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む

該当授業終講後に課題レポートの提出を求める

【第16回】

テーマ：授業計画の説明

内容・方法：保育内容「表現」における音楽活動を理解する。

【第17回】

テーマ：「子どもの歌」の特性について

内容・方法：子どもの歌について色々な角度から考察・分類し、実践する。

【第18回】

テーマ：年齢別表現活動について

内容・方法：年齢別の歌あそびと音楽表現活動（3歳児）について学ぶ。

【第19回】

テーマ：年齢別表現活動について

内容・方法：年齢別の歌あそびと音楽的表現活動（4歳児）について学ぶ。

【第20回】

テーマ：年齢別表現活動について

内容・方法：年齢別の歌あそびと音楽的表現活動（5歳児）について学ぶ。

【第21回】

テーマ：こどもの楽器表現について

内容・方法：リズム遊び（楽器等を使った表現）の事例について学び、実践する。

【第22回】

テーマ：乳幼児の器楽合奏について

内容・方法：乳幼児の器楽合奏について学び、乳幼児保育・教育の向上に取り組む。

【第23回】

テーマ：音楽表現活動の「つくる活動」について

内容・方法：簡単な旋律作りについて理解する。
簡単な身体表現やリトミックについて創作・実践する。

【第24回】

テーマ：表現における情報機器活用法の理解、及び和音進行・伴奏法について

内容・方法：情報機器の活用法について学び、実践する。
「弾き歌い」の実践とコードネームについて理解する。

【第25回】

テーマ：指導計画案と模擬実技発表①

内容・方法：「歌う活動」での音楽的指導計画を構成し、実践する。

【第26回】

テーマ：指導計画案と模擬実技発表②

内容・方法：「聴く活動」での音楽的指導計画を構成し、実践する。

【第27回】

テーマ：指導計画案と模擬実技発表③

内容・方法：「弾く活動」での音楽的指導計画を構成し、実践する。

【第28回】

テーマ：音楽表現活動の劇あそびについて①

内容・方法：オペレッタ（劇あそび）のねらいと教育的意義について学ぶ。

【第29回】

テーマ：音楽表現活動の劇あそびについて②

内容・方法：簡易なオペレッタ（劇あそび）を創作・発表する。

【第30回】

テーマ：総合音楽表現活動の実践

内容・方法：表現分野での創作活動を実践し、鑑賞する。

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

【前期】

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要であるため、各回につき0.5時間以上の事前学習および0.5時間以上の事後学習を行う。

【事前】前授業の復習をし、本授業の材料用具の確認を行う。

【事後】本授業で学んだ内容を整理し、保育の現場で役立つよう課題記録をつける。

【後期】

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。
 各回につき0.5時間以上の事前学習および0.5時間以上の事後学習を行う。
 （事前）前授業の復習をし、内容の理解・習得に努める。
 （事後）授業で学んだ内容を復習し、授業内外課題に取り組む。

課題に対するフィードバックの方法

【前期】

授業内での課題作品を鑑賞し、講評する。
 授業内で造形表現における評価の方法を解説する。

【後期】

授業内での活動を鑑賞し、講評する。
 授業内で音楽表現における評価の方法を解説する。

成績評価の方法・基準(方針)

【前期】

授業内での評価

- ・幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」のねらい及び内容を理解し、応用できたかを評価する。
- ・小学校教科とのつながりが意識し、実践したかを評価する。
- ・表現活動における指導上の留意点を理解し、模擬保育を実践したかを評価する。
- ・感じたことや考えたことを自分なりに表現しているかを評価する。
- ・材料・用具を活動内容に合わせて活用できたかを評価する。

授業外での評価

- ・課題記録の完成度について評価する。
- 定期試験に代わるレポート等
- ・課題レポートの完成度について評価する。

定期試験

なし

その他

なし

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由なく6回以上欠席した場合は評価の対象とせず「K」評価とする。
 3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。
 定期試験に代わるレポートの提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

【後期】

授業内での評価

- ・幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」のねらい及び内容を理解し、応用できたかを評価する。
- ・年齢別での活動内容の違いを理解し、実践したかを評価する。
- ・表現活動における指導上の留意点を理解し、模擬保育を実践したかを評価する。
- ・感じたことや考えたことを自分なりに表現しているかを評価する。

授業外での評価

- ・課題の完成度について評価する。
- 定期試験に代わるレポート等
- ・課題レポートの完成度について評価

定期試験

なし

その他

なし

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は評価の対象とせず「K」評価とする。
 3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。
 定期試験に代わるレポートの提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	【前期】 ・幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」のねらい及び内容を理解し、応用できたかを評価(10) ・小学校教科とのつながりが意識し、実践したかを評価(10) ・表現活動における指導上の留意点を理解し、模擬保育を実践したかを評価(20) ・感じたことや考えたことを自分なりに表現しているかを評価(20) ・材料・用具を活動内容に合わせて活用できたかを評価(20) 【後期】 ・幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」のねらい及び内容を理解し、応用できたかを評価(20) ・年齢別での活動内容	【前期】 1, 2, 3, 4, 5 【後期】 1, 2, 3, 4

授業外での評価	10	【前期】 課題記録の完成度を評価 【後期】 課題の完成度を評価	【前期】1, 2, 3, 4, 5【後期】1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	【前期】課題レポートの完成度を評価 【後期】課題レポートの完成度を評価	【前期】1, 2, 3, 4, 5【後期】1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 【前期】必要に応じて、資料の配付もしくはクラスルームに提示する。 【後期】随時資料を配付する。		
------	---	--	--

参考書	幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) 新造形表現 実技編、花篤實・岡田愨吾編著 三晃書房 新造形表現 理論・実践編、花篤實・岡田愨吾 『最新・幼児の音楽教育』井口太編著/朝日出版社発行(978-4-255-15627-9) 2640円		
-----	---	--	--

履修条件・他の科目との関連	専門教育科目であり、学科必修科目である。 欠席時に配付された資料は担当教員に申し出て受け取ること。		
---------------	--	--	--

授業コード	22009301	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	音楽Ⅰ [対面]				
シラバス執筆(全員)	作野 理恵、光本 諭史、山手 敦子、濱谷 田穂、和田 宏一、蜂谷 葉子、平田 道子				
シラバス執筆(主)	作野 理恵				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

乳幼児の音楽教育に関わる際に、音楽についての基礎知識を持ち、その上で保育者自身が豊かな音楽的感性と音楽的能力(技能)を持つことが必要であるとされている。そのためにこの科目では、保育現場で必要とされる音楽表現のための基礎技能について指導する。また、教材の活用および作成と、保育の環境構成及び具体的展開方法について説明する。さらに子どもの生活とあそびを豊かに展開する音楽表現方法を習得することを目的とする。

〔前期内容〕発声法および保育の現場で歌われる「こどものうた」について、講義、範唱の鑑賞および実践を通して学習を行い、保育者に求められる歌唱法の概説をする。また、弾き歌い時の発声に関する学習および合唱・アンサンブルの実践など、保育の現場における歌唱活動に役立つ応用力習得法についても説明をする。

〔後期内容〕音あそび・リズムあそびやボディパーカッションの実践を通して、その教育的意義および子どもへの指導方法を説明する。また鍵盤楽器や打楽器によるアンサンブルの実践を通して、指導者として楽器の正しい奏法を学び、子どもへの指導法を概説し、それらの習得のため実践型授業を行う。

到達目標

1. 豊かな音楽的感性を身につけ、保育現場に還元できる。
2. 保育現場で必要とされる歌唱・伴奏付け・ソルフェージュの基礎的知識を演奏に反映できる。
3. 合唱やアンサンブルなどを通して調和のとれた響きを体感し演奏することができる。
4. 各年次の子どもの音楽指導計画に基づき指導することができる。
5. 子どもへの適切な言葉掛けができる。
6. 指導者として必要な音楽の知識を説明できる。

授業計画

第1回～第15回

【第1回】

テーマ：保育者に求められる「歌唱力」とは？

内容・方法：発声法とは、保育の現場で歌われる「こどものうた」について

【第2回】

テーマ：保育者に求められる「歌唱力」とは？

内容・方法：発声法（声の出るしくみ・からだの使い方）、こどものうた（生活のうた）

【第3回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（卒園のうた）

【第4回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（春のうた）

【第5回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：こどものうた（梅雨時のうた）

【第6回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（夏のうた）

【第7回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（秋のうた）

【第8回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：こどものうた（冬のうた）

【第9回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の養成

内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（生きもののうた）

【第10回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得

内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（食べもののうた）

【第11回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得

内容・方法：こどものうた（乗りもののうた）

【第12回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得

内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（人に関するうた）

【第13回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得

内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（音楽に関するうた）

【第14回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得および保育の歌唱まとめ

内容・方法：合唱・アンサンブルの試み、保育の歌唱まとめ

【第15回】

テーマ：保育者養成における歌唱まとめ

内容・方法：「こどものうた」の発表

第16回～第30回

【第16回】

テーマ：幼児保育における音楽の位置づけ

内容・方法：現場での音楽の在り方

【第17回】

テーマ：幼児の音楽活動について

内容・方法：活動実践例の紹介

【第18回】

テーマ：リズムあそびの意義・基礎

内容・方法：リズムあそび・即時反応の実践

【第19回】

テーマ：ボディパーカッションを用いたリズムあそび

内容・方法：ボディパーカッションの実践・発表

【第20回】

テーマ：簡易楽器・手作り楽器の扱い方

内容・方法：手作り楽器作製・楽器演奏

【第21回】

テーマ：音を聴く①

内容・方法：身近にある音についての聴き取り調査

【第22回】

テーマ：音を聴く②

内容・方法：音楽を色や形で描く

【第23回】

テーマ：音であそぶ①

内容・方法：小物楽器によるリズムあそび

【第24回】

テーマ：音であそぶ②

内容・方法：子どもの発育に合わせた楽器あそび

【第25回】

テーマ：音で表現する①

内容・方法：子どもの年齢に応じた器楽合奏

【第26回】

テーマ：音で表現する②

内容・方法：子どもの年齢に応じた器楽合奏

【第27回】

テーマ：音で表現する③

内容・方法：鍵盤楽器、打楽器を用いた合奏

【第28回】

テーマ：童謡のコード伴奏①

内容・方法：コードによる伴奏法

【第29回】

テーマ：童謡のコード伴奏②

内容・方法：童謡の伴奏づけ

【第30回】

テーマ：童謡の演奏発表

内容・方法：童謡の演奏発表・後期授業のふり返り・まとめ

該当授業終講後に課題レポートを提出してもらう。

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要である。

各回につき1時間以上の事前・事後学習が必要である。

第1回～第15回

【第1回】

①事前学修課題：シラバスを熟読する。保育者に求められる歌唱力について考える。

②事後学修課題：発声についての学習事項の復習。

【第2回】

①事前学修課題：歌唱指導においてよく用いられる声かけについて考える。

②事後学修課題：声が出るしくみ、エクササイズ、生活のうたについて復習。

【第3回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けて練習。卒園のこどものうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および卒園のこどものうたについて復習。

【第4回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。春のこどものうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および春のこどものうたについて復習。

【第5回】

- ①事前学修課題：梅雨時のこどものうたについて予習。
 ②事後学修課題：授業で取り上げた梅雨時のこどものうたについて復習。
 【第6回】
 ①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。夏のこどものうたについて予習。
 ②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および夏のこどものうたについて復習。
 【第7回】
 ①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。秋のこどものうたについて予習。
 ②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および秋のこどものうたについて復習。
 【第8回】
 ①事前学修課題：冬のこどものうたについて予習。
 ②事後学修課題：授業で取り上げた冬のこどものうたについて復習。
 【第9回】
 ①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。生きものに関するうたについて予習。
 ②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および生きものに関するうたを復習。
 【第10回】
 ①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。食べものに関するうたについて予習。
 ②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および食べものに関するうたを復習。
 【第11回】
 ①事前学修課題：乗りものに関するうたについて予習。
 ②事後学修課題：授業で取り上げた乗りものに関するうたについて復習。
 【第12回】
 ①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。人に関するうたについて予習。
 ②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および人に関するうたについて復習。
 【第13回】
 ①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。音楽に関するうたについて予習。
 ②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および音楽に関するうたについて復習。
 【第14回】
 ①事前学修課題：これまでに学習した歌唱技術について事前に復習。
 ②事後学修課題：合唱・アンサンブルについて復習。発表に向けて課題曲を練習。
 【第15回】
 ①事前学修課題：発表に向けて課題曲を練習・予習。
 ②事後学修課題：発声法、こどものうた、弾き歌いについて総合的に復習する

第16回～第30回

- 【第16回】
 ①事前学修課題：音を聞き、歌い、身体を動かすことにより、個として集団として幼児が何を習得するかを考慮しておく。
 ②事後学修課題：授業を通して感じた事をまとめる。
 【第17回】
 ①事前学修課題：子どもの音楽活動にはどのようなものがあるか調べておく。
 ②事後学修課題：音楽活動の例をまとめる。
 【第18回】
 ①事前学修課題：身体を使ったリズム打ちの例を調べておく。
 ②事後学修課題：リズム打ちができるよう練習しておく。
 【第19回】
 ①事前学修課題：ボディパーカッションとは何か調べる。
 ②事後学修課題：ボディパーカッションができるよう練習しておく。
 【第20回】
 ①事前学修課題：提示するリズム打ちを演奏できるようにしておく。手作り楽器を作ってくる。
 ②事後学修課題：楽器を用いたリズムあそびのレパートリーを増やす。簡易楽器の鳴らし方を復習する。
 【第21回】
 ①事前学修課題：日常聞こえてくる音を意識する。
 ②事後学修課題：日常の音を聴きとる。
 【第22回】
 ①事前学修課題：楽曲のもつイメージを感じる。
 ②事後学修課題：音楽の多様な表現方法を意識する。
 【第23回】
 ①事前学修課題：現場で使われる楽器をピックアップしておく。
 ②事後学修課題：楽器の名称の整理と暗記をする。
 【第24回】
 ①事前学修課題：指定した合奏の楽譜に目を通しておく。
 ②事後学修課題：演奏するリズムパターンを考える。
 【第25回】
 ①事前学修課題：指定した合奏の楽譜に目を通しておく。
 ②事後学修課題：割り振られた楽器パートを練習しておく。
 【第26回】
 ①事前学修課題：割り振られた楽器パートを練習しておく。
 ②事後学修課題：全パート譜に目を通す。
 【第27回】
 ①事前学修課題：合奏曲を練習しておく。
 ②事後学修課題：器楽合奏のふりかえりを行う。
 【第28回】
 ①事前学修課題：指定する小品の譜読みをしておく。
 ②事後学修課題：コード記号を整理する。
 【第29回】
 ①事前学修課題：指定する小品の譜読みをしておく。

②事後学修課題：童謡に伴奏をつけ練習しておく。

【第30回】

①事前学修課題：童謡にコードで伴奏をつけ、練習しておく。

②事後学修課題：伴奏をつけた童謡を復習する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックの方法

【前期】提出されたレポート課題の内容および個人レッスンにおいてみられた事象について例を提示し、それらへの評価を共有する形でフィードバックを行う。

【後期】授業内での演奏発表の講評、提出課題内容をクラスで共有する形でフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

(前期) 授業への参加意欲およびレポート課題の提出状況と内容、授業内の歌唱発表から総合的に評価する。
(後期) 授業への参加意欲、授業内の演奏発表、課題レポートの評価により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

正当な理由なく前後期共に5回を超える欠席をした場合、または演奏発表を欠席した場合は評価の対象とせず「K」評価とする。

授業開始から15分までを遅刻とし、15分以上遅刻した場合は欠席とみなす。

3回遅刻した場合は1回の欠席となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業への参加意欲(20) 実践課題(20) 演奏発表(30)	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	20	レポート課題の提出状況および内容(20)	2, 4, 6
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	まとめ課題レポートの完成度(10)	2, 4, 6
その他	0		

テキスト	『最新・幼児の音楽教育 改訂版』/井口太編著/朝日出版社 / 978-4-255-15725-2 2750円
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	テキストは毎授業必ず持ってくること。

授業コード	22009302	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	音楽Ⅰ [対面]				
シラバス執筆(全員)	作野 理恵、光本 諭史、寺見 香織、和田 宏一、錦見 朋子、蜂谷 葉子、福原 千織				
シラバス執筆(主)	作野 理恵				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

乳幼児の音楽教育に関わる際に、音楽についての基礎知識を持ち、その上で保育者自身が豊かな音楽的感性と音楽的能力(技能)を持つことが必要であるとされている。そのためにこの科目では、保育現場で必要とされる音楽表現のための基礎技能について指導する。また、教材の活用および作成と、保育の環境構成及び具体的展開方法について説明する。さらに子どもの生活とあそびを豊かに展開する音楽表現方法を習得することを目的とする。

〔前期内容〕発声法および保育の現場で歌われる「こどものうた」について、講義、範唱の鑑賞および実践を通して学習を行い、保育者に求められる歌唱法の概説をする。また、弾き歌い時の発声に関する学習および合唱・アンサンブルの実践など、保育の現場における歌唱活動に役立つ応用力習得法についても説明をする。

〔後期内容〕音あそび・リズムあそびやボディパーカッションの実践を通して、その教育的意義および子どもへの指導方法を説明する。また鍵盤楽器や打楽器によるアンサンブルの実践を通して、指導者として楽器の正しい奏法を学び、子どもへの指導法を概説し、それらの習得のため実践型授業を行う。

到達目標

1. 豊かな音楽的感性を身につけ、保育現場に還元できる。
2. 保育現場で必要とされる歌唱・伴奏付け・ソルフェージュの基礎的知識を演奏に反映できる。
3. 合唱やアンサンブルなどを通して調和のとれた響きを体感し演奏することができる。
4. 各年次の子どもの音楽指導計画に基づき指導することができる。
5. 子どもへの適切な言葉掛けができる。
6. 指導者として必要な音楽の知識を説明できる。

授業計画

第1回～第15回

【第1回】

テーマ：保育者に求められる「歌唱力」とは？

内容・方法：発声法とは、保育の現場で歌われる「こどものうた」について

【第2回】

テーマ：保育者に求められる「歌唱力」とは？

内容・方法：発声法（声の出るしくみ・からだの使い方）、こどものうた（生活のうた）

【第3回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（卒園のうた）

【第4回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（春のうた）

【第5回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：こどものうた（梅雨時のうた）

【第6回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（夏のうた）

【第7回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（秋のうた）

【第8回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：こどものうた（冬のうた）

【第9回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の養成

内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（生きもののうた）

【第10回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得

内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（食べもののうた）

【第11回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得

内容・方法：こどものうた（乗りもののうた）

【第12回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得

内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（人に関するうた）

【第13回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得

内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（音楽に関するうた）

【第14回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得および保育の歌唱まとめ

内容・方法：合唱・アンサンブルの試み、保育の歌唱まとめ

【第15回】

テーマ：保育者養成における歌唱まとめ

内容・方法：「こどものうた」の発表

第16回～第30回

【第16回】

テーマ：幼児保育における音楽の位置づけ

内容・方法：現場での音楽の在り方

【第17回】

テーマ：幼児の音楽活動について

内容・方法：活動実践例の紹介

【第18回】

テーマ：リズムあそびの意義・基礎

内容・方法：リズムあそび・即時反応の実践

【第19回】

テーマ：ボディパーカッションを用いたリズムあそび

内容・方法：ボディパーカッションの実践・発表

【第20回】

テーマ：簡易楽器・手作り楽器の扱い方

内容・方法：手作り楽器作製・楽器演奏

【第21回】

テーマ：音を聴く①

内容・方法：身近にある音についての聴き取り調査

【第22回】

テーマ：音を聴く②

内容・方法：音楽を色や形で描く

【第23回】

テーマ：音であそぶ①

内容・方法：小物楽器によるリズムあそび

【第24回】

テーマ：音であそぶ②

内容・方法：子どもの発育に合わせた楽器あそび

【第25回】

テーマ：音で表現する①

内容・方法：子どもの年齢に応じた器楽合奏

【第26回】

テーマ：音で表現する②

内容・方法：子どもの年齢に応じた器楽合奏

【第27回】

テーマ：音で表現する③

内容・方法：鍵盤楽器、打楽器を用いた合奏

【第28回】

テーマ：童謡のコード伴奏①

内容・方法：コードによる伴奏法

【第29回】

テーマ：童謡のコード伴奏②

内容・方法：童謡の伴奏づけ

【第30回】

テーマ：童謡の演奏発表

内容・方法：童謡の演奏発表・後期授業のふり返り・まとめ

該当授業終講後に課題レポートを提出してもらう。

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要である。

各回につき1時間以上の事前・事後学習が必要である。

第1回～第15回

【第1回】

①事前学修課題：シラバスを熟読する。保育者に求められる歌唱力について考える。

②事後学修課題：発声についての学習事項の復習。

【第2回】

①事前学修課題：歌唱指導においてよく用いられる声かけについて考える。

②事後学修課題：声が出るしくみ、エクササイズ、生活のうたについて復習。

【第3回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けて練習。卒園のこどものうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および卒園のこどものうたについて復習。

【第4回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。春のこどものうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および春のこどものうたについて復習。

【第5回】

- ①事前学修課題：梅雨時のこどものうたについて予習。
 ②事後学修課題：授業で取り上げた梅雨時のこどものうたについて復習。
 【第6回】
 ①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。夏のこどものうたについて予習。
 ②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および夏のこどものうたについて復習。
 【第7回】
 ①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。秋のこどものうたについて予習。
 ②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および秋のこどものうたについて復習。
 【第8回】
 ①事前学修課題：冬のこどものうたについて予習。
 ②事後学修課題：授業で取り上げた冬のこどものうたについて復習。
 【第9回】
 ①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。生きものに関するうたについて予習。
 ②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および生きものに関するうたを復習。
 【第10回】
 ①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。食べものに関するうたについて予習。
 ②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および食べものに関するうたを復習。
 【第11回】
 ①事前学修課題：乗りものに関するうたについて予習。
 ②事後学修課題：授業で取り上げた乗りものに関するうたについて復習。
 【第12回】
 ①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。人に関するうたについて予習。
 ②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および人に関するうたについて復習。
 【第13回】
 ①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。音楽に関するうたについて予習。
 ②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および音楽に関するうたについて復習。
 【第14回】
 ①事前学修課題：これまでに学習した歌唱技術について事前に復習。
 ②事後学修課題：合唱・アンサンブルについて復習。発表に向けて課題曲を練習。
 【第15回】
 ①事前学修課題：発表に向けて課題曲を練習・予習。
 ②事後学修課題：発声法、こどものうた、弾き歌いについて総合的に復習する

第16回～第30回

- 【第16回】
 ①事前学修課題：音を聞き、歌い、身体を動かすことにより、個として集団として幼児が何を習得するかを考慮しておく。
 ②事後学修課題：授業を通して感じた事をまとめる。
 【第17回】
 ①事前学修課題：子どもの音楽活動にはどのようなものがあるか調べておく。
 ②事後学修課題：音楽活動の例をまとめる。
 【第18回】
 ①事前学修課題：身体を使ったリズム打ちの例を調べておく。
 ②事後学修課題：リズム打ちができるよう練習しておく。
 【第19回】
 ①事前学修課題：ボディパーカッションとは何か調べる。
 ②事後学修課題：ボディパーカッションができるよう練習しておく。
 【第20回】
 ①事前学修課題：提示するリズム打ちを演奏できるようにしておく。手作り楽器を作ってくる。
 ②事後学修課題：楽器を用いたリズムあそびのレパートリーを増やす。簡易楽器の鳴らし方を復習する。
 【第21回】
 ①事前学修課題：日常聞こえてくる音を意識する。
 ②事後学修課題：日常の音を聴きとる。
 【第22回】
 ①事前学修課題：楽曲のもつイメージを感じる。
 ②事後学修課題：音楽の多様な表現方法を意識する。
 【第23回】
 ①事前学修課題：現場で使われる楽器をピックアップしておく。
 ②事後学修課題：楽器の名称の整理と暗記をする。
 【第24回】
 ①事前学修課題：指定した合奏の楽譜に目を通しておく。
 ②事後学修課題：演奏するリズムパターンを考える。
 【第25回】
 ①事前学修課題：指定した合奏の楽譜に目を通しておく。
 ②事後学修課題：割り振られた楽器パートを練習しておく。
 【第26回】
 ①事前学修課題：割り振られた楽器パートを練習しておく。
 ②事後学修課題：全パート譜に目を通す。
 【第27回】
 ①事前学修課題：合奏曲を練習しておく。
 ②事後学修課題：器楽合奏のふりかえりを行う。
 【第28回】
 ①事前学修課題：指定する小品の譜読みをしておく。
 ②事後学修課題：コード記号を整理する。
 【第29回】
 ①事前学修課題：指定する小品の譜読みをしておく。

②事後学修課題：童謡に伴奏をつけ練習しておく。

【第30回】

①事前学修課題：童謡にコードで伴奏をつけ、練習しておく。

②事後学修課題：伴奏をつけた童謡を復習する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックの方法

【前期】提出されたレポート課題の内容および個人レッスンにおいてみられた事象について例を提示し、それらへの評価を共有する形でフィードバックを行う。

【後期】授業内での演奏発表の講評、提出課題内容をクラスで共有する形でフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

(前期) 授業への参加意欲およびレポート課題の提出状況と内容、授業内の歌唱発表から総合的に評価する。

(後期) 授業への参加意欲、授業内の演奏発表、課題レポートの評価により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

正当な理由なく前後期共に5回を超える欠席をした場合、または演奏発表を欠席した場合は評価の対象とせず「K」評価とする。

授業開始から15分までを遅刻とし、15分以上遅刻した場合は欠席とみなす。

3回遅刻した場合は1回の欠席となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業への参加意欲(20) 実践課題(20) 演奏発表(30)	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	20	レポート課題の提出状況および内容(20)	2, 4, 6
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	まとめ課題レポートの完成度(10)	2, 4, 6
その他	0		

テキスト	『最新・幼児の音楽教育 改訂版』/井口太編著/朝日出版社 / 978-4-255-15725-2 2750円
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	テキストは毎授業必ず持ってくること。

授業コード	22009303	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	音楽Ⅰ [対面]				
シラバス執筆(全員)	作野 理恵、光本 諭史、濱谷 田穂、和田 宏一、安部 り麻、佐々木 聡子、錦見 朋				
シラバス執筆(主)	作野 理恵				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

乳幼児の音楽教育に関わる際に、音楽についての基礎知識を持ち、その上で保育者自身が豊かな音楽的感性と音楽的能力(技能)を持つことが必要であるとされている。そのためにこの科目では、保育現場で必要とされる音楽表現のための基礎技能について指導する。また、教材の活用および作成と、保育の環境構成及び具体的展開方法について説明する。さらに子どもの生活とあそびを豊かに展開する音楽表現方法を習得することを目的とする。

〔前期内容〕発声法および保育の現場で歌われる「こどものうた」について、講義、範唱の鑑賞および実践を通して学習を行い、保育者に求められる歌唱法の概説をする。また、弾き歌い時の発声に関する学習および合唱・アンサンブルの実践など、保育の現場における歌唱活動に役立つ応用力習得法についても説明をする。

〔後期内容〕音あそび・リズムあそびやボディパーカッションの実践を通して、その教育的意義および子どもへの指導方法を説明する。また鍵盤楽器や打楽器によるアンサンブルの実践を通して、指導者として楽器の正しい奏法を学び、子どもへの指導法を概説し、それらの習得のため実践型授業を行う。

到達目標

1. 豊かな音楽的感性を身につけ、保育現場に還元できる。
2. 保育現場で必要とされる歌唱・伴奏付け・ソルフェージュの基礎的知識を演奏に反映できる。
3. 合唱やアンサンブルなどを通して調和のとれた響きを体感し演奏することができる。
4. 各年次の子どもの音楽指導計画に基づき指導することができる。
5. 子どもへの適切な言葉掛けができる。
6. 指導者として必要な音楽の知識を説明できる。

授業計画

第1回～第15回

【第1回】

テーマ：保育者に求められる「歌唱力」とは？

内容・方法：発声法とは、保育の現場で歌われる「こどものうた」について

【第2回】

テーマ：保育者に求められる「歌唱力」とは？

内容・方法：発声法（声の出るしくみ・からだの使い方）、こどものうた（生活のうた）

【第3回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（卒園のうた）

【第4回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（春のうた）

【第5回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：こどものうた（梅雨時のうた）

【第6回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（夏のうた）

【第7回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（秋のうた）

【第8回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：こどものうた（冬のうた）

【第9回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の養成

内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（生きもののうた）

【第10回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得

内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（食べもののうた）

【第11回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得

内容・方法：こどものうた（乗りもののうた）

【第12回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得

内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（人に関するうた）

【第13回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得

内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（音楽に関するうた）

【第14回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得および保育の歌唱まとめ

内容・方法：合唱・アンサンブルの試み、保育の歌唱まとめ

【第15回】

テーマ：保育者養成における歌唱まとめ

内容・方法：「こどものうた」の発表

第16回～第30回

【第16回】

テーマ：幼児保育における音楽の位置づけ

内容・方法：現場での音楽の在り方

【第17回】

テーマ：幼児の音楽活動について

内容・方法：活動実践例の紹介

【第18回】

テーマ：リズムあそびの意義・基礎

内容・方法：リズムあそび・即時反応の実践

【第19回】

テーマ：ボディパーカッションを用いたリズムあそび

内容・方法：ボディパーカッションの実践・発表

【第20回】

テーマ：簡易楽器・手作り楽器の扱い方

内容・方法：手作り楽器作製・楽器演奏

【第21回】

テーマ：音を聴く①

内容・方法：身近にある音についての聴き取り調査

【第22回】

テーマ：音を聴く②

内容・方法：音楽を色や形で描く

【第23回】

テーマ：音であそぶ①

内容・方法：小物楽器によるリズムあそび

【第24回】

テーマ：音であそぶ②

内容・方法：子どもの発育に合わせた楽器あそび

【第25回】

テーマ：音で表現する①

内容・方法：子どもの年齢に応じた器楽合奏

【第26回】

テーマ：音で表現する②

内容・方法：子どもの年齢に応じた器楽合奏

【第27回】

テーマ：音で表現する③

内容・方法：鍵盤楽器、打楽器を用いた合奏

【第28回】

テーマ：童謡のコード伴奏①

内容・方法：コードによる伴奏法

【第29回】

テーマ：童謡のコード伴奏②

内容・方法：童謡の伴奏づけ

【第30回】

テーマ：童謡の演奏発表

内容・方法：童謡の演奏発表・後期授業のふり返り・まとめ

該当授業終講後に課題レポートを提出してもらう。

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要である。

各回につき1時間以上の事前・事後学習が必要である。

第1回～第15回

【第1回】

①事前学修課題：シラバスを熟読する。保育者に求められる歌唱力について考える。

②事後学修課題：発声についての学習事項の復習。

【第2回】

①事前学修課題：歌唱指導においてよく用いられる声かけについて考える。

②事後学修課題：声が出るしくみ、エクササイズ、生活のうたについて復習。

【第3回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けて練習。卒園のこどものうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および卒園のこどものうたについて復習。

【第4回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。春のこどものうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および春のこどものうたについて復習。

【第5回】

- ①事前学修課題：梅雨時のこどものうたについて予習。
 ②事後学修課題：授業で取り上げた梅雨時のこどものうたについて復習。
 【第6回】
 ①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。夏のこどものうたについて予習。
 ②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および夏のこどものうたについて復習。
 【第7回】
 ①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。秋のこどものうたについて予習。
 ②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および秋のこどものうたについて復習。
 【第8回】
 ①事前学修課題：冬のこどものうたについて予習。
 ②事後学修課題：授業で取り上げた冬のこどものうたについて復習。
 【第9回】
 ①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。生きものに関するうたについて予習。
 ②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および生きものに関するうたを復習。
 【第10回】
 ①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。食べものに関するうたについて予習。
 ②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および食べものに関するうたを復習。
 【第11回】
 ①事前学修課題：乗りものに関するうたについて予習。
 ②事後学修課題：授業で取り上げた乗りものに関するうたについて復習。
 【第12回】
 ①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。人に関するうたについて予習。
 ②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および人に関するうたについて復習。
 【第13回】
 ①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。音楽に関するうたについて予習。
 ②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および音楽に関するうたについて復習。
 【第14回】
 ①事前学修課題：これまでに学習した歌唱技術について事前に復習。
 ②事後学修課題：合唱・アンサンブルについて復習。発表に向けて課題曲を練習。
 【第15回】
 ①事前学修課題：発表に向けて課題曲を練習・予習。
 ②事後学修課題：発声法、こどものうた、弾き歌いについて総合的に復習する

第16回～第30回

- 【第16回】
 ①事前学修課題：音を聞き、歌い、身体を動かすことにより、個として集団として幼児が何を習得するかを考慮しておく。
 ②事後学修課題：授業を通して感じた事をまとめる。
 【第17回】
 ①事前学修課題：子どもの音楽活動にはどのようなものがあるか調べておく。
 ②事後学修課題：音楽活動の例をまとめる。
 【第18回】
 ①事前学修課題：身体を使ったリズム打ちの例を調べておく。
 ②事後学修課題：リズム打ちができるよう練習しておく。
 【第19回】
 ①事前学修課題：ボディパーカッションとは何か調べる。
 ②事後学修課題：ボディパーカッションができるよう練習しておく。
 【第20回】
 ①事前学修課題：提示するリズム打ちを演奏できるようにしておく。手作り楽器を作ってくる。
 ②事後学修課題：楽器を用いたリズムあそびのレパートリーを増やす。簡易楽器の鳴らし方を復習する。
 【第21回】
 ①事前学修課題：日常聞こえてくる音を意識する。
 ②事後学修課題：日常の音を聴きとる。
 【第22回】
 ①事前学修課題：楽曲のもつイメージを感じる。
 ②事後学修課題：音楽の多様な表現方法を意識する。
 【第23回】
 ①事前学修課題：現場で使われる楽器をピックアップしておく。
 ②事後学修課題：楽器の名称の整理と暗記をする。
 【第24回】
 ①事前学修課題：指定した合奏の楽譜に目を通しておく。
 ②事後学修課題：演奏するリズムパターンを考える。
 【第25回】
 ①事前学修課題：指定した合奏の楽譜に目を通しておく。
 ②事後学修課題：割り振られた楽器パートを練習しておく。
 【第26回】
 ①事前学修課題：割り振られた楽器パートを練習しておく。
 ②事後学修課題：全パート譜に目を通す。
 【第27回】
 ①事前学修課題：合奏曲を練習しておく。
 ②事後学修課題：器楽合奏のふりかえりを行う。
 【第28回】
 ①事前学修課題：指定する小品の譜読みをしておく。
 ②事後学修課題：コード記号を整理する。
 【第29回】
 ①事前学修課題：指定する小品の譜読みをしておく。

②事後学修課題：童謡に伴奏をつけ練習しておく。

【第30回】

①事前学修課題：童謡にコードで伴奏をつけ、練習しておく。

②事後学修課題：伴奏をつけた童謡を復習する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックの方法

【前期】提出されたレポート課題の内容および個人レッスンにおいてみられた事象について例を提示し、それらへの評価を共有する形でフィードバックを行う。

【後期】授業内での演奏発表の講評、提出課題内容をクラスで共有する形でフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

(前期) 授業への参加意欲およびレポート課題の提出状況と内容、授業内の歌唱発表から総合的に評価する。
(後期) 授業への参加意欲、授業内の演奏発表、課題レポートの評価により総合的に判定の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

正当な理由なく前後期共に5回を超える欠席をした場合、または演奏発表を欠席した場合は評価の対象とせず「K」評価とする。

授業開始から15分までを遅刻とし、15分以上遅刻した場合は欠席とみなす。

3回遅刻した場合は1回の欠席となる。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業への参加意欲(20) 実践課題(20) 演奏発表(30)	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	20	レポート課題の提出状況および内容(20)	2, 4, 6
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	まとめ課題レポートの完成度(10)	2, 4, 6
その他	0		

テキスト	『最新・幼児の音楽教育 改訂版』/井口太編著/朝日出版社 / 978-4-255-15725-2 2750円
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	テキストは毎授業必ず持ってくること。

授業コード	22009401	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	音楽Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	作野 理恵、光本 諭史、寺見 香織、佐々木 聡子、西脇 恭子、村上 利香				
シラバス執筆(主)	作野 理恵				
開講年次	2年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

1コマの中でピアノの個人レッスンと、音楽活動の実践方法についての講義・実技演習を並行して展開していく。個人レッスンでは「ピアノ実技」をより発展させ、演奏技術の習得のみにとどまらず、さらに豊かな表現力や音楽性を養うことを目標にしている。
また、幼児歌曲や生活・行事の歌等「弾き歌い教材曲」を取り上げ、実習や就職活動ならびに実際の保育現場で役立つピアノ演奏について説明する。
講義・実践演習では、コード伴奏や楽曲の簡単なアレンジ方法について概説し、保育現場における音楽活動に活かすことのできる実践力習得法を説明する。
また、リトミックなどの身体表現に用いるピアノ演奏技術、音楽表現方法を概説する。

到達目標

1. 基礎教材曲・幼児歌曲の読譜ができる
2. 正しい運指で演奏できる
3. 手・腕が脱力した状態で演奏できる
4. 基礎教材曲を暗譜で演奏できる
5. 曲調に合った演奏表現ができる
6. 幼児歌曲の弾きうたいができる
7. 和音進行のパターンを用い、メロディーに相応しい伴奏をつけることができる
8. 楽曲の簡易なアレンジ・即興演奏ができる
9. リズム感覚を養うあそびを実践できる
10. こどもの音楽感覚を育てるためのリズム指導ができる
11. 課題曲の予習・復習ができています

授業計画

個人レッスンではピアノ基礎教材曲、幼児歌曲の指導を受ける。
講義・実践演習では各回のテーマに基づく課題を五線紙、あるいはプリントに記入し、発表する。

【第1回】

ピアノ・レッスン①テーマ：授業の進め方、概要の説明

内容・方法：1年次生時に取り組んだピアノ基礎教材曲・弾き歌い教材曲を次の

段階へ進める。

講義・実践演習 ①テーマ：授業についてのガイダンス

内容・方法：授業の進め方、概要の説明。

（ピアノ・レッスンにおけるピアノ基礎教材・弾き歌い教材は習得のモデルである）

【第2回】

ピアノ・レッスン②テーマ：レガート奏法の習得

内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 素直な心

弾き歌い：メリーさんのひつじ

講義・実践演習 ②テーマ：楽譜の表示

内容・方法等：楽譜の表示について学ぶ。

【第3回】

ピアノ・レッスン③テーマ：対旋律の弾き方

内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 素直な心

弾き歌い：メリーさんのひつじ

講義・実践演習 ③テーマ：コードネーム

内容・方法等：コードネームについて学ぶ。

【第4回】

ピアノ・レッスン④テーマ：16分音符の細かい動き

内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー アラバスク

弾き歌い：おうま

講義・実践演習 ④テーマ：幼児歌曲の伴奏①

内容・方法等：ベース音による伴奏を学ぶ。

【第5回】

ピアノ・レッスン⑤テーマ：2拍子を感じる

内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー アラバスク

弾き歌い：おうま

講義・実践演習 ⑤テーマ：幼児歌曲の伴奏②

内容・方法等：コードによる伴奏付けを学ぶ。

【第6回】

ピアノ・レッスン⑥テーマ：左手の16分音符の動き

内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー バラード

弾き歌い：水あそび
講義・実践演習 ⑥テーマ：幼児歌曲の伴奏③
内容・方法等：さまざまな伴奏形を学ぶ。

【第7回】

ピアノ・レッスン⑦テーマ：和音の連打
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー バラード

弾き歌い：水あそび
講義・実践演習 ⑦テーマ：幼児歌曲の伴奏・アレンジ
内容・方法等：幼児歌曲の伴奏形を変奏してアレンジする。

【第8回】

ピアノ・レッスン⑧テーマ：3拍子を感じる
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー バラード

弾き歌い：かたつむり
講義・実践演習 ⑧テーマ：幼児歌曲の移調①
内容・方法：簡易な幼児歌曲を移調して演奏する方法を学ぶ。

【第9回】

ピアノ・レッスン⑨テーマ：スタッカートとレガートの違い
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 貴婦人の乗馬

弾き歌い：かたつむり
講義・実践演習 ⑨テーマ：幼児歌曲の移調②
内容・方法：簡易な幼児歌曲を移調して演奏する方法を学ぶ。

【第10回】

ピアノ・レッスン⑩テーマ：16分音符の音階
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 貴婦人の乗馬

弾き歌い：やぎさんゆうびん
講義・実践演習 ⑩テーマ：対旋律①
内容・方法：対旋律とは何かについて学ぶ。

【第11回】

ピアノ・レッスン⑪テーマ：3連音符の奏法
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 貴婦人の乗馬

弾き歌い：やぎさんゆうびん
講義・実践演習 ⑪テーマ：対旋律②
内容・方法：対旋律の弾き方について学ぶ。

【第12回】

ピアノ・レッスン⑫テーマ：ソナチネの形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ ソナチネ7番 第1楽章

弾き歌い：むすんでひらいて
講義・実践演習 ⑫テーマ：対旋律③
内容・方法：対旋律と主旋律を同時に演奏する方法を学ぶ。

【第13回】

ピアノ・レッスン⑬テーマ：楽曲の暗譜
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ ソナチネ7番 第1楽章

弾き歌い：むすんでひらいて
講義・実践演習 ⑬テーマ：幼児歌曲の伴奏④
内容・方法：幼児歌曲にコードで伴奏をつけて演奏する。

【第14回】

ピアノ・レッスン⑭テーマ：楽曲を仕上げる
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ ソナチネ7番 第1楽章

弾き歌い：十人のインディアン
講義・実践演習 ⑭テーマ：幼児歌曲の伴奏⑤
内容・方法：幼児歌曲に分散和音等で伴奏をつけて演奏する。

【第15回】

ピアノ・レッスン⑮テーマ：ピアノ基礎教材曲と弾き歌い曲の演奏発表。次の課題の選定。
内容・方法：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌いの曲を演奏発表する。

講義・実践演習 ⑮テーマ：幼児歌曲のまとめ
内容・方法：幼児歌曲にさまざまな形の伴奏をつけて演奏する。

【第16回】

ピアノ・レッスン⑯テーマ：メロディのフレーズ
内容・方法：ピアノ基礎教材 クレメンティ ソナチネ7番 第3楽章

弾き歌い：ひげじいさん
講義・実践演習 ⑯テーマ：身体表現、リトミックについて
内容・方法：・後期授業のガイダンス 幼児にとっての身体表現の意味と必要性

【第17回】

ピアノ・レッスン⑰テーマ：複合二部形式
内容・方法：ピアノ基礎教材 クレメンティ ソナチネ7番 第3楽章

弾き歌い：ひげじいさん
講義・実践演習 ⑰テーマ：音と音楽
内容・方法：音に反応することと、音楽に同調することについて考察する。

【第18回】

ピアノ・レッスン⑱テーマ：ソナタ形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ ソナチネ4番 第1楽章

弾き歌い：はをみがきましよう
講義・実践演習 ⑱テーマ：リズムと動き
内容・方法：リズムの捉え方とリズムを感じた動きを体感し、それを楽器で表現する方法を学ぶ。

【第19回】

ピアノ・レッスン⑱ テーマ：指使いの工夫
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ ソナチネ4番 第1楽章
弾き歌い：はをみがきましょう

講義・実践演習 ⑲ テーマ：音楽の捉え方①
内容・方法：等速感について考察・体感し、ピアノで表現する。

【第20回】

ピアノ・レッスン⑳ テーマ：ロンド形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ ソナチネ4番 第2楽章
弾き歌い：とんぼのめがね

講義・実践演習 ⑳ テーマ：音楽の捉え方②
内容・方法：拍子感、フレーズ感について考察、体感し、ピアノで表現する。

【第21回】

ピアノ・レッスン㉑ テーマ：半音階の動き
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ ソナチネ4番 第2楽章
弾き歌い：とんぼのめがね

講義・実践演習 ㉑ テーマ：リズムあそび①
内容・方法：歩くことを中心にしたリズムあそびを学習しその活動のためのピアノ曲を習得する。

【第22回】

ピアノ・レッスン㉒ テーマ：トリルの入れ方
内容・方法：基礎教材：クレメンティ ソナチネ9番 第1楽章
弾き歌い：どんぐりころころ

講義・実践演習 ㉒ テーマ：リズムあそび②
内容・方法：模倣を中心にしたリズムあそびを学習し、その活動のためのピアノ曲を習得する。

【第23回】

ピアノ・レッスン㉓ テーマ：装飾音の入れ方
内容・方法：基礎教材：クレメンティ ソナチネ9番 第1楽章
弾き歌い：どんぐりころころ

講義・実践演習 ㉓ テーマ：リズムあそび③
内容・方法：道具・小物楽器をつかったリズムあそびを学習する。

【第24回】

ピアノ・レッスン㉔ テーマ：複合三部形式
内容・方法：基礎教材：クレメンティ ソナチネ9番 第3楽章
弾き歌い：雪

講義・実践演習 ㉔ テーマ：リズムあそび④
内容・方法：鍵盤楽器をつかったリズムあそびを学習する。

【第25回】

ピアノ・レッスン㉕ テーマ：和音の連打
内容・方法：基礎教材：クレメンティ ソナチネ9番 第3楽章
弾き歌い：犬のおまわりさん

講義・実践演習 ㉕ テーマ：リズムとことば
内容・方法：リズムとことばの関連を考察し、ことばをつかったリズムあそびを学習する。

【第26回】

ピアノ・レッスン㉖ テーマ：ソナタ形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：ベートーヴェン ソナタ作品49-2 第1楽章
弾き歌い：ジングルベル

講義・実践演習 ㉖ テーマ：うたと動き
内容・方法：うたと身体表現の関連を考察し、うたいながらの身体表現を学習する。

【第27回】

ピアノ・レッスン㉗ テーマ：ソナタについて
内容・方法：ピアノ基礎教材：ベートーヴェン ソナタ作品49-2 第1楽章
弾き歌い：小ぎつね

講義・実践演習 ㉗ テーマ：身体表現のための音楽の捉え方①
内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～伴奏付け・変奏について

【第28回】

ピアノ・レッスン㉘ テーマ：楽曲の暗譜
内容・方法：ピアノ基礎教材：モーツァルト ソナタ K.545 第1楽章
弾き歌い：雪のペンキやさん

講義・実践演習 ㉘ テーマ：身体表現のための音楽の捉え方②
内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～表情について

【第29回】

ピアノ・レッスン㉙ テーマ：楽曲を仕上げる
内容・方法：ピアノ基礎教材：モーツァルト ソナタ K.545 第1楽章
弾き歌い：雪のペンキやさん

講義・実践演習 ㉙ テーマ：身体表現のための音楽の捉え方③
内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～拍子について

【第30回】

ピアノ・レッスン㉚ テーマ：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌いの曲の仕上げ。
内容・方法：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌いの曲を仕上げ、発表練習をする。

講義・実践演習 ㉚ テーマ：演奏発表・まとめ
内容・方法：身体表現のための音楽表現方法のまとめ・発表

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要である。
各回につき1時間の事前・事後学習が必要である。

【第1回～第12回、第16回～第29回】

①事前学修課題：課題曲の読譜を行っておくこと。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で取りあげた曲の復習。

【第13回、第14回】

①事前学修課題：課題曲の暗譜を行っておくこと。曲の表情にも配慮して授業までに練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で取りあげた曲を復習し、演奏発表に備える。

【第15回】

①事前学修課題：ピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、弾き歌いの教材の曲を楽譜を見て歌いながら演奏できるように備える。

②事後学修課題：演奏発表の振り返りを行い、今後も容易に弾けるよう体得する。

【第30回】

①事前学修課題：ピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、弾き歌いの教材の曲を楽譜を見て歌いながら演奏できるように備える。

②事後学修課題：発表に向けて弾き込み、今後も容易に弾けるように体得する。

課題に対するフィードバックの方法

各回のレッスン・授業で指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスン・授業で確認する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すピアノ実技試験、復習課題レポート、課題演奏・課題発表を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- ・演奏発表にはそれぞれ課題とされたピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、また弾き歌い教材の曲として「最新・幼児の音楽教育」又は「保育に役立つ基礎から学ぶピアノ」から選んだ曲を楽譜を見て歌いながら演奏する。各自の能力に応じた努力を重視する。
- ・ピアノ・レッスン以外の授業時間内における講義で学んだ内容について課題取り組み状況・発表を評価する。

ピアノ・レッスンはマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう注意すること。

授業開始から15分までを遅刻とし、15分以上遅刻した場合は欠席とみなす。

3回遅刻した場合は1回の欠席となる。

正当な理由なく前後期共に5回を超える欠席をした場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	講義課題についての演奏取り組み状況(20) 前期演奏発表(基礎教材曲1曲、幼児歌曲1曲)(30)	1～10
授業外での評価	20	課題提出状況(10) 課題取り組み状況(10)	7, 10, 11
定期試験	30	定期試験(基礎教材曲1曲、幼児歌曲1曲)(30)	2, 3, 4, 5, 6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	保育に役立つ 基礎から学ぶピアノ/大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版(購入不要) 最新・幼児の音楽教育 改訂版/井口太編著/朝日出版社 / 978-4-255-15725-2 2750円
参考書	必要に応じて配布します。
履修条件・他の科目との関連	全ての音楽関係科目を習得する時にピアノは基本になる楽器であるゆえ、与えられた課題に真摯に取り組み、十分に練習・向上すること。

授業コード	22009402	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	音楽Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	作野 理恵、光本 諭史、濱谷 田穂、平田 道子、福原 千織、村上 利香				
シラバス執筆(主)	作野 理恵				
開講年次	2年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

1コマの中でピアノの個人レッスンと、音楽活動の実践方法についての講義・実技演習を並行して展開していく。個人レッスンでは「ピアノ実技」をより発展させ、演奏技術の習得のみにとどまらず、さらに豊かな表現力や音楽性を養うことを目標にしている。
また、幼児歌曲や生活・行事の歌等「弾き歌い教材曲」を取り上げ、実習や就職活動ならびに実際の保育現場で役立つピアノ演奏について説明する。
講義・実践演習では、コード伴奏や楽曲の簡単なアレンジ方法について概説し、保育現場における音楽活動に活かすことのできる実践力習得法を説明する。
また、リトミックなどの身体表現に用いるピアノ演奏技術、音楽表現方法を概説する。

到達目標

1. 基礎教材曲・幼児歌曲の読譜ができる
2. 正しい運指で演奏できる
3. 手・腕が脱力した状態で演奏できる
4. 基礎教材曲を暗譜で演奏できる
5. 曲調に合った演奏表現ができる
6. 幼児歌曲の弾きうたいができる
7. 和音進行のパターンを用い、メロディーに相応しい伴奏をつけることができる
8. 楽曲の簡易なアレンジ・即興演奏ができる
9. リズム感覚を養うあそびを実践できる
10. こどもの音楽感覚を育てるためのリズム指導ができる
11. 課題曲の予習・復習ができています

授業計画

個人レッスンではピアノ基礎教材曲、幼児歌曲の指導を受ける。
講義・実践演習では各回のテーマに基づく課題を五線紙、あるいはプリントに記入し、発表する。

【第1回】
ピアノ・レッスン①テーマ：授業の進め方、概要の説明
内容・方法：1年次生時に取り組んだピアノ基礎教材曲・弾き歌い教材曲を次の段階へ進める。

講義・実践演習 ①テーマ：授業についてのガイダンス
内容・方法：授業の進め方、概要の説明。

（ピアノ・レッスンにおけるピアノ基礎教材・弾き歌い教材は習得のモデルである）

【第2回】
ピアノ・レッスン②テーマ：レガート奏法の習得
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 素直な心
弾き歌い：メリーさんのひつじ

講義・実践演習 ②テーマ：楽譜の表示
内容・方法等：楽譜の表示について学ぶ。

【第3回】
ピアノ・レッスン③テーマ：対旋律の弾き方
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 素直な心
弾き歌い：メリーさんのひつじ

講義・実践演習 ③テーマ：コードネーム
内容・方法等：コードネームについて学ぶ。

【第4回】
ピアノ・レッスン④テーマ：16分音符の細かい動き
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー アラバスク
弾き歌い：おうま

講義・実践演習 ④テーマ：幼児歌曲の伴奏①
内容・方法等：ベース音による伴奏を学ぶ。

【第5回】
ピアノ・レッスン⑤テーマ：2拍子を感じる
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー アラバスク
弾き歌い：おうま

講義・実践演習 ⑤テーマ：幼児歌曲の伴奏②
内容・方法等：コードによる伴奏付けを学ぶ。

【第6回】
ピアノ・レッスン⑥テーマ：左手の16分音符の動き
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー バラード

弾き歌い：水あそび
講義・実践演習 ⑥テーマ：幼児歌曲の伴奏③
内容・方法等：さまざまな伴奏形を学ぶ。

【第7回】

ピアノ・レッスン⑦テーマ：和音の連打
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー バラード

弾き歌い：水あそび
講義・実践演習 ⑦テーマ：幼児歌曲の伴奏・アレンジ
内容・方法等：幼児歌曲の伴奏形を変奏してアレンジする。

【第8回】

ピアノ・レッスン⑧テーマ：3拍子を感じる
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー バラード

弾き歌い：かたつむり
講義・実践演習 ⑧テーマ：幼児歌曲の移調①
内容・方法：簡易な幼児歌曲を移調して演奏する方法を学ぶ。

【第9回】

ピアノ・レッスン⑨テーマ：スタッカートとレガートの違い
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 貴婦人の乗馬

弾き歌い：かたつむり
講義・実践演習 ⑨テーマ：幼児歌曲の移調②
内容・方法：簡易な幼児歌曲を移調して演奏する方法を学ぶ。

【第10回】

ピアノ・レッスン⑩テーマ：16分音符の音階
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 貴婦人の乗馬

弾き歌い：やぎさんゆうびん
講義・実践演習 ⑩テーマ：対旋律①
内容・方法：対旋律とは何かについて学ぶ。

【第11回】

ピアノ・レッスン⑪テーマ：3連音符の奏法
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 貴婦人の乗馬

弾き歌い：やぎさんゆうびん
講義・実践演習 ⑪テーマ：対旋律②
内容・方法：対旋律の弾き方について学ぶ。

【第12回】

ピアノ・レッスン⑫テーマ：ソナチネの形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ ソナチネ7番 第1楽章

弾き歌い：むすんでひらいて
講義・実践演習 ⑫テーマ：対旋律③
内容・方法：対旋律と主旋律を同時に演奏する方法を学ぶ。

【第13回】

ピアノ・レッスン⑬テーマ：楽曲の暗譜
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ ソナチネ7番 第1楽章

弾き歌い：むすんでひらいて
講義・実践演習 ⑬テーマ：幼児歌曲の伴奏④
内容・方法：幼児歌曲にコードで伴奏をつけて演奏する。

【第14回】

ピアノ・レッスン⑭テーマ：楽曲を仕上げる
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ ソナチネ7番 第1楽章

弾き歌い：十人のインディアン
講義・実践演習 ⑭テーマ：幼児歌曲の伴奏⑤
内容・方法：幼児歌曲に分散和音等で伴奏をつけて演奏する。

【第15回】

ピアノ・レッスン⑮テーマ：ピアノ基礎教材曲と弾き歌い曲の演奏発表。次の課題の選定。
内容・方法：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌いの曲を演奏発表する。

講義・実践演習 ⑮テーマ：幼児歌曲のまとめ
内容・方法：幼児歌曲にさまざまな形の伴奏をつけて演奏する。

【第16回】

ピアノ・レッスン⑯テーマ：メロディのフレーズ
内容・方法：ピアノ基礎教材 クレメンティ ソナチネ7番 第3楽章

弾き歌い：ひげじいさん
講義・実践演習 ⑯テーマ：身体表現、リトミックについて
内容・方法：・後期授業のガイダンス 幼児にとっての身体表現の意味と必要性

【第17回】

ピアノ・レッスン⑰テーマ：複合二部形式
内容・方法：ピアノ基礎教材 クレメンティ ソナチネ7番 第3楽章

弾き歌い：ひげじいさん
講義・実践演習 ⑰テーマ：音と音楽
内容・方法：音に反応することと、音楽に同調することについて考察する。

【第18回】

ピアノ・レッスン⑱テーマ：ソナタ形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ ソナチネ4番 第1楽章

弾き歌い：はをみがきましよう
講義・実践演習 ⑱テーマ：リズムと動き
内容・方法：リズムの捉え方とリズムを感じた動きを体感し、それを楽器で表現する方法を学ぶ。

【第19回】

ピアノ・レッスン⑱ テーマ：指使いの工夫
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ ソナチネ4番 第1楽章
弾き歌い：はをみがきましょう

講義・実践演習 ⑱ テーマ：音楽の捉え方①
内容・方法：等速感について考察・体感し、ピアノで表現する。

【第20回】

ピアノ・レッスン⑲ テーマ：ロンド形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ ソナチネ4番 第2楽章
弾き歌い：とんぼのめがね

講義・実践演習 ⑲ テーマ：音楽の捉え方②
内容・方法：拍子感、フレーズ感について考察、体感し、ピアノで表現する。

【第21回】

ピアノ・レッスン⑳ テーマ：半音階の動き
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ ソナチネ4番 第2楽章
弾き歌い：とんぼのめがね

講義・実践演習 ㉑ テーマ：リズムあそび①
内容・方法：歩くことを中心にしたリズムあそびを学習しその活動のためのピアノ曲を習得する。

【第22回】

ピアノ・レッスン㉒ テーマ：トリルの入れ方
内容・方法：基礎教材：クレメンティ ソナチネ9番 第1楽章
弾き歌い：どんぐりころころ

講義・実践演習 ㉒ テーマ：リズムあそび②
内容・方法：模倣を中心にしたリズムあそびを学習し、その活動のためのピアノ曲を習得する。

【第23回】

ピアノ・レッスン㉓ テーマ：装飾音の入れ方
内容・方法：基礎教材：クレメンティ ソナチネ9番 第1楽章
弾き歌い：どんぐりころころ

講義・実践演習 ㉓ テーマ：リズムあそび③
内容・方法：道具・小物楽器をつかったリズムあそびを学習する。

【第24回】

ピアノ・レッスン㉔ テーマ：複合三部形式
内容・方法：基礎教材：クレメンティ ソナチネ9番 第3楽章
弾き歌い：雪

講義・実践演習 ㉔ テーマ：リズムあそび④
内容・方法：鍵盤楽器をつかったリズムあそびを学習する。

【第25回】

ピアノ・レッスン㉕ テーマ：和音の連打
内容・方法：基礎教材：クレメンティ ソナチネ9番 第3楽章
弾き歌い：犬のおまわりさん

講義・実践演習 ㉕ テーマ：リズムとことば
内容・方法：リズムとことばの関連を考察し、ことばをつかったリズムあそびを学習する。

【第26回】

ピアノ・レッスン㉖ テーマ：ソナタ形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：ベートーヴェン ソナタ作品49-2 第1楽章
弾き歌い：ジングルベル

講義・実践演習 ㉖ テーマ：うたと動き
内容・方法：うたと身体表現の関連を考察し、うたいながらの身体表現を学習する。

【第27回】

ピアノ・レッスン㉗ テーマ：ソナタについて
内容・方法：ピアノ基礎教材：ベートーヴェン ソナタ作品49-2 第1楽章
弾き歌い：小ぎつね

講義・実践演習 ㉗ テーマ：身体表現のための音楽の捉え方①
内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～伴奏付け・変奏について

【第28回】

ピアノ・レッスン㉘ テーマ：楽曲の暗譜
内容・方法：ピアノ基礎教材：モーツァルト ソナタ K.545 第1楽章
弾き歌い：雪のペンキやさん

講義・実践演習 ㉘ テーマ：身体表現のための音楽の捉え方②
内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～表情について

【第29回】

ピアノ・レッスン㉙ テーマ：楽曲を仕上げる
内容・方法：ピアノ基礎教材：モーツァルト ソナタ K.545 第1楽章
弾き歌い：雪のペンキやさん

講義・実践演習 ㉙ テーマ：身体表現のための音楽の捉え方③
内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～拍子について

【第30回】

ピアノ・レッスン㉚ テーマ：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌いの曲の仕上げ。
内容・方法：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌いの曲を仕上げ、発表練習をする。

講義・実践演習 ㉚ テーマ：演奏発表・まとめ
内容・方法：身体表現のための音楽表現方法のまとめ・発表

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要である。
各回につき1時間の事前・事後学習が必要である。

【第1回～第12回、第16回～第29回】

①事前学修課題：課題曲の読譜を行っておくこと。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で取りあげた曲の復習。

【第13回、第14回】

①事前学修課題：課題曲の暗譜を行っておくこと。曲の表情にも配慮して授業までに練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で取りあげた曲を復習し、演奏発表に備える。

【第15回】

①事前学修課題：ピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、弾き歌いの教材の曲を楽譜を見て歌いながら演奏できるように備える。

②事後学修課題：演奏発表の振り返りを行い、今後も容易に弾けるよう体得する。

【第30回】

①事前学修課題：ピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、弾き歌いの教材の曲を楽譜を見て歌いながら演奏できるように備える。

②事後学修課題：発表に向けて弾き込み、今後も容易に弾けるように体得する。

課題に対するフィードバックの方法

各回のレッスン・授業で指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスン・授業で確認する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すピアノ実技試験、復習課題レポート、課題演奏・課題発表を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- ・演奏発表にはそれぞれ課題とされたピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、また弾き歌い教材の曲として「最新・幼児の音楽教育」又は「保育に役立つ基礎から学ぶピアノ」から選んだ曲を楽譜を見て歌いながら演奏する。各自の能力に応じた努力を重視する。
- ・ピアノ・レッスン以外の授業時間内における講義で学んだ内容について課題取り組み状況・発表を評価する。

ピアノ・レッスンはマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう注意すること。

授業開始から15分までを遅刻とし、15分以上遅刻した場合は欠席とみなす。

3回遅刻した場合は1回の欠席となる。

正当な理由なく前後期共に5回を超える欠席をした場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	講義課題についての演奏取り組み状況(20) 前期演奏発表(基礎教材曲1曲、幼児歌曲1曲)(30)	1～10
授業外での評価	20	課題提出状況(10) 課題取り組み状況(10)	7, 10, 11
定期試験	30	定期試験(基礎教材曲1曲、幼児歌曲1曲)(30)	2, 3, 4, 5, 6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	保育に役立つ 基礎から学ぶピアノ/大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版(購入不要) 最新・幼児の音楽教育 改訂版/井口太編著/朝日出版社 / 978-4-255-15725-2 2750円
参考書	必要に応じて配布します。
履修条件・他の科目との関連	全ての音楽関係科目を習得する時にピアノは基本になる楽器であるゆえ、与えられた課題に真摯に取り組み、十分に練習・向上すること。

授業コード	22009403	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	音楽Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	作野 理恵、光本 諭史、錦見 朋子、西脇 恭子、蜂谷 葉子、平田 道子、福原 千織				
シラバス執筆(主)	作野 理恵				
開講年次	2年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

1コマの中でピアノの個人レッスンと、音楽活動の実践方法についての講義・実技演習を並行して展開していく。個人レッスンでは「ピアノ実技」をより発展させ、演奏技術の習得のみにとどまらず、さらに豊かな表現力や音楽性を養うことを目標にしている。
また、幼児歌曲や生活・行事の歌等「弾き歌い教材曲」を取り上げ、実習や就職活動ならびに実際の保育現場で役立つピアノ演奏について説明する。
講義・実践演習では、コード伴奏や楽曲の簡単なアレンジ方法について概説し、保育現場における音楽活動に活かすことのできる実践力習得法を説明する。
また、リトミックなどの身体表現に用いるピアノ演奏技術、音楽表現方法を概説する。

到達目標

1. 基礎教材曲・幼児歌曲の読譜ができる
2. 正しい運指で演奏できる
3. 手・腕が脱力した状態で演奏できる
4. 基礎教材曲を暗譜で演奏できる
5. 曲調に合った演奏表現ができる
6. 幼児歌曲の弾きうたいができる
7. 和音進行のパターンを用い、メロディーに相応しい伴奏をつけることができる
8. 楽曲の簡易なアレンジ・即興演奏ができる
9. リズム感覚を養うあそびを実践できる
10. こどもの音楽感覚を育てるためのリズム指導ができる
11. 課題曲の予習・復習ができています

授業計画

個人レッスンではピアノ基礎教材曲、幼児歌曲の指導を受ける。
講義・実践演習では各回のテーマに基づく課題を五線紙、あるいはプリントに記入し、発表する。

【第1回】

ピアノ・レッスン①テーマ：授業の進め方、概要の説明

内容・方法：1年次生時に取り組んだピアノ基礎教材曲・弾き歌い教材曲を次の

段階へ進める。

講義・実践演習 ①テーマ：授業についてのガイダンス

内容・方法：授業の進め方、概要の説明。

（ピアノ・レッスンにおけるピアノ基礎教材・弾き歌い教材は習得のモデルである）

【第2回】

ピアノ・レッスン②テーマ：レガート奏法の習得

内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 素直な心

弾き歌い：メリーさんのひつじ

講義・実践演習 ②テーマ：楽譜の表示

内容・方法等：楽譜の表示について学ぶ。

【第3回】

ピアノ・レッスン③テーマ：対旋律の弾き方

内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 素直な心

弾き歌い：メリーさんのひつじ

講義・実践演習 ③テーマ：コードネーム

内容・方法等：コードネームについて学ぶ。

【第4回】

ピアノ・レッスン④テーマ：16分音符の細かい動き

内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー アラバスク

弾き歌い：おうま

講義・実践演習 ④テーマ：幼児歌曲の伴奏①

内容・方法等：ベース音による伴奏を学ぶ。

【第5回】

ピアノ・レッスン⑤テーマ：2拍子を感じる

内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー アラバスク

弾き歌い：おうま

講義・実践演習 ⑤テーマ：幼児歌曲の伴奏②

内容・方法等：コードによる伴奏付けを学ぶ。

【第6回】

ピアノ・レッスン⑥テーマ：左手の16分音符の動き

内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー バラード

弾き歌い：水あそび
講義・実践演習 ⑥テーマ：幼児歌曲の伴奏③
内容・方法等：さまざまな伴奏形を学ぶ。

【第7回】

ピアノ・レッスン⑦テーマ：和音の連打
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー バラード

弾き歌い：水あそび
講義・実践演習 ⑦テーマ：幼児歌曲の伴奏・アレンジ
内容・方法等：幼児歌曲の伴奏形を変奏してアレンジする。

【第8回】

ピアノ・レッスン⑧テーマ：3拍子を感じる
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー バラード

弾き歌い：かたつむり
講義・実践演習 ⑧テーマ：幼児歌曲の移調①
内容・方法：簡易な幼児歌曲を移調して演奏する方法を学ぶ。

【第9回】

ピアノ・レッスン⑨テーマ：スタッカートとレガートの違い
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 貴婦人の乗馬

弾き歌い：かたつむり
講義・実践演習 ⑨テーマ：幼児歌曲の移調②
内容・方法：簡易な幼児歌曲を移調して演奏する方法を学ぶ。

【第10回】

ピアノ・レッスン⑩テーマ：16分音符の音階
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 貴婦人の乗馬

弾き歌い：やぎさんゆうびん
講義・実践演習 ⑩テーマ：対旋律①
内容・方法：対旋律とは何かについて学ぶ。

【第11回】

ピアノ・レッスン⑪テーマ：3連音符の奏法
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 貴婦人の乗馬

弾き歌い：やぎさんゆうびん
講義・実践演習 ⑪テーマ：対旋律②
内容・方法：対旋律の弾き方について学ぶ。

【第12回】

ピアノ・レッスン⑫テーマ：ソナチネの形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ ソナチネ7番 第1楽章

弾き歌い：むすんでひらいて
講義・実践演習 ⑫テーマ：対旋律③
内容・方法：対旋律と主旋律を同時に演奏する方法を学ぶ。

【第13回】

ピアノ・レッスン⑬テーマ：楽曲の暗譜
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ ソナチネ7番 第1楽章

弾き歌い：むすんでひらいて
講義・実践演習 ⑬テーマ：幼児歌曲の伴奏④
内容・方法：幼児歌曲にコードで伴奏をつけて演奏する。

【第14回】

ピアノ・レッスン⑭テーマ：楽曲を仕上げる
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ ソナチネ7番 第1楽章

弾き歌い：十人のインディアン
講義・実践演習 ⑭テーマ：幼児歌曲の伴奏⑤
内容・方法：幼児歌曲に分散和音等で伴奏をつけて演奏する。

【第15回】

ピアノ・レッスン⑮テーマ：ピアノ基礎教材曲と弾き歌い曲の演奏発表。次の課題の選定。
内容・方法：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌いの曲を演奏発表する。

講義・実践演習 ⑮テーマ：幼児歌曲のまとめ
内容・方法：幼児歌曲にさまざまな形の伴奏をつけて演奏する。

【第16回】

ピアノ・レッスン⑯テーマ：メロディのフレーズ
内容・方法：ピアノ基礎教材 クレメンティ ソナチネ7番 第3楽章

弾き歌い：ひげじいさん
講義・実践演習 ⑯テーマ：身体表現、リトミックについて
内容・方法：・後期授業のガイダンス 幼児にとっての身体表現の意味と必要性

【第17回】

ピアノ・レッスン⑰テーマ：複合二部形式
内容・方法：ピアノ基礎教材 クレメンティ ソナチネ7番 第3楽章

弾き歌い：ひげじいさん
講義・実践演習 ⑰テーマ：音と音楽
内容・方法：音に反応することと、音楽に同調することについて考察する。

【第18回】

ピアノ・レッスン⑱テーマ：ソナタ形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ ソナチネ4番 第1楽章

弾き歌い：はをみがきましよう
講義・実践演習 ⑱テーマ：リズムと動き
内容・方法：リズムの捉え方とリズムを感じた動きを体感し、それを楽器で表現する方法を学ぶ。

【第19回】

ピアノ・レッスン⑱ テーマ：指使いの工夫
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ ソナチネ4番 第1楽章
弾き歌い：はをみがきましょう

講義・実践演習 ⑱ テーマ：音楽の捉え方①
内容・方法：等速感について考察・体感し、ピアノで表現する。

【第20回】

ピアノ・レッスン⑲ テーマ：ロンド形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ ソナチネ4番 第2楽章
弾き歌い：とんぼのめがね

講義・実践演習 ⑲ テーマ：音楽の捉え方②
内容・方法：拍子感、フレーズ感について考察、体感し、ピアノで表現する。

【第21回】

ピアノ・レッスン⑳ テーマ：半音階の動き
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ ソナチネ4番 第2楽章
弾き歌い：とんぼのめがね

講義・実践演習 ㉑ テーマ：リズムあそび①
内容・方法：歩くことを中心にしたリズムあそびを学習しその活動のためのピアノ曲を習得する。

【第22回】

ピアノ・レッスン㉒ テーマ：トリルの入れ方
内容・方法：基礎教材：クレメンティ ソナチネ9番 第1楽章
弾き歌い：どんぐりころころ

講義・実践演習 ㉒ テーマ：リズムあそび②
内容・方法：模倣を中心にしたリズムあそびを学習し、その活動のためのピアノ曲を習得する。

【第23回】

ピアノ・レッスン㉓ テーマ：装飾音の入れ方
内容・方法：基礎教材：クレメンティ ソナチネ9番 第1楽章
弾き歌い：どんぐりころころ

講義・実践演習 ㉓ テーマ：リズムあそび③
内容・方法：道具・小物楽器をつかったリズムあそびを学習する。

【第24回】

ピアノ・レッスン㉔ テーマ：複合三部形式
内容・方法：基礎教材：クレメンティ ソナチネ9番 第3楽章
弾き歌い：雪

講義・実践演習 ㉔ テーマ：リズムあそび④
内容・方法：鍵盤楽器をつかったリズムあそびを学習する。

【第25回】

ピアノ・レッスン㉕ テーマ：和音の連打
内容・方法：基礎教材：クレメンティ ソナチネ9番 第3楽章
弾き歌い：犬のおまわりさん

講義・実践演習 ㉕ テーマ：リズムとことば
内容・方法：リズムとことばの関連を考察し、ことばをつかったリズムあそびを学習する。

【第26回】

ピアノ・レッスン㉖ テーマ：ソナタ形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：ベートーヴェン ソナタ作品49-2 第1楽章
弾き歌い：ジングルベル

講義・実践演習 ㉖ テーマ：うたと動き
内容・方法：うたと身体表現の関連を考察し、うたいながらの身体表現を学習する。

【第27回】

ピアノ・レッスン㉗ テーマ：ソナタについて
内容・方法：ピアノ基礎教材：ベートーヴェン ソナタ作品49-2 第1楽章
弾き歌い：小ぎつね

講義・実践演習 ㉗ テーマ：身体表現のための音楽の捉え方①
内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～伴奏付け・変奏について

【第28回】

ピアノ・レッスン㉘ テーマ：楽曲の暗譜
内容・方法：ピアノ基礎教材：モーツァルト ソナタ K.545 第1楽章
弾き歌い：雪のペンキやさん

講義・実践演習 ㉘ テーマ：身体表現のための音楽の捉え方②
内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～表情について

【第29回】

ピアノ・レッスン㉙ テーマ：楽曲を仕上げる
内容・方法：ピアノ基礎教材：モーツァルト ソナタ K.545 第1楽章
弾き歌い：雪のペンキやさん

講義・実践演習 ㉙ テーマ：身体表現のための音楽の捉え方③
内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～拍子について

【第30回】

ピアノ・レッスン㉚ テーマ：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌いの曲の仕上げ。
内容・方法：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌いの曲を仕上げ、発表練習をする。

講義・実践演習 ㉚ テーマ：演奏発表・まとめ
内容・方法：身体表現のための音楽表現方法のまとめ・発表

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要である。
各回につき1時間の事前・事後学習が必要である。

【第1回～第12回、第16回～第29回】

①事前学修課題：課題曲の読譜を行っておくこと。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で取りあげた曲の復習。

【第13回、第14回】

①事前学修課題：課題曲の暗譜を行っておくこと。曲の表情にも配慮して授業までに練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で取りあげた曲を復習し、演奏発表に備える。

【第15回】

①事前学修課題：ピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、弾き歌いの教材の曲を楽譜を見て歌いながら演奏できるように備える。

②事後学修課題：演奏発表の振り返りを行い、今後も容易に弾けるよう体得する。

【第30回】

①事前学修課題：ピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、弾き歌いの教材の曲を楽譜を見て歌いながら演奏できるように備える。

②事後学修課題：発表に向けて弾き込み、今後も容易に弾けるように体得する。

課題に対するフィードバックの方法

各回のレッスン・授業で指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスン・授業で確認する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すピアノ実技試験、復習課題レポート、課題演奏・課題発表を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- ・演奏発表にはそれぞれ課題とされたピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、また弾き歌い教材の曲として「最新・幼児の音楽教育」又は「保育に役立つ基礎から学ぶピアノ」から選んだ曲を楽譜を見て歌いながら演奏する。各自の能力に応じた努力を重視する。
- ・ピアノ・レッスン以外の授業時間内における講義で学んだ内容について課題取り組み状況・発表を評価する。

ピアノ・レッスンはマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう注意すること。

授業開始から15分までを遅刻とし、15分以上遅刻した場合は欠席とみなす。

3回遅刻した場合は1回の欠席となる。

正当な理由なく前後期共に5回を超える欠席をした場合は評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	講義課題についての演奏取り組み状況(20) 前期演奏発表(基礎教材曲1曲、幼児歌曲1曲)(30)	1～10
授業外での評価	20	課題提出状況(10) 課題取り組み状況(10)	7, 10, 11
定期試験	30	定期試験(基礎教材曲1曲、幼児歌曲1曲)(30)	2, 3, 4, 5, 6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	保育に役立つ 基礎から学ぶピアノ/大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版(購入不要) 最新・幼児の音楽教育 改訂版/井口太編著/朝日出版社 / 978-4-255-15725-2 2750円
参考書	必要に応じて配布します。
履修条件・他の科目との関連	全ての音楽関係科目を習得する時にピアノは基本になる楽器であるゆえ、与えられた課題に真摯に取り組み、十分に練習・向上すること。

授業コード	22021301	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	美術 [対面]				
シラバス執筆(全員)	渡邊 詩子				
シラバス執筆(主)	渡邊 詩子				
開講年次	2年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

保育に必要となる美術や造形表現の基礎的・基本的な知識や技術を身につけ、演習を通して創造的に表現したり鑑賞したりする態度を育てる。
造形要素や素材の特性を生かした表現方法を概説する。
また表現することを楽しむ態度を養い、子どもの心を豊かにする美術の役割を説明する。

到達目標

1. 美術や造形表現の基礎的・基本的な内容を説明できる。
2. 理解した表現方法を自分なりに応用できる。
3. 創造性豊かに表現する態度を養い、実行できる。
4. 造形要素や素材の特性を生かした表現方法を保育現場に還元できる。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：授業概要
内容・方法：プリントや作品例をもとに、授業内容の概要を理解する
- 【第2回】
テーマ：乳幼児の描画表現
内容・方法：乳幼児の描画を鑑賞し、乳幼児の表現を理解する
- 【第3回】
テーマ：パスによる表現活動Ⅰ
内容・方法：パスによる様々な技法を知り、不思議な世界を表現する
- 【第4回】
テーマ：パスによる表現活動Ⅱ
内容・方法：パスによる様々な技法を使い不思議な世界を完成し、作品を鑑賞する
- 【第5回】
テーマ：デザインによる表現活動Ⅰ
内容・方法：形や色によるデザインを構成する
- 【第6回】
テーマ：デザインによる表現活動Ⅱ
内容・方法：自分なりの表示をデザインして制作する
- 【第7回】
テーマ：紙でつくる多面体Ⅰ
内容・方法：水性ペンを使って模様のある多面体を構成する
- 【第8回】
テーマ：紙でつくる多面体Ⅱ
内容・方法：前回で制作した多面体を構成して作品を完成し、鑑賞する
- 【第9回】
テーマ：切り絵による表現活動Ⅰ
内容・方法：「図と地」の関係や構図の取り方を理解する
- 【第10回】
テーマ：切り絵による表現活動Ⅱ
内容・方法：テーマをもとにした下絵をデザインし、切り絵で表現する
- 【第11回】
テーマ：切り絵による表現活動Ⅲ
内容・方法：テーマをもとにした切り絵の表現を深める
- 【第12回】
テーマ：切り絵による表現活動Ⅳ
内容・方法：テーマをもとにした切り絵を完成し、作品を鑑賞する
- 【第13回】
テーマ：染め紙を使った表現活動Ⅰ
内容・方法：和紙を絵の具で染めて、染め紙を制作する
- 【第14回】
テーマ：染め紙を使った表現活動Ⅱ
内容・方法：廃材を利用して染め紙を用いた小物をつくる
- 【第15回】
テーマ：人物ドローイング
内容・方法：鉛筆で身体全体をドローイングする
- 【第16回】
テーマ：レタリング
内容・方法：自分の名前をデザインする
- 【第17回】

テーマ：静物写生Ⅰ
内容・方法：写生の技法の基本を理解し、静物写生の下絵を制作する

【第18回】

テーマ：静物写生Ⅱ
内容・方法：静物写生を着彩して作品を完成し、鑑賞する

【第19回】

テーマ：ポップアップカードⅠ
内容・方法：ポップアップカードのしくみを理解し、制作する

【第20回】

テーマ：ポップアップカードⅡ
内容・方法：ポップアップカードのしくみを応用し、制作する

【第21回】

テーマ：ポップアップカードⅢ
内容・方法：ポップアップカードを完成し、作品を鑑賞する

【第22回】

テーマ：コラージュⅠ
内容・方法：コラージュの表現を理解し、制作する

【第23回】

テーマ：コラージュⅡ
内容・方法：コラージュの表現を応用して作品を完成し、鑑賞する

【第24回】

テーマ：人物スケッチ
内容・方法：鉛筆で自分の顔をスケッチする

【第25回】

テーマ：紙粘土の制作Ⅰ
内容・方法：紙粘土の表現を理解し、制作する

【第26回】

テーマ：紙粘土の制作Ⅱ
内容・方法：紙粘土の表現を応用し、制作する

【第27回】

テーマ：美術作品の鑑賞
内容・方法：絵画や写真を鑑賞し、作品への理解を深める

【第28回】

テーマ：ペーパークラフトⅠ
内容・方法：紙の特性を理解し、ペーパークラフトでオリジナルな空間制作する

【第29回】

テーマ：ペーパークラフトⅡ
内容・方法：紙の技法を応用し、作品の細部を制作する

【第30回】

テーマ：ペーパークラフトⅢ
内容・方法：ペーパークラフトの作品を完成させ、鑑賞する

当該授業終了後に課題レポートの提出を求める

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要であるため、各回につき0.5時間以上の事前学習および0.5時間以上の事後学習を行う。

【事前】毎回の授業前に前授業の復習をし、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。

【事後】毎回の授業後に学んだ内容を整理し、保育現場で役立つよう課題記録をつける。

課題に対するフィードバックの方法

授業内やGoogle classroomで課題作品を鑑賞し、講評する。

授業内やGoogle classroomで美術や造形表現における評価の方法を解説する。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内での評価

- ・美術や造形表現の基礎的・基本的な内容の理解を評価する。
- ・造形要素や素材の特性を生かした表現方法を評価する。
- ・創造性豊かに表現する態度を評価する。
- ・保育現場に還元できる表現方法を評価する。

授業外での評価

- ・課題記録の完成度について評価する。
- 定期試験に代わるレポートなど
- ・課題レポートの完成度について評価する。

定期試験

なし

その他

なし

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

正当な理由なく11回以上欠席した場合は評価の対象とせず「K」評価とする。

3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。

定期試験に代わるレポートの提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	<ul style="list-style-type: none"> ・美術や造形表現の基礎的・基本的な内容の理解を評価(20) ・造形要素や素材の特性を生かした表現方法を評価(20) ・創造性豊かに表現する態度を評価(20) ・保育現場に還元できる表現方法を評価(20) 	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	課題記録の完成度を評価	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	課題レポートの完成度を評価	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、資料の配布もしくはクラスルームに提示する。
------	---

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	学科専門教育科目であり、学科必修科目である。 欠席時に配布された資料は教員に申し出て受け取ること。
---------------	--

授業コード	22021302	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	美術 [対面]				
シラバス執筆(全員)	角地 佳子				
シラバス執筆(主)	角地 佳子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

保育に必要となる美術や造形表現の基礎的・基本的な知識や技術を身につけ、演習を通して創造的に表現したり鑑賞したりする態度を育てる。
造形要素や素材の特性を生かした表現方法を概説する。
また表現することを楽しむ態度を養い、子どもの心を豊かにする美術の役割を説明する。

到達目標

1. 美術や造形表現の基礎的・基本的な内容を説明できる。
2. 理解した表現方法を自分なりに応用できる。
3. 創造性豊かに表現する態度を養い、実行できる。
4. 造形要素や素材の特性を生かした表現方法を保育現場に還元できる。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：授業概要
内容・方法：プリントや作品例をもとに、授業内容の概要を理解する
- 【第2回】
テーマ：乳幼児の描画表現
内容・方法：乳幼児の描画を鑑賞し、乳幼児の表現を理解する
- 【第3回】
テーマ：パスによる表現活動Ⅰ
内容・方法：パスによる様々な技法を知り、不思議な世界を表現する
- 【第4回】
テーマ：パスによる表現活動Ⅱ
内容・方法：パスによる様々な技法を使い不思議な世界を完成し、作品を鑑賞する
- 【第5回】
テーマ：デザインによる表現活動Ⅰ
内容・方法：形や色によるデザインを構成する
- 【第6回】
テーマ：デザインによる表現活動Ⅱ
内容・方法：自分なりの表示をデザインして制作する
- 【第7回】
テーマ：紙でつくる多面体Ⅰ
内容・方法：水性ペンを使って模様のある多面体を構成する
- 【第8回】
テーマ：紙でつくる多面体Ⅱ
内容・方法：前回で制作した多面体を構成して作品を完成し、鑑賞する
- 【第9回】
テーマ：切り絵による表現活動Ⅰ
内容・方法：「図と地」の関係や構図の取り方を理解する
- 【第10回】
テーマ：切り絵による表現活動Ⅱ
内容・方法：テーマをもとにした下絵をデザインし、切り絵で表現する
- 【第11回】
テーマ：切り絵による表現活動Ⅲ
内容・方法：テーマをもとにした切り絵の表現を深める
- 【第12回】
テーマ：切り絵による表現活動Ⅳ
内容・方法：テーマをもとにした切り絵を完成し、作品を鑑賞する
- 【第13回】
テーマ：染め紙を使った表現活動Ⅰ
内容・方法：和紙を絵の具で染めて、染め紙を制作する
- 【第14回】
テーマ：染め紙を使った表現活動Ⅱ
内容・方法：廃材を利用して染め紙を用いた小物をつくる
- 【第15回】
テーマ：人物ドローイング
内容・方法：鉛筆で身体全体をドローイングする
- 【第16回】
テーマ：レタリング
内容・方法：自分の名前をデザインする
- 【第17回】

テーマ：静物写生Ⅰ
内容・方法：写生の技法の基本を理解し、静物写生の下絵を制作する

【第18回】

テーマ：静物写生Ⅱ
内容・方法：静物写生を着彩して作品を完成し、鑑賞する

【第19回】

テーマ：ポップアップカードⅠ
内容・方法：ポップアップカードのしくみを理解し、制作する

【第20回】

テーマ：ポップアップカードⅡ
内容・方法：ポップアップカードのしくみを応用し、制作する

【第21回】

テーマ：ポップアップカードⅢ
内容・方法：ポップアップカードを完成し、作品を鑑賞する

【第22回】

テーマ：コラージュⅠ
内容・方法：コラージュの表現を理解し、制作する

【第23回】

テーマ：コラージュⅡ
内容・方法：コラージュの表現を応用して作品を完成し、鑑賞する

【第24回】

テーマ：人物スケッチ
内容・方法：鉛筆で自分の顔をスケッチする

【第25回】

テーマ：紙粘土の制作Ⅰ
内容・方法：紙粘土の表現を理解し、制作する

【第26回】

テーマ：紙粘土の制作Ⅱ
内容・方法：紙粘土の表現を応用し、制作する

【第27回】

テーマ：美術作品の鑑賞
内容・方法：絵画や写真を鑑賞し、作品への理解を深める

【第28回】

テーマ：ペーパークラフトⅠ
内容・方法：紙の特性を理解し、ペーパークラフトでオリジナルな空間制作する

【第29回】

テーマ：ペーパークラフトⅡ
内容・方法：紙の技法を応用し、作品の細部を制作する

【第30回】

テーマ：ペーパークラフトⅢ
内容・方法：ペーパークラフトの作品を完成させ、鑑賞する

当該授業終了後に課題レポートの提出を求める

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要であるため、各回につき0.5時間以上の事前学習および0.5時間以上の事後学習を行う。

【事前】毎回の授業前に前授業の復習をし、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。

【事後】毎回の授業後に学んだ内容を整理し、保育現場で役立つよう課題記録をつける。

課題に対するフィードバックの方法

授業内やGoogle classroomで課題作品を鑑賞し、講評する。

授業内やGoogle classroomで美術や造形表現における評価の方法を解説する。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内での評価

- ・美術や造形表現の基礎的・基本的な内容の理解を評価する。
- ・造形要素や素材の特性を生かした表現方法を評価する。
- ・創造性豊かに表現する態度を評価する。
- ・保育現場に還元できる表現方法を評価する。

授業外での評価

- ・課題記録の完成度について評価する。
- 定期試験に代わるレポートなど
- ・課題レポートの完成度について評価する。

定期試験

なし

その他

なし

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

正当な理由なく11回以上欠席した場合は評価の対象とせず「K」評価とする。

3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。

定期試験に代わるレポートの提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	<ul style="list-style-type: none"> ・美術や造形表現の基礎的・基本的な内容の理解を評価(20) ・造形要素や素材の特性を生かした表現方法を評価(20) ・創造性豊かに表現する態度を評価(20) ・保育現場に還元できる表現方法を評価(20) 	1, 2, 3, 4
授業外での評価	10	課題記録の完成度を評価	1, 2, 3, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	課題レポートの完成度を評価	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、資料の配布もしくはクラスルームに提示する。
------	---

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	学科専門教育科目であり、学科必修科目である。 欠席時に配布された資料は教員に申し出て受け取ること。
---------------	--

授業コード	22024401	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	幼児体育 [対面]				
シラバス執筆(全員)	玉井 久実代				
シラバス執筆(主)	玉井 久実代				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

幼児期の健康を踏まえ、運動遊びの理論と共に、保育現場で運動遊びを実践するための知識や技能について、講義形式および演習形式で説明する。
 運動遊びにおける安全への配慮や管理に重点をおいた、保育者としての基本的態度や基礎技能を説明する。
 子どもの発育・発達、興味・関心に応じた様々な運動遊びの教材を取り上げ、具体的な展開方法について説明する。

到達目標

1. 幼児保育・教育における運動遊びの実践に必要な知識や技術を説明できる。
2. 幼児の発育・発達段階に応じた運動遊びの実践ができる。
3. 幼児保育・教育において、運動遊びの適切な援助や補助ができる。
4. 幼児保育・教育において、運動遊びの適切な環境構成ができる。

授業計画

この授業は、講義室や体育施設で行います。

- 【第1回】 幼児期における運動遊びについて
- 【第2回】 運動遊びの援助について
- 【第3回】 運動遊びの指導案について
- 【第4回】 3歳児の運動遊び
- 【第5回】 3歳児の運動遊びの設定保育
- 【第6回】 4歳児の運動遊び
- 【第7回】 4歳児の運動遊びの設定保育
- 【第8回】 5歳児の運動遊び
- 【第9回】 5歳児の運動遊びの設定保育
- 【第10回】 親子の運動遊び
- 【第11回】 親子の運動遊びの設定保育
- 【第12回】 3歳児の運動遊びの振り返り
- 【第13回】 4歳児の運動遊びの振り返り
- 【第14回】 5歳児の運動遊びの振り返り
- 【第15回】 前期まとめ
- 【第16回】 幼児期における運動遊びの意義
- 【第17回】 準備体操、体づくりの運動遊び
- 【第18回】 かけっこ遊び（鬼ごっこ、リレー）
- 【第19回】 ボールを使った運動遊び（ボールを用いた遊び）
- 【第20回】 ボールを使った運動遊び
- 【第21回】 フラフープを使った運動遊び
- 【第22回】 短縄を使った運動遊び
- 【第23回】 長縄を使った運動遊び
- 【第24回】 竹馬を使った運動遊び
- 【第25回】 マットを使った運動遊び
- 【第26回】 鉄棒を使った運動遊び
- 【第27回】 跳び箱を使った運動遊び
- 【第28回】 サーキットを使った運動遊び
- 【第29回】 身近な物を使った運動遊び
- 【第30回】 まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
 - ①事前学習課題：シラバスを確認する
 - ②事後学習課題：授業内容の確認を行う。
- 【第2～14回】
 - ①事前学習課題：授業内容に関する予習や設定保育の準備を行う。
 - ②事後学習課題：授業で学習したことを、授業内容のまとめレポートに整理する。
- 【第15回】
 - ①事前学習課題：これまで学習したことを、総復習する。
 - ②事後学習課題：学習したことを、保育現場での実践に活かせるよう整理する。
- 【第16回】
 - ①事前学習課題：後半の授業計画を確認する
 - ②事後学習課題：授業内容の復習を行う。

【第17～29回】

- ①事前学習課題：授業内容に関する運動遊びを、インターネットや書籍で調べる。
- ②事後学習課題：授業で学習したことを、授業内容のまとめレポートに整理する。

【第30回】

- ①事前学習課題：これまで学習したことを、総復習する。
- ②事後学習課題：学習したことを、保育現場での実践に活かせるよう整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由なく前期と後期のいずれかで6回以上欠席した場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
 3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。
 定期試験に代わるレポート等の提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	課題レポート(10) 取り組み姿勢、スキル(65)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	15	授業内容のまとめレポート(15)	1
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート(10)	1
その他	0		

テキスト テキストは使用しない。必要に応じて資料の配付もしくはclassroomへの提示を行う。

参考書 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼児期運動指針

履修条件・他の科目との関連

1. 積極的に授業へ参加する。
2. 運動遊びに適した服装、靴を着用する。
3. 装飾品(ピアス、ネックレス、指輪、時計等)は装着しない。
4. 爪は短くしておく。
5. 長い髪の毛はゴム等で束ねる。
6. 配当施設や進捗状況に応じて、授業計画を変更することがある。

授業コード	22024403	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	幼児体育 [対面]				
シラバス執筆(全員)	織田 恵輔				
シラバス執筆(主)	織田 恵輔				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

幼児期の健康を踏まえ、運動遊びの理論と共に、保育現場で運動遊びを実践するための知識や技能について、講義形式および演習形式で説明する。
 運動遊びにおける安全への配慮や管理に重点をおいた、保育者としての基本的態度や基礎技能を説明する。
 子どもの発育・発達、興味・関心に応じた様々な運動遊びの教材を取り上げ、具体的な展開方法について説明する。

到達目標

1. 幼児保育・教育における運動遊びの実践に必要な知識や技術を説明できる。
2. 幼児の発育・発達段階に応じた運動遊びの実践ができる。
3. 幼児保育・教育において、運動遊びの適切な援助や補助ができる。
4. 幼児保育・教育において、運動遊びの適切な環境構成ができる。

授業計画

この授業は、講義室や体育施設で行います。

- 【第1回】 幼児期における運動遊びについて
- 【第2回】 運動遊びの援助について
- 【第3回】 運動遊びの指導案について
- 【第4回】 3歳児の運動遊び
- 【第5回】 3歳児の運動遊びの設定保育
- 【第6回】 4歳児の運動遊び
- 【第7回】 4歳児の運動遊びの設定保育
- 【第8回】 5歳児の運動遊び
- 【第9回】 5歳児の運動遊びの設定保育
- 【第10回】 親子の運動遊び
- 【第11回】 親子の運動遊びの設定保育
- 【第12回】 3歳児の運動遊びの振り返り
- 【第13回】 4歳児の運動遊びの振り返り
- 【第14回】 5歳児の運動遊びの振り返り
- 【第15回】 前期まとめ
- 【第16回】 幼児期における運動遊びの意義
- 【第17回】 準備体操、体づくりの運動遊び
- 【第18回】 かけっこ遊び（鬼ごっこ、リレー）
- 【第19回】 ボールを使った運動遊び（ボールを用いた遊び）
- 【第20回】 ボールを使った運動遊び
- 【第21回】 フラフープを使った運動遊び
- 【第22回】 短縄を使った運動遊び
- 【第23回】 長縄を使った運動遊び
- 【第24回】 竹馬を使った運動遊び
- 【第25回】 マットを使った運動遊び
- 【第26回】 鉄棒を使った運動遊び
- 【第27回】 跳び箱を使った運動遊び
- 【第28回】 サーキットを使った運動遊び
- 【第29回】 身近な物を使った運動遊び
- 【第30回】 まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
 - ①事前学習課題：シラバスを確認する
 - ②事後学習課題：授業内容の確認を行う。
- 【第2～14回】
 - ①事前学習課題：授業内容に関する予習や設定保育の準備を行う。
 - ②事後学習課題：授業で学習したことを、授業内容のまとめレポートに整理する。
- 【第15回】
 - ①事前学習課題：これまで学習したことを、総復習する。
 - ②事後学習課題：学習したことを、保育現場での実践に活かせるよう整理する。
- 【第16回】
 - ①事前学習課題：後半の授業計画を確認する
 - ②事後学習課題：授業内容の復習を行う。

【第17～29回】

- ①事前学習課題：授業内容に関する運動遊びを、インターネットや書籍で調べる。
- ②事後学習課題：授業で学習したことを、授業内容のまとめレポートに整理する。

【第30回】

- ①事前学習課題：これまで学習したことを、総復習する。
- ②事後学習課題：学習したことを、保育現場での実践に活かせるよう整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由なく前期と後期のいずれかで6回以上欠席した場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
 3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。
 定期試験に代わるレポート等の提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	課題レポート(10) 取り組み姿勢、スキル(65)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	15	授業内容のまとめレポート(15)	1
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート(10)	1
その他	0		

テキスト テキストは使用しない。必要に応じて資料の配付もしくはclassroomへの提示を行う。

参考書 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼児期運動指針

履修条件・他の科目との関連

1. 積極的に授業へ参加する。
2. 運動遊びに適した服装、靴を着用する。
3. 装飾品(ピアス、ネックレス、指輪、時計等)は装着しない。
4. 爪は短くしておく。
5. 長い髪の毛はゴム等で束ねる。
6. 配当施設や進捗状況に応じて、授業計画を変更することがある。

授業コード	22036701	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	子どもの食と栄養 [対面]				
シラバス執筆(全員)	田村 千里				
シラバス執筆(主)	田村 千里				
開講年次	2年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

子どもの食生活や栄養は、生涯にわたる健康と生活の基礎となり、その後の心と身体の健康に大きく影響する。今日の生活環境や社会環境の中で、子どもたちに適切な食事を好ましい環境のもとで提供することは極めて重要である。本演習では、栄養に関する基本的知識とともに、子どもの発育・発達と食生活の関連について説明する。同時に、自分自身の食生活を見直す機会としてもらう。「食事の大切さ」を子どもたちに伝える方法として、食育の媒体作り・発表を取り入れている。また、子どもの成長に適した献立を紹介し、調理形態と調理ポイントを説明する。保育者として食に関する基礎的知識と実践態度を身につけることを目的とする。

到達目標

1. 身体の健康と食事の役割について、および栄養素の種類とはたらきについて説明できる
2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について考えることができる
3. 基礎的な調理操作ができる
4. 食生活に関心をもち、食文化を大切に、食事時のマナーを身につけ、食事の楽しさを日々、子どもたちに伝えることができる

授業計画

- 【第1回】講義オリエンテーション、食生活の現状と課題
授業の概要、到達目標、成績評価についてシラバスを見ながら説明
「子どもの食と栄養」を学ぶ目的、「食べる」ということ、自分自身の現在の食生活についての見直し
- 【第2回】健康と食生活
健康とは何か、栄養について
- 【第3回】栄養に関する基本的知識（1）
五大栄養素について（糖質、脂質、たんぱく質）
- 【第4回】栄養に関する基本的知識（2）
五大栄養素について（無機質）
- 【第5回】栄養に関する基本的知識（3）
五大栄養素について（ビタミン）水分について
- 【第6回】栄養に関する基本的知識（4）
栄養のバランス、バランスのよい食事、自分自身の食生活を見直す
- 【第7回】自分自身の食生活を見直す
1日の食事を写真に撮り、食べたものを分類し栄養バランスを検討する
- 【第8回】食環境の現状、食品添加物との関わり
ビデオを見て食環境の現状、食品添加物との関わりを知る
- 【第9回】食品衛生、野菜の切り方
食中毒とその予防、野菜の切り方と実践
- 【第10回】第1回調理実習献立「基本調理1」
- 【第11回】和食、だしのとり方、第2回調理実習献立「基本調理2」
- 【第12回】妊娠期の食生活
妊娠期の栄養と食生活、胎児に影響を与える母体の要因、献立紹介「妊娠中の食生活」
- 【第13回】乳児期の授乳の意義と食生活
母乳の利点と問題点、母乳の保存、解凍および加温、人工栄養
- 【第14回】乳汁栄養、調乳、
正しい調乳方法、離乳期段階に合った離乳食
- 【第15回】前期のまとめ
自分自身の食生活発表 調理の基本、調理器具の扱い
- 【第16回】後期オリエンテーション、誤嚥事故防止

【第17回】乳児期の食生活

乳児期の栄養について、調乳方法の復習

【第18回】離乳期の意義と食生活（1）第3回調理実習献立「調乳と離乳食1」

離乳の必要性和役割、離乳の実際

【第19回】離乳期の意義と食生活（2）ビデオ「味覚のしつけは乳幼児期から」

離乳食の進め方と原則、離乳各期における調理形態の違いを意識する

【第20回】離乳期の意義と食生活（3）、第4回調理実習献立「離乳食2」

離乳食の進め方と原則、離乳各期における調理形態の違いを意識する

【第21回】乳児期の栄養上の問題と健康への対応

乳児期の栄養上の問題をとりあげ、健康への対応を考える

【第22回】幼児期の心身の発達と食生活

幼児期の心身の特徴と食生活

【第23回】幼児期の栄養上の問題と健康への対応

食物アレルギー、第5回調理実習献立「アレルギー対応食」

幼児期の心身の特徴と食生活の関係、問題と対応について

給食における食物アレルギーをもっている子どものための調理の工夫

【第24回】幼児期のお弁当、第6回調理実習献立「幼児期のお弁当」

幼児期のお弁当を作る上での注意点の確認

学童期の心身の発達と食生活、障害のある子どもへの対応

学童期の子ども、障害のある子どもの食生活に関わる時に注意すること

【第25回】食育の必要性、留意点、実践（カルタ作成）

【第26回】食育指導の実践例、媒体作成

体調不良の子どもへの対応、

【第27回】家庭や児童福祉施設における食事と栄養

行事食、おせち料理とお雑煮、行事食献立紹介「七夕行事」

行事食の意味

【第28回】保育所給食、第7回調理実習献立「保育所給食1」

第8回調理実習献立「保育所給食2」

保育所給食の献立と調理の工夫、保育所給食を食べる際に注意すること

【第29回】幼児期の間食、第9回調理実習献立「子どもと一緒に作るおやつ」「保育園のおやつ」

子どもにとっての間食の意義、おやつと一緒に作ることの意味

【第30回】1年間のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

①事前学修課題：シラバスにある「子どもの食と栄養」を読む

②事後学修課題：自分が毎日食べているものを意識する

【第2回】

①事前学修課題：健康について考える

②事後学修課題：健康に暮らすために、今、自分の生活に必要なことを考える

【第3回】

①事前学修課題：中学や高校の時に学んだ栄養素について復習する

②事後学修課題：自分が食べているものの栄養について考える

【第4回】

①事前学修課題：中学や高校の時に学んだ栄養素について復習する

②事後学修課題：自分が食べているものの栄養について考える

【第5回】

①事前学修課題：中学や高校の時に学んだ栄養素について復習する

②事後学修課題：自分が食べているものの栄養について考える

【第6回】

①事前学修課題：1日の食事3食（朝・昼・夜）の写真を撮る

②事後学修課題：自分が食べているものの栄養についてまとめ、バランスのよい食事とは何かを考える

【第7回】

①事前学修課題：自分自身の食生活を振り返る

②事後学修課題：今後、食生活をする上で気をつけなければならないことをまとめる

【第8回】

①事前学修課題：現在の食物自給率を調べる

②事後学修課題：現在の食環境の問題点についてまとめる

【第9回】

①事前学修課題：食中毒に関する情報を集める

- ②事後学修課題：食中毒の予防と対処法をまとめる
- 【第10回】
- ①事前学修課題：野菜の切り方、形について調べる
- ②事後学修課題：だしの種類、とりかたをまとめる
- 【第11回】
- ①事前学修課題：和食とは何か、調べる
- ②事後学修課題：だしを使った料理について調べる
- 【第12回】
- ①事前学修課題：妊娠時の母体の変化について考える
- ②事後学修課題：妊娠時の食生活で気をつけることを確認する
- 【第13回】
- ①事前学修課題：乳児期の栄養について考える
- ②事後学修課題：乳児期の心身の発達についてまとめる
- 【第14回】
- ①事前学修課題：乳児期の栄養について考える
- ②事後学修課題：母乳栄養の意義についてまとめる
- 【第15回】
- ①事前学修課題：前期の内容をノートで確認する
- ②事後学修課題：食生活を見直し、改善点を考える
- 【第16回】
- ①事前学修課題：シラバスにある「子どもの食と栄養」を読む
- ②事後学修課題：誤嚥事故防止のために何ができるかをまとめる
- 【第17回】
- ①事前学修課題：前期の「乳汁栄養」の部分を復習する
- ②事後学修課題：正しい調乳法を確認する
- 【第18回】
- ①事前学修課題：前期の「乳汁栄養」の部分を復習する
- ②事後学修課題：離乳の必要性和役割についてまとめる
- 【第19回】
- ①事前学修課題：前週の「離乳食の進め方」を復習する
- ②事後学修課題：市販の離乳食を観察し、発達段階による違いを確認する
ビデオの内容を表に書き加え、まとめる
- 【第20回】
- ①事前学修課題：前週の「離乳食の進め方」を復習する
- ②事後学修課題：離乳段階にあった離乳食の調理形態についてまとめる
- 【第21回】
- ①事前学修課題：乳児期の栄養上の問題点について実習で感じたことをまとめる
- ②事後学修課題：乳児期の食事における保育者としての対応を考える
- 【第22回】
- ①事前学修課題：幼児期の食生活について考える
- ②事後学修課題：幼児期の特徴と留意点についてまとめる
- 【第23回】
- ①事前学修課題：実習に行った際の、食物アレルギーを持った子どもへの対応を振り返る
実習に行った時の子どもたちの昼食時間を振り返る
- ②事後学修課題：食物アレルギーを持った子どもに対処する時の注意点をまとめる
幼児期の食生活に接する際の注意点をまとめる
- 【第24回】
- ①事前学修課題：子どものお弁当において大切なことは何か考えてみる
- ②事後学修課題：子どもと大人のお弁当の違いをまとめる
- 【第25回】
- ①事前学修課題：今まで自分が受けてきた食育について思い出してみる
- ②事後学修課題：子どもたちに食育を通して伝えたいことをまとめる
- 【第26回】
- ①事前学修課題：実習に行った時の体調不良の子どもへの対応を書き出してみる
- ②事後学修課題：症状別の対応について、まとめる
- 【第27回】
- ①事前学修課題：実習に行った時の給食の献立、保育者の接し方を振り返る
- ②事後学修課題：児童福祉施設における食事や保育所での給食で、保育士として注意することをまとめる
子どもたちが楽しく食事できるように、保育士としてどうあるべきかをまとめる
- ①事前学修課題：行事食にはどのようなものがあるか調べてみる
- ②事後学修課題：行事食、郷土料理などをまとめる
- 【第28回】
- ①事前学修課題：実習中に見た給食の献立と調理の工夫を書き出してみる
- ②事後学修課題：保育所給食の時に注意すべきことをまとめる
- 【第29回】
- ①事前学修課題：自分自身の間食について考える
- ②事後学修課題：子どもと大人の間食の違いをまとめる
- 【第30回】
- ①事前学修課題：家庭で取り組んだ調理をまとめる
- ②事後学修課題：1年間に学んだことを整理する

なお、各回授業において、事前事後学習は合わせて1時間必要とする

課題に対するフィードバックの方法

課題は点検後返却する。返却時のコメントを確認すること

評価については、希望者に開示することが可能

成績評価の方法・基準(方針)

前後期通年教科である。正当な理由なく11回以上欠席した場合、評価の対象とせず「K」評価とする
提出物は期限厳守のこと。また前期・後期それぞれに必須課題を授業で提示するので必ず提出すること。
以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	授業に取り組む姿勢(30) 発表・媒体作り(食事・食育など)(20) 前期確認試験(10) 後期確認試験(20)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	紹介した献立を家庭で調理し、食事について考察する 課題調理(10)、自由調理(10)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない 授業内容に応じ、プリントを配布する
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	保育士資格必修科目である 保育関連の他科目において子どもの心身の発達と関連づけて理解すること 授業内容に応じて資料を配布しているので、欠席した場合は次回授業に出席した際に自分から申し出て資料を受け取り自習すること

授業コード	22007001	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	レクリエーション実技 [対面]				
シラバス執筆(全員)	玉井 久実代、梶本 智子				
シラバス執筆(主)	玉井 久実代				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

前半は、多世代を対象としたレクリエーション活動の楽しさの本質を理解し、レクリエーション支援の方法について学習することを目的とする。笑顔や元気を引き出しコミュニケーションを促進する、多世代を対象としたレクリエーション活動を実践的に学習できるよう説明する。
 後半は、子どもを対象としたレクリエーション活動の楽しさの本質を理解し、レクリエーション支援の方法について学習することを目的とする。子どもの発育・発達に役立つ様々なレクリエーション活動を実践し、さらに対象者に合わせたレクリエーション支援と、レクリエーション支援におけるコミュニケーション・スキルについて学習できるよう説明する。

到達目標

1. 様々なレクリエーション活動を身に付け、それぞれのレクリエーション活動の楽しさを理解し、活用することができる。
2. レクリエーション支援において、対象者とのコミュニケーションや、対象者と対象者の間に立ってコミュニケーションを行うことができる。
3. レクリエーション支援において、対象者がより楽しみやすいように工夫してレクリエーション活動を展開することができる。

授業計画

本科目は体育施設や講義室で行います。

- 【第1回】 オリエンテーション
- 【第2回】 アイスブレイキング
- 【第3回】 導入段階のレクリエーションゲーム
- 【第4回】 交流段階のレクリエーションゲーム
- 【第5回】 発展段階のレクリエーションゲーム
- 【第6回】 チャレンジ・ザ・ゲーム（キャッチング・ザ・スティック、リング・キャッチ）
- 【第7回】 チャレンジ・ザ・ゲーム（ラダーゲッター、ロープ・ジャンプ）
- 【第8回】 チャレンジ・ザ・ゲーム（ゴム・ダンス・“ステప్పびょん”）
- 【第9回】 ニュースポーツ（モルック）
- 【第10回】 ニュースポーツ（シャフルボード）
- 【第11回】 ニュースポーツ（ペタンク）
- 【第12回】 ニュースポーツ（キンボール）
- 【第13回】 レクリエーション支援の準備
- 【第14回】 レクリエーション支援の練習
- 【第15回】 レクリエーション支援の発表、前半まとめ
- 【第16回】 子どものためのレクリエーション1 新聞紙で作って遊ぼう
- 【第17回】 子どものためのレクリエーション2 牛乳パックで作って遊ぼう
- 【第18回】 子どものためのレクリエーション3 パラバルーンで遊ぼう
- 【第19回】 子どものためのレクリエーション4 パラバルーンで踊ろう
- 【第20回】 子どものためのレクリエーション5 パラバルーンの遊びを考えよう
- 【第21回】 子どものためのレクリエーション6 道具を用いた伝承遊び
- 【第22回】 子どものためのレクリエーション7 伝承遊びを作って遊ぼう
- 【第23回】 レクリエーション支援の実践1 レクリエーション支援について
- 【第24回】 レクリエーション支援の実践2 計画
- 【第25回】 レクリエーション支援の実践3 準備
- 【第26回】 レクリエーション支援の実践4 実践
- 【第27回】 レクリエーション支援の実践5 振り返り
- 【第28回】 子どものためのレクリエーション8 季節の遊び（クリスマス）
- 【第29回】 子どものためのレクリエーション9 季節の遊び（お正月）
- 【第30回】 まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計30時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
 - ①事前学習課題：シラバスを確認する。
 - ②事後学習課題：授業概要を確認する。
- 【第2～14回】
 - ①事前学習課題：次回の授業内容について、インターネットや書籍等で調べる。
 - ②事後学習課題：授業内容を整理し、関連する内容を調べる。
- 【第15回】
 - ①事前学習課題：学習した内容を、総復習する。

- ②事後学習課題：学習したことを、今後のレクリエーション支援に活かせるように整理する。
 【第16回】
 ①事前学習課題：後半の授業計画を確認する。
 ②事後学習課題：授業概要を確認する。
 【第17～22回】
 ①事前学習課題：次回の授業内容について、インターネットや書籍等で調べる。
 ②事後学習課題：授業内容を整理し、関連する内容を調べる。
 【第23～27回】
 ①事前学習課題：レクリエーション支援の計画、準備を行う。
 ②事後学習課題：レクリエーション支援の振り返りを行う。
 【第28～29回】
 ①事前学習課題：次回の授業内容について、インターネットや書籍等で調べる。
 ②事後学習課題：授業内容を整理し、関連する内容を調べる。
 【第30回】
 ①事前学習課題：学習した内容を、総復習する。
 ②事後学習課題：学習したことを、今後のレクリエーション支援に活かせるように整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは、授業やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由なく半期あたり5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
 3回の遅刻および早退は、1回の欠席とみなす。
 定期試験に代わるレポートの提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	前半授業への取り組み姿勢(37.5) 後半授業への取り組み姿勢(30) レクリエーション支援(7.5)	1, 2, 3
授業外での評価	15	授業内容のまとめレポート(15)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート(10)	1, 3
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。 必要に応じて資料を配付もしくはclassroomで提示する。
------	---

参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
-----	------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	教室の利用状況等により、内容が変更されることがあります。 服装、準備物等については、随時授業やClassroomでお知らせします。 欠席した授業の配付資料は、次回授業で申し出て受け取ってください。 本科目は、レクリエーション・インストラクター資格取得に必要な科目です。
---------------	---

授業コード	22011701	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	教育原理（教育制度を含む） [対面]				
シラバス執筆(全員)	久保田 健一郎				
シラバス執筆(主)	久保田 健一郎				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業は、保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）になる上で必要となる教養・知識などを学ぶ授業である。まず、教育の意義・目的、教育と福祉とのつながり、教育と家庭・地域・社会とのつながり、教育の歴史・思想について講義する。そうした基本的概念の理解の上で、教育制度、学校経営、学校と地域との連携、学校安全について講義する。

到達目標

1. 教育の意義・目的について説明できる。
2. 教育と児童福祉のつながり、家庭・地域・社会との関連性について説明できる。
3. 教育の歴史・思想について説明できる。
4. 教育制度、学校経営、学校安全について説明できる。
5. 現代の教育問題について考え、自分なりの意見を展開できる。

授業計画

- 第1回 教育原理を学ぶために
- 第2回 教育の意義
- 第3回 教育の目的
- 第4回 教育と児童福祉のつながり
- 第5回 人間形成と家庭・地域・社会のつながり
- 第6回 教育制度の基礎
- 第7回 さまざまな国の教育思想家たち
- 第8回 日本の教育思想と歴史
- 第9回 近代教育成立の歴史
- 第10回 子ども観と教育観の変遷
- 第11回 教育行政および学校経営の基礎
- 第12回 教育実践の基礎理論と多様な取り組み
- 第13回 諸外国の教育事情と教育改革
- 第14回 生涯学習社会と教育・学校安全の理解と取り組み
- 第15回 現代の教育課題

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

講義科目であり、毎回の授業で1時間の予習、3時間の復習は必須である。予習はテキストの該当箇所を熟読し、各回の課題を明確にしておく。復習は、テキストと配布資料を用いて各回のポイントを定着させる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対し、授業内で復習と合わせてコメントをする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	課題(40%)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト 『いまがわかる教育原理』 西本望編 みらい 2268円 ISBN-10:4860154509

参考書 必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連

学科必修科目で、幼稚園教諭免許と保育士資格の取得を前提とした授業である。

授業コード	22046401	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	保育原理 [対面]				
シラバス執筆(全員)	福居 奈名絵				
シラバス執筆(主)	福居 奈名絵				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

保育とは何か、又保育の根底にあるものは何か。そして更に、保育者になるとはどういうことか。この講義では、こうした「原理的」な問いについて考える。

- (1) 保育の意味と保育者の役割について説明する
- (2) 現代保育の理念と歴史、及び制度について概説する。
- (3) 1と2について、みなさん自身が自分なりの「問い」を持ち、深く「考える」機会を創出する。
- (4) 講義を通して、みなさん一人一人が、自らの「子ども観」・「保育観」の土台を築くことを狙いとする。

到達目標

- (1) 保育の意義とその目的について理解し、説明ができる。
- (2) 現代保育の理念とその歴史、及び制度について知り、その意味を理解して説明ができる。
- (3) 子どもと保育に関する自らの「考え」を伝えることができる。
- (4) 自らの「子ども観」と「保育者としての役割」について説明ができる。

授業計画

- 【第1回】 イントロダクション・保育の仕事と保育を行う場
- 【第2回】 「保育」とは何か
- 【第3回】 保育の基盤としての子ども観
- 【第4回】 子ども理解から出発する保育
- 【第5回】 子どもが育つ環境の理解
- 【第6回】 保育制度の基本
- 【第7回】 保育の内容と方法
- 【第8回】 保育における健康・安全の原理①・・・・・・・・・・【*中間ペーパーの提出】
- 【第9回】 保育における健康・安全の原理②
- 【第10回】 保育者に求められるもの
- 【第11回】 保育の思想と歴史の変遷① 日本の保育の思想と歴史
- 【第12回】 保育の思想と歴史の変遷② 諸外国の保育の思想と歴史
- 【第13回】 保育の現状と課題①幼児のアタッチメントの発達
- 【第14回】 保育の現状と課題②保育の独自性と重要性
- 【第15回】 まとめとフィードバック

※ 講義の内容は、学生の理解度に応じて変更する場合がある。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前学習：各回の講義のテーマについて、事前にテキストの指定箇所を読み、予習しておくこと。
 事後学習：講義で学んだことについて振り返り、理解を深め、内省しながら次の講義につなげること。

課題に対するフィードバックの方法

授業中に回答のできない質問に関しては、次の授業時に回答する。

中間ペーパーの総合的なフィードバックは、授業内で行なう。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判断の上、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

- ・ 中間ペーパーと最終試験の合計得点により評価する。

【中間ペーパー】 (50点) 授業内で実施する。第1回から第7回までの講義内容の理解度を評価する。

【最終試験】 (50点) 第8回から第15回までの講義内容に焦点を当て、子どもと保育についての理解の深まりを評価する。

* 尚、正当な理由なく、中間ペーパー及び最終試験を提出しなかった場合は、講義への出席回数に関わらず、「K」評価とする。

* 講義への出席は、単位認定に際して、学生必携に記載の基準を参考にする。

* 原則6回以上欠席した場合は、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	中間ペーパー	1, 3
授業外での評価	0		
定期試験	50	最終試験	2, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	<p>この講義では以下のテキストを使用するので、各自で購入しておくこと。</p> <p>渡邊英則・高嶋景子・大豆生田啓友・三谷大紀(編著)『新しい保育講座1 保育原理』ミネルヴァ書房、2020年。</p> <p>ISBN: 9784623080274 定価2,420円(本体2,200円+税)</p>
参考書	<p>名須川知子・大方美香(監修)・都江茂博(編著)『MINERVA はじめて学ぶ保育1 保育原理』ミネルヴァ書房、2019年。</p>
履修条件・他の科目との関連	<p>保育という仕事を何故選ぶのか。保育者が担っている役割とは何か等の問いについて、これまでの自らの経験(特に子どもたちとの関わり)と照らし合わせながら、主体的に考えてもらいたい。特に、講義では積極的に発言し、参加することを求める。一方向的な教授としての講義で終始することなく、できるだけみなさんとの対話も積極的に取り入れた講義を作っていきたいと考えているので、皆さんも積極的な姿勢をもって、毎回の講義に参加して下さい。</p>

授業コード	22020301	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	発達心理学Ⅰ [対面]				
シラバス執筆(全員)	大塚 穂波				
シラバス執筆(主)	大塚 穂波				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

保育者に求められる発達心理学領域の知識を体系的に理解することを目的として、乳幼児期を中心に子どもの心身の発達過程について概説する。

到達目標

1. 乳幼児期の子どもの認知的・社会的・身体的発達に関する基本的事項を説明することができる
2. 発達の視点から子どもを理解することの重要性について、自身の意見を論理的に文章化することができる

授業計画

- 第1回 イン트로ダクション：生涯発達という考え方
- 第2回 子ども理解と発達の視点
- 第3回 子ども観の変遷と発達観・保育観
- 第4回 発達の原理
- 第5回 運動・身体機能の発達
- 第6回 自己・情動の発達
- 第7回 社会性の発達：アタッチメントと基本的信頼感
- 第8回 知覚の発達
- 第9回 認知の発達(1) ピアジェの発生的認識論
- 第10回 認知の発達(2) 自己中心性と心の理論
- 第11回 言葉の発達
- 第12回 発達の相互関連性
- 第13回 学びにかかわる理論(1) 条件づけ、観察学習
- 第14回 学びにかかわる理論(2) 動機づけと自己効力感
- 第15回 まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

予習としてシラバスを読んで毎回の授業テーマを確認し、自分の関心を整理しておくこと。授業後は配布資料・ノートをもとに授業内容を復習し、疑問点等を整理すること。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーは次回の授業内で紹介する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格として所定の単位を認定する。正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	小テスト(50%)、演習課題(20%)	1
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	定期試験に代わるレポート	1, 2
その他	0		

テキスト テキストは使用せず資料を配布する。

参考書 「保育の心理学演習ブック」第2版 松本峰雄監修 ミネルヴァ書房 2021年
その他、必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 欠席した回の資料はGoogle Classroomよりダウンロードし、自習すること。
「発達心理学Ⅱ」につながる。

授業コード	22050301	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	特別支援教育概論（障害児保育を含む） [対面]				
シラバス執筆(全員)	宋 知潤				
シラバス執筆(主)	宋 知潤				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

[授業の目的・ねらい]

- ・インクルーシブ保育・教育を含めた特別支援教育に関する制度の理念や仕組みについて説明する。
- ・障害児や特別な配慮を要する幼児、児童および生徒の学習上又は生活上の困難について基礎的な知識を概説し、保育実践、計画作成、家庭支援、関係機関との連携ができる保育者としての資質・能力を育てていく。

[授業全体の内容の概要]

- ・障害児保育を支える理念や歴史的変遷を学び、障害児や特別な配慮を要する幼児、児童および生徒の理解を深めた上で、現状と課題に照らした発達援助や支援法、子ども同士の関わり、職員間・家族・関係機関との望ましい連携について説明する。

到達目標

[授業修了時の達成課題（到達目標）]

1. 障害児保育を支える理念や歴史的変遷について学び、障害児及びその保育について説明できる。
2. 個々の特性や心身の発達等に依じた援助や配慮について応用できる。
3. 障害児やその他の特別な配慮を要する幼児、児童および生徒の保育における計画の作成について実行できる。
4. 障害児その他の特別な配慮を要する幼児、児童および生徒の家庭への支援や関係機関との連携・協議について説明できる。
5. 障害児その他の特別な配慮を要する幼児、児童および生徒の保育に関する現状と課題について説明できる。

授業計画

[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]

- 1 「障害」の概念と障害児保育の概要
- 2 発達と障害（合理的配慮・地域社会へのインクルージョンも含む）
- 3 知的障害児の理解と援助（ダウン症）
- 4 身体障害の理解と支援①（視覚障害・聴覚障害等）
- 5 身体障害の理解と支援②（肢体不自由・医療的ケア・重症心身障害児）
- 6 発達障害児の理解と援助①（LD, ADHD）
- 7 発達障害児の理解と援助②（ASD①）
- 8 発達障害児の理解と援助③（ASD② 広汎性発達障害(PDD)）
- 9 障害はないが特別な支援を要する子ども（外国籍の子ども、貧困問題など）
- 10 言語・コミュニケーションの支援方法
 - 1 1 環境の設定と視覚支援
 - 1 2 視覚支援の教材研究
 - 1 3 指導計画及び個別の支援計画の作成
 - 1 4 保護者や家族・きょうだい児に対する理解と支援
 - 1 5 職員間および専門機関との連携・協働

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

事前：各回のテーマに沿って、調べ学習や配布資料を熟読しておくこと（1時間）

事後：授業内容についてレポートにまとめる。

授業で学んだテーマのキーワードや内容について調べたり、各自積極的に学びを深めること（3時間）

課題に対するフィードバックの方法

授業内に行った課題については提出後に確認し、質問や優れた内容に関する指摘、助言等を授業開始時に全体で共有する。

成績評価の方法・基準(方針)

1. 各回のワークシート、演習課題の到達度、グループワークの積極的参加度、定期試験に代わるレポート等を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位と認定する。
2. 公欠を含め、正当な理由のある欠席の場合は、その回の授業に関連したレポート課題によって評価する。
3. 正当な理由のない欠席6回以上の場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。
4. 定期試験に代わるレポートが未提出の場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
---------	------	---------	-------------

	(%)		
授業内での評価	70	各回のワークシートの取組み(30%)、演習課題の到達度とグループワークの積極的参加度(20%)、プレゼンテーション(20%)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	定期試験に代わるレポート等(30%)を総合的に判定のうえ、所定の単位と認定する。	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、配布資料を活用する。配布資料はGoogle Classroomに提示する。
------	---

参考書	「ライフステージを見通した障害児保育と特別支援教育」小林 徹・栗山 宣夫 編 みらい社 2020 2,640円 ISBN 9784860155049 幼稚園教育要領、保育所保育指針、保育要領幼保連携型認定こども園教育・保育要領
-----	---

履修条件・他の科目との関連	欠席した回の資料はGoogle Classroomより自習すること。
---------------	------------------------------------

授業コード	22048101	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	保育者論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	久保田 健一郎				
シラバス執筆(主)	久保田 健一郎				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

本授業は、保育者（幼稚園教諭・保育士・保育教諭）になる上で必要な倫理、意義、専門性、職務内容について学ぶ授業である。
 まず保育者の意義、職業的特徴、免許・資格について講義する。そうした基本的な理念や免許の制度の理解の上で、保育者の職務内容、サービス、権利、研修、各専門家との連携、加えて保育者の役割、資質能力、専門性について講義する。

到達目標

1. 保育者の意義や職業的特徴について説明することができる。
2. 保育者の職務内容、サービス、権利、研修について説明することができる。
3. 保育者の資質能力、役割、専門性について説明することができる。
4. さまざまな教育専門家とその連携について説明することができる。
5. 保育者への意欲を明確にし、自分の保育理念を説明することができる。

授業計画

- 第1回 保育者の意義・倫理・職業的特徴について
- 第2回 幼稚園教諭免許・保育士資格について
- 第3回 保育教諭について
- 第4回 現代の保育問題
- 第5回 法律からみる保育者
- 第6回 育みたい資質能力と保育者の役割
- 第7回 保育者の職務内容・サービス・権利
- 第8回 リーダーシップとマネジメント（チーム学校も含む）関係機関との連携・協働
- 第9回 「幼児期の終わりまで育ってほしい姿」と保育者の役割
- 第10回 現代の子育て問題
- 第11回 関係機関との連携
- 第12回 生涯教育における保育者
- 第13回 保育の質と保育者の役割
- 第14回 現代の保育制度とその理解
- 第15回 保育者論を学び終えて

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

講義科目であり、毎回の授業で1時間の予習、3時間の復習は必須である。予習はシラバスを読み各回の課題を明確にしておく。復習は配布資料を用いて行う。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対し、授業内で復習と合わせてコメントをする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	課題(40%)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	60	レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト 資料を配布する(テキストは使用しない)

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	幼稚園教諭免許と保育士資格の取得を前提とした授業である。 欠席した回の資料は追って配布する。

授業コード	22039321	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a [対面]				
シラバス執筆(全員)	玉井 久実代				
シラバス執筆(主)	玉井 久実代				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 建学の精神を理解し、説明することができる。
2. ICT機器の活用、学生・社会人としてのマナー、メモやノートの取り方、レポートの書き方を理解し、実行することができる。
3. レクリエーション、人形劇の鑑賞やワークショップへの参加、季節に応じた行事の開催を通して身に付けた専門的な保育技術を応用することができる。
4. 実習に関する説明会・勉強会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

- 第1回 実習指導及び事務手続きの理解
履修指導・誓約書の作成、候補園の確認、書類の配付、個人票の作成など
- 第2回 学外実習の事務手続きの完成
個人票完成、学校依頼申込書作成
- 第3回 「実習に向けて①」
幼稚園・保育所・認定こども園での実習の理解、クラス運営について（役割分担など）
- 第4回 レクリエーション
- 第5回 建学の精神 OIU/OICドリル
- 第6回 学生・社会人としてのマナー講習
- 第7回 ICT機器の活用について
- 第8回 メモやノートの取り方、レポートの書き方、基礎学力テスト
- 第9回 「実習に向けて②」実習に向けた名札づくり
- 第10回 人形劇の鑑賞とワークショップ
- 第11回 「実習に向けて③」実習に役立つ遊びの紹介
- 第12回 幼稚園教育実習に向けての説明会
- 第13回 季節に応じた行事 夏休みに向けて
- 第14回 幼稚園実習に向けての講演会
- 第15回 前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
- ・第1回、第2回、第12回、第14回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
 - ・第13回の季節に応じた行事は、事前に準備しておく。
 - ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4
その他			
テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984		
参考書	適宜、授業内で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。		

授業コード	22039322	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a [対面]				
シラバス執筆(全員)	織田 恵輔				
シラバス執筆(主)	織田 恵輔				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 建学の精神を理解し、説明することができる。
2. ICT機器の活用、学生・社会人としてのマナー、メモやノートの取り方、レポートの書き方を理解し、実行することができる。
3. レクリエーション、人形劇の鑑賞やワークショップへの参加、季節に応じた行事の開催を通して身に付けた専門的な保育技術を応用することができる。
4. 実習に関する説明会・勉強会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

- 第1回 実習指導及び事務手続きの理解
履修指導・誓約書の作成、候補園の確認、書類の配付、個人票の作成など
- 第2回 学外実習の事務手続きの完成
個人票完成、学校依頼申込書作成
- 第3回 「実習に向けて①」
幼稚園・保育所・認定こども園での実習の理解、クラス運営について（役割分担など）
- 第4回 レクリエーション
- 第5回 建学の精神 OIU/OICドリル
- 第6回 学生・社会人としてのマナー講習
- 第7回 ICT機器の活用について
- 第8回 メモやノートの取り方、レポートの書き方、基礎学力テスト
- 第9回 「実習に向けて②」実習に向けた名札づくり
- 第10回 人形劇の鑑賞とワークショップ
- 第11回 「実習に向けて③」実習に役立つ遊びの紹介
- 第12回 幼稚園教育実習に向けての説明会
- 第13回 季節に応じた行事 夏休みに向けて
- 第14回 幼稚園実習に向けての講演会
- 第15回 前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
- ・第1回、第2回、第12回、第14回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
 - ・第13回の季節に応じた行事は、事前に準備しておく。
 - ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4
その他	0		
テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984		
参考書	適宜、授業内で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。		

授業コード	22039323	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a [対面]				
シラバス執筆(全員)	吉田 貴子				
シラバス執筆(主)	吉田 貴子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 建学の精神を理解し、説明することができる。
2. ICT機器の活用、学生・社会人としてのマナー、メモやノートの取り方、レポートの書き方を理解し、実行することができる。
3. レクリエーション、人形劇の鑑賞やワークショップへの参加、季節に応じた行事の開催を通して身に付けた専門的な保育技術を応用することができる。
4. 実習に関する説明会・勉強会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

- 第1回 実習指導及び事務手続きの理解
履修指導・誓約書の作成、候補園の確認、書類の配付、個人票の作成など
- 第2回 学外実習の事務手続きの完成
個人票完成、学校依頼申込書作成
- 第3回 「実習に向けて①」
幼稚園・保育所・認定こども園での実習の理解、クラス運営について（役割分担など）
- 第4回 レクリエーション
- 第5回 建学の精神 OIU/OICドリル
- 第6回 学生・社会人としてのマナー講習
- 第7回 ICT機器の活用について
- 第8回 メモやノートの取り方、レポートの書き方、基礎学力テスト
- 第9回 「実習に向けて②」実習に向けた名札づくり
- 第10回 人形劇の鑑賞とワークショップ
- 第11回 「実習に向けて③」実習に役立つ遊びの紹介
- 第12回 幼稚園教育実習に向けての説明会
- 第13回 季節に応じた行事 夏休みに向けて
- 第14回 幼稚園実習に向けての講演会
- 第15回 前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
- ・第1回、第2回、第12回、第14回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
 - ・第13回の季節に応じた行事は、事前に準備しておく。
 - ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4
その他	0		
テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984		
参考書	適宜、授業内で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。		

授業コード	22039324	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a [対面]				
シラバス執筆(全員)	北村 麻樹				
シラバス執筆(主)	北村 麻樹				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 建学の精神を理解し、説明することができる。
2. ICT機器の活用、学生・社会人としてのマナー、メモやノートの取り方、レポートの書き方を理解し、実行することができる。
3. レクリエーション、人形劇の鑑賞やワークショップへの参加、季節に応じた行事の開催を通して身に付けた専門的な保育技術を応用することができる。
4. 実習に関する説明会・勉強会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

- 第1回 実習指導及び事務手続きの理解
履修指導・誓約書の作成、候補園の確認、書類の配付、個人票の作成など
- 第2回 学外実習の事務手続きの完成
個人票完成、学校依頼申込書作成
- 第3回 「実習に向けて①」
幼稚園・保育所・認定こども園での実習の理解、クラス運営について（役割分担など）
- 第4回 レクリエーション
- 第5回 建学の精神 OIU/OICドリル
- 第6回 学生・社会人としてのマナー講習
- 第7回 ICT機器の活用について
- 第8回 メモやノートの取り方、レポートの書き方、基礎学力テスト
- 第9回 「実習に向けて②」実習に向けた名札づくり
- 第10回 人形劇の鑑賞とワークショップ
- 第11回 「実習に向けて③」実習に役立つ遊びの紹介
- 第12回 幼稚園教育実習に向けての説明会
- 第13回 季節に応じた行事 夏休みに向けて
- 第14回 幼稚園実習に向けての講演会
- 第15回 前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
- ・第1回、第2回、第12回、第14回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
 - ・第13回の季節に応じた行事は、事前に準備しておく。
 - ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4
その他	0		
テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984		
参考書	適宜、授業内で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。		

授業コード	22039325	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a [対面]				
シラバス執筆(全員)	松木 宏史				
シラバス執筆(主)	松木 宏史				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 建学の精神を理解し、説明することができる。
2. ICT機器の活用、学生・社会人としてのマナー、メモやノートの取り方、レポートの書き方を理解し、実行することができる。
3. レクリエーション、人形劇の鑑賞やワークショップへの参加、季節に応じた行事の開催を通して身に付けた専門的な保育技術を応用することができる。
4. 実習に関する説明会・勉強会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

- 第1回 実習指導及び事務手続きの理解
履修指導・誓約書の作成、候補園の確認、書類の配付、個人票の作成など
- 第2回 学外実習の事務手続きの完成
個人票完成、学校依頼申込書作成
- 第3回 「実習に向けて①」
幼稚園・保育所・認定こども園での実習の理解、クラス運営について（役割分担など）
- 第4回 レクリエーション
- 第5回 建学の精神 OIU/OICドリル
- 第6回 学生・社会人としてのマナー講習
- 第7回 ICT機器の活用について
- 第8回 メモやノートの取り方、レポートの書き方、基礎学力テスト
- 第9回 「実習に向けて②」実習に向けた名札づくり
- 第10回 人形劇の鑑賞とワークショップ
- 第11回 「実習に向けて③」実習に役立つ遊びの紹介
- 第12回 幼稚園教育実習に向けての説明会
- 第13回 季節に応じた行事 夏休みに向けて
- 第14回 幼稚園実習に向けての講演会
- 第15回 前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
- ・第1回、第2回、第12回、第14回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
 - ・第13回の季節に応じた行事は、事前に準備しておく。
 - ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4
その他	0		
テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984		
参考書	適宜、授業内で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。		

授業コード	22039326	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a [対面]				
シラバス執筆(全員)	渡邊 詩子				
シラバス執筆(主)	渡邊 詩子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 建学の精神を理解し、説明することができる。
2. ICT機器の活用、学生・社会人としてのマナー、メモやノートの取り方、レポートの書き方を理解し、実行することができる。
3. レクリエーション、人形劇の鑑賞やワークショップへの参加、季節に応じた行事の開催を通して身に付けた専門的な保育技術を応用することができる。
4. 実習に関する説明会・勉強会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

- 第1回 実習指導及び事務手続きの理解
履修指導・誓約書の作成、候補園の確認、書類の配付、個人票の作成など
- 第2回 学外実習の事務手続きの完成
個人票完成、学校依頼申込書作成
- 第3回 「実習に向けて①」
幼稚園・保育所・認定こども園での実習の理解、クラス運営について（役割分担など）
- 第4回 レクリエーション
- 第5回 建学の精神 OIU/OICドリル
- 第6回 学生・社会人としてのマナー講習
- 第7回 ICT機器の活用について
- 第8回 メモやノートの取り方、レポートの書き方、基礎学力テスト
- 第9回 「実習に向けて②」実習に向けた名札づくり
- 第10回 人形劇の鑑賞とワークショップ
- 第11回 「実習に向けて③」実習に役立つ遊びの紹介
- 第12回 幼稚園教育実習に向けての説明会
- 第13回 季節に応じた行事 夏休みに向けて
- 第14回 幼稚園実習に向けての講演会
- 第15回 前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
- ・第1回、第2回、第12回、第14回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
 - ・第13回の季節に応じた行事は、事前に準備しておく。
 - ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4
その他	0		
テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984		
参考書	適宜、授業内で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。		

授業コード	22039327	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a [対面]				
シラバス執筆(全員)	古海 忍				
シラバス執筆(主)	古海 忍				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 建学の精神を理解し、説明することができる。
2. ICT機器の活用、学生・社会人としてのマナー、メモやノートの取り方、レポートの書き方を理解し、実行することができる。
3. レクリエーション、人形劇の鑑賞やワークショップへの参加、季節に応じた行事の開催を通して身に付けた専門的な保育技術を応用することができる。
4. 実習に関する説明会・勉強会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

- 第1回 実習指導及び事務手続きの理解
履修指導・誓約書の作成、候補園の確認、書類の配付、個人票の作成など
- 第2回 学外実習の事務手続きの完成
個人票完成、学校依頼申込書作成
- 第3回 「実習に向けて①」
幼稚園・保育所・認定こども園での実習の理解、クラス運営について（役割分担など）
- 第4回 レクリエーション
- 第5回 建学の精神 OIU/OICドリル
- 第6回 学生・社会人としてのマナー講習
- 第7回 ICT機器の活用について
- 第8回 メモやノートの取り方、レポートの書き方、基礎学力テスト
- 第9回 「実習に向けて②」実習に向けた名札づくり
- 第10回 人形劇の鑑賞とワークショップ
- 第11回 「実習に向けて③」実習に役立つ遊びの紹介
- 第12回 幼稚園教育実習に向けての説明会
- 第13回 季節に応じた行事 夏休みに向けて
- 第14回 幼稚園実習に向けての講演会
- 第15回 前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
- ・第1回、第2回、第12回、第14回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
 - ・第13回の季節に応じた行事は、事前に準備しておく。
 - ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4
その他	0		
テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984		
参考書	適宜、授業内で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。		

授業コード	22039328	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a [対面]				
シラバス執筆(全員)	角地 佳子				
シラバス執筆(主)	角地 佳子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 建学の精神を理解し、説明することができる。
2. ICT機器の活用、学生・社会人としてのマナー、メモやノートの取り方、レポートの書き方を理解し、実行することができる。
3. レクリエーション、人形劇の鑑賞やワークショップへの参加、季節に応じた行事の開催を通して身に付けた専門的な保育技術を応用することができる。
4. 実習に関する説明会・勉強会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

- 第1回 実習指導及び事務手続きの理解
履修指導・誓約書の作成、候補園の確認、書類の配付、個人票の作成など
- 第2回 学外実習の事務手続きの完成
個人票完成、学校依頼申込書作成
- 第3回 「実習に向けて①」
幼稚園・保育所・認定こども園での実習の理解、クラス運営について（役割分担など）
- 第4回 レクリエーション
- 第5回 建学の精神 OIU/OICドリル
- 第6回 学生・社会人としてのマナー講習
- 第7回 ICT機器の活用について
- 第8回 メモやノートの取り方、レポートの書き方、基礎学力テスト
- 第9回 「実習に向けて②」実習に向けた名札づくり
- 第10回 人形劇の鑑賞とワークショップ
- 第11回 「実習に向けて③」実習に役立つ遊びの紹介
- 第12回 幼稚園教育実習に向けての説明会
- 第13回 季節に応じた行事 夏休みに向けて
- 第14回 幼稚園実習に向けての講演会
- 第15回 前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
- ・ 第1回、第2回、第12回、第14回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
 - ・ 第13回の季節に応じた行事は、事前に準備しておく。
 - ・ 事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4
その他	0		
テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984		
参考書	適宜、授業内で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。		

授業コード	22039329	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I a [対面]				
シラバス執筆(全員)	大塚 穂波				
シラバス執筆(主)	大塚 穂波				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 建学の精神を理解し、説明することができる。
2. ICT機器の活用、学生・社会人としてのマナー、メモやノートの取り方、レポートの書き方を理解し、実行することができる。
3. レクリエーション、人形劇の鑑賞やワークショップへの参加、季節に応じた行事の開催を通して身に付けた専門的な保育技術を応用することができる。
4. 実習に関する説明会・勉強会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

- 第1回 実習指導及び事務手続きの理解
履修指導・誓約書の作成、候補園の確認、書類の配付、個人票の作成など
- 第2回 学外実習の事務手続きの完成
個人票完成、学校依頼申込書作成
- 第3回 「実習に向けて①」
幼稚園・保育所・認定こども園での実習の理解、クラス運営について（役割分担など）
- 第4回 レクリエーション
- 第5回 建学の精神 OIU/OICドリル
- 第6回 学生・社会人としてのマナー講習
- 第7回 ICT機器の活用について
- 第8回 メモやノートの取り方、レポートの書き方、基礎学力テスト
- 第9回 「実習に向けて②」実習に向けた名札づくり
- 第10回 人形劇の鑑賞とワークショップ
- 第11回 「実習に向けて③」実習に役立つ遊びの紹介
- 第12回 幼稚園教育実習に向けての説明会
- 第13回 季節に応じた行事 夏休みに向けて
- 第14回 幼稚園実習に向けての講演会
- 第15回 前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
- ・第1回、第2回、第12回、第14回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
 - ・第13回の季節に応じた行事は、事前に準備しておく。
 - ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4
その他	0		
テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984		
参考書	適宜、授業内で紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。		

授業コード	22039421	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b [対面]				
シラバス執筆(全員)	玉井 久実代				
シラバス執筆(主)	玉井 久実代				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 保育に関する研究、季節に応じた行事、2年次卒業研究発表鑑賞を通して、専門的な保育技術を身に付け、実践することができる。
2. 実習に関する説明会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

- 第1回 実習の報告会（幼稚園）
- 第2回 保育実習 I（保育所）に向けての説明会
- 第3回 保育実習や後期授業に向けた課題の明確化と取り組み方
- 第4回 学修ポートフォリオについて
- 第5回 大学祭に向けての準備、保育に関する研究
- 第6回 人権映画鑑賞
- 第7回 季節に応じた行事・準備
- 第8回 実習の報告会（保育所）
- 第9回 保育実習 I（施設）に向けての説明会
- 第10回 季節に応じた行事・セミナー内での発表
- 第11回 就職ガイダンス 公務員試験の説明、活動スケジュールの説明、2年生の講話など
- 第12回 2年次卒業研究発表鑑賞① 鑑賞
- 第13回 2年次卒業研究発表鑑賞② 鑑賞とレポート作成
- 第14回 保育に関する講演会（施設）
- 第15回 後期及び1年間の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・第1回、第8回の実習の報告会は、事前に報告したい内容をまとめておく。
- ・第2回、第3回、第9回、第14回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
- ・第7回、第11回の季節に応じた行事は、事前に準備しておく。
- ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2
その他			

テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
参考書	適宜、授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039422	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b [対面]				
シラバス執筆(全員)	織田 恵輔				
シラバス執筆(主)	織田 恵輔				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 保育に関する研究、季節に応じた行事、2年次卒業研究発表鑑賞を通して、専門的な保育技術を身に付け、実践することができる。
2. 実習に関する説明会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

- 第1回 実習の報告会（幼稚園）
- 第2回 保育実習Ⅰ（保育所）に向けての説明会
- 第3回 保育実習や後期授業に向けた課題の明確化と取り組み方
- 第4回 学修ポートフォリオについて
- 第5回 大学祭に向けての準備、保育に関する研究
- 第6回 人権映画鑑賞
- 第7回 季節に応じた行事・準備
- 第8回 実習の報告会（保育所）
- 第9回 保育実習Ⅰ（施設）に向けての説明会
- 第10回 季節に応じた行事・セミナー内での発表
- 第11回 就職ガイダンス 公務員試験の説明、活動スケジュールの説明、2年生の講話など
- 第12回 2年次卒業研究発表鑑賞① 鑑賞
- 第13回 2年次卒業研究発表鑑賞② 鑑賞とレポート作成
- 第14回 保育に関する講演会（施設）
- 第15回 後期及び1年間の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・ 第1回、第8回の実習の報告会は、事前に報告したい内容をまとめておく。
- ・ 第2回、第3回、第9回、第14回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
- ・ 第7回、第11回の季節に応じた行事は、事前に準備しておく。
- ・ 事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2
その他	0		

テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
参考書	適宜、授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039423	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b [対面]				
シラバス執筆(全員)	吉田 貴子				
シラバス執筆(主)	吉田 貴子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 保育に関する研究、季節に応じた行事、2年次卒業研究発表鑑賞を通して、専門的な保育技術を身に付け、実践することができる。
2. 実習に関する説明会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

- 第1回 実習の報告会（幼稚園）
- 第2回 保育実習 I（保育所）に向けての説明会
- 第3回 保育実習や後期授業に向けた課題の明確化と取り組み方
- 第4回 学修ポートフォリオについて
- 第5回 大学祭に向けての準備、保育に関する研究
- 第6回 人権映画鑑賞
- 第7回 季節に応じた行事・準備
- 第8回 実習の報告会（保育所）
- 第9回 保育実習 I（施設）に向けての説明会
- 第10回 季節に応じた行事・セミナー内での発表
- 第11回 就職ガイダンス 公務員試験の説明、活動スケジュールの説明、2年生の講話など
- 第12回 2年次卒業研究発表鑑賞① 鑑賞
- 第13回 2年次卒業研究発表鑑賞② 鑑賞とレポート作成
- 第14回 保育に関する講演会（施設）
- 第15回 後期及び1年間の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・ 第1回、第8回の実習の報告会は、事前に報告したい内容をまとめておく。
- ・ 第2回、第3回、第9回、第14回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
- ・ 第7回、第11回の季節に応じた行事は、事前に準備しておく。
- ・ 事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2
その他	0		

テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
参考書	適宜、授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039424	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b [対面]				
シラバス執筆(全員)	北村 麻樹				
シラバス執筆(主)	北村 麻樹				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 保育に関する研究、季節に応じた行事、2年次卒業研究発表鑑賞を通して、専門的な保育技術を身に付け、実践することができる。
2. 実習に関する説明会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

- 第1回 実習の報告会（幼稚園）
- 第2回 保育実習 I（保育所）に向けての説明会
- 第3回 保育実習や後期授業に向けた課題の明確化と取り組み方
- 第4回 学修ポートフォリオについて
- 第5回 大学祭に向けての準備、保育に関する研究
- 第6回 人権映画鑑賞
- 第7回 季節に応じた行事・準備
- 第8回 実習の報告会（保育所）
- 第9回 保育実習 I（施設）に向けての説明会
- 第10回 季節に応じた行事・セミナー内での発表
- 第11回 就職ガイダンス 公務員試験の説明、活動スケジュールの説明、2年生の講話など
- 第12回 2年次卒業研究発表鑑賞① 鑑賞
- 第13回 2年次卒業研究発表鑑賞② 鑑賞とレポート作成
- 第14回 保育に関する講演会（施設）
- 第15回 後期及び1年間の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・ 第1回、第8回の実習の報告会は、事前に報告したい内容をまとめておく。
- ・ 第2回、第3回、第9回、第14回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
- ・ 第7回、第11回の季節に応じた行事は、事前に準備しておく。
- ・ 事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2
その他	0		

テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
参考書	適宜、授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039425	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b [対面]				
シラバス執筆(全員)	松木 宏史				
シラバス執筆(主)	松木 宏史				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 保育に関する研究、季節に応じた行事、2年次卒業研究発表鑑賞を通して、専門的な保育技術を身に付け、実践することができる。
2. 実習に関する説明会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

- 第1回 実習の報告会（幼稚園）
- 第2回 保育実習Ⅰ（保育所）に向けての説明会
- 第3回 保育実習や後期授業に向けた課題の明確化と取り組み方
- 第4回 学修ポートフォリオについて
- 第5回 大学祭に向けての準備、保育に関する研究
- 第6回 人権映画鑑賞
- 第7回 季節に応じた行事・準備
- 第8回 実習の報告会（保育所）
- 第9回 保育実習Ⅰ（施設）に向けての説明会
- 第10回 季節に応じた行事・セミナー内での発表
- 第11回 就職ガイダンス 公務員試験の説明、活動スケジュールの説明、2年生の講話など
- 第12回 2年次卒業研究発表鑑賞① 鑑賞
- 第13回 2年次卒業研究発表鑑賞② 鑑賞とレポート作成
- 第14回 保育に関する講演会（施設）
- 第15回 後期及び1年間の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・ 第1回、第8回の実習の報告会は、事前に報告したい内容をまとめておく。
- ・ 第2回、第3回、第9回、第14回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
- ・ 第7回、第11回の季節に応じた行事は、事前に準備しておく。
- ・ 事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2
その他	0		

テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
参考書	適宜、授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039426	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b [対面]				
シラバス執筆(全員)	渡邊 詩子				
シラバス執筆(主)	渡邊 詩子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 保育に関する研究、季節に応じた行事、2年次卒業研究発表鑑賞を通して、専門的な保育技術を身に付け、実践することができる。
2. 実習に関する説明会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

- 第1回 実習の報告会（幼稚園）
- 第2回 保育実習 I（保育所）に向けての説明会
- 第3回 保育実習や後期授業に向けた課題の明確化と取り組み方
- 第4回 学修ポートフォリオについて
- 第5回 大学祭に向けての準備、保育に関する研究
- 第6回 人権映画鑑賞
- 第7回 季節に応じた行事・準備
- 第8回 実習の報告会（保育所）
- 第9回 保育実習 I（施設）に向けての説明会
- 第10回 季節に応じた行事・セミナー内での発表
- 第11回 就職ガイダンス 公務員試験の説明、活動スケジュールの説明、2年生の講話など
- 第12回 2年次卒業研究発表鑑賞① 鑑賞
- 第13回 2年次卒業研究発表鑑賞② 鑑賞とレポート作成
- 第14回 保育に関する講演会（施設）
- 第15回 後期及び1年間の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・ 第1回、第8回の実習の報告会は、事前に報告したい内容をまとめておく。
- ・ 第2回、第3回、第9回、第14回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
- ・ 第7回、第11回の季節に応じた行事は、事前に準備しておく。
- ・ 事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2
その他	0		

テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
参考書	適宜、授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039427	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b [対面]				
シラバス執筆(全員)	古海 忍				
シラバス執筆(主)	古海 忍				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 保育に関する研究、季節に応じた行事、2年次卒業研究発表鑑賞を通して、専門的な保育技術を身に付け、実践することができる。
2. 実習に関する説明会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

- 第1回 実習の報告会（幼稚園）
- 第2回 保育実習 I（保育所）に向けての説明会
- 第3回 保育実習や後期授業に向けた課題の明確化と取り組み方
- 第4回 学修ポートフォリオについて
- 第5回 大学祭に向けての準備、保育に関する研究
- 第6回 人権映画鑑賞
- 第7回 季節に応じた行事・準備
- 第8回 実習の報告会（保育所）
- 第9回 保育実習 I（施設）に向けての説明会
- 第10回 季節に応じた行事・セミナー内での発表
- 第11回 就職ガイダンス 公務員試験の説明、活動スケジュールの説明、2年生の講話など
- 第12回 2年次卒業研究発表鑑賞① 鑑賞
- 第13回 2年次卒業研究発表鑑賞② 鑑賞とレポート作成
- 第14回 保育に関する講演会（施設）
- 第15回 後期及び1年間の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
- ・ 第1回、第8回の実習の報告会は、事前に報告したい内容をまとめておく。
 - ・ 第2回、第3回、第9回、第14回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
 - ・ 第7回、第11回の季節に応じた行事は、事前に準備しておく。
 - ・ 事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2
その他	0		

テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
参考書	適宜、授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039428	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b [対面]				
シラバス執筆(全員)	角地 佳子				
シラバス執筆(主)	角地 佳子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 保育に関する研究、季節に応じた行事、2年次卒業研究発表鑑賞を通して、専門的な保育技術を身に付け、実践することができる。
2. 実習に関する説明会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

- 第1回 実習の報告会（幼稚園）
- 第2回 保育実習Ⅰ（保育所）に向けての説明会
- 第3回 保育実習や後期授業に向けた課題の明確化と取り組み方
- 第4回 学修ポートフォリオについて
- 第5回 大学祭に向けての準備、保育に関する研究
- 第6回 人権映画鑑賞
- 第7回 季節に応じた行事・準備
- 第8回 実習の報告会（保育所）
- 第9回 保育実習Ⅰ（施設）に向けての説明会
- 第10回 季節に応じた行事・セミナー内での発表
- 第11回 就職ガイダンス 公務員試験の説明、活動スケジュールの説明、2年生の講話など
- 第12回 2年次卒業研究発表鑑賞① 鑑賞
- 第13回 2年次卒業研究発表鑑賞② 鑑賞とレポート作成
- 第14回 保育に関する講演会（施設）
- 第15回 後期及び1年間の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・ 第1回、第8回の実習の報告会は、事前に報告したい内容をまとめておく。
- ・ 第2回、第3回、第9回、第14回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
- ・ 第7回、第11回の季節に応じた行事は、事前に準備しておく。
- ・ 事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2
その他	0		

テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
参考書	適宜、授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039429	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナー I b [対面]				
シラバス執筆(全員)	大塚 穂波				
シラバス執筆(主)	大塚 穂波				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として有意義かつ積極的に学生生活を送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 保育に関する研究、季節に応じた行事、2年次卒業研究発表鑑賞を通して、専門的な保育技術を身に付け、実践することができる。
2. 実習に関する説明会・反省会などを通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、それを実行することができる。

授業計画

- 第1回 実習の報告会（幼稚園）
- 第2回 保育実習Ⅰ（保育所）に向けての説明会
- 第3回 保育実習や後期授業に向けた課題の明確化と取り組み方
- 第4回 学修ポートフォリオについて
- 第5回 大学祭に向けての準備、保育に関する研究
- 第6回 人権映画鑑賞
- 第7回 季節に応じた行事・準備
- 第8回 実習の報告会（保育所）
- 第9回 保育実習Ⅰ（施設）に向けての説明会
- 第10回 季節に応じた行事・セミナー内での発表
- 第11回 就職ガイダンス 公務員試験の説明、活動スケジュールの説明、2年生の講話など
- 第12回 2年次卒業研究発表鑑賞① 鑑賞
- 第13回 2年次卒業研究発表鑑賞② 鑑賞とレポート作成
- 第14回 保育に関する講演会（施設）
- 第15回 後期及び1年間の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・第1回、第8回の実習の報告会は、事前に報告したい内容をまとめておく。
- ・第2回、第3回、第9回、第14回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
- ・第7回、第11回の季節に応じた行事は、事前に準備しておく。
- ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては、授業内での講評などを通して、担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2
その他	0		

テキスト	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
参考書	適宜、授業内で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅰ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039521	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	玉井 久実代				
シラバス執筆(主)	玉井 久実代				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会、保育に関する講演会、就職に関する行事、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
2. 上記の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
3. 実習に関する説明会、あるいは就職関係行事を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

- 【第1回】履修指導(学習ポートフォリオ含む)および学外実習の指導、クラス運営について(役割分担など)
- 【第2回】卒業研究発表の説明会
- 【第3回】実習の報告会、前年度(4月まで)の学習成果の振り返り
- 【第4回】併設園への保育への参加または保育教材の製作
- 【第5回】就職についての講座
- 【第6回】履歴書対策講座
- 【第7回】卒業研究発表について検討
- 【第8回】「卒業生の話聞こう！」
- 【第9回】卒業研究発表に向けて発表内容の決定・5月までの学習成果の振り返り
- 【第10回】卒業研究中間発表に向けての準備① 内容の確認
- 【第11回】幼稚園教育実習に向けての説明会(第二段階)
- 【第12回】卒業研究中間発表に向けての準備②中間発表練習
- 【第13回】卒業研究中間発表
- 【第14回】保育に関する講演会
- 【第15回】前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習(各回1時間)は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・第1回、第11回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
- ・第2回、第7回、第9回、第10回、第12回、第13回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
- ・第5回、第6回、第8回の就職関係行事は、事前に就職候補園を挙げ、事後に園見学やボランティアに行く。
- ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、卒業研究発表への参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039522	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	織田 恵輔				
シラバス執筆(主)	織田 恵輔				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会、保育に関する講演会、就職に関する行事、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
2. 上記の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
3. 実習に関する説明会、あるいは就職関係行事を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

- 【第1回】履修指導(学習ポートフォリオ含む)および学外実習の指導、クラス運営について(役割分担など)
- 【第2回】卒業研究発表の説明会
- 【第3回】実習の報告会、前年度(4月まで)の学習成果の振り返り
- 【第4回】併設園への保育への参加または保育教材の製作
- 【第5回】就職についての講座
- 【第6回】履歴書対策講座
- 【第7回】卒業研究発表について検討
- 【第8回】「卒業生の話を聞こう！」
- 【第9回】卒業研究発表に向けて発表内容の決定・5月までの学習成果の振り返り
- 【第10回】卒業研究中間発表に向けての準備① 内容の確認
- 【第11回】幼稚園教育実習に向けての説明会(第二段階)
- 【第12回】卒業研究中間発表に向けての準備②中間発表練習
- 【第13回】卒業研究中間発表
- 【第14回】保育に関する講演会
- 【第15回】前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習(各回1時間)は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・第1回、第11回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
- ・第2回、第7回、第9回、第10回、第12回、第13回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
- ・第5回、第6回、第8回の就職関係行事は、事前に就職候補園を挙げ、事後に園見学やボランティアに行く。
- ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、卒業研究発表への参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039523	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	吉田 貴子				
シラバス執筆(主)	吉田 貴子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会、保育に関する講演会、就職に関する行事、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
2. 上記の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
3. 実習に関する説明会、あるいは就職関係行事を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

- 【第1回】履修指導(学習ポートフォリオ含む)および学外実習の指導、クラス運営について(役割分担など)
- 【第2回】卒業研究発表の説明会
- 【第3回】実習の報告会、前年度(4月まで)の学習成果の振り返り
- 【第4回】併設園への保育への参加または保育教材の製作
- 【第5回】就職についての講座
- 【第6回】履歴書対策講座
- 【第7回】卒業研究発表について検討
- 【第8回】「卒業生のお話を聞こう！」
- 【第9回】卒業研究発表に向けて発表内容の決定・5月までの学習成果の振り返り
- 【第10回】卒業研究中間発表に向けての準備① 内容の確認
- 【第11回】幼稚園教育実習に向けての説明会(第二段階)
- 【第12回】卒業研究中間発表に向けての準備②中間発表練習
- 【第13回】卒業研究中間発表
- 【第14回】保育に関する講演会
- 【第15回】前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習(各回1時間)は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・第1回、第11回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
- ・第2回、第7回、第9回、第10回、第12回、第13回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
- ・第5回、第6回、第8回の就職関係行事は、事前に就職候補園を挙げ、事後に園見学やボランティアに行く。
- ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、卒業研究発表への参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039524	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	北村 麻樹				
シラバス執筆(主)	北村 麻樹				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会、保育に関する講演会、就職に関する行事、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
2. 上記の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
3. 実習に関する説明会、あるいは就職関係行事を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

- 【第1回】履修指導(学習ポートフォリオ含む)および学外実習の指導、クラス運営について(役割分担など)
- 【第2回】卒業研究発表の説明会
- 【第3回】実習の報告会、前年度(4月まで)の学習成果の振り返り
- 【第4回】併設園への保育への参加または保育教材の製作
- 【第5回】就職についての講座
- 【第6回】履歴書対策講座
- 【第7回】卒業研究発表について検討
- 【第8回】「卒業生の話を聞こう！」
- 【第9回】卒業研究発表に向けて発表内容の決定・5月までの学習成果の振り返り
- 【第10回】卒業研究中間発表に向けての準備① 内容の確認
- 【第11回】幼稚園教育実習に向けての説明会(第二段階)
- 【第12回】卒業研究中間発表に向けての準備②中間発表練習
- 【第13回】卒業研究中間発表
- 【第14回】保育に関する講演会
- 【第15回】前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習(各回1時間)は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・第1回、第11回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
- ・第2回、第7回、第9回、第10回、第12回、第13回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
- ・第5回、第6回、第8回の就職関係行事は、事前に就職候補園を挙げ、事後に園見学やボランティアに行く。
- ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、卒業研究発表への参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039525	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡa [対面]				
シラバス執筆(全員)	久保田 健一郎				
シラバス執筆(主)	久保田 健一郎				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会、保育に関する講演会、就職に関する行事、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
2. 上記の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
3. 実習に関する説明会、あるいは就職関係行事を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

- 【第1回】履修指導(学習ポートフォリオ含む)および学外実習の指導、クラス運営について(役割分担など)
- 【第2回】卒業研究発表の説明会
- 【第3回】実習の報告会、前年度(4月まで)の学習成果の振り返り
- 【第4回】併設園への保育への参加または保育教材の製作
- 【第5回】就職についての講座
- 【第6回】履歴書対策講座
- 【第7回】卒業研究発表について検討
- 【第8回】「卒業生の話聞いて！」
- 【第9回】卒業研究発表に向けて発表内容の決定・5月までの学習成果の振り返り
- 【第10回】卒業研究中間発表に向けての準備① 内容の確認
- 【第11回】幼稚園教育実習に向けての説明会(第二段階)
- 【第12回】卒業研究中間発表に向けての準備②中間発表練習
- 【第13回】卒業研究中間発表
- 【第14回】保育に関する講演会
- 【第15回】前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習(各回1時間)は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・第1回、第11回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
- ・第2回、第7回、第9回、第10回、第12回、第13回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
- ・第5回、第6回、第8回の就職関係行事は、事前に就職候補園を挙げ、事後に園見学やボランティアに行く。
- ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、卒業研究発表への参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039526	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	渡邊 詩子				
シラバス執筆(主)	渡邊 詩子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会、保育に関する講演会、就職に関する行事、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
2. 上記の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
3. 実習に関する説明会、あるいは就職関係行事を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

- 【第1回】履修指導(学習ポートフォリオ含む)および学外実習の指導、クラス運営について(役割分担など)
- 【第2回】卒業研究発表の説明会
- 【第3回】実習の報告会、前年度(4月まで)の学習成果の振り返り
- 【第4回】併設園への保育への参加または保育教材の製作
- 【第5回】就職についての講座
- 【第6回】履歴書対策講座
- 【第7回】卒業研究発表について検討
- 【第8回】「卒業生の話を聞こう！」
- 【第9回】卒業研究発表に向けて発表内容の決定・5月までの学習成果の振り返り
- 【第10回】卒業研究中間発表に向けての準備① 内容の確認
- 【第11回】幼稚園教育実習に向けての説明会(第二段階)
- 【第12回】卒業研究中間発表に向けての準備②中間発表練習
- 【第13回】卒業研究中間発表
- 【第14回】保育に関する講演会
- 【第15回】前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習(各回1時間)は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・第1回、第11回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
- ・第2回、第7回、第9回、第10回、第12回、第13回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
- ・第5回、第6回、第8回の就職関係行事は、事前に就職候補園を挙げ、事後に園見学やボランティアに行く。
- ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、卒業研究発表への参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039527	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	古海 忍				
シラバス執筆(主)	古海 忍				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会、保育に関する講演会、就職に関する行事、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
2. 上記の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
3. 実習に関する説明会、あるいは就職関係行事を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

- 【第1回】履修指導(学習ポートフォリオ含む)および学外実習の指導、クラス運営について(役割分担など)
- 【第2回】卒業研究発表の説明会
- 【第3回】実習の報告会、前年度(4月まで)の学習成果の振り返り
- 【第4回】併設園への保育への参加または保育教材の製作
- 【第5回】就職についての講座
- 【第6回】履歴書対策講座
- 【第7回】卒業研究発表について検討
- 【第8回】「卒業生の話を聞こう！」
- 【第9回】卒業研究発表に向けて発表内容の決定・5月までの学習成果の振り返り
- 【第10回】卒業研究中間発表に向けての準備① 内容の確認
- 【第11回】幼稚園教育実習に向けての説明会(第二段階)
- 【第12回】卒業研究中間発表に向けての準備②中間発表練習
- 【第13回】卒業研究中間発表
- 【第14回】保育に関する講演会
- 【第15回】前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習(各回1時間)は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・第1回、第11回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
- ・第2回、第7回、第9回、第10回、第12回、第13回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
- ・第5回、第6回、第8回の就職関係行事は、事前に就職候補園を挙げ、事後に園見学やボランティアに行く。
- ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、卒業研究発表への参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039528	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	角地 佳子				
シラバス執筆(主)	角地 佳子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会、保育に関する講演会、就職に関する行事、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
2. 上記の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
3. 実習に関する説明会、あるいは就職関係行事を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

- 【第1回】履修指導(学習ポートフォリオ含む)および学外実習の指導、クラス運営について(役割分担など)
- 【第2回】卒業研究発表の説明会
- 【第3回】実習の報告会、前年度(4月まで)の学習成果の振り返り
- 【第4回】併設園への保育への参加または保育教材の製作
- 【第5回】就職についての講座
- 【第6回】履歴書対策講座
- 【第7回】卒業研究発表について検討
- 【第8回】「卒業生の話を聞こう！」
- 【第9回】卒業研究発表に向けて発表内容の決定・5月までの学習成果の振り返り
- 【第10回】卒業研究中間発表に向けての準備① 内容の確認
- 【第11回】幼稚園教育実習に向けての説明会(第二段階)
- 【第12回】卒業研究中間発表に向けての準備②中間発表練習
- 【第13回】卒業研究中間発表
- 【第14回】保育に関する講演会
- 【第15回】前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習(各回1時間)は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・第1回、第11回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
- ・第2回、第7回、第9回、第10回、第12回、第13回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
- ・第5回、第6回、第8回の就職関係行事は、事前に就職候補園を挙げ、事後に園見学やボランティアに行く。
- ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、卒業研究発表への参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039529	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	大塚 穂波				
シラバス執筆(主)	大塚 穂波				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会、保育に関する講演会、就職に関する行事、季節に応じた行事など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
2. 上記の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
3. 実習に関する説明会、あるいは就職関係行事を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

- 【第1回】履修指導(学習ポートフォリオ含む)および学外実習の指導、クラス運営について(役割分担など)
- 【第2回】卒業研究発表の説明会
- 【第3回】実習の報告会、前年度(4月まで)の学習成果の振り返り
- 【第4回】併設園への保育への参加または保育教材の製作
- 【第5回】就職についての講座
- 【第6回】履歴書対策講座
- 【第7回】卒業研究発表について検討
- 【第8回】「卒業生の話を聞こう！」
- 【第9回】卒業研究発表に向けて発表内容の決定・5月までの学習成果の振り返り
- 【第10回】卒業研究中間発表に向けての準備① 内容の確認
- 【第11回】幼稚園教育実習に向けての説明会(第二段階)
- 【第12回】卒業研究中間発表に向けての準備②中間発表練習
- 【第13回】卒業研究中間発表
- 【第14回】保育に関する講演会
- 【第15回】前期の学習成果の振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習(各回1時間)は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・第1回、第11回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
- ・第2回、第7回、第9回、第10回、第12回、第13回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
- ・第5回、第6回、第8回の就職関係行事は、事前に就職候補園を挙げ、事後に園見学やボランティアに行く。
- ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、卒業研究発表への参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	1, 2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039621	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb [対面]				
シラバス執筆(全員)	玉井 久実代				
シラバス執筆(主)	玉井 久実代				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
2. 卒業研究発表会を通して保護者や地域社会から信頼されるような行為について理解し、それを実行することができる。
3. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
4. 実習に関する報告会や説明会を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

- 【第1回】前期の学習成果の振り返り
- 【第2回】保育実習Ⅱへ向けての説明会
- 【第3回】卒業研究発表の説明会
- 【第4回】実習の報告会（幼稚園）
- 【第5回】卒業研究発表の準備① 脚本の執筆・9月までの学習成果の振り返り
- 【第6回】大学祭に向けて
- 【第7回】卒業研究発表の準備② 小道具、大道具の製作
- 【第8回】卒業研究発表の準備③ 音源、衣装の製作
- 【第9回】人権映画鑑賞・10月までの学習成果の振り返り
- 【第10回】実習の報告会（保育所）
- 【第11回】卒業研究発表の準備④ 演技・発声の確認
- 【第12回】卒業研究発表会リハーサル
- 【第13回】卒業研究発表会① 前半
- 【第14回】卒業研究発表会② 後半
- 【第15回】卒業研究発表の振り返り・レポート作成

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・第2回、第10回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
- ・第3回、第5回、第7回、第8回、第11回、第12回、第13回、第14回、第15回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
- ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039622	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb [対面]				
シラバス執筆(全員)	織田 恵輔				
シラバス執筆(主)	織田 恵輔				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
2. 卒業研究発表会を通して保護者や地域社会から信頼されるような行為について理解し、それを実行することができる。
3. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
4. 実習に関する報告会や説明会を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

- 【第1回】前期の学習成果の振り返り
- 【第2回】保育実習Ⅱへ向けての説明会
- 【第3回】卒業研究発表の説明会
- 【第4回】実習の報告会（幼稚園）
- 【第5回】卒業研究発表の準備① 脚本の執筆・9月までの学習成果の振り返り
- 【第6回】大学祭に向けて
- 【第7回】卒業研究発表の準備② 小道具、大道具の製作
- 【第8回】卒業研究発表の準備③ 音源、衣装の製作
- 【第9回】人権映画鑑賞・10月までの学習成果の振り返り
- 【第10回】実習の報告会（保育所）
- 【第11回】卒業研究発表の準備④ 演技・発声の確認
- 【第12回】卒業研究発表会リハーサル
- 【第13回】卒業研究発表会① 前半
- 【第14回】卒業研究発表会② 後半
- 【第15回】卒業研究発表の振り返り・レポート作成

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・第2回、第10回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
- ・第3回、第5回、第7回、第8回、第11回、第12回、第13回、第14回、第15回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
- ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039623	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb [対面]				
シラバス執筆(全員)	吉田 貴子				
シラバス執筆(主)	吉田 貴子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
2. 卒業研究発表会を通して保護者や地域社会から信頼されるような行為について理解し、それを実行することができる。
3. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
4. 実習に関する報告会や説明会を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

- 【第1回】前期の学習成果の振り返り
- 【第2回】保育実習Ⅱへ向けての説明会
- 【第3回】卒業研究発表の説明会
- 【第4回】実習の報告会(幼稚園)
- 【第5回】卒業研究発表の準備① 脚本の執筆・9月までの学習成果の振り返り
- 【第6回】大学祭に向けて
- 【第7回】卒業研究発表の準備② 小道具、大道具の製作
- 【第8回】卒業研究発表の準備③ 音源、衣装の製作
- 【第9回】人権映画鑑賞・10月までの学習成果の振り返り
- 【第10回】実習の報告会(保育所)
- 【第11回】卒業研究発表の準備④ 演技・発声の確認
- 【第12回】卒業研究発表会リハーサル
- 【第13回】卒業研究発表会① 前半
- 【第14回】卒業研究発表会② 後半
- 【第15回】卒業研究発表の振り返り・レポート作成

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習(各回1時間)は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること
 ・第2回、第10回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
 ・第3回、第5回、第7回、第8回、第11回、第12回、第13回、第14回、第15回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
 ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039624	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb [対面]				
シラバス執筆(全員)	北村 麻樹				
シラバス執筆(主)	北村 麻樹				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
2. 卒業研究発表会を通して保護者や地域社会から信頼されるような行為について理解し、それを実行することができる。
3. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
4. 実習に関する報告会や説明会を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

- 【第1回】前期の学習成果の振り返り
- 【第2回】保育実習Ⅱへ向けての説明会
- 【第3回】卒業研究発表の説明会
- 【第4回】実習の報告会（幼稚園）
- 【第5回】卒業研究発表の準備① 脚本の執筆・9月までの学習成果の振り返り
- 【第6回】大学祭に向けて
- 【第7回】卒業研究発表の準備② 小道具、大道具の製作
- 【第8回】卒業研究発表の準備③ 音源、衣装の製作
- 【第9回】人権映画鑑賞・10月までの学習成果の振り返り
- 【第10回】実習の報告会（保育所）
- 【第11回】卒業研究発表の準備④ 演技・発声の確認
- 【第12回】卒業研究発表会リハーサル
- 【第13回】卒業研究発表会① 前半
- 【第14回】卒業研究発表会② 後半
- 【第15回】卒業研究発表の振り返り・レポート作成

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・第2回、第10回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
- ・第3回、第5回、第7回、第8回、第11回、第12回、第13回、第14回、第15回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
- ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039625	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb [対面]				
シラバス執筆(全員)	久保田 健一郎				
シラバス執筆(主)	久保田 健一郎				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
2. 卒業研究発表会を通して保護者や地域社会から信頼されるような行為について理解し、それを実行することができる。
3. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
4. 実習に関する報告会や説明会を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

- 【第1回】前期の学習成果の振り返り
- 【第2回】保育実習Ⅱへ向けての説明会
- 【第3回】卒業研究発表の説明会
- 【第4回】実習の報告会(幼稚園)
- 【第5回】卒業研究発表の準備① 脚本の執筆・9月までの学習成果の振り返り
- 【第6回】大学祭に向けて
- 【第7回】卒業研究発表の準備② 小道具、大道具の製作
- 【第8回】卒業研究発表の準備③ 音源、衣装の製作
- 【第9回】人権映画鑑賞・10月までの学習成果の振り返り
- 【第10回】実習の報告会(保育所)
- 【第11回】卒業研究発表の準備④ 演技・発声の確認
- 【第12回】卒業研究発表会リハーサル
- 【第13回】卒業研究発表会① 前半
- 【第14回】卒業研究発表会② 後半
- 【第15回】卒業研究発表の振り返り・レポート作成

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習(各回1時間)は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・第2回、第10回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
- ・第3回、第5回、第7回、第8回、第11回、第12回、第13回、第14回、第15回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
- ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合(%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039626	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb [対面]				
シラバス執筆(全員)	渡邊 詩子				
シラバス執筆(主)	渡邊 詩子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
2. 卒業研究発表会を通して保護者や地域社会から信頼されるような行為について理解し、それを実行することができる。
3. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
4. 実習に関する報告会や説明会を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

- 【第1回】前期の学習成果の振り返り
- 【第2回】保育実習Ⅱへ向けての説明会
- 【第3回】卒業研究発表の説明会
- 【第4回】実習の報告会（幼稚園）
- 【第5回】卒業研究発表の準備① 脚本の執筆・9月までの学習成果の振り返り
- 【第6回】大学祭に向けて
- 【第7回】卒業研究発表の準備② 小道具、大道具の製作
- 【第8回】卒業研究発表の準備③ 音源、衣装の製作
- 【第9回】人権映画鑑賞・10月までの学習成果の振り返り
- 【第10回】実習の報告会（保育所）
- 【第11回】卒業研究発表の準備④ 演技・発声の確認
- 【第12回】卒業研究発表会リハーサル
- 【第13回】卒業研究発表会① 前半
- 【第14回】卒業研究発表会② 後半
- 【第15回】卒業研究発表の振り返り・レポート作成

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・第2回、第10回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
- ・第3回、第5回、第7回、第8回、第11回、第12回、第13回、第14回、第15回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
- ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039627	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb [対面]				
シラバス執筆(全員)	古海 忍				
シラバス執筆(主)	古海 忍				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
2. 卒業研究発表会を通して保護者や地域社会から信頼されるような行為について理解し、それを実行することができる。
3. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
4. 実習に関する報告会や説明会を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

- 【第1回】前期の学習成果の振り返り
- 【第2回】保育実習Ⅱへ向けての説明会
- 【第3回】卒業研究発表の説明会
- 【第4回】実習の報告会（幼稚園）
- 【第5回】卒業研究発表の準備① 脚本の執筆・9月までの学習成果の振り返り
- 【第6回】大学祭に向けて
- 【第7回】卒業研究発表の準備② 小道具、大道具の製作
- 【第8回】卒業研究発表の準備③ 音源、衣装の製作
- 【第9回】人権映画鑑賞・10月までの学習成果の振り返り
- 【第10回】実習の報告会（保育所）
- 【第11回】卒業研究発表の準備④ 演技・発声の確認
- 【第12回】卒業研究発表会リハーサル
- 【第13回】卒業研究発表会① 前半
- 【第14回】卒業研究発表会② 後半
- 【第15回】卒業研究発表の振り返り・レポート作成

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・第2回、第10回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
- ・第3回、第5回、第7回、第8回、第11回、第12回、第13回、第14回、第15回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
- ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039628	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb [対面]				
シラバス執筆(全員)	角地 佳子				
シラバス執筆(主)	角地 佳子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
2. 卒業研究発表会を通して保護者や地域社会から信頼されるような行為について理解し、それを実行することができる。
3. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
4. 実習に関する報告会や説明会を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

- 【第1回】前期の学習成果の振り返り
- 【第2回】保育実習Ⅱへ向けての説明会
- 【第3回】卒業研究発表の説明会
- 【第4回】実習の報告会（幼稚園）
- 【第5回】卒業研究発表の準備① 脚本の執筆・9月までの学習成果の振り返り
- 【第6回】大学祭に向けて
- 【第7回】卒業研究発表の準備② 小道具、大道具の製作
- 【第8回】卒業研究発表の準備③ 音源、衣装の製作
- 【第9回】人権映画鑑賞・10月までの学習成果の振り返り
- 【第10回】実習の報告会（保育所）
- 【第11回】卒業研究発表の準備④ 演技・発声の確認
- 【第12回】卒業研究発表会リハーサル
- 【第13回】卒業研究発表会① 前半
- 【第14回】卒業研究発表会② 後半
- 【第15回】卒業研究発表の振り返り・レポート作成

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・第2回、第10回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
- ・第3回、第5回、第7回、第8回、第11回、第12回、第13回、第14回、第15回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
- ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22039629	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	セミナーⅡb [対面]				
シラバス執筆(全員)	大塚 穂波				
シラバス執筆(主)	大塚 穂波				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業では、幼児保育学科の学生として学生生活を有意義かつ積極的に送ると同時に、保育者になる自覚を高め、保育者としての資質能力や専門性の向上に取り組むため、履修・資格取得方法の指導、実習指導、卒業研究発表会など、グループワークを含む様々な取り組みを行う。

到達目標

1. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、各授業で習得した専門的な保育技術を応用することができる。
2. 卒業研究発表会を通して保護者や地域社会から信頼されるような行為について理解し、それを実行することができる。
3. 卒業研究発表会の準備や参加を通して、ゼミ学生など積極的に連携することができる。
4. 実習に関する報告会や説明会を通して、保育者としての社会的使命と責任について理解し、実行することができる。

授業計画

- 【第1回】前期の学習成果の振り返り
- 【第2回】保育実習Ⅱへ向けての説明会
- 【第3回】卒業研究発表の説明会
- 【第4回】実習の報告会（幼稚園）
- 【第5回】卒業研究発表の準備① 脚本の執筆・9月までの学習成果の振り返り
- 【第6回】大学祭に向けて
- 【第7回】卒業研究発表の準備② 小道具、大道具の製作
- 【第8回】卒業研究発表の準備③ 音源、衣装の製作
- 【第9回】人権映画鑑賞・10月までの学習成果の振り返り
- 【第10回】実習の報告会（保育所）
- 【第11回】卒業研究発表の準備④ 演技・発声の確認
- 【第12回】卒業研究発表会リハーサル
- 【第13回】卒業研究発表会① 前半
- 【第14回】卒業研究発表会② 後半
- 【第15回】卒業研究発表の振り返り・レポート作成

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習（各回1時間）は必要であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・第2回、第10回の実習に関する回は、事前に「実習の手引き」「学生必携」を熟読しておく。
- ・第3回、第5回、第7回、第8回、第11回、第12回、第13回、第14回、第15回の卒業研究発表会に関する回は、授業時間以外も準備した上で取り組む。
- ・事後学習は各回の内容に応じて適宜行う。

課題に対するフィードバックの方法

提出物などに関しては担任教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	90	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度(45) 課題への取り組みと提出(45)	
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3, 4, 5
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず、必要に応じてプリント等を配布する。
参考書	『〈平成30年施行〉保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント』 汐見稔幸、無藤隆監修 ミネルヴァ書房 1650円 ISBN:978-4623080984
履修条件・他の科目との関連	実習関係科目(幼稚園教育実習、保育実習Ⅱ)と密接に関連する。 なお、欠席時に配布された資料等は、担当教員に申し出て受け取ること。

授業コード	22050401	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	保育内容の指導法（健康） [対面]				
シラバス執筆(全員)	織田 恵輔				
シラバス執筆(主)	織田 恵輔				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

- ・健康についての概念を明らかにし、幼児期の健康について概説する。
- ・乳幼児期の発育発達について理解し、基本的な生活習慣の獲得について解説する。
さらに教員の視点から子どもに対する現状の課題や問題について焦点を当て、その改善について考えることで保育者としての役割について解説する。
- ・幼稚園教育要領に示された健康領域の内容について解説する

到達目標

1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における、領域「健康」を説明できる。
2. 睡眠や食事といった生活習慣についての重要性を理解し、健康な体の育成法について実践できる。
3. 保育時における安全対策を説明できる。
4. 自分なりの観点をもち、制作物の作成や保育の実践ができる。
5. 情報機器を用いた保育を実践できる。
6. 模擬保育とその振り返りを通し、具体的な保育方法を立案できる。
7. 健康における幼児から小学校へのつながりや変化を説明できる。

授業計画

【第1回】

テーマ：健康の定義、幼児期における健康の定義
内容・方法：健康とは何か、幼児期における健康教育とは何か。

【第2回】

テーマ：領域「健康」とは
内容・方法：健康の内容およびねらいについて、幼児期・児童期（小学校）・青年期（20歳まで）までの発育・発達と健康について

【第3回】

テーマ：幼児期運動指針について
内容・方法：幼児期運動指針についての内容と解説

【第4回】

テーマ：幼児の体力測定評価および幼児期の体力に影響する要因について①
内容・方法：幼児の体力測定・小学校での体力測定の方法を解説

【第5回】

テーマ：幼児の体力測定評価および幼児期の体力に影響する要因について②
内容・方法：幼児の体力・小学校（児童）の体力について評価法を解説

【第6回】

テーマ：運動指導案の作成
内容・方法：指導案のねらいと目的、教師の配慮などの指導上の留意点を解説

【第7回】

テーマ：子どもの睡眠について①
内容・方法：適正な睡眠時間や、乳児期における睡眠の注意点（SIDS）について

【第8回】

テーマ：子どもの睡眠について②
内容・方法：睡眠不足による心身への影響（精神病や内分泌について）

【第9回】

テーマ：人の免疫機能について
内容・方法：免疫力獲得における発達、免疫システムについて

【第10回】

テーマ：感染症について・病気の予防について
内容・方法：子どもに起こりやすい感染症やその対応について

【第11回】

テーマ：保育現場でのリスクマネジメントについて
内容・方法：子どもの怪我が起きやすい状況や、子どもの視野を理解する。

【第12回】

テーマ：保健便りの作成
内容・方法：季節ごとの健康テーマを考えた保健便りを作成する

【第13回】

テーマ：情報機器を使った教材作成
内容・方法：情報機器を用いて教材の例や実際に作成を行う

【第14回】

テーマ：模擬保育
内容・方法：健康にかかわる模擬保育を行う

【第15回】

テーマ：模擬保育における評価と振り返り

内容・方法：模擬保育後にグループワーク形式で評価・振り返り・発表を行う

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

①事前学修課題：子どもの健康において何が大事か自分の意見を述べるよう考えておく。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第2回】

①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第3回】

①事前学修課題：幼児期運動指針を一読すること。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第4回】

①事前学修課題：幼児期の体力測定の内容を知っておくこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第5回】

①事前学修課題：幼児期の体力測定の内容を知っておくこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第6回】

①事前学修課題：指導案の書き方について事前学習を行うこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第7回】

①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第8回】

①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第9回】

①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第10回】

①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第11回】

①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第12回】

①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第13回】

①事前学修課題：事前資料で提示された保健だよりテーマから選択をしておくこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第14回】

①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第15回】

①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

課題に対するフィードバックの方法

振り返りプリントを毎授業実施・提出を行い、次回講義にてその内容の講評を行い、反映していく。

成績評価の方法・基準(方針)

1. 60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
2. 正当な理由なく、6回以上の授業欠席をした場合は「K」評価とする。
3. 幼児の健康について基礎的な理解ができている。
4. 振り返りプリントなどの提出及び理解状況。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	45	授業への取り組み状況・態度(15) 制作課題の提出及びその内容(30)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
授業外での評価	30	各授業後の振り返り用紙の提出(15) 各授業後の振り返り用紙における理解度(15)	1, 2, 3, 4, 6
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	レポートの内容	1, 2, 3

その他	0		
テキスト	テキストは使用しない。資料の配布を適宜行う。		
参考書	<p>* 購入必須ではない 文部科学省「幼稚園教育要領」 厚生労働省「保育所保育指針」 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携認定こども園教育保育要領」</p>		
履修条件・他の科目との関連	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各授業で学んだことについては振り返りプリントに記入・提出を行うこと 2. 全出席を目指すこと 3. 欠席した回の資料は申し出があった場合、再配布を行う。 		

授業コード	22050403	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	保育内容の指導法（健康） [対面]				
シラバス執筆(全員)	谷 玲子				
シラバス執筆(主)	谷 玲子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

- ・健康についての概念を明らかにし、幼児期の健康について概説する。
- ・乳幼児期の発育発達について理解し、基本的な生活習慣の獲得について解説する。
さらに教員の視点から子どもに対する現状の課題や問題について焦点を当て、その改善について考えることで保育者としての役割について解説する。
- ・幼稚園教育要領に示された健康領域の内容について解説する

到達目標

1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領における、領域「健康」を説明できる。
2. 睡眠や食事といった生活習慣についての重要性を理解し、健康な体の育成法について実践できる。
3. 保育時における安全対策を説明できる。
4. 自分なりの観点をもち、制作物の作成や保育の実践ができる。
5. 情報機器を用いた保育を実践できる。
6. 模擬保育とその振り返りを通し、具体的な保育方法を立案できる。
7. 健康における幼児から小学校へのつながりや変化を説明できる。

授業計画

【第1回】

テーマ：健康の定義、幼児期における健康の定義
内容・方法：健康とは何か、幼児期における健康教育とは何か。

【第2回】

テーマ：領域「健康」とは
内容・方法：健康の内容およびねらいについて、幼児期・児童期（小学校）・青年期（20歳まで）までの発育・発達と健康について

【第3回】

テーマ：幼児期運動指針について
内容・方法：幼児期運動指針についての内容と解説

【第4回】

テーマ：幼児の体力測定評価および幼児期の体力に影響する要因について①
内容・方法：幼児の体力測定・小学校での体力測定の方法を解説

【第5回】

テーマ：幼児の体力測定評価および幼児期の体力に影響する要因について②
内容・方法：幼児の体力・小学校（児童）の体力について評価法を解説

【第6回】

テーマ：運動指導案の作成
内容・方法：指導案のねらいと目的、教師の配慮などの指導上の留意点を解説

【第7回】

テーマ：子どもの睡眠について①
内容・方法：適正な睡眠時間や、乳児期における睡眠の注意点（SIDS）について

【第8回】

テーマ：子どもの睡眠について②
内容・方法：睡眠不足による心身への影響（精神病や内分泌について）

【第9回】

テーマ：人の免疫機能について
内容・方法：免疫力獲得における発達、免疫システムについて

【第10回】

テーマ：感染症について・病気の予防について
内容・方法：子どもに起こりやすい感染症やその対応について

【第11回】

テーマ：保育現場でのリスクマネジメントについて
内容・方法：子どもの怪我が起きやすい状況や、子どもの視野を理解する。

【第12回】

テーマ：保健便りの作成
内容・方法：季節ごとの健康テーマを考えた保健便りを作成する

【第13回】

テーマ：情報機器を使った教材作成
内容・方法：情報機器を用いて教材の例や実際に作成を行う

【第14回】

テーマ：模擬保育
内容・方法：健康にかかわる模擬保育を行う

【第15回】

テーマ：模擬保育における評価と振り返り

内容・方法：模擬保育後にグループワーク形式で評価・振り返り・発表を行う

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

①事前学修課題：子どもの健康において何が大事か自分の意見を述べるよう考えておく。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第2回】

①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第3回】

①事前学修課題：幼児期運動指針を一読すること。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第4回】

①事前学修課題：幼児期の体力測定の内容を知っておくこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第5回】

①事前学修課題：幼児期の体力測定の内容を知っておくこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第6回】

①事前学修課題：指導案の書き方について事前学習を行うこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第7回】

①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第8回】

①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第9回】

①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第10回】

①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第11回】

①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第12回】

①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第13回】

①事前学修課題：事前資料で提示された保健だよりテーマから選択をしておくこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第14回】

①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

【第15回】

①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。

②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

課題に対するフィードバックの方法

振り返りプリントを毎授業実施・提出を行い、次回講義にてその内容の講評を行い、反映していく。

成績評価の方法・基準(方針)

1. 60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
2. 正当な理由なく、6回以上の授業欠席をした場合は「K」評価とする。
3. 幼児の健康について基礎的な理解ができている。
4. 振り返りプリントなどの提出及び理解状況。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	45	授業への取り組み状況・態度(15) 制作課題の提出及びその内容(30)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
授業外での評価	30	各授業後の振り返り用紙の提出(15) 各授業後の振り返り用紙における理解度(15)	1, 2, 3, 4, 6
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	レポートの内容	1, 2, 3

その他	0		
テキスト	テキストは使用しない。資料の配布を適宜行う。		
参考書	<p>* 購入必須ではない 文部科学省「幼稚園教育要領」 厚生労働省「保育所保育指針」 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携認定こども園教育保育要領」</p>		
履修条件・他の科目との関連	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各授業で学んだことについては振り返りプリントに記入・提出を行うこと 2. 全出席を目指すこと 3. 欠席した回の資料は申し出があった場合、再配布を行う。 		

授業コード	22050501	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	保育内容の指導法（人間関係） [対面]				
シラバス執筆(全員)	野崎 美香子				
シラバス執筆(主)	野崎 美香子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容をふまえた上で、教員の視点から乳幼児期における人とかかわりの育ちについて概説する。また人とかかわりの力を育む為に、対話・討論型授業を通して、保育における援助や具体的な指導方法について学びが深められるようにする。

実務経験あり・・・担当教員は、幼稚園において教諭とし業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、上記の授業を行う。

到達目標

1. 領域「人間関係」に係る、基礎理論・知識を説明できる。
2. 子どもの人とかかわる力を育てる為の保育者の適切な援助について、保育事例をもとに演習問題に取り組み、説明できる。
3. 学んだ基礎的な知識に基づいて、保育を実践することができるようになるために、子どもの発達や援助方法についての考えをまとめることができる。

授業計画

- 第1回：5領域の中の人間関係
- 第2回：人とかかわりの発達 -発達理論を軸にして 0. 1歳児のかかわりの特徴と援助-
- 第3回：人とかかわりの発達 -発達理論を軸にして 2. 3歳児のかかわりの特徴と援助-
- 第4回：人とかかわりの発達 -発達理論を軸にして 4. 5歳児のかかわりの特徴と援助-
(「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と小学校との接続を含む)
- 第5回：保育の基本と「人とかかわり」について -保育者との出会い・信頼関係を築くかかわり-
- 第6回：保育内容の捉え方と「人間関係」(幼稚園における評価)
- 第7回：遊びの中で育つ人とかかわり -保育における遊びの理解-
- 第8回：遊びの中で育つ人とかかわり -友だち関係の広がりを援助する-
- 第9回：人間関係と環境 -情報機器の活用を含めた人とかかわりを育てる保育環境-
- 第10回：人とかかわりをみる視点(1) -必要な態度・ルール・規範意識を育てる援助-
- 第11回：人とかかわりをみる視点(2) -いざこざ・トラブル・仲間入りについて-
- 第12回：人とかかわりを育てる保育実践-人間関係における問題行動の理解と援助-
- 第13回：人とかかわりに関する保育者の役割と援助
-人間関係を良い方向に導く保育者の援助と関わり・記録方法-
- 第14回：多様な保育ニーズ -地域子育て支援を担う保育士・悩む親を支える役割-
- 第15回：保育現場の国際化の問題 -アメリカの多文化教育の試みの紹介-
学びの振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回 事前学習課題：幼稚園教育要領 領域「人間関係」の箇所の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所(授業資料に記載)、配布資料の確認と理解。
- 第2回 事前学習課題：保育所保育指針 第2章「1. 乳児保育に関わるねらい及び内容」の箇所の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所(授業資料に記載)、配布資料の確認と理解。
- 第3回 事前学習課題：保育所保育指針 第2章「2. 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」の箇所の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所(授業資料に記載)、配布資料の確認と理解。
- 第4回 事前学習課題：保育所保育指針 第2章「3. 3歳以上児の保育に関するねらい及び内容」の箇所の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所(授業資料に記載)、配布資料の確認と理解。
- 第5回 事前学習課題：資料「課題の解説」の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所(授業資料に記載)、配布資料の確認と理解。
- 第6回 事前学習課題：対応テキストの箇所(授業内にて指示)の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所(授業資料に記載)、配布資料の確認と理解。
- 第7回 事前学習課題：保育施設における遊びをイメージする。あなたの経験した保育施設における遊びを書き出してみましょう。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所(授業資料に記載)、配布資料の確認と理解。
- 第8回 事前学習課題：対応テキストの箇所(授業内にて指示)の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所(授業資料に記載)、配布資料の確認と理解。
- 第9回 事前学習課題：資料「課題の解説」の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所(授業資料に記載)、配布資料の確認と理解。
- 第10回 事前学習課題：保育施設におけるルールをイメージする。

第11回	事後学習課題：あなたの経験した保育施設におけるルールを書き出してみよう。 事前学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。 事後学習課題：保育施設におけるトラブルをイメージする。 事後学習課題：あなたの経験した子ども同士のトラブルを書き出してみよう。 事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。レポート課題。
第12回	事前学習課題：資料「課題の解説」の確認。 事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第13回	事前学習課題：資料「課題の解説」の確認。 事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第14回	事前学習課題：子どもを保育施設に預ける保護者の気持ちを想像してみよう。 事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第15回	事前学習課題：対応テキストの箇所（講義内にて指示）の確認。 事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。レポート課題。

課題に対するフィードバックの方法

課題については、採点基準や適切な解答について授業内で解説する。または、Google Classroomより模範解答や採点基準を提示する。
希望者には評価を開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内容への意欲的な取り組み態度・授業に関する貢献度(10) 課題の提出状況の程度(10) 課題の理解の程度(10) 小テスト(20)	1, 2
授業外での評価	20	事前事後学習などの課題の提出状況の程度(10) レポート課題の理解の程度(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	定期試験に代わるレポート：授業内容をふまえて自分の考えを論理的に記述しているか(30)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	「知のゆりかご」子どもの姿からはじめる領域・人間関係」編著 三宅茂夫 みらい 2022年 2100円 ISBN978-4-86015-571-1
------	--

参考書	幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省) その他、必要に応じて紹介する。
-----	--

履修条件・他の科目との関連	復習は授業内容と併せて、テキスト又は配布資料を読み込み、理解を深め、学んだ事を整理することを奨励する。 疑問に思った事やわからない事は積極的に質問することを奨励する。意欲的な取り組みの姿勢と評価とする。 欠席については学校の規則に添い取り扱うが、多くなると課題提出不足にもなり評価に影響する。
---------------	--

授業コード	22050503	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	保育内容の指導法（人間関係） [対面]				
シラバス執筆(全員)	大塚 穂波				
シラバス執筆(主)	大塚 穂波				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」における領域「人間関係」のねらいや内容をふまえた上で、教員の視点から乳幼児期における人とのかかわりの育ちについて概説する。また人とのかかわりの力を育む為に、対話・討論型授業を通して、保育における援助や具体的な指導方法について学びが深められるようにする。

実務経験あり・・・担当教員は、幼稚園において教諭とし業務に従事した経験があり、その実務経験を活かして、上記の授業を行う。

到達目標

1. 領域「人間関係」に係る、基礎理論・知識を説明できる。
2. 子どもの人とかかわる力を育てる為の保育者の適切な援助について、保育事例をもとに演習問題に取り組み、説明できる。
3. 学んだ基礎的な知識に基づいて、保育を実践することができるようになるために、子どもの発達や援助方法についての考えをまとめることができる。

授業計画

- 第1回：5領域の中の人間関係
- 第2回：人とかかわりの発達 -発達理論を軸にして 0. 1歳児のかかわりの特徴と援助-
- 第3回：人とかかわりの発達 -発達理論を軸にして 2. 3歳児のかかわりの特徴と援助-
- 第4回：人とかかわりの発達 -発達理論を軸にして 4. 5歳児のかかわりの特徴と援助-
（「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」と小学校との接続を含む）
- 第5回：保育の基本と「人とかかわり」について -保育者との出会い・信頼関係を築くかかわり-
- 第6回：保育内容の捉え方と「人間関係」（幼稚園における評価）
- 第7回：遊びの中で育つ人とかかわり -保育における遊びの理解-
- 第8回：遊びの中で育つ人とかかわり -友だち関係の広がりを援助する-
- 第9回：人間関係と環境 -情報機器の活用を含めた人とかかわりを育てる保育環境-
- 第10回：人とかかわりをみる視点（1） -必要な態度・ルール・規範意識を育てる援助-
- 第11回：人とかかわりをみる視点（2） -いざこざ・トラブル・仲間入りについて-
- 第12回：人とかかわりを育てる保育実践-人間関係における問題行動の理解と援助-
- 第13回：人とかかわりに関する保育者の役割と援助
-人間関係を良い方向に導く保育者の援助と関わり・記録方法-
- 第14回：多様な保育ニーズ -地域子育て支援を担う保育士・悩む親を支える役割-
- 第15回：保育現場の国際化の問題 -アメリカの多文化教育の試みの紹介-
学びの振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 第1回 事前学習課題：幼稚園教育要領 領域「人間関係」の箇所の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
- 第2回 事前学習課題：保育所保育指針 第2章「1. 乳児保育に関わるねらい及び内容」の箇所の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
- 第3回 事前学習課題：保育所保育指針 第2章「2. 1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」の箇所の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
- 第4回 事前学習課題：保育所保育指針 第2章「3. 3歳以上児の保育に関するねらい及び内容」の箇所の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
- 第5回 事前学習課題：資料「課題の解説」の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
- 第6回 事前学習課題：対応テキストの箇所（授業内にて指示）の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
- 第7回 事前学習課題：保育施設における遊びをイメージする。あなたの経験した保育施設における遊びを書き出してみましょう。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
- 第8回 事前学習課題：対応テキストの箇所（授業内にて指示）の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
- 第9回 事前学習課題：資料「課題の解説」の確認。
事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
- 第10回 事前学習課題：保育施設におけるルールをイメージする。

第11回	事後学習課題：あなたの経験した保育施設におけるルールを書き出してみよう。 事前学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。 事後学習課題：保育施設におけるトラブルをイメージする。 事後学習課題：あなたの経験した子ども同士のトラブルを書き出してみよう。 事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。レポート課題。
第12回	事前学習課題：資料「課題の解説」の確認。 事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第13回	事前学習課題：資料「課題の解説」の確認。 事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第14回	事前学習課題：子どもを保育施設に預ける保護者の気持ちを想像してみよう。 事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。
第15回	事前学習課題：対応テキストの箇所（講義内にて指示）の確認。 事後学習課題：授業内容と対応テキストの箇所（授業資料に記載）、配布資料の確認と理解。レポート課題。

課題に対するフィードバックの方法

課題については、採点基準や適切な解答について授業内で解説する。または、Google Classroomより模範解答や採点基準を提示する。
希望者には評価を開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内容への意欲的な取り組み態度・授業に関する貢献度(10) 課題の提出状況の程度(10) 課題の理解の程度(10) 小テスト(20)	1, 2
授業外での評価	20	事前事後学習などの課題の提出状況の程度(10) レポート課題の理解の程度(10)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	定期試験に代わるレポート：授業内容をふまえて自分の考えを論理的に記述しているか(30)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト 「知のゆりかご」子どもの姿からはじめる領域・人間関係」編著 三宅茂夫
みらい 2022年 2100円
ISBN978-4-86015-571-1

参考書 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)
幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省)
保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)
その他、必要に応じて紹介する。

履修条件・他の科目との関連 復習は授業内容と併せて、テキスト又は配布資料を読み込み、理解を深め、学んだ事を整理することを奨励する。
疑問に思った事やわからない事は積極的に質問することを奨励する。意欲的な取り組みの姿勢と評価とする。
欠席については学校の規則に添い取り扱うが、多くなると課題提出不足にもなり評価に影響する。

授業コード	22050601	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	保育内容の指導法（環境） [対面]				
シラバス執筆(全員)	古海 忍				
シラバス執筆(主)	古海 忍				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

〔目的〕

子どもたちの成長や発達・学びは、子どもの身近にある環境によって大きく変わる。保育者は環境の与える影響の大切さを知り、それを踏まえて環境設定を行っていく必要がある。これを踏まえて、本授業では幼児教育において育みたい資質・能力を理解し、それを実現するための5領域のねらいや内容の全体像を把握し、領域「環境」の位置づけについて説明する。日々の生活や遊びの中で、どのような環境が子どもたちの主体的・対話的で深い学びに繋がっていくのかを理解できるようにする。子どもの発達や現在の姿を踏まえて、実際の保育場面を想定しながら、指導案を作成し、模擬保育を通して保育を実践する力を身に付けることや、常に保育の質向上に努めるため、最新動向の把握や情報機器・教材研究を怠らない学び続ける力を培うことができるよう授業を行う。

〔概要〕

基本的な知識や考え方を講義形式で学ぶとともに、事例研究や発表などの実践活動により、各自の意見を他者と交換し、指導案の作成、模擬保育の実施を通して、保育の捉え方、配慮事項、幼児の主体的な学びについて考え

到達目標

1. 幼児教育の基本を踏まえた領域「環境」のねらい及び内容について、概略を説明することができる。
2. 幼児の発達や学びの過程を理解した上で、具体的な保育場面を想定し、適切な情報機器や教材を活用した指導案を作成し、保育を実施することができる。
3. 実施した保育の内容を振り返り、改善を検討することや、最新の保育動向に気を配り、質の向上を図ることができる。

授業計画

【第1回】

テーマ：保育内容「環境」のねらいと内容

内容・方法：領域「環境」のねらいと内容について学び、保育の役割と意義について学ぶ

【第2回】

テーマ：物的・人的・自然環境

内容・方法：子どもたちが身近に接する環境とはどのようなものかを具体的に考察する

【第3回】

テーマ：物的環境を生かした保育

内容・方法：子どもたちが遊びを通して学ぶ中で、遊びを豊かにする物的環境について考え、その効果について検討する

【第4回】

テーマ：自然環境を生かした保育（学外授業）

内容・方法：一つとして同じものがない自然環境の美しさや大きさ、おもしろさについて考え、子どもが自然環境をどのように遊びに取り入れていくのか考察する

【第5回】

テーマ：人的環境としての保育者の役割（学外授業）

内容・方法：人的環境として保育者が求められる役割の多様性に気付き、その意義を考える

【第6回】

テーマ：5領域の関連性と保育計画

内容・方法：5領域の中の環境の位置づけや総合的な学びを実現する保育計画のありかたについて考察する

【第7回】

テーマ：具体的な保育場面を想定した保育計画

内容・方法：保育場面を想定しながら環境に関連した保育計画について考える

【第8回】

テーマ：幼児の発達や学習過程を踏まえた保育上の留意点

内容・方法：園内の保育室や園庭の環境構成を子どもの動線から考察する

【第9回】

テーマ：幼児の発達特性を踏まえた情報機器と教材の活用

内容・方法：情報機器や教材研究を行い、幼児の発達に合わせた保育に活用する

【第10回】

テーマ：保育における評価の観点

内容・方法：保育における評価の考え方について知り、評価の観点を学習する

【第11回】

テーマ：指導案の理解と具体的な保育場面での指導案作成

内容・方法：指導案の成り立ちについて知り、保育場面を想定しながら指導案を作成する

【第12回】

テーマ：模擬保育の実施

内容・方法：作成した指導案に基づき模擬保育を行い、反省・評価を行う

【第13回】

テーマ：幼児教育から小学校教育へのつながり

内容・方法：幼児教育と小学校教育の特性を知り、現状の課題を整理し、円滑な接続のための連携について考える

【第14回】

テーマ：文字や数への興味関心を高める

内容・方法：身近な自然や生活の中で触れることができる文字や数の存在や子どもの捉え方について学ぶ

【第15回】

テーマ：保育内容の改善と最新動向を踏まえた保育の質向上

内容・方法：保育内容を振り返り、課題の発見、改善を行い、最新動向を念頭におきながら、保育の質を常に向上させる手段について検討する

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

①事前学修課題：5領域について調べる

②事後学修課題：領域「環境」の内容を見直し、自分なりに大切にしたい内容を選び、自分なりの考えを持つ

【第2回】

①事前学修課題：物的・人的・自然環境の具体例を考えておく

②事後学修課題：物的・人的・自然環境の特徴について考える

【第3回】

①事前学修課題：保育現場にある物的環境を一つ取り上げ、意味を考える

②事後学修課題：授業で共有した物的環境の意味について自分なりに考える

【第4回】

①事前学修課題：保育に取り入れられる自然環境の例とその意味について考える

②事後学修課題：自然環境を取り入れた活動とそのねらいについて具体例を一つ考える

【第5回】

①事前学修課題：人的環境として“友だち”の意味を考える

②事後学修課題：人的環境として“保育者”の役割について再度ふりかえって考える

【第6回】

①事前学修課題：保育計画について調べる

②事後学修課題：総合的な保育の意味について再度考える

【第7回】

①事前学修課題：季節の移り変わりを感じる事柄について考えておく

②事後学修課題：子どもの主体性を支える環境について具体例を考える

【第8回】

①事前学修課題：子どもの発達過程について調べる

②事後学修課題：子どもの発達過程に応じた環境構成について再度ふりかえる

【第9回】

①事前学修課題：保育活動の具体例を調べる

②事後学修課題：保育のねらいを実現するために役立つ情報機器の活用方法について調べる

【第10回】

①事前学修課題：保育における評価の特徴について調べる

②事後学修課題：具体的な例をもとに評価方法について図書館やインターネットなどで調べる

【第11回】

①事前学修課題：指導案について調べる

②事後学修課題：指導案に基づいて具体的な手順をシミュレーションする

【第12回】

①事前学修課題：模擬保育を行う前の準備物を用意する

②事後学修課題：模擬保育を振り返り、今後の課題を挙げ、改善策を立てる

【第13回】

①事前学修課題：幼児教育と小学校教育の違いについて考える

②事後学修課題：保育現場と小学校現場の連携の方法について具体例を調べる

【第14回】

①事前学修課題：生活の中で見ることができる文字や数の例を考える

②事後学修課題：文字や数に自然に興味を持つきっかけについて考える

【第15回】

①事前学修課題：最新の保育に関するトピックスを考える

②事後学修課題：保育を振り返り、改善につなげる方法を具体的に考える

課題に対するフィードバックの方法

授業のテーマにあわせて各自が自分の考えを表現したレポートや製作、ワークシートについては、全体に共有化したい内容は授業で取り上げ、解説を行う。個々にフィードバックを行いたい内容は、プリント内にコメントをつけるなど、各自の状況にあわせて対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

授業毎に授業内容を考えたり整理したりする課題を提示する。これらの内容と期末レポートを総合評価し、60点以上を合格とする。

正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」（評価不能）とする

期末レポートの提出は必須とする。提出されない場合は単位を認定しない（評価不能「K」）。

成績評価の種類

評価割合
(%)

評価方法・割合

評価対象となる到達目標

授業内での評価	70	毎回の授業で提示するワークシートやレポート、発表内容(70)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	期末レポート(30)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	<p>新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 環境 無藤隆 監修 福元真由美 編者代表 萌文書林 2000円＋税 978-4-89347-258-8</p>		
------	---	--	--

参考書	<p>〈平成30年施行〉 保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント 汐見稔幸／無藤隆 ミネルヴァ書房編集部〔編〕 ミネルヴァ社 1500円＋税 978-4-623-08098-4</p>		
-----	---	--	--

履修条件・他の科目との関連	<p>「幼児と環境」の授業で学んだ基礎知識をもとに、実際の保育場面に応用させて理解を深めてください。 保育内容5領域のうち、環境以外の領域を学ぶ授業を意識しながら学習を進めるようにしてください。 自然環境について学ぶため学外授業を実施する予定です(状況に応じて中止する場合があります)。 実施時期はシラバスに示された授業回とは異なる可能性があります、少なくとも1か月前には日程などの詳細を授業内で連絡します。</p>		
---------------	---	--	--

授業コード	22050602	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	保育内容の指導法（環境） [対面]				
シラバス執筆(全員)	古本 敦子				
シラバス執筆(主)	古本 敦子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

〔目的〕

子どもたちの成長や発達・学びは、子どもの身近にある環境によって大きく変わる。保育者は環境の与える影響の大切さを知り、それを踏まえて環境設定を行っていく必要がある。これを踏まえて、本授業では幼児教育において育みたい資質・能力を理解し、それを実現するための5領域のねらいや内容の全体像を把握し、領域「環境」の位置づけについて説明する。日々の生活や遊びの中で、どのような環境が子どもたちの主体的・対話的で深い学びに繋がっていくのかを理解できるようにする。子どもの発達や現在の姿を踏まえて、実際の保育場を想定しながら、指導案を作成し、模擬保育を通して保育を実践する力を身に付けることや、常に保育の質向上に努めるため、最新動向の把握や情報機器・教材研究を怠らない学び続ける力を培うことができるよう授業を行う。

〔概要〕

基本的な知識や考え方を講義形式で学ぶとともに、事例研究や発表などの実践活動により、各自の意見を他者と交換し、指導案の作成、模擬保育の実施を通して、保育の捉え方、配慮事項、幼児の主体的な学びについて考え

到達目標

1. 幼児教育の基本を踏まえた領域「環境」のねらい及び内容について、概略を説明することができる。
2. 幼児の発達や学びの過程を理解した上で、具体的な保育場面を想定し、適切な情報機器や教材を活用した指導案を作成し、保育を実施することができる。
3. 実施した保育の内容を振り返り、改善を検討することや、最新の保育動向に気を配り、質の向上を図ることができる。

授業計画

【第1回】

テーマ：保育内容「環境」のねらいと内容

内容・方法：領域「環境」のねらいと内容について学び、保育の役割と意義について学ぶ

【第2回】

テーマ：物的・人的・自然環境

内容・方法：子どもたちが身近に接する環境とはどのようなものかを具体的に考察する

【第3回】

テーマ：物的環境を生かした保育

内容・方法：子どもたちが遊びを通して学ぶ中で、遊びを豊かにする物的環境について考え、その効果について検討する

【第4回】

テーマ：自然環境を生かした保育（学外授業）

内容・方法：一つとして同じものがない自然環境の美しさや大きさ、おもしろさについて考え、子どもが自然環境をどのように遊びに取り入れていくのか考察する

【第5回】

テーマ：人的環境としての保育者の役割（学外授業）

内容・方法：人的環境として保育者が求められる役割の多様性に気付き、その意義を考える

【第6回】

テーマ：5領域の関連性と保育計画

内容・方法：5領域の中の環境の位置づけや総合的な学びを実現する保育計画のありかたについて考察する

【第7回】

テーマ：具体的な保育場面を想定した保育計画

内容・方法：保育場面を想定しながら環境に関連した保育計画について考える

【第8回】

テーマ：幼児の発達や学習過程を踏まえた保育上の留意点

内容・方法：園内の保育室や園庭の環境構成を子どもの動線から考察する

【第9回】

テーマ：幼児の発達特性を踏まえた情報機器と教材の活用

内容・方法：情報機器や教材研究を行い、幼児の発達に合わせた保育に活用する

【第10回】

テーマ：保育における評価の観点

内容・方法：保育における評価の考え方について知り、評価の観点を学習する

【第11回】

テーマ：指導案の理解と具体的な保育場面での指導案作成

内容・方法：指導案の成り立ちについて知り、保育場面を想定しながら指導案を作成する

【第12回】

テーマ：模擬保育の実施

内容・方法：作成した指導案に基づき模擬保育を行い、反省・評価を行う

【第13回】

テーマ：幼児教育から小学校教育へのつながり

内容・方法：幼児教育と小学校教育の特性を知り、現状の課題を整理し、円滑な接続のための連携について考える

【第14回】

テーマ：文字や数への興味関心を高める

内容・方法：身近な自然や生活の中で触れることができる文字や数の存在や子どもの捉え方について学ぶ

【第15回】

テーマ：保育内容の改善と最新動向を踏まえた保育の質向上

内容・方法：保育内容を振り返り、課題の発見、改善を行い、最新動向を念頭におきながら、保育の質を常に向上させる手段について検討する

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

①事前学修課題：5領域について調べる

②事後学修課題：領域「環境」の内容を見直し、自分なりに大切にしたい内容を選び、自分なりの考えを持つ

【第2回】

①事前学修課題：物的・人的・自然環境の具体例を考えておく

②事後学修課題：物的・人的・自然環境の特徴について考える

【第3回】

①事前学修課題：保育現場にある物的環境を一つ取り上げ、意味を考える

②事後学修課題：授業で共有した物的環境の意味について自分なりに考える

【第4回】

①事前学修課題：保育に取り入れられる自然環境の例とその意味について考える

②事後学修課題：自然環境を取り入れた活動とそのねらいについて具体例を一つ考える

【第5回】

①事前学修課題：人的環境として“友だち”の意味を考える

②事後学修課題：人的環境として“保育者”の役割について再度ふりかえって考える

【第6回】

①事前学修課題：保育計画について調べる

②事後学修課題：総合的な保育の意味について再度考える

【第7回】

①事前学修課題：季節の移り変わりを感じる事柄について考えておく

②事後学修課題：子どもの主体性を支える環境について具体例を考える

【第8回】

①事前学修課題：子どもの発達過程について調べる

②事後学修課題：子どもの発達過程に応じた環境構成について再度ふりかえる

【第9回】

①事前学修課題：保育活動の具体例を調べる

②事後学修課題：保育のねらいを実現するために役立つ情報機器の活用方法について調べる

【第10回】

①事前学修課題：保育における評価の特徴について調べる

②事後学修課題：具体的な例をもとに評価方法について図書館やインターネットなどで調べる

【第11回】

①事前学修課題：指導案について調べる

②事後学修課題：指導案に基づいて具体的な手順をシミュレーションする

【第12回】

①事前学修課題：模擬保育を行う前の準備物を用意する

②事後学修課題：模擬保育を振り返り、今後の課題を挙げ、改善策を立てる

【第13回】

①事前学修課題：幼児教育と小学校教育の違いについて考える

②事後学修課題：保育現場と小学校現場の連携の方法について具体例を調べる

【第14回】

①事前学修課題：生活の中で見ることができる文字や数の例を考える

②事後学修課題：文字や数に自然に興味を持つきっかけについて考える

【第15回】

①事前学修課題：最新の保育に関するトピックスを考える

②事後学修課題：保育を振り返り、改善につなげる方法を具体的に考える

課題に対するフィードバックの方法

授業のテーマにあわせて各自が自分の考えを表現したレポートや製作、ワークシートについては、全体に共有化したい内容は授業で取り上げ、解説を行う。個々にフィードバックを行いたい内容は、プリント内にコメントをつけるなど、各自の状況にあわせて対応する。

成績評価の方法・基準(方針)

授業毎に授業内容を考えたり整理したりする課題を提示する。これらの内容と期末レポートを総合評価し、60点以上を合格とする。

正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」（評価不能）とする

期末レポートの提出は必須とする。提出されない場合は単位を認定しない（評価不能「K」）。

成績評価の種類

評価割合
(%)

評価方法・割合

評価対象となる到達目標

授業内での評価	70	毎回の授業で提示するワークシートやレポート、発表内容(70)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	期末レポート(30)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	<p>新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 環境 無藤隆 監修 福元真由美 編者代表 萌文書林 2000円＋税 978-4-89347-258-8</p>		
------	---	--	--

参考書	<p>〈平成30年施行〉 保育所保育指針 幼稚園教育要領 幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説とポイント 汐見稔幸／無藤隆 ミネルヴァ書房編集部〔編〕 ミネルヴァ社 1500円＋税 978-4-623-08098-4</p>		
-----	---	--	--

履修条件・他の科目との関連	<p>「幼児と環境」の授業で学んだ基礎知識をもとに、実際の保育場面に応用させて理解を深めてください。 保育内容5領域のうち、環境以外の領域を学ぶ授業を意識しながら学習を進めるようにしてください。 自然環境について学ぶため学外授業を実施する予定です(状況に応じて中止する場合があります)。 実施時期はシラバスに示された授業回とは異なる可能性があります、少なくとも1か月前には日程などの詳細を授業内で連絡します。</p>		
---------------	---	--	--

授業コード	22050701	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	保育内容の指導法（言葉） [対面]				
シラバス執筆(全員)	吉田 貴子				
シラバス執筆(主)	吉田 貴子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

幼稚園教育要領等における領域「言葉」のねらい及び内容について、説明する授業である。
また、(1) 保育における言葉とは何か、(2) 言葉の発達、(3) 言葉を育てる環境、(4) 言葉を育てる児童文化、(5) 言葉に関する諸問題について概説する。

到達目標

1. 乳幼児期の子どもの言葉の育ちの過程について説明できる。
2. 子どもの言葉の育ちを支える保育に関する事例を参考にして、指導案を作成できる。
3. 子どもの言葉の育ちを支える児童文化財について説明できる。
4. 保育内容「言葉」のねらいと内容について説明できる。

授業計画

- 第1回 オリエンテーション・幼稚園教育要領における各領域のねらい及び内容
- 第2回 領域「言葉」のねらい及び内容と指導上の留意点
- 第3回 子どもどうしの関わりから育つ言葉
- 第4回 言葉を豊かにする言葉遊びの指導案
- 第5回 言葉を豊かにする言葉遊びの実践
- 第6回 言葉に関連する障害
- 第7回 母語が日本語ではない子どもの言葉
- 第8回 児童文化財のとは何か
- 第9回 児童文化財の実践
- 第10回 児童文化財—ペープサートの製作
- 第11回 児童文化財—ペープサートの演じ方
- 第12回 児童文化財—ペープサートの発表会
- 第13回 保育実践の動向—オリジナル作品のテーマ設定
- 第14回 保育実践の動向—オリジナル作品の発表
- 第15回 今後の保育構想の向上

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後学修をあわせて1単位あたり45時間が必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題：事前にテキストの目次を参考にして、授業内容を把握しておくこと。
- ②事後学修課題：課題を課すので、次回の授業前に提出すること。

【第2回】

- ①事前学修課題：自分が好きな絵本や紙芝居を見つけ、読むこと。
- ②事後学修課題：課題を課すので、次回の授業前に提出すること。

【第3回】

- ①事前学修課題：保育現場で実践される言葉の活動について調べておくこと。
- ②事後学修課題：言葉の活動についてまとめること。

【第4回】

- ①事前学修課題：言葉遊びの種類について、調べておくこと。
- ②事後学修課題：指導案を作成すること。

【第5回】

- ①事前学修課題：言葉遊びの実践にむけて、準備しておくこと。
- ②事後学修課題：言葉遊びにおける保育者の言葉がけについてまとめること。

【第6回】

- ①事前学修課題：言葉に関連する障害について調べておくこと。
- ②事後学修課題：子どもの言葉の発達と障害について整理し、疑問点を書いておくこと。

【第7回】

- ①事前学修課題：母語が日本語ではない子どもの保育について、テキストを読んでおくこと。
- ②事後学修課題：授業で学習した問題点とその解決策についてまとめること。

【第8回】

- ①事前学修課題：今までの授業内容を見直しておくこと。
- ②事後学修課題：授業全体での学びを振り返り、課題に取り組むこと。

【第9回】

- ①事前学修課題：児童文化財について、テキストを読んでおくこと。
- ②事後学修課題：授業で学習した児童文化財について、調べて理解を深めること。

【第10回】

- ①事前学修課題：ペープサートとは何か調べておくこと。
 ②事後学修課題：授業で行った製作の続きを行うこと。
 【第11回】
 ①事前学修課題：ペープサートの実演動画を観ておくこと。
 ②事後学修課題：子どもに伝わりやすい実演の方法について整理しておくこと。
 【第12回】
 ①事前学修課題：発表にむけて、自分の担当を練習しておくこと。
 ②事後学修課題：発表会での実演と鑑賞を通して、学習した内容を書いておくこと。
 【第13回】
 ①事前学修課題：保育に関する近年の問題を調べ、幼児に伝えたいテーマを考えておくこと。
 ②事後学修課題：グループで話し合い、取り上げたテーマに関する作品づくりを進めておくこと。
 【第14回】
 ①事前学修課題：グループで選んだテーマ以外で、子どもに関する近年の動向をテキストで読んでおくこと。
 ②事後学修課題：各グループのオリジナル作品について、工夫点や改善点を整理しておくこと。
 【第15回】
 ①事前学修課題：今後の保育構想の向上について、テキストで読んでおくこと。
 ②事後学修課題：この授業で学習したことを振り返り、整理しておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

授業内での発表や受け取った課題に対して、コメントを返してフィードバックし、その後の授業で説明する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	発表(30)、課題(30)	1, 3, 4
授業外での評価	20	レポート	1, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート	2, 4
その他	0		

テキスト	谷田貝公昭・廣澤満之 編著(2018)『新版 実践保育内容シリーズ4 言葉』一藝社 ISBN 9784863591592 ¥2,200
------	--

参考書	幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼稚園教育要領解説(平成30年2月 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月 内閣府 文部科学省 厚生労働省)
-----	--

履修条件・他の科目との関連	卒業必修であり、幼稚園教諭免許、保育士資格取得のために必要な科目である。 欠席者には、資料をGoogle Classroomに掲示する。
---------------	---

授業コード	22050801	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	保育内容の指導法（表現・総合） [対面]				
シラバス執筆(全員)	角地 佳子、玉井 久実代、作野 理恵				
シラバス執筆(主)	角地 佳子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本科目は、乳幼児の様々な表現活動を援助するために必要な知識や技術を学ぶことを目的とする。総合的な表現活動についての計画、準備、練習、実践、記録、省察を行うための指導法を概説する。

到達目標

1. 総合的な表現活動についての知識・技術を習得し応用できる。
2. 総合的な表現活動を構想し、実践できる。
3. 総合的な表現活動のための準備、練習、後片付け、振り返りを実行できる。

授業計画

- 【第1回】 保育内容の指導法（表現・総合）の授業概要と3法令における領域（表現）について学ぶ。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第2回】 ICTを活用して五感を使った総合的な表現活動における保育内容を理解する。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第3回】 総合的な表現活動を実践するため、グループで発表のテーマを計画し、準備する。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第4回】 総合的な表現活動を練習する。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第5回】 総合的な表現活動を実践し、記録から振り返りを行う。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第6回】 幼稚園や保育所での劇発表映像を観て、表現が広がる指導法を考える。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第7回】 幼児期の表現活動と小学校の教科等のつながり考える。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第8回】 これまでの学びを踏まえた総合的な表現活動を実践するため、グループで発表のテーマを考える。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第9回】 総合的な表現活動を実践するため、テーマに沿ったストーリーやセリフ、身体活動を考える。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第10回】 総合的な表現活動の実践に向けて、テーマに沿った造形活動を考える。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第11回】 総合的な表現活動の実践に向けて、テーマに沿って音楽活動を考える。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第12回】 総合的な表現活動の実践に向けて、見せ方・演出効果等の保育構想の向上に取り組む。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第13回】 総合的な表現活動を実践する。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第14回】 総合的な表現活動を実践するための指導案を作成する。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第15回】 総合的な表現活動を実践し、その振り返りを通して保育の場における表現活動について考える。 角地もしくは渡邊・作野・玉井

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後学習をあわせて、1単位あたり45時間が必要です。1回の授業につき、事前事後合わせて1時間以上の学習が必要です。

- 【第1回】
 - ①事前学習課題：シラバスを確認する。
 - ②事後学習課題：授業内容を確認する。
- 【第2回】
 - ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
 - ②事後学習課題：学習したことを整理する。
- 【第3～5回】
 - ①事前学習課題：「幼児と表現」の授業資料を見直す。
 - ②事後学習課題：学習したことを整理する。
- 【第6～7回】
 - ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
 - ②事後学習課題：学習したことを整理する。
- 【第8～13回】
 - ①事前学習課題：第1～7回の授業を振り返り、発表の準備を行う。
 - ②事後学習課題：学習したことを整理する。
- 【第14～15回】
 - ①事前学習課題：乳幼児の総合表現について、総括の準備を行う。
 - ②事後学習課題：乳幼児の総合表現について、学びの総括を整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。
定期試験に代わるレポート等の提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	授業全体の取り組みに対する意欲や態度、課題(60) 第5回、第13回の実践発表(20)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポート	1
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、資料の配付もしくはclassroomへの提示を行う。
------	--

参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
-----	------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	卒業科目であり、幼稚園教諭免許および保育士資格の必修科目である。 各回に必要な準備物や服装、および教室は担当教員に確認すること。 授業で用いる写真や動画等は、取り扱いに十分注意すること。 配当施設や進捗状況に応じて、授業計画を変更することがある。 欠席時に配付された資料は、担当教員に申し出て受け取ること。 「幼児と表現」に関連する授業である。
---------------	---

授業コード	22050803	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	保育内容の指導法（表現・総合） [対面]				
シラバス執筆(全員)	渡邊 詩子、玉井 久実代、作野 理恵				
シラバス執筆(主)	渡邊 詩子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本科目は、乳幼児の様々な表現活動を援助するために必要な知識や技術を学ぶことを目的とする。総合的な表現活動についての計画、準備、練習、実践、記録、省察を行うための指導法を概説する。

到達目標

1. 総合的な表現活動についての知識・技術を習得し応用できる。
2. 総合的な表現活動を構想し、実践できる。
3. 総合的な表現活動のための準備、練習、後片付け、振り返りを実行できる。

授業計画

- 【第1回】 保育内容の指導法（表現・総合）の授業概要と3法令における領域（表現）について学ぶ。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第2回】 ICTを活用して五感を使った総合的な表現活動における保育内容を理解する。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第3回】 総合的な表現活動を実践するため、グループで発表のテーマを計画し、準備する。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第4回】 総合的な表現活動を練習する。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第5回】 総合的な表現活動を実践し、記録から振り返りを行う。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第6回】 幼稚園や保育所での劇発表映像を観て、表現が広がる指導法を考える。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第7回】 幼児期の表現活動と小学校の教科等のつながり考える。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第8回】 これまでの学びを踏まえた総合的な表現活動を実践するため、グループで発表のテーマを考える。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第9回】 総合的な表現活動を実践するため、テーマに沿ったストーリーやセリフ、身体活動を考える。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第10回】 総合的な表現活動の実践に向けて、テーマに沿った造形活動を考える。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第11回】 総合的な表現活動の実践に向けて、テーマに沿って音楽活動を考える。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第12回】 総合的な表現活動の実践に向けて、見せ方・演出効果等の保育構想の向上に取り組む。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第13回】 総合的な表現活動を実践する。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第14回】 総合的な表現活動を実践するための指導案を作成する。 角地もしくは渡邊・作野・玉井
- 【第15回】 総合的な表現活動を実践し、その振り返りを通して保育の場における表現活動について考える。 角地もしくは渡邊・作野・玉井

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後学習をあわせて、1単位あたり45時間が必要です。1回の授業につき、事前事後合わせて1時間以上の学習が必要です。

- 【第1回】
 - ①事前学習課題：シラバスを確認する。
 - ②事後学習課題：授業内容を確認する。
- 【第2回】
 - ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
 - ②事後学習課題：学習したことを整理する。
- 【第3～5回】
 - ①事前学習課題：「幼児と表現」の授業資料を見直す。
 - ②事後学習課題：学習したことを整理する。
- 【第6～7回】
 - ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
 - ②事後学習課題：学習したことを整理する。
- 【第8～13回】
 - ①事前学習課題：第1～7回の授業を振り返り、発表の準備を行う。
 - ②事後学習課題：学習したことを整理する。
- 【第14～15回】
 - ①事前学習課題：乳幼児の総合表現について、総括の準備を行う。
 - ②事後学習課題：乳幼児の総合表現について、学びの総括を整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。
定期試験に代わるレポート等の提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	授業全体の取り組みに対する意欲や態度、課題(60) 第5回、第13回の実践発表(20)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	レポート	1
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、資料の配付もしくはclassroomへの提示を行う。
------	--

参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
-----	------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	卒業科目であり、幼稚園教諭免許および保育士資格の必修科目である。 各回に必要な準備物や服装、および教室は担当教員に確認すること。 授業で用いる写真や動画等は、取り扱いに十分注意すること。 配当施設や進捗状況に応じて、授業計画を変更することがある。 欠席時に配付された資料は、担当教員に申し出て受け取ること。 「幼児と表現」に関連する授業である。
---------------	---

授業コード	22050901	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	保育内容の指導法（表現・言語） [対面]				
シラバス執筆(全員)	角地 佳子				
シラバス執筆(主)	角地 佳子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

乳幼児の豊かな言葉や表現を理解するために必要な基礎知識を概説する。グループワークを取り入れた主体的な学び合いにより、乳幼児の発達に伴う言葉の理解を促す授業内容にする。言葉の大切さを理解した上で、乳幼児の言葉を育て感性を豊かにする教材や児童文化の基礎的な知識を概説する。

到達目標

1. 乳幼児が言葉による豊かな表現力と想像する楽しさを身に付けられるよう実践できる。
2. 乳幼児の発達における言葉の持つ意義を説明できる。
3. 乳幼児の言葉を育て感性を豊かにする教材や児童文化の基礎的な知識や技術を習得し応用できる。

授業計画

- 【第1回】 授業概要 領域「表現」のねらい及び内容に基づき、乳幼児の言語表現を理解する。
- 【第2回】 乳幼児の言葉の発達過程において実践例を用いて理解する。
- 【第3回】 保育現場の動画を鑑賞し、乳幼児の言葉の発達過程における表現が、小学校教育にどのように繋がるかグループで話し合う。
- 【第4回】 言葉に対する感覚を豊かにするための言葉遊びを、ICTを用いてグループで教材研究をする。
- 【第5回】 言葉に対する感覚を豊かにするための言葉遊びを、グループで発表する。
- 【第6回】 言葉による伝え合いを育む援助について、ICTを活用して理解する。
- 【第7回】 言葉による伝え合いを育む援助について、グループで実践する。
- 【第8回】 表現としての言葉の美しさ、楽しさについてICTを活用して材料研究をする。
- 【第9回】 表現としての言葉の美しさ、楽しさの活動をグループで実践する。
- 【第10回】 表現としての言葉の美しさ、楽しさの活動をグループで発表し、振り返りを行う。
- 【第11回】 乳幼児にとっての児童文化財（絵本、紙芝居、ペープサートなど）の意義を理解する。
- 【第12回】 児童文化財（絵本、紙芝居、ペープサートなど）の作成をグループで取り組む。
- 【第13回】 児童文化財（絵本、紙芝居、ペープサートなど）の保育の指導案をグループで作成する。
- 【第14回】 児童文化財（絵本、紙芝居、ペープサートなど）の模擬保育をグループで考える。
- 【第15回】 児童文化財（絵本、紙芝居、ペープサートなど）の模擬保育をグループで発表し、振り返りを行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要であるため、各回につき事前事後合わせて1時間以上の学習が必要です。

- 【第1回】
 - ①事前学習課題：シラバスを確認する。
 - ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。
- 【第2～3回】
 - ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
 - ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。
- 【第4～10回】
 - ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
 - ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、まとめる。
- 【第11回】
 - ①事前学習課題：児童文化財に関して、インターネットや書籍で調べる。
 - ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。
- 【第12～14回】
 - ①事前学習課題：2～11回目の授業を復習し、発表の準備を行う。
 - ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。
- 【第15回】
 - ①事前学習課題：発表内容を再確認する。
 - ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、まとめる。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、評価対象とせず「K」評価とする。
 3回の遅刻及び早退は1回の欠席とする。
 定期試験に代わるレポート等の提出がない場合は、評価対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業全体の学びに向かう過程の評価	1, 2, 3
授業外での評価	10	授業のまとめ課題の完成度を評価	2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	課題レポートの完成度を評価	2, 3
その他	0		

テキスト
 テキストは使用しない。
 必要に応じて、資料の配布もしくは classroom への提示を行う。

参考書
 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領

履修条件・他の科目との関連
 学科専門教育科目であり、幼稚園教諭免許必修科目及び保育士資格選択必修科目である。

授業コード	22051001	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	保育内容の指導法（表現・音楽） [対面]				
シラバス執筆(全員)	作野 理恵				
シラバス執筆(主)	作野 理恵				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

「保育内容の指導法（総合・表現）」の授業内容をより充実・発展させ、乳幼児のあそびや生活を踏まえた、音楽における保育内容の展開や指導法を概説する。
音やリズムを用いた様々な音楽の表現活動を学び、実践を通しての構想・計画・指導力の習得法を説明する。

到達目標

1. 幼稚園教育要領・保育所保育指針における「表現」のねらい及び内容を理解し、応用できる。
2. 乳幼児の心情、認識、思考に応じた音楽表現活動を実践できる。
3. 感じたことや考えたことを自分なりに表現できる。
4. 音楽表現の特性を考慮した情報機器及び活用法を理解し、保育構想に活用できる。
5. 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成できる。
6. 表現活動における指導上の留意点を理解し、模擬保育を実践できる。
7. 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善することができる。

授業計画

- 【第1回】
テーマ：授業計画の説明
内容・方法：領域「表現」のねらい及び内容に関連させた音楽表現について理解する。
- 【第2回】
テーマ：乳幼児の音楽表現について
内容・方法：具体的な実践例を挙げ、その表現の背景や要因について考察する。
- 【第3回】
テーマ：年齢別表現活動について
内容・方法：年齢別の歌あそびと音楽的表現活動（3、4、5歳児）について学ぶ。
- 【第4回】
テーマ：乳幼児の音楽表現活動と小学校の教科音楽との学びの連続性について①
—歌唱表現活動について
内容・方法：日常保育の四季別（春・夏・秋・冬）による歌を考察し、歌唱曲を教える際の造形、言葉、身体を用いた工夫について学び、実践する。
- 【第5回】
テーマ：乳幼児の音楽表現活動と小学校の教科音楽との学びの連続性について②
—芸術作品について
内容・方法：作曲家の背景や作品内容等について学び、現場での活用方法を習得する。
- 【第6回】
テーマ：音楽表現におけるICT活用方法について
内容・方法：タブレットを中心としたICT活用例を学び、実践を通して保育構想の向上を図る。
- 【第7回】
テーマ：国内外の音楽表現活動について
内容・方法：国内外の様々な音楽表現活動について知り、自らの保育構想の向上に取り組む。
- 【第8回】
テーマ：音やリズムを身体で表現する活動を実践し、活動の特徴や面白さ、留意点を考える。
内容・方法：リトミックについて理解・実践する。
- 【第9回】
テーマ：リズムを用いた音楽表現活動を実践し、活動の特徴や面白さ、留意点を考える。
内容・方法：リズム合奏（楽器を使った表現）の事例について学び、実践する。
- 【第10回】
テーマ：インクルーシブ保育における音楽活動について
内容・方法：音楽療法セッション楽器等を使った表現事例について学び、実践する。
- 【第11回】
テーマ：指導計画の立案①
内容・方法：歌う活動を核とした音楽活動指導計画を作成する。
- 【第12回】
テーマ：模擬実技発表①
内容・方法：指導案に基づき、歌う活動を中心とした模擬保育を実践し、その振り返りを行う。
- 【第13回】
テーマ：指導計画の立案②
内容・方法：演奏活動を核とした音楽活動指導計画を作成する。
- 【第14回】
テーマ：模擬実技発表②
内容・方法：指導案に基づき、楽器等を用いた演奏活動の模擬保育を実践し、その振り返りを行う。
- 【第15回】
テーマ：総合音楽表現活動の振り返り

内容・方法：これまでに学んだ表現活動を振り返り、保育現場における音楽表現活動を総合的に考える。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。
授業と事前事後の合わせて1単位あたり45時間必要である。
(事前) 前授業の復習をし、内容を理解・習得しておく。
(事後) 授業内外課題に取り組み提出する。
授業で学んだ内容での指導計画案の作成方法について調べ、考察する。

課題に対するフィードバックの方法

授業内で音楽表現活動の実践を評価・講評する。
授業内課題に対する講評を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内での評価
・音楽表現活動の習得、実践に意欲的に取り組んでいるかを評価する。
・指導計画の立案、模擬保育の実践内容を評価する。
・感じたことや考えたことを自分なりに表現しているかを評価する。

授業外での評価
・事後課題の完成度について評価する。
・定期試験に代わるレポート等の完成度を評価する。

定期試験は無し

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく5回を超える欠席した場合は評価の対象とせず「K」評価とする。
3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。
授業開始時間から開始後30分までを遅刻とする。
定期試験に代わるレポートの提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	・音楽表現活動の習得、実践に意欲的に取り組んでいるかを評価する。(20) ・指導計画の立案、模擬保育の実践内容を評価する。(40) ・感じたことや考えたことを自分なりに表現しているかを評価する。(10)	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	10	課題の完成度を評価(10)	1, 2, 3, 4, 5, 6
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	課題レポートの完成度を評価	1, 2, 3, 4, 5, 6
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 随時プリントを配付する。
参考書	幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省) 保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)
履修条件・他の科目との関連	学科専門教育科目であり、幼稚園免許状取得の必修科目である。 欠席時に配付された資料は次回、担当教員に申し出て受け取る

授業コード	22051101	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	保育内容の指導法（表現・造形） [対面]				
シラバス執筆(全員)	渡邊 詩子				
シラバス執筆(主)	渡邊 詩子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

保育における造形表現の指導法を、子どもの生活や遊びを踏まえて実践的に学ぶ。造形表現の基礎的な知識・技能を学ぶことで、乳幼児期の表現活動を構想、計画、指導、実践する力を身につける。

到達目標

- 1) 領域「表現」のねらい及び内容に基づき、乳幼児の造形表現を理解している。
- 2) 乳幼児の発達や学びの過程を理解し、保育構想に活用することができる。
- 3) 具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。
- 3) 造形表現の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。

授業計画

1. 授業概要 領域「表現」のねらい及び内容に基づき、乳幼児の造形表現を理解する。
2. 3歳児未満の造形表現についてICTを活用し、活動内容を具体的に考える。
3. 3歳から5歳児の造形表現についてICTを活用し、活動内容を具体的に考える。
4. 幼児期の表現活動から小学校の図画工作への繋がりを実践例を用いて考える。
5. ペンやパスなどの描画材料を用いて幼児の描画表現が広がる指導法を考える。
6. 絵の具を用いて遊びによる表現活動を構想し、実践する力を身につける。
7. 絵の具を用いた表現活動の指導案をグループで作成し、模擬保育を実践する。
8. 身近な素材を用いた遊びによる造形活動を実践し、素材の面白さや活動の留意点を理解する。
9. 身近な素材を用いた造形活動の実践例を参考にし、保育構想の向上に取り組む。
10. 自然や自然物を用いた造形活動についてICTを活用し、自然や自然物の面白さや活動の留意点を理解する。
11. 自然や自然物を用いた造形活動を実践し、保育構想の向上に取り組む。
12. 自然や自然物を用いた表現活動の指導案を個人で作成し、模擬保育を実践する。
13. これまでの学びを踏まえ、総合的な造形表現を実践するために、グループで指導案を作成する。
14. グループでの指導案に沿って模擬保育を実践する。
15. グループでの模擬保育を振り返り、保育現場における造形活動を総合的に考える。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後学習をあわせて、1単位あたり45時間が必要です。1回の授業につき、事前事後合わせて1時間以上の学習が必要です。

【第1回】

- ①事前学習課題：シラバスを確認する。
- ②事後学習課題：授業内容を確認する。

【第2～3回】

- ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
- ②事後学習課題：学習したことを整理する。

【第4～9回】

- ①事前学習課題：前授業の復習をし、本授業の材料用具の確認を行う。
- ②事後学習課題：本授業で学んだ内容を整理し、保育の現場で役立つよう課題記録をつける。

【第10回】

- ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
- ②事後学習課題：学習したことを整理する。

【第11～12回】

- ①事前学習課題：前授業の復習をし、本授業の材料用具の確認を行う。
- ②事後学習課題：本授業で学んだ内容を整理し、保育の現場で役立つよう課題記録をつける。

【第13回】

- ①事前学習課題：これまでの授業を振り返り、資料作成の準備を行う。
- ②事後学習課題：総合的な造形表現の学びについて、整理する。

【第14～15回】

- ①事前学習課題：総合的な造形表現について、総括の準備を行う。
- ②事後学習課題：総合的な造形表現について、学びの総括を整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。
定期試験に代わるレポートの提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業全体を通じた学生の学びをに向かう過程の評価	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	1～5回目、6～10回目の学習内容のまとめの評価	1, 2, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	定期試験に代わるレポートの評価	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、資料の配布もしくはclassroomへの提示を行う。
------	--

参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
-----	------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	学科専門教育科目であり、幼稚園教諭免許の必修科目および保育士資格の選択必修科目である。 配当施設や進捗状況に応じて、授業計画を変更することがある。 欠席時に配布された資料は、担当教員に申し出て受け取る。
---------------	---

授業コード	22051201	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	保育内容の指導法（表現・身体） [対面]				
シラバス執筆(全員)	玉井 久実代				
シラバス執筆(主)	玉井 久実代				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

乳幼児の発達や学びの過程を理解し、身体表現に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。
年齢や発達に応じ、乳幼児の素朴な表現を活かした保育構想を指導案に取り上げ、音楽や造形表現を取り入れた身体表現遊びの教材研究や模擬保育と振り返りを行う。

到達目標

1. 身体表現のねらいおよび内容を踏まえ、乳幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を説明できる。
2. 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を説明できる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション、乳幼児における身体表現
- 【第2回】 身体表現によるコミュニケーション
- 【第3回】 発達過程からみる乳児の身体表現
- 【第4回】 発達過程からみる幼児の身体表現
- 【第5回】 保育の構想 指導案の作成
- 【第6回】 保育の構想と実践 身近な道具や遊具を用いて
- 【第7回】 保育の構想と実践 音楽表現を用いて
- 【第8回】 保育の構想と実践 造形表現を用いて
- 【第9回】 保育の構想と実践 リズムダンス
- 【第10回】 模擬保育 ICTを活用した計画
- 【第11回】 模擬保育 実践
- 【第12回】 模擬保育 ICTを活用した記録・省察
- 【第13回】 模擬保育 ICTを活用した評価・改善
- 【第14回】 身体表現と小学校の教科等とのつながり
- 【第15回】 ICTを活用し、保育の場における身体表現活動を整理する

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後学習をあわせて、1単位あたり45時間が必要です。
1回の授業につき、事前事後合わせて1時間以上の学習が必要です。

- 【第1回】
 - ①事前学習課題：シラバスを確認する。
 - ②事後学習課題：授業内容を確認する。
- 【第2～9回】
 - ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
 - ②事後学習課題：学習したことを整理する。
- 【第10～13回】
 - ①事前学習課題：模擬保育の準備を行う。
 - ②事後学習課題：模擬保育の振り返りを行う。
- 【第14回】
 - ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
 - ②事後学習課題：学習したことを整理する。
- 【第15回】
 - ①事前学習課題：総括の準備を行う。
 - ②事後学習課題：学びの総括を整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。
定期試験に代わるレポート等の提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
---------	------	---------	-------------

	(%)		
授業内での評価	85	授業全体の取り組みに対する意欲や態度、課題(75) 模擬保育(10)	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	レポート	1, 2
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、資料の配付もしくはclassroomへの提示を行う。
------	--

参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領 その他は、必要に応じて授業のなかで紹介する。
-----	--

履修条件・他の科目との関連	学科専門教育科目であり、幼稚園教諭免許の必修科目および保育士資格の選択必修科目である。 各回に必要な準備物や服装等は、授業内やclassroomで周知する。 授業で用いる写真や動画等は、取り扱いに十分注意すること。 配当施設や進捗状況に応じて、授業計画を変更することがある。 欠席時に配付された資料は、担当教員に申し出て受け取ること。 「幼児と表現」「保育内容の指導法(表現・総合)」等の表現科目に関連する授業である。
---------------	--

授業コード	22046501	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	保育・教育課程論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	吉田 貴子				
シラバス執筆(主)	吉田 貴子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

この授業では、幼稚園・保育所・認定こども園における教育課程の編成の在り方を説明する。教育課程の編成には、「子どもの発達、保育・教育内容の考え方とその実際、保育者の環境構成・援助の在り方、地域・家庭との連携」などの知識が求められるため、他教科の学習内容と関連させながら総合的な視点でとらえ、対応していく力を育成する。指導計画の実際例や実践を通して、教育課程を基に具体的な指導計画を作成し、その評価や保育活動の展開のポイントなどを概説する。

到達目標

1. 教育課程及び全体的な計画等、指導計画の意義と目的を説明できる。
2. 教育課程及び全体的な計画の編成について内容の説明ができる。
3. 子どもの発達の過程や特徴の理解を基にして、実際に指導計画のポイントをおさえて、作成できる。
4. 保育記録・評価反省と計画の関係性を説明できる。
5. 計画の改善の意義と方法について説明できる。

授業計画

第1回	オリエンテーション	保育・教育課程の役割理解
第2回	保育の基本と計画の考え方	教育課程や全体的な計画の意義と目的について
第3回	幼児教育の特質と幼児期に育みたい資質・能力について	
第4回	教育課程の変遷と幼稚園における教育課程編成の役割と編成	
第5回	保育所における全体的な計画	
第6回	幼保連携型認定こども園における教育及び保育の内容並びに子育ての支援等に関する全体的な計画	
第7回	長期の指導計画と短期の指導計画の実際	
第8回	指導計画の作成・PDCAサイクルと幼児理解に基づいた評価の実際	
第9回	カリキュラム・マネジメントの意義と実際	
第10回	園・家庭・地域社会の役割	
第11回	指導計画の作成①（発達過程を意識して）	
第12回	指導計画の作成②（保育の展開を考える）	
第13回	指導計画の実践と評価	
第14回	幼児教育と小学校教育との円滑な接続	
第15回	まとめ	

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後学修をあわせて1単位あたり45時間が必要です。毎回の授業に対して、合わせて4時間の事前・事後学修が必要となります。

【第1回】

- ①事前学修課題：事前にテキストの目次を参考にして、この授業の流れを把握しておくこと。
- ②事後学修課題：課題を課すので、次回の授業前に提出すること。

【第2回】

- ①事前学修課題：テキストで、教育課程や全体的な計画の意義に関する箇所を読むこと。
- ②事後学修課題：課題を課すので、次回の授業前に提出すること。

【第3回】

- ①事前学修課題：幼児期に育みたい資質・能力についての箇所を読んでおくこと。
- ②事後学修課題：授業内に示した課題に取り組むこと。

【第4回】

- ①事前学修課題：幼稚園教育要領について調べておくこと。
- ②事後学修課題：幼稚園教育要領の大事なポイントについて整理しておくこと。

【第5回】

- ①事前学修課題：保育所保育指針について調べておくこと。
- ②事後学修課題：保育所の特徴と保育士の役割についてまとめること。

【第6回】

- ①事前学修課題：幼保連携型認定こども園教育・保育要領について調べておくこと。
- ②事後学修課題：認定子ども園の特徴について整理すること。

【第7回】

- ①事前学修課題：保育の計画にはどのようなものがあるかテキストで調べておくこと。
- ②事後学修課題：計画の種類についてまとめること。

【第8回】

- ①事前学修課題：ここまでの授業内容を復習しておくこと。
- ②事後学修課題：課題を課すので、次回の授業前に提出すること。

【第9回】

- ①事前学修課題：事前にテキストの当該箇所を読んでおくこと。
- ②事後学修課題：課題を課すので、次回の授業前に提出すること。

【第10回】

- ①事前学修課題：子どもの家庭環境や地域社会について調べること。
- ②事後学修課題：自分で調べたり、考えたことをレポートにまとめること。

【第11回】

- ①事前学修課題：指導計画の作成について予習すること。
- ②事後学修課題：指導計画を作成すること。

【第12回】

- ①事前学修課題：授業内容を復習しておくこと。
- ②事後学修課題：課題を課すので、次回の授業前に提出すること。

【第13回】

- ①事前学修課題：計画を実践する際の留意点についてまとめること。
- ②事後学修課題：課題を課すので、次回の授業前に提出すること。

【第14回】

- ①事前学修課題：幼稚園や保育所と小学校の違いを考えておくこと。
- ②事後学修課題：幼保小連携のポイントを整理しておくこと。

【第15回】

- ①事前学修課題：今までの授業内容を見直しておくこと。
- ②事後学修課題：授業全体での学びを振り返り、課題に取り組むこと。

課題に対するフィードバックの方法

受け取った課題に、コメントを返してフィードバックし、その後の授業で説明する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	発表(20)、リフレクションシート(10)	1, 2, 4
授業外での評価	50	レポート(50)	3, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート(20)	2, 4, 5
その他	0		

テキスト	前田和代編著(2023)『新・保育の計画と評価—理論と実践をつなぐ保育カリキュラム論—』教育情報出版社 ISBN 978-4-909378-59-0 ¥2,200
------	---

参考書	幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省) 幼稚園教育要領解説(平成30年2月 文部科学省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省) 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成30年3月 内閣府 文部科学省 厚生労働省)
-----	--

履修条件・他の科目との関連	幼稚園教諭免許および保育士資格取得のために必要な科目です。 興味のある幼稚園や保育所、認定こども園のHPを見たり、保育の本を読むことで、色々な保育のカリキュラムについて調べてみましょう。 欠席者へはGoogle Classroomで資料を掲示します。
---------------	---

授業コード	22022801	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	保育相談（幼児理解の理論・方法を含む） [対面]				
シラバス執筆(全員)	大塚 穂波				
シラバス執筆(主)	大塚 穂波				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

保育ニーズが多様化する中で、保育者は子どもだけでなく保護者や同僚とよりよい関係を築き、一人一人に応じた援助を行うことが重要である。本講義では、保育相談に必要な基礎的知識や、保育者に求められる援助の基本的姿勢や考え方について概説する。

到達目標

1. 発達過程にもとづいて子どもを理解するための基礎的知識を説明することができる。
2. カウンセリングマインドに関わる基礎的知識及び態度を説明することができる。
3. 幼児理解の意義と具体的な方法について、言葉で説明することができる。
4. 個の育ちと集団の育ちの両面から、子ども一人一人の特性に応じて適切な援助方法を提案することができる。

授業計画

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 幼児理解の重要性と相談援助の目的
- 第3回 乳幼児の発達過程
- 第4回 発達をとらえる方法：観察法、保育記録
- 第5回 保育相談の基本的態度(1) カウンセリングマインド
- 第6回 保育相談の基本的態度(2) 受容・共感・傾聴
- 第7回 保育相談の基本的態度(3) 子どもの育ちの共有
- 第8回 カウンセリング技法：質問の仕方
- 第9回 相談援助の具体的方法(1) 支援のプロセス
- 第10回 相談援助の具体的方法(2) 支援計画
- 第11回 専門機関との連携と保育者の専門性
- 第12回 事例検討(1) 障害のある子ども、「気になる子」
- 第13回 事例検討(2) 不登園、虐待ケース
- 第14回 事例検討(3) 保護者とのかかわり
- 第15回 まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

予習としてシラバスを読んで毎回の授業テーマを確認し、自身の関心や関連する経験について考えをまとめておくこと。授業後は配布資料・ノートをもとに授業内容を復習し、疑問点等を整理すること。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーは次回の授業内で紹介する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格として所定の単位を認定する。正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	小テスト(50%)、演習課題(20%)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	定期試験に代わるレポート	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず資料を配布する
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。

履修条件・他の科目との関連

欠席した回の資料はGoogle Classroomよりダウンロードし、自習すること。
「発達心理学Ⅰ」「障害児保育」を復習しておくこと。

授業コード	22046601	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	子どもの保健 [対面]				
シラバス執筆(全員)	織田 恵輔				
シラバス執筆(主)	織田 恵輔				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

授業の目的・概要

子どもの心身の健全な成長には、健康の保持及び増進が必要である。本講義では、子どもの発育・発達、運動機能や生理機能、心身の健康について説明し、子どもの生活行動と関連させながら健康の保持増進に必要な知識だけでなく、子どもによく見られる疾患事故の予防に必要な知識について概説する。

到達目標

到達目標

1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解し、実行できる。
2. 子どもの身体的な発育・発達と保健について理解し、判断できる。
3. 子どもの心身の健康状態とその把握の方法について理解し、実行できる。
4. 子どもの疾病とその予防法及び他職種間の連携・協働の下での適切な対応について理解し、具体的に説明できる。

授業計画

【第1回】

テーマ：子どもの心身の健康と保健の意義

- (1) 生命の保持と情緒の安定に係る保健活動の意義と目的

内容・方法：乳幼児の生命の保持、情緒の安定に必要な保健活動を説明する。

【第2回】

テーマ：子どもの心身の健康と保健の意義

- (2) 健康の概念と健康指標

内容・方法：乳幼児の健康の増進に必要な保健活動を説明する。

【第3回】

テーマ：子どもの心身の健康と保健の意義

- (3) 現代社会における子どもの健康に関する現状と課題

内容・方法：現代社会における乳幼児の健康の現状と課題を説明する。

【第4回】

テーマ：子どもの心身の健康と保健の意義

- (4) 地域における保健活動と児童虐待防止

内容・方法：児童虐待の定義と虐待防止の保健活動を説明する。

【第5回】

テーマ：子どもの身体的発育・発達と保健

- (1) 身体発育及び運動機能の発達と保健

内容・方法：乳幼児の成長の意義と身体発育を説明する

【第6回】

テーマ：子どもの身体的発育・発達と保健

- (2) 生理機能の発達と保健

内容・方法：乳幼児の生理機能（循環・呼吸・代謝）の発達と保健を説明する。

【第7回】

テーマ：子どもの身体的発育・発達と保健

- (3) 生理機能の発達と保健

内容・方法：乳幼児の生理機能（消化・排泄・免疫機能）の発達と保健を説明する。

【第8回】

テーマ：子どもの心身の健康状態とその把握

- (1) 健康状態の観察

内容・方法：乳幼児の健康状態の観察方法を説明する。

【第9回】

テーマ：子どもの心身の健康状態とその把握

- (2) 発育・発達の把握と健康診断

内容・方法：乳幼児の発育・発達を説明する。

【第10回】

テーマ：子どもの心身の健康状態とその把握

- (3) 発育・発達の把握と健康診断

内容・方法：健康診断の方法とその結果から乳幼児の発育・発達の評価を説明する。

【第11回】

テーマ：子どもの心身の健康状態とその把握

- (4) 保護者との情報共有

内容・方法：乳幼児の心身の健康状態の把握における保護者との情報共有の重要性とその方法を説明する。

【第12回】

テーマ：子どもの疾病の予防及び適切な対応

- (1) 主な疾病の特徴

内容・方法：乳幼児の疾病の特徴を説明する。

【第13回】

テーマ：子どもの疾病の予防及び適切な対応

(2) 子どもの疾病の予防と適切な対応

内容・方法：乳幼児の感染症や疾病の予防とその対応を説明する。

【第14回】

子どもの疾病の予防及び適切な対応

(3) 子どもの疾病の予防と適切な対応

内容・方法：乳幼児の疾病予防における関連職種と他職種間の連携・協働の必要性を説明する。

【第15回】

テーマ：授業のまとめ

内容・方法：これまでの授業内容の復習と確認を行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

①事前学習課題：参考書等で乳幼児の「健康」の概念について調べておく（2時間）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（2時間）。

【第2回】

①事前学習課題：参考書等で乳幼児の「健康」の概念について調べておく（2時間）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（2時間）。

【第3回】

①事前学習課題：参考書等で乳幼児の心身の健康について調べておく（2時間）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（2時間）。

【第4回】

①事前学習課題：参考書等で児童虐待について調べておく（2時間）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（2時間）。

【第5回】

①事前学習課題：参考書等で乳幼児の身体発育と運動機能の発達について調べておく（2時間）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（2時間）。

【第6回】

①事前学習課題：参考書等で乳幼児の生理機能の発達について調べておく（2時間）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（2時間）。

【第7回】

①事前学習課題：参考書等で乳幼児の生理機能の発達について調べておく（2時間）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（2時間）。

【第8回】

①事前学習課題：参考書等で健康状態の観察について調べておく（2時間）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（2時間）。

【第9回】

①事前学習課題：参考書等で健康状態の観察と健康診断について調べておく（2時間）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（2時間）。

【第10回】

①事前学習課題：参考書等で乳幼児の発育と発達の評価方法について調べておく（2時間）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（2時間）。

【第11回】

①事前学習課題：参考書等で乳幼児の心身の健康の把握における保護者との情報共有について調べておく（2時間）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（2時間）。

【第12回】

①事前学習課題：参考書等で乳幼児の主な疾病について調べておく（2時間）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（2時間）。

【第13回】

①事前学習課題：参考書等で乳幼児の疾病の予防と対応について調べておく（2時間）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（2時間）。

【第14回】

①事前学習課題：参考書等で乳幼児の疾病予防における多職種の連携・協働について調べておく（2時間）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（2時間）。

【第15回】

①事前学習課題：配布資料をよく読み、理解が不足している点を明らかにしておくこと（2時間）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（2時間）。

課題に対するフィードバックの方法

実施する課題について教室内で教員への提出直後に採点し、課題による学びは授業内で学生にフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

成績は授業への取り組み状況・受講態度、課題及び定期試験に代わるレポートの総合的評価により判定のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する。

受講態度とは、授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度のことであり、総合的に評価する。

課題は、課題への取り組みと課題の提出により評価する。

授業への出席は、全体の2/3を必須とし、正当な理由なく6回以上欠席した場合は評価の対象とせず「K」評価とする。
 なお、成績の評価は、授業の授業内評価やレポートを重視するため、欠席5回以下であっても所定の単位認定とならない場合がある。

授業の理解度を確認するためのレポートが未提出の場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業への取り組み状況・態度(40)、課題(20)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	授業の理解度を確認するためのレポート(40)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 毎回の授業に必要な資料を配布する
------	---------------------------------

参考書	子育て支援のための子ども保健学 中村肇監修 日本小児医事出版社 2,300円 子どもの保健 渡辺博編著 中山書店 2,100円 子どもの病気の地図帳 鴨下重彦・柳澤正義監修 講談社 4,200円 イラストによるお母さんへの子育てのアドバイスと育児相談 金子堅一郎・大塚親哉 南山堂 7,560円 イラストによるお母さんへの病気の説明と小児の診療 金子堅一郎・大塚親哉 南山堂 10,500円
-----	---

履修条件・他の科目との関連	2/3以上の出席がなければ単位認定できない。また、特別な理由のない30分以上の遅刻は欠席とし、3回の遅刻は1回の欠席とする。 授業で配る資料について、授業を欠席した学生は申し出があった場合、個別に対応をする。
---------------	---

授業コード	22051301	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	幼児と健康 [対面]				
シラバス執筆(全員)	織田 恵輔				
シラバス執筆(主)	織田 恵輔				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

この科目は幼稚園教育要領「健康」に示された専門的な知識と指導に関する基本的な内容を講義する。特に、幼児期における運動機能の発育発達や子どもに起こりやすい外傷における応急処置法などを説明する。

到達目標

授業の到達目標及びテーマ

1. 健康の定義と乳幼児期の健康の意義を説明できる。
2. 乳幼児期の心身の発達、運動発達などの健康課題を説明できる。
3. 乳幼児の体の発達の特徴、それに応じた基本的な生活習慣の形成とその意義を説明できる。
4. 乳幼児期の運動発達の特徴、幼児期における動きの多様性の獲得とその意義を説明できる。
5. 幼児の安全教育・健康管理に関する基本的な考え方を説明できる。
6. 幼児期の怪我の特徴、病気の予防、危険に関するリスクとハザードの違いと安全管理を説明できる。
7. 日常生活における幼児の動きの経験やその配慮など身体活動の在り方を説明できる。

授業計画

- 【第1回】領域「健康」とは
健康の定義と乳幼児における健康の意義、5領域の考え方と健康の内容およびねらいを解説
- 【第2回】乳幼児における発育発達について
乳幼児期における身体の発育発達、生理的機能の発育発達について解説
- 【第3回】乳幼児における生活習慣
正しい生活リズムの重要性とバランスが崩れた際の悪影響、生活習慣（食事や睡眠など）の発育発達について解説
- 【第4回】：免疫機能の発育発達
子どもの免疫力獲得における発育発達、免疫システムについて解説
- 【第5回】：保育現場でのリスクマネジメントについて
子どもに対する安全への配慮の重要性、安全管理の必要性を解説
- 【第6回】感染症や病気の予防・外傷の対応について
幼児期に発生しやすい病気や外傷（怪我）に対する基礎知識・予防法や応急処置法を解説
- 【第7回】：社会性の発育発達について
乳・幼児における社会性の発育発達や社会性を育てる方法について解説
- 【第8回】幼児期運動指針について
子どもにとっての遊び（多様な動き）とは、適正な遊びの内容や時間、その効果について解説

事前事後の学習

授業と事前事後を含めて、計45時間の学修が必要です。

- 【第1回】
- ①事前学修課題：子どもの健康において何が大事か自分の意見を述べるよう考えておく。
 - ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
- 【第2回】
- ①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
 - ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
- 【第3回】
- ①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
 - ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
- 【第4回】
- ①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
 - ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
- 【第5回】
- ①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
 - ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
- 【第6回】
- ①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
 - ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
- 【第7回】
- ①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
 - ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。
- 【第8回】
- ①事前学修課題：事前配布資料を読んでおくこと。
 - ②事後学修課題：振り返りプリントを用い、学習内容の振り返り及び回答をすること。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題に対し、授業内で復習と合わせてコメントをする。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とする。
授業に対する取り組み(40%)、レポート(20%)、定期試験に代わるレポート(40%)

授業への出席は、全体の2/3を必須とし、正当な理由なく6回以上欠席した場合は評価の対象とせず「K」評価とする。

なお、成績の評価は、授業内評価やレポートを重視するため、欠席5回以下であっても所定の単位認定とならない場合がある。

授業の理解度を確認するためのレポートが未提出の場合は「K」評価とする。

特別な理由がない30分以上の遅刻は欠席とし、3回の遅刻は1回の欠席とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	授業に対する取り組み	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
授業外での評価	20	レポート	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	レポート	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 毎回の授業ごとに資料の配布をCasroom上にアップロードする。
------	---

参考書	* インターネットにてダウンロード可能 文部科学省「幼稚園教育要領」 厚生労働省「保育所保育指針」 内閣府・文部科学省・厚生労働省「幼保連携認定こども園教育保育要領」
-----	--

履修条件・他の科目との関連	授業を欠席した場合には、自己申請があった場合、授業で配布するプリントなどについて個別に対応を行う
---------------	--

授業コード	22051401	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	幼児と人間関係 [対面]				
シラバス執筆(全員)	大塚 穂波				
シラバス執筆(主)	大塚 穂波				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における領域「人間関係」のねらいと内容に関する基礎的理論をふまえ、幼児が人とどのようにかかわりながら育つかについて概説する。また、幼児の人間関係の育ちを支えるために保育・幼児教育で保障すべき教育内容を学ぶため、ペアワークを実施する。

到達目標

1. 領域「人間関係」に関する基本的事項や幼児期の人間関係の発達について、各時期の発達の姿と合わせて説明することができる
2. 幼児の人とのかかわりについて、保育者や子どもどうしを含む集団の育ちの観点から説明することができる

授業計画

- 第1回 イン트로ダクション：現代における幼児の人間関係の特徴
- 第2回 3法令にみる人間関係：幼児期に育みたい資質・能力、園や家庭、地域の生活と人とのかかわり
- 第3回 3歳未満児における人間関係の発達
- 第4回 幼児期における人間関係の発達
- 第5回 遊びの中で育つ人とのかかわり(1)：イメージの共有
- 第6回 遊びの中で育つ人とのかかわり(2)：自立心・協同性の育ち
- 第7回 遊びの中で育つ人とのかかわり(3)：協同的な遊びといざこざ
- 第8回 人とのかかわりを支える保育者の役割

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

資料を通読して授業内容を予習し、毎回の授業への取り組みについて自分なりの目標を決めること。また、授業後にはペアワークを通して学んだことを文章にまとめること。

課題に対するフィードバックの方法

課題は授業内で解説する。また、ペアワークはその場で講評と補足説明を行う。レポート課題の結果については希望者に対して開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格として所定の単位を認定する。正当な理由がある場合を除き、出席が6回に満たない場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	課題の達成度(30%)、ペアワークシート(30%)	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	全授業終了後に実施するレポート	1, 2
その他	0		

テキスト テキストは使用せず資料を配布する。

参考書 幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示 内閣府 文部科学省 厚生労働省)

履修条件・他の科目との関連 欠席した回の資料はGoogle Classroomよりダウンロードし、自習すること。

授業コード	22051501	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	幼児と環境 [対面]				
シラバス執筆(全員)	古海 忍				
シラバス執筆(主)	古海 忍				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

領域「環境」の幼児教育における位置付けを知り、幼児を取り巻く環境の捉え方や現代的課題、発達との関わり、数量・図形、自然、標識・文字等、情報や施設など、幼児の身近な環境への関わり方について学ぶ。講義形式で概説を行うとともに、学生の理解度を測り、学生同士の学び合いを意識しながら授業を進める。

到達目標

1. 幼児の発達過程において幼児を取り巻く物的・人的・社会的環境や安全等の重要性を説明できる。
2. 幼児と環境との関わり方について幼児の能動性や好奇心、探求心、有能感等などの専門的概念を交えて説明できる。
3. 乳幼児期の認知的な発達の特徴を踏まえ、数量・図形、自然、標識・文字等、生活に深く関係する情報・施設と、それらへの興味・関心、それらとの関わり方を説明できる。
4. 知識基盤社会及び持続可能な開発のための教育（ESD）などの現代的課題について説明できる。

授業計画

- 第1回：幼児を取り巻く環境（物的・人的・社会的環境、安全等）
 - 第2回：乳幼児期の認知的発達の特徴と発達における環境との関わり
 - 第3回：乳幼児期の数量・図形との関わり
 - 第4回：乳幼児の自然との関わり（幼児の生き物や自然への興味・関心、捉え方）
 - 第5回：乳幼児の自然との関わり（自然物を使った遊び、飼育や栽培）
 - 第6回：乳幼児の標識・文字等との関わり
 - 第7回：乳幼児の情報・施設との関わり
 - 第8回：現代的課題（知識基盤社会、ESD）
- 定期試験は実施せず、期末レポートを課す。

事前事後の学習

授業と事前事後を含めて、計45時間の学修が必要です。

各授業で学んだ事項を復習し、実際の保育場面と関連づけながら自分の言葉で説明できるようにしておくこと。

課題に対するフィードバックの方法

各授業内で行った課題については、Google Classroom 等を通じてコメントを付したり、授業内で振り返りを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

各授業内で行う課題と最終的な期末レポートを総合的に評価する。60点以上を合格とするが、期末レポートの提出は必須とし、提出されない場合は単位を認定しない。この授業は全8回の授業であるため、出席が6回に満たない場合は評価不能（K）となり、単位を認定することはできない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業中に記入するワークシート	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	期末レポート	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	<p>新訂 事例で学ぶ保育内容 領域 環境 無藤隆 監修 福元真由美 編者代表 萌文書林 2000円＋税 978-4-89347-258-8</p>
------	---

参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
履修条件・他の科目との関連	保育内容の指導法(環境)で実際の保育内容について学ぶための基礎となる。 他の4つの領域と重なり合いつつ、総合的に保育が実践されるため、「幼児と健康」、「幼児と人間関係」、「幼児と言葉」、「幼児と表現」と関連付けながら履修すること。

授業コード	22051601	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	幼児と言葉 [対面]				
シラバス執筆(全員)	吉田 貴子				
シラバス執筆(主)	吉田 貴子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

言葉の獲得に関する領域「言葉」において、基礎となる専門事項である「言葉のもつ意義と機能」「言葉に対する感覚を豊かにする実践と児童文化財」についての概説する。
 幼児の言葉の習得過程を理解し、言葉に対する感覚を豊かにする実践の在り方と教材について説明する。

到達目標

1. 人間にとっての言葉の意義や機能を理解し、話し言葉や書き言葉などの意義と機能について説明できる。
2. 乳幼児の言葉の発達過程と、言葉の機能への気付きについて説明できる。
3. 言葉に対する感覚を豊かにする実践について理解し、基礎的な知識を活かせる。
4. 言葉の楽しさや美しさに気付き、言葉を豊かにする実践を、幼児の発達の姿と合わせて説明できる。
5. 幼児にとっての児童文化財についての意義を理解し、基礎的な知識を活かせる。
6. 幼児の発達における児童文化財（絵本、紙芝居、ペープサート、パネルシアター等）の意義について理解し、発達に適した児童文化財を考えることができる。

授業計画

- 第1回：言葉のもつ意義と機能
 第2回：乳幼児の言葉の発達過程-誕生から書き言葉の習得まで
 第3回：言葉に対する感覚を豊かにする実践-幼児の発達に合わせた保育者のコミュニケーション
 第4回：言葉の楽しさや美しさに気付く実践とは-言葉遊びのいろいろと保育への取り入れ方
 第5回：言葉を豊かにする実践-保育環境が与える影響
 第6回：幼児にとっての児童文化財-言葉の育ちを促し、想像する楽しさを広げよう
 第7回：言葉を育てる児童文化財の実際-種類や保育への取り入れ方
 第8回：想像する楽しさを広げる児童文化財の実際-幼児と物語を読もう（模擬保育）

事前事後の学習

授業と事前事後を含めて、計45時間の学修が必要です。

- 【第1回】
 ①事前学修課題：テキストで、言葉のもつ意義と機能に関する部分を読んでおくこと。
 ②事後学修課題：言葉のもつ意義について、自分の経験を踏まえて整理すること。
- 【第2回】
 ①事前学修課題：乳幼児の言葉の発達過程について、テキストで読んでおくこと。
 ②事後学修課題：言葉の発達過程をまとめ、年齢に合わせた特徴を理解すること。
- 【第3回】
 ①事前学修課題：発達に合わせた保育者のコミュニケーションとは何か、調べてみること。
 ②事後学修課題：発達に合わせた保育者の適切なコミュニケーションについて復習すること。
- 【第4回】
 ①事前学修課題：言葉遊びの種類についてテキストで確認すること。
 ②事後学修課題：保育で取り入れたい言葉遊びについてまとめ、実践の準備をすること。
- 【第5回】
 ①事前学修課題：保育環境と言語の発達との関係について、テキストを読みながら考えること。
 ②事後学修課題：言葉の発達を促す理想の保育環境についてまとめること。
- 【第6回】
 ①事前学修課題：幼児にとっての児童文化財とは何か調べること。
 ②事後学修課題：授業で学んだ児童文化財について、各年齢に適した内容を考えること。
- 【第7回】
 ①事前学修課題：保育へ取り入れたい児童文化財を選び、具体的にイメージすること。
 ②事後学修課題：模擬保育に向けて準備すること。
- 【第8回】
 ①事前学修課題：模擬保育にむけて練習すること。
 ②事後学修課題：模擬保育を振り返り、改善点についてまとめること。

課題に対するフィードバックの方法

受け取った課題に、コメントを返してフィードバックし、その後の授業で説明する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	授業内での発表(30)、模擬保育(20)、課題(30)	2, 4, 5, 6
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート(20)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	谷田貝公昭・廣澤満之 編著(2018)『新版 実践保育内容シリーズ4 言葉』一藝社 ISBN 9784863591592 ¥2,200
------	--

参考書	幼稚園教育要領、幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説
-----	--

履修条件・他の科目との関連	卒業必修であり、幼稚園教諭免許、保育士資格取得のために必要な科目である。 保育内容の指導法(言葉)と関連する科目である。講義で学んだことが、保育実践につながるように復習すること。 欠席者には、資料をGoogle Classroomに掲示する。
---------------	---

授業コード	22051701	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	幼児と表現 [対面]				
シラバス執筆(全員)	渡邊 詩子、玉井 久実代、作野 理恵				
シラバス執筆(主)	渡邊 詩子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

身体・造形・音楽表現など様々な表現の基礎的な知識および技能、幼児の感性や創造性を育むための表現遊びや環境構成などを説明する。
授業は各教員によるオムニバス形式中心で行う。

到達目標

1. 幼児の表現する姿やその発達を理解し、説明することができる。
2. 幼児の表現活動を支えるための感性を豊かにし、自分なりの表現を実践することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。

授業計画

- 【第1回】 授業概要「幼児と表現」の授業内容を理解する。 角地もしくは渡邊もしくは作野もしくは玉井
- 【第2回】 身近な自然物に着目し、造形表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。 角地もしくは渡邊
- 【第3回】 身近な自然物に着目し、音楽表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。 作野
- 【第4回】 身近な自然物に着目し、身体表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。 玉井
- 【第5回】 ドキュメンテーションを活用し、自然物に着目した総合的な表現活動の学びをまとめる。 角地もしくは渡邊もしくは作野もしくは玉井
- 【第6回】 生活の中にあるものに目を向け、造形表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。 角地もしくは渡邊
- 【第7回】 生活の中にあるものに目を向け、音楽表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。 作野
- 【第8回】 生活の中にあるものに目を向け、身体表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。 玉井
- 【第9回】 ドキュメンテーションを活用し、生活の中にあるものに着目した総合的な表現活動の学びをまとめる。 角地もしくは渡邊もしくは作野もしくは玉井
- 【第10回】 文化に関する表現に触れ、造形表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。 角地もしくは渡邊
- 【第11回】 文化に関する表現に触れ、音楽表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。 作野
- 【第12回】 文化に関する表現に触れ、身体表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。 玉井
- 【第13回】 ドキュメンテーションを活用し、文化に関する総合的な表現活動の学びをまとめる。 角地もしくは渡邊もしくは作野もしくは玉井
- 【第14回】 ICTを活用して総合的な表現活動の発表準備を行う。 角地もしくは渡邊もしくは作野もしくは玉井
- 【第15回】 ICTを活用して総合的な表現活動の発表を行う。 角地もしくは渡邊もしくは作野もしくは玉井

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後学習をあわせて、1単位あたり45時間が必要です。
1回の授業につき、事前事後合わせて1時間以上の学習が必要です。

- 【第1回】
 - ①事前学習課題：シラバスを確認する。
 - ②事後学習課題：授業内容を確認する。
- 【第2～4回】
 - ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
 - ②事後学習課題：学習したことを整理する。
- 【第5回】
 - ①事前学習課題：第2～4回の授業を振り返り、発表資料作成の準備を行う。
 - ②事後学習課題：第2～4回の総合表現の学びについて、整理する。
- 【第6～8回】
 - ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
 - ②事後学習課題：学習したことを整理する。
- 【第9回】
 - ①事前学習課題：第6～8回の授業を振り返り、発表資料作成の準備を行う。
 - ②事後学習課題：第6～8回の総合表現の学びについて、整理する。
- 【第10～12回】
 - ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
 - ②事後学習課題：学習したことを整理する。
- 【第13回】
 - ①事前学習課題：第10～12回の授業を振り返り、発表資料作成の準備を行う
 - ②事後学習課題：第10～12回の総合表現の学びについて、整理する。

【第14～15回】

- ①事前学習課題：幼児の総合表現について、総括の準備を行う。
- ②事後学習課題：幼児の総合表現について、学びの総括を整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
 3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。
 定期試験に代わるレポートの提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	85	授業全体の学びに向かう過程の評価(75)、ポスター発表(10)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	レポート	1
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、資料の配布もしくはclassroomへの提示を行う。
------	--

参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
-----	------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	卒業科目及び幼稚園教諭免許の必修科目である。 「保育内容の指導法(表現・総合)」に関連する授業である。 各回に必要な準備物や服装、および教室は担当教員に確認すること。 授業で用いる写真や動画等は、取り扱いに十分注意すること。 配当施設や進捗状況に応じて、授業計画を変更することがある。 欠席時に配布された資料は、担当教員に申し出て受け取ること。
---------------	---

授業コード	22051703	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	幼児と表現 [対面]				
シラバス執筆(全員)	角地 佳子、玉井 久実代、作野 理恵				
シラバス執筆(主)	角地 佳子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

身体・造形・音楽表現など様々な表現の基礎的な知識および技能、幼児の感性や創造性を育むための表現遊びや環境構成などを説明する。
授業は各教員によるオムニバス形式中心で行う。

到達目標

1. 幼児の表現する姿やその発達を理解し、説明することができる。
2. 幼児の表現活動を支えるための感性を豊かにし、自分なりの表現を実践することができる。
3. 協働して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。

授業計画

- 【第1回】 授業概要「幼児と表現」の授業内容を理解する。 角地もしくは渡邊もしくは作野もしくは玉井
- 【第2回】 身近な自然物に着目し、造形表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。 角地もしくは渡邊
- 【第3回】 身近な自然物に着目し、音楽表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。 作野
- 【第4回】 身近な自然物に着目し、身体表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。 玉井
- 【第5回】 ドキュメンテーションを活用し、自然物に着目した総合的な表現活動の学びをまとめる。 角地もしくは渡邊もしくは作野もしくは玉井
- 【第6回】 生活の中にあるものに目を向け、造形表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。 角地もしくは渡邊
- 【第7回】 生活の中にあるものに目を向け、音楽表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。 作野
- 【第8回】 生活の中にあるものに目を向け、身体表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。 玉井
- 【第9回】 ドキュメンテーションを活用し、生活の中にあるものに着目した総合的な表現活動の学びをまとめる。 角地もしくは渡邊もしくは作野もしくは玉井
- 【第10回】 文化に関する表現に触れ、造形表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。 角地もしくは渡邊
- 【第11回】 文化に関する表現に触れ、音楽表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。 作野
- 【第12回】 文化に関する表現に触れ、身体表現を中心とした総合的な表現活動を実践する。 玉井
- 【第13回】 ドキュメンテーションを活用し、文化に関する総合的な表現活動の学びをまとめる。 角地もしくは渡邊もしくは作野もしくは玉井
- 【第14回】 ICTを活用して総合的な表現活動の発表準備を行う。 角地もしくは渡邊もしくは作野もしくは玉井
- 【第15回】 ICTを活用して総合的な表現活動の発表を行う。 角地もしくは渡邊もしくは作野もしくは玉井

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後学習をあわせて、1単位あたり45時間が必要です。
1回の授業につき、事前事後合わせて1時間以上の学習が必要です。

- 【第1回】
 - ①事前学習課題：シラバスを確認する。
 - ②事後学習課題：授業内容を確認する。
- 【第2～4回】
 - ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
 - ②事後学習課題：学習したことを整理する。
- 【第5回】
 - ①事前学習課題：第2～4回の授業を振り返り、発表資料作成の準備を行う。
 - ②事後学習課題：第2～4回の総合表現の学びについて、整理する。
- 【第6～8回】
 - ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
 - ②事後学習課題：学習したことを整理する。
- 【第9回】
 - ①事前学習課題：第6～8回の授業を振り返り、発表資料作成の準備を行う。
 - ②事後学習課題：第6～8回の総合表現の学びについて、整理する。
- 【第10～12回】
 - ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
 - ②事後学習課題：学習したことを整理する。
- 【第13回】
 - ①事前学習課題：第10～12回の授業を振り返り、発表資料作成の準備を行う
 - ②事後学習課題：第10～12回の総合表現の学びについて、整理する。

【第14～15回】

- ①事前学習課題：幼児の総合表現について、総括の準備を行う。
- ②事後学習課題：幼児の総合表現について、学びの総括を整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
 3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。
 定期試験に代わるレポートの提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	85	授業全体の学びに向かう過程の評価(75)、ポスター発表(10)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	15	レポート	1
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、資料の配布もしくはclassroomへの提示を行う。
------	--

参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
-----	------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	卒業科目及び幼稚園教諭免許の必修科目である。 「保育内容の指導法(表現・総合)」に関連する授業である。 各回に必要な準備物や服装、および教室は担当教員に確認すること。 授業で用いる写真や動画等は、取り扱いに十分注意すること。 配当施設や進捗状況に応じて、授業計画を変更することがある。 欠席時に配布された資料は、担当教員に申し出て受け取ること。
---------------	---

授業コード	22051801	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	音楽（基礎）a [対面]				
シラバス執筆(全員)	作野 理恵、光本 諭史、山手 敦子、濱谷 田穂、蜂谷 葉子、平田 道子、大和 千穂				
シラバス執筆(主)	作野 理恵				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本科目は1コマ内でピアノ実技レッスンと音楽理論講義を45分間ずつ受ける授業で、ピアノ・レッスンでは主に『バイエル』『ブルクミュラー』『ソナチネ』『ソナタ』を教材として使用しながらピアノ奏法・表現方法について説明をする。

ピアノは10本の指で同時に音を奏でることができ、多彩な音楽表現が可能な楽器である故に、保育・教育現場においても幅広く活用されている。その保育・教育現場で必要となる演奏技術・表現力・読譜力を養うことを目標とした指導を行う。また、保育現場で扱う幼児歌曲や生活の歌を取り上げ、弾き歌い技能を養う。

音楽理論授業においては、保育者が保育現場において音楽活動をする際に必要となる音楽の理論、並びに読譜に必要な知識を概説する。楽譜通りに演奏するために必要な知識を習得し、正確に演奏することが出来るようになることを目的とする。記譜法に始まり、西洋音楽の基礎である音階の成り立ちから、ハーモニーに至るまで幅広く説明する。テキストと並行して五線譜や鍵盤を用いながら実践することにより、リズムを体感し、実際の演奏に役立てるようにする。

到達目標

ピアノ実技

1. 基礎教材曲、幼児歌曲の読譜ができる
2. 正しい運指で演奏することができる
3. 手、腕が脱力した状態で演奏できる
4. 基礎教材曲を暗譜で演奏することができる
5. 曲調に合った演奏表現ができる
6. 幼児歌曲の弾きうたいができる
7. 課題曲の予習・復習ができています

音楽理論

1. 五線譜上の音を読むことができる
2. 記譜されている音符のリズムを正確に打つことができる
3. 簡易な音程を判断できる
4. 簡易なコードを演奏することができる
5. 演奏記号について説明できる
6. 記譜通りに演奏することができる

授業計画

ピアノ実技

【第1回】

テーマ：授業のガイダンス

内容・方法：授業の進め方、概要の説明

(以下は習得のモデルである。課題曲は個々に指定する。)

【第2回】

テーマ：ピアノ・レッスン①

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル 8番、12番
弾きうたい ちょうちょう

【第3回】

テーマ：ピアノ・レッスン②

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル8番、12番、15番
弾きうたい ちょうちょう

【第4回】

テーマ：ピアノ・レッスン③

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル15番、18番、25番
弾きうたい チューリップ

【第5回】

テーマ：ピアノ・レッスン④

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル18番、25番、29番
弾きうたい チューリップ

【第6回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑤

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル29番、31番、39番
弾きうたい ぶんぶんぶん

【第7回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑥

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル31番、39番、46番

弾きうたい ぶんぶんぶん

【第8回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑦

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル46番、58番

弾きうたい ぶんぶんぶん

【第9回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑧

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル58番、音階

弾きうたい かたつむり

【第10回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑨

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル59番、60番

弾きうたい かたつむり

【第11回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑩

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル60番、66番

弾きうたい かたつむり

【第12回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑪

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル66番、78番

弾きうたい きらきらぼし

【第13回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑫

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル78番、81番

弾きうたい きらきらぼし

【第14回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑬＋リハーサル

内容・方法：学期末演奏発表に向けてピアノ基礎教材曲、弾きうたい幼児歌曲各1曲ずつの授業内リハーサル

【第15回】

テーマ：ピアノ基礎教材曲と弾きうたい幼児歌曲の演奏発表、及び前期のふり返し

内容・方法：ピアノ基礎教材曲・弾き歌い曲を仕上げ、リハーサル等により実技定期試験に備える。

【定期試験】

2曲の演奏発表後に振り返りを行い、次の課題を選定する。

音楽理論

【第1回】

テーマ：五線と音の長さ

内容・方法：五線の名前、加線、代表的な音部記号、オクターブ記号、例題と解説

【第2回】

テーマ：音名と変化記号

内容・方法：白鍵、黒鍵、＃とb、変化記号、異名同音、例題と解説

【第3回】

テーマ：音符と休符1

内容・方法：音符の名前、音符と休符の種類 例題と解説

【第4回】

テーマ：音符と休符2

内容・方法：付点音符と休符、複付点音符、3連符、例題と解説

【第5回】

テーマ：拍子1

内容・方法：拍と拍子、拍子記号、拍子の種類、例題と解説

【第6回】

テーマ：拍子2

内容・方法：強拍と弱拍、シンコペーション、アウフタクト、例題と解説

【第7回】

テーマ：記号と楽語1

内容・方法：強弱記号、速度標語、メトロノーム記号、発想標語、例題と解説

【第8回】

テーマ：記号と楽語2

内容・方法：アーティキュレーション、装飾音と略記法、くり返し記号、例題と解説

【第9回】

テーマ：音程1

内容・方法：音程の度数、音程の種類、例題と解説

【第10回】

テーマ：音程2

内容・方法：更に詳しい音程の種類と見分け方、例題と解説

【第11回】

テーマ：音階1

内容・方法：長音階、短音階、例題と解説

【第12回】

テーマ：音階2

内容・方法：近親調、転調と移調、いろいろな音階、例題と解説

【第13回】

テーマ：和音1

内容・方法：和音の種類、三和音の種類、例題と解説

【第14回】

テーマ：和音2

内容・方法：コードネーム、七の和音、基本形と転回形、例題と解説

【第15回】

テーマ：まとめと確認

内容・方法：総復習として学んだことのまとめ確認、そしてその解説を行う。

【定期試験】

音楽理論筆記試験の実施

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

ピアノ実技

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。

授業と事前事後の合わせて1単位あたり45時間必要である。

【第1回】

①事前学修課題：シラバスを読んでおくこと。入学前に練習した課題の曲を練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で受けた指導をもとに復習する。

【第2回～第11回】

①事前学修課題：課題曲の読譜を行う。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で受けた指導をもとに復習する。

【第12回～14回】

①事前学修課題：課題曲を練習して、授業・発表に備える。

②事後学修課題：授業で受けた曲を復習し、仕上げる。

【第15回】

①事前学修課題：課題曲の演奏発表。

②事後学修課題：学期のふりかえりを行う。

音楽理論

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後の合わせて1単位あたり45時間が必要である。

知識として理解した後に実際に音を出してみる事が大切である。従って毎回の授業前にテキストをよく読み、授業後は学んだことをピアノ等の鍵盤楽器を用いて実際に確認することが必要となるため、各回につき事前・事後合わせて4時間程度の学習が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

ピアノ実技

各回のレッスンで指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスンで確認する。

音楽理論

毎回、授業内・外で確認のための課題を実施する。それを元に次回の授業で解説するゆえ、自己採点と復習に役立てるように。

成績評価の方法・基準(方針)

ピアノ実技

学期末試験でのピアノ基礎教材課題曲暗譜演奏を評価する。

幼児歌曲の弾き歌いを評価する。

毎回の予習・復習と課題曲への取り組み状況を評価する。

曲調に合った演奏ができているか評価する。

試験、課題取り組み度等の総合点60点以上を合格とする。

授業はマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう気をつけること。3回遅刻した場合を1回の欠席とする。15分以上遅刻した場合は欠席とみなす。

授業開始時間から15分迄を遅刻とする。

正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

音楽理論

以下に示す通り、授業内・外での課題取り組み状況と、定期試験の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とする。

正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

ピアノ実技、音楽理論の授業内外評価+試験の総合点で、それぞれに60点以上を取ることで所定の単位を認定する。

乃ち100点満点中、ピアノ50点、音楽理論50点で、各30点以上の合計点を必要とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	ピアノ実技 授業内における課題曲の取り組み姿勢 (10) 音楽理論 授業内で出される課題の取り組み状況(25)	ピアノ実技1, 2, 3, 4, 5, 6 音楽理論1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	10	ピアノ実技 課題曲の予習・復習(10)	ピアノ実技7音楽理論4, 6

定期試験	55	ピアノ実技 定期試験(基礎教材曲1曲 幼児歌曲1曲)(30) 音楽理論 定期試験(25)	ピアノ実技2, 3, 4, 5, 6 音楽理論1, 2, 3, 5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	<p>ピアノ実技 『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版製作(購入不要) 『最新・幼児の音楽教育 改訂版』/井口太編著/朝日出版社 / 978-4-255-15725-2 2750円 基礎教材の『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』を習得した場合は、それぞれの能力に応じた課題を個人レスナーより指示する。</p> <p>音楽理論 『実践 大人のための音楽ワーク テキスト』 ヤマハミュージックメディア ISBN4-636-80155-5 1210円</p>		
------	---	--	--

参考書	必要に応じて紹介、配付する。		
-----	----------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	<p>ピアノ実技 全音楽関係科目履修時にピアノは基本となる楽器である故、与えられた課題を意欲的に練習し、理解・向上に努める。</p> <p>音楽理論 五線紙を持参する。(課題を提出して貰うことがあるので、五線紙は切り離せるものが便利である。) 本授業内容を理解することにより、楽器演奏の際の読譜力、及び他の音楽科目における技術習得がスムーズに行えるようになる故、真摯に取り組むこと。</p>		
---------------	---	--	--

授業コード	22051802	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	音楽（基礎）a [対面]				
シラバス執筆(全員)	作野 理恵、光本 諭史、寺見 香織、錦見 朋子、蜂谷 葉子、福原 千織、山内 由香				
シラバス執筆(主)	作野 理恵				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本科目は1コマ内でピアノ実技レッスンと音楽理論講義を45分間ずつ受ける授業で、ピアノ・レッスンでは主に『バイエル』『ブルクミュラー』『ソナチネ』『ソナタ』を教材として使用しながらピアノ奏法・表現方法について説明をする。

ピアノは10本の指で同時に音を奏でることができ、多彩な音楽表現が可能な楽器である故に、保育・教育現場においても幅広く活用されている。その保育・教育現場で必要となる演奏技術・表現力・読譜力を養うことを目標とした指導を行う。また、保育現場で扱う幼児歌曲や生活の歌を取り上げ、弾き歌い技能を養う。

音楽理論授業においては、保育者が保育現場において音楽活動をする際に必要となる音楽の理論、並びに読譜に必要な知識を概説する。楽譜通りに演奏するために必要な知識を習得し、正確に演奏することが出来るようになることを目的とする。記譜法に始まり、西洋音楽の基礎である音階の成り立ちから、ハーモニーに至るまで幅広く説明する。テキストと並行して五線譜や鍵盤を用いながら実践することにより、リズムを体感し、実際の演奏に役立てるようにする。

到達目標

ピアノ実技

1. 基礎教材曲、幼児歌曲の読譜ができる
2. 正しい運指で演奏することができる
3. 手、腕が脱力した状態で演奏できる
4. 基礎教材曲を暗譜で演奏することができる
5. 曲調に合った演奏表現ができる
6. 幼児歌曲の弾きうたいができる
7. 課題曲の予習・復習ができています

音楽理論

1. 五線譜上の音を読むことができる
2. 記譜されている音符のリズムを正確に打つことができる
3. 簡易な音程を判断できる
4. 簡易なコードを演奏することができる
5. 演奏記号について説明できる
6. 記譜通りに演奏することができる

授業計画

ピアノ実技

【第1回】

テーマ：授業のガイダンス

内容・方法：授業の進め方、概要の説明

(以下は習得のモデルである。課題曲は個々に指定する。)

【第2回】

テーマ：ピアノ・レッスン①

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル 8番、12番
弾きうたい ちょうちょう

【第3回】

テーマ：ピアノ・レッスン②

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル8番、12番、15番
弾きうたい ちょうちょう

【第4回】

テーマ：ピアノ・レッスン③

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル15番、18番、25番
弾きうたい チューリップ

【第5回】

テーマ：ピアノ・レッスン④

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル18番、25番、29番
弾きうたい チューリップ

【第6回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑤

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル29番、31番、39番
弾きうたい ぶんぶんぶん

【第7回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑥

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル31番、39番、46番

弾きうたい ぶんぶんぶん

【第8回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑦

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル46番、58番

弾きうたい ぶんぶんぶん

【第9回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑧

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル58番、音階

弾きうたい かたつむり

【第10回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑨

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル59番、60番

弾きうたい かたつむり

【第11回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑩

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル60番、66番

弾きうたい かたつむり

【第12回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑪

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル66番、78番

弾きうたい きらきらぼし

【第13回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑫

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル78番、81番

弾きうたい きらきらぼし

【第14回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑬＋リハーサル

内容・方法：学期末演奏発表に向けてピアノ基礎教材曲、弾きうたい幼児歌曲各1曲ずつの授業内リハーサル

【第15回】

テーマ：ピアノ基礎教材曲と弾きうたい幼児歌曲の演奏発表、及び前期のふり返し

内容・方法：ピアノ基礎教材曲・弾き歌い曲を仕上げ、リハーサル等により実技定期試験に備える。

【定期試験】

2曲の演奏発表後に振り返りを行い、次の課題を選定する。

音楽理論

【第1回】

テーマ：五線と音の長さ

内容・方法：五線の名前、加線、代表的な音部記号、オクターブ記号、例題と解説

【第2回】

テーマ：音名と変化記号

内容・方法：白鍵、黒鍵、＃とb、変化記号、異名同音、例題と解説

【第3回】

テーマ：音符と休符1

内容・方法：音符の名前、音符と休符の種類 例題と解説

【第4回】

テーマ：音符と休符2

内容・方法：付点音符と休符、複付点音符、3連符、例題と解説

【第5回】

テーマ：拍子1

内容・方法：拍と拍子、拍子記号、拍子の種類、例題と解説

【第6回】

テーマ：拍子2

内容・方法：強拍と弱拍、シンコペーション、アウフタクト、例題と解説

【第7回】

テーマ：記号と楽語1

内容・方法：強弱記号、速度標語、メトロノーム記号、発想標語、例題と解説

【第8回】

テーマ：記号と楽語2

内容・方法：アーティキュレーション、装飾音と略記法、くり返し記号、例題と解説

【第9回】

テーマ：音程1

内容・方法：音程の度数、音程の種類、例題と解説

【第10回】

テーマ：音程2

内容・方法：更に詳しい音程の種類と見分け方、例題と解説

【第11回】

テーマ：音階1

内容・方法：長音階、短音階、例題と解説

【第12回】

テーマ：音階2

内容・方法：近親調、転調と移調、いろいろな音階、例題と解説

【第13回】

テーマ：和音1

内容・方法：和音の種類、三和音の種類、例題と解説

【第14回】

テーマ：和音2

内容・方法：コードネーム、七の和音、基本形と転回形、例題と解説

【第15回】

テーマ：まとめと確認

内容・方法：総復習として学んだことのまとめ確認、そしてその解説を行う。

【定期試験】

音楽理論筆記試験の実施

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

ピアノ実技

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。

授業と事前事後の合わせて1単位あたり45時間必要である。

【第1回】

①事前学修課題：シラバスを読んでおくこと。入学前に練習した課題の曲を練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で受けた指導をもとに復習する。

【第2回～第11回】

①事前学修課題：課題曲の読譜を行う。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で受けた指導をもとに復習する。

【第12回～第14回】

①事前学修課題：課題曲を練習して、授業・発表に備える。

②事後学修課題：授業で受けた曲を復習し、仕上げる。

【第15回】

①事前学修課題：課題曲の演奏発表。

②事後学修課題：学期のふりかえりを行う。

音楽理論

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後の合わせて1単位あたり45時間が必要である。

知識として理解した後に実際に音を出してみる事が大切である。従って毎回の授業前にテキストをよく読み、授業後は学んだことをピアノ等の鍵盤楽器を用いて実際に確認することが必要となるため、各回につき事前・事後合わせて4時間程度の学習が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

ピアノ実技

各回のレッスンで指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスンで確認する。

音楽理論

毎回、授業内・外で確認のための課題を実施する。それを元に次回の授業で解説するゆえ、自己採点と復習に役立てるように。

成績評価の方法・基準(方針)

ピアノ実技

学期末試験でのピアノ基礎教材課題曲暗譜演奏を評価する。

幼児歌曲の弾き歌いを評価する。

毎回の予習・復習と課題曲への取り組み状況を評価する。

曲調に合った演奏ができているか評価する。

試験、課題取り組み度等の総合点60点以上を合格とする。

授業はマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう気をつけること。3回遅刻した場合を1回の欠席とする。15分以上遅刻した場合は欠席とみなす。

授業開始時間から15分迄を遅刻とする。

正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

音楽理論

以下に示す通り、授業内・外での課題取り組み状況と、定期試験の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とする。

正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

ピアノ実技、音楽理論の授業内外評価+試験の総合点で、それぞれに60点以上を取ることで所定の単位を認定する。

乃ち100点満点中、ピアノ50点、音楽理論50点で、各30点以上の合計点を必要とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	ピアノ実技 授業内における課題曲の取り組み姿勢 (10) 音楽理論 授業内で出される課題の取り組み状況(25)	ピアノ実技1, 2, 3, 4, 5, 6 音楽理論1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	10	ピアノ実技 課題曲の予習・復習(10)	ピアノ実技7音楽理論4, 6

定期試験	55	ピアノ実技 定期試験(基礎教材曲1曲 幼児歌曲1曲)(30) 音楽理論 定期試験(25)	ピアノ実技2, 3, 4, 5, 6音 楽理論1, 2, 3, 5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	<p>ピアノ実技 『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版製作(購入不要) 『最新・幼児の音楽教育 改訂版』/井口太編著/朝日出版社 / 978-4-255-15725-2 2750円 基礎教材の『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』を習得した場合は、それぞれの能力に応じた課題を個人レスナーより指示する。</p> <p>音楽理論 『実践 大人のための音楽ワーク テキスト』 ヤマハミュージックメディア ISBN4-636-80155-5 1210円</p>		
------	---	--	--

参考書	必要に応じて紹介、配付する。		
-----	----------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	<p>ピアノ実技 全音楽関係科目履修時にピアノは基本となる楽器である故、与えられた課題を意欲的に練習し、理解・向上に努める。</p> <p>音楽理論 五線紙を持参する。(課題を提出して貰うことがあるので、五線紙は切り離せるものが便利である。)本授業内容を理解することにより、楽器演奏の際の読譜力、及び他の音楽科目における技術習得がスムーズに行えるようになる故、真摯に取り組むこと。</p>		
---------------	--	--	--

授業コード	22051803	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	音楽（基礎）a [対面]				
シラバス執筆(全員)	作野 理恵、安部 り麻、佐々木 聡子、錦見 朋子、西脇 恭子、蜂谷 葉子、大和 千				
シラバス執筆(主)	作野 理恵				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本科目は1コマ内でピアノ実技レッスンと音楽理論講義を45分間ずつ受ける授業で、ピアノ・レッスンでは主に『バイエル』『ブルクミュラー』『ソナチネ』『ソナタ』を教材として使用しながらピアノ奏法・表現方法について説明をする。

ピアノは10本の指で同時に音を奏でることができ、多彩な音楽表現が可能な楽器である故に、保育・教育現場においても幅広く活用されている。その保育・教育現場で必要となる演奏技術・表現力・読譜力を養うことを目標とした指導を行う。また、保育現場で扱う幼児歌曲や生活の歌を取り上げ、弾き歌い技能を養う。

音楽理論授業においては、保育者が保育現場において音楽活動をする際に必要となる音楽の理論、並びに読譜に必要な知識を概説する。楽譜通りに演奏するために必要な知識を習得し、正確に演奏することが出来るようになることを目的とする。記譜法に始まり、西洋音楽の基礎である音階の成り立ちから、ハーモニーに至るまで幅広く説明する。テキストと並行して五線譜や鍵盤を用いながら実践することにより、リズムを体感し、実際の演奏に役立てるようにする。

到達目標

ピアノ実技

1. 基礎教材曲、幼児歌曲の読譜ができる
2. 正しい運指で演奏することができる
3. 手、腕が脱力した状態で演奏できる
4. 基礎教材曲を暗譜で演奏することができる
5. 曲調に合った演奏表現ができる
6. 幼児歌曲の弾きうたいができる
7. 課題曲の予習・復習ができています

音楽理論

1. 五線譜上の音を読むことができる
2. 記譜されている音符のリズムを正確に打つことができる
3. 簡易な音程を判断できる
4. 簡易なコードを演奏することができる
5. 演奏記号について説明できる
6. 記譜通りに演奏することができる

授業計画

ピアノ実技

【第1回】

テーマ：授業のガイダンス

内容・方法：授業の進め方、概要の説明

(以下は習得のモデルである。課題曲は個々に指定する。)

【第2回】

テーマ：ピアノ・レッスン①

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル 8番、12番
弾きうたい ちょうちょう

【第3回】

テーマ：ピアノ・レッスン②

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル8番、12番、15番
弾きうたい ちょうちょう

【第4回】

テーマ：ピアノ・レッスン③

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル15番、18番、25番
弾きうたい チューリップ

【第5回】

テーマ：ピアノ・レッスン④

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル18番、25番、29番
弾きうたい チューリップ

【第6回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑤

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル29番、31番、39番
弾きうたい ぶんぶんぶん

【第7回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑥

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル31番、39番、46番

弾きうたい ぶんぶんぶん

【第8回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑦

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル46番、58番

弾きうたい ぶんぶんぶん

【第9回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑧

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル58番、音階

弾きうたい かたつむり

【第10回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑨

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル59番、60番

弾きうたい かたつむり

【第11回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑩

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル60番、66番

弾きうたい かたつむり

【第12回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑪

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル66番、78番

弾きうたい きらきらぼし

【第13回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑫

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル78番、81番

弾きうたい きらきらぼし

【第14回】

テーマ：ピアノ・レッスン⑬＋リハーサル

内容・方法：学期末演奏発表に向けてピアノ基礎教材曲、弾きうたい幼児歌曲各1曲ずつの授業内リハーサル

【第15回】

テーマ：ピアノ基礎教材曲と弾きうたい幼児歌曲の演奏発表、及び前期のふり返し

内容・方法：ピアノ基礎教材曲・弾き歌い曲を仕上げ、リハーサル等により実技定期試験に備える。

【定期試験】

2曲の演奏発表後に振り返りを行い、次の課題を選定する。

音楽理論

【第1回】

テーマ：五線と音の長さ

内容・方法：五線の名前、加線、代表的な音部記号、オクターブ記号、例題と解説

【第2回】

テーマ：音名と変化記号

内容・方法：白鍵、黒鍵、＃とb、変化記号、異名同音、例題と解説

【第3回】

テーマ：音符と休符1

内容・方法：音符の名前、音符と休符の種類 例題と解説

【第4回】

テーマ：音符と休符2

内容・方法：付点音符と休符、複付点音符、3連符、例題と解説

【第5回】

テーマ：拍子1

内容・方法：拍と拍子、拍子記号、拍子の種類、例題と解説

【第6回】

テーマ：拍子2

内容・方法：強拍と弱拍、シンコペーション、アウフタクト、例題と解説

【第7回】

テーマ：記号と楽語1

内容・方法：強弱記号、速度標語、メトロノーム記号、発想標語、例題と解説

【第8回】

テーマ：記号と楽語2

内容・方法：アーティキュレーション、装飾音と略記法、くり返し記号、例題と解説

【第9回】

テーマ：音程1

内容・方法：音程の度数、音程の種類、例題と解説

【第10回】

テーマ：音程2

内容・方法：更に詳しい音程の種類と見分け方、例題と解説

【第11回】

テーマ：音階1

内容・方法：長音階、短音階、例題と解説

【第12回】

テーマ：音階2

内容・方法：近親調、転調と移調、いろいろな音階、例題と解説

【第13回】

テーマ：和音1

内容・方法：和音の種類、三和音の種類、例題と解説

【第14回】

テーマ：和音2

内容・方法：コードネーム、七の和音、基本形と転回形、例題と解説

【第15回】

テーマ：まとめと確認

内容・方法：総復習として学んだことのまとめ確認、そしてその解説を行う。

【定期試験】

音楽理論筆記試験の実施

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

ピアノ実技

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。

授業と事前事後の合わせて1単位あたり45時間必要である。

【第1回】

①事前学修課題：シラバスを読んでおくこと。入学前に練習した課題の曲を練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で受けた指導をもとに復習する。

【第2回～第11回】

①事前学修課題：課題曲の読譜を行う。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で受けた指導をもとに復習する。

【第12回～第14回】

①事前学修課題：課題曲を練習して、授業・発表に備える。

②事後学修課題：授業で受けた曲を復習し、仕上げる。

【第15回】

①事前学修課題：課題曲の演奏発表。

②事後学修課題：学期のふりかえりを行う。

音楽理論

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後の合わせて1単位あたり45時間が必要である。

知識として理解した後に実際に音を出してみる事が大切である。従って毎回の授業前にテキストをよく読み、授業後は学んだことをピアノ等の鍵盤楽器を用いて実際に確認することが必要となるため、各回につき事前・事後合わせて4時間程度の学習が必要である。

課題に対するフィードバックの方法

ピアノ実技

各回のレッスンで指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスンで確認する。

音楽理論

毎回、授業内・外で確認のための課題を実施する。それを元に次回の授業で解説するゆえ、自己採点と復習に役立てるように。

成績評価の方法・基準(方針)

ピアノ実技

学期末試験でのピアノ基礎教材課題曲暗譜演奏を評価する。

幼児歌曲の弾き歌いを評価する。

毎回の予習・復習と課題曲への取り組み状況を評価する。

曲調に合った演奏ができているか評価する。

試験、課題取り組み度等の総合点60点以上を合格とする。

授業はマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう気をつけること。3回遅刻した場合を1回の欠席とする。15分以上遅刻した場合は欠席とみなす。

授業開始時間から15分迄を遅刻とする。

正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

音楽理論

以下に示す通り、授業内・外での課題取り組み状況と、定期試験の評価結果に基づき総合的に判定のうえ、60点以上を合格とする。

正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

ピアノ実技、音楽理論の授業内外評価+試験の総合点で、それぞれに60点以上を取ることで所定の単位を認定する。

乃ち100点満点中、ピアノ50点、音楽理論50点で、各30点以上の合計点を必要とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	35	ピアノ実技 授業内における課題曲の取り組み姿勢 (10) 音楽理論 授業内で出される課題の取り組み状況(25)	ピアノ実技1, 2, 3, 4, 5, 6 音楽理論1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	10	ピアノ実技 課題曲の予習・復習(10)	ピアノ実技7音楽理論4, 6

定期試験	55	ピアノ実技 定期試験(基礎教材曲1曲 幼児歌曲1曲)(30) 音楽理論 定期試験(25)	ピアノ実技2, 3, 4, 5, 6音 楽理論1, 2, 3, 5
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	<p>ピアノ実技 『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版製作(購入不要) 『最新・幼児の音楽教育 改訂版』/井口太編著/朝日出版社 / 978-4-255-15725-2 2750円 基礎教材の『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』を習得した場合は、それぞれの能力に応じた課題を個人レスナーより指示する。</p> <p>音楽理論 『実践 大人のための音楽ワーク テキスト』 ヤマハミュージックメディア ISBN4-636-80155-5 1210円</p>		
------	---	--	--

参考書	必要に応じて紹介、配付する。		
-----	----------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	<p>ピアノ実技 全音楽関係科目履修時にピアノは基本となる楽器である故、与えられた課題を意欲的に練習し、理解・向上に努める。</p> <p>音楽理論 五線紙を持参する。(課題を提出して貰うことがあるので、五線紙は切り離せるものが便利である。)本授業内容を理解することにより、楽器演奏の際の読譜力、及び他の音楽科目における技術習得がスムーズに行えるようになる故、真摯に取り組むこと。</p>		
---------------	--	--	--

授業コード	22051901	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	音楽（基礎）b [対面]				
シラバス執筆(全員)	作野 理恵、光本 諭史、山手 敦子、和田 宏一、蜂谷 葉子、平田 道子、大和 千穂				
シラバス執筆(主)	作野 理恵				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本科目は、1コマ内でピアノ実技レッスンとソルフェージュ(歌唱)指導を45分間ずつ受ける授業であり、ピアノ・レッスンにおいては「音楽基礎a」で習得したピアノ奏法・表現方法を更に深化・進歩させた内容について説明・実施をする。

保育・教育現場で必要となる演奏技術・表現力・読譜力を養うことを目標とした指導を行う。また、保育現場で扱う幼児歌曲や生活の歌の内、更に難易度の高い楽曲を取り上げ、弾うたいができる能力を養う。教材としては引き続きバイエル、ブルクミュラー、ソナチネ、ソナタ等を使用する。

ソルフェージュ学習においては、乳幼児の音楽教育に関わる際に必要とされている音楽についての基礎知識、及び保育者自身の豊かな音楽的感性と音楽的能力(技能)の習得・養成を目的としている。本学習では、保育現場で必要とされる音楽表現のための基礎技能について指導し、教材の活用および作成、並びに保育の環境構成及び具体的展開方法について概説する。更に子どもの生活とあそびを豊かに展開する音楽表現方法を習得することを目的とする。

授業概要としては、発声法および保育現場で歌われる「こどものうた」について、講義、範唱の鑑賞および実践を通して学習を行い、保育者に求められる歌唱の基礎力を養成する。また、弾き歌い時の発声に関する学習および合唱、アンサンブルの実践など、保育現場における歌唱活動に役立つ応用力についても習得を目指す。

到達目標

ピアノ実技

1. 基礎教材曲、幼児歌曲の読譜ができる
2. 正しい運指で演奏することができる
3. 手、腕が脱力した状態で演奏できる
4. 基礎教材曲を暗譜で演奏することができる
5. 曲調に合った演奏表現ができる
6. 幼児歌曲の弾き歌いができる
7. 課題曲の予習・復習ができています

ソルフェージュ

1. 豊かな音楽的感性を身につけ、保育現場に還元できる。
2. 保育現場で必要とされる歌唱・伴奏付け・ソルフェージュの基礎的知識を演奏に反映できる。
3. 合唱やアンサンブルなどを通して調和のとれた響きを体感し演奏することができる。
4. 各年次の子どもへの音楽指導計画に基づき指導することができる。
5. 子どもへの適切な言葉掛けができる。
6. 指導者として必要な音楽の知識を説明できる。

授業計画

ピアノ実技

(以下は学習モデルであり、個別進度により内容が変わることがある。)

【第1回】

テーマ：ピアノレッスン①

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル 88番、90番
弾きうたい おべんとう

【第2回】

テーマ：ピアノレッスン②

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル 90番、91番
弾きうたい おべんとう

【第3回】

テーマ：ピアノレッスン③

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル 91番、94番
弾きうたい うんどうかい

【第4回】

テーマ：ピアノレッスン④

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル 94番、96番
弾きうたい うんどうかい

【第5回】

テーマ：ピアノレッスン⑤

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル 96番、102番
弾きうたい 大きなくりの木の下で

【第6回】

テーマ：ピアノレッスン⑥

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル 102番、保育に使える効果音
弾きうたい 大きなくりの木の下で

【第7回】

テーマ：ピアノレッスン⑦

内容・方法：ピアノ基礎教材 ブルクミュラー 素直な心
弾きうたい こぎつね

【第8回】

テーマ：ピアノレッスン⑧

内容・方法：ピアノ基礎教材 ブルクミュラー 素直な心
弾きうたい こぎつね

【第9回】

テーマ：ピアノレッスン⑨

内容・方法：ピアノ基礎教材 ブルクミュラー アラベスク
弾きうたい おかえりのうた

【第10回】

テーマ：ピアノレッスン⑩

内容・方法：ピアノ基礎教材 ブルクミュラー アラベスク
弾きうたい おかえりのうた

【第11回】

テーマ：ピアノレッスン⑪

内容・方法：ピアノ基礎教材 ブルクミュラー バラード
弾きうたい お正月

【第12回】

テーマ：ピアノレッスン⑫

内容・方法：ピアノ基礎教材 ブルクミュラー バラード
弾きうたい お正月

【第13回】

テーマ：ピアノレッスン⑬

内容・方法：ピアノ基礎教材 ブルクミュラー 貴婦人の乗馬
弾きうたい まめまき

【第14回】

テーマ：ピアノレッスン⑭

内容・方法：ピアノ基礎教材 ブルクミュラー 貴婦人の乗馬
弾きうたい まめまき

【第15回】

テーマ：ピアノ基礎教材曲と弾きうたいの曲の仕上げ・後期のふり返り

内容・方法：ピアノ基礎教材曲・弾き歌い曲を仕上げ、リハーサル等により実技定期試験に備える。

【定期試験】

2曲の演奏発表後に振り返しを行い、次の課題を選定する。

ソルフェージュ

【第1回】

テーマ：保育者に求められる「歌唱力」とは？

内容・方法：発声法とは、保育の現場で歌われる「こどものうた」について

【第2回】

テーマ：保育者に求められる「歌唱力」とは？

内容・方法：発声法（声の出るしくみ・からだの使い方）、こどものうた（生活のうた）

【第3回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（卒園のうた）

【第4回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（春のうた）

【第5回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：こどものうた（梅雨時のうた）

【第6回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（夏のうた）

【第7回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（秋のうた）

【第8回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：こどものうた（冬のうた）

【第9回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の養成

内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（生きもののうた）

【第10回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得

内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（食べもののうた）

【第11回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得

内容・方法：こどものうた（乗りもののうた）

【第12回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得

内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（人に関するうた）

【第13回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得
内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（音楽に関するうた）

【第14回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得および保育の歌唱まとめ

内容・方法：合唱・アンサンブルの試み、保育の歌唱まとめ

【第15回】

テーマ：童謡の演奏発表

内容・方法：童謡の演奏発表・後期授業のふり返り・まとめ

該当授業終講後に課題レポートを提出してもらいます。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

ピアノ実技

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。
授業と事前事後の合わせて1単位あたり45時間必要である。

【第1回】

①事前学修課題：シラバスを読んでおくこと。入学前に練習した課題の曲を練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で受けた指導をもとに復習する。

【第2回～第11回】

①事前学修課題：課題曲の読譜を行う。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で受けた指導をもとに復習する。

【第12回～14回】

①事前学修課題：課題曲を練習して、授業・発表に備える。

②事後学修課題：授業で受けた曲を復習し、仕上げる。

【第15回】

①事前学修課題：課題曲の演奏発表。

②事後学修課題：学期のふりかえりを行う。

ソルフェージュ

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき1時間以上の事前・事後学習が必要です。

【第1回】

①事前学修課題：シラバスを熟読する。保育者に求められる歌唱力について考える。

②事後学修課題：発声についての学習事項の復習。

【第2回】

①事前学修課題：歌唱指導においてよく用いられる声かけについて考える。

②事後学修課題：声が出るしくみ、エクササイズ、生活のうたについて復習。

【第3回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けて練習。卒園のこどものうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および卒園のこどものうたについて復習。

【第4回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。春のこどものうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および春のこどものうたについて復習。

【第5回】

①事前学修課題：梅雨時のこどものうたについて予習。

②事後学修課題：授業で取り上げた梅雨時のこどものうたについて復習。

【第6回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。夏のこどものうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および夏のこどものうたについて復習。

【第7回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。秋のこどものうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および秋のこどものうたについて復習。

【第8回】

①事前学修課題：冬のこどものうたについて予習。

②事後学修課題：授業で取り上げた冬のこどものうたについて復習。

【第9回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。生きものに関するうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および生きものに関するうたを復習。

【第10回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。食べものに関するうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および食べものに関するうたを復習。

【第11回】

①事前学修課題：乗りものに関するうたについて予習。

②事後学修課題：授業で取り上げた乗りものに関するうたについて復習。

【第12回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。人に関するうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および人に関するうたについて復習。

【第13回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。音楽に関するうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および音楽に関するうたについて復習。

【第14回】

①事前学修課題：これまでに学習した歌唱技術について事前に復習。

②事後学修課題：合唱・アンサンブルについて復習。発表に向けて課題曲を練習。

【第15回】

- ①事前学修課題：発表に向けて課題曲を練習・予習。
 ②事後学修課題：発声法、こどものうた、弾き歌いについて総合的に復習する

課題に対するフィードバックの方法

ピアノ実技
 各回のレッスンで指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスンで確認する。

ソルフェージュ
 提出されたレポート課題の内容および個人レッスンにおいてみられた事象について例を提示し、それらへの評価を共有する形でフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

ピアノ実技
 学期末に課題とされたピアノ基礎教材曲を暗譜で演奏できているか評価する。
 幼児歌曲の弾きうたいができているか評価する。
 毎回の予習・復習と課題曲への取り組み状況の評価する。
 曲調に合った演奏ができているか評価する。
 授業はマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう気をつけること。3回遅刻した場合を1回の欠席とする。15分以上遅刻した場合は欠席とみなす。
 授業開始時間から15分迄を遅刻とする。
 正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

ソルフェージュ
 授業への参加意欲およびレポート課題の提出状況と内容、授業内の歌唱発表から総合的に評価する。
 正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

ピアノ実技、ソルフェージュの授業内外評価+試験の総合点で、それぞれに60点以上を取ることで所定の単位を認定する。
 乃ち100点満点中、ピアノ50点、音楽理論50点で、各30点以上の合計点を必要とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	ピアノ実技 授業内における課題曲の取り組み姿勢 (10) ソルフェージュ 授業への参加意欲(10) 実践課題(10) 演奏発表(10)	ピアノ実技1, 2, 3, 4, 5, 6 ソルフェージュ1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	20	ピアノ実技 課題曲の予習・復習(10) ソルフェージュ レポート課題の提出状況および内容(10)	ピアノ実技2, 4, 6, 7 ソルフェージュ3, 4, 5, 6
定期試験	40	ピアノ実技 定期試験(基礎教材曲1曲 幼児歌曲1曲)(30) ソルフェージュ 定期試験(10)	ピアノ実技2, 3, 4, 5, 6 ソルフェージュ1, 2
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト
 『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版製作(購入不要)
 『最新・幼児の音楽教育 改訂版』/井口太編著/朝日出版社 / 978-4-255-15725-2 2750円
 基礎教材の『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』を習得した場合は、それぞれの能力に応じた課題を個人レクチャーより指示する。

参考書
 必要に応じて授業の中で紹介・配付する。

履修条件・他の科目との関連
 ピアノ実技
 全音楽関係科目履修時にピアノは基本となる楽器である故、与えられた課題を意欲的に練習し、理解・向上に努める。

 ソルフェージュ
 テキストは毎授業必ず持ってくること。

授業コード	22051902	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	音楽（基礎）b [対面]				
シラバス執筆(全員)	作野 理恵、光本 諭史、寺見 香織、和田 宏一、蜂谷 葉子、福原 千織、大和 千穂				
シラバス執筆(主)	作野 理恵				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本科目は、1コマ内でピアノ実技レッスンとソルフェージュ(歌唱)指導を45分間ずつ受ける授業であり、ピアノ・レッスンにおいては「音楽基礎a」で習得したピアノ奏法・表現方法を更に深化・進歩させた内容について説明・実施をする。

保育・教育現場で必要となる演奏技術・表現力・読譜力を養うことを目標とした指導を行う。また、保育現場で扱う幼児歌曲や生活の歌の内、更に難易度の高い楽曲を取り上げ、弾うたいができる能力を養う。教材としては引き続きバイエル、ブルクミュラー、ソナチネ、ソナタ等を使用する。

ソルフェージュ学習においては、乳幼児の音楽教育に関わる際に必要とされている音楽についての基礎知識、及び保育者自身の豊かな音楽的感性と音楽的能力(技能)の習得・養成を目的としている。本学習では、保育現場で必要とされる音楽表現のための基礎技能について指導し、教材の活用および作成、並びに保育の環境構成及び具体的展開方法について概説する。更に子どもの生活とあそびを豊かに展開する音楽表現方法を習得することを目的とする。

授業概要としては、発声法および保育現場で歌われる「こどものうた」について、講義、範唱の鑑賞および実践を通して学習を行い、保育者に求められる歌唱の基礎力を養成する。また、弾き歌い時の発声に関する学習および合唱、アンサンブルの実践など、保育現場における歌唱活動に役立つ応用力についても習得を目指す。

到達目標

ピアノ実技

1. 基礎教材曲、幼児歌曲の読譜ができる
2. 正しい運指で演奏することができる
3. 手、腕が脱力した状態で演奏できる
4. 基礎教材曲を暗譜で演奏することができる
5. 曲調に合った演奏表現ができる
6. 幼児歌曲の弾き歌いができる
7. 課題曲の予習・復習ができています

ソルフェージュ

1. 豊かな音楽的感性を身につけ、保育現場に還元できる。
2. 保育現場で必要とされる歌唱・伴奏付け・ソルフェージュの基礎的知識を演奏に反映できる。
3. 合唱やアンサンブルなどを通して調和のとれた響きを体感し演奏することができる。
4. 各年次の子どもへの音楽指導計画に基づき指導することができる。
5. 子どもへの適切な言葉掛けができる。
6. 指導者として必要な音楽の知識を説明できる。

授業計画

ピアノ実技

(以下は学習モデルであり、個別進度により内容が変わることがある。)

【第1回】

テーマ：ピアノレッスン①

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル 88番、90番
弾きうたい おべんとう

【第2回】

テーマ：ピアノレッスン②

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル 90番、91番
弾きうたい おべんとう

【第3回】

テーマ：ピアノレッスン③

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル 91番、94番
弾きうたい うんどうかい

【第4回】

テーマ：ピアノレッスン④

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル 94番、96番
弾きうたい うんどうかい

【第5回】

テーマ：ピアノレッスン⑤

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル 96番、102番
弾きうたい 大きなくりの木の下で

【第6回】

テーマ：ピアノレッスン⑥

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル 102番、保育に使える効果音
弾きうたい 大きなくりの木の下で

【第7回】

テーマ：ピアノレッスン⑦

内容・方法：ピアノ基礎教材 ブルクミュラー 素直な心
弾きうたい こぎつね

【第8回】

テーマ：ピアノレッスン⑧

内容・方法：ピアノ基礎教材 ブルクミュラー 素直な心
弾きうたい こぎつね

【第9回】

テーマ：ピアノレッスン⑨

内容・方法：ピアノ基礎教材 ブルクミュラー アラベスク
弾きうたい おかえりのうた

【第10回】

テーマ：ピアノレッスン⑩

内容・方法：ピアノ基礎教材 ブルクミュラー アラベスク
弾きうたい おかえりのうた

【第11回】

テーマ：ピアノレッスン⑪

内容・方法：ピアノ基礎教材 ブルクミュラー バラード
弾きうたい お正月

【第12回】

テーマ：ピアノレッスン⑫

内容・方法：ピアノ基礎教材 ブルクミュラー バラード
弾きうたい お正月

【第13回】

テーマ：ピアノレッスン⑬

内容・方法：ピアノ基礎教材 ブルクミュラー 貴婦人の乗馬
弾きうたい まめまき

【第14回】

テーマ：ピアノレッスン⑭

内容・方法：ピアノ基礎教材 ブルクミュラー 貴婦人の乗馬
弾きうたい まめまき

【第15回】

テーマ：ピアノ基礎教材曲と弾きうたいの曲の仕上げ・後期のふり返り

内容・方法：ピアノ基礎教材曲・弾き歌い曲を仕上げ、リハーサル等により実技定期試験に備える。

【定期試験】

2曲の演奏発表後に振り返しを行い、次の課題を選定する。

ソルフェージュ

【第1回】

テーマ：保育者に求められる「歌唱力」とは？

内容・方法：発声法とは、保育の現場で歌われる「こどものうた」について

【第2回】

テーマ：保育者に求められる「歌唱力」とは？

内容・方法：発声法（声の出るしくみ・からだの使い方）、こどものうた（生活のうた）

【第3回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（卒園のうた）

【第4回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（春のうた）

【第5回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：こどものうた（梅雨時のうた）

【第6回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（夏のうた）

【第7回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（秋のうた）

【第8回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：こどものうた（冬のうた）

【第9回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の養成

内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（生きもののうた）

【第10回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得

内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（食べもののうた）

【第11回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得

内容・方法：こどものうた（乗りもののうた）

【第12回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得

内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（人に関するうた）

【第13回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得

内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（音楽に関するうた）

【第14回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得および保育の歌唱まとめ

内容・方法：合唱・アンサンブルの試み、保育の歌唱まとめ

【第15回】

テーマ：童謡の演奏発表

内容・方法：童謡の演奏発表・後期授業のふり返り・まとめ

該当授業終講後に課題レポートを提出してもらいます。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

ピアノ実技

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。

授業と事前事後の合わせて1単位あたり45時間必要である。

【第1回】

①事前学修課題：シラバスを読んでおくこと。入学前に練習した課題の曲を練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で受けた指導をもとに復習する。

【第2回～第11回】

①事前学修課題：課題曲の読譜を行う。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で受けた指導をもとに復習する。

【第12回～第14回】

①事前学修課題：課題曲を練習して、授業・発表に備える。

②事後学修課題：授業で受けた曲を復習し、仕上げる。

【第15回】

①事前学修課題：課題曲の演奏発表。

②事後学修課題：学期のふりかえりを行う。

ソルフェージュ

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき1時間以上の事前・事後学習が必要です。

【第1回】

①事前学修課題：シラバスを熟読する。保育者に求められる歌唱力について考える。

②事後学修課題：発声についての学習事項の復習。

【第2回】

①事前学修課題：歌唱指導においてよく用いられる声かけについて考える。

②事後学修課題：声が出るしくみ、エクササイズ、生活のうたについて復習。

【第3回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けて練習。卒園のこどものうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および卒園のこどものうたについて復習。

【第4回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。春のこどものうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および春のこどものうたについて復習。

【第5回】

①事前学修課題：梅雨時のこどものうたについて予習。

②事後学修課題：授業で取り上げた梅雨時のこどものうたについて復習。

【第6回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。夏のこどものうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および夏のこどものうたについて復習。

【第7回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。秋のこどものうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および秋のこどものうたについて復習。

【第8回】

①事前学修課題：冬のこどものうたについて予習。

②事後学修課題：授業で取り上げた冬のこどものうたについて復習。

【第9回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。生きものに関するうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および生きものに関するうたを復習。

【第10回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。食べものに関するうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および食べものに関するうたを復習。

【第11回】

①事前学修課題：乗りものに関するうたについて予習。

②事後学修課題：授業で取り上げた乗りものに関するうたについて復習。

【第12回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。人に関するうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および人に関するうたについて復習。

【第13回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。音楽に関するうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および音楽に関するうたについて復習。

【第14回】

①事前学修課題：これまでに学習した歌唱技術について事前に復習。

②事後学修課題：合唱・アンサンブルについて復習。発表に向けて課題曲を練習。

【第15回】

- ①事前学修課題：発表に向けて課題曲を練習・予習。
 ②事後学修課題：発声法、こどものうた、弾き歌いについて総合的に復習する

課題に対するフィードバックの方法

ピアノ実技
 各回のレッスンで指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスンで確認する。

ソルフェージュ
 提出されたレポート課題の内容および個人レッスンにおいてみられた事象について例を提示し、それらへの評価を共有する形でフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

ピアノ実技
 学期末に課題とされたピアノ基礎教材曲を暗譜で演奏できているか評価する。
 幼児歌曲の弾きうたいができているか評価する。
 毎回の予習・復習と課題曲への取り組み状況の評価する。
 曲調に合った演奏ができているか評価する。
 授業はマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう気をつけること。3回遅刻した場合を1回の欠席とする。15分以上遅刻した場合は欠席とみなす。
 授業開始時間から15分迄を遅刻とする。
 正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

ソルフェージュ
 授業への参加意欲およびレポート課題の提出状況と内容、授業内の歌唱発表から総合的に評価する。
 正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

ピアノ実技、ソルフェージュの授業内外評価+試験の総合点で、それぞれに60点以上を取ることによって所定の単位を認定する。
 乃ち100点満点中、ピアノ50点、音楽理論50点で、各30点以上の合計点を必要とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	ピアノ実技 授業内における課題曲の取り組み姿勢 (10) ソルフェージュ 授業への参加意欲(10) 実践課題(10) 演奏発表(10)	ピアノ実技1, 2, 3, 4, 5, 6 ソルフェージュ1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	20	ピアノ実技 課題曲の予習・復習(10) ソルフェージュ レポート課題の提出状況および内容(10)	ピアノ実技2, 4, 6, 7 ソルフェージュ3, 4, 5, 6
定期試験	40	ピアノ実技 定期試験(基礎教材曲1曲 幼児歌曲1曲)(30) ソルフェージュ 定期試験(10)	ピアノ実技2, 3, 4, 5, 6 ソルフェージュ1, 2
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト
 『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版製作(購入不要)
 『最新・幼児の音楽教育 改訂版』/井口太編著/朝日出版社 / 978-4-255-15725-2 2750円
 基礎教材の『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』を習得した場合は、それぞれの能力に応じた課題を個人レクチャーより指示する。

参考書
 必要に応じて授業の中で紹介・配付する。

履修条件・他の科目との関連
 ピアノ実技
 全音楽関係科目履修時にピアノは基本となる楽器である故、与えられた課題を意欲的に練習し、理解・向上に努める。

 ソルフェージュ
 テキストは毎授業必ず持ってくること。

授業コード	22051903	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	音楽（基礎）b [対面]				
シラバス執筆(全員)	作野 理恵、光本 諭史、濱谷 田穂、和田 宏一、佐々木 聡子、錦見 朋子、西脇 恭				
シラバス執筆(主)	作野 理恵				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本科目は、1コマ内でピアノ実技レッスンとソルフェージュ(歌唱)指導を45分間ずつ受ける授業であり、ピアノ・レッスンにおいては「音楽基礎a」で習得したピアノ奏法・表現方法を更に深化・進歩させた内容について説明・実施をする。

保育・教育現場で必要となる演奏技術・表現力・読譜力を養うことを目標とした指導を行う。また、保育現場で扱う幼児歌曲や生活の歌の内、更に難易度の高い楽曲を取り上げ、弾うたいができる能力を養う。教材としては引き続きバイエル、ブルクミュラー、ソナチネ、ソナタ等を使用する。

ソルフェージュ学習においては、乳幼児の音楽教育に関わる際に必要とされている音楽についての基礎知識、及び保育者自身の豊かな音楽的感性と音楽的能力(技能)の習得・養成を目的としている。本学習では、保育現場で必要とされる音楽表現のための基礎技能について指導し、教材の活用および作成、並びに保育の環境構成及び具体的展開方法について概説する。更に子どもの生活とあそびを豊かに展開する音楽表現方法を習得することを目的とする。

授業概要としては、発声法および保育現場で歌われる「こどものうた」について、講義、範唱の鑑賞および実践を通して学習を行い、保育者に求められる歌唱の基礎力を養成する。また、弾き歌い時の発声に関する学習および合唱、アンサンブルの実践など、保育現場における歌唱活動に役立つ応用力についても習得を目指す。

到達目標

ピアノ実技

1. 基礎教材曲、幼児歌曲の読譜ができる
2. 正しい運指で演奏することができる
3. 手、腕が脱力した状態で演奏できる
4. 基礎教材曲を暗譜で演奏することができる
5. 曲調に合った演奏表現ができる
6. 幼児歌曲の弾き歌いができる
7. 課題曲の予習・復習ができています

ソルフェージュ

1. 豊かな音楽的感性を身につけ、保育現場に還元できる。
2. 保育現場で必要とされる歌唱・伴奏付け・ソルフェージュの基礎的知識を演奏に反映できる。
3. 合唱やアンサンブルなどを通して調和のとれた響きを体感し演奏することができる。
4. 各年次の子どもへの音楽指導計画に基づき指導することができる。
5. 子どもへの適切な言葉掛けができる。
6. 指導者として必要な音楽の知識を説明できる。

授業計画

ピアノ実技

(以下は学習モデルであり、個別進度により内容が変わることがある。)

【第1回】

テーマ：ピアノレッスン①

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル 88番、90番
弾きうたい おべんとう

【第2回】

テーマ：ピアノレッスン②

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル 90番、91番
弾きうたい おべんとう

【第3回】

テーマ：ピアノレッスン③

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル 91番、94番
弾きうたい うんどうかい

【第4回】

テーマ：ピアノレッスン④

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル 94番、96番
弾きうたい うんどうかい

【第5回】

テーマ：ピアノレッスン⑤

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル 96番、102番
弾きうたい 大きなくりの木の下で

【第6回】

テーマ：ピアノレッスン⑥

内容・方法：ピアノ基礎教材 バイエル 102番、保育に使える効果音
弾きうたい 大きなくりの木の下で

【第7回】

テーマ：ピアノレッスン⑦

内容・方法：ピアノ基礎教材 ブルクミュラー 素直な心
弾きうたい こぎつね

【第8回】

テーマ：ピアノレッスン⑧

内容・方法：ピアノ基礎教材 ブルクミュラー 素直な心
弾きうたい こぎつね

【第9回】

テーマ：ピアノレッスン⑨

内容・方法：ピアノ基礎教材 ブルクミュラー アラベスク
弾きうたい おかえりのうた

【第10回】

テーマ：ピアノレッスン⑩

内容・方法：ピアノ基礎教材 ブルクミュラー アラベスク
弾きうたい おかえりのうた

【第11回】

テーマ：ピアノレッスン⑪

内容・方法：ピアノ基礎教材 ブルクミュラー バラード
弾きうたい お正月

【第12回】

テーマ：ピアノレッスン⑫

内容・方法：ピアノ基礎教材 ブルクミュラー バラード
弾きうたい お正月

【第13回】

テーマ：ピアノレッスン⑬

内容・方法：ピアノ基礎教材 ブルクミュラー 貴婦人の乗馬
弾きうたい まめまき

【第14回】

テーマ：ピアノレッスン⑭

内容・方法：ピアノ基礎教材 ブルクミュラー 貴婦人の乗馬
弾きうたい まめまき

【第15回】

テーマ：ピアノ基礎教材曲と弾きうたいの曲の仕上げ・後期のふり返り

内容・方法：ピアノ基礎教材曲・弾き歌い曲を仕上げ、リハーサル等により実技定期試験に備える。

【定期試験】

2曲の演奏発表後に振り返しを行い、次の課題を選定する。

ソルフェージュ

【第1回】

テーマ：保育者に求められる「歌唱力」とは？

内容・方法：発声法とは、保育の現場で歌われる「こどものうた」について

【第2回】

テーマ：保育者に求められる「歌唱力」とは？

内容・方法：発声法（声の出るしくみ・からだの使い方）、こどものうた（生活のうた）

【第3回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（卒園のうた）

【第4回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（春のうた）

【第5回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：こどものうた（梅雨時のうた）

【第6回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（夏のうた）

【第7回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：歌の個人レッスン、こどものうた（秋のうた）

【第8回】

テーマ：保育の歌唱に関する基礎力の養成

内容・方法：こどものうた（冬のうた）

【第9回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の養成

内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（生きもののうた）

【第10回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得

内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（食べもののうた）

【第11回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得

内容・方法：こどものうた（乗りもののうた）

【第12回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得

内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（人に関するうた）

【第13回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得

内容・方法：弾き歌いの個人レッスン、こどものうた（音楽に関するうた）

【第14回】

テーマ：保育の歌唱に関する応用力の習得および保育の歌唱まとめ

内容・方法：合唱・アンサンブルの試み、保育の歌唱まとめ

【第15回】

テーマ：童謡の演奏発表

内容・方法：童謡の演奏発表・後期授業のふり返り・まとめ

該当授業終講後に課題レポートを提出してもらいます。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

ピアノ実技

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。

授業と事前事後の合わせて1単位あたり45時間必要である。

【第1回】

①事前学修課題：シラバスを読んでおくこと。入学前に練習した課題の曲を練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で受けた指導をもとに復習する。

【第2回～第11回】

①事前学修課題：課題曲の読譜を行う。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で受けた指導をもとに復習する。

【第12回～14回】

①事前学修課題：課題曲を練習して、授業・発表に備える。

②事後学修課題：授業で受けた曲を復習し、仕上げる。

【第15回】

①事前学修課題：課題曲の演奏発表。

②事後学修課題：学期のふりかえりを行う。

ソルフェージュ

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

各回につき1時間以上の事前・事後学習が必要です。

【第1回】

①事前学修課題：シラバスを熟読する。保育者に求められる歌唱力について考える。

②事後学修課題：発声についての学習事項の復習。

【第2回】

①事前学修課題：歌唱指導においてよく用いられる声かけについて考える。

②事後学修課題：声が出るしくみ、エクササイズ、生活のうたについて復習。

【第3回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けて練習。卒園のこどものうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および卒園のこどものうたについて復習。

【第4回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。春のこどものうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および春のこどものうたについて復習。

【第5回】

①事前学修課題：梅雨時のこどものうたについて予習。

②事後学修課題：授業で取り上げた梅雨時のこどものうたについて復習。

【第6回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。夏のこどものうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および夏のこどものうたについて復習。

【第7回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。秋のこどものうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および秋のこどものうたについて復習。

【第8回】

①事前学修課題：冬のこどものうたについて予習。

②事後学修課題：授業で取り上げた冬のこどものうたについて復習。

【第9回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。生きものに関するうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および生きものに関するうたを復習。

【第10回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。食べものに関するうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および食べものに関するうたを復習。

【第11回】

①事前学修課題：乗りものに関するうたについて予習。

②事後学修課題：授業で取り上げた乗りものに関するうたについて復習。

【第12回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。人に関するうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および人に関するうたについて復習。

【第13回】

①事前学修課題：個人レッスンに向けての練習。音楽に関するうたについて予習。

②事後学修課題：個人レッスンで受けた指導内容および音楽に関するうたについて復習。

【第14回】

①事前学修課題：これまでに学習した歌唱技術について事前に復習。

②事後学修課題：合唱・アンサンブルについて復習。発表に向けて課題曲を練習。

【第15回】

- ①事前学修課題：発表に向けて課題曲を練習・予習。
 ②事後学修課題：発声法、こどものうた、弾き歌いについて総合的に復習する

課題に対するフィードバックの方法

ピアノ実技
 各回のレッスンで指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスンで確認する。

ソルフェージュ
 提出されたレポート課題の内容および個人レッスンにおいてみられた事象について例を提示し、それらへの評価を共有する形でフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

ピアノ実技
 学期末に課題とされたピアノ基礎教材曲を暗譜で演奏できているか評価する。
 幼児歌曲の弾きうたいができているか評価する。
 毎回の予習・復習と課題曲への取り組み状況の評価する。
 曲調に合った演奏ができているか評価する。
 授業はマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう気をつけること。3回遅刻した場合を1回の欠席とする。15分以上遅刻した場合は欠席とみなす。
 授業開始時間から15分迄を遅刻とする。
 正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

ソルフェージュ
 授業への参加意欲およびレポート課題の提出状況と内容、授業内の歌唱発表から総合的に評価する。
 正当な理由なく5回を超える欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

ピアノ実技、ソルフェージュの授業内外評価+試験の総合点で、それぞれに60点以上を取ることで所定の単位を認定する。
 乃ち100点満点中、ピアノ50点、音楽理論50点で、各30点以上の合計点を必要とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	40	ピアノ実技 授業内における課題曲の取り組み姿勢 (10) ソルフェージュ 授業への参加意欲(10) 実践課題(10) 演奏発表(10)	ピアノ実技1, 2, 3, 4, 5, 6 ソルフェージュ1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	20	ピアノ実技 課題曲の予習・復習(10) ソルフェージュ レポート課題の提出状況および内容(10)	ピアノ実技2, 4, 6, 7 ソルフェージュ3, 4, 5, 6
定期試験	40	ピアノ実技 定期試験(基礎教材曲1曲 幼児歌曲1曲)(30) ソルフェージュ 定期試験(10)	ピアノ実技2, 3, 4, 5, 6 ソルフェージュ1, 2
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト
 『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版製作(購入不要)
 『最新・幼児の音楽教育 改訂版』/井口太編著/朝日出版社 / 978-4-255-15725-2 2750円
 基礎教材の『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』を習得した場合は、それぞれの能力に応じた課題を個人レクチャーより指示する。

参考書
 必要に応じて授業の中で紹介・配付する。

履修条件・他の科目との関連
 ピアノ実技
 全音楽関係科目履修時にピアノは基本となる楽器である故、与えられた課題を意欲的に練習し、理解・向上に努める。

 ソルフェージュ
 テキストは毎授業必ず持ってくること。

授業コード	22052001	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	音楽（応用）a [対面]				
シラバス執筆(全員)	作野 理恵、光本 諭史、寺見 香織、西脇 恭子、村上 利香				
シラバス執筆(主)	作野 理恵				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業はピアノの個人レッスンと、音楽活動の実践方法についての講義・実技演習から成る。ピアノ・レッスンでは「音楽(基礎)ab」での学びを基礎とし、更なるピアノ演奏技術、並びに表現方法を概説する。本科目は演奏技術の習得のみにとどまらず、豊かな表現力や音楽性を養うことを目標にしている。また、幼児歌曲や生活・行事の歌等高難度の「弾き歌い教材曲」を取り上げ、実習や就職活動、並びに実際の保育現場で役立つピアノ演奏について説明する。講義・実践演習では、コード伴奏や楽曲の編曲方法等について概説し、保育現場における音楽活動に活かすことのできる実践力習得を指導する。リトミックなどの身体表現に用いるピアノ演奏技術、音楽表現方法を説明する。

到達目標

1. 基礎教材曲・幼児歌曲の読譜ができる
2. 正しい運指で演奏できる
3. 手・腕が脱力した状態で演奏できる
4. 基礎教材曲を暗譜で演奏できる
5. 曲調に合った演奏表現ができる
6. 幼児歌曲の弾き歌いができる
7. 和音進行のパターンを用い、メロディーに相応しい伴奏をつけることができる
8. 楽曲の簡単な編曲・即興演奏ができる
9. リズム感覚を養うあそびを実践できる
10. こどもの音楽感覚を育てるためのリズム指導ができる
11. 課題曲の予習・復習ができる

授業計画

個人レッスンではピアノ基礎教材曲、幼児歌曲の指導を受ける。
講義・実践演習では各回のテーマに基づく課題を五線紙、あるいはプリントに記入し、発表・提出する。

【第1回】
ピアノ・レッスン①テーマ：授業の進め方、概要の説明
内容・方法：1年次生時に取り組んだピアノ基礎教材曲・弾き歌い教材曲を次の段階へ進める。
講義・実践演習 ①テーマ：授業についてのガイダンス
内容・方法：授業の進め方、概要の説明。

(ピアノ・レッスンにおけるピアノ基礎教材・弾き歌い教材は習得のモデルである)

【第2回】
ピアノ・レッスン②テーマ：レガート奏法の習得
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 素直な心
弾き歌い：メリーさんのひつじ
講義・実践演習 ②テーマ：楽譜の表示
内容・方法等：楽譜の表示について学ぶ。

【第3回】
ピアノ・レッスン③テーマ：対旋律の弾き方
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 素直な心
弾き歌い：メリーさんのひつじ
講義・実践演習 ③テーマ：コードネーム
内容・方法等：コードネームについて学ぶ。

【第4回】
ピアノ・レッスン④テーマ：16分音符の細かい動き
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー アラバスク
弾き歌い：おうま
講義・実践演習 ④テーマ：幼児歌曲の伴奏①
内容・方法等：ベース音による伴奏を学ぶ。

【第5回】
ピアノ・レッスン⑤テーマ：2拍子を感じる
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー アラバスク
弾き歌い：おうま
講義・実践演習 ⑤テーマ：幼児歌曲の伴奏②
内容・方法等：コードによる伴奏付けを学ぶ。

【第6回】
ピアノ・レッスン⑥テーマ：左手の16分音符の動き
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー バラード

弾き歌い：水あそび
講義・実践演習 ⑥テーマ：幼児歌曲の伴奏③
内容・方法等：さまざまな伴奏形を学ぶ。

【第7回】

ピアノ・レッスン⑦テーマ：和音の連打
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー バラード

弾き歌い：水あそび
講義・実践演習 ⑦テーマ：幼児歌曲の伴奏・アレンジ
内容・方法等：幼児歌曲の伴奏形を変奏してアレンジする。

【第8回】

ピアノ・レッスン⑧テーマ：3拍子を感じる
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー バラード

弾き歌い：かたつむり
講義・実践演習 ⑧テーマ：幼児歌曲の移調①
内容・方法：簡易な幼児歌曲を移調して演奏する方法を学ぶ。

【第9回】

ピアノ・レッスン⑨テーマ：スタッカートとレガートの違い
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 貴婦人の乗馬

弾き歌い：かたつむり
講義・実践演習 ⑨テーマ：幼児歌曲の移調②
内容・方法：簡易な幼児歌曲を移調して演奏する方法を学ぶ。

【第10回】

ピアノ・レッスン⑩テーマ：16分音符の音階
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 貴婦人の乗馬

弾き歌い：やぎさんゆうびん
講義・実践演習 ⑩テーマ：対旋律①
内容・方法：対旋律とは何かについて学ぶ。

【第11回】

ピアノ・レッスン⑪テーマ：3連音符の奏法
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 貴婦人の乗馬

弾き歌い：やぎさんゆうびん
講義・実践演習 ⑪テーマ：対旋律②
内容・方法：対旋律の弾き方について学ぶ。

【第12回】

ピアノ・レッスン⑫テーマ：ソナチネの形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ ソナチネ7番 第1楽章

弾き歌い：むすんでひらいて
講義・実践演習 ⑫テーマ：対旋律③
内容・方法：対旋律と主旋律を同時に演奏する方法を学ぶ。

【第13回】

ピアノ・レッスン⑬テーマ：楽曲の暗譜
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ ソナチネ7番 第1楽章

弾き歌い：むすんでひらいて
講義・実践演習 ⑬テーマ：幼児歌曲の伴奏④
内容・方法：幼児歌曲にコードで伴奏をつけて演奏する。

【第14回】

ピアノ・レッスン⑭テーマ：楽曲を仕上げる
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ ソナチネ7番 第1楽章

弾き歌い：十人のインディアン
講義・実践演習 ⑭テーマ：幼児歌曲の伴奏⑤
内容・方法：幼児歌曲に分散和音等で伴奏をつけて演奏する。

【第15回】

ピアノ・レッスン⑮テーマ：ピアノ基礎教材曲と弾き歌い曲の発表リハーサル
内容・方法：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌い曲発表のリハーサルを行う。

講義・実践演習 ⑮テーマ：幼児歌曲のまとめ
内容・方法：幼児歌曲にさまざまな形の伴奏をつけて演奏する。

【定期試験】

ピアノ基礎教材曲と弾き歌い曲の演奏発表後、次の課題曲の選定

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。
各回につき1時間の事前・事後学習が必要である。

【第1回～第12回、第16回～第29回】

①事前学修課題：課題曲の読譜を行っておくこと。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で取りあげた曲の復習。

【第13回、第14回】

①事前学修課題：課題曲の暗譜を行っておくこと。曲の表情にも配慮して授業までに練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で取りあげた曲を復習し、演奏発表に備える。

【第15回】

①事前学修課題：ピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、弾き歌いの教材の曲を楽譜を見て歌いながら演奏できるように備える。

②事後学修課題：演奏発表の振り返りを行い、今後も容易に弾けるよう体得する。

課題に対するフィードバックの方法

各回のレッスン・授業で指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスン・授業で確認する。

成績評価の方法・基準(方針)

- 以下に示すピアノ実技試験、講義復習課題レポート、課題演奏・課題発表を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 - ・演奏発表にはそれぞれ課題とされたピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、また弾き歌い教材の曲として『最新・幼児の音楽教育』又は『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』から選んだ曲を楽譜を見て歌いながら演奏する。
 - 各自の能力に応じた努力を重視する。
 - 学期末試験でのピアノ基礎教材課題曲暗譜演奏を評価する。
 - 幼児歌曲の弾き歌いを評価する。
 - 毎回の予習・復習と課題曲への取り組み状況の評価する。
 - 曲調に合った演奏ができているか評価する。
 - ・講義で学んだ内容について課題取り組み状況・発表を評価する。
- 出欠について
 - ・ピアノ・レッスンはマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう注意すること。3回遅刻した場合を1回の欠席、15分以上遅刻した場合は欠席とみなす。
 - ・授業開始時間から15分迄を遅刻とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	講義課題についての演奏・取り組み状況(30) 授業への意欲・取り組み姿勢(20)	1～10
授業外での評価	20	課題提出状況(10) 課題取り組み状況(10)	7, 10, 11
定期試験	30	定期試験(基礎教材曲1曲、幼児歌曲1曲)(30)	2, 3, 4, 5, 6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『保育に役立つ 基礎から学ぶピアノ』/大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版(購入不要) 『最新・幼児の音楽教育 改訂版』/井口太編著/朝日出版社 / 978-4-255-15725-2 2750円
参考書	必要に応じて配付する。
履修条件・他の科目との関連	全音楽関係科目履修時にピアノは基本となる楽器である故、与えられた課題に真摯に取り組み、十分に練習・向上すること。

授業コード	22052002	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	音楽（応用）a [対面]				
シラバス執筆(全員)	作野 理恵、光本 諭史、濱谷 田穂、平田 道子、村上 利香				
シラバス執筆(主)	作野 理恵				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業はピアノの個人レッスンと、音楽活動の実践方法についての講義・実技演習から成る。ピアノ・レッスンでは「音楽(基礎)ab」での学びを基礎とし、更なるピアノ演奏技術、並びに表現方法を概説する。本科目は演奏技術の習得のみにとどまらず、豊かな表現力や音楽性を養うことを目標にしている。また、幼児歌曲や生活・行事の歌等高難度の「弾き歌い教材曲」を取り上げ、実習や就職活動、並びに実際の保育現場で役立つピアノ演奏について説明する。講義・実践演習では、コード伴奏や楽曲の編曲方法等について概説し、保育現場における音楽活動に活かすことのできる実践力習得を指導する。リトミックなどの身体表現に用いるピアノ演奏技術、音楽表現方法を説明する。

到達目標

1. 基礎教材曲・幼児歌曲の読譜ができる
2. 正しい運指で演奏できる
3. 手・腕が脱力した状態で演奏できる
4. 基礎教材曲を暗譜で演奏できる
5. 曲調に合った演奏表現ができる
6. 幼児歌曲の弾き歌いができる
7. 和音進行のパターンを用い、メロディーに相応しい伴奏をつけることができる
8. 楽曲の簡単な編曲・即興演奏ができる
9. リズム感覚を養うあそびを実践できる
10. こどもの音楽感覚を育てるためのリズム指導ができる
11. 課題曲の予習・復習ができる

授業計画

個人レッスンではピアノ基礎教材曲、幼児歌曲の指導を受ける。
講義・実践演習では各回のテーマに基づく課題を五線紙、あるいはプリントに記入し、発表・提出する。

【第1回】
ピアノ・レッスン①テーマ：授業の進め方、概要の説明
内容・方法：1年次生時に取り組んだピアノ基礎教材曲・弾き歌い教材曲を次の段階へ進める。
講義・実践演習 ①テーマ：授業についてのガイダンス
内容・方法：授業の進め方、概要の説明。

(ピアノ・レッスンにおけるピアノ基礎教材・弾き歌い教材は習得のモデルである)

【第2回】
ピアノ・レッスン②テーマ：レガート奏法の習得
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 素直な心
弾き歌い：メリーさんのひつじ
講義・実践演習 ②テーマ：楽譜の表示
内容・方法等：楽譜の表示について学ぶ。

【第3回】
ピアノ・レッスン③テーマ：対旋律の弾き方
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 素直な心
弾き歌い：メリーさんのひつじ
講義・実践演習 ③テーマ：コードネーム
内容・方法等：コードネームについて学ぶ。

【第4回】
ピアノ・レッスン④テーマ：16分音符の細かい動き
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー アラバスク
弾き歌い：おうま
講義・実践演習 ④テーマ：幼児歌曲の伴奏①
内容・方法等：ベース音による伴奏を学ぶ。

【第5回】
ピアノ・レッスン⑤テーマ：2拍子を感じる
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー アラバスク
弾き歌い：おうま
講義・実践演習 ⑤テーマ：幼児歌曲の伴奏②
内容・方法等：コードによる伴奏付けを学ぶ。

【第6回】
ピアノ・レッスン⑥テーマ：左手の16分音符の動き
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー バラード

弾き歌い：水あそび
講義・実践演習 ⑥テーマ：幼児歌曲の伴奏③
内容・方法等：さまざまな伴奏形を学ぶ。

【第7回】

ピアノ・レッスン⑦テーマ：和音の連打
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー バラード

弾き歌い：水あそび
講義・実践演習 ⑦テーマ：幼児歌曲の伴奏・アレンジ
内容・方法等：幼児歌曲の伴奏形を変奏してアレンジする。

【第8回】

ピアノ・レッスン⑧テーマ：3拍子を感じる
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー バラード

弾き歌い：かたつむり
講義・実践演習 ⑧テーマ：幼児歌曲の移調①
内容・方法：簡易な幼児歌曲を移調して演奏する方法を学ぶ。

【第9回】

ピアノ・レッスン⑨テーマ：スタッカートとレガートの違い
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 貴婦人の乗馬

弾き歌い：かたつむり
講義・実践演習 ⑨テーマ：幼児歌曲の移調②
内容・方法：簡易な幼児歌曲を移調して演奏する方法を学ぶ。

【第10回】

ピアノ・レッスン⑩テーマ：16分音符の音階
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 貴婦人の乗馬

弾き歌い：やぎさんゆうびん
講義・実践演習 ⑩テーマ：対旋律①
内容・方法：対旋律とは何かについて学ぶ。

【第11回】

ピアノ・レッスン⑪テーマ：3連音符の奏法
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 貴婦人の乗馬

弾き歌い：やぎさんゆうびん
講義・実践演習 ⑪テーマ：対旋律②
内容・方法：対旋律の弾き方について学ぶ。

【第12回】

ピアノ・レッスン⑫テーマ：ソナチネの形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ ソナチネ7番 第1楽章

弾き歌い：むすんでひらいて
講義・実践演習 ⑫テーマ：対旋律③
内容・方法：対旋律と主旋律を同時に演奏する方法を学ぶ。

【第13回】

ピアノ・レッスン⑬テーマ：楽曲の暗譜
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ ソナチネ7番 第1楽章

弾き歌い：むすんでひらいて
講義・実践演習 ⑬テーマ：幼児歌曲の伴奏④
内容・方法：幼児歌曲にコードで伴奏をつけて演奏する。

【第14回】

ピアノ・レッスン⑭テーマ：楽曲を仕上げる
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ ソナチネ7番 第1楽章

弾き歌い：十人のインディアン
講義・実践演習 ⑭テーマ：幼児歌曲の伴奏⑤
内容・方法：幼児歌曲に分散和音等で伴奏をつけて演奏する。

【第15回】

ピアノ・レッスン⑮テーマ：ピアノ基礎教材曲と弾き歌い曲の発表リハーサル
内容・方法：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌い曲発表のリハーサルを行う。

講義・実践演習 ⑮テーマ：幼児歌曲のまとめ
内容・方法：幼児歌曲にさまざまな形の伴奏をつけて演奏する。

【定期試験】

ピアノ基礎教材曲と弾き歌い曲の演奏発表後、次の課題曲の選定

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。
各回につき1時間の事前・事後学習が必要である。

【第1回～第12回、第16回～第29回】

①事前学修課題：課題曲の読譜を行っておくこと。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で取りあげた曲の復習。

【第13回、第14回】

①事前学修課題：課題曲の暗譜を行っておくこと。曲の表情にも配慮して授業までに練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で取りあげた曲を復習し、演奏発表に備える。

【第15回】

①事前学修課題：ピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、弾き歌いの教材の曲を楽譜を見て歌いながら演奏できるように備える。

②事後学修課題：演奏発表の振り返りを行い、今後も容易に弾けるよう体得する。

課題に対するフィードバックの方法

各回のレッスン・授業で指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスン・授業で確認する。

成績評価の方法・基準(方針)

- 以下に示すピアノ実技試験、講義復習課題レポート、課題演奏・課題発表を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 - ・演奏発表にはそれぞれ課題とされたピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、また弾き歌い教材の曲として『最新・幼児の音楽教育』又は『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』から選んだ曲を楽譜を見て歌いながら演奏する。
 - 各自の能力に応じた努力を重視する。
 - 学期末試験でのピアノ基礎教材課題曲暗譜演奏を評価する。
 - 幼児歌曲の弾き歌いを評価する。
 - 毎回の予習・復習と課題曲への取り組み状況の評価する。
 - 曲調に合った演奏ができているか評価する。
 - ・講義で学んだ内容について課題取り組み状況・発表を評価する。
- 出欠について
- ・ピアノ・レッスンはマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう注意すること。3回遅刻した場合を1回の欠席、15分以上遅刻した場合は欠席とみなす。
 - ・授業開始時間から15分迄を遅刻とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	講義課題についての演奏・取り組み状況(30) 授業への意欲・取り組み姿勢(20)	1～10
授業外での評価	20	課題提出状況(10) 課題取り組み状況(10)	7, 10, 11
定期試験	30	定期試験(基礎教材曲1曲、幼児歌曲1曲)(30)	2, 3, 4, 5, 6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『保育に役立つ 基礎から学ぶピアノ』/大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版(購入不要) 『最新・幼児の音楽教育 改訂版』/井口太編著/朝日出版社 / 978-4-255-15725-2 2750円
参考書	必要に応じて配付する。
履修条件・他の科目との関連	全音楽関係科目履修時にピアノは基本となる楽器である故、与えられた課題に真摯に取り組み、十分に練習・向上すること。

授業コード	22052003	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	音楽（応用）a [対面]				
シラバス執筆(全員)	作野 理恵、光本 諭史、西脇 恭子、平田 道子、福原 千織、村上 利香				
シラバス執筆(主)	作野 理恵				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業はピアノの個人レッスンと、音楽活動の実践方法についての講義・実技演習から成る。ピアノ・レッスンでは「音楽(基礎)ab」での学びを基礎とし、更なるピアノ演奏技術、並びに表現方法を概説する。本科目は演奏技術の習得のみにとどまらず、豊かな表現力や音楽性を養うことを目標にしている。また、幼児歌曲や生活・行事の歌等高難度の「弾き歌い教材曲」を取り上げ、実習や就職活動、並びに実際の保育現場で役立つピアノ演奏について説明する。講義・実践演習では、コード伴奏や楽曲の編曲方法等について概説し、保育現場における音楽活動に活かすことのできる実践力習得を指導する。リトミックなどの身体表現に用いるピアノ演奏技術、音楽表現方法を説明する。

到達目標

1. 基礎教材曲・幼児歌曲の読譜ができる
2. 正しい運指で演奏できる
3. 手・腕が脱力した状態で演奏できる
4. 基礎教材曲を暗譜で演奏できる
5. 曲調に合った演奏表現ができる
6. 幼児歌曲の弾き歌いができる
7. 和音進行のパターンを用い、メロディーに相応しい伴奏をつけることができる
8. 楽曲の簡単な編曲・即興演奏ができる
9. リズム感覚を養うあそびを実践できる
10. こどもの音楽感覚を育てるためのリズム指導ができる
11. 課題曲の予習・復習ができる

授業計画

個人レッスンではピアノ基礎教材曲、幼児歌曲の指導を受ける。
講義・実践演習では各回のテーマに基づく課題を五線紙、あるいはプリントに記入し、発表・提出する。

【第1回】
ピアノ・レッスン①テーマ：授業の進め方、概要の説明
内容・方法：1年次生時に取り組んだピアノ基礎教材曲・弾き歌い教材曲を次の段階へ進める。
講義・実践演習 ①テーマ：授業についてのガイダンス
内容・方法：授業の進め方、概要の説明。

(ピアノ・レッスンにおけるピアノ基礎教材・弾き歌い教材は習得のモデルである)

【第2回】
ピアノ・レッスン②テーマ：レガート奏法の習得
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 素直な心
弾き歌い：メリーさんのひつじ
講義・実践演習 ②テーマ：楽譜の表示
内容・方法等：楽譜の表示について学ぶ。

【第3回】
ピアノ・レッスン③テーマ：対旋律の弾き方
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 素直な心
弾き歌い：メリーさんのひつじ
講義・実践演習 ③テーマ：コードネーム
内容・方法等：コードネームについて学ぶ。

【第4回】
ピアノ・レッスン④テーマ：16分音符の細かい動き
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー アラバスク
弾き歌い：おうま
講義・実践演習 ④テーマ：幼児歌曲の伴奏①
内容・方法等：ベース音による伴奏を学ぶ。

【第5回】
ピアノ・レッスン⑤テーマ：2拍子を感じる
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー アラバスク
弾き歌い：おうま
講義・実践演習 ⑤テーマ：幼児歌曲の伴奏②
内容・方法等：コードによる伴奏付けを学ぶ。

【第6回】
ピアノ・レッスン⑥テーマ：左手の16分音符の動き
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー バラード

弾き歌い：水あそび
講義・実践演習 ⑥テーマ：幼児歌曲の伴奏③
内容・方法等：さまざまな伴奏形を学ぶ。

【第7回】

ピアノ・レッスン⑦テーマ：和音の連打
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー バラード

弾き歌い：水あそび
講義・実践演習 ⑦テーマ：幼児歌曲の伴奏・アレンジ
内容・方法等：幼児歌曲の伴奏形を変奏してアレンジする。

【第8回】

ピアノ・レッスン⑧テーマ：3拍子を感じる
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー バラード

弾き歌い：かたつむり
講義・実践演習 ⑧テーマ：幼児歌曲の移調①
内容・方法：簡易な幼児歌曲を移調して演奏する方法を学ぶ。

【第9回】

ピアノ・レッスン⑨テーマ：スタッカートとレガートの違い
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 貴婦人の乗馬

弾き歌い：かたつむり
講義・実践演習 ⑨テーマ：幼児歌曲の移調②
内容・方法：簡易な幼児歌曲を移調して演奏する方法を学ぶ。

【第10回】

ピアノ・レッスン⑩テーマ：16分音符の音階
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 貴婦人の乗馬

弾き歌い：やぎさんゆうびん
講義・実践演習 ⑩テーマ：対旋律①
内容・方法：対旋律とは何かについて学ぶ。

【第11回】

ピアノ・レッスン⑪テーマ：3連音符の奏法
内容・方法：ピアノ基礎教材：ブルクミュラー 貴婦人の乗馬

弾き歌い：やぎさんゆうびん
講義・実践演習 ⑪テーマ：対旋律②
内容・方法：対旋律の弾き方について学ぶ。

【第12回】

ピアノ・レッスン⑫テーマ：ソナチネの形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ ソナチネ7番 第1楽章

弾き歌い：むすんでひらいて
講義・実践演習 ⑫テーマ：対旋律③
内容・方法：対旋律と主旋律を同時に演奏する方法を学ぶ。

【第13回】

ピアノ・レッスン⑬テーマ：楽曲の暗譜
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ ソナチネ7番 第1楽章

弾き歌い：むすんでひらいて
講義・実践演習 ⑬テーマ：幼児歌曲の伴奏④
内容・方法：幼児歌曲にコードで伴奏をつけて演奏する。

【第14回】

ピアノ・レッスン⑭テーマ：楽曲を仕上げる
内容・方法：ピアノ基礎教材：クレメンティ ソナチネ7番 第1楽章

弾き歌い：十人のインディアン
講義・実践演習 ⑭テーマ：幼児歌曲の伴奏⑤
内容・方法：幼児歌曲に分散和音等で伴奏をつけて演奏する。

【第15回】

ピアノ・レッスン⑮テーマ：ピアノ基礎教材曲と弾き歌い曲の発表リハーサル
内容・方法：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌い曲発表のリハーサルを行う。

講義・実践演習 ⑮テーマ：幼児歌曲のまとめ
内容・方法：幼児歌曲にさまざまな形の伴奏をつけて演奏する。

【定期試験】

ピアノ基礎教材曲と弾き歌い曲の演奏発表後、次の課題曲の選定

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。
各回につき1時間の事前・事後学習が必要である。

【第1回～第12回、第16回～第29回】

①事前学修課題：課題曲の読譜を行っておくこと。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で取りあげた曲の復習。

【第13回、第14回】

①事前学修課題：課題曲の暗譜を行っておくこと。曲の表情にも配慮して授業までに練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で取りあげた曲を復習し、演奏発表に備える。

【第15回】

①事前学修課題：ピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、弾き歌いの教材の曲を楽譜を見て歌いながら演奏できるように備える。

②事後学修課題：演奏発表の振り返りを行い、今後も容易に弾けるよう体得する。

課題に対するフィードバックの方法

各回のレッスン・授業で指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスン・授業で確認する。

成績評価の方法・基準(方針)

- 以下に示すピアノ実技試験、講義復習課題レポート、課題演奏・課題発表を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 - ・演奏発表にはそれぞれ課題とされたピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、また弾き歌い教材の曲として『最新・幼児の音楽教育』又は『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』から選んだ曲を楽譜を見て歌いながら演奏する。
 - 各自の能力に応じた努力を重視する。
 - 学期末試験でのピアノ基礎教材課題曲暗譜演奏を評価する。
 - 幼児歌曲の弾き歌いを評価する。
 - 毎回の予習・復習と課題曲への取り組み状況を評価する。
 - 曲調に合った演奏ができているか評価する。
- ・講義で学んだ内容について課題取り組み状況・発表を評価する。
- 出欠について
 - ・ピアノ・レッスンはマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう注意すること。3回遅刻した場合を1回の欠席、15分以上遅刻した場合は欠席とみなす。
 - ・授業開始時間から15分迄を遅刻とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	講義課題についての演奏・取り組み状況(30) 授業への意欲・取り組み姿勢(20)	1～10
授業外での評価	20	課題提出状況(10) 課題取り組み状況(10)	7, 10, 11
定期試験	30	定期試験(基礎教材曲1曲、幼児歌曲1曲)(30)	2, 3, 4, 5, 6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『保育に役立つ 基礎から学ぶピアノ』/大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版(購入不要) 『最新・幼児の音楽教育 改訂版』/井口太編著/朝日出版社 / 978-4-255-15725-2 2750円
参考書	必要に応じて配付する。
履修条件・他の科目との関連	全音楽関係科目履修時にピアノは基本となる楽器である故、与えられた課題に真摯に取り組み、十分に練習・向上すること。

授業コード	22052101	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	音楽（応用）b [対面]				
シラバス執筆(全員)	作野 理恵、光本 諭史、寺見 香織、佐々木 聡子、村上 利香				
シラバス執筆(主)	作野 理恵				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業はピアノの個人レッスンと、音楽活動の実践方法についての講義・実技演習から成る。ピアノ・レッスンでは「音楽(基礎)ab」「音楽(応用)a」での学びを更に発展させ、多様なピアノ演奏技術、並びに表現方法を説明する。本科目は演奏技術の習得のみにとどまらず、豊かな表現力や音楽性を養うことを目標にしている。また、幼児歌曲や生活・行事の歌等高難度の「弾き歌い教材曲」を取り上げ、実習や就職活動、並びに実際の保育現場で役立つピアノ演奏について説明する。講義・実践演習では、コード伴奏や楽曲の編曲方法等について概説し、保育現場における音楽活動に活かすことのできる実践力習得を指導する。リトミックなどの身体表現に用いるピアノ演奏技術、音楽表現方法を概説する。

到達目標

1. 基礎教材曲・幼児歌曲の読譜ができる
2. 正しい運指で演奏できる
3. 手・腕が脱力した状態で演奏できる
4. 基礎教材曲を暗譜で演奏できる
5. 曲調に合った演奏表現ができる
6. 幼児歌曲の弾きうたいができる
7. 和音進行のパターンを用い、メロディーに相応しい伴奏をつけることができる
8. 楽曲の簡易なアレンジ・即興演奏ができる
9. リズム感覚を養うあそびを実践できる
10. こどもの音楽感覚を育てるためのリズム指導ができる
11. 課題曲の予習・復習ができています

授業計画

個人レッスンではピアノ基礎教材曲、幼児歌曲の指導を受ける。講義・実践演習では各回のテーマに基づく課題を五線紙、あるいはプリントに記入し、発表する。

【第1回】

ピアノ・レッスン⑯ テーマ：メロディのフレーズ
内容・方法：ピアノ基礎教材 クレメンティ ソナチネ7番 第3楽章
弾き歌い：ひげじいさん

講義・実践演習 ⑯ テーマ：身体表現、リトミックについて
内容・方法：・後期授業のガイダンス 幼児にとっての身体表現の意味と必要性

【第2回】

ピアノ・レッスン⑰ テーマ：複合二部形式
内容・方法：ピアノ基礎教材 クレメンティ ソナチネ7番 第3楽章
弾き歌い：ひげじいさん

講義・実践演習 ⑰ テーマ：音と音楽
内容・方法：音に反応することと、音楽に同調することについて考察する。

【第3回】

ピアノ・レッスン⑱ テーマ：ソナタ形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ ソナチネ4番 第1楽章
弾き歌い：はをみがきましょう

講義・実践演習 ⑱ テーマ：リズムと動き
内容・方法：リズムの捉え方とリズムを感じた動きを体感し、それを楽器で表現する方法を学ぶ。

【第4回】

ピアノ・レッスン⑲ テーマ：指使いの工夫
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ ソナチネ4番 第1楽章
弾き歌い：はをみがきましょう

講義・実践演習 ⑲ テーマ：音楽の捉え方①
内容・方法：等速感について考察・体感し、ピアノで表現する。

【第5回】

ピアノ・レッスン⑳ テーマ：ロンド形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ ソナチネ4番 第2楽章
弾き歌い：とんぼのめがね

講義・実践演習 ⑳ テーマ：音楽の捉え方②
内容・方法：拍子感、フレーズ感について考察、体感し、ピアノで表現する。

【第6回】

ピアノ・レッスン㉑ テーマ：半音階の動き
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ ソナチネ4番 第2楽章
弾き歌い：とんぼのめがね

講義・実践演習	⑲テーマ：リズムあそび① 内容・方法：歩くことを中心にしたリズムあそびを学習しその活動のためのピアノ曲を習得する。
【第7回】	
ピアノ・レッスン	⑳テーマ：トリルの入れ方 内容・方法：基礎教材：クレメンティ ソナチネ9番 第1楽章 弾き歌い：どんぐりころころ
講義・実践演習	㉑テーマ：リズムあそび② 内容・方法：模倣を中心にしたリズムあそびを学習し、その活動のためのピアノ曲を習得する。
【第8回】	
ピアノ・レッスン	㉒テーマ：装飾音の入れ方 内容・方法：基礎教材：クレメンティ ソナチネ9番 第1楽章 弾き歌い：どんぐりころころ
講義・実践演習	㉓テーマ：リズムあそび③ 内容・方法：道具・小物楽器をつかったリズムあそびを学習する。
【第9回】	
ピアノ・レッスン	㉔テーマ：複合三部形式 内容・方法：基礎教材：クレメンティ ソナチネ9番 第3楽章 弾き歌い：雪
講義・実践演習	㉕テーマ：リズムあそび④ 内容・方法：鍵盤楽器をつかったリズムあそびを学習する。
【第10回】	
ピアノ・レッスン	㉖テーマ：和音の連打 内容・方法：基礎教材：クレメンティ ソナチネ9番 第3楽章 弾き歌い：犬のおまわりさん
講義・実践演習	㉗テーマ：リズムとことば 内容・方法：リズムとことばの関連を考察し、ことばをつかったリズムあそびを学習する。
【第11回】	
ピアノ・レッスン	㉘テーマ：ソナタ形式 内容・方法：ピアノ基礎教材：ベートーヴェン ソナタ作品49-2 第1楽章 弾き歌い：ジングルベル
講義・実践演習	㉙テーマ：うたと動き 内容・方法：うたと身体表現の関連を考察し、うたいながらの身体表現を学習する。
【第12回】	
ピアノ・レッスン	㉚テーマ：ソナタについて 内容・方法：ピアノ基礎教材：ベートーヴェン ソナタ作品49-2 第1楽章 弾き歌い：小ぎつね
講義・実践演習	㉛テーマ：身体表現のための音楽の捉え方① 内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～伴奏付け・変奏について
【第13回】	
ピアノ・レッスン	㉜テーマ：楽曲の暗譜 内容・方法：ピアノ基礎教材：モーツァルト ソナタ K. 545 第1楽章 弾き歌い：雪のペンキやさん
講義・実践演習	㉝テーマ：身体表現のための音楽の捉え方② 内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～表情について
【第14回】	
ピアノ・レッスン	㉞テーマ：楽曲を仕上げる 内容・方法：ピアノ基礎教材：モーツァルト ソナタ K. 545 第1楽章 弾き歌い：雪のペンキやさん
講義・実践演習	㉟テーマ：身体表現のための音楽の捉え方③ 内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～拍子について
【第15回】	
ピアノ・レッスン	㊱テーマ：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌いの曲の仕上げ。 内容・方法：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌いの曲を仕上げ、発表練習をする。
講義・実践演習	㊲テーマ：演奏発表・まとめ 内容・方法：身体表現のための音楽表現方法のまとめ・発表
【定期試験】	
	ピアノ基礎教材曲と弾き歌い曲の演奏発表後、振り返りを行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。

各回につき1時間の事前・事後学習が必要である。

【第1回～第12回、第16回～第29回】

①事前学修課題：課題曲の読譜を行っておくこと。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で取りあげた曲の復習。

【第13回、第14回】

①事前学修課題：課題曲の暗譜を行っておくこと。曲の表情にも配慮して授業までに練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で取りあげた曲を復習し、演奏発表に備える。

【第15回】

①事前学修課題：ピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、弾き歌いの教材の曲を楽譜を見て歌いながら演奏できるように備える。

②事後学修課題：演奏発表の振り返りを行い、今後も容易に弾けるよう体得する。

課題に対するフィードバックの方法

各回のレッスン・授業で指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスン・授業で確認する。

成績評価の方法・基準(方針)

●以下に示すピアノ実技試験、講義復習課題レポート、課題演奏・課題発表を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

・演奏発表にはそれぞれ課題とされたピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、また弾き歌い教材の曲として『最新・幼児の音楽教育』又は『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』から選んだ曲を楽譜を見て歌いながら演奏する。

各自の能力に応じた努力を重視する。

学期末試験でのピアノ基礎教材課題曲暗譜演奏を評価する。

幼児歌曲の弾き歌いを評価する。

毎回の予習・復習と課題曲への取り組み状況を評価する。

曲調に合った演奏ができているか評価する。

・講義で学んだ内容について課題取り組み状況・発表を評価する。

●出欠について

・ピアノ・レッスンはマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう注意すること。3回遅刻した場合を1回の欠席、15分以上遅刻した場合は欠席とみなす。

・授業開始時間から15分迄を遅刻とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	講義課題についての演奏・取り組み状況(30) 授業への意欲・取り組み姿勢(20)	1～10
授業外での評価	20	課題提出状況(10) 課題取り組み状況(10)	7, 10, 11
定期試験	30	定期試験(基礎教材曲1曲、幼児歌曲1曲)(30)	2, 3, 4, 5, 6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『保育に役立つ 基礎から学ぶピアノ』/大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版(購入不要) 『最新・幼児の音楽教育 改訂版』/井口太編著/朝日出版社 / 978-4-255-15725-2 2750円
------	--

参考書	必要に応じて配付します。
-----	--------------

履修条件・他の科目との関連	全音楽関係科目履修時にピアノは基本となる楽器である故、与えられた課題に真摯に取り組み、十分に練習・向上すること。
---------------	--

授業コード	22052102	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	音楽（応用）b [対面]				
シラバス執筆(全員)	作野 理恵、光本 諭史、濱谷 田穂、平田 道子、福原 千織				
シラバス執筆(主)	作野 理恵				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業はピアノの個人レッスンと、音楽活動の実践方法についての講義・実技演習から成る。ピアノ・レッスンでは「音楽(基礎)ab」「音楽(応用)a」での学びを更に発展させ、多様なピアノ演奏技術、並びに表現方法を説明する。本科目は演奏技術の習得のみにとどまらず、豊かな表現力や音楽性を養うことを目標にしている。また、幼児歌曲や生活・行事の歌等高難度の「弾き歌い教材曲」を取り上げ、実習や就職活動、並びに実際の保育現場で役立つピアノ演奏について説明する。講義・実践演習では、コード伴奏や楽曲の編曲方法等について概説し、保育現場における音楽活動に活かすことのできる実践力習得を指導する。リトミックなどの身体表現に用いるピアノ演奏技術、音楽表現方法を概説する。

到達目標

1. 基礎教材曲・幼児歌曲の読譜ができる
2. 正しい運指で演奏できる
3. 手・腕が脱力した状態で演奏できる
4. 基礎教材曲を暗譜で演奏できる
5. 曲調に合った演奏表現ができる
6. 幼児歌曲の弾きうたいができる
7. 和音進行のパターンを用い、メロディーに相応しい伴奏をつけることができる
8. 楽曲の簡易なアレンジ・即興演奏ができる
9. リズム感覚を養うあそびを実践できる
10. こどもの音楽感覚を育てるためのリズム指導ができる
11. 課題曲の予習・復習ができています

授業計画

個人レッスンではピアノ基礎教材曲、幼児歌曲の指導を受ける。講義・実践演習では各回のテーマに基づく課題を五線紙、あるいはプリントに記入し、発表する。

【第1回】

ピアノ・レッスン⑯ テーマ：メロディのフレーズ
内容・方法：ピアノ基礎教材 クレメンティ ソナチネ7番 第3楽章
弾き歌い：ひげじいさん

講義・実践演習 ⑯ テーマ：身体表現、リトミックについて
内容・方法：・後期授業のガイダンス 幼児にとっての身体表現の意味と必要性

【第2回】

ピアノ・レッスン⑰ テーマ：複合二部形式
内容・方法：ピアノ基礎教材 クレメンティ ソナチネ7番 第3楽章
弾き歌い：ひげじいさん

講義・実践演習 ⑰ テーマ：音と音楽
内容・方法：音に反応することと、音楽に同調することについて考察する。

【第3回】

ピアノ・レッスン⑱ テーマ：ソナタ形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ ソナチネ4番 第1楽章
弾き歌い：はをみがきましょう

講義・実践演習 ⑱ テーマ：リズムと動き
内容・方法：リズムの捉え方とリズムを感じた動きを体感し、それを楽器で表現する方法を学ぶ。

【第4回】

ピアノ・レッスン⑲ テーマ：指使いの工夫
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ ソナチネ4番 第1楽章
弾き歌い：はをみがきましょう

講義・実践演習 ⑲ テーマ：音楽の捉え方①
内容・方法：等速感について考察・体感し、ピアノで表現する。

【第5回】

ピアノ・レッスン⑳ テーマ：ロンド形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ ソナチネ4番 第2楽章
弾き歌い：とんぼのめがね

講義・実践演習 ⑳ テーマ：音楽の捉え方②
内容・方法：拍子感、フレーズ感について考察、体感し、ピアノで表現する。

【第6回】

ピアノ・レッスン㉑ テーマ：半音階の動き
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ ソナチネ4番 第2楽章
弾き歌い：とんぼのめがね

講義・実践演習	⑲テーマ：リズムあそび① 内容・方法：歩くことを中心にしたリズムあそびを学習しその活動のためのピアノ曲を習得する。
【第7回】	
ピアノ・レッスン	⑳テーマ：トリルの入れ方 内容・方法：基礎教材：クレメンティ ソナチネ9番 第1楽章 弾き歌い：どんぐりころころ
講義・実践演習	㉑テーマ：リズムあそび② 内容・方法：模倣を中心にしたリズムあそびを学習し、その活動のためのピアノ曲を習得する。
【第8回】	
ピアノ・レッスン	㉒テーマ：装飾音の入れ方 内容・方法：基礎教材：クレメンティ ソナチネ9番 第1楽章 弾き歌い：どんぐりころころ
講義・実践演習	㉓テーマ：リズムあそび③ 内容・方法：道具・小物楽器をつかったリズムあそびを学習する。
【第9回】	
ピアノ・レッスン	㉔テーマ：複合三部形式 内容・方法：基礎教材：クレメンティ ソナチネ9番 第3楽章 弾き歌い：雪
講義・実践演習	㉕テーマ：リズムあそび④ 内容・方法：鍵盤楽器をつかったリズムあそびを学習する。
【第10回】	
ピアノ・レッスン	㉖テーマ：和音の連打 内容・方法：基礎教材：クレメンティ ソナチネ9番 第3楽章 弾き歌い：犬のおまわりさん
講義・実践演習	㉗テーマ：リズムとことば 内容・方法：リズムとことばの関連を考察し、ことばをつかったリズムあそびを学習する。
【第11回】	
ピアノ・レッスン	㉘テーマ：ソナタ形式 内容・方法：ピアノ基礎教材：ベートーヴェン ソナタ作品49-2 第1楽章 弾き歌い：ジングルベル
講義・実践演習	㉙テーマ：うたと動き 内容・方法：うたと身体表現の関連を考察し、うたいながらの身体表現を学習する。
【第12回】	
ピアノ・レッスン	㉚テーマ：ソナタについて 内容・方法：ピアノ基礎教材：ベートーヴェン ソナタ作品49-2 第1楽章 弾き歌い：小ぎつね
講義・実践演習	㉛テーマ：身体表現のための音楽の捉え方① 内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～伴奏付け・変奏について
【第13回】	
ピアノ・レッスン	㉜テーマ：楽曲の暗譜 内容・方法：ピアノ基礎教材：モーツァルト ソナタ K. 545 第1楽章 弾き歌い：雪のペンキやさん
講義・実践演習	㉝テーマ：身体表現のための音楽の捉え方② 内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～表情について
【第14回】	
ピアノ・レッスン	㉞テーマ：楽曲を仕上げる 内容・方法：ピアノ基礎教材：モーツァルト ソナタ K. 545 第1楽章 弾き歌い：雪のペンキやさん
講義・実践演習	㉟テーマ：身体表現のための音楽の捉え方③ 内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～拍子について
【第15回】	
ピアノ・レッスン	㊱テーマ：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌いの曲の仕上げ。 内容・方法：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌いの曲を仕上げ、発表練習をする。
講義・実践演習	㊲テーマ：演奏発表・まとめ 内容・方法：身体表現のための音楽表現方法のまとめ・発表
【定期試験】	
	ピアノ基礎教材曲と弾き歌い曲の演奏発表後、振り返りを行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。

各回につき1時間の事前・事後学習が必要である。

【第1回～第12回、第16回～第29回】

①事前学修課題：課題曲の読譜を行っておくこと。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で取りあげた曲の復習。

【第13回、第14回】

①事前学修課題：課題曲の暗譜を行っておくこと。曲の表情にも配慮して授業までに練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で取りあげた曲を復習し、演奏発表に備える。

【第15回】

①事前学修課題：ピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、弾き歌いの教材の曲を楽譜を見て歌いながら演奏できるように備える。

②事後学修課題：演奏発表の振り返りを行い、今後も容易に弾けるよう体得する。

課題に対するフィードバックの方法

各回のレッスン・授業で指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスン・授業で確認する。

成績評価の方法・基準(方針)

●以下に示すピアノ実技試験、講義復習課題レポート、課題演奏・課題発表を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

・演奏発表にはそれぞれ課題とされたピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、また弾き歌い教材の曲として『最新・幼児の音楽教育』又は『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』から選んだ曲を楽譜を見て歌いながら演奏する。

各自の能力に応じた努力を重視する。

学期末試験でのピアノ基礎教材課題曲暗譜演奏を評価する。

幼児歌曲の弾き歌いを評価する。

毎回の予習・復習と課題曲への取り組み状況を評価する。

曲調に合った演奏ができているか評価する。

・講義で学んだ内容について課題取り組み状況・発表を評価する。

●出欠について

・ピアノ・レッスンはマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう注意すること。3回遅刻した場合を1回の欠席、15分以上遅刻した場合は欠席とみなす。

・授業開始時間から15分迄を遅刻とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	講義課題についての演奏・取り組み状況(30) 授業への意欲・取り組み姿勢(20)	1～10
授業外での評価	20	課題提出状況(10) 課題取り組み状況(10)	7, 10, 11
定期試験	30	定期試験(基礎教材曲1曲、幼児歌曲1曲)(30)	2, 3, 4, 5, 6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『保育に役立つ 基礎から学ぶピアノ』/大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版(購入不要) 『最新・幼児の音楽教育 改訂版』/井口太編著/朝日出版社 / 978-4-255-15725-2 2750円
------	--

参考書	必要に応じて配付します。
-----	--------------

履修条件・他の科目との関連	全音楽関係科目履修時にピアノは基本となる楽器である故、与えられた課題に真摯に取り組み、十分に練習・向上すること。
---------------	--

授業コード	22052103	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	音楽（応用）b [対面]				
シラバス執筆(全員)	作野 理恵、光本 諭史、錦見 朋子、西脇 恭子、蜂谷 葉子、村上 利香				
シラバス執筆(主)	作野 理恵				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業はピアノの個人レッスンと、音楽活動の実践方法についての講義・実技演習から成る。ピアノ・レッスンでは「音楽(基礎)ab」「音楽(応用)a」での学びを更に発展させ、多様なピアノ演奏技術、並びに表現方法を説明する。本科目は演奏技術の習得のみにとどまらず、豊かな表現力や音楽性を養うことを目標にしている。また、幼児歌曲や生活・行事の歌等高難度の「弾き歌い教材曲」を取り上げ、実習や就職活動、並びに実際の保育現場で役立つピアノ演奏について説明する。講義・実践演習では、コード伴奏や楽曲の編曲方法等について概説し、保育現場における音楽活動に活かすことのできる実践力習得を指導する。リトミックなどの身体表現に用いるピアノ演奏技術、音楽表現方法を概説する。

到達目標

1. 基礎教材曲・幼児歌曲の読譜ができる
2. 正しい運指で演奏できる
3. 手・腕が脱力した状態で演奏できる
4. 基礎教材曲を暗譜で演奏できる
5. 曲調に合った演奏表現ができる
6. 幼児歌曲の弾きうたいができる
7. 和音進行のパターンを用い、メロディーに相応しい伴奏をつけることができる
8. 楽曲の簡易なアレンジ・即興演奏ができる
9. リズム感覚を養うあそびを実践できる
10. こどもの音楽感覚を育てるためのリズム指導ができる
11. 課題曲の予習・復習ができています

授業計画

個人レッスンではピアノ基礎教材曲、幼児歌曲の指導を受ける。講義・実践演習では各回のテーマに基づく課題を五線紙、あるいはプリントに記入し、発表する。

【第1回】

ピアノ・レッスン⑯ テーマ：メロディのフレーズ
内容・方法：ピアノ基礎教材 クレメンティ ソナチネ7番 第3楽章
弾き歌い：ひげじいさん

講義・実践演習 ⑯ テーマ：身体表現、リトミックについて
内容・方法：・後期授業のガイダンス 幼児にとっての身体表現の意味と必要性

【第2回】

ピアノ・レッスン⑰ テーマ：複合二部形式
内容・方法：ピアノ基礎教材 クレメンティ ソナチネ7番 第3楽章
弾き歌い：ひげじいさん

講義・実践演習 ⑰ テーマ：音と音楽
内容・方法：音に反応することと、音楽に同調することについて考察する。

【第3回】

ピアノ・レッスン⑱ テーマ：ソナタ形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ ソナチネ4番 第1楽章
弾き歌い：はをみがきましょう

講義・実践演習 ⑱ テーマ：リズムと動き
内容・方法：リズムの捉え方とリズムを感じた動きを体感し、それを楽器で表現する方法を学ぶ。

【第4回】

ピアノ・レッスン⑲ テーマ：指使いの工夫
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ ソナチネ4番 第1楽章
弾き歌い：はをみがきましょう

講義・実践演習 ⑲ テーマ：音楽の捉え方①
内容・方法：等速感について考察・体感し、ピアノで表現する。

【第5回】

ピアノ・レッスン⑳ テーマ：ロンド形式
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ ソナチネ4番 第2楽章
弾き歌い：とんぼのめがね

講義・実践演習 ⑳ テーマ：音楽の捉え方②
内容・方法：拍子感、フレーズ感について考察、体感し、ピアノで表現する。

【第6回】

ピアノ・レッスン㉑ テーマ：半音階の動き
内容・方法：ピアノ基礎教材：クーラウ ソナチネ4番 第2楽章
弾き歌い：とんぼのめがね

講義・実践演習	⑲テーマ：リズムあそび① 内容・方法：歩くことを中心にしたリズムあそびを学習しその活動のためのピアノ曲を習得する。
【第7回】	
ピアノ・レッスン	⑳テーマ：トリルの入れ方 内容・方法：基礎教材：クレメンティ ソナチネ9番 第1楽章 弾き歌い：どんぐりころころ
講義・実践演習	㉑テーマ：リズムあそび② 内容・方法：模倣を中心にしたリズムあそびを学習し、その活動のためのピアノ曲を習得する。
【第8回】	
ピアノ・レッスン	㉒テーマ：装飾音の入れ方 内容・方法：基礎教材：クレメンティ ソナチネ9番 第1楽章 弾き歌い：どんぐりころころ
講義・実践演習	㉓テーマ：リズムあそび③ 内容・方法：道具・小物楽器をつかったリズムあそびを学習する。
【第9回】	
ピアノ・レッスン	㉔テーマ：複合三部形式 内容・方法：基礎教材：クレメンティ ソナチネ9番 第3楽章 弾き歌い：雪
講義・実践演習	㉕テーマ：リズムあそび④ 内容・方法：鍵盤楽器をつかったリズムあそびを学習する。
【第10回】	
ピアノ・レッスン	㉖テーマ：和音の連打 内容・方法：基礎教材：クレメンティ ソナチネ9番 第3楽章 弾き歌い：犬のおまわりさん
講義・実践演習	㉗テーマ：リズムとことば 内容・方法：リズムとことばの関連を考察し、ことばをつかったリズムあそびを学習する。
【第11回】	
ピアノ・レッスン	㉘テーマ：ソナタ形式 内容・方法：ピアノ基礎教材：ベートーヴェン ソナタ作品49-2 第1楽章 弾き歌い：ジングルベル
講義・実践演習	㉙テーマ：うたと動き 内容・方法：うたと身体表現の関連を考察し、うたいながらの身体表現を学習する。
【第12回】	
ピアノ・レッスン	㉚テーマ：ソナタについて 内容・方法：ピアノ基礎教材：ベートーヴェン ソナタ作品49-2 第1楽章 弾き歌い：小ぎつね
講義・実践演習	㉛テーマ：身体表現のための音楽の捉え方① 内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～伴奏付け・変奏について
【第13回】	
ピアノ・レッスン	㉜テーマ：楽曲の暗譜 内容・方法：ピアノ基礎教材：モーツァルト ソナタ K. 545 第1楽章 弾き歌い：雪のペンキやさん
講義・実践演習	㉝テーマ：身体表現のための音楽の捉え方② 内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～表情について
【第14回】	
ピアノ・レッスン	㉞テーマ：楽曲を仕上げる 内容・方法：ピアノ基礎教材：モーツァルト ソナタ K. 545 第1楽章 弾き歌い：雪のペンキやさん
講義・実践演習	㉟テーマ：身体表現のための音楽の捉え方③ 内容・方法：身体表現のためのピアノ演奏法～拍子について
【第15回】	
ピアノ・レッスン	㊱テーマ：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌いの曲の仕上げ。 内容・方法：ピアノ基礎教材の曲と弾き歌いの曲を仕上げ、発表練習をする。
講義・実践演習	㊲テーマ：演奏発表・まとめ 内容・方法：身体表現のための音楽表現方法のまとめ・発表
【定期試験】	
	ピアノ基礎教材曲と弾き歌い曲の演奏発表後、振り返りを行う。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要である。

各回につき1時間の事前・事後学習が必要である。

【第1回～第12回、第16回～第29回】

①事前学修課題：課題曲の読譜を行っておくこと。運指にも配慮して授業までに練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で取りあげた曲の復習。

【第13回、第14回】

①事前学修課題：課題曲の暗譜を行っておくこと。曲の表情にも配慮して授業までに練習しておくこと。

②事後学修課題：授業で取りあげた曲を復習し、演奏発表に備える。

【第15回】

①事前学修課題：ピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、弾き歌いの教材の曲を楽譜を見て歌いながら演奏できるように備える。

②事後学修課題：演奏発表の振り返りを行い、今後も容易に弾けるよう体得する。

課題に対するフィードバックの方法

各回のレッスン・授業で指導された内容が反映されて演奏できているか、翌週のレッスン・授業で確認する。

成績評価の方法・基準(方針)

●以下に示すピアノ実技試験、講義復習課題レポート、課題演奏・課題発表を総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

・演奏発表にはそれぞれ課題とされたピアノ基礎教材の曲を暗譜で演奏し、また弾き歌い教材の曲として『最新・幼児の音楽教育』又は『保育に役立つ基礎から学ぶピアノ』から選んだ曲を楽譜を見て歌いながら演奏する。

各自の能力に応じた努力を重視する。

学期末試験でのピアノ基礎教材課題曲暗譜演奏を評価する。

幼児歌曲の弾き歌いを評価する。

毎回の予習・復習と課題曲への取り組み状況を評価する。

曲調に合った演奏ができているか評価する。

・講義で学んだ内容について課題取り組み状況・発表を評価する。

●出欠について

・ピアノ・レッスンはマンツーマンのレッスン形式で一人ずつ順番に行うが、遅刻・欠席をしないよう注意すること。3回遅刻した場合を1回の欠席、15分以上遅刻した場合は欠席とみなす。

・授業開始時間から15分迄を遅刻とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	講義課題についての演奏・取り組み状況(30) 授業への意欲・取り組み姿勢(20)	1～10
授業外での評価	20	課題提出状況(10) 課題取り組み状況(10)	7, 10, 11
定期試験	30	定期試験(基礎教材曲1曲、幼児歌曲1曲)(30)	2, 3, 4, 5, 6
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	『保育に役立つ 基礎から学ぶピアノ』/大阪国際大学短期大学部発行/カワイ出版(購入不要) 『最新・幼児の音楽教育 改訂版』/井口太編著/朝日出版社 / 978-4-255-15725-2 2750円
------	--

参考書	必要に応じて配付します。
-----	--------------

履修条件・他の科目との関連	全音楽関係科目履修時にピアノは基本となる楽器である故、与えられた課題に真摯に取り組み、十分に練習・向上すること。
---------------	--

授業コード	22052201	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	吹奏楽 I a [対面]				
シラバス執筆(全員)	山内 由香、李 胎蓮、作野 理恵				
シラバス執筆(主)	山内 由香				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(目的)
この授業は、管打楽器演奏を自ら経験することにより、保育現場で必要とされる音楽表現方法を習得させるために、音楽基礎知識に加え、演奏指導法を概説する。
管打楽器を経験したことがない学生には、演奏技術を深めるだけでなく、他の人と協力し合いながら一つの音楽作品を仕上げる喜びを見いだしていくことを目標とする。

(内容)
吹奏楽オリジナル作品だけでなく、比較的馴染みのある楽曲を使用し、初心者についても自らの上達を感じられることを目指す。
また、教員が合奏を仕上げる過程を概説し、子どもへの指導法を習得する。

到達目標

- 1、さまざまな楽曲に取り組むことで、より深い音楽表現ができる
- 2、初心者にとっては管打楽器の正しい奏法で演奏ができる
- 3、経験者にはより確立した技術で演奏できる
- 4、他者と協力し合いながら演奏することができる

授業計画

【第1回】
テーマ：吹奏楽で使用される楽器の種類とそれぞれの特徴
内容・方法： 木管・金管・打楽器それぞれの楽器の音色・特色を説明し、自分が演奏する楽器を選びます

【第2回】
テーマ：楽器の組み立てと手入れ
内容・方法： 演奏に入る前に、正しい組立方と毎回の手入れについて練習します

【第3回】
テーマ：基本トレーニング1（マウスピースによる）
内容・方法： マウスピースのみで音が出るまで練習します

【第4回】
テーマ：基礎トレーニング2（音出しの実際）
内容・方法： 楽器にマウスピースをつけ、実際に音を出してみます

【第5回】
テーマ：基礎トレーニング3（音出しの実際）
内容・方法： 一番出しやすい音域を徹底的に吹いてみます

【第6回】
テーマ：基礎トレーニング4（音出しの実際）
内容・方法： 徐々に音域を広げていきます

【第7回】
テーマ：音階1
内容・方法： 統一した楽譜で合奏形態で行います

【第8回】
テーマ：音階2
内容・方法： 音階の種類を増やしていきます

【第9回】
テーマ：基本トレーニング2（音出しの実際）
内容・方法： 楽器にマウスピースをつけ、実際に音を出してみます

【第10回】
テーマ：基本トレーニング3（音出しの実際）
内容・方法： 一番、出しやすい音域を徹底的に吹いてみます

【第11回】
テーマ：基本トレーニング4（音出しの実際）
内容・方法： 徐々に音域を広げていきます

【第12回】
テーマ：音階1
内容・方法： 統一した楽譜で合奏形態で行います

【第13回】
テーマ：合奏1
内容・方法： 初心者向けの曲を配布しパート練習から始めます

【第14回】
テーマ：合奏3
内容・方法： 指揮者から音楽的な要求をしていきます

【第15回】
テーマ：成果の発表

内容・方法： 自分のパートがどれくらいできるようになったかを確認します

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題：シラバスを読んで希望の楽器を決めておく
- ②事後学修課題：与えられた楽器についてその特質などを調べる

【第2回】

- ①事前学修課題：与えられた楽器が使われた演奏を聴いておく
- ②事後学修課題：手入れの実際を何度も試してみる

【第3回】

- ①事前学修課題：授業が始まるまでに楽器を組み立てておく
- ②事後学修課題：マウスピースでの練習を繰り返す

【第4回】

- ①事前学修課題：マウスピースでの練習を繰り返す
- ②事後学修課題：自分が出せる音を確実なものにしていく

【第5回】

- ①事前学修課題：自分が出せる音を確実なものにしていく
- ②事後学修課題：新しい音に挑戦していく

【第6回】

- ①事前学修課題：新しい音に挑戦していく
- ②事後学修課題：できるだけ広い音域で音が出せるように、繰り返し練習する

【第7回】

- ①事前学修課題：音域を広げる
- ②事後学修課題：指使いを確認し、何度も音階練習を行う

【第8回】

- ①事前学修課題：新しい音階を練習しておく
- ②事後学修課題：指使いを確認し、何度も音階練習を行う

【第9回】

- ①事前学修課題：マウスピースでの練習を繰り返す
- ②事後学修課題：自分が出せる音を確実なものにしていく

【第10回】

- ①事前学修課題：自分が出せる音を確実なものにしていく
- ②事後学修課題：新しい音に挑戦していく

【第11回】

- ①事前学修課題：新しい音に挑戦していく
- ②事後学修課題：できるだけ広い音域で音が出せるように、繰り返し練習する

【第12回】

- ①事前学修課題：音域を広げる
- ②事後学修課題：指使いを確認し、何度も音階練習をする

【第13回】

- ①事前学修課題：配られた楽譜を事前に見ておく
- ②事後学修課題：新しい指使いを確認しながら練習する

【第14回】

- ①事前学修課題：新しい部分を事前に確認しておく
- ②事後学修課題：指使いを確認し確実なものしておく

【第15回】

- ①事前学修課題：楽曲の中で不得意な部分を何度も練習しておく
- ②事後学修課題：演奏の録音を聴く

課題に対するフィードバックの方法

自分の演奏を他の学生に聴いてもらい、お互いに感想を述べあう機会を作りたいと思います。そしてその都度、教員によるアドバイスを加えていきます。

成績評価の方法・基準(方針)

授業参加意欲、普段の課題に対する到達度、演奏発表
正当な理由なく6回以上、欠席した場合は評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業への取り組み姿勢(20)、演奏発表(30)	1, 2, 3
授業外での評価	40	毎回の課題に対する到達度	1
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	振り返りレポート	4
その他	0		

テキスト	プリントを配布する、欠席者へはClassroomにて共有します。
参考書	こちらで楽譜等は用意します。欠席者へはClassroomにて共有します。
履修条件・他の科目との関連	なお、備品の関係で希望以外の楽器になることがあります。事前にご了承ください。この授業を習得することによって、他の表現分野の科目にも応用でき、成果を上げることができると思います。経験者にとっても演奏技術を深められる授業となりますので、是非 I aからの受講を推奨します。

授業コード	22052301	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	吹奏楽 I b [対面]				
シラバス執筆(全員)	山内 由香、李 胎蓮、作野 理恵				
シラバス執筆(主)	山内 由香				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(目的)
この授業は、管打楽器演奏を自ら経験することにより、保育現場で必要とされる音楽表現方法を習得させるために、音楽基礎知識に加え、演奏指導法を概説する。
演奏技術を深めるだけでなく、他の人と協力し合いながら一つの音楽作品を仕上げる喜びを見いだしていくことを目標とする。

(内容)
吹奏楽オリジナル作品だけでなく、比較的馴染みのある楽曲を使用し、また、教員が合奏を仕上げる過程を概説し、子どもへの指導法を習得する。

到達目標

- 1、さまざまな楽曲に取り組むことで、より深い音楽表現ができる
- 2、経験者にはより確立した技術で演奏できる
- 3、吹奏楽を通して、調和のとれた響きを体感し演奏することができる
- 4、他者と協力し合いながら演奏することができる

授業計画

【第1回】
テーマ：吹奏楽で使用される楽器の種類とそれぞれの特質
内容・方法： 木管・金管・打楽器それぞれの楽器の音色・特色を説明し、自分が演奏する楽器を選びます

【第2回】
テーマ：楽器の組み立てと手入れ
内容・方法： 演奏に入る前に、正しい組立方と毎回の手入れについて練習します

【第3回】
テーマ：合奏1 観賞
内容・方法： 吹奏楽や管楽器のDVDを観て、楽しみながらプロの演奏の様子を学びます

【第4回】
テーマ：合奏2
内容・方法： パート練習を中心に行っていきます

【第5回】
テーマ：合奏3
内容・方法： 新しい曲を全員で合わせてみます

【第6回】
テーマ：合奏4
内容・方法： 細かい音楽的指示を合奏で受けます

【第7回】
テーマ：合奏5
内容・方法： さらに合奏として成り立つよう整理していきます

【第8回】
テーマ：合奏6 アンサンブル1
内容・方法： 合奏だけでなく、アンサンブル曲も並行して練習します

【第9回】
テーマ：合奏7 アンサンブル2
内容・方法： 小規模アンサンブルの中でハーモニーを作っていきます

【第10回】
テーマ：合奏8 アンサンブル3
内容・方法： 3曲目の合奏曲に挑戦します。アンサンブルはそのままです

【第11回】
テーマ：合奏9 アンサンブル4
内容・方法： 合奏曲はパート練習中心となります。アンサンブルの充実をはかります

【第12回】
テーマ：合奏10 アンサンブル5
内容・方法： 合奏は音楽的な指示を指揮者から受けます。アンサンブルは次回の発表に向け整理します

【第13回】
テーマ：合奏11 アンサンブル6
内容・方法： アンサンブルの発表会を行います

【第14回】
テーマ：合奏12 指揮の見方
内容・方法： 演奏会に向けて、指揮をどのように見、その指示を感じるのかを学びます

【第15回】
テーマ：合奏13 指揮法の基礎
内容・方法： 学生が実際に指揮をしてみ、表現の方法、まとめ方を学びます

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題：シラバスを読んで希望の楽器を決めておく
- ②事後学修課題：与えられた楽器についてその特質などを調べる

【第2回】

- ①事前学修課題：与えられた楽器が使われた演奏を聴いておく
- ②事後学修課題：手入れの実際を何度も試してみる

【第3回】

- ①事前学修課題：新しい部分の指使い等を確認しておく
- ②事後学修課題：繰り返し練習する

【第4回】

- ①事前学修課題：合奏で吹けなかったところを確認しておく
- ②事後学修課題：何度も通して持久力を付ける

【第5回】

- ①事前学修課題：ミスの内容に繰り返し練習しておく
- ②事後学修課題：授業で指示された個所を繰り返し練習する

【第6回】

- ①事前学修課題：ミスのないように繰り返し練習しておく
- ②事後学修課題：確実に演奏できるように繰り返し練習しておく

【第7回】

- ①事前学修課題：事前に楽譜に目を通しておく
- ②事後学修課題：新しい指使いを練習しておく

【第8回】

- ①事前学修課題：事前に集まって練習しておく
- ②事後学修課題：授業後に集まって、指示された事項を確認しながら練習する

【第9回】

- ①事前学修課題：新しい楽譜に目を通しておく
- ②事後学修課題：演奏できなかった個所を繰り返し練習しておく

【第10回】

- ①事前学修課題：演奏できなかった個所を、繰り返し練習しておく
- ②事後学修課題：アンサンブルで集まって練習する

【第11回】

- ①事前学修課題：アンサンブルで集まり課題を克服する
- ②事後学修課題：アンサンブルで集まり課題を克服する

【第12回】

- ①事前学修課題：アンサンブルで集まり、音楽的な構成を考えておく
- ②事後学修課題：録音したものを聴いて、その問題点や成果を確認する

【第13回】

- ①事前学修課題：自分のパートを確実に演奏できるように練習を繰り返す
- ②事後学修課題：演奏の録音を聴く

【第14回】

- ①事前学修課題：暗譜を確実なものにしておく
- ②事後学修課題：指揮者の指示を実現できるよう、何度も練習する

【第15回】

- ①事前学修課題：演奏中に指揮者を見ることができるよう、暗譜しておく
- ②事後学修課題：指摘された個所を、確認する

課題に対するフィードバックの方法

自分の演奏を他の学生に聴いてもらい、お互いに感想を述べあう機会を作りたいと思います。そしてその都度、教員によるアドバイスを加えていきます。

成績評価の方法・基準(方針)

授業参加意欲、普段の課題に対する到達度、演奏発表
正当な理由なく6回以上、欠席した場合は評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業への取り組み姿勢(20)、演奏発表(30)	1, 2, 3
授業外での評価	40	毎回の課題に対する到達度	1, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	振り返りレポート	4
その他	0		

テキスト プリントを配布する、欠席者へはClassroomにて共有します。

参考書 こちらで楽譜等は用意します。欠席者へはClassroomにて共有します。

履修条件・他の科目との関連

なお、備品の関係で希望以外の楽器になることがあります。事前にご了承ください。この授業を習得することによって、他の表現分野の科目にも応用でき、成果を上げることができると思います。

授業コード	22052401	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	吹奏楽Ⅱ a [対面]				
シラバス執筆(全員)	山内 由香、李 胎蓮、作野 理恵				
シラバス執筆(主)	山内 由香				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(目的)
この授業は、管打楽器演奏を自ら経験することにより、保育現場で必要とされる音楽表現方法を習得させるために、音楽基礎知識に加え、演奏指導法を概説する。
管打楽器を経験したことがない学生には、演奏技術を深めるだけでなく、他の人と協力し合いながら一つの音楽作品を仕上げる喜びを見いだしていくことを目標とする。

(内容)
吹奏楽オリジナル作品だけでなく、比較的馴染みのある楽曲を使用し、初心者についても自らの上達を感じられることを目指す。
また、教員が合奏を仕上げる過程を概説し、子どもへの指導法を習得する。

到達目標

- 1、さまざまな楽曲に取り組むことで、より深い音楽表現ができる
- 2、初心者にとっては管打楽器の正しい奏法で演奏ができる
- 3、経験者にはより確立した技術で演奏できる
- 4、他者と協力し合いながら演奏することができる

授業計画

【第1回】
テーマ：吹奏楽で使用される楽器の種類とそれぞれの特徴
内容・方法：木管・金管・打楽器それぞれの楽器の音色・特色を説明し、自分が演奏する楽器を選びます

【第2回】
テーマ：楽器の組み立てと手入れ
内容・方法：演奏に入る前に、正しい組立方と毎回の手入れについて練習します

【第3回】
テーマ：基本トレーニング1（マウスピースによる）
内容・方法：マウスピースのみで音が出るまで練習します

【第4回】
テーマ：基礎トレーニング2（音出しの実際）
内容・方法：楽器にマウスピースをつけ、実際に音を出してみます

【第5回】
テーマ：基礎トレーニング3（音出しの実際）
内容・方法：一番出しやすい音域を徹底的に吹いてみます

【第6回】
テーマ：基礎トレーニング4（音出しの実際）
内容・方法：徐々に音域を広げていきます

【第7回】
テーマ：音階1
内容・方法：統一した楽譜で合奏形態で行います

【第8回】
テーマ：音階2
内容・方法：音階の種類を増やしていきます

【第9回】
テーマ：基本トレーニング2（音出しの実際）
内容・方法：楽器にマウスピースをつけ、実際に音を出してみます

【第10回】
テーマ：基本トレーニング3（音出しの実際）
内容・方法：一番、出しやすい音域を徹底的に吹いてみます

【第11回】
テーマ：基本トレーニング4（音出しの実際）
内容・方法：徐々に音域を広げていきます

【第12回】
テーマ：音階1
内容・方法：統一した楽譜で合奏形態で行います

【第13回】
テーマ：合奏1
内容・方法：初心者向けの曲を配布しパート練習から始めます

【第14回】
テーマ：合奏3
内容・方法：指揮者から音楽的な要求をしていきます

【第15回】
テーマ：成果の発表

内容・方法： 自分のパートがどれくらいできるようになったかを確認します

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題：シラバスを読んで希望の楽器を決めておく
- ②事後学修課題：与えられた楽器についてその特質などを調べる

【第2回】

- ①事前学修課題：与えられた楽器が使われた演奏を聴いておく
- ②事後学修課題：手入れの実際を何度も試してみる

【第3回】

- ①事前学修課題：授業が始まるまでに楽器を組み立てておく
- ②事後学修課題：マウスピースでの練習を繰り返す

【第4回】

- ①事前学修課題：マウスピースでの練習を繰り返す
- ②事後学修課題：自分が出せる音を確実なものにしていく

【第5回】

- ①事前学修課題：自分が出せる音を確実なものにしていく
- ②事後学修課題：新しい音に挑戦していく

【第6回】

- ①事前学修課題：新しい音に挑戦していく
- ②事後学修課題：できるだけ広い音域で音が出せるように、繰り返し練習する

【第7回】

- ①事前学修課題：音域を広げる
- ②事後学修課題：指使いを確認し、何度も音階練習を行う

【第8回】

- ①事前学修課題：新しい音階を練習しておく
- ②事後学修課題：指使いを確認し、何度も音階練習を行う

【第9回】

- ①事前学修課題：マウスピースでの練習を繰り返す
- ②事後学修課題：自分が出せる音を確実なものにしていく

【第10回】

- ①事前学修課題：自分が出せる音を確実なものにしていく
- ②事後学修課題：新しい音に挑戦していく

【第11回】

- ①事前学修課題：新しい音に挑戦していく
- ②事後学修課題：できるだけ広い音域で音が出せるように、繰り返し練習する

【第12回】

- ①事前学修課題：音域を広げる
- ②事後学修課題：指使いを確認し、何度も音階練習をする

【第13回】

- ①事前学修課題：配られた楽譜を事前に見ておく
- ②事後学修課題：新しい指使いを確認しながら練習する

【第14回】

- ①事前学修課題：新しい部分を事前に確認しておく
- ②事後学修課題：指使いを確認し確実なものしておく

【第15回】

- ①事前学修課題：楽曲の中で不得意な部分を何度も練習しておく
- ②事後学修課題：演奏の録音を聴く

課題に対するフィードバックの方法

自分の演奏を他の学生に聴いてもらい、お互いに感想を述べあう機会を作りたいと思います。そしてその都度、教員によるアドバイスを加えていきます。

成績評価の方法・基準(方針)

授業参加意欲、普段の課題に対する到達度、演奏発表
正当な理由なく6回以上、欠席した場合は評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業への取り組み姿勢(20)、演奏発表(30)	1, 2, 3
授業外での評価	40	毎回の課題に対する到達度	1
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	振り返りレポート	4
その他	0		

テキスト	プリントを配布する、欠席者へはClassroomにて共有します。
参考書	こちらで楽譜等は用意します。欠席者へはClassroomにて共有します。
履修条件・他の科目との関連	なお、備品の関係で希望以外の楽器になることがあります。事前にご了承ください。この授業を習得することによって、他の表現分野の科目にも応用でき、成果を上げることができると思います。経験者にとっても演奏技術を深められる授業となりますので、是非 I aからの受講を推奨します。

授業コード	22052501	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	吹奏楽Ⅱb [対面]				
シラバス執筆(全員)	山内 由香、李 胎蓮、作野 理恵				
シラバス執筆(主)	山内 由香				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

(目的)
この授業は、管打楽器演奏を自ら経験することにより、保育現場で必要とされる音楽表現方法を習得させるために、音楽基礎知識に加え、演奏指導法を概説する。
演奏技術を深めるだけでなく、他の人と協力し合いながら一つの音楽作品を仕上げる喜びを見いだしていくことを目標とする。

(内容)
吹奏楽オリジナル作品だけでなく、比較的馴染みのある楽曲を使用し、また、教員が合奏を仕上げる過程を概説し、子どもへの指導法を習得する。

到達目標

- 1、さまざまな楽曲に取り組むことで、より深い音楽表現ができる
- 2、経験者にはより確立した技術で演奏できる
- 3、吹奏楽を通して、調和のとれた響きを体感し演奏することができる
- 4、他者と協力し合いながら演奏することができる

授業計画

【第1回】
テーマ：吹奏楽で使用される楽器の種類とそれぞれの特徴
内容・方法：木管・金管・打楽器それぞれの楽器の音色・特色を説明し、自分が演奏する楽器を選びます

【第2回】
テーマ：楽器の組み立てと手入れ
内容・方法：演奏に入る前に、正しい組立方と毎回の手入れについて練習します

【第3回】
テーマ：合奏1 観賞
内容・方法：吹奏楽や管楽器のDVDを観て、楽しみながらプロの演奏の様子を学びます

【第4回】
テーマ：合奏2
内容・方法：パート練習を中心に行っていきます

【第5回】
テーマ：合奏3
内容・方法：新しい曲を全員で合わせてみます

【第6回】
テーマ：合奏4
内容・方法：細かい音楽的指示を合奏で受けます

【第7回】
テーマ：合奏5
内容・方法：さらに合奏として成り立つよう整理していきます

【第8回】
テーマ：合奏6 アンサンブル1
内容・方法：合奏だけでなく、アンサンブル曲も並行して練習します

【第9回】
テーマ：合奏7 アンサンブル2
内容・方法：小規模アンサンブルの中でハーモニーを作っていきます

【第10回】
テーマ：合奏8 アンサンブル3
内容・方法：3曲目の合奏曲に挑戦します。アンサンブルはそのままです

【第11回】
テーマ：合奏9 アンサンブル4
内容・方法：合奏曲はパート練習中心となります。アンサンブルの充実をはかります

【第12回】
テーマ：合奏10 アンサンブル5
内容・方法：合奏は音楽的な指示を指揮者から受けます。アンサンブルは次回の発表に向け整理します

【第13回】
テーマ：合奏11 アンサンブル6
内容・方法：アンサンブルの発表会を行います

【第14回】
テーマ：合奏12 指揮の見方
内容・方法：演奏会に向けて、指揮をどのように見、その指示を感じるのかを学びます

【第15回】
テーマ：合奏13 指揮法の基礎
内容・方法：学生が実際に指揮をしてみ、表現の方法、まとめ方を学びます

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

- ①事前学修課題：シラバスを読んで希望の楽器を決めておく
- ②事後学修課題：与えられた楽器についてその特質などを調べる

【第2回】

- ①事前学修課題：与えられた楽器が使われた演奏を聴いておく
- ②事後学修課題：手入れの実際を何度も試してみる

【第3回】

- ①事前学修課題：新しい部分の指使い等を確認しておく
- ②事後学修課題：繰り返し練習する

【第4回】

- ①事前学修課題：合奏で吹けなかったところを確認しておく
- ②事後学修課題：何度も通して持久力を付ける

【第5回】

- ①事前学修課題：ミスの内容に繰り返し練習しておく
- ②事後学修課題：授業で指示された個所を繰り返し練習する

【第6回】

- ①事前学修課題：ミスのないように繰り返し練習しておく
- ②事後学修課題：確実に演奏できるように繰り返し練習しておく

【第7回】

- ①事前学修課題：事前に楽譜に目を通しておく
- ②事後学修課題：新しい指使いを練習しておく

【第8回】

- ①事前学修課題：事前に集まって練習しておく
- ②事後学修課題：授業後に集まって、指示された事項を確認しながら練習する

【第9回】

- ①事前学修課題：新しい楽譜に目を通しておく
- ②事後学修課題：演奏できなかった個所を繰り返し練習しておく

【第10回】

- ①事前学修課題：演奏できなかった個所を、繰り返し練習しておく
- ②事後学修課題：アンサンブルで集まって練習する

【第11回】

- ①事前学修課題：アンサンブルで集まり課題を克服する
- ②事後学修課題：アンサンブルで集まり課題を克服する

【第12回】

- ①事前学修課題：アンサンブルで集まり、音楽的な構成を考えておく
- ②事後学修課題：録音したものを聴いて、その問題点や成果を確認する

【第13回】

- ①事前学修課題：自分のパートを確実に演奏できるように練習を繰り返す
- ②事後学修課題：演奏の録音を聴く

【第14回】

- ①事前学修課題：暗譜を確実なものにしておく
- ②事後学修課題：指揮者の指示を実現できるよう、何度も練習する

【第15回】

- ①事前学修課題：演奏中に指揮者を見ることができるよう、暗譜しておく
- ②事後学修課題：指摘された個所を、確認する

課題に対するフィードバックの方法

自分の演奏を他の学生に聴いてもらい、お互いに感想を述べあう機会を作りたいと思います。そしてその都度、教員によるアドバイスを加えていきます。

成績評価の方法・基準(方針)

授業参加意欲、普段の課題に対する到達度、演奏発表
正当な理由なく6回以上、欠席した場合は評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業への取り組み姿勢(20)、演奏発表(30)	1, 2, 3
授業外での評価	40	毎回の課題に対する到達度	1, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	振り返りレポート	4
その他	0		

テキスト プリントを配布する、欠席者へはClassroomにて共有します。

参考書 こちらで楽譜等は用意します。欠席者へはClassroomにて共有します。

履修条件・他の科目との関連

なお、備品の関係で希望以外の楽器になることがあります。事前にご了承ください。この授業を習得することによって、他の表現分野の科目にも応用でき、成果を上げることができると思います。

授業コード	22052601	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	美術（基礎） [対面]				
シラバス執筆(全員)	渡邊 詩子				
シラバス執筆(主)	渡邊 詩子				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

保育における造形表現での様々な教材等の活用と、具体的な展開のための基礎技術を実践的に習得する。子どもの生活と遊びにおける、美術や造形表現の基礎的な知識や技術を概説する。美術、造形感覚を養い、保育に生かす表現方法の理解について説明する。

到達目標

1. 子どもの生活と遊びにおける、様々な素材や材料等の特性を理解し、より豊かな表現につなげていくことができる。
2. 美術や造形表現の基礎的な知識や技能を理解し、幼児の表現活動に展開させることができる。
3. 創造性豊かに表現する態度を養い、実践できる。

授業計画

- 【第1回】 授業概要 保育における教材や素材について理解する。
- 【第2回】 描画材料（ペン）を用いた表現活動を実践する。
- 【第3回】 描画材料（パス・コンテ）を用いて、様々な技法を実践的に習得する。
- 【第4回】 ICTを活用し、子どもの絵の具による表現の特性を理解する。
- 【第5回】 絵の具を用いた表現活動を実践し、活動の面白さ、留意点などを考える。
- 【第6回】 自然物を題材とし、イメージを平面的な形で表す。
- 【第7回】 自然物を題材とし、絵の具を用いてイメージを色で表す。
- 【第8回】 身近な素材（アルミホイルなど）を用いた表現活動を実践する。
- 【第9回】 身近な素材（新聞紙、テッシュなど）を用いた表現活動を実践し、活動の面白さ留意点などを考える。
- 【第10回】 幼小接続について、版による表現活動から考える。
- 【第11回】 飛び出す仕組みを活用したカードを作成し、紙の加工について理解する。
- 【第12回】 飛び出す仕組みを活用したカードを作成し、「想い」を色や形で表す。
- 【第13回】 様々な素材や用具を使用しカードを完成させ、素材研究を深める。
- 【第14回】 展開図を描きイメージを立体的な形で表す。
- 【第15回】 立体的な形を身近な素材を用いて装飾し、素材の特徴を理解する。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要であるため、各回につき事前事後合わせて1時間以上の学習が必要です。

- 【第1回】
 - ①事前学習課題：シラバスを確認する。
 - ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。
- 【第2～3回】
 - ①事前学習課題：前授業を復習し、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。
 - ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、課題記録をつける。
- 【第4回】
 - ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
 - ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、課題記録をつける。
- 【第5～9回】
 - ①事前学習課題：前授業を復習し、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。
 - ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、課題記録をつける。
- 【第10回】
 - ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
 - ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、課題記録をつける。
- 【第11～15回】
 - ①事前学習課題：前授業を復習し、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。
 - ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、課題記録をつける。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内での評価

- ・授業全体の学びに向かう過程を評価する。

授業外での評価

- ・課題記録の完成度について評価する。
- 定期試験に代わるレポート等
- ・課題レポートの完成度について評価する。

定期試験

なし

その他

なし

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

正当な理由なく6回以上欠席した場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。

定期試験に代わるレポートの提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業全体の学びに向かう過程の評価	1, 2, 3
授業外での評価	10	課題記録の完成度を評価	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	課題レポートの完成度を評価	1, 2
その他	0		

テキスト	<p>テキストは使用しない。</p> <p>必要に応じて、資料の配布もしくは classroom への提示を行う。</p>
------	---

参考書	<p>幼稚園教育要領、保育所保育指針、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>
-----	--

履修条件・他の科目との関連	<p>卒業科目であり、保育士資格必修科目である。 欠席時に配布された資料は担当教員に申し出て受け取ること。</p>
---------------	---

授業コード	22052602	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	美術（基礎） [対面]				
シラバス執筆(全員)	角地 佳子				
シラバス執筆(主)	角地 佳子				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

保育における造形表現での様々な教材等の活用と、具体的な展開のための基礎技術を実践的に習得する。子どもの生活と遊びにおける、美術や造形表現の基礎的な知識や技術を概説する。美術、造形感覚を養い、保育に生かす表現方法の理解について説明する。

到達目標

1. 子どもの生活と遊びにおける、様々な素材や材料等の特性を理解し、より豊かな表現につなげていくことができる。
2. 美術や造形表現の基礎的な知識や技能を理解し、幼児の表現活動に展開させることができる。
3. 創造性豊かに表現する態度を養い、実践できる。

授業計画

- 【第1回】 授業概要 保育における教材や素材について理解する。
- 【第2回】 描画材料（ペン）を用いた表現活動を実践する。
- 【第3回】 描画材料（パス・コンテ）を用いて、様々な技法を実践的に習得する。
- 【第4回】 ICTを活用し、子どもの絵の具による表現の特性を理解する。
- 【第5回】 絵の具を用いた表現活動を実践し、活動の面白さ、留意点などを考える。
- 【第6回】 自然物を題材とし、イメージを平面的な形で表す。
- 【第7回】 自然物を題材とし、絵の具を用いてイメージを色で表す。
- 【第8回】 身近な素材（アルミホイルなど）を用いた表現活動を実践する。
- 【第9回】 身近な素材（新聞紙、ティッシュなど）を用いた表現活動を実践し、活動の面白さ留意点などを考える。
- 【第10回】 幼小接続について、版による表現活動から考える。
- 【第11回】 飛び出す仕組みを活用したカードを作成し、紙の加工について理解する。
- 【第12回】 飛び出す仕組みを活用したカードを作成し、「想い」を色や形で表す。
- 【第13回】 様々な素材や用具を使用しカードを完成させ、素材研究を深める。
- 【第14回】 展開図を描きイメージを立体的な形で表す。
- 【第15回】 立体的な形を身近な素材を用いて装飾し、素材の特徴を理解する。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要であるため、各回につき事前事後合わせて1時間以上の学習が必要です。

- 【第1回】
 - ①事前学習課題：シラバスを確認する。
 - ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。
- 【第2～3回】
 - ①事前学習課題：前授業を復習し、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。
 - ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、課題記録をつける。
- 【第4回】
 - ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
 - ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、課題記録をつける。
- 【第5～9回】
 - ①事前学習課題：前授業を復習し、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。
 - ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、課題記録をつける。
- 【第10回】
 - ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
 - ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、課題記録をつける。
- 【第11～15回】
 - ①事前学習課題：前授業を復習し、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。
 - ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、課題記録をつける。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内での評価

- ・ 授業全体の学びに向かう過程を評価する。

授業外での評価

- ・課題記録の完成度について評価する。
- 定期試験に代わるレポート等
- ・課題レポートの完成度について評価する。

定期試験

なし

その他

なし

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

正当な理由なく6回以上欠席した場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。

定期試験に代わるレポートの提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業全体の学びに向かう過程の評価	1, 2, 3
授業外での評価	10	課題記録の完成度を評価	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	課題レポートの完成度を評価	1, 2
その他	0		

テキスト	<p>テキストは使用しない。</p> <p>必要に応じて、資料の配布もしくは classroom への提示を行う。</p>
------	---

参考書	<p>幼稚園教育要領、保育所保育指針、 幼保連携型認定こども園教育・保育要領</p>
-----	--

履修条件・他の科目との関連	<p>卒業科目であり、保育士資格必修科目である。</p> <p>欠席時に配布された資料は担当教員に申し出て受け取ること。</p>
---------------	--

授業コード	22052701	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	美術（応用） [対面]				
シラバス執筆(全員)	渡邊 詩子				
シラバス執筆(主)	渡邊 詩子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

子どもの発達を理解し、生活や遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。
 子どもの生活と遊びにおける、美術や造形表現の基礎的な知識や技術を概説する。
 保育の展開に必要な感性や創造性を身につける知識や技術を概説する。

到達目標

1. 子どもの発達を踏まえ、様々な用具や素材、材料等を活用することができる。
2. 子どもの生活と遊びにおける様々な用具や素材、材料等の特性を理解できる。
3. 創造性豊かに表現する態度を養い、実践できる。

授業計画

- 【第1回】 授業概要 乳幼児の描画を鑑賞し、乳幼児の表現を理解する。
- 【第2回】 描画材料（パス）を用いてテーマに沿った表現活動を実践する。
- 【第3回】 描画材料（鉛筆）を用いて、身体の動きを表現する。
- 【第4回】 自然物を題材とし、対象物を観察し形に表す。
- 【第5回】 自然物を題材とし、絵の具を用いて対象物の色を表現し、素材の特性を理解し技術を習得する。
- 【第6回】 身近な人物のイメージを色や形で構成し、感性を養う。
- 【第7回】 身近な素材（チラシや写真）を様々な形に切り、イメージを豊かにする。
- 【第8回】 身近な素材（チラシや写真）を用いたコラージュを作成し、活動の面白さ留意点などを考える。
- 【第9回】 ケント紙にペンで模様を描き、多面体を構成する。
- 【第10回】 子どもの切り絵による表現から、小学校の図画工作へのつながりを考える。
- 【第11回】 切り絵の「図と地」の関係や構図の取り方を理解し下絵を制作する。
- 【第12回】 テーマをもとにした切り絵を完成し、作品を鑑賞する。
- 【第13回】 紙粘土の感触に親しみ、活動の面白さ、留意点などを考える。
- 【第14回】 様々な素材を用いて、紙粘土の作品を完成させ、用具や技術の活用法について理解する。
- 【第15回】 ICTを活用し美術作品を鑑賞し、子どもとの鑑賞について考える。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。
 授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要であるため、各回につき事前事後合わせて1時間以上の学習が必要です。

【第1回】

- ①事前学習課題：シラバスを確認する。
- ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。

【第2～3回】

- ①事前学習課題：前授業を復習し、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。
- ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。

【第4～5回】

- ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
- ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、まとめる。

【第6～9回】

- ①事前学習課題：前授業を復習し、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。
- ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。

【第10回】

- ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
- ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、まとめる。

【第11～14回】

- ①事前学習課題：前授業を復習し、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。
- ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。

【第15回】

- ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
- ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、評価対象とせず「K」評価とする。
 3回の遅刻及び早退は1回の欠席とする。
 定期試験に代わるレポート等の提出がない場合は、評価対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業全体の学びに向かう過程の評価	1, 2, 3
授業外での評価	10	授業のまとめ課題の完成度を評価	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	課題レポートの完成度を評価	1, 2
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、資料の配布もしくは classroom への提示を行う。
------	--

参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
-----	------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	学科専門教育科目であり、保育士資格必修科目である。 欠席時に配布された資料は教員に申し出て受け取ること。
---------------	---

授業コード	22052702	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	美術（応用） [対面]				
シラバス執筆(全員)	角地 佳子				
シラバス執筆(主)	角地 佳子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

子どもの発達を理解し、生活や遊びを豊かに展開するために必要な知識や技術を実践的に習得する。
 子どもの生活と遊びにおける、美術や造形表現の基礎的な知識や技術を概説する。
 保育の展開に必要な感性や創造性を身につける知識や技術を概説する。

到達目標

1. 子どもの発達を踏まえ、様々な用具や素材、材料等を活用することができる。
2. 子どもの生活と遊びにおける様々な用具や素材、材料等の特性を理解できる。
3. 創造性豊かに表現する態度を養い、実践できる。

授業計画

- 【第1回】 授業概要 乳幼児の描画を鑑賞し、乳幼児の表現を理解する。
- 【第2回】 描画材料（パス）を用いてテーマに沿った表現活動を実践する。
- 【第3回】 描画材料（鉛筆）を用いて、身体の動きを表現する。
- 【第4回】 自然物を題材とし、対象物を観察し形に表す。
- 【第5回】 自然物を題材とし、絵の具を用いて対象物の色を表現し、素材の特性を理解し技術を習得する。
- 【第6回】 身近な人物のイメージを色や形で構成し、感性を養う。
- 【第7回】 身近な素材（チラシや写真）を様々な形に切り、イメージを豊かにする。
- 【第8回】 身近な素材（チラシや写真）を用いたコラージュを作成し、活動の面白さ留意点などを考える。
- 【第9回】 ケント紙にペンで模様を描き、多面体を構成する。
- 【第10回】 子どもの切り絵による表現から、小学校の図画工作へのつながりを考える。
- 【第11回】 切り絵の「図と地」の関係や構図の取り方を理解し下絵を制作する。
- 【第12回】 テーマをもとにした切り絵を完成し、作品を鑑賞する。
- 【第13回】 紙粘土の感触に親しみ、活動の面白さ、留意点などを考える。
- 【第14回】 様々な素材を用いて、紙粘土の作品を完成させ、用具や技術の活用法について理解する。
- 【第15回】 ICTを活用し美術作品を鑑賞し、子どもとの鑑賞について考える。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。
 授業（1回につき2時間として計算）と事前事後のあわせて1単位あたり45時間が必要であるため、各回につき事前事後合わせて1時間以上の学習が必要です。

- 【第1回】
 - ①事前学習課題：シラバスを確認する。
 - ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。
- 【第2～3回】
 - ①事前学習課題：前授業を復習し、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。
 - ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。
- 【第4～5回】
 - ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
 - ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、まとめる。
- 【第6～9回】
 - ①事前学習課題：前授業を復習し、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。
 - ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。
- 【第10回】
 - ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
 - ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理し、まとめる。
- 【第11～14回】
 - ①事前学習課題：前授業を復習し、本授業の内容の理解と材料用具の確認を行う。
 - ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。
- 【第15回】
 - ①事前学習課題：授業内容に関してインターネットや書籍で調べる。
 - ②事後学習課題：授業で学んだ内容を整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由なく5回を超えて欠席した場合は、評価対象とせず「K」評価とする。
 3回の遅刻及び早退は1回の欠席とする。
 定期試験に代わるレポート等の提出がない場合は、評価対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業全体の学びに向かう過程の評価	1, 2, 3
授業外での評価	10	授業のまとめ課題の完成度を評価	1, 2
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	課題レポートの完成度を評価	1, 2
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。 必要に応じて、資料の配布もしくは classroom への提示を行う。
------	--

参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
-----	------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	学科専門教育科目であり、保育士資格必修科目である。 欠席時に配布された資料は教員に申し出て受け取ること。
---------------	---

授業コード	22002401	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	スポーツ実技 [対面]				
シラバス執筆(全員)	佐藤 光子				
シラバス執筆(主)	佐藤 光子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

健康的な生活を維持していくため身体活動を積極的に取り入れる必要があることや、スポーツを実践することが仲間づくりにどのように影響するのかを概説する。
 授業では、基本的な運動・球技を中心に幅広く運動・スポーツ種目を行ない、それぞれ特有の楽しさを味わい生涯にわたってスポーツを楽しむための能力を高めるための実践及び説明を行う。また幼少年期に身につけておきたい基本的動作が含まれる運動遊びや表現リズム遊びについても実践及び説明を行う。

到達目標

1. 複数の運動・スポーツ種目の基礎的技能を実行できる。
2. 各種スポーツの知識を説明できる。
3. 仲間と共にスポーツを協力して実行できる。
4. 保育者として安全面について説明ができる。
5. スポーツを体験し、その内容を遊びとして子どもたちにどのように指導するのか説明できる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：ガイダンス（講義目的と評価、授業の進め方について解説）、基本的な運動Ⅰ
 内容・方法：鬼ごっこ、運動遊び、表現リズム遊び
- 【第2回】
 テーマ：基本的な運動Ⅱ
 内容・方法：運動遊び、表現リズム遊び、ストレッチング（静的・動的）、ポディーバランス・トレーニング
- 【第3回】
 テーマ：ネット型スポーツⅠ
 内容・方法：バドミントン（卓球）① ルールの理解と基礎技術の習得
- 【第4回】
 テーマ：ネット型スポーツⅠ
 内容・方法：バドミントン（卓球）② シングルスによるゲームの実践
- 【第5回】
 テーマ：ネット型スポーツⅠ
 内容・方法：バドミントン（卓球）③ ダブルスによるゲームの進め方
- 【第6回】
 テーマ：ネット型スポーツⅠ
 内容・方法：バドミントン（卓球）④ ダブルスによるゲームの実践
- 【第7回】
 テーマ：ネット型スポーツⅡ
 内容・方法：バレーボール（ソフトバレーボール）① ルールの理解と基礎技術の習得
- 【第8回】
 テーマ：ネット型スポーツⅡ
 内容・方法：バレーボール（ソフトバレーボール）② ゲームの進め方
- 【第9回】
 テーマ：ネット型スポーツⅡ
 内容・方法：バレーボール（ソフトバレーボール）③ ゲームの実践
- 【第10回】
 テーマ：ゴール型スポーツⅠ
 内容・方法：バスケットボール① ルールの理解と基本技術の習得
- 【第11回】
 テーマ：ゴール型スポーツⅠ
 内容・方法：バスケットボール② ゲームの進め方
- 【第12回】
 テーマ：ゴール型スポーツⅠ
 内容・方法：バスケットボール③ ゲームの実践①
- 【第13回】
 テーマ：ゴール型スポーツⅠ
 内容・方法：バスケットボール④ ゲームの実践②
- 【第14回】
 テーマ：ゴール型スポーツⅡ
 内容・方法：ミニサッカー ルールの理解、基本技術の習得、ゲームの実践
- 【第15回】
 テーマ：ベースボール型スポーツ
 内容・方法：キックベースボール ルールの理解とゲームの実践

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

この科目を受講するにあたり、授業計画における種目について毎回1時間程度の事前学習及び事後学習を必要とする。インターネットでの検索から基本となる動き、ルール、ゲームの進め方などを事前にレポートにまとめておくことが望ましい。

【第1回】

- ①事前学習課題：運動の意義について考える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第2回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第3回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第4回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第5回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第6回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第7回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第8回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第9回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第10回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第11回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第12回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第13回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第14回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第15回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

課題に対するフィードバックの方法

授業に関する話題・質問等は、適時受講生で共有し、評価・講評を行い授業に反映する。

成績評価の方法・基準(方針)

- 以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する
1. 授業への取り組み意欲、受講態度、授業内の一部の時間を使った実技小テスト、授業内により総合的に評価する。
 2. 60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 3. 正当な理由なく、6回以上授業を欠席した場合は「K」評価とする。
 4. 全授業終了後に実施するレポート試験課題が未提出の場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業への取り組み状況・態度(15) 各種目の技能習得状況(15)	1, 3, 4, 5
授業外での評価	30	各課題における種目への理解度合(15) 各課題における自己の意見(15)	2, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	全授業終了後に実施するレポート試験	2, 4, 5

その他	0		
テキスト	テキストは使用しない。各種スポーツの内容確認などで資料の配布を適宜行う。		
参考書	適宜授業内にて紹介を行う。		
履修条件・他の科目との関連	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体育の授業に適した服装(Tシャツ、ジャージ)、体育館シューズを履くこと。 2. アクセサリーなどの着用はしないこと。 3. 体調管理も学習内容と考え、全出席を目指すこと。 4. 授業で学んだことについては、ノートにまとめておくこと。 5. 欠席した回の資料は申し出があった場合、再配布を行う。 		

授業コード	22002403	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	スポーツ実技 [対面]				
シラバス執筆(全員)	織田 恵輔				
シラバス執筆(主)	織田 恵輔				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

健康的な生活を維持していくため身体活動を積極的に取り入れる必要があることや、スポーツを実践することが仲間づくりにどのように影響するのかを概説する。
 授業では、基本的な運動・球技を中心に幅広く運動・スポーツ種目を行ない、それぞれ特有の楽しさを味わい生涯にわたってスポーツを楽しむための能力を高めるための実践及び説明を行う。また幼少年期に身につけておきたい基本的動作が含まれる運動遊びや表現リズム遊びについても実践及び説明を行う。

到達目標

1. 複数の運動・スポーツ種目の基礎的技能を実行できる。
2. 各種スポーツの知識を説明できる。
3. 仲間と共にスポーツを協力して実行できる。
4. 保育者として安全面について説明ができる。
5. スポーツを体験し、その内容を遊びとして子どもたちにどのように指導するのか説明できる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：ガイダンス（講義目的と評価、授業の進め方について解説）、基本的な運動Ⅰ
 内容・方法：鬼ごっこ、運動遊び、表現リズム遊び
- 【第2回】
 テーマ：基本的な運動Ⅱ
 内容・方法：運動遊び、表現リズム遊び、ストレッチング（静的・動的）、ポディーバランス・トレーニング
- 【第3回】
 テーマ：ネット型スポーツⅠ
 内容・方法：バドミントン（卓球）① ルールの理解と基礎技術の習得
- 【第4回】
 テーマ：ネット型スポーツⅠ
 内容・方法：バドミントン（卓球）② シングルスによるゲームの実践
- 【第5回】
 テーマ：ネット型スポーツⅠ
 内容・方法：バドミントン（卓球）③ ダブルスによるゲームの進め方
- 【第6回】
 テーマ：ネット型スポーツⅠ
 内容・方法：バドミントン（卓球）④ ダブルスによるゲームの実践
- 【第7回】
 テーマ：ネット型スポーツⅡ
 内容・方法：バレーボール（ソフトバレーボール）① ルールの理解と基礎技術の習得
- 【第8回】
 テーマ：ネット型スポーツⅡ
 内容・方法：バレーボール（ソフトバレーボール）② ゲームの進め方
- 【第9回】
 テーマ：ネット型スポーツⅡ
 内容・方法：バレーボール（ソフトバレーボール）③ ゲームの実践
- 【第10回】
 テーマ：ゴール型スポーツⅠ
 内容・方法：バスケットボール① ルールの理解と基本技術の習得
- 【第11回】
 テーマ：ゴール型スポーツⅠ
 内容・方法：バスケットボール② ゲームの進め方
- 【第12回】
 テーマ：ゴール型スポーツⅠ
 内容・方法：バスケットボール③ ゲームの実践①
- 【第13回】
 テーマ：ゴール型スポーツⅠ
 内容・方法：バスケットボール④ ゲームの実践②
- 【第14回】
 テーマ：ゴール型スポーツⅡ
 内容・方法：ミニサッカー ルールの理解、基本技術の習得、ゲームの実践
- 【第15回】
 テーマ：ベースボール型スポーツ
 内容・方法：キックベースボール ルールの理解とゲームの実践

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

この科目を受講するにあたり、授業計画における種目について毎回1時間程度の事前学習及び事後学習を必要とする。インターネットでの検索から基本となる動き、ルール、ゲームの進め方などを事前にレポートにまとめておくことが望ましい。

【第1回】

- ①事前学習課題：運動の意義について考える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第2回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第3回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第4回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第5回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第6回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第7回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第8回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第9回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第10回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第11回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第12回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第13回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第14回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

【第15回】

- ①事前学習課題：前回の実践内容の留意点を確認するとともに、体調を整える
- ②事後学習課題：授業で学んだことについて、ノートにまとめる

課題に対するフィードバックの方法

授業に関する話題・質問等は、適時受講生で共有し、評価・講評を行い授業に反映する。

成績評価の方法・基準(方針)

- 以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する
1. 授業への取り組み意欲、受講態度、授業内の一部の時間を使った実技小テスト、授業内により総合的に評価する。
 2. 60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 3. 正当な理由なく、6回以上授業を欠席した場合は「K」評価とする。
 4. 全授業終了後に実施するレポート試験課題が未提出の場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業への取り組み状況・態度(15) 各種目の技能習得状況(15)	1, 3, 4, 5
授業外での評価	30	各課題における種目への理解度合(15) 各課題における自己の意見(15)	2, 4
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	全授業終了後に実施するレポート試験	2, 4, 5

その他	0		
テキスト	テキストは使用しない。各種スポーツの内容確認などで資料の配布を適宜行う。		
参考書	適宜授業内にて紹介を行う。		
履修条件・他の科目との関連	<ol style="list-style-type: none"> 1. 体育の授業に適した服装(Tシャツ、ジャージ)、体育館シューズを履くこと。 2. アクセサリーなどの着用はしないこと。 3. 体調管理も学習内容と考え、全出席を目指すこと。 4. 授業で学んだことについては、ノートにまとめておくこと。 5. 欠席した回の資料は申し出があった場合、再配布を行う。 		

授業コード	22052801	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	子どもの運動遊び [対面]				
シラバス執筆(全員)	玉井 久実代				
シラバス執筆(主)	玉井 久実代				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

幼児期の健康を踏まえ、運動遊びの理論と共に、保育現場で運動遊びを実践するための知識や技能について、講義形式および演習形式で説明する。
 運動遊びにおける安全への配慮や管理に重点をおいた、保育者としての基本的態度や基礎技能を説明する。
 子どもの発育・発達、興味・関心に応じた様々な運動遊びの教材を取り上げ、具体的な展開方法について説明する。

到達目標

1. 幼児保育・教育における運動遊びの実践に必要な知識や技術を説明できる。
2. 幼児の発育・発達段階に応じた運動遊びの実践ができる。
3. 幼児保育・教育において、運動遊びの適切な援助や補助ができる。
4. 幼児保育・教育において、運動遊びの適切な環境構成ができる。

授業計画

この授業は、講義室や体育施設で行います。
 【第1回】 幼児期における運動遊びの意義
 【第2回】 準備体操、体づくりの運動遊び
 【第3回】 かけっこ遊び（鬼ごっこ、リレー）
 【第4回】 ボールを使った運動遊び（ボールを用いた遊び）
 【第5回】 ボールを使った運動遊び
 【第6回】 フラフープを使った運動遊び
 【第7回】 短縄を使った運動遊び
 【第8回】 長縄を使った運動遊び
 【第9回】 竹馬を使った運動遊び
 【第10回】 マットを使った運動遊び
 【第11回】 鉄棒を使った運動遊び
 【第12回】 跳び箱を使った運動遊び
 【第13回】 サーキットを使った運動遊び
 【第14回】 身近な物を使った運動遊び
 【第15回】 まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
 ①事前学習課題：シラバスを確認する
 ②事後学習課題：授業内容の復習を行う。
- 【第2～14回】
 ①事前学習課題：授業内容に関する運動遊びを、インターネットや書籍で調べる。
 ②事後学習課題：授業で学習したことを、授業内容のまとめレポートに整理する。
- 【第15回】
 ①事前学習課題：これまで学習したことを、総復習する。
 ②事後学習課題：学習したことを、保育現場での実践に活かせるよう整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由なく6回以上の欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
 3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。
 定期試験に代わるレポート等の提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	第1・15回 課題レポート(10) 第2～14回 取り組み姿勢、スキル(65)	1, 2, 3, 4

授業外での評価	15	授業内容のまとめレポート(15)	1
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート(10)	1
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて資料の配付もしくはclassroomへの提示を行う。
------	---

参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼児期運動指針
-----	--

履修条件・他の科目との関連	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に授業へ参加する。 2. 運動遊びに適した服装、靴を着用する。 3. 装飾品(ピアス、ネックレス、指輪、時計等)は装着しない。 4. 爪は短くしておく。 5. 長い髪の毛はゴム等で束ねる。 6. 配当施設や進捗状況に応じて、授業計画を変更することがある。
---------------	--

授業コード	22052803	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	子どもの運動遊び [対面]				
シラバス執筆(全員)	織田 恵輔				
シラバス執筆(主)	織田 恵輔				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

幼児期の健康を踏まえ、運動遊びの理論と共に、保育現場で運動遊びを実践するための知識や技能について、講義形式および演習形式で説明する。
 運動遊びにおける安全への配慮や管理に重点をおいた、保育者としての基本的態度や基礎技能を説明する。
 子どもの発育・発達、興味・関心に応じた様々な運動遊びの教材を取り上げ、具体的な展開方法について説明する。

到達目標

1. 幼児保育・教育における運動遊びの実践に必要な知識や技術を説明できる。
2. 幼児の発育・発達段階に応じた運動遊びの実践ができる。
3. 幼児保育・教育において、運動遊びの適切な援助や補助ができる。
4. 幼児保育・教育において、運動遊びの適切な環境構成ができる。

授業計画

この授業は、講義室や体育施設で行います。
 【第1回】 幼児期における運動遊びの意義
 【第2回】 準備体操、体づくりの運動遊び
 【第3回】 かけっこ遊び（鬼ごっこ、リレー）
 【第4回】 ボールを使った運動遊び（ボールを用いた遊び）
 【第5回】 ボールを使った運動遊び
 【第6回】 フラフープを使った運動遊び
 【第7回】 短縄を使った運動遊び
 【第8回】 長縄を使った運動遊び
 【第9回】 竹馬を使った運動遊び
 【第10回】 マットを使った運動遊び
 【第11回】 鉄棒を使った運動遊び
 【第12回】 跳び箱を使った運動遊び
 【第13回】 サーキットを使った運動遊び
 【第14回】 身近な物を使った運動遊び
 【第15回】 まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
 ①事前学習課題：シラバスを確認する
 ②事後学習課題：授業内容の復習を行う。
- 【第2～14回】
 ①事前学習課題：授業内容に関する運動遊びを、インターネットや書籍で調べる。
 ②事後学習課題：授業で学習したことを、授業内容のまとめレポートに整理する。
- 【第15回】
 ①事前学習課題：これまで学習したことを、総復習する。
 ②事後学習課題：学習したことを、保育現場での実践に活かせるよう整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、授業内やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由なく6回以上の欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
 3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。
 定期試験に代わるレポート等の提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	第1・15回 課題レポート(10) 第2～14回 取り組み姿勢、スキル(65)	1, 2, 3, 4

授業外での評価	15	授業内容のまとめレポート(15)	1
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート(10)	1
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて資料の配付もしくはclassroomへの提示を行う。
------	---

参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼児期運動指針
-----	--

履修条件・他の科目との関連	<ol style="list-style-type: none"> 1. 積極的に授業へ参加する。 2. 運動遊びに適した服装、靴を着用する。 3. 装飾品(ピアス、ネックレス、指輪、時計等)は装着しない。 4. 爪は短くしておく。 5. 長い髪の毛はゴム等で束ねる。 6. 配当施設や進捗状況に応じて、授業計画を変更することがある。
---------------	--

授業コード	22046901	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	野外活動演習（キャンプ） [対面]				
シラバス執筆(全員)	織田 恵輔、玉井 久実代				
シラバス執筆(主)	織田 恵輔				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本授業は、子どもを対象としたキャンプの企画・運営に関する知識やスキルを学ぶことを目的とする。事前研修では、キャンプに関する基本的な知識やスキルを概説する。学外研修では、テント設営や野外炊飯などのキャンプ生活に必要な技術、ネイチャーゲームやキャンプファイヤーなどの野外でのアクティビティを安全に実施できるスキルを実践を通して学習できるように説明する。事後研修では、本授業を振り返るとともに、子どもを対象としたキャンプの振り返り方法や事後の取り組みについて説明する。

到達目標

1. 子どもを対象としたキャンプの企画や運営を行うことができる。
2. 子どもとともに自然に親しみ、子どもに自然の話ができる。
3. キャンプを通して仲間と協力することができる。

授業計画

事前研修と事後研修は、履修者の時間割を調整して授業を設定する。
学外研修は、9月下旬に1泊2日で行う。

- 【第1回】 事前研修1：オリエンテーション、キャンプの意義と目的
- 【第2回】 事前研修2：キャンプの生活とアクティビティ
- 【第3回】 事前研修3：キャンプの準備
- 【第4回】 学外研修1：開講式
- 【第5回】 学外研修2：レクリエーションゲーム
- 【第6回】 学外研修3：テント設営
- 【第7回】 学外研修4：ポイントハイク
- 【第8回】 学外研修5：野外炊飯
- 【第9回】 学外研修6：ネイチャーゲーム①
- 【第10回】 学外研修7：キャンプファイヤー
- 【第11回】 学外研修8：ネイチャーゲーム②
- 【第12回】 学外研修9：クラフト
- 【第13回】 学外研修10：閉校式
- 【第14回】 事後研修1：振り返りおよび学習成果発表準備
- 【第15回】 事後研修2：学習成果発表

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

第1回

- 【事前】 シラバスを確認しておく。
- 【事後】 オリエンテーションの説明内容に基づき、基礎知識を自習し、ノートを準備する。

第2回・第3回

- 【事前】 授業内容に関することを、インターネットや書籍で調べる。
- 【事後】 授業で学習したことを、ノートに整理する。

第4回～第13回

- 【事前】 キャンプに必要な携行品等を準備する。各種プログラム等の打合せや準備を行う。
- 【事後】 学外研修で学習したことを、ノートに整理する。

第14回・15回

- 【事前】 学外研修を振り返り、報告会の準備を行う。
- 【事後】 学習成果発表で学習したことを、ノートに整理する。

課題に対するフィードバックの方法

事前研修と事後研修で実施した課題のフィードバックは、次回以降の授業やGoogle Classroomで行う。
学外研修で実施した課題のフィードバックは、各取り組みごとの振り返りと事後研修で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく事前研修を欠席した場合や、学外研修を欠席した場合は「K」評価とする。
レポートが未提出の場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
---------	----------	---------	-------------

授業内での評価	90	事前研修と事後研修の課題(50) 学外研修の取り組み姿勢(30) 学外研修の課題(10)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず資料を配布する。
------	-------------------

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
-----	------------------

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・履修希望者は、「野外活動演習(キャンプ)」の説明会に必ず参加すること。 ・説明会後の履修確認をClassroomで行った後に受講を取り止める場合は、必ず本人から授業担当者に申し出ること。申し出がない場合は参加の意思があるとみなす。 ・事前研修は、原則、全て出席することを学外研修の参加条件とする。 ・欠席した授業の配布資料は、次回授業までに申し出て受け取ってください。 ・授業に必要な個人装備(雨具・ザック等)は、各自で準備すること。 ・履修登録の取り消しは、履修取り消し期間に各自で行うこと。 ・説明会や授業に関する諸連絡は、UNIPAやClassroomで行う。 ・新型コロナウイルス感染症の状況により、内容変更や中止をすることがある。
---------------	--

授業コード	22052901	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	教育方法の理論と実践 [対面]				
シラバス執筆(全員)	松山 由美子				
シラバス執筆(主)	松山 由美子				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

保育の現場において、これからの社会を担う子どもたちに必要な資質・能力を養う必要があるが、そのためには教育の方法を理解し、技術を身につけ、教材や情報機器を活用して教育効果を高めることが求められている。この授業では、幼稚園教諭免許取得を目指す学生を対象として、教育方法の基礎的理論、保育を構成する基礎的要件、幼児理解に基づく評価を理解した上で、教育方法の基礎的技術とその応用、これからの社会を担う子どもたちに必要な資質・能力を養うためのICT活用も含めた教育方法について説明する。また、実践的な力が身につくように教材作成を通じた模擬保育を実施する。これからの社会を担う子供たちに求められる資質・能力を育成するために必要な、教育の方法、教育の技術、情報機器及び教材の活用に関する基礎的な知識・技能を身につけることを目的とする。

到達目標

1. 教育方法の基礎的理論について説明できる。
2. 子どもたちに求められる資質・能力について説明できる。
3. 保育を構成する基礎的要件について説明できる。
4. 幼児理解に基づく評価について説明できる。
5. 教育を行う上での基礎的技術を使って保育実践できる。
6. 保育現場で必要とされる教材を作成することができ、幼児の体験に基づき、興味・関心を高めながら活用することができる。
7. 子どもたちの情報活用能力（情報モラル）を育成するための保育実践ができる。

授業計画

- 第1回：教育方法の基礎理論（1）幼稚園・こども園における教育方法
 第2階：教育方法の基礎理論（2）教育方法の歴史的変遷
 第3回：子どもたちに求められる資質・能力（1）主体的・対話的で深い学び、幼児期に育みたい資質・能力
 第4回：子どもたちに求められる資質・能力（2）幼児期の終わりまでに育ってほしい姿
 第5回：保育を構成する基礎的要件（環境構成の理論と実践）
 第6回：幼児理解に基づく評価について（指導の過程と振り返り、組織的・計画的な評価）
 第7回：教材作成の基本技術
 第8回：教育方法の技術の応用（1）子どもたちの興味・関心と情報機器の活用
 第9回：教育方法の技術の応用（2）音声・映像技術の活用と応用
 第10回：教育方法の技術の応用（3）コンピュータやタブレットなどの活用
 第11回：模擬保育（作成した教材の効果的な提示）① グループ発表1
 第12回：模擬保育（作成した教材の効果的な提示）② グループ発表2
 第13回：子どもたちのデジタル・リテラシー（情報活用能力や情報モラル）の育成
 第14回：保育の実践理論、教材作成理論に基づいたICTの活用を含む保育について
 第15回：総復習及びまとめ（定期試験に代わるレポートについての説明も含む）

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業内容はプリント等で示さないため、各自でノート等にまとめるなどし、必要な知識を理解したり、課題作成に活かすことができるようにする。
 学外実習などで観察したICT活用の意義や活用方法に興味・関心をもち、自分なりの意見をもつことができるよう本を読んだり、意見交換を行う。
 大人として、また、保育者として必要な情報活用能力を高めるために、積極的にICTを活用してレポート等を作成する。
 大人として、また、保育者として必要な情報モラルを意識した生活ができるようになるために、自らのデジタル・リテラシーを振り返りながら、子どもや保護者に必要な情報モラルについて考えるために新聞やニュースに目を通す。
 子どもが今またこれから生きることになる高度なICT社会について興味や関心をもち、子どもとともにより良い社会のあり方について考え、意見をもつことができるように見聞を広める。

課題に対するフィードバックの方法

毎回、前回授業に関するミニ課題についてのコメントを行う。
 課題の演習時に机間巡視を行い、各学生の演習内容について優れた点の指摘と助言等を行う。
 グループで教材を作成した後の発表を行う際に、学生どうしの相互評価の公開と指導・助言コメントを行う。
 個人で作成した指導案についてコメントを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。

出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合は「K」とし評価の対象としない。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	前回の授業で学んだ知識に関するミニ課題(55%) グループ活動でのICT教材の作成と発表(15%)	1, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	ICTの活用を含む指導案作成を含む最終レポート	2, 3, 5, 6, 7
その他	0		

テキスト	文部科学省『幼稚園教育要領(平成29年3月告示)』 内閣府・文部科学省・厚生労働省『幼保連携型認定こども園教育・保育要領(平成29年3月告示)』
------	---

参考書	京都教育大学附属幼稚園『幼児の遊びや生活を豊かにするICT活用に関する研究(令和4年度文部科学省委託)』 秋田喜代美・宮田まり子・野澤祥子(編著)『ICTを使って保育を豊かに: ワクワクがつながる&広がる28の実践』中央法規出版
-----	---

履修条件・他の科目との関連	<ul style="list-style-type: none"> ・「コンピュータ基礎演習I(ワープロ)」及び「コンピュータ基礎演習II(表計算基礎)」の単位を取得している、あるいは同等の知識・技術があることを前提とする。 ・教職免許の取得を希望し、他の教職科目も履修していることが望ましい。 ・欠席した場合は、その回の課題を担当教員に聞き、自習しておくこと。
---------------	---

授業コード	22011801	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	教育実習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	吉田 貴子				
シラバス執筆(主)	吉田 貴子				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期、後期	単位数	5単位

授業の目的・概要

教育実習は、保育指導や学級経営など教職についての専門的知識・技能の修得を目的とする。そのため実習を幼稚園において1年次（第一段階）と2年次（第二段階）の2回に分けて実施する。これらの実習を効果あるものとするために教育実習（事前・事後の指導）を前期に開講する。教育実習5単位のうち、4単位は2回の実習、1単位は事前・事後指導の授業に相当し、すべてを履修し合格となって初めて教育実習5単位が認定される。

【事前・事後指導】

教育実習（第一段階）に向けて1年次前期に7回、教育実習（第二段階）に向けて2年次前期に8回、2年間を通して合計15回の授業を実施する。

【実習】

第一段階（1年次生）、第二段階（2年次生）とも9月に2週間実施する。教育実習においては観察実習・参加実習・責任実習を通してそれぞれ、保育環境・園児の活動・教諭の保育指導の状況・保育内容などを理解し、教諭の指導に基づく保育の補助的・部分的参加により保育技術を修得し、保育の実際的指導および学級経営などを実際に経験し、幼稚園教諭となるために必要となる今後の課題を各自明らかにする。

なお、教育実習を実施するに当たっては、教育実習（事前・事後の指導）を履修すると同時に、実習説明会・巡回担当教員との実習打合せに参加し事前準備の万全をはかることが必要である。

また、教育実習には、様々な事務手続きが必要になるので教学・教職センターと連携を密にとって教育実習の実施がスムーズに行われるようにしなければならない。

到達目標

【事前・事後指導】

1. 幼稚園教諭の役割を知り、幼稚園実習に対して、明確な目的意識をもって取り組むことができる。
2. 子ども理解をもとにして、発達支援や保育実践の方法について具体的に考えることができる。
3. 学びを振り返り、自己の課題を省察することができる。
4. 子ども理解をもとにした指導計画を立案することができる。

【実習】

第一段階（1年）

5. 幼稚園の生活に参加し幼児への理解を深めるとともに、幼稚園の機能と幼稚園教諭の職務について説明することができる。

第二段階（2年）

6. 幼稚園教諭として必要な資質・能力・技術を活用し、保育を実際に実践し省察することができる。

授業計画

【事前指導】

<第一段階に向けた事前指導（1年次生）>

1. オリエンテーション、実習とは何か
2. 実習生としてのマナー、幼稚園における安全管理
3. 幼稚園の役割と幼稚園教諭の職務
4. 幼稚園の1日の流れと保育内容
5. 環境整備、保育方法
6. 実習記録の書き方
7. 実習課題の立て方

<第二段階に向けた事前指導（2年次生）>

1. 1年次の実習の振り返りとオリエンテーション
2. 実習生としての心構え、実習課題の立て方
3. 幼稚園の役割、幼稚園教諭の職務、幼稚園の1日の流れ
4. 幼稚園における安全管理
5. 環境整備、各保育場面における援助方法
6. 実習記録の書き方
7. 指導案の立案および模擬保育
8. 実習課題の確認

【事後指導】

<第一段階および第二段階>

1. 教育実習についての反省会の開催
2. 実習の振り返り
3. 実習記録、実習評価に基づく個別指導

事前事後の学習

教育実習（学外実習）については、実習時間外で、計20時間の事前事後学習が必要です。また、教育実習（事前事後指導）については、授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

実習の事前・事後指導（1単位）にあたる授業は1年次に第一段階に向けて7回、2年次に第二段階に向けて8回の合計15回の授業を実施するため、それぞれの授業に対して事前事後学習が必要となる。次回の授業に対して「実習の手引き」を熟読しておく。事後は授業内容を振り返り復習する。

課題に対するフィードバックの方法

課題・レポートを次回授業で返却。説明等を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内での課題、学外実習における評価、期末レポートを総合して評価します。幼児保育学科の規定に基づき、授業の5分の4以上の出席がなければ、実習には参加できず、「K」（評価不能）となります。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業内課題、レポート等(60)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	学外実習に対する評価(実習先からの評価や実習記録など)	1, 2, 3, 4, 5, 6
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート(20)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	「実習の手引き」大阪国際大学短期大学部幼児保育学科
参考書	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(原本)/文部科学省、厚生労働省、内閣府/チャイルド本社/価格:550円/ISBN:480540258X 「実習の手引き」大阪国際大学短期大学部幼児保育学科
履修条件・他の科目との関連	本科目は教育実習の一部です。通常の講義とは異なりますので「幼児保育学科学生必携」を熟読し、科目特性や単位の認定基準を理解した上で受講すること。

授業コード	22011803	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	教育実習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	古海 忍				
シラバス執筆(主)	古海 忍				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	前期、後期	単位数	5単位

授業の目的・概要

教育実習は、保育指導や学級経営など教職についての専門的知識・技能の修得を目的とする。そのため実習を幼稚園において1年次（第一段階）と2年次（第二段階）の2回に分けて実施する。これらの実習を効果あるものとするために教育実習（事前・事後の指導）を前期に開講する。教育実習5単位のうち、4単位は2回の実習、1単位は事前・事後指導の授業に相当し、すべてを履修し合格となって初めて教育実習5単位が認定される。

【事前・事後指導】

教育実習（第一段階）に向けて1年次前期に7回、教育実習（第二段階）に向けて2年次前期に8回、2年間を通して合計15回の授業を実施する。

【実習】

第一段階（1年次生）、第二段階（2年次生）とも9月に2週間実施する。教育実習においては観察実習・参加実習・責任実習を通してそれぞれ、保育環境・園児の活動・教諭の保育指導の状況・保育内容などを理解し、教諭の指導に基づく保育の補助的・部分的参加により保育技術を修得し、保育の実際的指導および学級経営などを実際に経験し、幼稚園教諭となるために必要となる今後の課題を各自明らかにする。

なお、教育実習を実施するに当たっては、教育実習（事前・事後の指導）を履修すると同時に、実習説明会・巡回担当教員との実習打合せに参加し事前準備の万全をはかることが必要である。

また、教育実習には、様々な事務手続きが必要になるので教学・教職センターと連携を密にとって教育実習の実施がスムーズに行われるようにしなければならない。

到達目標

【事前・事後指導】

1. 幼稚園教諭の役割を知り、幼稚園実習に対して、明確な目的意識をもって取り組むことができる。
2. 子ども理解をもとにして、発達支援や保育実践の方法について具体的に考えることができる。
3. 学びを振り返り、自己の課題を省察することができる。
4. 子ども理解をもとにした指導計画を立案することができる。

【実習】

第一段階（1年）

5. 幼稚園の生活に参加し幼児への理解を深めるとともに、幼稚園の機能と幼稚園教諭の職務について説明することができる。

第二段階（2年）

6. 幼稚園教諭として必要な資質・能力・技術を活用し、保育を実際に実践し省察することができる。

授業計画

【事前指導】

<第一段階に向けた事前指導（1年次生）>

1. オリエンテーション、実習とは何か
2. 実習生としてのマナー、幼稚園における安全管理
3. 幼稚園の役割と幼稚園教諭の職務
4. 幼稚園の1日の流れと保育内容
5. 環境整備、保育方法
6. 実習記録の書き方
7. 実習課題の立て方

<第二段階に向けた事前指導（2年次生）>

1. 1年次の実習の振り返りとオリエンテーション
2. 実習生としての心構え、実習課題の立て方
3. 幼稚園の役割、幼稚園教諭の職務、幼稚園の1日の流れ
4. 幼稚園における安全管理
5. 環境整備、各保育場面における援助方法
6. 実習記録の書き方
7. 指導案の立案および模擬保育
8. 実習課題の確認

【事後指導】

<第一段階および第二段階>

1. 教育実習についての反省会の開催
2. 実習の振り返り
3. 実習記録、実習評価に基づく個別指導

事前事後の学習

教育実習（学外実習）については、実習時間外で、計20時間の事前事後学習が必要です。また、教育実習（事前事後指導）については、授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

実習の事前・事後指導（1単位）にあたる授業は1年次に第一段階に向けて7回、2年次に第二段階に向けて8回の合計15回の授業を実施するため、それぞれの授業に対して事前事後学習が必要となる。次回の授業に対して「実習の手引き」を熟読しておく。事後は授業内容を振り返り復習する。

課題に対するフィードバックの方法

課題・レポートを次回授業で返却。説明等を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

授業内での課題、学外実習における評価、期末レポートを総合して評価します。幼児保育学科の規定に基づき、授業の5分の4以上の出席がなければ、実習には参加できず、「K」（評価不能）となります。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業内課題、レポート等(60)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	20	学外実習に対する評価(実習先からの評価や実習記録など)	1, 2, 3, 4, 5, 6
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	期末レポート(20)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	「実習の手引き」大阪国際大学短期大学部幼児保育学科
参考書	平成29年告示 幼稚園教育要領 保育所保育指針 幼保連携型認定こども園教育・保育要領(原本)/文部科学省、厚生労働省、内閣府/チャイルド本社/価格:550円/ISBN:480540258X 「実習の手引き」大阪国際大学短期大学部幼児保育学科
履修条件・他の科目との関連	本科目は教育実習の一部です。通常の講義とは異なりますので「幼児保育学科学生必携」を熟読し、科目特性や単位の認定基準を理解した上で受講すること。

授業コード	22904901	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	保育・教職実践演習（幼稚園） [対面]				
シラバス執筆(全員)	久保田 健一郎、吉田 貴子、大塚 穂波				
シラバス執筆(主)	久保田 健一郎				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

これまで学んできた知識や実習経験を基に、保育者になる上で何が課題であるのかを自覚し、必要に応じて不足している知識や技能等を補いその定着を図ることができるよう、理論と実践の有機的な統合を可能とする演習を行う授業である。そのため、模擬保育、ロールプレイング、グループ討論といった参加型の学習や、保育現場の協力を仰ぎ、事例研究やフィールドワーク等を取り入れ、保育者に必要な資質の向上を図る。
 なお、授業はグループ学習と各教員によるオムニバス形式で行う。

到達目標

1. 使命感、責任感、教育的愛情、専門職としての倫理観等について説明することができる。
2. 社会性や対人関係能力などを身に付け、保護者とのコミュニケーションや協力することの重要性について、説明することができる。
3. 乳幼児の成長発達や学級経営などに関して説明することができる。
4. 領域、保育内容を意識した指導案を作成し、実際に指導することができる。
5. 保育に関する現代的課題について分析し、その課題について保育者が求められること等を考察することができる。

授業計画

- 第1回 保育・教育実践演習の意義とこれまでの学修内容の確認
- 第2回 グループ学習①（グループ分け等）
- 第3回 グループ学習②（テーマ決定）
- 第4回 グループ学習③（計画・調査）
- 第5回 グループ学習④（保育現場からの講話）
- 第6回 グループ学習⑤（学内外での調査：訪問調査も含む）
- 第7回 グループ学習⑥（学内外での調査：聞き取り調査も含む）
- 第8回 グループ学習⑦（発表準備）
- 第9回 全体発表会（前半）
- 第10回 全体発表会（後半）
- 第11回 子育て支援における保育者の役割
- 第12回 保育者の役割・社会人としての保育者
- 第13回 子どもの発達を踏まえた保育環境
- 第14回 保育現場で働く上での意見交換
- 第15回 2年間の学びの振り返り

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

事前事後の学習に関しては、各回事前2時間・事後2時間が前提であるが、とりわけ以下の内容を留意すること

- ・第1回は本授業の意義の復習
- ・第2回～第10回はグループ学習のための準備も事前事後学習に含む
- ・第11回～第13回は、個別の教員の内容の予習復習
- ・第14回は保育現場で働くことを想定した予習復習
- ・第15回は全体の学びを復習

課題に対するフィードバックの方法

Google Classroomを通じて、各教員がフィードバックを行う。

成績評価の方法・基準(方針)

各回の課題を成績評価に反映させるので、毎回提出すること。
 出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	提出課題によって評価する。	2, 3, 4, 5
授業外での評価	0		
定期試験	0		

定期試験に代わるレポート等	10	期末レポート	2, 3, 4, 5
その他	30	発表・調査などへの取り組みによって評価する。	1
テキスト	テキストを使用せず、資料を配布する		
参考書	幼稚園教育要領、幼稚園教育要領解説、保育所保育指針、保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説		
履修条件・他の科目との関連	幼稚園教員免許資格、保育士資格に関わるすべての科目について、受講しておくこと。欠席した回の資料は、Google Classroomに掲示しておく。		

授業コード	22047001	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	子ども家庭福祉 [対面]				
シラバス執筆(全員)	松木 宏史				
シラバス執筆(主)	松木 宏史				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

授業の大きなテーマは「子どもの生存権」である。まずは、子どもや子どものいる世帯の生活問題を実態と歴史の双方から学ぶ。そのうえで、現在の子ども家庭福祉のサービスの現状と、今後の改善点についてふれていく。講義形式の授業であるが、単なる歴史や制度の解説にとどまらず、「本当にこれでいいのか」「現状に合っているのか」という批判的な視点から授業を展開していく。

到達目標

1. 前期「社会福祉」の学びを踏まえ、子どもを取り巻く生活問題とその対策についての成り立ちを説明できる。
2. 子どもの「人権」について具体的に学び、身近な問題として具体例を挙げ説明できる。
3. 子ども家庭福祉に関する支援やサービスについて説明できる。

授業計画

1. 子ども家庭福祉を学ぶために
2. 子どものいる世帯の生活問題 (1) 日本とフィンランドの比較
3. 子どものいる世帯の生活問題 (2) 現代社会と子ども家庭福祉
4. 子どもの人権
5. 子ども家庭福祉の歴史 (1) 明治・大正期
6. 子ども家庭福祉の歴史 (2) 昭和初期から現代
7. 子ども家庭福祉の体系
8. 子育て支援・保育政策
9. 母子保健
10. ひとり親世帯への支援
11. 子どもへの虐待とDV問題
12. 社会的養護の諸問題
13. 障害児への福祉政策
14. 少年非行への対応
15. 授業のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

この授業は予習を必須としない。しかし復習を重視する。授業内容を理解するために配布したプリントやテキストをしっかりと理解してほしい。そのために、テキストの授業該当箇所は必ず通読すること。復習の目安として各授業につき最低60分はかけること。定期試験の準備にはさらに時間がかかることを想定しておくこと。全体として60時間以上の事後学習が必要となる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で何らかの課題提出を求める。課題はチェックのうえ返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すように、毎回の提出物と定期試験の合算で評価する。60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく累計6回以上を欠席した場合や同じく定期試験を欠席した場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内のミニレポート	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	70	試験期間中にペーパーテストを行う	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	喜多・堀場編『みらい×子どもの福祉ボックス 子ども家庭福祉(第2版)』 みらい
------	---

テキスト	2024年4月発行予定
参考書	授業中に紹介する
履修条件・他の科目との関連	万が一授業を欠席した場合は、GoogleClassroomから資料をダウンロードできる。テキストと合わせて自己学習すること。 この科目は卒業必修科目である

授業コード	22014901	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	社会福祉 [対面]				
シラバス執筆(全員)	松木 宏史				
シラバス執筆(主)	松木 宏史				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

日本国憲法第25条「生存権」の理念に基づいて、くらしにまつわる様々な問題を「ほっとけない」「ひとつとではない」問題として、社会科学的なものの見方・考え方からとらえていく、その手がかりを得ることを目標とする。そのために、まずはいま社会福祉や保育の現場でどのような問題が起こっているのか、現実に即して学んでいく。特に、貧困や差別、虐待といった社会問題がどのように生み出され、そして私たちはどのように対処してきたのか、歴史から学ぶことを重視する。歴史や理論を踏まえ、現在の法制度や、支援の実態について授業を展開する。

到達目標

1. 社会問題としての生活問題を、具体的な事例を手掛かりに説明できる。
2. 社会福祉の成り立ちを説明できる。
3. 現代社会における社会福祉の実態を説明できる。
4. 「生存権」について単なる文言としてでなく、具体的に説明できる。

授業計画

1. 開講にあたって
2. 社会福祉の動向・課題
3. 社会福祉の発達史 (1) 英国の場合
4. 社会福祉の発達史 (2) 日本の社会福祉の源流
5. 社会福祉の発展史 (3) わが国の社会福祉の発展・変容
6. 社会福祉の実施体系
7. 社会福祉施設・専門職
8. 社会保障 (1) 総論・社会保険
9. 社会保障 (2) 公的扶助
10. 社会福祉の制度・体系 (1) 子ども家庭福祉
11. 社会福祉の制度・体系 (2) 高齢者福祉
12. 社会福祉の制度・体系 (3) 障害者福祉
13. 社会福祉の制度・体系 (4) 地域福祉の推進
14. 社会福祉とソーシャルワーク
15. 授業のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

この授業は予習を必須としない。しかし復習を重視する。授業内容を理解するために配布したプリントやテキストをしっかりと理解してほしい。そのために、テキストの授業該当箇所は必ず通読すること。復習の目安として、授業ごとに最低60分はかけること。また定期試験の準備にはさらに時間がかかることを想定しておくこと。全体として60時間以上の事後学習が必要となる。

課題に対するフィードバックの方法

ほぼ毎回の授業で何らかの課題提出を求める。課題はチェックのうえ返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すように、毎回の提出物と定期試験の合算で評価する。60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく累計6回以上を欠席した場合や同じく定期試験を欠席した場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内のミニレポート	1
授業外での評価	0		
定期試験	70	試験期間にペーパーテストを行う	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	志濃原亜美編『みらい×子どもの福祉ブックス 社会福祉(第2版)』 みらい 2024年4月発行予定
参考書	授業の中で紹介する
履修条件・他の科目との関連	万が一授業を欠席した場合は、GoogleClassroomから資料をダウンロードできる。テキストと合わせて自己学習すること。 なおこの科目は卒業必修科目である。

授業コード	22047101	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	社会的養護 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	松木 宏史				
シラバス執筆(主)	松木 宏史				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

児童福祉施設には、さまざまな理由で社会的養護（児童福祉施設や里親等による社会的養育）を必要とする子どもたちが暮らしている。こうした子どもたちの問題を考える時、その背景からさまざまな要因をうかがうことができる。加えてこれまでの家族形態・地域形態が変容する中で社会的養護に期待される役割はより一層大きくなっている。本講義では、社会的養護の原理を学びつつ、子どもたちにとっての最善の利益（子どもの人権尊重）とは何かを問うていく。また政府が示す「新しい社会的養育ビジョン」における枠組みを踏まえ、社会的養護の今後の在り方を展望する。

到達目標

1. 前期「社会福祉」や、同時開講している「子ども家庭福祉」を踏まえ、社会的養護問題が起こる社会構造を考察できる
2. 社会的養護の概要を説明できる
3. 今後に迎える「施設実習」等の実体験の機会と関連づけながら、社会的養護の現状・課題について説明できる
4. これからの社会的養護の在り方について自分なりの意見を持つことができる

授業計画

1. 社会的養護の基本原理
2. 社会的養護の現状
3. 日本における社会的養護の歴史
4. 子どもの権利を守るために
5. 社会的養護の体系
6. 施設養護（1）乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設
7. 施設養護（2）児童心理治療施設・児童自立支援施設・自立援助ホーム
8. 施設養護（3）障害児施設
9. 家庭養護 里親・ファミリーホーム
10. 社会的養護にかかわる専門職と倫理
11. 社会的養護にかかわる専門機関
12. 社会的養護とソーシャルワーク
13. 施設の運営管理
14. 施設内虐待の防止
15. 授業のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

この授業は予習を必須としない。しかし復習を重視する。授業内容を理解するために配布したプリントやテキストをしっかりと理解してほしい。そのために、テキストの授業該当箇所は必ず通読すること。復習の目安として、授業ごとに最低60分はかけること。また定期試験の準備・作成にはさらに時間がかかることを想定しておくこと。全体として60時間以上の事後学習が必要となる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で何らかの課題提出を求める。課題はチェックのうえ返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すように、毎回の提出物と定期試験の合算で評価する。60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく累計6回以上を欠席した場合や同じく定期試験を欠席した場合はK評価とする

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内のミニレポート	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	70	試験期間中にペーパーテストを行う	1, 2, 3, 4

定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		
テキスト	喜多・堀場編(2020)『みらい×子どもの福祉ブックス 社会的養護Ⅰ』 ISBN978-4-86015-498-1 価格2310円(税込)※テキストの改訂がなされた場合は最新版を使用		
参考書	授業の中で紹介する		
履修条件・他の科目との関連	万が一授業を欠席した場合は、GoogleClassroomから資料をダウンロードできる。テキストと合わせて自己学習すること。 なお、この科目は保育士資格の必修科目である		

授業コード	22020401	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	発達心理学Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	大塚 穂波				
シラバス執筆(主)	大塚 穂波				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

子ども理解にもとづく豊かな発達援助を行う実践力を養うことを目的として、乳幼児期の子どもの発達について概説する。グループワークやプレゼンテーションを通して子どもの発達に応じた遊びや保育者のかかわりについて理解を深めるとともに、実際の子どもの様子から発達を捉える方法について説明する。

到達目標

1. 実際の子どもの姿を観察し、発達の特徴を説明することができる
2. 多様な視点から子どもを理解し、自分の考えを述べるすることができる
3. 他者と協働して子どもの発達に応じた遊びを考え、発表することができる

授業計画

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 遊びと発達
- 第3回 発達にともなう遊びの変化
- 第4回 0歳代の発達と保育
- 第5回 1歳代の発達と保育
- 第6回 2歳代の発達と保育
- 第7回 3歳代の発達と保育
- 第8回 4～5歳代の発達と保育
- 第9回 遊びの充実と保育者の援助(1) 乳幼児期の発達の特徴
- 第10回 遊びの充実と保育者の援助(2) 各時期の特徴的な子どもの姿
- 第11回 遊びの充実と保育者の援助(3) 遊びを支える保育者の援助
- 第12回 生活に根差した保育と発達(1) 充実した遊びを保障する環境
- 第13回 生活に根差した保育と発達(2) 発表準備と練習
- 第14回 生活に根差した保育と発達(3) グループ発表と相互評価
- 第15回 発達の最近接領域

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

予習として毎回の授業テーマを確認し、自分の関心を整理しておくこと。授業後は配布資料・ノートをもとに授業内容を復習し、疑問点等を整理すること。

課題に対するフィードバックの方法

グループワークやプレゼンテーションに対してはその場で講評を行う。レポート課題の結果は希望者に開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格として所定の単位を認定する。正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	ワークシート(30%)、グループワーク(30%)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	全授業終了後に実施するレポート	1, 2
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず資料を配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	欠席した回の資料はGoogle Classroomよりダウンロードし、自習すること。

授業コード	22047201	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	子ども家庭支援の心理学 [対面]				
シラバス執筆(全員)	大塚 穂波				
シラバス執筆(主)	大塚 穂波				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

子どもや保育を取り巻く社会情勢が大きく変化する現代において、子どもだけでなく家庭への支援を行うことは保育者の重要な職務の一つである。この授業では、子どもやその家庭への包括的な理解と支援を目的として、生涯発達の過程や家族・家庭の現状や課題について概説する。

到達目標

1. 生涯を通じた人の発達段階と各時期における発達課題を説明することができる
2. 現代における家族・家庭の機能やその意義を説明することができる
3. 子育て家庭の現状をふまえた適切な支援を考えることができる

授業計画

- 第1回 生涯発達の考え方
- 第2回 乳幼児期～児童期の発達過程：認識の深まりと対人関係の広がり
- 第3回 青年期の発達過程(1)：思春期以降の心身の変化と恋愛
- 第4回 青年期の発達過程(2)：アイデンティティ
- 第5回 成人期の発達過程(1)：仕事・結婚・出産と育児
- 第6回 成人期の発達過程(2)：ライフコースの多様化
- 第7回 老年期の発達過程：世代継承性
- 第8回 生涯発達と発達観
- 第9回 家族・家庭の意義と機能
- 第10回 親子関係・家族関係の理解
- 第11回 現代の子育て
- 第12回 子どもの生活・成育環境
- 第13回 多様な子ども・家庭の理解と支援
- 第14回 心の健康にかかわる問題
- 第15回 まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

資料を通読し授業内容を予習しておくこと。また、復習として毎回の授業内容に関する具体的な事例や関連するニュース等を調べ、ノートにまとめること。

課題に対するフィードバックの方法

リアクションペーパーは授業内で解説する。
レポート課題の結果については希望者に対して開示する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格として所定の単位を認定する。正当な理由なく6回以上欠席した場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	リアクションペーパー(20)、演習課題(50)	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	全授業終了後に実施するレポート	2, 3
その他	0		

テキスト	テキストは使用せず資料を配布する。
参考書	必要に応じて授業の中で紹介する。
履修条件・他の科目との関連	欠席した回の資料はGoogle Classroomよりダウンロードし、自習すること。

履修条件・他の科目との関連

「発達心理学Ⅰ」「発達心理学Ⅱ」の内容を復習しておくこと。また、日頃から子育て家庭に関する現代的問題に関心を持っておくこと。

授業コード	22047301	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	子どもの健康と安全 [対面]				
シラバス執筆(全員)	織田 恵輔				
シラバス執筆(主)	織田 恵輔				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

子どもの心身の健全な成長には、その健康の保持及び増進が必要である。本講義では、乳幼児の基本的な健康及び成長の観察方法と評価について説明する。また、体調不良時や緊急時における具体的な対応方法に関する基礎的知識と技術について概説する。さらに、保育及び母子保健に関わる関連機関との連携・協働について説明をする。子どもの健康と安全の授業では、実際の保育の場面で活用できる演習や映像などの視覚的な教材を多く取り入れた授業を行う。

到達目標

1. 保育における保健的観点を踏まえた保育環境や援助について実行できる。
2. 関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、保育における衛生管理・事故防止及び安全対策・危機管理・災害対策について、具体的に説明できる。
3. 子どもの体調不良等に対する適切な対応について、具体的に実行できる。
4. 関連するガイドラインや近年のデータを踏まえ、保育における感染症対策について、具体的に実行できる。
5. 保育における保健的対応の基本的な考え方を踏まえ、関連するガイドラインや近年のデータ等に基づく、子どもの発達や状態等に即した適切な対応について、具体的に説明できる。
6. 子どもの健康及び安全の管理に関わる、組織的取組や保健活動の計画及び評価等について、具体的に説明できる。

授業計画

- 【第1回】
 テーマ：保健的観点を踏まえた保育環境及び援助
 (1) 子どもの健康と保育の環境
 内容・方法：乳幼児の健康と保育の環境を学ぶ。
- 【第2回】
 テーマ：保健的観点を踏まえた保育環境及び援助
 (2) 子どもの保健に関する個別対応と集団全体の健康及び安全管理
 内容・方法：乳幼児の個別及び集団における健康や安全管理の意義を学ぶ。
- 【第3回】
 テーマ：保育における健康及び安全管理
 (1) 衛生管理
 内容・方法：保育現場における衛生管理を学ぶ。
- 【第4回】
 テーマ：保育における健康及び安全管理
 (2) 事故防止及び安全対策
 内容・方法：乳幼児に起こりやすい事故防止と安全対策を学ぶ。
- 【第5回】
 テーマ：保育における健康及び安全管理
 (3) 災害への備えと危機管理
 内容・方法：保育の現場における災害への備えと危機管理を学ぶ。
- 【第6回】
 テーマ：子どもの体調不良等に対する適切な対応
 (1) 体調不良や傷害が生じた場合の対応
 内容・方法：乳幼児の体調不良の兆候や体調不良時の対応、傷害が生じたときの対応を学ぶ。
- 【第7回】
 テーマ：子どもの体調不良等に対する適切な対応
 (2) 応急処置、救急処置及び救急蘇生法
 内容・方法：保育の現場での応急処置の方法と急変時などに対応できる救急処置及び救急蘇生法を学ぶ。
- 【第8回】
 テーマ：感染症対策
 (1) 感染症の集団発生の予防
 内容・方法：保育の現場における乳幼児の感染症の集団発生の予防方法を学ぶ。
- 【第9回】
 テーマ：感染症対策
 (2) 感染症発生時と罹患後の対応
 内容・方法：保育の現場において発生した感染への対応と感染症に罹患後の乳幼児の対応を学ぶ。
- 【第10回】
 テーマ：保育における保健的対応
 (1) 保育における保健的対応の基本的な考え方
 内容・方法：保育における保健的対応の基本的な考え方を学ぶ。
- 【第11回】
 テーマ：保育における保健的対応
 (2) 3歳未満児への対応

内容・方法：乳児から3歳未満児への保健的対応を学ぶ。

【第12回】

テーマ：保育における保健的対応

(3) 個別的な配慮を要する子どもへの対応

内容・方法：慢性疾患及びアレルギー疾患などの個別的な配慮を要する乳幼児への対応を学ぶ。

【第13回】

テーマ：保育における保健的対応

(4) 障害のある子どもへの対応

内容・方法：障害のある乳幼児への対応を学ぶ。

【第14回】

テーマ：健康及び安全管理の実施体制

(1) 保育における保健活動の計画及び評価

内容・方法：保育の現場における保健活動の計画及び評価を学ぶ。

【第15回】

テーマ：健康及び安全管理の実施体制

(2) 保育における連携・協働

内容・方法：職員間の連携・協働と組織的取組、母子保健・地域保健における自治体との連携、家庭、専門機関、地域の関連機関などとの連携を学ぶ。

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

①事前学習課題：参考書等で乳幼児の健康と保育の環境について調べておく（30分）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。

【第2回】

①事前学習課題：参考書等で乳幼児の健康及び安全管理について調べておく（30分）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。

【第3回】

①事前学習課題：参考書等で衛生管理について調べておく（30分）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。

【第4回】

①事前学習課題：参考書等で事故防止と安全対策の方法について調べておく（30分）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。

【第5回】

①事前学習課題：参考書等で災害への備えと災害時の対策について調べておく（30分）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。

【第6回】

①事前学習課題：参考書等で乳幼児の体調不良及び傷害時の対応について調べておく（30分）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。

【第7回】

①事前学習課題：参考書等で救急処置及び救急蘇生法について調べておく（30分）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。

【第8回】

①事前学習課題：参考書等で感染症予防について調べておく（30分）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。

【第9回】

①事前学習課題：参考書等で感染症発生時の対応について調べておく（30分）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。

【第10回】

①事前学習課題：参考書等で保育における保健的対応について調べておく（30分）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。

【第11回】

①事前学習課題：参考書等で乳児から3歳までの乳幼児について調べておく（30分）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。

【第12回】

①事前学習課題：参考書等で乳幼児の慢性疾患及びアレルギー疾患について調べておく（30分）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。

【第13回】

①事前学習課題：参考書等で障害のある子どもについて調べておく（30分）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。

【第14回】

①事前学習課題：参考書等で保育における保健活動計画について調べておく（30分）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。

【第15回】

①事前学習課題：参考書等で保育に関わる関連機関との連携について調べておく（30分）。

②事後学習課題：配布資料の復習に努めること（30分）。

課題に対するフィードバックの方法

採点基準（適正な解答）を公開し、実施する課題について教室内で教員への提出直後に採点し、課題による学びは授業内で学生にフィードバックする。

成績評価の方法・基準(方針)

成績は授業への取り組み状況・受講態度、課題及び授業の理解度を確認するためのレポート（定期試験に代わる

レポート)の総合的評価により判定のうえ、60点以上を合格とし所定の単位を認定する。

受講態度とは、授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、グループワークへの参加や発表態度のことであり、総合的に評価する。
課題は、課題への取り組みと課題の提出により評価する。

授業への出席は、全体の2/3を必須とし、正当な理由なく6回以上欠席した場合は評価の対象とせず「K」評価とする。
なお、成績の評価は、授業内評価やレポートを重視するため、欠席5回以下であっても所定の単位認定とならない場合がある。

授業の理解度を確認するためのレポートが未提出の場合は「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業への主体的な参加、授業内の積極的な発言や質問、演習及びグループワークへの参加や発表態度(40) 課題への取り組みと提出(20)	1, 2, 3, 4, 5, 6
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	授業の理解度を確認するためのレポート(40)	2, 5, 6
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない 毎回の授業で必要な資料を配布する。
参考書	子どもの保健Ⅱ(演習) 白野幸子 医歯薬出版株式会社 2,200円 小児保健実習 第6版 保育と保健・看護の視点から 同文書院 2,310円 写真でわかる小児看護技術 改訂第2版 インターメディカ 2,625円 地震なんかには負けない! 幼稚園・保育園・家庭防災ハンドブック 子どもの命を守るための防災マニュアル 学研 1,680円
履修条件・他の科目との関連	授業への出席は、全体の2/3を必須とし、正当な理由なく6回以上欠席した場合は評価の対象とせず「K」評価とする。 また、特別な理由のない30分以上の遅刻は欠席とし、3回の遅刻は1回の欠席とする。 授業を欠席した場合の授業資料の配布については、個別に対応する。

授業コード	22053001	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	子どもの食と栄養 [対面]				
シラバス執筆(全員)	田村 千里				
シラバス執筆(主)	田村 千里				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

子どもの食生活や栄養は、生涯にわたる健康と生活の基礎となり、その後の心と身体の健康に大きく影響する。今日の生活環境や社会環境の中で、子どもたちに適切な食事を好ましい環境のもとで提供することは極めて重要である。本演習では、栄養に関する基本的知識とともに、子どもの発育・発達と食生活の関連について説明する。同時に、自分自身の食生活を見直す機会としてもらう。「食事の大切さ」を子どもたちに伝える方法として、食育の媒体作り・発表を取り入れている。また、子どもの成長に適した献立を紹介し、調理形態と調理ポイントを説明する。保育者として食に関する基礎的知識と実践態度を身につけることを目的とする。

到達目標

1. 身体の健康と食事の役割について、および栄養素の種類とはたらきについて説明できる
2. 子どもの発育・発達と食生活の関連について考えることができる
3. 食生活に関心をもち、食文化を大切に、食事時のマナーを身につけ、食事の楽しさを日々、子どもたちに伝えることができる

授業計画

- 【第1回】講義オリエンテーション、食生活の現状と課題
授業の概要、到達目標、成績評価についてシラバスを見ながら説明
「子どもの食と栄養」を学ぶ目的、「食べる」ということ、自分自身の現在の食生活についての見直し
- 【第2回】健康と食生活、栄養に関する基本的知識（1）
健康とは何か、栄養について
五大栄養素について（糖質、脂質、たんぱく質）
- 【第3回】栄養に関する基本的知識（2）
五大栄養素について（無機質）（ビタミン）
- 【第4回】栄養に関する基本的知識（3）
五大栄養素について 水分について
栄養のバランス、バランスのよい食事、自分自身の食生活を見直す
- 【第5回】自分自身の食生活を見直す
1日の食事を写真に撮り、食べたものを分類し栄養バランスを検討する
食環境の現状、食品添加物との関わり
ビデオを見て食環境の現状、食品添加物との関わりを知る
食中毒について
予防するために気をつけること
- 【第6回】妊娠期の食生活
妊娠期の栄養と食生活、胎児に影響を与える母体の要因、献立紹介「妊娠中の食生活」
調理実習献立「基本調理1」
- 【第7回】乳児期の授乳の意義と食生活
母乳の利点と問題点、母乳の保存、解凍および加温、人工栄養
乳汁栄養、調乳、
正しい調乳方法、離乳期段階に合った離乳食
- 【第8回】離乳期の意義と食生活（1）調理実習献立「調乳と離乳食」
離乳の必要性和役割、離乳の実際
- 【第9回】離乳期の意義と食生活（2）ビデオ「味覚のしつけは乳幼児期から」
離乳食の進め方と原則、離乳各期における調理形態の違いを意識する
- 【第10回】離乳期の意義と食生活（3）
離乳食の進め方と原則、離乳各期における調理形態の違いを意識する
乳児期の栄養上の問題と健康への対応
乳児期の栄養上の問題をとりあげ、健康への対応を考える
- 【第11回】幼児期の心身の発達と食生活
幼児期の心身の特徴と食生活
- 【第12回】幼児期の栄養上の問題と健康への対応

食物アレルギー、調理実習献立「アレルギー対応食」
幼児期の心身の特徴と食生活の関係、問題と対応について
給食における食物アレルギーをもっている子どものための調理の工夫

【第13回】 幼児期のお弁当

幼児期のお弁当を作る上での注意点の確認

保育所給食

保育所給食の献立と調理の工夫、保育所給食を食べる際に注意すること

【第14回】 食育の必要性、留意点、実践（カルタ作成）

【第15回】 幼児期の間食

子どもにとっての間食の意義、おやつと一緒に作ることの意味

学童期の心身の発達と食生活、障害のある子どもへの対応

学童期の子ども、障害のある子どもの食生活に関わる時に注意すること

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

【第1回】

①事前学修課題：シラバスにある「子どもの食と栄養」を読む

②事後学修課題：自分が毎日食べているものを意識する

【第2回】

①事前学修課題：健康について考える。中学や高校の時に学んだ栄養素について復習する

②事後学修課題：健康に暮らすために、今、自分が食べているものの栄養について考える

【第3回】

①事前学修課題：中学や高校の時に学んだ栄養素について復習する

②事後学修課題：自分が食べているものの栄養についてまとめる

【第4回】

①事前学修課題：1日の食事3食（朝・昼・夜）の写真を撮る

②事後学修課題：自分が食べているものの栄養についてまとめ、バランスのよい食事とは何かを考える

【第5回】

①事前学修課題：自分自身の食生活を振り返る。

食中毒に関する情報を集める

②事後学修課題：今後、食生活をする上で気をつけなければならないことをまとめる

食中毒の予防と対処法をまとめる

【第6回】

①事前学修課題：妊娠時の母体の変化について調べる

②事後学修課題：妊娠時の食生活で気をつけることを確認する

【第7回】

①事前学修課題：乳児期の栄養について調べる

②事後学修課題：乳児期の心身の発達についてまとめる

【第8回】

①事前学修課題：乳児期の栄養「乳汁栄養」について復習する。正しい調乳法を確認する

②事後学修課題：離乳の必要性和役割についてまとめる

【第9回】

①事前学修課題：前週の「離乳食の進め方」を復習する

②事後学修課題：市販の離乳食を観察し、発達段階による違いを確認する

ビデオの内容を表に書き加え、まとめる

【第10回】

①事前学修課題：乳児期の栄養上の問題点について実習で感じたことをまとめる

②事後学修課題：乳児期の食事における保育者としての対応を考える

【第11回】

①事前学修課題：幼児期の食生活について考える

②事後学修課題：幼児期の特徴と留意点についてまとめる

【第12回】

①事前学修課題：実習に行った際の、食物アレルギーを持った子どもへの対応を振り返る

実習に行った時の子どもたちの昼食時間を振り返る

②事後学修課題：食物アレルギーを持った子どもに対処する時の注意点をまとめる

幼児期の食生活に接する際の注意点をまとめる

【第13回】

①事前学修課題：子どものお弁当において大切なことは何かを調べる

実習中に見た給食の献立と調理の工夫を書き出してみる

②事後学修課題：子どもと大人のお弁当の違いをまとめてみる

保育所給食の時に注意すべきことをまとめる

【第14回】

①事前学修課題：今まで自分が受けてきた食育について思い出し、書き出してみる

②事後学修課題：子どもたちに食育を通して伝えたいことをまとめる

【第15回】

①事前学修課題：自分自身の間食について考える

実習に行った時の給食の献立、保育者の接し方を振り返る

②事後学修課題：子どもと大人の間食の違いをまとめる

児童福祉施設における食事や保育所での給食で、保育士として注意することをまとめる

子どもたちが楽しく食事ができるように、保育士としてどうあるべきかをまとめる

なお、各回授業において、事前事後学習は合わせて1時間必要とする

課題に対するフィードバックの方法

課題は点検後返却する。返却時のコメントを確認すること
評価については、希望者に開示することが可能

成績評価の方法・基準(方針)

正当な理由なく5回を超えて欠席した場合、評価の対象とせず「K」評価とする
提出物は期限厳守のこと。授業内に必須課題を提示するので提出すること。
以下に示す評価方法により総合的に評価し、60点以上を合格とし所定の単位を認定する

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業に取り組む姿勢(30) 発表・媒体作り(食事・食育など)(20) 前半の確認試験(20)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	30	30	1, 2, 3
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	テキストは使用しない 授業内容に応じ、プリントを配布する
------	---------------------------------

参考書	必要に応じて授業の中で紹介する
-----	-----------------

履修条件・他の科目との関連	保育士資格必修科目である 保育関連の他科目において子どもの心身の発達と関連づけて理解すること 授業内容に応じて資料を配布しているので、欠席した場合は次回授業に出席した際に自分から申し出て資料を受け取り自習すること
---------------	--

授業コード	22047401	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	子ども家庭支援論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	松木 宏史				
シラバス執筆(主)	松木 宏史				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

幼児教育・保育の現場では、しばしば子育てに関して悩みを抱える保護者に出会う。そうしたとき、支援の方法や制度の枠組みを知っておくことで余裕を持った対応ができる。加えて、子育て世帯の生活実態を知ることによって寄り添った支援が可能となる。また子育て世帯を継続的に支援するうえで、ソーシャルワークの知見から得るものも多い。これら現場に出ればすぐに直面する問題を理解しやすく授業を進めていく。

到達目標

1. 1年次開講科目「社会福祉」「子ども家庭福祉」での学びを踏まえ、保育の専門性を生かした家庭支援のあり方を考えることができる。
2. 子育て世帯の生活問題を理解し具体的に実態を説明できる。
3. 日本の子ども家庭支援・子育て支援政策について説明できる。
4. 各世帯の状況に合わせた支援のあり方を考えることができる。

授業計画

1. 子ども家庭支援とは
2. 現代社会と子育て世帯
3. 子ども家庭支援の実施体制
4. 子育て支援策・次世代育成施策
5. 保育者による子ども家庭支援
6. ソーシャルワークの視点に学ぶ (1) 保育士に求められる基本的態度
7. ソーシャルワークの視点に学ぶ (2) バイステックの7原則
8. ソーシャルワークの視点に学ぶ (3) 対人援助職の専門性
9. ソーシャルワークの視点に学ぶ (4) ソーシャルワークの過程
10. ソーシャルワークの視点に学ぶ (5) 子ども家庭支援に応用できる面接技法
11. ソーシャルワークの視点に学ぶ (6) 保護者へのかかわりのヒント
12. 関係機関との連携・協力
13. 世帯の状況に応じた支援 (1) 地域の子育て世帯
14. 世帯の状況に応じた支援 (2) 要保護児童とその世帯
15. 授業のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

この授業は予習を必須としない。しかし復習を重視する。授業内容を理解するために配布したプリントやテキストをしっかりと理解してほしい。そのために、テキストの授業該当箇所は必ず通読すること。復習の目安として各授業最低60分はかけること。また定期試験の準備にはさらに時間がかかることを想定しておくこと。全体として60時間以上の事後学習が必要となる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で何らかの課題提出を求める。課題はチェックのうえ返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すように、毎回の提出物と定期試験の合算で評価する。60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく累計6回以上を欠席した場合や同じく定期試験を欠席した場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	30	授業内のミニレポート	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	70	試験期間中にペーパーテストを行う	1, 2, 3, 4
定期試験に代わるレポート等	0		
その他	0		

テキスト	才村・芝野・新川編(2021)『子ども家庭支援・子育て支援入門』 ミネルヴァ書房 ISBN978-4-623-09222-2 価格2640円(税込)
参考書	授業中に紹介する
履修条件・他の科目との関連	万が一授業を欠席した場合は、GoogleClassroomから資料をダウンロードできる。テキストと合わせて自己学習すること。 なお、この科目は保育士資格取得のための必修科目である

授業コード	22047501	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	社会的養護Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	松木 宏史				
シラバス執筆(主)	松木 宏史				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

これまで「社会福祉」「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」で学んだ知識、「施設実習」で学んだ技術や子どもとのかかわり方そして現場での矛盾などを踏まえて、今後の社会的養護の在り方について、理論と事例を踏まえて演習していく。特に、一朝一夕には解決しない社会的養護の抱える諸問題を明らかにしていく。多くの学生が施設実習直後でもあり、現場での記憶が鮮やかに残っていることと思う。現場で感じた「よかった、楽しかった」という思いや「なぜこうなっているんだろう」というモヤモヤする思いを忘れずに授業に臨んでもらいた

到達目標

1. 児童福祉施設などを利用している子どもについて理解できる
2. 子どもの権利擁護について考えることができる。
3. 社会的養護の実際について理解できる
4. 既習の「社会福祉」「子ども家庭福祉」「社会的養護Ⅰ」といった講義、「施設実習」等の実体験と関連づけながらより具体的なイメージを育むことができる

授業計画

1. 開講にあたって 施設実習の振り返り
2. 社会的養護の現代的課題（社会的養護Ⅰの復習）
3. 社会的養護にかかわる保育士の責務
4. 施設入所に至るまでの支援（アドミッションケア）
5. 児童福祉施設における日常生活支援（インケア）
6. 障害児入所施設における日常生活支援（インケア）
7. 施設からの「自立」（リビングケアとアフターケア）
8. 基本的な生活習慣にかかわる援助（1）衣食住、身辺自立
9. 基本的な生活習慣にかかわる援助（2）余暇活動、子どもの自治
10. 子どもの学習や進路にかかわる援助
11. 対人関係・社会生活にかかわる援助
12. 家庭支援のためのソーシャルワーク
13. 里親委託児童の支援
14. 対応困難事例
15. 授業のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

この授業は予習を必要としない。しかし復習を重視する。授業内容を理解するために配布したプリントをしっかりと理解してほしい。復習の目安として各授業最低30分はかけること。また最終レポートの準備・作成にはさらに時間がかかることを想定しておくこと。全体として15時間以上の事後学習が必要となる。

課題に対するフィードバックの方法

提出された課題はチェックのうえ返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すように、毎回の提出物と最終レポートの合算で評価する。60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく累計6回以上を欠席した場合や同じく最終レポートを提出しない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内のミニレポートや演習シートへの記入(50)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	最終授業時にレポート課題を示す。	1, 2, 3, 4

その他	0		
テキスト	テキストは使用しない。別途資料等を提示する。		
参考書	授業中に紹介する		
履修条件・他の科目との関連	万が一授業を欠席した場合は、GoogleClassroomから資料をダウンロードできる。 保育士資格取得のための必修科目である		

授業コード	22047601	授業形態	講義	実務家教員	<input type="radio"/>
授業科目名	乳児保育 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	北村 麻樹				
シラバス執筆(主)	北村 麻樹				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

子どもの成長や生活を保障するための乳児保育の社会的役割について説明する。担当教員が保育現場に従事してきた経験をもとに、実務家教員として、3歳未満児の心身の発育・発達過程についての理解、環境との関わり、生活や遊びと保育の方法について、理論と実践への応用を関連付けながら講義を展開する。

到達目標

1. 乳児保育の現状と課題の理解を深め、乳児保育の意義と目的について説明できる。
2. 3歳未満児の発達や特徴について説明できる。
3. 3歳未満児の生活や遊びについて説明できる。
4. 保育者として子どもを理解し、育ちを援助する方法を考えることができる。

授業計画

この授業は対面授業です。

- 第1回 オリエンテーション 乳児保育とは？
- 第2回 乳児保育の制度と課題①（子ども・子育てをめぐる現状）
- 第3回 乳児保育の制度と課題②（乳児保育の変遷・保育制度）
- 第4回 乳児保育の基本
- 第5回 保育所保育指針のねらい及び内容・保育所保育指針に準拠した保育展開とは？
- 第6回 0歳児の発達と生活、体験と遊び（6か月未満児）
- 第7回 0歳児の発達と生活、体験と遊び（6か月以上1歳未満児）
- 第8回 1歳児の発達と生活、体験と遊び（1歳児前半）
- 第9回 1歳児の発達と生活、体験と遊び（1歳児後半）
- 第10回 2歳児の発達と生活
- 第11回 2歳児の体験と遊び
- 第12回 乳児保育現場の1日の流れ
- 第13回 乳児保育における保育教材の研究
- 第14回 保育教材の発表
- 第15回 総括 振り返りとまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後あわせて1単位あたり45時間が必要。

- 第1回
 - 事前学習課題：乳児について調べる
 - 事後学習課題：授業内容を振り返りまとめる
- 第2回
 - 事前学習課題：子ども・子育てをめぐる現状について調べる
 - 事後学習課題：子ども・子育てをめぐる課題についてまとめる
- 第3回
 - 事前学習課題：乳児保育の変遷・保育制度について調べる
 - 事後学習課題：乳児保育の保育制度の課題についてまとめる
- 第4回
 - 事前学習課題：乳児の基本的生活について調べる
 - 事後学習課題：乳児の基本についてまとめる
- 第5回
 - 事前学習課題：保育所保育指針のねらい及び内容を読む
 - 事後学習課題：保育所保育指針に準拠した保育展開についてまとめる
- 第6回
 - 事前学習課題：6か月未満児の発達と生活について調べる
 - 事後学習課題：6か月未満児の発達と生活、遊びについてまとめる
- 第7回
 - 事前学習課題：6か月以上1歳未満児の発達と生活について調べる
 - 事後学習課題：6か月以上1歳未満児発達と生活、遊びについてまとめる
- 第8回
 - 事前学習課題：1歳児前半の発達と生活について調べる
 - 事後学習課題：1歳児前半の発達と生活、遊びについてまとめる
- 第9回
 - 事前学習課題：1歳児後半の発達と生活について調べる

事後学習課題：1歳児後半の発達と生活、遊びについてまとめる

第10回

事前学習課題：2歳児の発達について調べる

事後学習課題：2歳児の発達と生活についてまとめる

第11回

事前学習課題：2歳児の体験と遊びについて調べる

事後学習課題：2歳児の体験と遊びについてまとめる

第12回

事前学習課題：乳児保育現場の1日について調べる

事後学習課題：乳児保育現場の1日の流れについてまとめる

第13回

事前学習課題：乳児保育現場で使われている保育教材について調べる

事後学習課題：乳児保育現場で使用できる保育教材を作成する

第14回

事前学習課題：保育教材を発表できるようまとめる

事後学習課題：発表した保育教材について反省課題をまとめる

第15回

事前学習課題：授業で学んだ内容を振り返る

事後学習課題：これまでの学びについてまとめる

課題に対するフィードバックの方法

課題のまとめの評価については、希望者に開示する。

授業の学びにおけるフィードバックは、次回の授業の初めに振り返り、学びを深める。

教材発表については、授業の中で評価・考察を含め学習を深める。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する

授業内小テストや課題レポート及び、毎回の授業意欲や提出物に対する総合評価とする。

正当な理由なく、欠席回数が授業の3分の1を超えた場合は、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業への取組、課題提出状況や課題内容を評価する (40) 授業内小テスト (20) 授業の内容から出題する	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	授業の内容から出題する (40)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	「乳児保育Ⅰ・Ⅱ 豊かな乳児保育をめざして」 編著者 久保田健一郎／土永葉子／韓仁愛 株式会社アイ・ケイコーポレーション 2023年9月30日 2500円(税別) ISBN978-4-87492-393-1
------	--

参考書	保育所保育指針解説 平成30年3月 厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省
-----	---

履修条件・他の科目との関連	乳児保育Ⅱへと繋がるため、乳児保育の理論をしっかりと理解しておくことが必要となる。
---------------	---

授業コード	22047701	授業形態	演習	実務家教員	<input type="radio"/>
授業科目名	乳児保育Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	北村 麻樹				
シラバス執筆(主)	北村 麻樹				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

乳児保育Ⅰで学んだ理論を基に、乳児の保育に関する実践力を身につけるために、演習を通して支援の方法を説明する。担当教員が保育現場に従事してきた経験をもとに、実務家教員として、3歳未満児への養護と教育の両視点から考える保育の計画や、子どもの生活場面での具体的な関わり方、職員とのチームワークや保護者との連携など、実践に役立つ授業展開を行う。

到達目標

1. おむつ替えや授乳等の保育技術の知識を身につけ実践に活かすことができる。
2. 3歳未満児の健康と衛生面に配慮した環境づくりを考えることができる。
3. 3歳未満児の保育の計画や必要性について説明できる。
4. 保育者間、保護者、多職種との連携を意識し、保育者としての役割を考えることができる。

授業計画

この授業は対面授業です。

- 第1回 乳児保育の養護と実際（調乳・授乳）
- 第2回 乳児保育の養護と実際（離乳食）
- 第3回 乳児保育の養護と実際（排泄・衛生）
- 第4回 乳児保育の養護と実際（着脱・睡眠）
- 第5回 乳児保育における人的環境
- 第6回 乳児保育における安心安全な保育環境
- 第7回 模擬保育計画
- 第8回 模擬保育発表
- 第9回 保育の計画①（短期指導計画）
- 第10回 保育の計画②（長期指導計画）
- 第11回 保育の記録（保育日誌等）
- 第12回 職員間の協働
- 第13回 保護者との連携
- 第14回 地域との連携
- 第15回 総括 振り返りとまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後あわせて1単位あたり45時間が必要。

- 第1回
 - 事前学習課題：乳児の調乳・授乳について調べる
 - 事後学習課題：乳児の調乳・授乳の実際についてまとめる
- 第2回
 - 事前学習課題：離乳食とは何かについて調べる
 - 事後学習課題：離乳食の必要性についてまとめる
- 第3回
 - 事前学習課題：紙おむつ、布おむつの違いについて調べる
 - 事後学習課題：乳児期の排泄や睡眠についてまとめる
- 第4回
 - 事前学習課題：乳児期に適した衣類について調べる
 - 事後学習課題：衣類の着脱や、乳児期の睡眠についてまとめる
- 第5回
 - 事前学習課題：乳児期に関わる人について調べる
 - 事後学習課題：乳児期の人との関わりについてまとめる
- 第6回
 - 事前学習課題：乳児期の子どもの環境について調べる
 - 事後学習課題：乳児期の子どもに適した保育環境についてまとめる
- 第7回
 - 事前学習課題：模擬保育について考える
 - 事後学習課題：模擬保育の指導案作成を行う
- 第8回
 - 事前学習課題：模擬保育の準備を行う
 - 事後学習課題：模擬保育の反省・課題をまとめる
- 第9回

事前学習課題：デイリープログラムとは何か調べる
 事後学習課題：短期指導計画の必要性についてまとめる
 第10回
 事前学習課題：年間カリキュラム、月間カリキュラムについて調べる
 事後学習課題：長期指導計画の必要性についてまとめる
 第11回
 事前学習課題：保育記録の必要性について調べる
 事後学習課題：保育の記録の重要性についてまとめる
 第12回
 事前学習課題：保育者間の連携について調べる
 事後学習課題：保育者間の連携の重要性についてまとめる
 第13回
 事前学習課題：保護者との連携の必要性について調べる
 事後学習課題：保護者との連携の重要性についてまとめる
 第14回
 事前学習課題：地域との連携の必要性について調べる
 事後学習課題：地域との連携の重要性についてまとめる
 第15回
 事前学習課題：授業で学んだ内容を振り返る
 事後学習課題：これまでの学びについてまとめる

課題に対するフィードバックの方法

課題のまとめの評価については、希望者に開示する。
 授業の学びにおけるフィードバックは、次回の授業の初めに振り返り、学びを深める。
 模擬保育については、授業の中で評価・考察を含め学習を深める。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する

毎回の授業意欲（態度と課題内容）、課題レポート、授業内小テストに対する総合評価とする。
 正当な理由なく、欠席回数が授業の3分の1を超えた場合は、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業への取組や態度、授業時の提出物の内容、模擬保育に向けた準備や発表、模擬保育指導案 (50) 授業内小テスト (20) 授業の内容から出題する	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	授業の内容から出題する (30)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	「乳児保育Ⅰ・Ⅱ 豊かな乳児保育をめざして」 編著者 久保田健一郎／土永葉子／韓仁愛 株式会社アイ・ケイコーポレーション 2023年9月30日 2500円(税別) ISBN978-4-87492-393-1
参考書	保育所保育指針解説 平成30年3月 厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省
履修条件・他の科目との関連	乳児保育Ⅰで学んだ理論を基に、実践的な体験を通して技術を高めていくため、乳児保育Ⅰの復習が必要である。

授業コード	22047703	授業形態	演習	実務家教員	<input type="radio"/>
授業科目名	乳児保育Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	北村 麻樹、小井手 瑞代、幸元 裕				
シラバス執筆(主)	北村 麻樹				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

乳児保育Ⅰで学んだ理論を基に、乳児の保育に関する実践力を身につけるために、演習を通して支援の方法を説明する。担当教員が保育現場に従事してきた経験をもとに、実務家教員として、3歳未満児への養護と教育の両視点から考える保育の計画や、子どもの生活場面での具体的な関わり方、職員とのチームワークや保護者との連携など、実践に役立つ授業展開を行う。

到達目標

1. おむつ替えや授乳等の保育技術の知識を身につけ実践に活かすことができる。
2. 3歳未満児の健康と衛生面に配慮した環境づくりを考えることができる。
3. 3歳未満児の保育の計画や必要性について説明できる。
4. 保育者間、保護者、多職種との連携を意識し、保育者としての役割を考えることができる。

授業計画

この授業は対面授業です。

- 第1回 乳児保育の養護と実際（調乳・授乳）
- 第2回 乳児保育の養護と実際（離乳食）
- 第3回 乳児保育の養護と実際（排泄・衛生）
- 第4回 乳児保育の養護と実際（着脱・睡眠）
- 第5回 乳児保育における人的環境
- 第6回 乳児保育における安心安全な保育環境
- 第7回 模擬保育計画
- 第8回 模擬保育発表
- 第9回 保育の計画①（短期指導計画）
- 第10回 保育の計画②（長期指導計画）
- 第11回 保育の記録（保育日誌等）
- 第12回 職員間の協働
- 第13回 保護者との連携
- 第14回 地域との連携
- 第15回 総括 振り返りとまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後あわせて1単位あたり45時間が必要。

- 第1回
事前学習課題：乳児の調乳・授乳について調べる
事後学習課題：乳児の調乳・授乳の実際についてまとめる
- 第2回
事前学習課題：離乳食とは何かについて調べる
事後学習課題：離乳食の必要性についてまとめる
- 第3回
事前学習課題：紙おむつ、布おむつの違いについて調べる
事後学習課題：乳児期の排泄や睡眠についてまとめる
- 第4回
事前学習課題：乳児期に適した衣類について調べる
事後学習課題：衣類の着脱や、乳児期の睡眠についてまとめる
- 第5回
事前学習課題：乳児期に関わる人について調べる
事後学習課題：乳児期の人との関わりについてまとめる
- 第6回
事前学習課題：乳児期の子どもの環境について調べる
事後学習課題：乳児期の子どもに適した保育環境についてまとめる
- 第7回
事前学習課題：模擬保育について考える
事後学習課題：模擬保育の指導案作成を行う
- 第8回
事前学習課題：模擬保育の準備を行う
事後学習課題：模擬保育の反省・課題をまとめる
- 第9回

事前学習課題：デイリープログラムとは何か調べる
 事後学習課題：短期指導計画の必要性についてまとめる
 第10回
 事前学習課題：年間カリキュラム、月間カリキュラムについて調べる
 事後学習課題：長期指導計画の必要性についてまとめる
 第11回
 事前学習課題：保育記録の必要性について調べる
 事後学習課題：保育の記録の重要性についてまとめる
 第12回
 事前学習課題：保育者間の連携について調べる
 事後学習課題：保育者間の連携の重要性についてまとめる
 第13回
 事前学習課題：保護者との連携の必要性について調べる
 事後学習課題：保護者との連携の重要性についてまとめる
 第14回
 事前学習課題：地域との連携の必要性について調べる
 事後学習課題：地域との連携の重要性についてまとめる
 第15回
 事前学習課題：授業で学んだ内容を振り返る
 事後学習課題：これまでの学びについてまとめる

課題に対するフィードバックの方法

課題のまとめの評価については、希望者に開示する。
 授業の学びにおけるフィードバックは、次回の授業の初めに振り返り、学びを深める。
 模擬保育については、授業の中で評価・考察を含め学習を深める。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する

毎回の授業意欲（態度と課題内容）、課題レポート、授業内小テストに対する総合評価とする。
 正当な理由なく、欠席回数が授業の3分の1を超えた場合は、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	授業への取組や態度、授業時の提出物の内容、模擬保育に向けた準備や発表、模擬保育指導案 (50) 授業内小テスト (20) 授業の内容から出題する	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	授業の内容から出題する (30)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	「乳児保育Ⅰ・Ⅱ 豊かな乳児保育をめざして」 編著者 久保田健一郎／土永葉子／韓仁愛 株式会社アイ・ケイコーポレーション 2023年9月30日 2500円(税別) ISBN978-4-87492-393-1
参考書	保育所保育指針解説 平成30年3月 厚生労働省 幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説 平成30年3月 内閣府・文部科学省・厚生労働省
履修条件・他の科目との関連	乳児保育Ⅰで学んだ理論を基に、実践的な体験を通して技術を高めていくため、乳児保育Ⅰの復習が必要である。

授業コード	22047801	授業形態	演習	実務家教員	—
授業科目名	子育て支援演習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	松木 宏史				
シラバス執筆(主)	松木 宏史				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

前期に学んだ「子ども家庭支援論」の現場編・実践編である。保育の専門性を踏まえた保護者に対する相談援助・助言・情報提供などの支援について具体的に学ぶ。そして保育士が行うべき「子育て支援」の様々な生活問題・課題に対応した支援内容や方法及び技術を学ぶ。

到達目標

1. 子育て支援の目的や意義を理解し説明できる
2. 子どもや保護者の「暮らし」について具体的に説明できる
3. 子育て支援の具体的な方法・技術について理解し実践できる
4. 世帯の特性に応じた子育て支援について自分なりの意見を持つことができる

授業計画

1. 日常の保育のなかの保護者支援
2. 保護者との相互理解と信頼関係の形成
3. 保護者が直面する困りごとへの気づきと理解
4. 子どもや保護者の交流の場の提供
5. 子どもや保護者に関する情報の把握
6. 支援の計画と環境の構成
7. 支援の実施・記録・評価・カンファレンス
8. 職員・他機関・多職種との連携
9. 保育所での子育て支援の実際
10. 地域の子育て家庭への支援
11. 障害児とその保護者への支援
12. 特別な配慮を要する子どもとその保護者への支援
13. 子ども虐待の予防と対応
14. 多様なニーズを抱える子育て世帯の理解
15. 授業のまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

この授業は予習を必須としない。しかし復習を重視する。授業内容を理解するために配布したプリントやテキストをしっかりと理解してほしい。そのために、テキストの授業該当箇所は必ず通読すること。復習の目安として各授業最低30分はかけること。また最終レポートの準備・作成にはさらに時間がかかることを想定しておくこと。全体として15時間以上の事後学習が必要となる。

課題に対するフィードバックの方法

毎回の授業で何らかの課題提出を求める。課題はチェックのうえ返却する。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示すように、毎回の提出物と最終レポートの合算で評価する。60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。正当な理由なく累計6回以上を欠席した場合や同じく最終レポートを提出しない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	50	授業内のミニレポートや演習シート等(50)	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	50	最終授業でレポートテーマを提示する	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト	立花・安田監修(2022)『子どもと保護者に寄り添う「子育て支援」』(晃洋書房) 2200円 ISBN 9784771036055
参考書	才村・芝野・新川(2021)『子ども家庭支援・子育て支援入門』(ミネルヴァ書房):前期「子ども家庭支援論」で購入済み
履修条件・他の科目との関連	万が一授業を欠席した場合は、GoogleClassroomから資料をダウンロードできる。テキストと合わせて自己学習すること。 保育士資格取得のための必修科目である

授業コード	22022601	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	保育実習 I [対面]				
シラバス執筆(全員)	久保田 健一郎				
シラバス執筆(主)	久保田 健一郎				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	4単位

授業の目的・概要

保育実習Iは、すでに修得した教科の知識・技術を基礎として、これらを総合的に実践する能力を養うためのものであり、子どもに対する理解を通して保育の理論と実践の関係について修得するために行うものである。そのために実習を保育所において2週間(80時間以上)、その他の児童福祉施設において2週間(80時間以上)実施する。

到達目標

1. 保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深め、保育実践に応用することができる。
2. 保育所の機能とそこでの保育士の職務について説明することができる。
3. 児童福祉施設の生活に参加し、児童への理解を深め、保育実践に応用することができる。
4. 児童福祉施設の機能とそこでの保育士の職務について説明することができる。
5. 習得した教科の知識・技術を生かして実践に取り組むことができる。
6. 自身の課題を認識し、改善に取り組むことができる。
7. マナーを守り、意欲・責任感、協調性等をもって実習に取り組むことができる。

授業計画

1年次後期(保育所実習は11月、施設実習は2月～3月)に実施する。保育実習においては観察実習・参加実習・責任実習を通して、まずは、保育の一日の流れ・児童の集団的個人的行動・施設の人的物的環境・保育士の職務内容などを理解する。次に、職員の指導に基づく保育・養護の補助的・部分的参加により保育・養護技術を修得し、指導計画の立案・実践を実際に経験する。以上の内容を経て、保育士の役割を総合的に理解し、保育士となるために必要となる今後の課題を各自明らかにする。
 なお、保育実習を実施するに当たっては、保育実習指導Iを履修すると同時に、実習説明会・巡回教員との打合せに参加し事前準備の万全をはかることが必要である。
 また、保育実習には様々な事務手続が必要になるので教学・教職センターとの連絡を密にとって保育実習の実施がスムーズに行われるようにしなければならない。

事前事後の学習

実習時間外で、計20時間の事前事後学習が必要です。

実習科目のため本授業の単位には含まれないが、他資格関係科目で学習する必要がある。

課題に対するフィードバックの方法

巡回教員が指導を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	30	事務手続の実施状況(提出物の期限が守られていることなど)	6, 7
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	実習記録の内容(保育所20%、施設20%)	1, 2, 3, 4, 5
その他	30	実習先からの評価(保育所15%、施設15%)	1, 2, 3, 4, 5, 6, 7

テキスト 実習のため、テキストは使用しない。

参考書 保育所保育指針、保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

履修条件・他の科目との関連 保育実習指導Iを履修すること
 やむを得ない理由以外で欠席することは認められない。所定の手続きを経た上で欠席したものにつ

授業コード	22037101	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	保育実習指導Ⅰ [対面]				
シラバス執筆(全員)	北村 麻樹				
シラバス執筆(主)	北村 麻樹				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

保育実習（保育所および保育所以外の児童福祉施設）の意義・目的を理解する。担当教員が保育現場に従事してきた経験をもとに実務家教員として、子どもの発達過程に対する知識や一人一人に応じた関わり方を習得し自己の課題を明確化できるような授業展開を行う。
また実習を円滑に進められるようにビデオ視聴、事例検討等、様々な形態で理論を実践へ応用できるようにする。

到達目標

1. 保育所や施設の保育についての理解と子ども理解を学び、これらと関連付けながら、保育士の職務について説明することができる。
2. 具体的な指導案や記録の書き方を学び、実習に向けた実践力と意欲を高め、事前に計画を立て、準備することができる。
3. 実習後は自己の課題を明確にし、改善を図ることができる。

授業計画

この授業は対面授業です。

- | | |
|------|--|
| 第1回 | 保育実習Ⅰ（保育所）に向けて実習の意義・目的及び実習の内容理解と自己課題の明確化 |
| 第2回 | 保育所の役割と機能 保育所実習の一日の流れと留意点 |
| 第3回 | 子どもとの関わり 子どもの発達 保育所保育指針から |
| 第4回 | 実習記録の書き方① 実習における観察、記録及び評価 |
| 第5回 | 実習記録の書き方② 記録に基づく省察、子ども理解 |
| 第6回 | 実習指導案について 指導計画作成及び援助方法 |
| 第7回 | 子どもの人権と最善の利益への考慮、実習生としての心構え |
| 第8回 | 保育実習Ⅰ（保育所）の振り返り 学びの共有 自己評価 |
| 第9回 | 保育実習Ⅰ（施設）に向けて 実習の意義・目的及び実習の内容理解 |
| 第10回 | 児童福祉施設の類型と各施設の特徴について |
| 第11回 | 実習施設と保育士の理解①
児童養護施設や乳児院の生活と一日の流れ、役割と機能及び援助のあり方や配慮すべき事項についての理解 |
| 第12回 | 実習施設と保育士の理解②
障害児入所施設や障害者施設、児童発達支援センターの役割、あり方、配慮すべき事項について |
| 第13回 | 実習施設と保育士の理解③
児童心理治療施設や母子生活支援施設の役割と機能について |
| 第14回 | 個々の状態に応じた援助やかかわり、支援計画の実際についての理解
施設でのオリエンテーションに向けて 実習記録の書き方 記録に基づく省察・自己評価についての理解 |
| 第15回 | 保育士の業務内容や職業倫理、職員間の役割分担や連携についての理解
実習に際しての留意事項の再確認 |

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

毎回の授業内容について、事前に予告した内容についてテキストを読み、授業後は内容を復習し、フィードバックされた課題について振り返りを行う。
授業1回につき、事前・事後学習4時間を要する。

課題に対するフィードバックの方法

課題・レポートを授業で返却し説明等を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

毎回の授業で提示するレポートや課題内容と定期試験に代わるレポートの内容を総合評価する。
幼児保育学科の規定に基づき、保育所での実習までの授業回数及び保育実習後から施設での実習までの授業回数に対して、それぞれ5分の4以上の出席がなければ、それぞれの実習には参加できません。
また正当な理由なく、欠席回数が授業の3分の1を超えた場合は、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
---------	----------	---------	-------------

授業内での評価	70	実践課題やワークシート等の記入内容、小テストまたはレポート課題(70)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	授業内で行った内容に関するレポート(30)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト	「実習の手引き」大阪国際大学短期大学部幼児保育学科 適宜必要な資料をGoogleClassroomに載せる。		
参考書	はじめて学ぶ保育10 保育所・幼稚園・幼保連携型認定こども園実習 亀山秀郎〔編著〕ミネル ヴァ書房 2200円＋税 978-4-623-07971-1 必要に応じて授業中に紹介する。		
履修条件・他の科目との関連	本科目は保育実習の一部です。通常の講義とは異なりますので「幼児保育学科学生必携」を熟読し、科目特性や単位の認定基準を理解した上で受講すること。 幼児保育学科の規定に基づき、保育所での実習までの授業回数及び保育実習後から施設での実習までの授業回数に対して、それぞれ5分の4以上の出席がなければ、それぞれの実習には参加できません。		

授業コード	22022701	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	保育実習Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	久保田 健一郎				
シラバス執筆(主)	久保田 健一郎				
開講年次	カリキュラムによる	開講期	後期	単位数	2単位

授業の目的・概要

保育実習Ⅱはすでに実施した保育実習Ⅰを継続し、保育に関する知識・技能の一層の深化をはかるためのものであり、こどもに対する理解を通して保育の理論と実践の関係について修得することを目的とする。そのために実習を保育所において実質10日間（合計80時間以上）実施する。

到達目標

1. 保育所の生活に参加し、乳幼児への理解を深め、保育実践に応用することができる。
2. 保育所の機能とそこでの保育士の職務について説明することができる。
3. 習得した教科の知識・技術を生かして実践に取り組むことができる。
4. 自身の課題を認識し、改善に取り組むことができる。
5. マナーを守り、意欲・責任感、協調性等をもって実習に取り組むことができる。

以上の内容を保育実習Ⅰからより深化させること

授業計画

2年次後期11月に実施する。実習においては観察実習・参加実習・指導実習の内、参加・責任実習に重点を移し、保育の一日の流れ・児童の集団的個人的行動・施設の人的物的環境・保育士の職務内容などを理解する。職員の指導に基づく保育・養護の補助的・部分的参加により保育・養護技術を修得し、指導計画の立案・実践を実際に経験する。以上の内容を踏まえて、保育士の役割を総合的に理解し、保育士となるために必要となる今後の課題を各自一層明確にする。

なお、保育実習を実施するに当たっては、保育実習指導Ⅱを履修すると同時に、実習説明会・巡回指導教員との打合会に参加し事前準備の万全をはかる必要がある。

また、保育実習には様々な事務手続が必要になるので教学・教職センターとの連絡を密にとって保育実習の実施がスムーズに行われるようにしなければならない。

事前事後の学習

実習時間外で、計10時間の事前事後学習が必要です。

実習科目のため本授業の単位には含まれないが、他資格関係科目で学習する必要がある。

課題に対するフィードバックの方法

巡回教員が指導を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	0		
授業外での評価	30	事務手続の実施状況(提出物の期限が守られていることなど)	4, 5
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	実習記録の内容	1, 2, 3
その他	30	実習先からの評価	1, 2, 3, 4, 5

テキスト 実習のため、テキストは使用しない。

参考書 保育所保育指針、保育所保育指針解説書、幼保連携型認定こども園教育・保育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

履修条件・他の科目との関連 保育実習指導Ⅱを履修すること
やむを得ない理由以外で欠席することは認められない。所定の手続きを経た上で欠席したものについては追加実習を行う。

授業コード	22037201	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	保育実習指導Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	北村 麻樹				
シラバス執筆(主)	北村 麻樹				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

保育実習Ⅱを円滑に進めていくための知識や技術を習得し、学習内容及び課題を明確化するとともに実習体験を深化させる。担当教員が保育現場に従事してきた経験をもとに実務家教員として、保育者としての専門性と職業論理、子どもの最善の利益の具体化について理解を深められるよう授業を展開する。
また、実習や教科学習をつなげ、総合的に実践する応用能力を養えるようビデオ視聴、事例検討等、様々な形態で授業を行う。

到達目標

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育を総合的に実行できる。
2. 実習の既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を向上することができる。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通じて説明できる。
4. 保育士の専門性と職業論理について理解し、保育に対する課題や認識を明確にする。

授業計画

8回授業終了後に、定期試験に代わるレポート等として期末レポートを課します。

- 第1回 保育実習Ⅱのオリエンテーションと実習課題の明確化
- 第2回 子どもの最善の利益を考慮した保育の理解
- 第3回 子どもの保育と保育環境の理解、環境を通しての保育について
- 第4回 保育者の専門性と役割理解
- 第5回 保育実践力の育成① 実習の指導計画作成及び援助方法
- 第6回 保育実践力の育成② 責任実習の指導計画作成及び援助方法
- 第7回 保育計画と実践・記録・自己評価 計画や実践におけるPDCAサイクルの重要性
- 第8回 実習の総括と自己評価 実習を終えて自己課題の明確化と改善への取り組み

事前事後の学習

授業と事前事後を含めて、計45時間の学修が必要です。

毎回の授業内容について、事前に予告した内容についてテキストを読み、授業後は内容を復習し、フィードバックされた課題について振り返りを行う。

課題に対するフィードバックの方法

課題、レポートを授業で返却し説明等を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

毎回の授業で提示するレポートや課題内容とすべての授業後に実施する期末レポートの内容を総合評価する。幼児保育学科の規定に基づき、保育所実習前の「保育実習指導Ⅱ」について5分の4以上の出席がなければ、実習には参加できず、「K」(評価不能)となります。これは実習前の授業だけでなく、授業後の振り返りの授業も含んでいます。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	実践課題やワークシート等の記入内容、小テストまたは課題レポート(70)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	期末レポート(30)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト 「実習の手引き」大阪国際大学短期大学部幼児保育学科
適宜必要な資料をGoogleClassroomに載せる。

参考書 必要に応じて授業中に紹介する。

履修条件・他の科目との関連

本科目は保育実習の一部です。通常の講義とは異なりますので「幼児保育学科学生必携」を熟読し、科目特性や単位の認定基準を理解した上で受講すること。
幼児保育学科の規定に基づき、保育所実習前の「保育実習指導Ⅱ」を5分の4以上出席していない場合には、実習には参加できません。

授業コード	22037202	授業形態	演習	実務家教員	○
授業科目名	保育実習指導Ⅱ [対面]				
シラバス執筆(全員)	吉田 貴子				
シラバス執筆(主)	吉田 貴子				
開講年次	2年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

保育実習Ⅱを円滑に進めていくための知識や技術を習得し、学習内容及び課題を明確化するとともに実習体験を深化させる。担当教員が保育現場に従事してきた経験をもとに実務家教員として、保育者としての専門性と職業論理、子どもの最善の利益の具体化について理解を深められるよう授業を展開する。
また、実習や教科学習をつなげ、総合的に実践する応用能力を養えるようビデオ視聴、事例検討等、様々な形態で授業を行う。

到達目標

1. 保育実習の意義と目的を理解し、保育を総合的に実行できる。
2. 実習の既習の教科の内容やその関連性を踏まえ、保育実践力を向上することができる。
3. 保育の観察、記録及び自己評価等を踏まえた保育の改善について実践や事例を通じて説明できる。
4. 保育士の専門性と職業倫理について理解し、保育に対する課題や認識を明確にする。

授業計画

8回授業終了後に、定期試験に代わるレポート等として期末レポートを課します。

- 第1回 保育実習Ⅱのオリエンテーションと実習課題の明確化
- 第2回 子どもの最善の利益を考慮した保育の理解
- 第3回 子どもの保育と保育環境の理解、環境を通しての保育について
- 第4回 保育者の専門性と役割理解
- 第5回 保育実践力の育成① 実習の指導計画作成及び援助方法
- 第6回 保育実践力の育成② 責任実習の指導計画作成及び援助方法
- 第7回 保育計画と実践・記録・自己評価 計画や実践におけるPDCAサイクルの重要性
- 第8回 実習の総括と自己評価 実習を終えて自己課題の明確化と改善への取り組み

事前事後の学習

授業と事前事後を含めて、計45時間の学修が必要です。

毎回の授業内容について、事前に予告した内容についてテキストを読み、授業後は内容を復習し、フィードバックされた課題について振り返りを行う。

課題に対するフィードバックの方法

課題、レポートを授業で返却し説明等を行う。

成績評価の方法・基準(方針)

毎回の授業で提示するレポートや課題内容とすべての授業後に実施する期末レポートの内容を総合評価する。幼児保育学科の規定に基づき、保育所実習前の「保育実習指導Ⅱ」について5分の4以上の出席がなければ、実習には参加できず、「K」(評価不能)となります。これは実習前の授業だけでなく、授業後の振り返りの授業も含んでいます。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	70	実践課題やワークシート等の記入内容、小テストまたは課題レポート(70)	1, 2, 3, 4
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	30	期末レポート(30)	1, 2, 3, 4
その他	0		

テキスト 「実習の手引き」大阪国際大学短期大学部幼児保育学科
適宜必要な資料をGoogleClassroomに載せる。

参考書 必要に応じて授業中に紹介する。

履修条件・他の科目との関連

本科目は保育実習の一部です。通常の講義とは異なりますので「幼児保育学科学生必携」を熟読し、科目特性や単位の認定基準を理解した上で受講すること。
幼児保育学科の規定に基づき、保育所実習前の「保育実習指導Ⅱ」を5分の4以上出席していない場合には、実習には参加できません。

授業コード	22037301	授業形態	演習	実務家教員	<input type="radio"/>
授業科目名	保育内容総論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	中村 洋美				
シラバス執筆(主)	中村 洋美				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

保育内容を実践に即して総合的にとらえる視点が持てるように、保育全体の構造を説明する。担当教員が保育現場に従事してきた経験をもとに、実務家教員として将来、現場に求められる態度、資質の育成を目指す。

到達目標

1. 保育所・幼稚園・こども園の実際を知り、乳幼児の発達と生活の基本を説明できる。
2. 子どもの主体的な活動を促す環境設定や遊びを通しての総合的な保育内容を具体化することができる。
3. 保育の多様な展開について具体的に説明できる。

授業計画

第1回	オリエンテーション 「幼稚園」「保育所」「認定こども園」について
第2回	保育の基本と保育内容の理解
第3回	子どもの発達と理解
第4回	5領域と保育内容
第5回	保育内容の歴史の変遷
第6回	環境を通して行う保育①子どもを取り巻く「環境」とは
第7回	環境を通して行う保育②環境を通して行う保育の具体的な展開
第8回	生活や遊びを通して行う保育①乳幼児期にふさわしい生活
第9回	生活や遊びを通して行う保育②生活や遊びのなかの学び
第10回	保育内容を実践するための保育の計画と評価
第11回	0～2歳児の発達と保育内容
第12回	3～5歳児の発達と保育内容
第13回	子育て支援と保育内容
第14回	小学校との連携と保育内容
第15回	保育内容の課題と展望 振り返りとまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後学習を合わせて1単位あたり45時間が必要であるため、授業ごとに合計1時間の事前事後学習が必要となります。

第1回	事前学習課題：幼稚園、保育所、認定こども園の違いについて調べる 事後学習課題：授業内容を振り返りまとめる
第2回	事前学習課題：子どもの最善の利益について考える（保育所保育指針を参考に） 事後学習課題：保育の基本と保育内容の理解についてまとめる
第3回	事前学習課題：幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）について調べる 事後学習課題：子どもの発達と理解についてまとめる
第4回	事前学習課題：幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示された「領域」の考えたかについて調べる 事後学習課題：5領域と保育内容についてまとめる
第5回	事前学習課題：戦後の保育内容について調べる 事後学習課題：保育内容の歴史の変遷についてまとめる
第6回	事前学習課題：保育における「環境」について調べる 事後学習課題：子どもを取り巻く「環境」についてまとめる
第7回	事前学習課題：人的環境について調べる 事後学習課題：環境を通して行う保育の具体的な展開についてまとめる
第8回	事前学習課題：乳幼児を取り巻く生活環境について調べる 事後学習課題：乳幼児期にふさわしい生活についてまとめる
第9回	事前学習課題：乳幼児期の遊びについて調べる 事後学習課題：生活や遊びのなかの学びについてまとめる
第10回	事前学習課題：教育課程と全体的な計画とはなにか調べる 事後学習課題：保育内容を実践するための保育の計画と評価についてまとめる

- 第11回
事前学習課題：0～2歳児の発達の特徴を調べる
事後学習課題：0～2歳児の発達と保育内容についてまとめる
- 第12回
事前学習課題：3～5歳児の発達の特徴を調べる
事後学習課題：3～5歳児の発達と保育内容についてまとめる
- 第13回
事前学習課題：保護者に対する基本的態度について調べる
事後学習課題：子育て支援と保育内容についてまとめる
- 第14回
事前学習課題：幼児期の教育と小学校教育の違いについて調べる
事後学習課題：小学校との連携と保育内容についてまとめる
- 第15回
事前学習課題：幼児保育の重要性について調べ考える
事後学習課題：保育内容の課題と展望についてまとめる

課題に対するフィードバックの方法

課題のまとめの評価については、希望者に開示する。
授業の学びにおけるフィードバックは、次回の授業の初めに振り返り、学びを深める。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、単位を認定する。

毎回の授業意欲（態度と課題内容）、課題レポート、授業内小テストに対する総合評価とする。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業への取り組み、課題提出状況や課題内容を評価する(40) 授業内小テスト(20) 授業内容から出題する	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	授業内容から出題する(40)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト
テキストを使用しない。
適宜必要な資料をGoogleClassroomに載せる。

参考書
必要に応じて授業の中で紹介する

履修条件・他の科目との関連
・子どもに関わる新聞記事などに関心を持ち、読んでおくこと
・日常生活生活の中で、子どもや親子連れ等の観察をしておくこと
・子どもの成長と発達について、乳幼児保育に関する授業(科目)内容と関連付けて講義に臨むこと

授業コード	22037302	授業形態	演習	実務家教員	<input type="radio"/>
授業科目名	保育内容総論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	北村 麻樹				
シラバス執筆(主)	北村 麻樹				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

保育内容を実践に即して総合的にとらえる視点が持てるように、保育全体の構造を説明する。担当教員が保育現場に従事してきた経験をもとに、実務家教員として将来、現場に求められる態度、資質の育成を目指す。

到達目標

1. 保育所・幼稚園・こども園の実際を知り、乳幼児の発達と生活の基本を説明できる。
2. 子どもの主体的な活動を促す環境設定や遊びを通しての総合的な保育内容を具体化することができる。
3. 保育の多様な展開について具体的に説明できる。

授業計画

第1回	オリエンテーション 「幼稚園」「保育所」「認定こども園」について
第2回	保育の基本と保育内容の理解
第3回	子どもの発達と理解
第4回	5領域と保育内容
第5回	保育内容の歴史の変遷
第6回	環境を通して行う保育①子どもを取り巻く「環境」とは
第7回	環境を通して行う保育②環境を通して行う保育の具体的な展開
第8回	生活や遊びを通して行う保育①乳幼児期にふさわしい生活
第9回	生活や遊びを通して行う保育②生活や遊びのなかの学び
第10回	保育内容を実践するための保育の計画と評価
第11回	0～2歳児の発達と保育内容
第12回	3～5歳児の発達と保育内容
第13回	子育て支援と保育内容
第14回	小学校との連携と保育内容
第15回	保育内容の課題と展望 振り返りとまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後学習を合わせて1単位あたり45時間が必要であるため、授業ごとに合計1時間の事前事後学習が必要となります。

第1回	事前学習課題：幼稚園、保育所、認定こども園の違いについて調べる 事後学習課題：授業内容を振り返りまとめる
第2回	事前学習課題：子どもの最善の利益について考える（保育所保育指針を参考に） 事後学習課題：保育の基本と保育内容の理解についてまとめる
第3回	事前学習課題：幼児期の終わりまでに育ててほしい姿（10の姿）について調べる 事後学習課題：子どもの発達と理解についてまとめる
第4回	事前学習課題：幼稚園教育要領や保育所保育指針等に示された「領域」の考えたかについて調べる 事後学習課題：5領域と保育内容についてまとめる
第5回	事前学習課題：戦後の保育内容について調べる 事後学習課題：保育内容の歴史の変遷についてまとめる
第6回	事前学習課題：保育における「環境」について調べる 事後学習課題：子どもを取り巻く「環境」についてまとめる
第7回	事前学習課題：人的環境について調べる 事後学習課題：環境を通して行う保育の具体的な展開についてまとめる
第8回	事前学習課題：乳幼児を取り巻く生活環境について調べる 事後学習課題：乳幼児期にふさわしい生活についてまとめる
第9回	事前学習課題：乳幼児期の遊びについて調べる 事後学習課題：生活や遊びのなかの学びについてまとめる
第10回	事前学習課題：教育課程と全体的な計画とはなにか調べる 事後学習課題：保育内容を実践するための保育の計画と評価についてまとめる

- 第11回
事前学習課題：0～2歳児の発達の特徴を調べる
事後学習課題：0～2歳児の発達と保育内容についてまとめる
- 第12回
事前学習課題：3～5歳児の発達の特徴を調べる
事後学習課題：3～5歳児の発達と保育内容についてまとめる
- 第13回
事前学習課題：保護者に対する基本的態度について調べる
事後学習課題：子育て支援と保育内容についてまとめる
- 第14回
事前学習課題：幼児期の教育と小学校教育の違いについて調べる
事後学習課題：小学校との連携と保育内容についてまとめる
- 第15回
事前学習課題：幼児保育の重要性について調べ考える
事後学習課題：保育内容の課題と展望についてまとめる

課題に対するフィードバックの方法

課題のまとめの評価については、希望者に開示する。
授業の学びにおけるフィードバックは、次回の授業の初めに振り返り、学びを深める。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により、総合的に判定の上、60点以上を合格とし、単位を認定する。

毎回の授業意欲（態度と課題内容）、課題レポート、授業内小テストに対する総合評価とする。
正当な理由なく6回以上欠席した場合は、評価の対象とせず、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業への取り組み、課題提出状況や課題内容を評価する(40) 授業内小テスト(20) 授業内容から出題する	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	授業内容から出題する(40)	1, 2, 3
その他	0		

テキスト
テキストを使用しない。
適宜必要な資料をGoogleClassroomに載せる。

参考書
必要に応じて授業の中で紹介する

履修条件・他の科目との関連
・子どもに関わる新聞記事などに関心を持ち、読んでおくこと
・日常生活生活の中で、子どもや親子連れ等の観察をしておくこと
・子どもの成長と発達について、乳幼児保育に関する授業(科目)内容と関連付けて講義に臨むこと

授業コード	22007101	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	レクリエーション理論 [対面]				
シラバス執筆(全員)	玉井 久実代				
シラバス執筆(主)	玉井 久実代				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

現代社会におけるレクリエーションの意義や価値の多様性を学習するとともに、保育現場を中心としたレクリエーションプログラムの企画等を実施し、レクリエーション支援者や保育者に求められるレクリエーションの基礎的な考え方や技術を説明する。

到達目標

1. レクリエーション活動を安全に楽しむための基礎的な知識を説明できる。
2. レクリエーションの支援者に必要な知識を説明できる。
3. レクリエーションに関する知識を支援に活かすことができる。

授業計画

- 【第1回】 オリエンテーション
- 【第2回】 レクリエーションの基本的理解1：レクリエーションにおける語句の整理
- 【第3回】 レクリエーションの基本的理解2：子どもとレクリエーション
- 【第4回】 レクリエーションの基本的理解3：レクリエーション支援とは
- 【第5回】 楽しさと心の元気づくりの理論1：レクリエーションの楽しさ
- 【第6回】 楽しさと心の元気づくりの理論2：楽しさを通じた心の元気づくり
- 【第7回】 楽しさと心の元気づくりの理論3：ライフステージと心の元気づくり
- 【第8回】 レクリエーション支援の理論1：コミュニケーションと信頼関係づくりの理論
- 【第9回】 レクリエーション支援の理論2：良好な集団づくりの理論
- 【第10回】 レクリエーション支援の理論3：自主的、主体的に楽しむ力を育む理論
- 【第11回】 レクリエーション支援の方法1：リスクマネジメント
- 【第12回】 レクリエーション支援の方法2：レクリエーション・プログラムの立案1
- 【第13回】 レクリエーション支援の方法3：レクリエーション・プログラムの立案2
- 【第14回】 レクリエーション支援の方法4：レクリエーション・プログラムの立案3
- 【第15回】 まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
 - ①事前学習課題：シラバスを確認しておく。
 - ②事後学習課題：授業概要を確認する。
- 【第2回～第14回】
 - ①事前学習課題：授業に関連する内容について、書籍やインターネットで調べる。
 - ②事後学習課題：授業資料等を活用し、復習する。
- 【第15回】
 - ①事前学習課題：これまで学習した内容を、総復習する。
 - ②事後学習課題：学習したことを、レクリエーション支援や保育現場に活かせるよう整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題のフィードバックは、次回以降の授業やGoogle Classroomで行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由なく6回以上欠席した場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
 3回の遅刻および早退は、1回の欠席とする。
 定期試験に代わるレポート等の提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	授業内で課される課題(75)	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	25	レポート(25)	1, 2, 3

その他	0		
テキスト	テキストは使用しない。必要に応じて資料の配付もしくはclassroomへの提示を行う。		
参考書	「楽しさをとおした心の元気づくり レクリエーション支援の理論と方法」 「『レクリエーション教育モデル・コア・カリキュラム』リファレンスブック」		
履修条件・他の科目との関連	「レクリエーション理論」は、レクリエーション・インストラクター資格の取得に必要な科目です。 「レクリエーション実技a」「レクリエーション実技b」を履修済みであることが望ましいです。 欠席時に配布された資料は、次回授業で申し出て受け取ってください。		

授業コード	22053101	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	レクリエーション実技 a [対面]				
シラバス執筆(全員)	玉井 久実代、梶本 智子				
シラバス執筆(主)	玉井 久実代				
開講年次	1年	開講期	前期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本科目は、多世代を対象としたレクリエーション活動の楽しさの本質を理解し、レクリエーション支援の方法について学習することを目的とする。
笑顔や元気を引き出しコミュニケーションを促進する、多世代を対象としたレクリエーション活動を説明する。

到達目標

1. 様々なレクリエーション活動を身に付け、それぞれのレクリエーション活動の楽しさを理解し、活用することができる。
2. レクリエーション支援において、対象者とのコミュニケーションや、対象者と対象者の間に立ってコミュニケーションを行うことができる。
3. レクリエーション支援において、対象者がより楽しみやすいように工夫してレクリエーション活動を展開することができる。

授業計画

本科目は体育施設や講義室で行います。

- 【第1回】 オリエンテーション
- 【第2回】 アイスブレイキング
- 【第3回】 導入段階のレクリエーションゲーム
- 【第4回】 交流段階のレクリエーションゲーム
- 【第5回】 発展段階のレクリエーションゲーム
- 【第6回】 チャレンジ・ザ・ゲーム (キャッチング・ザ・スティック、リング・キャッチ)
- 【第7回】 チャレンジ・ザ・ゲーム (ラダーゲッター、ロープ・ジャンプ)
- 【第8回】 チャレンジ・ザ・ゲーム (ゴム・ダンス・“ステッピョン”)
- 【第9回】 ニュースポーツ (モルック)
- 【第10回】 ニュースポーツ (シャフルボード)
- 【第11回】 ニュースポーツ (ペタンク)
- 【第12回】 ニュースポーツ (キンボール)
- 【第13回】 レクリエーション支援の準備
- 【第14回】 レクリエーション支援の練習
- 【第15回】 レクリエーション支援の発表、まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
 - ①事前学習課題：シラバスを確認する。
 - ②事後学習課題：授業概要を確認する。
- 【第2～14回】
 - ①事前学習課題：次回の授業内容について、インターネットや書籍等で調べる。
 - ②事後学習課題：授業内容を整理し、関連する内容を調べる。
- 【第15回】
 - ①事前学習課題：学習した内容を、総復習する。
 - ②事後学習課題：学習したことを、今後のレクリエーション支援に活かせるように整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは、授業やGoogle Classroom で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
正当な理由なく5回を超えて欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
3回の遅刻および早退は、1回の欠席とみなす。
定期試験に代わるレポート等の提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	授業への取り組み姿勢(75)	1, 2, 3
授業外での評価	15	授業内容のまとめレポート(15)	1, 2, 3

定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート(10)	1, 3
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。 必要に応じて資料を配付もしくはclassroomで提示する。		
------	---	--	--

参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領		
-----	------------------------------------	--	--

履修条件・他の科目との関連	<p>教室の利用状況等により、内容が変更されることがあります。</p> <p>服装、準備物等については、随時授業やClassroomでお知らせします。</p> <p>欠席した授業の配付資料は、次回授業で申し出て受け取ってください。</p> <p>「レクリエーション実技a」「レクリエーション実技b」は、レクリエーション・インストラクター資格取得に必要な科目です。</p>		
---------------	---	--	--

授業コード	22053201	授業形態	実技	実務家教員	—
授業科目名	レクリエーション実技b [対面]				
シラバス執筆(全員)	玉井 久実代、梶本 智子				
シラバス執筆(主)	玉井 久実代				
開講年次	1年	開講期	後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

本科目は、子どもを対象としたレクリエーション活動の楽しさの本質を理解し、レクリエーション支援の方法について学習することを目的とする。
 子どもの発育・発達に役立つ様々なレクリエーション活動を実践し、さらに対象者に合わせたレクリエーション支援と、レクリエーション支援におけるコミュニケーション・スキルについて説明する。

到達目標

1. 子どもを対象とした様々なレクリエーション活動を身に付け、それぞれのレクリエーション活動の楽しさを理解し、活用することができる。
2. 子どもを対象としたレクリエーション支援において、対象者とのコミュニケーションや、対象者と対象者の間に立ってコミュニケーションを行うことができる。
3. 子どもを対象としたレクリエーション支援において、対象者がより楽しみやすいように工夫してレクリエーション活動を展開することができる。

授業計画

本科目は体育施設や講義室で行います。

- 【第1回】子どものためのレクリエーション1 新聞紙で作って遊ぼう
- 【第2回】子どものためのレクリエーション2 牛乳パックで作って遊ぼう
- 【第3回】子どものためのレクリエーション3 パラバルーンで遊ぼう
- 【第4回】子どものためのレクリエーション4 パラバルーンで踊ろう
- 【第5回】子どものためのレクリエーション5 パラバルーンの遊びを考えよう
- 【第6回】子どものためのレクリエーション6 道具を用いた伝承遊び
- 【第7回】子どものためのレクリエーション7 伝承遊びを作って遊ぼう
- 【第8回】レクリエーション支援の実践1 レクリエーション支援について
- 【第9回】レクリエーション支援の実践2 計画
- 【第10回】レクリエーション支援の実践3 準備
- 【第11回】レクリエーション支援の実践4 実践
- 【第12回】レクリエーション支援の実践5 振り返り
- 【第13回】子どものためのレクリエーション8 季節の遊び(クリスマス)
- 【第14回】子どものためのレクリエーション9 季節の遊び(お正月)
- 【第15回】まとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計15時間の事前事後学習が必要です。

- 【第1回】
 - ①事前学習課題：シラバスを確認する。
 - ②事後学習課題：授業概要を確認する。
- 【第2～7回】
 - ①事前学習課題：次回の授業内容について、インターネットや書籍等で調べる。
 - ②事後学習課題：授業内容を整理し、関連する内容を調べる。
- 【第8～12回】
 - ①事前学習課題：レクリエーション支援の計画、準備を行う。
 - ②事後学習課題：レクリエーション支援の振り返りを行う。
- 【第13～14回】
 - ①事前学習課題：次回の授業内容について、インターネットや書籍等で調べる。
 - ②事後学習課題：授業内容を整理し、関連する内容を調べる。
- 【第15回】
 - ①事前学習課題：学習した内容を、総復習する。
 - ②事後学習課題：学習したことを、今後のレクリエーション支援に活かせるように整理する。

課題に対するフィードバックの方法

課題に対するフィードバックは、授業やGoogle Classroom で行う。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判断のうえ、60点以上を合格とし、所定の単位を認定する。
 正当な理由なく5回を超えて欠席をした場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。
 3回の遅刻および早退は、1回の欠席とみなす。
 定期試験に代わるレポート等の提出がなかった場合は、評価の対象とせず「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	75	授業への取り組み姿勢(60) レクリエーション支援(15)	1, 2, 3
授業外での評価	15	授業内容のまとめレポート(15)	1, 2, 3
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	10	レポート(10)	1, 3
その他	0		

テキスト	テキストを使用しない。 必要に応じて資料を配付もしくはclassroomで提示する。
------	---

参考書	幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領
-----	------------------------------------

履修条件・他の科目との関連	教室の利用状況等により、内容が変更されることがあります。 服装、準備物等については、随時授業やClassroomでお知らせします。 欠席した授業の配付資料は、次回授業で申し出て受け取ってください。 「レクリエーション実技a」「レクリエーション実技b」は、レクリエーション・インストラクター資格取得に必要な科目です。 「レクリエーション実技a」を履修済みであることが望ましい。
---------------	---

授業コード	22035601	授業形態	講義	実務家教員	—
授業科目名	在宅保育 [対面]				
シラバス執筆(全員)	北村 麻樹				
シラバス執筆(主)	北村 麻樹				
開講年次	2年	開講期	前期	単位数	2単位

授業の目的・概要

家庭訪問保育に関する基礎的知識や、実際の内容及び技術を身につけるために、文献、講義、ビデオ、演習を通して概説する。単位取得者は社団法人全国ベビーシッター協会「認定ベビーシッター」の資格を取得することができる。

到達目標

1. 家庭訪問保育に関する知識を習得し、説明することができる。
2. 家庭訪問保育に必要な保育技術を身につけ、実践することができる。

授業計画

この授業は対面授業です。

- 第1回 オリエンテーション 家庭訪問保育とは（家庭訪問保育の実態、家庭訪問保育の有効性と課題）
- 第2回 乳幼児の生活と遊び（子どもの遊びと環境、保育のねらい・内容）
- 第3回 乳幼児の発達と心理（乳幼児の発達過程、発達を支える保育者の役割）
- 第4回 乳幼児の食事と栄養（離乳食の進め方、食物アレルギーなど健康状態に考慮した食事）
- 第5回 乳幼児の健康と衛生管理（発育、感染予防）
- 第6回 居宅訪問型保育における環境整備（保育環境の整備）
- 第7回 安全確保とリスクマネジメント（子どもの事故、事故の予防、緊急時の対応、対策）
- 第8回 居宅訪問型保育者の職業倫理と配慮事項（自己管理、自己評価、第三者評価）
- 第9回 居宅訪問型保育における保護者への対応（保護者支援の必要性、家族との関わり方）
- 第10回 子ども虐待（子ども虐待の実態、子ども虐待への支援）
- 第11回 特別に配慮を要する子どもへの対応（気になる行動の原因とその対応、保育者の役割）
- 第12回 家庭訪問保育における保育技術①（睡眠、排泄、清潔、衣類の着脱）
- 第13回 家庭訪問保育における保育技術②（居宅での保育における遊び、発達過程に応じた遊びへの働きかけ）
- 第14回 さまざまな家庭訪問保育（病児・病後児保育、障害児保育、多胎児の保育、学童の保育）
- 第15回 総括 振り返りとまとめ

事前事後の学習

授業時間外で、計60時間の事前事後学習が必要です。

授業（1回につき2時間として計算）と事前事後あわせて1単位あたり45時間が必要。

- 第1回
 - 事前学習課題：家庭訪問保育とは何か調べる
 - 事後学習課題：家庭訪問保育の実態と課題についてまとめる
- 第2回
 - 事前学習課題：居宅で行う乳幼児の生活と遊びについて調べる
 - 事後学習課題：居宅で行う乳幼児の保育のねらい・内容についてまとめる
- 第3回
 - 事前学習課題：乳幼児の発達過程について調べる
 - 事後学習課題：乳幼児の発達を支える保育者の役割についてまとめる
- 第4回
 - 事前学習課題：乳幼児の健康状態に考慮した食事について調べる
 - 事後学習課題：離乳食の進め方や食物アレルギーに考慮した食事についてまとめる
- 第5回
 - 事前学習課題：乳幼児の感染予防について調べる
 - 事後学習課題：乳幼児の健康と衛生管理についてまとめる
- 第6回
 - 事前学習課題：居宅で行う保育環境について調べる
 - 事後学習課題：居宅での保育における環境整備についてまとめる
- 第7回
 - 事前学習課題：子どもの事故予防や緊急時の対応について調べる
 - 事後学習課題：安全管理とリスクマネジメントについてまとめる
- 第8回
 - 事前学習課題：全国保育士会倫理綱領について調べる
 - 事後学習課題：居宅訪問型保育者の職業倫理と配慮事項についてまとめる
- 第9回
 - 事前学習課題：保護者支援の必要性について調べる
 - 事後学習課題：居宅訪問型保育者における保護者への対応についてまとめる
- 第10回

事前学習課題：虐待の定義について調べる
 事後学習課題：子どもの虐待の実態、支援についてまとめる
 第11回
 事前学習課題：発達障害について調べる
 事後学習課題：特別な配慮を要する子どもへの対応についてまとめる
 第12回
 事前学習課題：子どもの睡眠、排泄、清潔、衣類の着脱の仕方について調べる
 事後学習課題：家庭訪問保育における睡眠、排泄、清潔、衣類の着脱についてまとめる
 第13回
 事前学習課題：0歳から2歳までの子どもの発達に応じた遊びについて調べる
 事後学習課題：0歳から2歳までの居宅での発達に応じた遊びへの働きかけについてまとめる
 第14回
 事前学習課題：病児・病後児保育、障害児保育、多胎児の保育、学童保育の実態について調べる
 事後学習課題：病児・病後児保育、障害児保育、多胎児の保育、学童保育のあり方についてまとめる
 第15回
 事前学習課題：授業で学んだ内容を振り返る
 事後学習課題：これまでの学びについてまとめる

課題に対するフィードバックの方法

課題のまとめの評価については、希望者に開示する。
 授業の学びにおけるフィードバックは、次回の授業の初めに振り返り、学びを深める。

成績評価の方法・基準(方針)

以下に示す評価方法により総合的に判定のうえ、60 点以上を合格とし、所定の単位を認定する

毎回の授業意欲（態度）、課題レポート、授業内小テストに対する総合評価とする。
 正当な理由なく、欠席回数が授業の3分の1を超えた場合は、「K」評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	60	授業への取組、課題提出状況や課題内容を評価する (40) 授業内小テスト (20) 授業内容から出題する	1, 2
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	40	レポート内容は授業で行った内容から出題する (40)	1, 2
その他	0		

テキスト
 家庭訪問保育の理論と実際 第3版 一居宅訪問型保育基礎研修テキスト・一般型家庭訪問保育学習テキストー 公益社団法人全国保育者ービス協会 監修 中央法規 3080円 ISBN 978-4-8058-8427-0

参考書
 必要に応じて授業内に紹介する

履修条件・他の科目との関連
 子どもの保健の理論をしっかり復習することが必要である。

授業コード	27000401	授業形態	実習	実務家教員	—
授業科目名	海外幼児教育実習 [対面]				
シラバス執筆(全員)	久保田 健一郎				
シラバス執筆(主)	久保田 健一郎				
開講年次	1年	開講期	前期、後期	単位数	1単位

授業の目的・概要

海外における幼児教育の実際を実習を通して学び、国際的な視野を広げることを目的とする。
主に、海外の幼児教育施設における実習（オリエンテーションと実習記録の作成も含む）と自主研修で構成される。実習では、海外の幼児教育について学ぶと同時に、日本で学んだ保育技術を海外の子どもたちの前で試し、自主研修では、現地のような文化を体験し、学生の成長を促す。

到達目標

1. 海外の幼児教育について説明することができる
2. 海外の幼児教育施設で実習をすることで、日本の保育との違いについて説明することができる。
3. 海外での研修全般を通じた自ら異文化の体験の意義を説明することができる。

授業計画

募集案内として、8月下旬に説明会を実施する予定である（以下日程は全て予定）。その後9月末に募集を締め切り、参加者決定後、12月と2月に説明会を行う。
実習期間は3月上旬で9日間を予定している。例年の計画は以下の通りである。

- 1日目 移動
- 2日目 移動 園におけるオリエンテーション
- 3～5日目 実習
- 6～7日目 自主研修
- 8日目 実習
- 9日目 移動

原則として以上の計画で行うが、状況により変更される場合もある。

事前事後の学習

必要に応じて、担当教員より指示する。

事前の説明会、帰国後の報告会は参加必須である。

課題に対するフィードバックの方法

実習中は引率教員が課題レポートの返却において行い、報告会においては他教員も含めて行う。

成績評価の方法・基準(方針)

実習全般にかかわる態度（説明会の参加を含む）、幼児教育施設での実習、自主研修への取り組み、報告会における発表で評価する。
出席は、単位認定に際して「学生必携」に記載の基準を参考にし、それに満たない場合はK評価とする。

成績評価の種類	評価割合 (%)	評価方法・割合	評価対象となる到達目標
授業内での評価	80	実習、自主研修にかかわる態度や報告会への取り組み	1, 2, 3
授業外での評価	0		
定期試験	0		
定期試験に代わるレポート等	20	課題レポート	1, 2, 3
その他	0		

テキスト テキストは使用せず、資料を配布する。

参考書 説明会で紹介する。

履修条件・他の科目との関連 海外の保育を学ぶためには、まずは日本の保育を学ぶ必要があるため、資格関係科目全般と関連する。
説明会などを欠席した場合の関係資料は追って配布する。